

目次

経済学部の役職者	2	8 学生教育研究災害傷害保険.....	21
三田キャンパスガイド	3	9 任意加入の補償制度.....	21
主な事務室と事務取扱時間		定期健康診断.....	21
振鈴表		第8 履修要項	22
掲示板		1 適用学則.....	22
校舎と教室番号		2 履修申告.....	22
三田キャンパスマップ		3 開講科目と単位数.....	27
第1 学事関連スケジュール(三田)	5	4 履修上の注意.....	33
第2 学籍(休学・留学・退学・退学処分)	9	5 単位表.....	37
1 休学.....	9	6 進級条件・卒業条件チェックシート.....	41
2 留学.....	9	講義要綱	45
3 退学.....	9	諸研究所設置講座	125
4 退学処分.....	9	1 教職課程センター.....	127
海外の教育機関に留学する場合の取扱い.....	10	2 言語文化研究所.....	128
第3 学生証・諸届・証明書	11	3 メディア・コミュニケーション研究所.....	133
1 学生証.....	11	4 斯道文庫.....	150
2 住所変更(本人・保証人).....	11	5 体育研究所.....	152
3 保証人変更.....	11	6 福澤研究センター.....	160
4 改姓・改名.....	11	7 国際センター.....	163
5 国籍変更.....	11	8 保健管理センター.....	186
6 通学区間の変更.....	12	9 情報処理教育室.....	188
7 証明書(成績証明書・学割証等).....	12	10 アート・センター.....	190
第4 Web システム	13	11 知的資産センター.....	191
1 Web システム概要.....	13	12 外国語教育研究センター.....	193
2 Web システム操作上の注意.....	14	13 グローバルセキュリティ研究所.....	196
3 パスワード再発行.....	14	他大学との相互科目履修に関する協定・覚書	197
第5 授業・成績	15		
1 教員を訪ねる場合.....	15		
2 教室使用申請(三田).....	15		
3 AV機器の鍵・機材の貸出.....	15		
4 緊急時における授業の取扱い.....	15		
5 早慶野球戦時における授業の取扱い.....	15		
6 成績.....	16		
7 追加試験の評語.....	16		
8 成績質問制度.....	16		
第6 試験	17		
1 試験の種類.....	17		
2 不正行為.....	18		
3 レポート.....	18		
第7 学生総合センター	19		
1 窓口案内.....	19		
2 学生生活支援.....	19		
3 遺失物の取扱い.....	20		
4 奨学金.....	20		
5 就職・進路支援.....	20		
6 学生相談室.....	20		
7 学生健康保険互助組合.....	21		

経済学部の役職者

経済学部役職者

学 部 長：塩澤 修平
学習指導主任(三田)：准教授 駒形 哲哉
学習指導副主任(三田)：教授 飯田 恭
教授 河井 啓希

学習指導に相談のある場合には別途掲示を参照のうえ、指定された日時に訪問してください。

履修案内の配布に際して

学部長 塩澤 修平

履修案内を配布するこの機会を利用して、三田で学ぶ経済学部の諸君にいくつか重要なメッセージを伝えておきます。慶應義塾大学経済学部における教育は、精緻な知的訓練と広範な議論を通じて、つねに変化する現実の経済社会を認識し評価する知性を磨くこと、を主要な目的としています。

その目的を達成するための、本塾経済学部の専門課程のカリキュラムは以下の点で他の大学を圧倒しています。第一は、中心的な核として設置されている科目群がきわめて充実しているということです。「慶應の経済」という伝統の中で定着してきた、理論・計量、歴史、政策の三つの領域は経済学部のカリキュラムの中心的存在であり、諸君の積極的な学習を待ち受けています。第二は、核となる科目以外にも様々な科目が用意されており、多様な学問が習得できるということも他の大学には見られない本塾経済学部の特長です。さらにいえば、このコアと多様性がうまくバランスしているということが、経済学部のカリキュラムの重要な特徴づけとなっています。そして、講義、研究会、PCP、研究プロジェクトといったさまざまな形態で、これらの科目が用意されています。

履修するにあたっては、こうした特長を十分に認識してください。コアとなる科目を集中的に学習するというのも可能であり、またコアとなる科目と学際的あるいは周辺分野の科目をほどよくバランスさせて学習するというやり方もあります。どのような形の履修をするか、そこには学習する者の設計能力あるいは見識が問われているのです。履修の前には、自分が何を学びたいのか、どのような能力を身に付けたいのか、明確にしておく必要があります。それは、冷静に自分を見つめ、自分自身を分析することによってはじめて可能になるのです。

慶應義塾の建学の精神はいうまでもなく「独立自尊」です。長いようで短い三田の二年間でどのような学習をするのか、あるいはどのような研究を展開するのか、それは諸君の意志と意欲にかかっています。「慶應の経済」を卒業する人間として誇れるようになるか否か、そこには今この時点における諸君の選択が大きくものをいいます。そのことを良く考えて履修に臨んでください。

経済を学ぶためには、現実社会の中で何が解決されるべきかを見出す「温かい心」と、そうして見出された問題を解決する「冷たい頭」のどちらも必要だといわれています。諸君の一人一人が、その「温かい心」と「冷たい頭」をもち、気概に満ちながらもバランス感覚ある紳士淑女として社会に出ていかれるよう期待しています。

履修選択にあたって

学習指導主任(三田) 駒形 哲哉

この履修案内では、一般的な注意事項と履修の仕方に始まり、第3学年および第4学年の学生諸君の進級や卒業に必要な単位数が示されている。また、三田キャンパスにおいて設置されているそれぞれの科目の内容が簡潔に記されている。学生諸君が年度始めにあたってまずこの履修案内を熟読し、支障なく単位を取得する計画を立てて三田において充実した学習生活を送ることを期待している。

三田における学習プログラムは、10分野からなる基本科目および特殊科目・関連科目による専門教育科目を中心に展開され、さらに学習の利便性を考慮して総合教育科目や外国語科目も設置されている。経済学部が設置している基本科目と特殊科目は、経済学の伝統的な部分とその最新の動向とが、ともに学習できるように十分配慮されたものである。また学際的な内容を扱う科目も多く配置され、専門教育科目全体がカバーする領域は多岐に渡っている。

経済学部の三田設置科目は多様であるがゆえに、三田でどのような学習生活を送るかは学生諸君の自主的・積極的な学習計画にかかっている。学生諸君自らこの履修案内を熟読し、他の学生に同調するのではなく、各自の問題関心に照らして主体的な履修選択を行ってほしい。

残念ながら、例年履修上の不注意が多く、そのために単位を取得できないケースがあとを絶たない。

学生諸君は進級および卒業の条件を正確に把握し、履修上の間違いや遺漏などないように細心の注意をはかるべきである。この履修案内を読んでもなお疑問があれば、必ず学習指導担当者または学事センターの窓口において質問して疑問点を解消するように心がけてほしい。

三田における学生生活を真に充実させられるかどうかは、諸君自身の履修計画に大きく依存している。後で後悔することのないように、万全な履修選択を行うことを期待する。

三田キャンパスガイド

主な事務室と事務取扱時間

事務室	主な業務	事務取扱時間	場 所
学事センター	履修・授業・成績	授業期間中 平日 8:45～16:45 休業期間中の 11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 大学院校舎1階
学生総合センター	学生生活・奨学金・就職	平日 9:30～11:30 / 12:30～16:30	5月下旬以前 南校舎地下1階 5月下旬以後 仮設A棟
	学生相談		西校舎地下2階
国際センター	留学	授業期間中 平日 8:45～16:45 休業期間中の 11:30～12:30は閉室	5月下旬以前 南校舎1階 5月下旬以後 仮設A棟
教職課程センター	教職課程		南館地下1階
保健管理センター	健康診断・ヘルスケア	平日 8:45～11:30/13:00～16:15	北館1階
三田 ITC	keio.jp, PC 関連	授業期間中 平日 8:45～18:15 休業期間中は 8:45～17:00	大学院校舎地下1階

南校舎の建て替え工事に伴い、学事センターと学生総合センター、国際センターの事務室はそれぞれ5月下旬までに移転する予定です。詳細は掲示とホームページで適時お知らせします。

土曜、日曜、祝日、大学が定める休日および大学の事務一斉休業期間（三田）は閉室します。

大学が定める休日 …… 1月10日（福澤先生誕生記念日）、4月23日（開校記念日）

大学の事務一斉休業期間（三田） …… 8月中旬および年末年始

変更等は適時ホームページ「塾生の皆様へ」でお知らせします。

振鈴表

時 限	授業期間	定期試験期間		追加試験期間	
	三田・日吉	三田	日吉	三田	日吉
第1時限	9:00～10:30	9:00～10:30	9:30～10:30	9:00～10:20	9:30～10:30
第2時限	10:45～12:15	10:45～12:15	10:50～11:50	10:30～11:50	10:50～11:50
第3時限	13:00～14:30	13:00～14:30	12:50～13:50	12:30～13:50	12:50～13:50
第4時限	14:45～16:15	14:45～16:15	14:10～15:10	14:00～15:20	14:10～15:10
第5時限	16:30～18:00	16:30～18:00	15:30～16:30	15:30～16:50	15:30～16:30
第6時限	18:10～19:40	18:15～19:45	16:50～17:50	17:00～18:20	16:50～17:50

掲示板

掲示板は西校舎正面入口と西校舎地下1階、地下2階にあります。他学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している学部の掲示板を確認してください。他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を確認してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については、「共通」掲示板を確認してください。研究会に関する掲示は、西校舎501番教室後方入口前の掲示板を利用してください。掲示内容の一部については学事Webシステム、塾生ページでも確認できます。

学事センター（三田経済学部担当）からのお知らせ：<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/kei/index.html>

校舎と教室番号

第一校舎	大学院校舎	西校舎	南 館	南別館	仮設教室
101～147	313, 321-A～375-C	501～545 西校舎ホール	2B11～2B42	621～672	K11

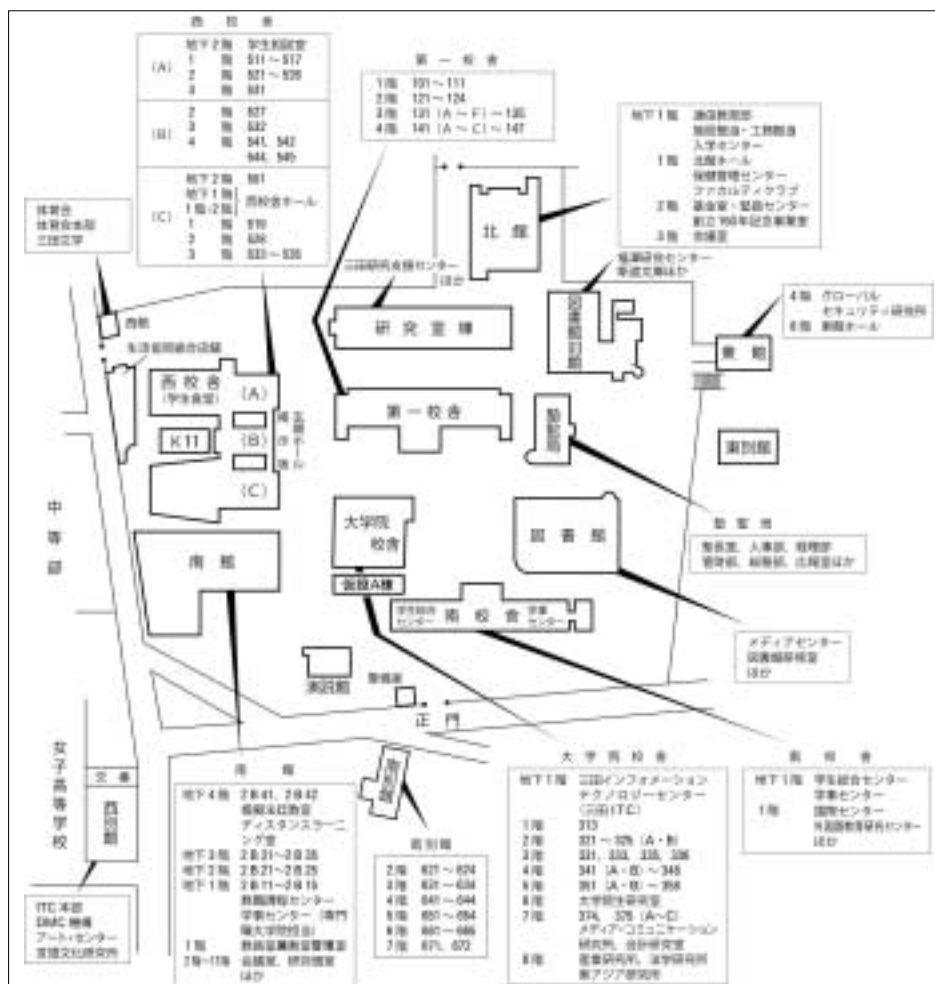
「仮設教室」は、「西校舎」地下2階の出口近辺に建設し、2009年4月に竣工する予定です。

「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にありますが、時間には十分な余裕をもって移動してください。信号待ち、混雑状況等によっては、定刻に間に合わないことも考えられます。

三田キャンパスマップ（2009年4月現在）

「南校舎」は、2009年の5月下旬以降に建て替え工事に入る予定です。建て替え工事期間中の代替教室や各事務室の移転先等について、掲示やHPで確認をしてください。

「南別館」は正門を出て直進数十メートルの距離にあります。信号待ちのある国道を横断しなくてはなりません。



その他

(1) PC アカウント・パスワード

三田キャンパス内の PC を利用するためには、新たに三田 ITC でアカウントとパスワードを作成する必要があります。日吉のアカウントとパスワードでログインすることはできません。

(2) PC を利用できる場所

PC は第一校舎、大学院校舎、メディアセンター、南館図書室、東館等に設置されています。

(3) 証明書自動発行機

証明書自動発行機は学事センター内に 1 台、南校舎中庭側に 3 台設置されています。ただし、南校舎建て替え工事の開始にあわせて、いずれも設置場所を移転します。掲示やホームページで確認してください。

(4) コピー

コピーは生協購買部、生協食堂、メディアセンター等で行うことができます。

(5) 食堂

三田キャンパス内には、西校舎に「山食(やましょく)」と「生協食堂」の 2 つの食堂があります。

第1

学事関連スケジュール（三田）

2009年
4月

授業期間

休業期間

休日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
諸研究所ガイダンスの詳細は後述 下旬 定期健康診断			成績証明書発行開始 (12:30)	入学式		
ガイダンス期間 (1日~7日) →						
5	6	7	8	9	10	11
ガイダンス期間 →			学事WebシステムPW変更 締切(学事センター提出)	春学期授業開始	Web履修申告期間 (10日16:00~16日10:00) →	
12	13	14	15	16	17	18
				履修申告用紙による 履修申告 (8:45~10:00)		
履修申告期間 (15日~18日) →						
19	20	21	22	23	24	25
				開校記念日		
26	27	28	29	30		
			昭和の日	授業料等納入期限 (全納または春学期分納)		

5月

上旬 履修申告科目確認表送付(本人宛) 上旬 定期健康診断					1	2
3	4	5	6	7	8	9
憲法記念日	みどりの日	こどもの日	振替休日	4年生卒業見込証明書 発行開始		
				履修申告修正期間・履修中止期間 (7日~11日予定) →		
10	11	12	13	14	15	16
履修申告修正期間 →						
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
					休学願提出期限(春学期分)	早慶野球戦(予定)
31						

6月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

諸研究所ガイダンス日程

情報処理教育室ガイダンス	4月3日(金)10時45分	515番教室
福澤研究センターガイダンス	4月3日(金)13時00分	513番教室
斯道文庫ガイダンス	4月6日(月)10時45分	512番教室
国際センター在外研修プログラムガイダンス	4月6日(月)10時45分	526番教室
グローバルセキュリティ研究所ガイダンス	4月6日(月)12時15分	515番教室
教職課程ガイダンス(新規登録者)	4月6日(月)13時00分	519番教室
外国語教育研究センターガイダンス	4月6日(月)13時00分	531番教室
教育実習事前指導(今年度実習予定者)	4月6日(月)14時45分	519番教室
教職課程ガイダンス(学校教育学コース)	4月6日(月)16時30分	514番教室
体育研究所ガイダンス	4月7日(火)9時00分・10時45分	512番教室
言語文化研究所ガイダンス	4月7日(火)12時20分	522番教室

7月

「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
上旬 春学期末定期試験時間割発表 上旬 春学期末追加試験申込受付						
5	6	7	8	9	10	11
					補講日	
12	13	14	15	16	17	18
		春学期授業終了		春学期末定期試験(16日~27日予定)		
19	20	21	22	23	24	25
	海の日					
26	27	28	29	30	31	
		夏季休業(～9月23日)				

8月

						1
2	3	4	5	6	7	8
		春学期末追加試験(予定)	春学期末追加試験(予定)			
9	10	11	12	13	14	15
三田キャンパス一斉休業(9日～15日)						
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

上旬 春学期学業成績表送付(保証人宛)		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
	敬老の日	国民の休日	秋分の日	ガイダンス	秋学期授業開始	
27	28	29	30			

10月

授業期間

休業期間

休日

日	月	火	水	木	金	土	
					1	2	3
上旬 秋学期履修中止期間							
4	5	6	7	8	9	10	
11	12	13	14	15	16	17	
	体育の日						
18	19	20	21	22	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	
					授業料等納入期限(秋学期分納)	早慶野球戦(予定)	

11月

「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

1	2	3	4	5	6	7
		文化の日				
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
			補講日(午前) 三田祭準備(午後)	三田祭準備	三田祭	三田祭
22	23	24	25	26	27	28
三田祭	勤労感謝の日 三田祭	三田祭片付け				
29	30	休学願提出期限(今年度分)				

12月

		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
			天皇誕生日 冬季休業(～1月5日)			
27	28	29	30	31		
		三田キャンパス一斉休業(29日～1月5日)			→	

2010年

1月

授業期間 休業期間 休日

「月曜代替講義日」には実際の曜日にかかわらず月曜日として授業が行われます。

「補講日」には補講の設定がなされた授業のみが行われます。

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
上旬 秋学期末定期試験時間割発表 上旬 秋学期末追加試験申込受付					元日	
3	4	5	6	7	8	9
→			授業開始			
10	11	12	13	14	15	16
福澤先生誕生日	成人の日				月曜代替講義日	
17	18	19	20	21	22	23
			補講日 秋学期授業終了	→ 秋学期末定期試験(21日~2月3日予定)		
24	25	26	27	28	29	30
→						
31						

2月

	1	2	3	4	5	6
	→		福澤先生生日			
7	8	9	10	11	12	13
				建国記念の日		
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	上旬~3月下旬 春季休業 下旬 秋学期末追加試験(予定)					

3月

	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
			卒業生発表			
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
春分の日	振替休日	卒業式				
28	29	30	31	中旬 学業成績表送付(保証人宛)		

第2 学籍（休学・留学・退学・退学処分）

1 休学（学則第152条）

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学をすることができます。休学希望者は、休学願に事由を証する書類（病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等）を添えて、原則として履修申告日までに学習指導主任と面接し認印を受けたうえで学事センターに提出してください。休学期間終了後は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出も必要です。

休学期間は卒業に必要な在学年数には算入しません。

授業料等は休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合、在学料が減免されることがあります。詳細は学生総合センター学生生活支援窓口にお問い合わせください。

	春学期	秋学期
休学期間	4月1日～9月21日 休学が次の学期におよぶ場合は改めて許可を得る必要があります。	9月22日～翌年3月31日
履修申告後の休学願提出期限	5月29日（金）	11月30日（月）
その他	秋学期および翌年度春学期に休学した場合、復学した秋学期に、前年度春学期に履修した未採点科目の継続履修を申請することも可能です。認められる条件については、次頁を参照してください。	
進級・卒業について	進級・卒業の時期は年度末に限られますので、当該年度の秋学期に在学している必要があります。進級・卒業のためには、必要単位を充足するとともに、各学年において2学期以上在学する必要があります。	

2 留学（学則第153条）

外国の大学に留学を予定している者は、教育上有益と認められる場合に学則による留学が許可されることがあります。語学研修は学則による留学とは見なされず休学となります。

学則による留学は、留学開始日より1年以内の申請で、延長は1回に限り許可されます。また、留学期間は1年を限度として卒業に必要な在学年数に算入することがあります。

留学を希望する場合はあらかじめ三田学事センターで相談・確認のうえ、所定の「国外留学申請書」を三田学事センターに提出してください。学習指導主任との面接を含めて、遅くとも出発の1ヶ月前には手続を全て済ませてください。

学則による留学の場合、外国の大学で取得した単位が認定されることがあります。希望する場合は原則として就学届提出時に申請を行うものとし、遅くとも留学期間終了後1ヶ月以内に提出しなければなりません。

3年生は、外国の大学で取得した単位の認定により進級必要単位を満たし、なおかつ4年生の卒業必要単位を履修している場合に限り留学期間（1年を限度）を在学年数に算入し、進級できます（4月1日付遡及進級）。4年生は、単位の認定による遡及卒業はできません。

その他留学に関する詳細については「海外の教育機関に留学する場合の取扱い」を参照してください。

3 退学（学則第154条）

病気その他の事由により退学したい者は、速やかに学習指導主任と面接してください。あらかじめ記入した所定の「退学届」に認印を受け、学生証を添えて学事センターに提出してください。

授業料等を納入しないで退学する場合、授業料等の納入年度（学期）までさかのぼって退学とします。（学則第171条）退学年月日は授業料等納入済の学期末日となります。これに伴い、退学年月日より後の在籍・成績は無効となります。なお、退学後に授業料等が完納された場合でも、無効となった在籍および成績は有効にはなりません。

4 退学処分（学則第156条・第188条）

大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学則第188条により退学処分となります。

以下の要件に該当する場合には学則第156条により退学処分となります。

- ・第1・第2学年併せて4年在学し当該年度末に第3学年に進級し得ない者
- ・第3・第4学年併せて4年在学し当該年度末に卒業し得ない者
- ・第1学年もしくは第3学年在籍者で、第1学年もしくは第3学年に3年在学し当該年度末に進級し得ない者

第3学年の在学年数が2.5年（年度末において）の者が原級となった場合、翌年度末まで在籍が認められます。ただし、在籍が認められた年度の秋学期のみの休学は認められません。（春学期のみの半期休学または春・秋学期の1年間の休学は認められます。）

第3・4学年の在学年数が3.5年（年度末において）の者が原級となった場合、翌年度末まで在籍が認められます。ただし、在籍が認められた年度の秋学期のみの休学は認められません。（春学期のみの半期休学または春・秋学期の1年間の休学は認められます。）

また、第3学年に3.5年在籍し第4学年に進級した者については、第4学年で春学期のみ、秋学期のみの半期休学は認められません。（1年間の休学は認められます。）

海外の教育機関に留学する場合の取扱い

在学中に留学を希望する場合、学籍は「留学」と「休学」に分けられます。

	留 学	休 学
内 容	「交換留学」「奨学金による留学」「私費留学」の3種類。 いずれの場合も、教授会において適正と認められた海外の大学で正式な 手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」 「STUDY ABROAD PROGRAM」等）のみ「留学」として認められる。	語学研修 その他左記の留学と認定されない場合
期 間	「留学」の開始日から最長1年まで (留学先から許可された在籍期間に沿った期間を許可します。在籍期 間の前後1週間程度を準備期間として含めることができますが、イン ターンシップ等を付随させることは認めません。)	春学期・秋学期単位 (休学の申請日がいつであっても、該当学期はすべて休学の扱いにな ります。)
延 長	1回可能。(希望する場合、「国外留学申請書」を改めて提出しなけれ ばなりません。) それ以降の延長は「休学」となります。	学期をまたいで休学する場合は、新学期に再度休学願を提出しなけれ ばなりません。
学 費・渡 航 費	留学延長した場合、延長した年度について減免される場合があります。 1年目：私費留学の場合、留学により在学しなかった学期の属する年 度の授業料と実験実習費の年額の4分の1を各学期において免除され る場合あり。 2年目：私費留学の場合は1年目と同様。私費留学以外の場合、留学 開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料と実験実習費の半 額を免除される場合あり。	減免制度はありません。
渡 航 費	「交換留学」または「奨学金による留学」の場合は渡航費が補助され る場合あり。窓口は国際センター。	渡航費補助制度はありません。
履 修	年度の途中から留学する場合は、留学前に履修申告した科目を留学後 継続履修することが可能です。同一科目同一担当者が条件ですが、基 本科目のみ担当者が異なっても可。留学前、科目担当者に留学後 に継続履修する意思があることを必ず連絡してください。 体育実技は、履修登録が学期開始日前で、履修定員に余裕があり、健 康診断証明書を持参した場合のみ継続履修可能。	休学中の学期は履修できません。 [年度始めから休学] 履修申告は不要です。休学願を履修申告日まで に提出してください。 [年度途中から休学] 春学期休学する場合は4月に履修申告した科目 はすべて無効です。秋学期休学する場合は春学期に履修・取得した科 目は有効です。秋学期および翌年度春学期に休学する場合、復学した 秋学期に、休学前に履修申告した科目を継続履修することが可能です。 その場合の条件は、左記と同じです。
単 位 取 得・認 定	30単位を超えない範囲で、慶應義塾大学での卒業に必要な単位として 認定することがあります。 認定希望の場合は、帰国後速やかに学事センターに申し出、「就学届」 提出時に要申請。認定対象科目は原則として専門教育科目(関連科目 を含む)です。希望する科目が認められないこともあります。	単位認定はありません。
在 学 年 数 へ の 算 入	原則として算入されませんが、申請により(1年を限度に)留学期間 が慶應義塾大学の在学年数に算入され、遡及して進級できる場合があ ります。ただし遡及卒業は認められません。 [例] 第3学年の夏から留学し、1年後帰国した場合、在学年数への算 入が認められ、進級諸条件を満たしていれば第4学年に遡及進級とな り、その年度末に卒業することも可能です。 ただし、遡及卒業は認められません。 [例] 第4学年夏から留学し、1年後帰国した場合、卒業は早くても帰 国した年度の年度末になります。	在学年数に算入されません。 休学終了後は原級にとどまります。
申 請 手 続 の 流 れ	学事センターで「国外留学申請書」を受け取る 必要事項を記入、必要書類を準備 学事センターで書類確認 国際センターで書類確認 学習指導面談を受ける(交換留学の場合は不要) 学事センターに提出 学部会議で承認後、承認通知が保証人宛に届く	学事センターで「休学願」を受け取る 必要事項を記入 学習指導面談を受ける 学事センターに提出 学部会議で承認後、承認通知が保証人宛に届く

申請には時間がかかるので、早めに準備してください。

第3

学生証・諸届・証明書

1 学生証

学生証は本大学学生であることを証明する身分証明書です。様々な場面で必要になるので常に携帯してください。

(1) 再交付

学生証または学生証裏面シールを紛失、汚損した場合は、速やかに三田学事センターで再交付を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類 (所定用紙 は学事センターにあります)

証明書用写真 (縦 4cm 横 3cm, カラー光沢仕上げ, 脱帽, 上半身正面, 背景なし, 3 ヶ月以内に撮影されたもの), 2,000円 (証紙 証紙は学事センター内の券売機で販売しています), 学生証再交付願 所定用紙

(2) 学生証の返却

再交付を受けた後に前の学生証が見つかった場合、また、退学・卒業等で離籍した場合はただちに三田学事センターへ返却してください。

(3) 国際学生証

国際学生証については生協事務室に問い合わせてください。(TEL : 03-3455-6651)

2 住所変更 (本人・保証人)

住所 (本人・保証人) を変更した場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。住居表示・地番変更の場合も届け出てください。本人の住所変更の場合、学生証裏面シールの記載事項変更も同時に行い、窓口で証明印を受けてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類 (所定用紙 は学事センターにあります)

学生証, 在学カード 所定用紙

3 保証人変更

保証人を変更する場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。保証人は日本国内に居住し一家計を立てている成年者で、本人の学費と一身上に関する一切の責任を負うことのできる者とし、父または母としてください。父母が保証人となり得ない場合は、兄、姉、伯父、伯母等後見人またはこれに準ずる方としてください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類 (所定用紙 は学事センターにあります)

学生証, 保証人変更届 所定用紙, 在学カード 所定用紙, 誓約書 (本人・新保証人押印) 所定用紙, 新保証人の住民票

4 改姓・改名

改姓・改名をした場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。届出後、履修中の科目担当者に必ずその旨申し出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類 (所定用紙 は学事センターにあります)

学生証, 改姓 (名) 届 所定用紙, 在学カード 所定用紙, 誓約書 (本人・保証人押印) 所定用紙, 学生証再交付願 (写真貼付 縦 4cm 横 3cm, カラー光沢仕上げ, 脱帽, 上半身正面, 背景なし, 3 ヶ月以内に撮影されたもの, 手数料不要) 所定用紙, 新姓名の戸籍抄本

5 国籍変更

国籍を変更した場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類

学生証, 戸籍謄本 (コピーでも可), 住民票

6 通学区間の変更

住所変更等に伴い学生証裏面に記入している通学区間を変更する場合は、速やかに三田学事センターへ届け出てください。郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

通学定期券の発売区間は「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」の最も経済的な経路による区間に限ります。学生証裏面シールの通学区間欄は、必ず「自宅最寄駅」から「学校最寄駅」を明記してください。なお、通学区間が適正でない場合は、通学定期券の発売が停止されます。

必要書類

学生証

7 証明書（成績証明書・学割証等）

(1) 証明書自動発行機

設置場所と利用時間（他キャンパス（日吉・矢上・藤沢・芝共立）に設置されている発行機も利用できます。）

南校舎1階（中庭側） 月～土 9:00 - 20:00 授業・定期試験のない土曜日は利用できません。

学事センター内 月～金 8:45 - 16:45 授業・定期試験のない日は8:45 - 11:30 / 12:30 - 16:45

5月下旬からの南校舎建て替え工事に伴う設置場所の移転先情報や、メンテナンス・故障等による利用停止情報等は、適時 HP 等でお知らせします。 <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shoumei/index.html>

(2) 証明書の厳封

厳封を希望する場合は窓口で申し込んでください。発行済みの証明書を後から厳封することはできません。なお、厳封には手数料はかかりませんが、発行する証明書の枚数分の手料は必要です。

(3) 代理人による申請

代理人による証明書の申請は、学生本人が大学に行くことが困難な場合（留学中、入院中等）に限り受け付けます。

郵便やメール等窓口以外での届出は受け付けません。

必要書類

本人の学生証の写し、委任状、代理人の身分証明書

委任状には特に所定の書式はありませんが、例を参照のうえ、学生本人の意思が確認できるように作成してください。

[例] 委任状

私「(本人氏名)」は、「(代理人氏名)」に、証明書の申込みと受け取りを一任します。

20xx年 月 日・本人署名・捺印

身分証明書とは、慶應義塾大学学生証、免許証、パスポート、健康保険証、外国人登録証明書、住民基本台帳カード（写真付のもの）を原則とします。社員証、他大学学生証等は受け付けません。

(4) 証明書一覧

証明書	言語	手数料	発行場所	発行日数	発行開始日	備考
在学証明書	和文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
	英文					
成績証明書	和文	200円	自動発行機	即日	4月1日	
	英文					
卒業見込証明書	和文 英文	200円	自動発行機	即日	5月7日	4年生のみ発行されます。
卒業見込付成績証明書	和文	400円	自動発行機	即日	5月7日	4年生のみ発行されます。
履修科目証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月1日	
	英文	200円	窓口	即日		
健康診断証明書	和文	200円	自動発行機	即日	6月中旬	受診した年度の年度末まで発行されます。
	英文					
学割証	和文	無料	自動発行機	即日	4月1日	定期健康診断を未受診の場合は発行できません。1人1日10枚まで発行できます。
通学証明書	和文	無料	窓口	即日		学生証で購入できない区間またはバスを利用する際に必要な証明書です。
旧司法試験受験用単位取得証明書	和文	200円	窓口	数日 ^(注)		旧司法試験一次試験免除用の証明書です。発行スケジュールは適時掲示板でお知らせします。
各種資格試験等受験用単位取得証明書	和文	200円	窓口	数日 ^(注)		
提出先所定の用紙(リクエストフォーム)に証明を要するもの	和文	200円	窓口	数日 ^(注)		

(注) 発行までに時間がかかる場合がありますので、余裕をもって申請してください。

証明書発行には学生証が必要です。

2002年度以前の入学者が初めて英文の証明書を発行する場合は、窓口に出してください。

学割証の有効期限は発行日から3ヶ月以内です(有効期間内でも学籍を失った場合は無効)。必要な枚数だけ発行するようにしてください。

特別学割証と団体旅行申込書(団体割引)を発行する場合は、窓口に出してください。

学費未納の場合は、すべての証明書が発行できません。

第4 Webシステム

1 Webシステム概要

インターネットに繋がるパソコンがあれば、各種サービスを利用できます。

「塾生の皆様へ」ホームページ	
URL	http://www.gakuji.keio.ac.jp/
概要	塾生の皆様に向けて各種情報を提供するポータルサイトです。最新のお知らせや各種ホームページのリンク等を提供しています。
主な提供サービス	授業 / 履修 / 試験 ・履修案内 / 講義要綱 / 時間割 (PDF) の公開 / 卒業発表 (学籍番号のみ公開) 学生生活 / 進路 ・窓口利用案内 / イベントや奨学金についての情報等

学事 Web システム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/パスワード	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
概要	履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認等ができます。学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知した学事 Web パスワードが必要です。パスワードを忘れた場合は学事センターにお問い合わせください。
主な提供サービス	履修申告 時間割や登録番号から科目を選択し履修申告を行うシステムです。履修申告期間に何度でも申告内容の修正が行えます。受付期間中に時間割が変更する場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要があれば締め切りまでに申告の修正を行ってください。 履修確認 一定の期間に履修中科目の一覧を表示します。ただし、表示される履修中科目は暫定的な内容となります。最終的な履修科目は、履修申告科目確認表で確認してください。 休講・補講 休講・補講のある授業の一覧が表示されます。携帯端末からも利用できます。ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、直前にも掲示板を確認するようにしてください。 連絡・呼出 事務室からのお知らせやキャンパスの掲示板に掲示される呼出がある場合は、学事 Web システムにログインした直後にメッセージが表示されます。連絡・呼出は、携帯端末からのログイン時にも表示されます。

Web エントリーシステム	
URL	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
ID/パスワード	学籍番号 / 学事 Web パスワード
マニュアル	http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/
概要	各種の申込み (エントリー) を行うシステムです。 ログインには学事 Web システムと同じ学籍番号/学事 Web パスワードを利用します。パスワードを忘れた場合は学生証持参のうえ、学事センター窓口までお越しください。
主な提供サービス	抽選エントリー 事前抽選が必要な科目の抽選申込み (エントリー) を行うシステムです。ただし、科目によっては Web を使わずにエントリーシートを窓口に提出する場合があります。また、受付期間が科目ごとに異なります。

keio.jp (共通認証システム)	
URL	http://keio.jp/
ID/パスワード	慶應 ID / パスワード
マニュアル	http://keiojp.itc.keio.ac.jp/
概要	共通の ID (慶應 ID) で様々なサービスを提供するためのシステムです。利用するには、慶應 ID の取得 (アクティベーション) が必要です。また、一部のサービスでは、厳密に個人認証を行うために第 2 パスワードとして学事 Web パスワードが必要となる場合もあります。
主な提供サービス	<p>学業成績表閲覧 学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 保証人へ郵送した学業成績表の原本から、個人を特定できる項目を除いた学業成績表の閲覧が可能です。利用可能期間は、学部・研究科、学年等で異なります。詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。</p> <p>健診結果お知らせ 学事 Web パスワードを第 2 パスワードとして利用 当該年度に受診した学生のみ健康診断の結果の閲覧ができます。閲覧開始時期は健診受診時にお知らせします。結果についての質問等は保健管理センターにお問い合わせください。</p> <p>就職・進路支援システム 進路希望、進路届、就職体験記、求人票等</p> <p>その他 慶應メール/教育支援システム等 (詳しくは上記のマニュアルページでご確認ください)</p>
慶應 ID 取得	<p>慶應 ID を取得していない方は「アクティベーション」を行ってください。その際に個人認証として学籍番号と学事 Web パスワードが必要です。詳細は、以下を参照してください。</p> <p>http://keiojp.itc.keio.ac.jp/manual/activation/stdact.html</p> <p>アクティベーションは 1 度しかできません。慶應 ID や設定したパスワードを忘れてしまった場合は、各キャンパスの ITC 窓口にお問い合わせください。</p>

2 Web システム操作上の注意

- (1) 複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。
- (2) Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- (3) Web システムへログインしたまま長時間画面の前から離れた際に他人に悪用されないようにする等のセキュリティ上の目的で、長時間同じ画面が表示された場合は、次の画面には進めないようになっています。そのような場合は、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。
- (4) 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- (5) Web システムは、推奨された環境ではない場合や各種設定 (Cookie, SSL, Proxy 等) を正しく行わない場合は、ログインできないことがあります。推奨環境、設定方法、操作方法については、各 Web システムのマニュアルを参照してください。

3 パスワード再発行

各 Web システムのパスワード再発行窓口は以下のとおりです。

	ログイン ID	ログインパスワード	再発行窓口	必要書類
学事 Web システム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
Web エントリーシステム	学籍番号	学事 Web システムパスワード	学事センター	学生証
keio.jp (共通認証システム)	慶應 ID	keio.jp パスワード	三田 ITC	学生証・慶應 ID
塾生の皆様へ	不要	不要		
三田キャンパス内の PC を利用するための ID およびパスワードは三田 ITC で再発行できます。				

第5 授業・成績

1 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室か教員室を訪ねてください。学事センターで仲介等はいりません。メールでアポイントをとる場合は、各学部の Web 上の教員一覧等を参照してください (<http://www.econ.keio.ac.jp/staff-list/index.shtml>)。なお、講義要綱・シラバスも参照し、該当授業の訪問ルールに留意してください。

- (1) 三田所属専任教員(教授・准教授・専任講師・助教).....研究室(研究室棟または南館)
- (2) 日吉所属専任教員および塾外からの出講者(講師).....教員室(南館1階)
専任教員か講師が不明な場合はシラバス等で確認してください。

2 教室使用申請(三田)

(1) 研究会の教室使用申請

所定の「学内集会届」を窓口へ提出し、「申請者控」を後日窓口で受け取ってください。なお、休業期間中の利用申請には、「学内集会届」に研究会担当教員の捺印が必要です。

使用不可能期間 土曜・日曜・祝日, 大学が定めた休日, 定期試験期間中
受付窓口 三田学事センター教室担当
申込期日 使用希望日の2週間前から事務取扱日換算の前日まで

(2) 公認学生団体の教室使用申請

「第7 学生総合センター」の項を参照してください。

(3) 外部団体の教室使用申請

詳細は管財部管財担当に問い合わせてください。施設使用費等が必要となります。
他地区の教室利用については各地区で申請方法等を確認してください。

3 AV 機器の鍵・機材の貸出

貸出窓口 教員室(南館1階)
休業期間中は学事センターが窓口
手続 学生証提示

4 緊急時における授業の取扱い

政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合や、各種自然災害・大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態が発生した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

(1) 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合は、ただちに全学休校とします。なお、地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応については、ホームページ等を通じてお知らせします。

(2) 鉄道等交通機関の運行停止やその他緊急事態発生の場合

台風・大雨・大雪・地震等の各種自然災害や大規模な事故等による鉄道等交通機関の運行停止、その他緊急事態の発生により、休講措置をとらざるを得ない場合はホームページ等を通じてお知らせします。

URL <http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

その他の注意事項

授業開始後に緊急事態が発生した場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。
掲示や構内放送、上記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

5 早慶野球戦時における授業の取扱い

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。雨天中止による延期や、同点終了による3回戦以降もこれに準じます。試合結果は、東京6大学野球連盟オフィシャルサイトで確認してください。

URL <http://www.big6.gr.jp/>

雨天等による当日試合中止の判断は、明治神宮野球場（神宮球場）の判断によります。

神宮テレフォンサービス：TEL 03-3236-8000

6 成績

(1) 成績評語

履修申告しながら定期試験を受験しなかった科目や途中放棄した科目には「D（不合格）」の評価がつきます。2003年度より、従来の「放棄（未受験：）」は廃止されました。ただし、2002年度以前の成績評語の修正（D）は行いません。

学則第70条に基づき、成績の評語は、「A・B・C・D」とし、「A・B・C」は合格、「D」は不合格となります。ただし、体育科目のうち「体育実技B」に関しては、その評語を「P・F」とし、「P」は合格、「F」は不合格となります。

なお、セット履修科目の春学期と秋学期の評語は両方合格「A・B・C」か、または両方不合格「D」のいずれかとなります。（春が合格で秋が不合格というような成績の組合せはありません。）

また、学業成績表は、保証人宛に9月中旬と3月中旬に送付します。

(2) 学業成績表

学業成績表を保証人宛に郵送します。春学期終了科目については9月中旬に、通年科目や秋学期終了科目も含めた当該年度最終の学業成績表については3月中旬に発送します。学業成績表はいかなる事情があっても再発行しません。また、事前、事後の成績照会は一切受け付けません。

(3) Web 閲覧

特定期間内に学業成績表を Web で閲覧可能です。利用にあたっては「keio.jp」の ID・パスワードおよび「学事 Web システム」のパスワードが必要です。閲覧期間等の詳細は「塾生の皆様へ」ホームページで告知します。なお、パスワードの再発行等、Web システムの利用案内については、「第4 Web システム」の項を参照してください。

(4) 学業成績証明書

学業成績証明書を発行する時期は翌年度以降（4月以降）です。ただし、卒業発表後、卒業決定者については事前申請により卒業式の日以降に発行します。詳細は1月に掲示します。卒業式の日程については、「第1 学事関連スケジュール（三田）」の項を参照してください。

7 追加試験の評語

2006年度より、追加試験による成績評語は、定期試験の場合のその一段階下の評語となりました。（ただし、定期試験の時間割が重複した場合、電車の遅延が証明された場合、公認会計士試験の受験を理由とした場合、文部科学省が指定する学校伝染病にかかり、出席停止期間が明示された診断書を用意した場合、二親等以内の葬儀の場合はこの限りではありません。）

8 成績質問制度

評点の疑義についての問い合わせがある場合、学事センターで所定の質問用紙にて受付を行います。受付期間等は、学業成績表発送時にあわせて通知します。

この制度を利用せずに直接授業担当者に問い合わせることはできません。不正行為とみなされる場合もありますので注意してください。

第6 試験

1 試験の種類

(1) 定期試験

定期試験は春学期末と秋学期末に実施されます。日程は「第1 学事関連スケジュール(三田)」の項を参照してください。

定期試験時間割, 持ち込み指示, 受験に関する注意事項等の詳細を掲示で必ず確認してください。

定期試験・追加試験の URL : <http://www.gakuji.keio.ac.jp/academic/shiken/index.html>

定期試験に関する注意

a 学生証

(a) 学生証を必ず携帯し, 提示してください。

(b) 試験当日, 万一学生証を携帯しなかった場合は, 学事センターで必ず仮学生証(発行当日に限り全キャンパスで有効, 図書館入館も可)の交付を受けてください。なお, 仮学生証の発行には, 手数料 500 円が必要となります。

(c) 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室へ入室することは一切認められません。

(d) 仮学生証の発行手続により, 試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。また, 追加試験の対象とはなりません。

b 禁止事項

(a) 2 時限以降は, 前時限の監督者が退室しない限り, 試験場へ入室できません。

(b) 試験場(教室)を間違えないようにしてください。履修していない科目の試験場へは立ち入らないでください。

(c) 答えは必ず提出しなければなりません。未提出の場合, 不正行為と判断され, 処分の対象とされます。

c 定期試験の実施時間

(a) 定期試験の振鈴は授業時の振鈴とは異なります。「三田キャンパスガイド」の項を参照してください。また, 定期試験の振鈴は日吉キャンパスと三田キャンパスで異なりますので注意してください。

(b) 三田キャンパスの追加試験の振鈴は定期試験の振鈴とは異なります。

d 遅刻

(a) 試験開始後 20 分までの遅刻の場合は, 試験を受験することができます(試験時間の延長はありません)。ただし, 遅刻理由が電車遅延等追加試験の対象となるものの場合, 当該試験をそのまま受験するのか, あるいは追加試験の申請をするのかは, 本人の判断に依ります。電車遅延発生に伴い試験開始時間を遅らせる場合がありますので, 必ず試験会場に向かって試験監督の指示に従ってください。

e 退室

(a) 試験開始後 20 分間および試験終了前 10 分間は退室を認めません。また, 試験開始後の体調不良等の理由で途中退室する場合は, 追加試験の対象とはなりません。

f その他

(a) 試験時間割発表時に掲示する注意事項, 持ち込み等は, その都度掲示しますので注意してください。

(b) 答案用紙の担当者および科目名ならびに氏名・学籍番号の記入事項は, すべて略さず正確に記入してください。記入がない場合は成績はつきません。

(2) 授業内試験

随時授業時間内に行われます。

(3) 追加試験

追加試験は, 履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等, やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった科目に対して行うものです。ただし, 外国語科目, 演習科目, 体育実技, その他定期試験期間中に定期試験を行わず, レポート・平常点・授業内試験等により評価の定まる科目, ならびに研究会については行いません。なお, 三田の追加試験の振鈴時間は定期試験時と異なりますので注意してください。

他学部設置の授業科目を履修した場合, その実施の有無を含めて取扱いは当該学部の方針によります。他学部・諸研究所が設置主体である併設科目についてもこれに準じます。

追加試験の申請には, 試験欠席の理由を明示できる医師の診断書(加療期間の明記されたもの), 電車の事故(遅延)証明書と, 学習指導担当教員の受験許可印が必要です。詳細は, 定期試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は, 所定の手続を日吉で行う必要があります。なお, 試験場は原則として日吉になります。

定期試験では, 授業時間割と異なる時間割で試験が行われますが, 試験時間が重複することがあります。その場合の追加試験取扱いは, 定期試験時間割発表時の掲示を確認のうえ, 手続をしてください。ただし, 三田と日吉の試験が重複した場合は, 原則として三田の試験を追加試験とします。

以上の手続を怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追加試験が認められません。その他、履修要項も参照してください。

(4) 再試験

経済学部学生に対してはその履修する科目がいずれの学部の設置科目であっても再試験は行いません。

2 不正行為

定期試験はもとより、授業中に行われる小テスト等においても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰り、その他試験監督者からの報告等があった場合、レポートにおける無断引用があったと認められた場合には不正行為とされ、学則第188条および経済学部学生処分規則により厳しく処分されます。

レポート・論文の執筆上の注意

レポートや論文の執筆・提出は、定期試験、教場試験と並んで大学での勉学の成果の証となる重要なものです。ところがレポートや論文の書き方のルールを守らないため、不合格になったり、場合によっては不正行為と判定されて処分の対象になったりすることもあります。そこで執筆上の最も重要なポイントを挙げておきます。

1. 自分の意見とそれ以外の部分を明確に分ける。
2. 他人の意見などを引用する場合は必ず出典を挙げる。
3. 文言を引用するときは、誤字も含めて一字一句正確に引用する。
4. 出典の示し方はルールに従う。(下記の文献参照)
5. インターネットからの引用は URL とその取得日を載せる。

これらのルールを守らない場合、剽窃、盗作と判定され、定期試験での不正行為と同様の扱いで処分が行われることがあるので、レポートや論文の執筆にあたっては十分に注意してください。

以下のうち最低1点に目を通しておくことを勧めます。出典の示し方の一般的な方法については、これらの参考書で学んでください。

- 木下是雄著 『理科系の作文技術』(中公新書, 1981年)
[本書は理科系, 文科系を問わず必読]
- 木下是雄著 『レポートの組み立て方』(ちくま学芸文庫, 1994年)
- 澤田昭夫著 『論文の書き方』(講談社学術文庫, 1977年)
- 澤田昭夫著 『論文のレトリック』(講談社学術文庫, 1983年)
- 野口悠紀雄著 『「超」文章法』(中公新書, 2002年)

3 レポート

レポートを三田学事センターへ提出する場合は以下を厳守してください。

指定された期間に指定された場所へ提出してください。それ以外は受け付けません。

一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

学事センターへ提出を指示された場合は、所定のレポート提出用紙(2枚複写式)に必要事項を記入し、レポートに添付して提出してください(2枚とも)。レポート提出用紙は三田学事センターにあります。

学事センターレポートボックス受付時間(時間厳守)

	受付曜日	受付時間
三田地区	火・水曜日, 木・金曜日	8:45~16:45

受付曜日・時間等を変更する場合は、掲示等でお知らせします。

授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

	授業・定期試験のある時	授業のない時(夏・冬・春季休業中)
日吉地区	月~金曜日 8:45~16:45	月~金曜日 8:45~11:30, 12:30~16:45

授業期間中であっても、都合により閉室することがあります。

第7

学生総合センター

1 窓口案内

(1) 学生生活支援

課外活動，課外教養，奨学金，学生健康保険互助組合等に関することを取り扱っています。

(2) 就職・進路支援

就職・進路相談，OB・OG 情報，就職ガイダンス，求人情報等に関することを取り扱っています。

(3) 学生相談室

さまざまな悩みや相談を受け付けています。

2 学生生活支援

(1) 教室等の使用申請

- 対 象 公認学生団体の会合
使用可能期間 授業期間中のみ使用可能。
ただし，日曜・祝日・大学が定めた休日，定期試験期間中・休業期間中は不可。
使用可能時間 月～金曜日 9:00～20:00
土曜日 9:00～18:00
音楽団体指定時間
月～金曜日 18:10～20:10
土曜日 13:00～18:00
手 続 「学内集会届」を学生総合センター受付窓口に提出
「申請者控」を後日窓口で受け取ってください。
申 込 期 日 使用希望日の2週間前から事務室開室日換算の3日前まで
備 考 教室以外に使用できるスペースとして，「学生談話室 A・B」と「音楽練習室」があります。
研究会で使用する場合は「第5 授業・成績」の項を参照してください。

(2) 学生食堂の使用申請

- 対 象 公認学生団体・研究会・教職員・塾員等のパーティー
使用可能期間 日曜・祝日以外
手 続 予約後2週間以内に，窓口に「学内集会届」を提出して正式申込をしてください。
備 考 「学内集会届」が提出されなかった場合，予約が取り消されます。食事の内容等については「学内集会届」提出後に，当該食堂に直接相談をしてください。

(3) 学外行事の届出，団体割引の届出

- 対 象 公認学生団体や研究会の学外行事 [例] 合宿，コンサート，懇親会
手 続 窓口に「学外行事届」を提出
申 込 期 日 行事の4日前（土・日・祝日を除く）まで
備 考 受理されると傷害保険の対象となります（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。また，団体割引やゴルフ場使用税免除に関する証明も受け付けます。

(4) 備品借用の申請

- 対 象 公認学生団体の備品借用 [例] ステッカー，ワイヤレスマイク，塾旗，水差，椅子，机等
手 続 窓口に「借用書」を提出
申 込 期 日 借用希望日の4日前（土・日・祝日を除く）まで

(5) 郵便物の取扱い

- 対 象 外部から送付される公認学生団体宛の郵便物
取 扱 い 学生総合センター内のメールボックスに区分けしてあります。責任者が定期的に取りに来てください。
備 考 個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

(6) 組織届

- 対 象 クラブ，サークル等を新設し，公認学生団体の認定を希望する組織
手 続 窓口に「組織届」を提出

(7) 掲示・チラシ配布の申請

- 対 象 ポスターの掲示やチラシ・パンフレットの配布
手 続 窓口に「届出書」を提出
申 込 期 日 行事の4日前（土・日・祝日を除く）まで

(8) 伝言板および「DENGON」

- 対 象 塾生間の連絡用
手 続 窓口に申し出て「掲示物受付簿」を記入
備 考 A4 用紙 1 枚のみ掲示可能

(9) 車輻入構の申請

塾生の車輻入構は認められていません。やむを得ず車輻入構の必要がある場合のみ下欄を参照してください。

手 続 …… 窓口に「届出書」を提出

申 込 期 日 …… 入構希望日の4日前(土・日・祝日を除く)まで

(10) 大学生生活懇談会

講演会や見学会をはじめ、スキー企画等さまざまな催物を随時開催しています。企画内容については構内のチラシやポスター、学生総合センターホームページを参照してください。

(11) 配布物・閲覧物関係

財団法人セミナーハウスの利用案内や展覧会等の割引券・招待券が置いてあります。また、ボランティア募集や公募関係の案内もファイル等で公開しています。

3 遺失物の取扱い

届出のあった遺失物は、学生総合センター学生生活支援窓口にて保管しています。

ただし、学生証のみの拾得については、学事センター(総合窓口)にて保管します(学生証が、財布や定期入れ等に入っている場合は、学生総合センターで保管されます)。

4 奨学金

(1) 「奨学金案内」

学生総合センターで「奨学金案内」を配布し、「奨学金案内」にて別途詳細を案内しています。「奨学金案内」は、概ね4月初旬に配布し、配布後に随時出願受付を行います。

(2) 主な奨学金の概略

募集日程は、その都度西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学奨学金〔給付〕

5月下旬に出願受付を行います。

慶應義塾大学特別奨学金〔給付〕

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。年2回出願受付を行います。

慶應義塾維持会奨学金〔給付〕

募集は4月に行います。

指定寄付奨学金〔給付〕

募集は主に4月に行います。

日本学生支援機構奨学金〔貸与〕

4月上旬から中旬に出願受付を行います。第一種(無利子)と、第二種(有利子)があり、その他に家計急変者を対象とした緊急採用(第一種)・応急採用(第二種)もあります。

地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金〔給付・貸与〕

募集は主に4・5月に行います。

(3) 奨学融資制度(利子給付奨金制度付き学費ローン)

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出す方式です。在学生であれば、誰でも申請することが可能です。在学中の借りに伴う利子は、本人の申請に基づいて規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は奨学金窓口までお問い合わせください。

5 就職・進路支援

就職・進路支援は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報、インターンシップ情報等を、学生総合センター事務室、就職資料室にて提供しています。また、keio.jp上から求人票や就職活動体験記を閲覧することもできます。

3年生に対しては、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるパネルディスカッション等をキャンパス内で開催しています。また、就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。皆さんが就職活動をする中でわからないこと、困ったこと等があった場合には、いつでも個別相談にも応じています。

6 学生相談室

学生相談室は、学生生活を送っていく中で出会うさまざまな事柄について、気軽に相談できる場所です。

相談には、可能な限りその場で応じますが、原則として予約制となります(電話予約可)。相談内容については、固く秘密を守ります。友人や家族と一緒に来談されても結構です。また、相談内容によっては、必要に応じて他部署・他機関への紹介も行います。また、学生相談室では、カウンセリングだけでなくより豊かで充実したキャンパスライフをおくれるよう、さまざまなグループ企画を用意しています。参加ご希望の方はお問い合わせください。

7 学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、学生健保から医療費給付が受けられます。給付手続は、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続してください。なお、給付方法は銀行振込（ゆうちょ銀行は不可）となりますので、口座登録が必要です。

- 慶應病院で受診した場合 ... 病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月 20 日に、入院は翌々月 20 日に給付金が振り込まれます。
- 一般病院で受診した場合 ... 学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で 1 か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄には各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の 3 点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4 か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月 20 日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設等を行っています。また、日吉塾生会館内にトレーニングルームを設置しています。

その他、入学時に配付した「健保の手引き」でさまざまな案内をしていますので、詳細を確認してください。「健保の手引き」は学生総合センター窓口でも閲覧可能です。

8 学生教育研究災害傷害保険

教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

(1) 正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

(2) 学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式等の教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

(3) (1)(2)以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

(4) 学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続により、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登はんやハングラライダー等の危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続を行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるよう、ゼミ合宿を学外で行う場合、および公認学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

9 任意加入の補償制度

任意加入の補償制度としては、以下の 2 種類があります。資料請求や加入希望の場合は直接連絡をしてください。

(1) 「学生総合補償制度」

(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）TEL 03-3453-3846

(2) 「学生総合共済」・「学生賠償責任保険」

慶應生活協同組合 TEL 045-563-8489

定期健康診断

定期健康診断は学校保健法に基づいて全学年を対象に年 1 回実施しています。学則第 179 条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので必ず受診してください。未受診の場合には「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

また学内における麻疹の集団感染を予防するために、母子健康手帳等を確認し、ワクチン未接種でかつ罹患したことのない方、あるいはワクチンを 1 回接種し 10 年以上経過した方は、かかりつけ医師と相談し、ワクチン接種を受けることをお勧めします。また、風疹・水痘（みずぼうそう）・流行性耳下腺炎（おたふく）等の感染症予防についてもかかりつけ医師とご相談ください。学内集団感染予防のため、ご協力ください。

第 8

履修要項

1 適用学則

1 05学則

2009年度第3・4学年に在籍するすべての者に適用される学則を示します。

2 学則の移行

2004年度以前入学者（99学則適用者）の適用学則は、以下のとおり2005年度以降入学者用適用学則（05学則）に移行しましたので注意してください。

- ・2006年度末において第1・2学年にとどまった場合、2007年3月末日をもって移行しました。
- ・2008年度末において第3・4学年にとどまった場合、2009年3月末日をもって移行しました。

99学則から05学則に移行になった者について以下の新旧科目対応表に基づいて科目の読み替えを行います。

なお、以下に挙げる科目以外で、99学則において4単位または2単位だった科目が、05学則において2単位または1単位の2科目に分割されたものは、分割された2科目（科目名末尾：a, b または , ）に読み替えを行うものとします。不明な点がある場合は、学事センターに問い合わせてください。

99学則		05学則	
科目の種類	科目名	科目の種類	科目名
専門教育科目：基礎	経済数学 A (2)	専門教育科目：基礎	経済数学 (2)
	経済数学 B (2)		経済数学 (2)
	経済数学		経済数学 (2)
専門教育科目：基本	ミクロ経済学 (4)	専門教育科目：基本	ミクロ経済学中級 a (2)
	ミクロ経済学 (4)		ミクロ経済学中級 b (2)
	マクロ経済学 (4)		ミクロ経済学中級 a (2)
	マクロ経済学 (4)		ミクロ経済学中級 b (2)
	計量経済学 (4)		マクロ経済学中級 a (2)
	計量経済学 (4)		マクロ経済学中級 b (2)
	経済資料論 (4)		マクロ経済学中級 a (2)
	世界経済論 (4)		マクロ経済学中級 b (2)
			計量経済学中級 a (2)
			計量経済学中級 b (2)
			計量経済学上級 a (2)
			計量経済学上級 b (2)
			経済統計 a (2)
			経済統計 b (2)
			世界経済論 a (2) ^(注)
			世界経済論 b (2)

(注) 99学則で専門教育科目基本科目として取得済みの「世界経済論」は、基本科目として取り扱います。

2 履修申告

1 履修申告方法

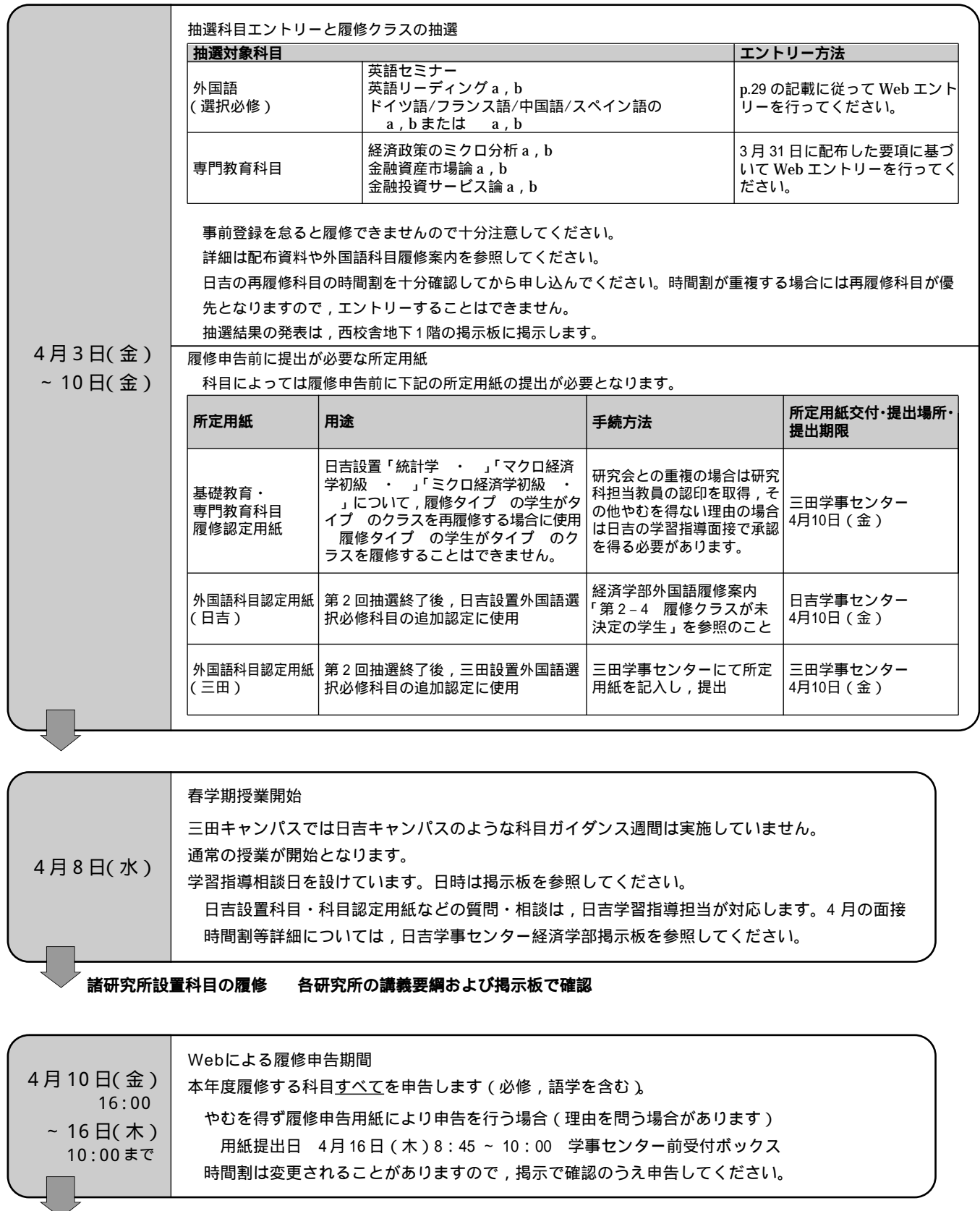
学事 Web システムを使用して下記の日程で申告を行います。学事 Web システムによる履修申告を行うと、即時にエラーチェックおよび学則による一部の履修判定が行われ、メッセージが表示されます。ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください。

やむを得ない場合は履修申告用紙で申告できますが、Web 履修申告と併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

2 履修申告上の注意

履修申告にあたっては、学業成績表（保証人宛に送付済）にて、取得した科目を確認し、「履修要項」（本項）を熟読のうえ、申告してください。特に、誤登録・申告漏れ等によって不都合が生じることがないように（進級・卒業に影響する場合があります）十分に注意してください。

3 履修申告までの流れ



履修申告調整結果発表までは、履修申告した科目および、追加履修する可能性のある科目すべての授業に出席してください。

原則として、申告期間後は、指定された履修申告修正・履修中止受付期間を除き履修科目の変更・追加・取消しを認めません。また、**閲覧・照会にも応じません。学事 Web システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。**

期日までに申告しない場合は、修学の意志がないものとして退学処分となる場合があります（学則第 188 条）。

登録されていない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。

4月22日(水) 8:30	履修申告調整結果発表（日吉設置の総合教育科目，体育科目） 発表掲示場所：西校舎掲示板および Web ページ http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/kyotsu/risyu/seigen.html 履修申告の結果，履修申告者数の著しく多い科目は履修者数調整を行います。原則として， 学籍番号(8桁)末尾の数字で抽選し決定します 。なお，Web ページでは，調整結果が整い次第，21日(火) 20時以降に発表予定です。
------------------	--

- (1) 調整の結果，履修が許可された科目の授業に出席してください。
- (2) 調整の結果，履修が不許可となった科目の代わりに他の科目を追加して履修する場合は，『追加履修可能科目』を掲示で確認し授業に出席してください。科目担当者・研究所等の許可を必要とする科目は，『追加履修可能科目』掲示に記載の注意事項を確認し，速やかに履修許可を得ておいてください。追加履修を予定している科目は，5月上旬の履修修正申告までの間，必ず授業に出席しなければなりません。

5月初め	履修申告科目確認表送付(学生本人現住所宛) 履修申告科目確認表を学生本人現住所宛に郵送します。履修許可科目を必ず確認してください。住所変更届等の手続は，4月中に必ず済ませておいてください。 内容を確認のうえ，年度未まで大切に保管してください。 この確認を怠ったために生じた問題（登録番号ミスによる申告漏れ，科目間違い等）については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約1週間（詳しくは掲示により指示します）とし，この期間経過後は確認が終了したものとみなします。
------	--

学事Webシステムでも履修申告科目を確認できます。

確認画面稼働開始：4月20日（月） 9：00～

学事 Web システム URL http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html

5月上旬	履修申告修正期間（履修申告科目確認表，研究所発行履修許可証等持参） 受付場所：学事センター経済学部担当窓口 履修申告用紙(修正申告用)で申告します。Web画面を用いての修正申告はできません。
	履修中止期間 受付場所：学事センター経済学部担当窓口 既に履修登録済の科目について履修を中止することができます。 履修申告用紙(修正申告用)で申告します。Web画面を用いての履修中止はできません。

- (1) 学事センターより履修申告ミスの指摘があった場合は，この期間内に正しく修正申告してください。
- (2) 追加履修する科目（日吉設置の総合教育科目，体育科目の抽選もれ以外の理由で新規に科目を追加することは，履修上限内であってもできません）すべてを，この期間内に正しく申告してください。履修中止する科目がある場合もこの期間内に申告してください。履修申告用紙（修正申告用）に記入する登録番号は，経済学部の時間割で確認してください。
- (3) 履修申告していない科目の試験を受けたり，レポートを提出しても，成績はすべて無効となります。また履修科目を学期半ばで放棄したり，試験を受けないと不合格となります。
- (4) 履修中止について
履修中止をした科目の代わりに他の科目を新しく追加することはできません。
A. 履修中止が認められる科目
以下 ～ のうち，履修制限・抽選を行わなかった科目。
基礎教育科目の選択必修科目と選択科目
外国語科目のうち，(選択 A)として登録した科目(外国語教育研究センター設置科目を除く)
専門教育科目基礎科目の選択必修科目
専門教育科目の基本科目

- 専門教育科目の特殊科目
- 専門教育科目の関連科目（経済学部設置のものに限る）
- B. 履修中止を認めない科目
 - 必修科目
 - 外国語の選択必修科目
 - 総合教育科目
 - 他学部設置科目
 - 諸研究所設置科目
 - 上記 ~ の他，履修制限・抽選を行った科目
- C. その他
 - 進級・卒業条件を満たさなくなるような履修中止は認められません。
 - 履修を中止した科目の成績はつきません。

9月下旬	<p>Webによる秋学期履修修正期間 受付方法：学事 Web システム</p> <p>既に登録済みの秋学期科目の履修を中止することができます。また，秋学期の履修単位上限24単位までは追加申請することも可能です。</p> <p>学事Webシステムによる登録後，登録科目一覧画面を印刷，あるいは履修申告用紙をコピーし，時間割とともに控えとして保管してください。</p> <p>やむを得ず履修申告用紙により申告を行う場合の用紙提出日は別途指示します。（理由を問う場合があります）</p>
10月中旬	<p>秋学期履修中止期間 受付場所：学事センター経済学部担当窓口</p> <p>既に登録済みの秋学期科目について履修を中止することができます。</p> <p>履修申告用紙（修正申告用）で申告します。Web画面を用いての履修中止はできません。</p>

秋学期履修修正・中止について

- A. 秋学期履修修正・秋学期履修中止が認められる科目
 - 以下 ~ の秋学期設置科目のうち，履修制限・抽選を行わなかった科目
 - 基礎教育科目の選択必修科目と選択科目
 - 外国語科目のうち，（選択A）として登録した科目（外国語教育研究センター設置科目を除く）
 - 専門教育科目基礎科目の選択必修科目
 - 専門教育科目の基本科目
 - 専門教育科目の特殊科目
 - 専門教育科目の関連科目（経済学部設置のものに限る）
- B. 秋学期履修修正・秋学期履修中止を認めない科目
 - 必修科目
 - 外国語の選択必修科目（ただし，英語セミナー【秋】（中級・上級）は，2年生以上の学生が，所定の期日までに申告することにより，中止が認められる場合があります。詳細は7月上旬に掲示でお知らせします。）
 - 総合教育科目
 - 他学部設置科目
 - 諸研究所設置科目
 - 春学期設置科目
 - 春学期・秋学期のセット科目
 - 上記 ~ の他，履修制限・抽選を行った科目
- C. その他
 - 進級・卒業条件を満たさなくなるような履修修正・履修中止は認められません。
 - 履修を中止した科目の成績はつきません。

4 登録番号および分野について

- (1) 授業科目名，担当者名と登録番号（5桁）を十分確認してください。
- (2) 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。
 - 集中講義，実験を伴う科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目については，1か所の登録番号を登録することで，全ての時限についても登録されます。
 - ただし，他学部，諸研究所，センター等と併設している科目については，それぞれに登録番号が付いていますので経済学部の時間割で登録番号を確認してください。
- (3) 履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合と，各自分野を選択しなければならない場合（申告の際は2桁のB欄分野番号を登録）があります。他学部設置の専門教育科目を履修する場合などは，2桁のB欄分野番号を登録しなければなりません。適用学則の卒業所要単位・履修上限単位・進級所要単位および「4 履修上の注意」（p.33参照）を確認してください。
- (4) 大学院設置科目の先取り履修による経済学研究科設置科目の履修申告および東京工業大学工学部との相互科目履修による東京工業大学設置科目の履修申告は，所定の手続により学事センターで登録を行いますので，履修申告を別途行う必要はありません。

< 登録番号のみで自動的に分野が登録される科目（「A 欄」で申告，通常はこちら） >

A 欄	経済学部 1～4 年（三田・日吉）設置の授業科目（経済学部設置関連科目を含む）
	「全学部共通外国語科目履修案内（三田）」に掲載の外国語科目（他学部設置科目を含む）
	経済学部の時間割に掲載の諸研究所・センター等設置科目 （言語文化研究所，斯道文庫，体育研究所，福澤研究センター，国際センター，保健管理センター，情報処理教育室，アート・センター，知的資産センター，外国語教育研究センター，グローバルセキュリティ研究所）
	メディア・コミュニケーション研究所の研究生以外が履修する同研究所設置のオープン科目
	メディア・コミュニケーション研究所の研究生が履修上限内で履修する同研究所設置のオープン科目
	教職課程登録者以外が履修する同センター設置科目
	教職課程登録者が履修上限内で履修する同センター設置科目

< B 欄分野を選択する科目（「B 欄」で申告） >

B 欄番号	科目の種類
51	他学部設置の専門教育科目を関連科目で履修する場合
91	他学部設置の総合教育科目を自由科目で履修する場合 重複履修の科目を自由科目で履修する場合
91または95	メディア・コミュニケーション研究所の研究生が，履修上限内で履修する同研究所設置の研究生科目または履修上限外で履修する同研究所設置科目
51/91または96	教職課程登録者が，教育免許取得のために履修する他学部設置の授業科目または履修上限外で履修する教職課程センター設置科目

< 他大学設置科目を履修する場合 >

大学交流学生履修許可願（所定用紙）を使用してください。

5 東京工業大学工学部との相互科目履修について

30 単位を限度として東京工業大学工学部設置科目を関連科目として履修することができます。

詳細は，学事センターにお問い合わせください。

(1) 相手先大学設置科目の履修に関する手続について

この制度に基づく履修を希望する者は，学事センターで大学交流学生履修許可願をまず受け取ってください。その際に科目履修に関しての説明文を配布しますので，記載内容に従って手続を取ってください。

(2) 履修申告について

履修登録は大学交流学生履修許可願の提出により，学事センターが行います。大学交流学生履修許可願は，4 月 10 日（金）16：00～16 日（木）10：00 の履修申告期間内に提出してください。学事 Web システムによる履修申告の必要はありません。

(3) 学生証について

履修が許可された場合，相手校の授業に出席する場合には必ず携帯してください。定期試験を受験する際も必ず携帯してください。（仮学生証の発行はできませんので，持参しなかった場合，定期試験の受験は認められません。）

(4) 相手校の授業の履修を取り止める場合

万が一，履修を学期の途中で取り止める時は，速やかに相手校の講義担当者，相手方事務担当部署，および本塾学事センターに連絡をしてください。

6 学事 Web システムによる履修申告について

操作方法・操作上の注意は <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/> を参照してください。

やむを得ない理由で履修申告用紙（マークシート）により履修申告を行う場合について

履修申告用紙記入の際は，以下の点に注意してください。なお，Web システムによる申告が行えない理由を問う場合があります。

(1) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記，記入漏れがないように，丁寧に記入してください。特に，「0」と「1」のマークミス等に注意してください。

(2) 学籍等の記入方法

学部，学年，組，氏名，学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに，該当する数字をマークしてください。（学科および専攻の欄の記入は不要です。）

(3) A 欄記入上の注意事項

形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み，曜日・時限を記入します。
科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は，時間割上段に記載されている教員名を記入します。
登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。

(4) B 欄記入上の注意事項

形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を で囲み，曜日・時限を記入します。
科目名・教員名を記入します。
登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。
分野欄：本冊子内「単位表」より 2 桁の B 欄分野番号を記入し，マークします。

(5) 「無効マーク」（A 欄・B 欄に共通）にマークすると，その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが，跡が残ったり，黒くこすれたりした場合は，この「無効マーク」を利用してください。

(6) 履修申告用紙の再交付について

無効マーク欄を使用して無効にしても訂正し切れない場合は用紙を交換しますので、その履修申告用紙を持参のうえ、学事センターに申し出てください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

3 開講科目と単位数

2009年度(平成21年度)に第3・第4学年のために開講される科目と単位数は次のとおりです。

講義は週1回の半期科目を原則とします。

1 総合教育科目

(1) 三田設置科目は以下のとおりです。

系	科目名	単位数
系	人類学 a, b	各2
	情報処理	2
	実践自然科学	2
系	歴史 a, b	各2
	法学 a, b(憲法を含む)	各2
	近代思想史 a, b	各2
	美術 a, b	各2
	地域研究 中国事情	2
	地域研究 中国事情	2
系	人の尊厳(社会と人権)	2

(2) 日吉設置科目も履修することができます。ただし、最初の授業時間に別途手続が必要な科目もありますので、講義要綱や日吉の掲示板等に注意してください。

履修申告者多数の場合には、第3・第4学年を含む全ての履修申告者を対象に履修制限(抽選)を行うことがあります。その結果、履修が許可されなかった場合には、履修申告修正期間に総合教育科目(系は選択可)の追加申請可能科目の中からの追加を認めます(詳細は別途掲示します)。ただし、これに伴う他の科目の変更・削除は認められません。

(3) 他学部設置の総合教育科目は、総合教育科目として履修できませんが、授業担当者の了解を得たうえで自由科目としての履修ができます。また、経済学部と他学部で併設している場合は、経済学部の登録番号で登録してください。時間割表・登録番号は学部ごとに異なりますので注意してください。

なお、第3・第4学年でも配当されているため、卒業必要単位に満たない場合でも履修上限単位に含まれます。

(4) 教養研究センターが設置する以下の日吉設置科目は総合教育科目(系)として履修できます。

「生命の教養学」「アカデミック・スキルズ」「アカデミック・スキルズ」「アカデミック・スキルズ」「アカデミック・スキルズ」

(5) 「実践自然科学」は、第4学年のみ履修が許可されています。

2 基礎教育科目

(1) 日吉設置の基礎教育科目の必修・選択必修科目を未取得の場合、p.33「日吉取り残し科目の再履修について」を確認のうえ、履修申告を行ってください。

(2) 日吉設置の基礎教育科目の選択科目を履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。

(3) 選択必修「情報処理(第1学年設置)」「情報処理(第1・2学年設置)」より2単位について履修にあたっての取り扱いは、昨年度までの取得単位数の違いにより以下のとおりとなります。

	各学期1つ目の科目	各学期2つ目の科目
全くの未取得	履修上限外	履修上限内
1科目取得済	履修上限内	履修上限内

履修上限内で取得に至った場合には、第3学年における進級必要単位(28単位)および第4学年における必要単位(12単位)になります。また、第3学年における進級必要単位のうち、基礎教育科目10単位(内訳は定めない)としても数えることができます。

1科目2単位の取得ができていない者については、春学期の単位取得状況により、秋学期に科目の削除などの修正申告が必要になる

場合があります。学事センターからの指示に従ってください。

- (4) 履修タイプ の第1学年設置選択必修科目4科目（数学概論 ，数学概論 ，世界経済の現状と問題，日本経済の現状と問題）のうち2科目4単位について

履修にあたっての取り扱いは、昨年度までの取得単位数の違いにより以下のとおりとなります。

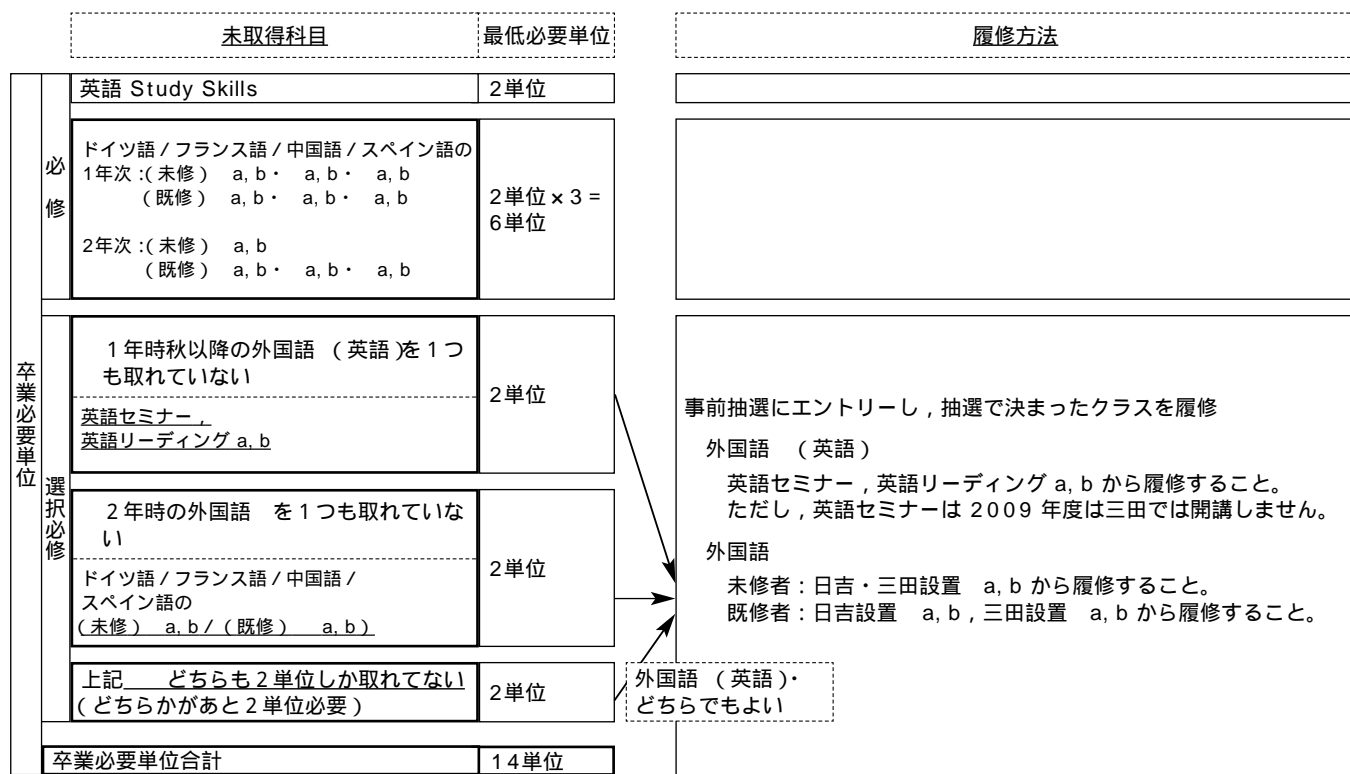
	各学期1つ目の科目	各学期2つ目の科目	各学期3つ目の科目
全くの未取得	履修上限外	履修上限外	履修上限内
1科目取得済	履修上限外	履修上限内	履修上限内
2科目取得済	履修上限内	履修上限内	履修上限内

履修上限内で取得に至った場合には、第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）になります。また、第3学年における進級必要単位のうち、基礎教育科目10単位（内訳は定めない）としても数えることができます。2科目4単位の取得ができていない履修タイプ の者については、春学期の単位取得状況により、秋学期に科目の削除などの修正申告が必要になる場合があります。学事センターからの指示に従ってください。

3 外国語科目

(1) 外国語科目の履修

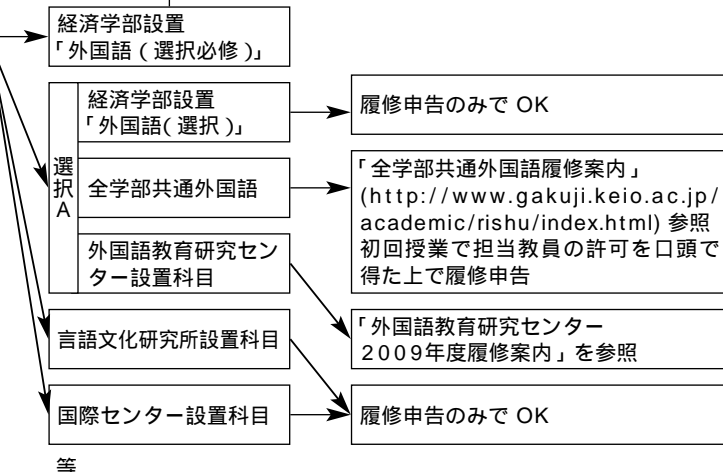
履修に当たっては以下の図に従ってください。なお、経済学部設置の外国語科目（必修・選択必修）は4月15日（水）以降、外国語科目（選択）は4月8日（水）以降の開講となります。



上記単位は全て取得している（卒業に必要な外国語の単位は全て取得している）が、もっと外国語を勉強したい人

外国語 ・外国語 の科目では、同一担当者で同一もしくは類似サブタイトルのクラスを複数履修した場合、重複履修と見なされて履修の修正（取り消し）を求められる場合がありますので、エントリーの際には注意してください。
外国語 における語種変更（外国語 ）

前学年までに履修した語種と異なる語種の履修を希望する場合（外国語 ），日吉で実施される外国語 ガイドランスに出席し、学習指導担当者の許可を得なければなりません。また、必ず日吉設置の初習クラスを2科目4単位履修・合格しなければなりません。詳細は「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を参照してください。



(2) 選択必修科目の事前抽選

選択必修科目（三田・日吉設置）の履修を希望する学生は下記に従って事前に Web エントリーを行ってください（抽選に受かった場合は必ず履修しなければなりません）。

		外国語（英語）			外国語
		英語セミナー		英語リーディングa,b	
		春学期開講	秋学期開講		
Web エントリー 期間	[1回目]	4月3日(金)9:00～4月4日(土)14:00	4月6日(月)9:00～4月7日(火)14:00	4月3日(金)9:00～4月4日(土)14:00	4月3日(金)9:00～4月4日(土)14:00
	[2回目]	4月6日(月)9:00～14:00	4月8日(水)9:00～4月9日(木)14:00	4月6日(月)9:00～14:00	4月6日(月)9:00～14:00
		2回目のエントリーは1回目の登録で定員に満たないクラスのみ対象となります。 2回目のエントリーに参加できる学生は、 ・1回目の抽選で履修クラスが決定しない学生 ・1回目の抽選で決定したクラスに追加して履修を希望する学生 のみです。1回目の抽選で決定したクラスを変更するためのものではありません。			
Web エントリー 結果発表	掲示場所	日吉：第4校舎B棟1階 J11番教室前経済学部掲示板 三田：西校舎地下1階掲示板			
	発表日時	[1回目]	[2回目]	[1回目]	[2回目]
		4月6日(月)9:00	4月8日(水)9:00	4月6日(月)9:00	4月6日(月)9:00
		4月7日(火)9:00	4月10日(金)9:00	4月7日(火)9:00	4月7日(火)9:00
Webエントリー方法		1. Webシステム内のWebブラウザ用メニュートップページ（ http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html ）で Webエントリーシステムへのリンクボタンを押してログインする（ログインのID、パスワードは学事Webシステムと同じ。） 2. エントリーする科目を選択 3. 希望順に講座を選択 英語セミナー・英語リーディング：第4希望まで選択 ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語：第3希望まで選択 4. 登録する内容を確認 受付期間中（締切日時前）であれば、何度でも登録内容を確認・修正することができます。 5. エントリー完了			

英語セミナーは春学期と秋学期それぞれ別の日程でエントリーを受け付けます。従って第1希望「英語セミナー【春】」、第2希望「英語セミナー【秋】」というエントリーはできません。春学期と秋学期に「英語セミナー」、更に「英語リーディング」の履修を希望する場合、「英語セミナー【春】」、「英語セミナー【秋】」、「英語リーディング」の合計3科目にエントリーする必要があります。
 「英語セミナー」の授業は週2回です。週2回の曜日時限が組ごとに指定された授業と重ならないように注意してください。

選択必修科目エントリーコード表（三田設置科目）

事前登録種類	エントリーコード	科目名	担当者名	学期	曜日・時限
英語 リーディング	201	英語リーディング a,b	ノッター, デビッド M.	春・秋	金3
	202	英語リーディング a,b	ブラット, イアン R.	春・秋	木4
	203	英語リーディング a,b	ブラット, イアン R.	春・秋	木5
	204	英語リーディング a,b	ラインボールド, ロレイン J.	春・秋	火3
	205	英語リーディング a,b	ラインボールド, ロレイン J.	春・秋	火4
ドイツ語	206	ドイツ語（セミナー）a,b	七字 眞明	春・秋	水5
	207	ドイツ語（セミナー）a,b	中山 純	春・秋	月2
	208	ドイツ語（中級）a,b	八木 輝明	春・秋	火5
フランス語	209	フランス語（セミナー）a,b	ガボリオ, マリ	春・秋	木2
	210	フランス語（セミナー）a,b	新島 進	春・秋	月5
	211	フランス語（セミナー）a,b	林田 愛	春・秋	木2
中国語	212	中国語（中級）a,b	陳 愛玲	春・秋	木3
	213	中国語（セミナー）a,b	道上 知弘	春・秋	水5
	214	中国語（セミナー）a,b	村越 貴代美	春・秋	金5
スペイン語	215	スペイン語（中級）a,b	阿部 三男	春・秋	火3
	216	スペイン語（セミナー）a,b	阿部 三男	春・秋	火4
	217	スペイン語（中級）a,b	四宮 瑞枝	春・秋	木3

(注) 「英語セミナー」は2009年度は三田では開講しません。日吉設置科目のエントリーコード表は別途掲示します。

(3) 選択必修科目の事前抽選後の履修申告

決定したクラスは、自動的に履修登録されます。システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を利用した履修申告画面を開くと、抽選の結果決定したクラスが表示されます。正しく表示されているかを、履修申告期間内に必ず確認してください。

原則として、抽選および面接で決定したクラスは履修しなければなりません。ただし、第2学年以上で、「英語リーディング」「英語セミナー【春】」「英語セミナー【秋】」の3科目すべての英語クラスが決定した場合は、そのうち1科目を取り消すことができます。この場合、削除ができる科目は、「英語リーディング」もしくは「英語セミナー【春】」です。取り消しを希望する学生は、4月15日(水)までに学習指導担当教員の面接を受けてください。

面接会場：日吉 第4校舎独立館1階 学事センター ミーティングルーム2

面接時間：12:15～13:00

なお、第2学年以上で、履修が決定している「英語セミナー【秋】」の履修修正(取り消し)を希望する学生は、9月の所定の期間に学事センター窓口に出してください。詳細は7月上旬に掲示でお知らせします。9月25日(授業開始日)以降の履修中止はできませんので注意してください。

(4) 選択必修科目のクラス未決定者

クラスが決定しなかった者および登録をしなかった者については第2回抽選の結果発表後、三田設置科目については、三田学事センターで「三田設置外国語(英語)申請用紙」または「三田設置外国語 申請用紙」を受け取り、記入のうえ、期日までに三田学事センターに提出してください。日吉設置科目については、指定された日時(詳細別途掲示)の学習指導面接を受けてください。三田・日吉いずれもその時点で定員に満たない追加履修可能クラスの中から、履修クラスを決定します。

4 専門教育科目

(1) 基礎科目

日吉設置の専門教育科目(基礎科目)の必修科目を未取得の場合、p.33「日吉取り残し科目の再履修について」を確認のうえ、履修申告を行ってください。

日吉設置の専門教育科目(基礎科目)の選択科目も履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。

第2学年設置選択必修科目のうち2科目4単位について

2科目を取得してさらに履修する場合には履修上限内とし、第3学年における進級必要単位(28単位)および第4学年における必要単位(12単位)となります。なお、第3学年における進級必要単位のうち、専門基礎科目16単位(内訳は定めなし)としても数えることができます。

(2) 基本科目

A～Jまでの10分野の中から3分野以上(それぞれの分野において少なくとも4単位以上)にわたって12単位以上に合格しなければなりません。

原則として毎年開講されますが、一部を休講とする場合もあります。

同一科目名で複数開講されている科目は、1科目のみ専門教育科目として履修できます。複数科目履修する場合は、1科目を基本科目、他方を自由科目として申告してください。申告した科目の種類(分野)を後日変更することはできません。

(3) 特殊科目

各人の関心に従って第3・第4学年のいずれにおいても自由に選択履修することができます。

「単位表」に掲載されている科目は、本年度の開講科目(三田設置)を示したものであり、掲載された各科目が毎年度開講されるとは限りません。

2単位科目は、春学期または秋学期に開講される科目です。ただし、「演習」は春・秋学期で2単位、半期で1単位です。

「専門外国書講読」と「演習」は複数の授業を履修できますが、「専門外国書講読」は8単位まで、「演習」は4単位までを専門教育科目の卒業所要単位68単位に含めることができます。また、いずれも「卒業単位認定科目」の単位に加算されます。

日吉設置科目を履修することもできます。

日吉設置「簿記」を特殊科目として取得済みの場合、三田設置「簿記」を履修することはできません。

「研究会」

	第 3 学年	第 4 学年
科目名と単位数	研究会 a, b (各 2 単位)	研究会 c, d (各 2 単位) 研究会 (卒業論文) (4 単位)
単位取得時期	春・秋学期の履修で学年末に 4 単位取得できます。	春・秋学期の履修に加え卒業論文を提出して合格した場合、学年末に 8 単位取得できます。(卒業論文が不合格の場合は 4 単位のみ取得)
単年度の履修	第 3 学年のみの履修は第 3 学年末に 4 単位取得できます。	第 4 学年のみの履修は担当教員の承認を得たうえで「研究会認定用紙」を提出してください。 春・秋学期の履修に加え卒業論文を提出して合格した場合、学年末に 8 単位取得できます。(卒業論文が不合格の場合は 4 単位のみ取得)
履修申告の方法	「研究会 a, b」を履修申告してください。	「研究会 c, d」「研究会 (卒業論文)」を履修申告してください。 「研究会 (卒業論文)」は登録番号が異なりますので、忘れずに申告してください。
再履修	不可	不可 ただし、第 4 学年の留年者で評価が「未採点」だった場合、「研究会 c, d」「研究会 (卒業論文)」を申告してください。
要件		各自作成する卒業論文とともに「卒業論文提出用紙」を提出しなければなりません。 提出期間：2010 年 1 月 6 日(水)～1 月 22 日(金) 提出先：所属する研究会担当教員 所定用紙配布：三田学事センター または http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/kei/index.html

- ・以下のような場合は期日までに各種用紙を学事センターに提出してください。

研究会変更・退会・辞退	届出用紙	期日
第 3 学年において研究会を履修した者で、 第 4 学年において研究会を変更する場合	「研究会認定用紙」 (両方の担当教員の承認が必要)	履修申告開始日
第 4 学年から研究会に入会する場合	「研究会認定用紙」 (担当教員の承認が必要)	履修申告開始日
研究会退会を希望する場合	「研究会退会届」	秋学期履修中止期間最終日
入会選考に合格したにもかかわらず 入会を取り止める場合	「研究会辞退届」 (担当教員の承認が必要)	履修申告開始日

- ・研究会は原則週 2 時限です。第 3 学年は第 4 学年の、第 4 学年は第 3 学年の時限に別の授業科目を登録することはできません。
- ・経済学部設置の研究会を複数履修することはできません。
- ・「研究プロジェクト」 選考に合格した者のみ履修できます。
- ・1 年で完結する少人数または個人プログラムで、教員がテーマを設定する誘導展開型と、学生自身がテーマを設定し、テーマに適した教員が担当する自発展開型の 2 つの種類があります。誘導展開型・自発展開型のいずれも、論文もしくは作品等の成果の発表が義務づけられます。
- ・第 3・第 4 学年を対象に三田・日吉両キャンパスで開講します。
- ・第 3・第 4 学年のいずれにおいても履修できます(複数回履修できます)。
- ・「研究プロジェクト a, b」(各 2 単位)と「研究プロジェクト C」(成果発表、通年で 2 単位)を必ず合わせて履修しなければなりません。
- ・研究会・PCP と並行して履修することもできます。
- ・選考に合格した者の「研究プロジェクト a, b」と「研究プロジェクト C」の登録は申請に基づき学事センターが行います。学事 Web システムによる履修申告の必要はありません。
- ・選考に合格したにもかかわらず履修を取り止める場合は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。
- ・選考についての詳細は以下の Web ページを参照してください。

<http://web.econ.keio.ac.jp/lecture/kpro/>

「プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP)」 選考に合格した者のみ履修できます。ただし、本年度開講「MONETARY AND FISCAL POLICY (PCP)」は、PCP に登録していない学生も履修できます。

- ・第 3・第 4 学年の 2 年間、実践的な経済学教育を、少人数クラスでかつ原則英語で提供するプログラムです。2009 年度は「法と経済」・「ファイナンス」・「日本経済 (3 年のみ)」・「公共経済 (4 年のみ)」・「国際経済」・「環境経済」の 5 つの専攻プログラムを開講します。
- ・第 3・第 4 学年を対象に三田キャンパスで開講します。
- ・いずれの専攻プログラムとも、第 3・第 4 学年で指定された科目を合わせて 20 単位 (選択を含めて 22 単位) 履修しなければなりません。また、第 3・第 4 学年においてそれぞれ 1 回づつ、TOEFL iBT を受験し、結果を報告する必要があります。これらの要件を満たさない限り PCP Certificate は授与されません。なお、2009 年度は、8 月 2 日 (日) に学内の教室を利用して TOEFL iBT の

合同受験を実施する予定です。

- ・研究会・研究プロジェクトと並行して履修することもできます。
- ・本年度の選考に合格した者およびコース2年目となる者ともに、コーディネータから履修科目の認定を受けてください。認定を受けたら所定用紙を学事センター経済学部担当へ履修申告日までに提出してください。所定用紙の提出が履修申告開始日に間に合わない場合、正しく履修申告ができなくなる可能性があります。十分注意して下さい。PCP 科目の登録は申請に基づき、学事センターが行います。学事 Web システムによる履修申告の必要はありません。
- ・選考に合格したにもかかわらず履修を取り止める場合は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。
- ・プログラムへの参加を取り下げたい場合、コーディネータの了承を得たうえで、学事センターに「プロフェッショナル・キャリア・プログラム (PCP) 辞退届」を提出してください。
- ・選考についての詳細は以下の Web ページを参照してください。

<http://web.econ.keio.ac.jp/lecture/pcp/>

(4) 関連科目

経済学部設置科目 (適用学則の単位表参照)、および他学部設置の専門教育科目を関連科目として選択履修できます (医学部設置科目を除く)。関連科目は専門教育科目の単位として 12 単位まで含めることができます。

ただし、授業担当者や設置学部の学習指導担当者等の承認が得られない場合には履修できません。

他学部設置の「研究会」は関連科目として履修ができます。また、経済学部設置の「研究会」と重複して履修することもできますが、他学部設置の「研究会」を同一学年同一学期で複数履修することはできません。(自由科目として履修することもできません。)

他学部設置科目を関連科目として履修する場合には、授業担当者の許可を得てください。

他学部設置の専門教育科目であっても関連科目として履修できない科目は以下のとおりです。

- ・設置学部で必修の扱いをしている科目。
- ・他学部において所属学生以外の履修を制限している科目。
- ・履修申告の時点で開講する曜日時限等が定まっていない科目。(湘南藤沢地区設置秋学期科目の履修については p. 35 参照)
- ・他学部で専門教育科目として設置していても、経済学部では総合教育科目、外国語科目、体育科目および自由科目として設置している科目およびそれと同等とみなす科目 (総合教育科目は自由科目としては履修できます)。

〔例 1〕「宗教学」は経済学部第 1・第 2 学年において総合教育科目として設置しているので、履修はできません。

- ・経済学部の専門教育科目として履修済の同一科目、同一名称とみなす科目。(自由科目としては履修できます。)

〔例 2〕経済学部基本科目の「財政論」を履修し、さらに他学部設置の「財政論」や「財政学」を履修する場合。

福澤研究センター、グローバルセキュリティ研究所が設置する科目は関連科目として履修できます。

東京工業大学工学部設置科目は関連科目として履修できます。大学交流学生履修許可願 (所定用紙) を使用して、所定の手続きをとってください。なお、移動時間には十分気を付けて申告してください。

5 体育科目

2004 年度より学則が一部改正され、「保健体育科目」が「体育科目」と名称変更されました。2003 年度以前に取得した科目の科目名・単位数は変更しません。

卒業単位認定科目 (14 単位) には、以下により最大 4 単位含めることができます。

- 1. 2003 年度以前設置「保健衛生」 1 単位	- 3. 2004 年度以降設置「体育学講義」 2 単位	} より最大 2 単位
- 2. 2003 年度以前設置「体育理論」 1 単位	- 4. 2004 年度以降設置「体育学演習」 1 単位	
- 1. 2003 年度以前設置「体育実技」 「体育実技」 1 単位		} より最大 2 単位
- 2. 2004 年度以降設置「体育実技 A」 「体育実技 B」 1 単位		

履修を希望する者は、体育科目 (体育研究所設置科目) 履修要項を参照およびガイダンスに出席のうえ、履修申告をしてください。履修申告の結果、予定定員を上回る場合は抽選により履修者を決定します。なお、誤登録など申告に不備があった場合は、抽選に加えられず、不許可となり履修できません。

「体育実技 A」および「体育実技 B」については同一科目 (種目) でも複数回履修できます。ただし、「体育学講義」および「体育学演習」についての履修は各々 1 回に限ります。

抽選で不許可となった場合で、追加で許可を得た者に限り、履修申告修正期間中に履修 (不許可単位数分) の追加ができます。「許可証」を提示の上、申告してください。

6 自由科目

- (1) 卒業必要単位(126単位)に含めることはできません。
- (2) 履修上限内の自由科目(分野番号【60-30-01】)は第3学年における進級必要単位(28単位)、第4学年における必要取得単位(12単位)に含めることができますが、上限外(分野番号【60-39-01】【60-39-02】【60-39-03】)は含めることができません。
- (3) 他学部設置科目を自由科目として履修する場合には、授業担当者の許可を必ず得てください。
- (4) 原則として、他学部および諸研究所設置科目を含めて担当者にかかわらず同一科目および同一名称とみなす科目を重複して履修することはできませんが(p.33参照)、自由科目としての履修は認められています。(ただし、定員等の関係で認められない場合もあります。)
- (5) 教養研究センター(日吉)、福澤研究センター・グローバルセキュリティ研究所(三田)、外国語教育研究センター(日吉・三田)の一部の科目はそれぞれ総合教育科目、関連科目、外国語科目として履修できます。それぞれの項を参照してください。
- (6) 国際センター在外研修プログラムのうち、春季講座(2009年2~3月実施済)参加者は必ず履修申告を行ってください。夏季講座は、国際センターのガイダンスを受け、参加申込を行ってください。ただし、履修申告は選考に合格後、履修申告修正期間に行ってください。(この場合、履修上限単位を超える場合に限り他の科目の削除を認めます。)
- (7) 情報処理教育室設置講座は事前申込を行ったうえ、必ず、自由科目として履修申告してください。原則として履修の辞退はできません。
- (8) メディア・コミュニケーション研究所設置科目を同研究所の研究生となって履修する場合、および教員免許取得のための授業科目を履修する場合はそれぞれのガイダンスを受けてください。
メディア・コミュニケーション研究所設置の研究生用科目はメディア・コミュニケーション研究所に研究生として所属していなければ履修できません。
教職課程センター設置科目および教員免許取得のための授業科目については「教職課程登録」の手続がなされていないと履修できません。

4 履修上の注意

1 分野

分野とは、学則に基づいて科目の種類ごとに分類したものです。(詳細は「単位表」参照)

経済学部の時間割表に掲載されている授業科目は、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録されます。他学部の授業科目を履修する場合やひとつの科目に対して複数の分野を選択できる場合、通常とは異なる変則的な履修をする場合には、自分でB欄分野を登録しなければなりません。「単位表」を確認のうえ、必要な場合は履修申告用の2桁のB欄分野を登録してください。

また、5月上旬に送付される履修申告科目確認表および学年末の学業成績表にはこの分野で各授業科目の種類が表示されます。A欄で申告した(B欄分野を選択していない)授業科目も含め、必ずこの単位表で確認するようにしてください。

なお、履修申告科目確認表、学業成績表の再発行はできません。卒業まで各自保管してください。

2 日吉取り残し科目の再履修について

科目名	どの時間の科目を取ればいい?	進級単位(3年:28単位、4年:12単位)には	履修上限(春24、秋24単位)には
統計学 / 情報処理 or (タイプ)微分積分 (タイプ)線形代数 (タイプ)数学概論 / , 日経/世経 経済史 / マクロ経済学初級 / ミクロ経済学初級 /	「日吉再履修科目時間割表」* を確認してください。 クラス指定はありません。ただし、統計学 / , マクロ経済学初級 / , ミクロ経済学初級 / は履修タイプに従って再履修してください。	含まれません	含まれません
外国語(選択必修) (英語セミナー/英語リーディング、ドイツ語/フランス語/中国語/スペイン語の a, b または a, b)	事前登録で決まります。 (p.29参照) 日吉・三田どちらの科目でも構いません。	含まれます	含まれます
* http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/kei/index.html (慶應義塾トップページ 在校生の皆様 三田キャンパス経済学部ページ)のPDFファイルを参照してください。			

卒業所要単位を満たした上で余分に履修するものは進級単位・履修上限に含まれます。

3 重複履修について

(1) 曜日、時限を重複して履修することはできません。

研究会は各学年とも2時限(例:4,5時限)の履修が必要です。(各自の学年の登録番号で2時限分登録されます。)

(2) 同一名称の科目および同一名称とみなす科目(下記参照)は、原則として担当者が異なっても重複して履修することはできません。(ただし、総合教育科目については以下の表の条件に合致する場合には履修することができます。)

以下の表の 印の欄の科目は、重複履修が認められています。

総合教育科目	基礎教育科目	外国語科目	専門教育科目	体育科目	自由科目
系または担当者が異なれば可 生物学,物理学,化学は不可 自由研究セミナーは担当者が同じでも可	×	同一担当者による同内容 (類似内容)のクラスは不可	× 演習は可 専門外国書 講読は語種が異なれば可		

(3) 他学部と併設(同じ授業)している(していた)科目は重複して履修することはできません。

同一名称とみなす科目(例)

経済学部設置科目		法学部設置科目	商学部設置科目	総合政策・環境情報学部
経済政策論 a・b		経済政策 ・	経済政策	
計量経済学中級 a・b			計量経済学 ・	
財政論 a・b		財政論 ・	財政学 ・	
労働経済論 a・b		労働経済論 ・	労働経済学 ・	
商法 a		商法 A	法学各論(商法 A)	
商法 b		商法 B	法学各論(商法 B)	
商法 a		商法 A	法学各論(商法 A)	
商法 b		商法 B	法学各論(商法 B)	
民法 a		民法 A	法学各論(民法 A)	
民法 b		民法 B	法学各論(民法 B)	
民法 a		民法 A	法学各論(民法 A)	
民法 b		民法 B	法学各論(民法 B)	
金融論 a・b			金融論 ・	
国際金融論 a・b			国際金融論 ・	国際金融論
世界経済論 a・b			世界経済論 ・	
産業組織論 a・b			産業組織論	
産業社会学 a・b			産業社会学 ・	
地域研究 中国事情	地域研究 中国事情			
NPO経済論 a	NPO経済論(2004年度以前) NPO経済論(2005,2006年度)			
NPO経済論 b	NPO経済論(2004年度以前) NPO経済論(2005,2006年度)			
EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ			

(4) 留年者に限り、同一学年ですでに合格した科目の評価が「B」・「C」の場合、再履修することができます。評価が向上すれば、向上した評価が学業成績表に記載されます。ただし、研究会は再履修できません。また、外国語科目、総合教育科目の自由研究セミナー、専門教育科目の演習、専門外国書講読および体育科目の実技科目は、複数履修できる科目のため再履修することはできません。新たに履修してください。

(5) 必修科目の再履修は自由科目としての履修も認められていません。

4 他学部・他地区設置科目の履修について

他学部設置必修科目の履修はできませんが、以下の場合は履修することができます。

他学部設置専門教育科目 関連科目 B欄「51」で履修

他学部設置総合教育科目 自由科目 B欄「91」で履修

他学部設置外国語科目は、「全学部共通外国語科目履修案内」(p.28 記載の URL 参照)に掲載の科目のみ 選択外国語(選択 A)として履修することができます。

ただし、上記の科目でも履修できない場合があります。履修する科目の種類(関連科目、自由科目、外国語科目)の項を参照してください。

(1) 三田の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

授業担当者の許可を得てください。科目によっては他学部の学生の履修を制限する場合や設置学部の学習指導担当等の許可を必要

とする場合、履修者数の制限を実施する場合がありますので、当該科目の講義要綱や設置学部の履修案内・掲示などに注意してください。

当該学部の時間割で登録番号を確認のうえ、B欄分野を申告してください。

文学部、法学部、商学部の三田設置科目を履修する場合は、それぞれ「文学部時間割表[2・3年生(07学則)]」、「法学部法律学科3・4年授業時間割」の2005年度以降入学者用部分、「法学部政治学科3・4年授業時間割」、「商学部3・4年授業時間割【05学則適用者用】」に記載されている科目を登録してください。

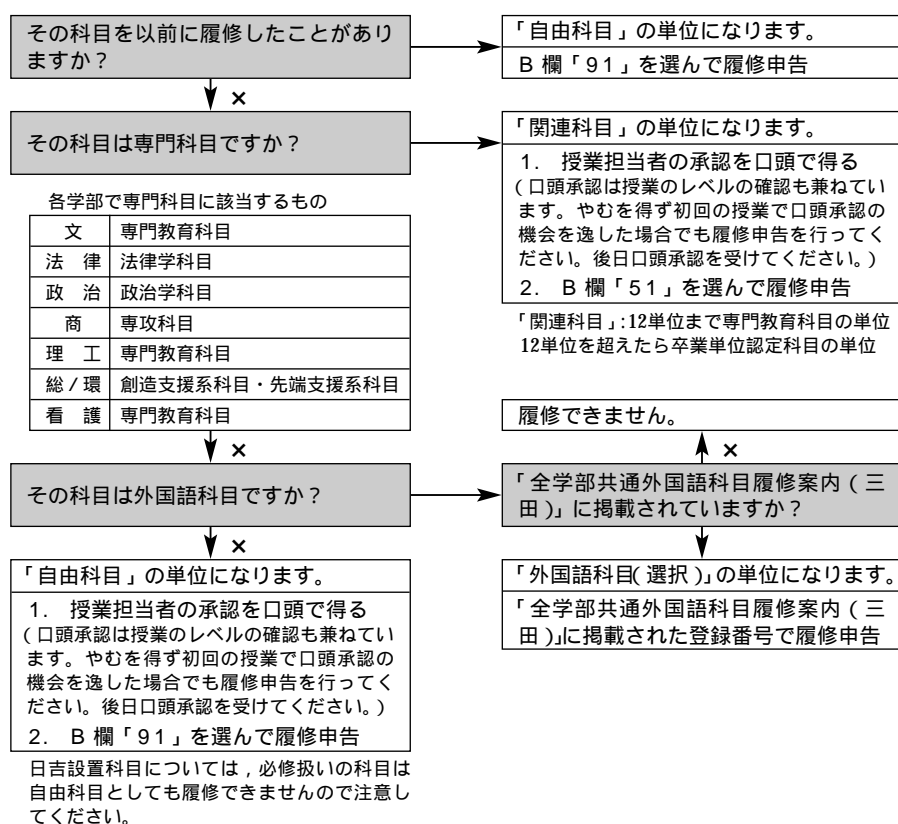
(2) 他地区の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

(1)と同様です。

なお、移動時間を十分考慮のうえ、三田設置科目と時間が重複しないように注意してください。移動不可能な履修申告については履修申告全体を無効として扱うこともあります。特に、時限が連続する(例：1時限三田，2時限日吉)履修はできません。なお、日吉設置科目については昼休みを挟んだ場合(例：2時限日吉，3時限三田)は可としますが、実際に移動できるか十分確認してください。

他地区設置科目についての掲示(時間割変更、休講、試験等)は、設置地区にのみ掲示されます。特に、時間割については変更されることがありますので、履修申告前に設置地区の掲示を確認してください。なお、電話での問い合わせには応じられません。

湘南藤沢地区設置秋学期科目の履修を希望する場合は、春学期履修申告期間内に必ず三田学事センターに申し出てください。



5 研究所・センター設置科目の履修について

原則として、自由科目となります。「自由科目」の項を参照してください。ただし、教養研究センター(日吉)、福澤研究センター・グローバルセキュリティ研究所(三田)、外国語教育研究センター(日吉、三田)の一部の科目はそれぞれ、総合教育科目、関連科目、外国語科目として履修できます。

言語文化研究所設置科目	→ 「自由科目」の単位になります。
斯道文庫設置科目	
国際センター設置科目	
知的資産センター設置講座	
アート・センター設置科目	
保健管理センター設置科目	
教職課程センター設置科目 (教職課程生は p.39 参照)	
メディア・コミュニケーション研究所設置科目 オープン科目 研究生以外 (研究生は p.39 参照)	→ 「自由科目」の単位になります。 申込手続きが必要です。履修案内をよく読んで手続きをしてください。
情報処理教育室設置科目	
体育科目	→ 「体育科目」の単位になります。 抽選等がありますので履修案内をよく読んで手続きをしてください。
福澤研究センター設置科目	→ 「関連科目」の単位になります。
グローバルセキュリティ研究所設置科目	
外国語教育研究センター設置科目	→ 「外国語科目(選択)」が「自由科目」の単位になります。 抽選等がありますので履修案内をよく読んで手続きをしてください。

履修申告は経済学部設置科目と同様に行ってください。(B欄を指定する必要はありません。)

ここでの「自由科目」は全て 履修上限春 24, 秋 24 単位に含まれます。進級単位(3年:28単位, 4年:12単位)に含まれます。

6 大学院設置科目の先取り履修について(本年度第4学年在籍者のみが対象)

経済学部第4学年在学時に、慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程に設置された科目を先取り履修することができます。これによって取得した単位は「大学院入学前先行科目」として修士課程入学後に修了単位として申請することができるため、修士課程の早期修了あるいは課程博士論文作成作業への早期着手が可能になります。履修を希望する場合は以下の要領に沿って申請を行ってください。

なお、この制度を利用できる者は翌年度に慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程への進学を考えている者、または合格した者とします。

- (1) 4月の履修申告前の指定された期間内に学事センターに申出を行い「大学院設置科目履修許可願」を受領・記入の後、資格確認のために学事センターに提出してください。学事センターでは数日中に確認を行い、基準を満たしている場合には学事センター確認印を押印の後書類を戻します。

申請資格は、修士課程の第一次試験免除の基準(別途掲示を参照)とします。ただし、9月の入学試験に合格した場合は、その合格をもって申請資格を満たしたものとし、秋学期の履修申告修正期間中に申請を行うことができます。(春の履修申告時に登録した科目と曜日時限の重複するような申請はできません。)

- (2) 大学院修士課程の時間割等を参照し、履修を希望する各科目の授業に出席の上、授業担当者の許可印を「大学院設置科目履修許可願」に入手してください。
- (3) 研究科学習指導面接に赴き、「大学院設置科目履修許可願」を提出して、最終的な履修許可を得てください。この際に、大学院入学の意思確認を行います。
- (4) 履修申告期間内に「大学院設置科目履修許可願」を学事センターに提出してください。

「大学院入学前先行科目」については、Web履修申告を別途行う必要はありません。

履修することができる科目については、経済学研究科履修案内・講義要綱を確認してください。

履修することができる単位数の上限は年間で12単位以内とします。

学部での履修の取り扱いは、自由科目(履修上限外)とし、卒業必要単位および第4学年で取得しなければいけない12単位にも含まれません。

学部と修士課程で併設を行っている科目を履修する場合には、修士課程設置の科目名にて履修申告を行ってください。ただし、同年度に学部設置科目としての履修と大学院設置科目の併設履修を本申請を使って同時に申告することはできません。

5 単位表

1 卒業所要総単位 学士入学者の卒業必要単位数等については別途指示します。

履修すべき 学年	種類	(詳細)	分野	科目名(単位)	最低必要単位		卒業必要 単位 (種類毎)	卒業単位 認定科目		
					1	2				
	総合教育科目(P27)	系	10-21-01	[自然・数理系](2または4)	6		20			
			10-21-02	[自然・数理系(生物学・,物理学・,化学・)](3)						
		系	10-22-01	[人文・社会系](2または4)	10					
			10-23-01	[総合・関連系](2または4)						
		系	10-23-02	[総合・関連系(自由研究セミナーa/b,自由研究セミナー)](2または4)	4					
			10-23-91	教養研究センター設置科目						
	基礎教育科目(P27)	履修 タイプ	必修	20-11-01	微分積分(2)	2	10			
				20-11-02	線形代数(2)					
				20-10-01	統計学(2)					
			選択必修	20-10-02	統計学(2)	2				
				20-25-01	情報処理(2)					
				20-25-02	情報処理(2)					
		選択	20-30-01	微分積分演習(1)線形代数演習(1)	2					
			20-30-11	微分積分入門(2)線形代数統論(2)						
			20-31-01	日本経済の現状と問題(2)世界経済の現状と問題(2)						
			20-35-01	情報処理(2)						
			必修	20-10-01		統計学(2)			2	
				20-10-02		統計学(2)				
		選択必修		20-22-01	数学概論(2)数学概論(2) 日本経済の現状と問題(2)世界経済の現状と問題(2)	4				
			20-25-01	情報処理(2)						
			20-25-02	情報処理(2)						
		選択	20-30-01	微分積分演習(1)線形代数演習(1)	2					
			20-30-11	微分積分入門(2)線形代数統論(2)						
			20-32-01	微分積分(2)線形代数(2)						
	20-35-01		情報処理(2)							
	外国語		必修	30-10-01		英語 Study Skills(2)	2			
				30-10-02		ドイツ語 a(1)/r(1)				
		30-10-03		フランス語 a(1)/r(1)						
		外国語	30-10-04	中国語 a(1)/r(1)	6					
			30-10-05	スペイン語 a(1)/r(1)						
			30-10-31	日本語(2)(外国人留学生対象)						
	外国語科目(P28)	選択必修	30-20-01	英語セミナー(2)英語リーディングa(1)/r(1)	2	14				
			外国語	30-20-02				ドイツ語 a(1)/r(1)		
				30-20-03				フランス語 a(1)/r(1)		
				30-20-04				中国語 a(1)/r(1)		
			外国語 語種変更者	30-20-05				スペイン語 a(1)/r(1)	2	2
				30-20-31				日本語(2)(外国人留学生対象)		
		30-21-02		ドイツ語 a(1)/b(1) B欄「07」で履修						
		選択	選択A	30-21-03	フランス語 a(1)/b(1) B欄「08」で履修			(4) 語種変更した 場合、の 代わりに必要		
				30-21-04	中国語 a(1)/b(1) B欄「09」で履修					
				30-21-05	スペイン語 a(1)/b(1)					
				30-21-06	ロシア語 a(1)/b(1)					
				30-30-01	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語 朝鮮語 ラテン語 キリシヤ語 ポルトガル語 アラビア語 イタリア語 トルコ語 ベルシャ語				2	
	30-30-31			日本語(外国人留学生対象) B欄「44」で履修						
	30-30-91	外国語教育研究センター設置科目の一部								
	専門教育科目(P30)	基礎科目 (P30)	必修	40-11-01	経済史(2)	2	68			
				40-11-02	経済史(2)					
				40-11-03	マクロ経済学初級(2)					
				40-11-04	マクロ経済学初級(2)					
				40-12-01	ミクロ経済学初級(2)					
		選択必修	40-12-02	ミクロ経済学初級(2)	2					
			40-20-01	経済と環境(2)計量経済学概論(2) 経済思想の歴史(2)経済思想の歴史(2) マルクス経済学(2)マルクス経済学(2) 経済数学(2)経済数学(2)経済数学(2)		4				
		基本科目 (P30)	A 経済理論	40-21-01	社会問題(2)社会問題(2)				12 (1分野 4単位以上 ×3分野)	
				40-22-01	ミクロ経済学中級 a(2)/r(2)	40				
					ミクロ経済学中級 a(2)/r(2)					
	マクロ経済学中級 a(2)/r(2)									
	マクロ経済学中級 a(2)/r(2)									
	B 計量・統計	40-22-02	計量経済学基礎論 a(2)/r(2)							
		40-22-02	計量経済学上級 a(2)/r(2)							
			経済統計 a(2)/r(2) 確率・統計 a(2)/r(2)							
			社会科学基礎論 a(2)/r(2)							
	C 学史・思想史	40-22-03	経済学史 a(2)/r(2) 経済学史 a(2)/r(2)	2						
			社会思想 a(2)/r(2) 社会思想史 a(2)/r(2)							
	D 経済史	40-22-04	日本経済史 a(2)/r(2) 欧米経済史 a(2)/r(2)	2						
			アジア経済史 a(2)/r(2)							

履修すべき 学年	種類	(詳細)	分野	科目名(単位)	最低必要単位	卒業必要 単位 (種類毎)	卒業単位 認定科目
	専門教育科目(P30)	基本科目(P30)	E 産業・労働	40-22-05	工業経済論 a(2)/r(2) 農業経済論 a(2)/r(2) 本年度休講 産業組織論 a(2)/r(2) 労働経済論 a(2)/r(2) 社会政策論 a(2)/r(2)	12 (1分野 4単位以上 ×3分野)	68
F 制度・政策			40-22-06	経済政策論 a(2)/r(2) 財政論 a(2)/r(2) 金融論 a(2)/r(2) 日本経済システム論 a(2)/r(2)			
G 現代経済			40-22-07	現代日本経済論 a(2)/r(2) 日本資本主義発達史 a(2)/r(2) 現代資本主義論 a(2)/r(2) 経済体制論 a(2)/r(2)			
H 国際経済			40-22-08	国際貿易論 a(2)/r(2) 国際金融論 a(2)/r(2) 経済発展論 a(2)/r(2)			
I 環境関連			40-22-09	経済地理 a(2)/r(2) 環境経済論 a(2)/r(2) 都市経済論 a(2)/r(2)			
J 社会関連			40-22-10	人口論 a(2)/r(2) 産業社会学 a(2)/r(2) 社会史 a(2)/r(2)			
		特殊科目(P30)	(日吉)		簿記 a(2)/r(2) 解析学入門 (2) 解析学入門 (2) 確率論入門 (2) 確率論入門 (2)	40	
(三田)				40-30-01	ゲームの理論 a(2)/r(2) 解析学 a(2)/r(2) 解析学 a(2)/r(2) 契約理論 a(2)/r(2) 公共経済学 a(2)/r(2) 数理経済学 a(2)/r(2) 数理経済学特論 I 微分方程式論 I a(2)/r(2) 数理経済学特論 II 確率論 I a(2)/r(2) 代数学 a(2)/r(2) 市場の質の基礎理論(2) 資金循環分析 a(2)/r(2) 時系列分析 a(2)/r(2) ベイズ統計学 a(2)/r(2) 標本調査論 a(2)/r(2) 近代日本社会思想史(2) 現代日本社会思想史(2) 東欧・ロシア社会経済思想史 a(2)/r(2) 日本経済思想史 a(2)/r(2) 経済学史上のマルクス(2) 近代日本と東アジア a(2)/r(2) 東欧経済史 a(2)/r(2) 南アジア経済史 a(2)/r(2) 社会福祉論(2) 経済政策のミクロ分析 a(2)/r(2) ファイナンス入門 a(2)/r(2) 公共政策 a(2)/r(2) 公共選択論 a(2)/r(2) NPO経済論 a(2)/r(2) 格差と援助の経済学 a(2)/r(2) 現代中国経済論(2) 世界経済論 a(2)/r(2) 開発経済学 a(2)/r(2) EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS(2) 国際マクロ経済学 a(2)/r(2) 地域経済論(2) アジア社会史 a(2)/r(2) ラテンアメリカ社会史 a(2)/r(2) 地方財政論(2) フランス植民地社会史 a(2)/r(2) 戦争と社会(2) 財政社会学 a(2)/r(2) 簿記 a(2)/r(2) 金融資産市場論 a(2)/r(2) 企業金融論 a(2)/r(2) 金融投資サービス論 a(2)/r(2)		
			40-31-01	専門外国書講読(2) 専門外国書講読 a(2)/r(2) 1			
40-32-01			演習(1), 演習 a(1)/r(1) 2				
研究 プロジェクト			40-33-01	研究プロジェクト a(2)/r(2) (誘導展開型)			
			40-33-02	研究プロジェクト a(2)/r(2) (自発展型)			
			40-33-03	研究プロジェクト C(2)			
研究会			40-34-01	研究会 a(2) (3年)			
			40-34-02	研究会 b(2) (3年)			
			40-34-03	研究会 c(2) (4年)			
			40-34-04	研究会 d(2) (4年)			
			40-34-05	研究会(卒業論文) (4) (4年)			
PCP			40-35-01	MACROECONOMICS(2) MICROECONOMICS(2)			
			40-35-11	INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY (2) INTRODUCTION TO LAW AND ECONOMICS(2) ENVIRONMENTAL LAW AND ECONOMY(2)			
			40-35-21	INTRODUCTION TO FINANCE (2) ADVANCED FINANCE(2) APPLIED FINANCE(2)			
			40-35-31	JAPANESE FINANCIAL MARKETS AND INSTITUTIONS(2) PUBLIC FINANCE(2)			
			40-35-41	THE JAPANESE ECONOMY FROM AN INTERNATIONAL PERSPECTIVE(2) INTERNATIONAL TRADE(2) DEVELOPMENT ECONOMICS(2) OPEN ECONOMY MACROECONOMICS a(2)/r(2)			
			40-35-51	ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY(2) ENVIRONMENTAL ECONOMIC POLICY(2) INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS(2)			
			40-35-61	MONETARY AND FISCAL POLICY(2) 3			
			40-35-91	APPLIED ECONOMETRICS(2) READING AND COMPOSITION(2) FINANCE, POLICY AND THE GLOBAL ECONOMY(2) INDEPENDENT STUDY(2) PRESENTATION AND DISCUSSION SKILLS(2) ACADEMIC WRITING(2) CRITICAL THINKING SKILLS(2)			
関連科目 (P32)			40-39-01	民法 a(2)/r(2) 民法 a(2)/r(2) 商法 a(2)/r(2) 商法 a(2)/r(2) 労働法 a(2)/r(2) 租税法 a(2)/r(2) 会計学 a(2)/r(2) 経営学 a(2)/r(2) 他学部設置の専門教育科目			
			B欄「51」で履修				
			B欄「52」で履修	40-39-02	他学部研究会(商学部研究会3年)		
			B欄「53」で履修	40-39-03	他学部研究会(商・理工学部研究会4年)		
	B欄「54」で履修	40-39-04	他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会3年)				
	B欄「55」で履修	40-39-05	他学部研究会(文・法・総合政策・環境情報学部研究会4年)				
		40-39-06	東京工業大学工学部設置科目				
	40-39-91	福澤研究センター設置科目, グローバルセキュリティ研究所設置科目					
卒業 認定 科目 単位	体育科目 (P32)	右記合計2単位 までカウント	50-30-01	体育学講義(2)	14		
			50-31-01	体育学演習(1)			
		右記合計2単位 までカウント	50-32-01	体育実技A(1)			
			50-32-02	体育実技B(1)			
合計					126		

- 1: 最大8単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
2: 最大4単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
3: PCPに登録していない学生も履修可。
4: 最大12単位まで専門教育科目としてカウント。超過分は卒業単位認定科目としてカウント
□: 履修上限単位に含まれないもの(卒業必要単位に満たないために履修する不足単位分のみ)
下線の付いている科目: セット履修科目

(自由科目については次ページ参照)

種類 (詳細)	分野	内容	
自由科目 (P33)	履修上限内	60-30-01 <ul style="list-style-type: none"> < B欄「91」で履修申告するもの > ・前年度までに取得した科目を再度履修する場合 ・今年度同一科目を複数履修申告する場合 (卒業単位に含めないものを B欄「91」で申告する) ・他学部設置の総合教育科目 < 上記以外 (B欄指定不要) > ・教職課程センター設置科目 (教職課程生は下記参照) ・メディア・コミュニケーション研究所設置科目 (メディアコム研究生は下記参照) ・言語文化研究所特殊講座 ・ス道文庫設置講座 ・慶應義塾大学在外研修プログラム ・国際センター設置講座 ・保健管理センター設置講座 ・情報処理教育室設置講座 ・アート・センター設置講座 ・知的資産センター設置講座 ・外国語教育研究センター設置講座のうち、経済学部で自由科目として認定しているもの 	
		履修上限外	メディアコム研究生のみ <ul style="list-style-type: none"> 60-39-01 < B欄「95」で履修申告するもの > <ul style="list-style-type: none"> メディア・コミュニケーション研究所研究生が、上限外で履修する同研究所設置科目 教職課程登録者のみ <ul style="list-style-type: none"> 60-39-02 < B欄「96」で履修申告するもの > <ul style="list-style-type: none"> 教職課程登録者が上限外で履修する・教職課程センター設置科目 ・教職免許取得のための他学部設置科目 大学院設置科目の先取り履修 <ul style="list-style-type: none"> 60-39-03 慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程への進学を予定している者が上限外で履修する大学院設置科目

メディア・コミュニケーション研究所研究生，教職課程登録生の履修について

メディアコム研究生がメディアコム修了に必要なため履修する科目，教職課程登録生が教職免許取得に必要なため履修する科目は，その科目を履修上限内で履修するか履修上限外で履修するか選択することが可能です。

メディアコム研究生

	オープン科目	研究生科目
履修上限内で申告したい場合	A欄 (B欄指定不要)	B欄 (分野「91」)
履修上限外で申告したい場合	B欄 (分野「95」)	

教職課程生

		他学部設置科目 (教職免許関連)	教職課程設置科目
履修上限内で 申告したい場合	専門教育科目 (関連科目扱い)	B欄 (分野「51」)	A欄 (B欄指定不要)
	非専門教育科目 (自由科目扱い)	B欄 (分野「91」)	
履修上限外で申告したい場合		B欄 (分野「96」)	

2 履修上限単位

第3・第4学年で履修できる単位数の上限は**各学期24単位**です。

「研究会」を履修する場合3年生では(a, b)合わせて4単位，4年生では(c, d, 卒業論文)合わせて8単位が含まれます。

研究会(卒業論文)の単位数は，各学期にそれぞれ2単位が含まれます。研究プロジェクトCの単位数は，各学期にそれぞれ1単位が含まれます。

(1) 履修上限に含まれないもの

- ・前々項，前項の「1 卒業所要総単位」の中で，のもの。(卒業必要単位に満たないため履修する不足単位分のみ。不足単位を超えて余分に履修する場合，その超過分は履修上限内に含まれます。)
- ・メディア・コミュニケーション研究所研究生として同研究所設置科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・教職課程に登録し，教員免許取得のために授業科目を履修上限外扱いで履修する場合。
- ・第4学年在籍時に，大学院設置科目を先取り履修する場合。(履修案内 p. 36 参照)

(2) その他注意

- ・自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)は，履修上限に含まれます。

- ・(留年者に限り)同一学年で既に合格した評価 B・C の科目を再度履修し、評価が向上した場合は、向上した評価が学業成績表に記載されます。向上しなかった場合は前の評価がそのまま残ります。(ただし研究会の再履修はできません。また外国語科目や体育科目のように、同じ科目名でも重複履修可能なものは対象となりません。)この履修の単位は履修上限に含まれます。
- ・留年者については、同一学年で各学期24単位まで新たに履修申告することができます。

3 第3学年における進級必要単位

学士入学者の必要単位は別途指示します。

以下の(1)および(2)の両方の条件を満たさない限り、第4学年への進級はできません。

(1) 基礎教育科目 10 単位、専門基礎科目 16 単位の取得

(1)- 基礎教育科目 10 単位(内訳は定めない)

内訳の定めはありませんので、基礎教育科目の単位を合計して 10 単位に達していれば大丈夫です。

(卒業必要要件科目(「統計学」・「情報処理」, タイプ の「微分積分」「線形代数」等)を未取得でも、卒業必要要件でない科目を取得(タイプ の学生が「日本/世界経済の現状と問題」を取得, タイプ の学生が「微分積分」「線形代数」を取得, 「情報処理」を取得した上で「情報処理」も取得, 等)することによって、充足する場合があります。)

(例1)(タイプ)「微分積分」を未取得だが、「線形代数」「統計学」「統計学」「情報処理」「世界経済の現状と問題」を取得している。

(例2)(タイプ)「日本/世界経済の現状と問題」「数学概論 / 」のうち「数学概論」しか取得していないが、「統計学」「統計学」「情報処理」「情報処理」を取得している。

(1)- 専門教育科目の基礎科目 16 単位(内訳は定めない)

内訳の定めはありませんので、専門教育科目の基礎科目の単位を合計して 16 単位に達していれば大丈夫です。

(必修科目(「経済史 / 」「マクロ経済学初級 / 」「ミクロ経済学初級 / 」のいずれかが未取得でも、選択必修科目(「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学 / / 」「マルクス経済学 / 」「経済思想の歴史 / 」「社会問題 / 」等)を 2 科目 4 単位を超えて取得することによって、充足する場合があります。)

(例)「ミクロ経済学初級」を未取得だが、他の必修科目 10 単位(「経済史」「経済史」「マクロ経済学初級」「マクロ経済学初級」「ミクロ経済学初級」)を取得している上、選択必修科目を 6 単位((例)「経済と環境」「計量経済学概論」「経済数学」)取得している。

(2) 第3学年において、履修上限の範囲内で履修した科目のうち 28 単位の取得

・履修上限外で履修した科目(必修・選択必修の基礎教育科目、必修の専門教育科目基礎科目の卒業必要単位不足分)は、取得しても 28 単位に含まれません。

(例)「統計学」や「ミクロ経済学初級」が 2 年次に未取得だった場合、3 年次に再び履修して単位を取得できても、28 単位には含まれません。

・他学部設置の研究会で第3学年と第4学年の研究会の両方の履修を義務づけ、かつ研究会の単位が第4学年末に 3、4 年分まとめて取得できる研究会の履修をする場合は第3学年分の研究会の単位は 28 単位に含まれません。

総合教育科目や選択必修の外国語科目は、卒業必要単位不足分でも 28 単位に含まれます。

自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)は 28 単位に含まれます。

4 第4学年における卒業必要単位

以下の(1)および(2)の両方の条件を充たさない限り、卒業はできません。

(1) 第4学年において、履修上限の範囲内で履修した科目のうち 12 単位の取得

(2) 卒業所要単位 126 単位の取得

履修上限外で履修した科目(必修・選択必修の基礎教育科目、必修の専門教育科目基礎科目の卒業必要単位不足分)は、取得しても(1)の 12 単位には含まれません。

(例)「統計学」や「ミクロ経済学初級」が 3 年までに未取得だった場合、4 年次に再び履修して単位を取得できても、12 単位には含まれません。

総合教育科目や選択必修の外国語科目は、卒業必要単位不足分でも 12 単位に含まれます。

自由科目でも履修上限内(分野番号【60-30-01】)の単位について:(1)の12単位の中に含まれます。((2)には含まれません。)

3年生の進級条件チェックシート(1/2)

進級条件:①～③の全てを満たすこと

①下記の中から10単位以上取得すればOK

チェックシート(1,2年生で取得した科目のチェック欄に単位数を記入しよう。

合計して10単位以上あればOK。不足していた場合、

チェックのついてない科目の中から履修申告して10単位以上取得しよう。)

タイプⅠ(数学受験)

チェック	単位数	科目名
必修		
<input type="checkbox"/>	2	微分積分
<input type="checkbox"/>	2	線形代数
<input type="checkbox"/>	2	統計学Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	統計学Ⅱ
選択必修		
<input type="checkbox"/>	2	情報処理Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	情報処理Ⅱ
選択		
<input type="checkbox"/>	2	情報処理Ⅲ
<input type="checkbox"/>	2	世界経済の現状と問題
<input type="checkbox"/>	2	日本経済の現状と問題
<input type="checkbox"/>	1	微分積分演習
<input type="checkbox"/>	1	線形代数演習
<input type="checkbox"/>	2	微分積分入門
<input type="checkbox"/>	2	線形代数統論
<input type="checkbox"/>	※合計	

タイプⅡ(地理歴史受験)

チェック	単位数	科目名
必修		
<input type="checkbox"/>	2	統計学Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	統計学Ⅱ
選択必修		
<input type="checkbox"/>	2	数学概論Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	数学概論Ⅱ
<input type="checkbox"/>	2	世界経済の現状と問題
<input type="checkbox"/>	2	日本経済の現状と問題
<input type="checkbox"/>	2	情報処理Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	情報処理Ⅱ
選択		
<input type="checkbox"/>	2	情報処理Ⅲ
<input type="checkbox"/>	2	微分積分
<input type="checkbox"/>	2	線形代数
<input type="checkbox"/>	1	微分積分演習
<input type="checkbox"/>	1	線形代数演習
<input type="checkbox"/>	2	微分積分入門
<input type="checkbox"/>	2	線形代数統論
<input type="checkbox"/>	※合計	

※合計が10単位以上あればOK →必修や選択必修を落としても、何か余分に取ればOK

②下記の中から16単位以上取得すればOK

チェックシート(1,2年生で取得した科目のチェック欄に単位数を記入しよう。

合計して16単位以上あればOK。不足していた場合、

チェックのついてない科目の中から履修申告して16単位以上取得しよう。)

チェック	単位数	科目名
必修		
<input type="checkbox"/>	2	経済史Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	経済史Ⅱ
<input type="checkbox"/>	2	マクロ経済学初級Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	マクロ経済学初級Ⅱ
<input type="checkbox"/>	2	ミクロ経済学初級Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	ミクロ経済学初級Ⅱ
<input type="checkbox"/>	合計①	

チェック	単位数	科目名
選択必修		
<input type="checkbox"/>	2	経済と環境
<input type="checkbox"/>	2	計量経済学概論
<input type="checkbox"/>	2	経済思想の歴史Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	経済思想の歴史Ⅱ
<input type="checkbox"/>	2	マルクス経済学Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	マルクス経済学Ⅱ
<input type="checkbox"/>	2	経済数学Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	経済数学Ⅱ
<input type="checkbox"/>	2	経済数学Ⅲ
<input type="checkbox"/>	2	社会問題Ⅰ
<input type="checkbox"/>	2	社会問題Ⅱ
<input type="checkbox"/>	合計②	

必修、選択必修を落としても、単位が足りていれば進級できます

※①②合計 単位

※①②合計が16単位以上あればOK

4年生の卒業条件チェックシート(2/2)

左記①卒業所要単位126単位確認用チェックシート(分野は、3月に届いた成績表を使って必ず確認しよう。)

の項目が必要単位(「○/○」を満たしているかチェック)

種類	卒業要件	分野
総合教育科目		
I系	6単位以上	10-21-01 10-21-02
II系	10単位以上	10-22-01 10-23-01 10-23-02 10-23-91

卒業単位
認定科目
超過単位
(超過していない場合は0)

a / 6
b / 10
c

総合教育科目合計	合計20単位以上	a + b + c	あ <input type="text"/> / 20	あ - 20	① <input type="text"/>
----------	----------	-----------	-----------------------------	--------	------------------------

基礎教育科目 履修タイプI		
微分積分	2単位取得	20-11-01
線形代数	2単位取得	20-11-02
統計学I	2単位取得	20-10-01
統計学II	2単位取得	20-10-02
情報処理I	2単位取得	20-25-01
情報処理II		20-25-02
(選択)		20-30-01 20-30-11 20-31-01 20-35-01

d I / 2
e I / 2
f I / 2
g I

履修タイプII		
数学概論I(2)数学概論II(2) 日本経済の現状と問題(2) 世界経済の現状と問題(2)	4単位取得	20-22-01
統計学I	2単位取得	20-10-01
統計学II	2単位取得	20-10-02
情報処理I	2単位取得	20-25-01
情報処理II		20-25-02
(選択)		20-30-01 20-30-11 20-32-01 20-35-01

d II / 4
e II / 2
f II / 2
g II

基礎教育科目合計	合計10単位以上	d + e + f	い <input type="text"/> / 10	(い + g) - 10	② <input type="text"/>
----------	----------	-----------	-----------------------------	--------------	------------------------

外国語科目		
必修 外国語I(英語Study Skills)	2単位取得	30-10-01
必修 外国語II (ドイツ語・フランス語・ 中国語・スペイン語・日本語)	6単位取得	30-10-02 30-10-03 30-10-04 30-10-05 30-10-31
選択必修 外国語I (英語セミナー 英語リーディング)	2単位以上	30-20-01
選択必修 外国語II (ドイツ語・フランス語・ 中国語・スペイン語・日本語)	2単位以上	30-20-02 30-20-03 30-20-04 30-20-05 30-20-31
外国語III ※語種変更者		30-21-02 30-21-03 30-21-04 30-21-05 30-21-06
選択必修 6単位 外国語I + 外国語II + 外国語III	合計6単位以上	j + k + l
選択		30-30-01 30-30-31 30-30-91

h / 2
i / 6
j
k
l
m / 6
n

※ただし i, k, l 1項目のみは不可、含まれる場合 j=2単位・l=4単位以上でない不可

外国語科目合計	合計14単位以上	h + i + m	う <input type="text"/> / 14	(う + n) - 14	③ <input type="text"/>
---------	----------	-----------	-----------------------------	--------------	------------------------

専門教育科目		
経済史I(2) 経済史II(2)	4単位取得	40-11-01 40-11-02
マクロ経済学初級I(2)	4単位取得	40-11-03 40-11-04
マクロ経済学初級II(2)	4単位取得	40-12-01 40-12-02
選択必修(経済と健康(2) 計量経済学概論(2) 経済思想の歴史I(2) 経済思想の歴史II(2) マルクス経済学I(2) マルクス経済学II(2) 経済学I(2) 経済学II(2) 経済学III(2) 社会問題I(2) 社会問題II(2))	4単位取得	40-20-01 40-21-01
基本科目	12単位以上 (1分野4単位以上×3分野)	40-22-01 A 40-22-02 B 40-22-03 C 40-22-04 D 40-22-05 E 40-22-06 F 40-22-07 G 40-22-08 H 40-22-09 I 40-22-10 J
特殊科目		40-30-01 ~ 40-35-91
関連科目		40-39-01 ~ 40-39-91

o / 4
p / 4
q / 4
r / 4
s / 12
(3分野以上)
t
u

よく見られる失敗

- ・専門教育科目が68単位に届かない、等
- 多く取得して損はないので、余裕を持って履修しよう。
- ・総合教育科目のI系、II系の単位が足りない、等
- いっぱい取ったから大丈夫と思ったら大間違い。細かい条件もきちんと確認しよう。
- ・あと2単位足りない、等
- 単純計算ミスは悲しい…。よく見直そう！

専門教育科目合計	68単位以上	o + p + q + r + s + t + u(12まで)	え <input type="text"/> / 68	え - 68	④ <input type="text"/>
----------	--------	---------------------------------	-----------------------------	--------	------------------------

体育科目	体育実技以外	50-30-01 50-31-01	v <input type="text"/>	⑥ <input type="text"/>	2単位まで
	体育実技	50-32-01 50-32-02	w <input type="text"/>	⑦ <input type="text"/>	2単位まで

卒業単位認定科目(2004年度以前設置科目「経済学の視点と方法」も含む) お (①~⑦を加える) / 14

総合計必要単位数	126単位	あ・い・う・え・おが全て充足している	<input type="text"/>	(全て充足していればチェック(✓))
----------	-------	--------------------	----------------------	--------------------

経済学部設置科目

講義要綱

「授業の計画」のうち、講義内容とその順番は授業の展開等に応じて変更されることもあります。

科目名の末尾に a, b がついているものは、セット履修・半期完結履修いずれかの履修形態が設定されています。

「セット履修」と表示のあるものは、必ず a, b を組み合わせて履修しなければなりません。

表示のないものは半期完結履修です。

〔 専門教育科目 〕

(1) 基本科目

ミクロ経済学中級 a (春学期) 教授 須田伸一(春)
ミクロ経済学中級 b (秋学期) 教授 グレーヴァ香子(秋)

ミクロ経済学中級 a (春)

授業科目の内容：

日吉設置科目のミクロ経済学初級の内容を踏まえて、ミクロ経済学の理論構造に関してさらに理解を深めることが講義の目的である。中級 a では、消費者行動と生産者行動の理論分析が主要な講義内容となる。

テキスト：

特に用いない。

参考書：

・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学』、岩波書店、1985年、88年
・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社、1990年

授業の計画：

1. 消費者行動の理論
2. 生産者行動の理論
3. 不確実性下の経済行動

成績評価方法：

試験の結果による評価

必要に応じてレポートを課す場合がある。

質問・相談：

毎回の授業終了後にしてもらおうのが望ましいが、必要ならアポイントメントをとっての相談にも応じる。

ミクロ経済学中級 b (秋)

授業科目の内容：

日吉設置科目のミクロ経済学初級および三田設置科目のミクロ経済学中級 a の内容を踏まえて、ミクロ経済学の理論構造に関してさらに理解を深めることが講義の目的である。中級 b では市場均衡の分析が主要な講義内容となる。

テキスト：

なし

参考書：

西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社、1990年
他は講義内で指示する。

授業の計画：

1. 完全競争市場
2. 厚生経済学の基本定理
3. 市場の失敗
4. 社会的選択理論

履修者へのコメント：

必ず授業に出席し、演習に参加してほしい。他の関連した科目(「ミクロ経済学中級」「ゲームの理論」「契約理論」など)の履修も薦める。

成績評価方法：

試験の結果による評価(ただし、CとDの境目の人については授業内演習の出席を加味することがある。)

質問・相談：

授業の前後、及びメールによる。メールの件名に必ず、ミクロ中級履修者であることを明記し、添付書類はしないこと。

ミクロ経済学中級 a (春学期) 准教授 津曲正俊
ミクロ経済学中級 b (秋学期)

ミクロ経済学中級 a (春)

授業科目の内容：

日吉設置科目のミクロ経済学初級の内容を踏まえて、ミクロ経済学の理論構造に関してさらに理解を深めることが講義の目的である。中級 a では、消費者行動と生産者行動の理論分析が主要な講義内容となる。

テキスト：

特に用いない。

参考書：

・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学』、岩波書店、1985年、88年
・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社、1990年
・Hal R. Varian, *Microeconomic Analysis (3rd ed.)*, Norton, 1992

授業の計画：

1. 消費者行動の理論
2. 生産者行動の理論
3. 不確実性下の経済行動

1と2の内容について、それぞれ5週間ほど、3の内容については3週間ほどかけることを予定している。なお、授業の進捗状況により、授業内容を多少変更する可能性もある。

履修者へのコメント：

ミクロ経済学の基本的な内容のうち、ゲーム理論、厚生経済学などに関しては詳しく触れない。これらの内容に関しては併設講義「ミクロ経済学中級」「ゲーム理論」「契約理論」を履修することを薦める。

成績評価方法：

試験の結果による評価：期末試験の結果70%、授業内で行う小テストの結果30%。

ミクロ経済学中級 b (秋)

授業科目の内容：

日吉設置科目のミクロ経済学初級の内容を踏まえて、ミクロ経済学の理論構造に関してさらに理解を深めることが講義の目的である。中級 b では市場均衡の分析が基本的な内容となる。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 社会的選択理論
2. 完全競争市場
3. 厚生経済学の基本定理
4. 市場の失敗

授業の進捗状況により、授業内容を多少変更する可能性もある。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

ミクロ経済学中級 a (春学期) 准教授 石橋孝次
ミクロ経済学中級 b (秋学期)

ミクロ経済学中級 a (春)

授業科目の内容：

ゲーム理論が経済学に浸透して以来、ミクロ経済理論がカバーする範囲は大きく広がってきた。伝統的には、完全競争市場の一般均衡分析がミクロ経済学の骨格とされてきたが、ゲーム理論によって基盤を与えられた産業組織の理論や情報とインセンティブの理論は、現代ミクロ経済学の新たな骨格を形成している。伝統的な均衡理論については、ミクロ経済学中級で扱われる。このミクロ経済学中級では、まず全体の理論的な基盤となるゲーム理論を解説した後、産業組織・情報とインセンティブを中心にして、市場の失敗やオークションについての講義を行う。授業内容はミクロ経済学中級と並行して学ぶべきもので、ミクロ経済学中級の履修を前提としているわけではない。

まず春学期のミクロ経済学中級 a では、ゲーム理論・部分均衡分析・産業組織の諸問題を主なテーマとする。

参考書：

・Mas-Colell, Whinston and Green, *Microeconomic Theory*, Oxford University Press, 1995 (Parts , and)
・Jehle and Reny, *Advanced Microeconomic Theory, Second Edition*, Addison-Wesley, 2000
・Watson, *Strategy: An Introduction to Game Theory*, Norton, 2002
・ギボンズ(福岡・須田訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年
・塩澤修平・石橋孝次・玉田康成(編著)『現代ミクロ経済学：中級コース』有斐閣、2006年

授業の計画：

：ゲーム理論

1. 戦略型ゲーム
2. 展開型ゲーム
3. 不完備情報ゲーム

：部分均衡分析

4. 一般均衡と部分均衡
5. 総余剰と厚生分析

：産業組織

6. 寡占の静学モデル
7. 寡占の動学モデル
8. 製品差別化
9. 戦略的行動と参入阻止

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小

テストを授業内で行う。

履修者へのコメント：

ミクロ経済理論の現実的な問題への応用に興味をもつ学生の受講を期待している。ミクロ経済学初級および微分積分の知識は前提とする。

成績評価方法：

春学期授業内の小テスト 20%・学期末試験 80%

質問・相談：

毎回の授業の後に受け付ける。

ミクロ経済学中級 b(秋)

授業科目の内容：

春学期設置の石橋担当「ミクロ経済学中級 a」に引き続き、市場の失敗・契約理論の諸問題・オークションを主なテーマとする。

参考書：

「ミクロ経済学中級 a」を参照。

授業の計画：

：市場の失敗

10. 外部性

11. 公共財

：情報とインセンティブ

12. 期待効用理論

13. モラル・ハザード

14. アドバース・セレクション

15. シグナリング

16. スクリーニング

：オークションとメカニズム・デザイン

17. 私的価値オークションと収入等価定理

18. メカニズム・デザインと最適オークション

各トピックごとに練習問題を配布する。また、練習問題に基づいた小テストを授業内で行う。

履修者へのコメント：

ミクロ経済理論の現実的な問題への応用に興味をもつ学生の受講を期待している。ミクロ経済学初級および微分積分の知識は前提とする。バラ科目ではあるが、春学期設置の石橋担当「ミクロ経済学中級 a」で扱う程度のゲーム理論の知識は前提とする。

成績評価方法：

授業内の小テスト 20%・学期末試験 80%

質問・相談：

毎回の授業の後に受け付ける。

ミクロ経済学中級 a(春学期)

ミクロ経済学中級 b(秋学期)

講師 大津 敬介

ミクロ経済学中級 a(春)

授業科目の内容：

本講義では、経済成長と景気循環の分析を行う。扱う主なトピックはマクロ経済データ

経済成長モデル(マルサスとソロー)

景気循環モデル(新古典派とケインジアン)

開放経済モデル

である。本講義の特徴は、経済主体の最適化問題に基づいた分析を行う点である。

テキスト：

Stephen Williamson, *Macroeconomics* 3rd ed., Addison-Wesley, 2008

参考書：

特になし

授業の計画：

・マクロ経済データ

成長と景気循環

相関

・経済成長モデル

マルサスモデル

ソローモデル

内生的成長モデル

履修者へのコメント：

成長や景気循環がいかに経済主体の意思決定に依存するかを考える講義です。

成績評価方法：

・試験の結果による評価(80%)

・その他(宿題 20%)

質問・相談：

質問の e-mail アドレスを授業中に提示します。

マクロ経済学中級 b(秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

・景気循環モデル

新古典派モデル(実物景気循環モデル)

ケインジアンモデル(粘着賃金, 粘着価格)

・開放経済モデル

経常収支と景気循環

貨幣と開放経済

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：春学期参照

質問・相談：

春学期参照

マクロ経済学中級 a(春学期)

マクロ経済学中級 b(秋学期)

准教授 伊藤 幹夫

マクロ経済学中級 a(春)

授業科目の内容：

マクロ経済学のうち、動学に関連した部分を主として扱う。ただし、導入部分では、マクロ経済学に関する基礎的な事柄の復習を行う。特に、国民経済計算の部分については、ある程度時間を費やす。その上で、実際のマクロ経済データを示しつつ、そこから必要なことを学ぶ。その後、マクロ経済時系列データの特性を概観し、標準的な経済変動理論の類型を学ぶ。

テキスト：

特に、指定しない。

参考書：

吉川洋『現代マクロ経済学』創文社

授業の計画：

・マクロ経済学の枠組み 国民経済計算の基礎(2週)

・経済変動の実際：(a)日本経済のデータ (b)成長と変動の要因(2週)

・経済成長理論の基礎 (a)ハロッド・ドーマーの理論

(b)新古典派成長理論 (c)カルドアの定型化された事実

(d)最適成長(4週)

・技術進歩と成長 (a)中立技術進歩 (b)内生的技術進歩

(c)内生成長理論の意義と限界(3週)

・成長理論の実証(2週)

履修者へのコメント：

マクロ経済学の基礎的な枠組みを丁寧に解説し、本質的な理解ができるような講義です。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問用の e-mail アドレスと、Wiki サイトのアドレスを授業中に提示する予定。

マクロ経済学中級 b(秋)

授業科目の内容：

マクロ経済学のうち、動学に関連した部分を主として扱う。動学的なマクロ経済学を展開するために必要な数学モデルの特性について、先に概観する。その上で、実際のマクロ経済データを示しつつ、そうしたマクロ時系列データと整合する理論が、どのような観点に注目して開発されたかを示す。当然、標準的な経済変動理論の類型を学ぶが、財政・金融政策が実物経済に影響を与えるか否かという点に注目して、理論の比較を行う。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

・経済変動とは何か(1週)

・日本経済のマクロデータと経済変動(2週)

・古典的な景気変動理論 (a)サミュエルソン・ヒックスの乗数加速速度理論の系譜(3週)

・均衡景気循環モデルと財政・金融政策(4週)

・実景気循環モデルと DSGE(3週)

履修者へのコメント：

景気変動に関する、実際のデータと類型的な理論の関係を、丁寧に解説します。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

独占資本主義論 a (春学期)	セット履修
独占資本主義論 b (秋学期)	准教授 延 近 充

授業科目の内容：

2年生を対象に設置されているマルクス経済学では、資本主義社会の経済構造と運動法則を原理的かつ体系的に明らかにすることが課題とされた。そこで明らかにされた資本主義の一般的運動法則は、資本主義が資本主義であるかぎり根底において貫徹しているが、現代のいっそう複雑化した経済問題を解明するためにはそれだけでは十分ではない。

資本主義の一般的運動法則は競争の全面的支配を特徴とする資本主義においては「鉄の必然性」をもって貫徹するのであるが、資本主義の発展過程はその内的メカニズム自体によって競争の作用を一部制限するようになる。主要な生産部門が少数の巨大資本によって支配され、独占的市場構造が形成されてくるのである。そうした資本主義の構造変化・独占段階への移行にともなって、資本主義の一般的運動法則は一定程度変容し矛盾の現われ方も異なったものとなってくる。さらに、そのような矛盾に対処するために経済過程に国家が介入することが必要とされ、特に第2次大戦後では社会主義世界体制の成立・冷戦のもとで国家の果たす役割はいっそう大きくなっていった。

したがって、現代の経済を分析するためには、資本主義の一般的運動法則を基礎としつつ、このような資本主義の歴史的な段階変化その構造と動態を明らかにする理論が必要とされる。この講義では、競争の全面的に支配する段階から独占と競争とが絡み合う段階への移行の問題と現代資本主義を基本的に特徴づける独占資本主義の構造と動態を明らかにすることを中心課題とする。

テキスト：

・北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣

または

・北原・本間・鶴田（編）『資本論体系 10 現代資本主義』有斐閣

授業の計画：

以下の順で講義を行う。春学期（独占資本主義論 a）に1～5、秋学期（独占資本主義論 b）に6～9の予定。

1. 資本主義の一般的運動法則と段階変化
2. 独占的市場構造の成立と特徴
3. 独占的競争と市場・価格支配
4. 独占価格と設備投資原則
5. 独占利潤の源泉と収奪構造
6. 独占企業の投資行動の動態
7. 独占段階における景気循環の変化
8. 帝国主義と国家独占資本主義
9. 現代資本主義分析と独占資本主義論

履修者へのコメント：

マルクス経済学を履修済であることを前提とし、現代資本主義論、現代日本経済論も履修されることが望ましい。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・レポートによる評価

質問・相談：

講義内容や成績評価など、より詳しくは <http://web.econ.keio.ac.jp/staff/nobu/index.html> を参照してください。

計量経済学中級 a (春学期)	セット履修
計量経済学中級 b (春学期)	准教授 田 中 辰 雄

授業科目の内容：

計量経済学の基本コースを週2コマで半期に集中して講義する。内容は日吉の計量経済学概論の発展であり、またパソコンを利用した演習を含む。取り上げる予定の項目は(1)最小2乗法の基礎（不偏性・効率性、古典的仮定、t値、F検定など）、(2)不均一分散、(3)系列相関、(4)同時方程式、(5)VARによる因果性、(6)パネルデータ分析、(7)ロジット回帰である。2回に1回はパソコンを使って演習を行うので、かなりの分量の演習を行うことになる。成績は2回のレポートと学期末試験でつける予定である。

なお、日吉で開講されている計量経済学概論を履修していない者は、入門的な計量経済学の本の最初の部分を読んでおくことを推奨する（最小2乗法・重回帰・決定係数・t値までがわかっておればよい）。

計量経済学中級 a (春学期)	セット履修
計量経済学中級 b (秋学期)	教授 (有期) 稲 葉 由 之

授業科目の内容：

計量経済学の基礎的な内容を講義する。この授業では、実証分析を行うために必要な計量経済分析の基礎的知識を習得することを目的とする。テキスト：

浅野、中村『計量経済学』有斐閣、2000年

授業の計画：

1. はじめに
2. 最小二乗法
3. 重回帰モデル
4. 構造変化の検定
5. 多重共線性
6. 不均一分散
7. 系列相関
8. 操作変数法
9. 最尤法
10. まとめ

履修者へのコメント：

日吉で開講されている「統計学 / 」の内容を十分理解していることを前提とする。

成績評価方法：

授業内における小テストと学期末試験による評価。

質問・相談：

第1回の講義において指定します。

計量経済学上級 a (春学期)	教授 河 井 啓 希
計量経済学上級 b (秋学期)	准教授 宮 内 環

計量経済学上級 a (春)

授業科目の内容：

計量経済学の基礎的な理論を講義する。この授業ではテキストで紹介されている様々な分析方法の手順を単に学ぶのではなく、(1)その理論的背景や根拠について統計学的な知識を補足しながら納得できるようにする、(2)経済分析にどのように応用することができるのかを知る、(3)PCを使った実習を通じて自分で分析ができるようにする。予備知識としては統計学、微分積分、行列の知識、さらには「計量経済学概論」または「計量経済学中級」の内容を前提とする。計量ソフトについては知識がなくとも、この時間で習得できるよう工夫する。

テキスト：

第1回目の授業で指示する。

参考書：

- ・蓑谷千鳳彦『計量経済学大全』東洋経済新報社、2006年
- ・William H. Greene, *Econometric Analysis 6th ed.* /ISE, Peason Ed, 2008
- ・Jeffrey M. Wooldridge *Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data 2nd ed.* MIT press, 2008
- ・Paul A. Ruud *An Introduction to Classical Econometrics Theory*, Oxford UP, 2000

授業の計画：

1. Introduction：経済分析における統計的方法（1回）
2. 古典的回帰モデル：実験室の仮定（5回）
最小2乗法とその統計的性質、最尤法とその統計的性質、仮説検定、モデルの評価
3. 一般化最小2乗法（5回）
分散不均一性の問題、自己相関の問題
4. 操作変数法（2回）

履修者へのコメント：

計量経済学の理論と実際の応用分析に興味のある学生は是非履修してください。

成績評価方法：

実証分析に関するレポートで決定する。

質問・相談：

クラスページ（URLは授業にて報告する）を通じてレジュメやデータの配布を行う。質問や相談については掲示板で履修者全員が共有できるようにする。

計量経済学上級 b (秋)

授業科目の内容：

マイクロデータの計量経済学的分析に不可欠な離散的従属変数（discrete dependent variable）、制限された従属変数（limited dependent variable）の問題について講義と演習を行う。マイクロデータの整備によって、消費者や企業の行動に関して集計の度合いの低い観測が行われるようになり、合計や平均値などのように集計された変数についての分析方法とは異なる

る方法が要求されるようになってきている。問題の所在を2つの例によって示そう。第一の例として「就業率」と就業という状態について。「就業率」という変数は就労可能な労働力人口に属する多くの主体について観察し、そのうち就業している主体の割合を示したもので、「就業確率」の点推定値と考えられる。これに対しマイクロデータでは、個々の主体が就業の状態にある ($y=1$) のか無業の状態にある ($y=0$) のかが観察されている。この場合、「就業率(確率)」という変数は就業状態にあるか否かを示す離散変数 y とどのような関係にあり、 y の値の発生をどのように叙述するのが適切なのだろうか。第二の例として賃金と限界生産力について。賃金によってある主体の限界生産力が測定できるとすれば、賃金の観察値が得られるのは、主体が就業している場合に限られる。他方、就業していない主体の限界生産力はゼロとは限らない。すなわちその就業していない主体がもし働いたら得られるであろう賃金はゼロであるとは限らない。仮にある水準以上の限界生産力を持つ主体のみが就業するとすれば、就業している主体の賃金のみによって得られる賃金の観測値の平均値は、潜在的なもも含めた限界生産力の平均値とは系統的に乖離することになってしまうであろう。以上に述べた問題については、観測資料の発生仕組みを叙述する確率モデルと観測値との関係を詳細に吟味することが必要であり、これらの間の関係を中心にして講義と演習を進める。演習はパーソナルコンピューターを用いながら行う。用いるソフトウェアについては、講義や演習の中で述べるので、この点の予備知識は履修の前提としない。

授業の計画：

授業の進め方はおおよそ次のとおり。

1. 離散確率変数の分布、回帰分析、最尤法の復習
2. 見えない変数と離散従属変数のモデル：経済学における展開を主として
3. 二値選択モデル：Probit model, Logit model
4. 二値選択モデルの演習
5. 制限のある変数：truncated data, censored data, モーメント
6. Tobit model, Sample Selection model：主体均衡論からの考察
7. Tobit model, Sample Selection model の演習

履修者へのコメント：

講義では具体的事例を含め演習も行いますので積極的に参加してください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価：離散選択モデル、制限のある従属変数のモデルに関する基礎知識を問う
- ・レポートによる評価：離散選択モデル、制限のある従属変数のモデルに関する演習

質問・相談：

「教育支援システム」で受け付けます。

経済統計 a (春学期)

セツ履修

経済統計 b (秋学期)

教授 辻村和佑

経済統計 a (春)

授業科目の内容：

もとより計量経済学は、現実の経済事象を観察してそこに法則性を発見し、これをもとに理論仮説を設定して、この仮説を検証し、必要に応じて仮説を修正するといった、一連の作業に立脚した学問領域である。この際に重要な役割を果たすのが統計資料であることは言うまでもない。たとえばマイクロ経済学の消費者行動理論はエンゲル法則という素朴な観察事実とその原点がある。このような消費者行動の経験法則を理論化するための用具として開発されたのが限界効用理論であり、効用関数を特定化することで、ここから導出された需要関数が観察事実と整合的であるかどうかを統計的に検証する。いかに統計的検定の方法が精緻なものであるとも、検証に利用する統計資料がこれに見合うものでなければ、なんの意味も無い。たとえば家計の所得や支出配分に関する資料を収集する場合にも、収支が均衡しているかどうかを精査する必要がある。しかし家計が貯蓄をしたり、これを取り崩したりしている場合には、なにを貯蓄と定義するかといった問題を抜きにしては、収支の均衡を語ることはできない。春学期の授業では、主として経済統計の基礎概念を、具体的な統計資料を例として講義する。

参考書：

参考文献については、テーマごとに指示する。

授業の計画：

1. フロー変数とストック変数
2. 時系列資料と横断面資料
3. 悉皆調査と標本調査
4. 調査統計と業務統計
5. 家計調査系統計と事業所調査系統計
6. 基礎統計と加工統計
7. 標準分類
8. 国勢調査と関連統計
9. 家計調査と関連統計
10. 労働力調査と関連統計

11. 事業所・企業統計と関連統計

12. 物価指数

履修者へのコメント：

授業計画については履修者のレベルや希望を勘案して変更する場合があります。したがって授業計画は、あくまで目安である。

成績評価方法：

学期末試験・レポート

質問・相談：

授業時間終了後に受け付ける。

経済統計 b (秋)

授業科目の内容：

たとえば「実質 GDP」といった用語は、専門の学術書ばかりでなく、新聞やテレビでもごく日常的に耳にする。しかし、それが厳密にどのような意味を持ち、さらにはそれがどのようにして測定されているのかわかる人は、驚くほど少ない。実は「実質 GDP」という用語ひとつを理解するためにも、国民経済計算体系 (SNA) の5勘定のひとつである産業連関表についての、かなり深い理解が必要である。その反面、産業連関表のみならず、国民経済計算体系全体を理解すれば、経済のさまざまな事象の相互依存関係を体系的に知ることができる。とくにこの統計が優れているのは、パブルとその崩壊、あるいは恐慌といった実物事象と金融事象の相互依存の結果として生ずる経済事象を分析できる点にあり、これは他の統計資料には見られない特徴である。秋学期の授業では、他部門勘定体系としての国民経済計算の全体像を、主体の内部均衡、主体間均衡、異時点間均衡という、主として3つの視点から講義する。

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 国民経済計算体系とマクロ経済学の枠組み
2. 国民経済計算体系と計量経済学の発展
3. 国民経済計算体系の学際的位置づけ
4. 国民経済計算体系の歴史的展開
5. 国民経済計算体系における内部整合性の担保
6. 産業連関表と GDP の測定
7. 多部門勘定体系
8. 主体の内部均衡
9. 主体間均衡
10. 異時点間の整合性
11. 取得原価主義会計と時価主義会計
12. 国民経済計算体系の表象形式

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

確率・統計 a (春学期)

セツ履修

確率・統計 b (秋学期)

准教授 中妻照雄

確率・統計 a (春)

授業科目の内容：

本講義ではコンピュータを使った経済データの統計分析を学ぶ。特にフリー・ソフトウェアである R を駆使して様々なデータ分析の手法を実行して経済現象の解明に役立てる技能を身につけることを目指す。確率・統計 a では、まず最初にデータの出入力、グラフの作成、記述統計の計算などの R の基本的な操作法を習得し、R によるプログラミングの仕組みを学習する。続いて統計学、統計学 で学んだ統計分析の復習をかねて R を用いて母数の推定、仮説検定、回帰分析を行う手順を学ぶ。

テキスト：

森棟公夫他『統計学』有斐閣、2008年

金明哲『R によるデータサイエンス データ解析の基礎から最新手法まで』森北出版、2007年

参考書：

間瀬茂『R プログラミングマニュアル』数理工学社、2007年

授業の計画：

1. R の基本的操作法
2. グラフの作成
3. 記述統計の計算
4. 母数の推定
5. 仮説検定
6. 回帰分析

履修者へのコメント：

数式とコンピュータの使用に抵抗を感じる学生には履修するのは難しい。できれば R をインストールしたノート PC を講義室に持ち込んで実際に操作を行うことが望ましい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

メールあるいはアポイントメントをとっての面談で受け付ける。連絡方法は第1回の講義で指示する。

確率・統計 b (秋)

授業科目の内容：

確率・統計 b では、まず多変量解析と呼ばれる主成分分析、因子分析、クラスター分析、判別分析などの手法を R で実行する手順を学ぶ。そして、企業の倒産予測などに応用される生存分析や柔軟にデータを当てはめることができるカーネル法などについても触れる。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 主成分分析
2. 因子分析
3. クラスター分析
4. 判別分析
5. 生存分析
6. カーネル法

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

社会科学基礎論 a (春学期)	セツト履修
社会科学基礎論 b (秋学期)	准教授 宮内 環

社会科学基礎論 a (春)

授業科目の内容：

『社会科学基礎論 a』では、まず科学の一般的目的と、その目的を達成するために採用されてきた一般的方法について考察する。この考察をふまえ、つぎに自然科学と社会科学の方法を対比させながら、社会科学のなかでも最もよく開拓された経済学の方法を中心に、その適切な分析作法について議論をすすめる。

自然科学の領域では、実験室における統御実験の方法がよく開発され、この統御実験のもとで、多くの法則性を把握することに成功してきた。一方、社会科学の領域では、近年の実験経済学の進展も見られるものの、その適用範囲は限定的である。経済学をはじめとする社会科学においては、実験室における統御実験を行うことが困難な状況にあることは否定できない。このように実験が困難な場合には、観測資料の特性にそくして理論を構成したり、理論をふまえて観測の方法を工夫することが不可欠となる。そこで、『社会科学基礎論 a』では、法則性の把握における実験の意義をまず明らかにし、「観測と理論の対応」に焦点をあてながら、つぎに経済学における分析対象への接近法の方法論的意義を明らかにする。

テキスト：

小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社

参考書：

- ・小尾恵一郎・宮内環『労働市場の順位均衡』東洋経済新報社、1998年
- ・辻村江太郎『経済政策論』筑摩書房、1977年
- その他は講義中に示す。

授業の計画：

1. 科学の目的、法則性の把握と予測、法則性把握の意義、政策
2. 法則性の定性的把握・定量的把握、確率的予測、非確率的予測、法則の把握のし易さと理論の役割
3. 科学の方法、観測と理論；科学の一般的方法、理論の反証可能性（検証可能性）、数学モデルと実験計画、条件付き予測
4. 観測方法の改良、理論の改善、理論が妥当する範囲
5. 数学、統計学、経済学の間関係、公理・定理体系の意義、
6. 母集団概念、確率的理論構成の意義、理論の進歩とは？（理論の一般性と特殊性、理論がもたらす情報の多さ）
7. 観測の方法と理論構成、資料発生機構のモデル、外生変数と内生変数、実験の2つのタイプ（統御実験、風洞実験）、識別問題、統御実験の意義
8. 実験計画と識別、主体の集計・細分化と識別、単位期間の集計・細分化と識別
9. 確率的モデル、系統的因子、非系統的因子、確率的モデルとその意義、確率的モデルの3つのタイプ（shock model, error model, shock and error model）
10. 確率的モデルのタイプと資料発生機構、測定の誤差、条件付き予

測の誤差

11. 受動的観測者の困難、変数と取り落としによるバイアス重共線性
12. 連立方程式バイアス
13. 選択バイアス

履修者へのコメント：

理論構成と観測が相互に関連しながら科学の方法が進歩していることを学んでください。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

keio.jp の「教育支援システム」で受け付けます。

社会科学基礎論 b (秋)

授業科目の内容：

『社会科学基礎論 b』では、『社会科学基礎論 a』における議論を踏まえ、経済学の分析における理論構成と観測の関係についてより立ち入った議論を行う。

経済学をはじめとする社会科学においては、多くの場合統御実験が困難であり、我々は受け身の観測者の立場に立たされる場合が少なくない。このような場合においては、観測資料の特性にそくして理論を構成したり、理論をふまえて観測の方法を工夫することが不可欠となる。

『社会科学基礎論 b』では、法則性の把握における実験の意義を確認し、実験が困難な場合における法則性把握の作法を、「観測と理論の対応」に焦点をあてながら、経済学における実際の分析事例にそくして講義する。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 経済学における変数の測定と誤差
2. 予測のし易さと理論の構成；構造方程式測定の意義
3. 構造方程式の測定（その1）；構造方程式と誘導形方程式
4. 構造方程式の測定（その2）；最小2乗法（2SLS, 3SLS）と最尤法（LIML, FIML）の考え方および方法
5. 方程式の自由度（degree of autonomy）とパラメタの安定性
6. 観測と理論の対応（その1）；ラグナー・フリッシュ限界効用の測定
7. 観測と理論の対応（その2）；デューゼンベリー消費関数の測定
8. 観測と理論の対応（その3）；離散変数の観測と理論構成（Latent Variables, Dummy Endogenous Variables）
9. 観測と理論の対応（その4）；制限のある観測値と資料発生機構（Truncated Date, Censored Data）
10. 観測と理論の対応（その5）；Self Selection Bias, Sample Selection Bias
11. 観測と理論の対応（その6）；労働供給モデルを始めとするいくつかの事例
12. 測定および条件付き予測と政策（その1）；最低必要臨界量と市場の安定
13. 測定および条件付き予測と政策（その2）；ダグラス ロング 有沢 法則と市場の安定

履修者へのコメント：

理論構成と観測が相互に関連しながら科学の方法が進歩していることを学んでください。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

経済学史 a (春学期)	セツト履修
経済学史 b (秋学期)	准教授 神代 光朗

経済学史 a (春)

授業科目の内容：

資本制生産様式の経済法則の解明としての経済思想の歴史を、主に17～19世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界的な諸問題に資本主義的近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、受講者諸君とともに考えながら講義をすすめたい。経済学史 a では、とりわけ、近代の経済学史の出発点と考えられる重商主義から、その批判としての重農学派とアダム・スミスまでを中心に講ずることによって、近代市民社会の科学としての経済学の成立を解明し、又、それが、政策論や経済思想（経済倫理や市民社会の思想を含む）とどう関連しているかを明らかにしたい。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容その

ものが、テキストに該当するものであるからして、履修者は必ず出席をし、自らノートを書くこと。参考書は学生諸君の理解の補助にはなるが、いかなる通史のテキストにも一長一短はあることを忘れてほしい。参考書：

- ・内田義彦『経済学史講義』未来社、1968年（同社の復刻版もあり）または『内田義彦著作集』第2巻 岩波書店、1989年（2001年より増刷）
- ・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣、1997年
- ・早坂忠（編）『経済学史 経済学の生誕から現代まで』ミネルヴァ書房、1989年
- ・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社、1952年 又は泉文堂（16刷）

授業の計画：

1. 経済学史の課題と方法。経済学史をどこから始めるか。（2回）
2. 重商主義の経済思想（4回）
3. 重農学派とテュルギー（3回）
4. アダム・スミスの経済学（4回）

但し、各項目にわりあてられる回数や内容については、多少の変動があることを承知しておいて頂きたい。いずれにしても、経済学、とりわけスミスにおいてはじまったとみなされる古典派経済学の成立までを中心に春学期 13回を講じる。なお、学習の理解を深める上で、履修可能な人には私の担当の特殊科目「東欧・ロシア社会経済思想史 a, b (セット)」を合わせて履修することを勧めたい。

履修者へのコメント：

受講者は、以下の諸点を心掛けてください。講義への出席、講義内容を自らノートに執ること、古典文献そのもの及び参考文献を各人が独自に学習すること。社会認識上の知性を養い、主体的に自らの問題意識を形成すること。なお、同科目 b とセット科目であることを注意してください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

成績評価は原則的には春秋年 2回の期末筆記テスト又はそれに準ずるものによるが、a, b (春, 秋) セット科目なので、a, b とも合格することが合格には必要である。

- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

日常の出席状況等も考慮の対象となるが、詳しくは、履修状況をみて具体的に決める要素もあるので、履修者の確定した段階で明確にする予定である。平常点は単純に出席の数のみの問題ではなく、又、単純にパーセンテージで決めるものでもない。肝要なのは講義内容の理解の程度である。

質問・相談：

学問内容についての質問・相談は歓迎するが、評価方法等については上記の通りなので、原則的には応じられない。質問は講義終了時に教室で、用紙（自ら用意してください。）に書いて出すこと。その際、学年、クラス、氏名、学籍番号を必ず記入し、簡潔にすること。

経済学史 b (秋)

授業科目の内容：

資本制生産様式の経済法則の解明としての経済思想の歴史を、主に 17～19 世紀を中心にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界的な諸問題に資本主義の近代市民社会成立期の過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、受講者諸君とともに考えながら講義をすすめたい。経済学史 b では、とりわけ、アダム・スミスを創始者としてリカードにおいて頂点に達した、古典派経済学とりわけリカードとリカード学派が、その後、イギリス近代資本主義内部の矛盾とイギリスとより後発的なヨーロッパ大陸の資本主義との矛盾の中で、経済思想史的にどのような形で批判を生じたかを、イギリスにおけるリカード学派の分解過程、初期の社会主義経済思想、大陸とりわけ、ドイツの国民経済学や歴史学派を通じて、学説論的にも、方法論的にも解明し、更に「経済学批判」としてのマルクス『資本論』体系の性格をも明らかにしたい。それらを通じて、今日の経済学のあり方をも考えられれば有意義だと思われる。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 古典学派とその展開 アダム・スミスとデーヴィット・リカードウ（4～5回）
2. リカードウ学派とその分解過程（1回）
3. リカードウ直後のリカードウ批判 T. R. マルサスと R. ジョーンズ（1回）
4. 大陸経済学の古典派とりわけリカードウ批判 シモンド・ド・シスモンディ（1回）
5. 古典学派の最後の代表者としての J. S. ミル（1回）
6. リカードウ派社会主義と空想的社会主義（1回）
7. 経済学の国民的傾向 F. リストとドイツ歴史学派、その他の大陸の経済学（1回）

8. マルクスの「経済学批判」と『資本論』体系（2回）

9. 経済思想と今日の諸問題（1回）

但し、各項目にわりあてられる回数や内容については、多少の変動があることを承知しておいて頂きたい。なお、「経済学史 b」は a (春) の継続であり、セットである。又、履修可能な人には私の特殊科目「東欧・ロシア社会経済思想史 a, b (セット)」を合わせて履修することを勧めたい。

履修者へのコメント：

受講者は、以下の諸点を心掛けてください。講義への出席、講義内容を自らノートに執ること、古典文献、参考文献を各人が独自に学習すること。社会認識上の知性を養い、主体的に自らの問題意識を形成すること。なお、同科目 a とセット科目であることを注意してください。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

経済学史 a (春学期)

経済学史 b (秋学期)

セット履修

教授 池田幸弘

教授 中山幹夫 (秋)

経済学史 a (春)

授業科目の内容：

限界革命以降現代に至るまでの経済学の歴史的展開を講ずる。現代の経済理論についての知識は必要なので、関連科目を受講することが望ましい。

テキスト：

とくに指定しない。

参考書：

毎回授業時に指示する。

授業の計画：

おおむね以下の順序で進行するが、調整はありうるのであらかじめ了解されたい。

前期

1. 限界革命とは何か
2. メンガーの『国民経済学原理』とその理論内容
3. オーストリア学派の確立と発展
4. ワルラスの『純粹経済理論』と一般均衡理論
5. 一般均衡理論の確立と精緻化：ヒックス、サミュエルソン、ドブリュ
6. ジェボンズとイギリス古典派経済学
7. エッジワースの経済学：コアの議論を中心に

後期

1. マーシャルの経済学
2. ビグーからロビンズへ：新厚生経済学の台頭
3. ヴィクセル、ハイエク、ケインズ：ヴィクセルの学統
4. 『一般理論』の理論的意義
5. マクロ経済学のさらなる展開
6. ゲーム理論の誕生と成長：ノイマンからナッシュまで
7. 総括

履修者へのコメント：

当然ながら私語は厳禁！！

成績評価方法：

学期末の試験によるが詳細は開講時に指示する。

質問・相談：

授業時に受けるが、その他の場合はアポイントメントを担当者とつていただければ幸いです。

経済学史 b (秋)

授業科目の内容：

経済学史 a の続論。

社会思想 a (春学期)

社会思想 b (春学期)

セット履修

教授 高草木 光一

授業科目の内容：

「自由と排除」「差異と平等」「自立と協同」といった視点から、19 世紀を中心に近代社会思想を検討する。適宜ゲスト・スピーカーを招き、また映像作品を題材に用いる。以下の順序で講義する予定である。

1. 「社会思想」の射程
2. 「近代」の重層的構造
3. 啓蒙思想とフランス革命
4. 保守主義・自由主義・民主主義
5. フェミニズムとアナキズム
6. 社会主義と 1848 年革命
7. 現代社会への展望

テキスト：

使用しない。

参考書：

適宜指示する。

成績評価方法：

試験およびレポートによる評価

社会思想史 a (秋学期)

セット履修

社会思想史 b (秋学期)

教授 坂本達哉

授業科目の内容：

序. 「社会思想史」とは何か

1. 「近代 modernity」の構造
 2. 古典的共和主義とマキアヴェリ
 3. 宗教改革思想の歴史的意義
 4. ホブズにおける古典的市民社会理論の出発
 5. ロックにおける古典的市民社会理論の確立
 6. 啓蒙思想における文明社会論の展開
 7. ルソーにおける近代共和主義の確立
 8. スミスにおける経済学の成立
- 終章 ポスト・スミスの社会思想

テキスト：

とくに使用しないが、2007 年度秋学期用の講義レジュメを「慶應義塾オープンコースウェア (OCW)」からダウンロードしておくこと。

参考書：

適宜、指示する。

成績評価方法：

出席率と学期末試験の結果を総合して判定する。

日本経済史 a (春学期)

セット履修

日本経済史 b (春学期)

教授 杉山伸也

授業科目の内容：

本講義では、17 世紀の徳川幕府成立前後の時期から 1970 年代まで約 400 年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。とくに日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

この授業は、自学自習を基本とする e-learning による授業であり、原則として教室での授業は行わない。履修者は、Web 上で配信される講義を、一定の期間内に曜日あるいは時間帯を問わずに自分のスケジュールにあわせて履修し、計 3 回の試験をすべて受験する必要がある。

参考書：

- ・中村隆英『日本経済』(第 3 版) 東京大学出版会
- ・新保博『近代日本経済史』創文社
- ・梅村又次他編『日本経済史』全 8 巻、岩波書店
- ・三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧』東京大学出版会

授業の計画：

講義は、以下のテーマにそって、最近の論争も紹介しながらすすめる。なお、授業のレジュメは、ホームページあるいは「教育支援システム」内で公開する。

- (1) 日本経済史へのアプローチ：最近の研究動向
 - (2) 徳川期の経済システムと「鎖国」体制
 - (3) 徳川幕府の財政・経済政策：17～18 世紀前半期の政治と経済
 - (4) 徳川期の農業発展と商業的農業の展開
 - (5) 徳川期における市場経済化の進展
 - (6) 徳川社会の崩壊：19 世紀前半期の政治と経済
 - (7) 幕末「開港」の国際的背景と経済的影響
 - (8) 明治初期の財政・経済政策：「由利財政」から「大隈財政」へ
 - (9) 明治政府の工業化政策
 - (10) 1870 年代の政治と経済：「大隈財政」から「松方財政」へ
 - (11) 1880 年代の政治と経済：「松方財政」から「企業勃興」期へ
 - (12) 「日清戦後経営」と条約改正
 - (13) 「日露戦後経営」と国際収支の悪化
 - (14) 日清・日露戦後経営期の日本経済
 - (15) 日本の「公式」「非公式」帝国：台湾と朝鮮の植民地化
 - (16) 第一次世界大戦と日本経済
 - (17) 大震災から金融恐慌へ：1920 年代の日本経済
 - (18) 「井上財政」と世界恐慌
 - (19) 「高橋財政」と 1930 年代の日本経済
 - (20) 1930 年代後半期の日本経済：政府と民間企業
 - (21) 「準戦時体制」「戦時体制」下の日本経済
 - (22) 「戦後改革」から高度経済成長の時代へ：戦前・戦後の連続と断絶
- 履修者へのコメント：

【重要】この授業の基本的な考え方、Web 講義へのアクセスおよび履修方法などについては、4 月 14 日 (火) 1 限に説明会を開催するので、履修希望者は説明会にかならず出席し、別途登録申請をする必要がある。なお、2008 年度以前において別途登録申請をしたにもかかわらず、履修

しなかった学生の受講は基本的に認めない。併設科目になっている法学部政治学科および経済学研究科以外の他学部の受講希望者は、説明会後各自申し出ること。

講義に関して詳しくは、<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/sugiyama/> の「日本経済史」を参照。

成績評価方法：

3 回の試験の成績にもとづいて総合的に判断する (ただし、面接を課すこともある)。

質問・相談：

「教育支援システム」あるいは e-mail により受け付ける。

欧米経済史 a (春学期)

セット履修

欧米経済史 b (春学期)

教授 長谷川 淳一

授業科目の内容：

近代以降のイギリスを、とくに都市に焦点を当て、日本との比較も念頭に入れて、検討する。具体的には、第二次世界大戦中に空襲を受けた戦災都市の復興を中心的な検討課題とする。

1. 産業革命と都市化
2. 都市史研究の概観
3. 戦後復興と福祉国家
4. 戦災復興研究の意義と課題
5. ランズベリーの戦災復興
6. コヴェントリーの戦災復興
7. ポーツマスの戦災復興
8. コンセンサス・ポリティックスについて
9. 豊かな時代の改革
10. 寛容社会論
11. 近年の都市再開発
12. 東京・大阪の戦災復興
13. 地方都市の戦災復興
14. 都市計画法の制定

テキスト：

ティラッソー・松村高夫・メイソン・長谷川淳一『戦災復興の日英比較』知泉書館、2006 年

参考書：

適宜、紹介する。

授業の計画：

目安として、a にあたる当初の 13 回で上記授業科目の内容の 1～7 を、b にあたる後半の 13 回で上記授業科目の内容の 8～14 を扱う。

成績評価方法：

定期試験期間内試験の結果を中心とする。

アジア経済史 a (春学期)

セット履修

アジア経済史 b (秋学期)

教授 古田 和子

アジア経済史 a (春)

授業科目の内容：

本講義では、16 世紀から 20 世紀前半のアジアを対象にして、そこで暮らした人々の社会経済の歴史を検討する。

講義の前半は「比較」という視点を念頭において、国民国家とは異なる原理を備えていた中華世界の特徴を考察し、18 世紀に急増した巨大な人口を支えてきた中華帝国経済とは、一体どのようなタイプの経済であったのかを考える。

後半は「関係」という視点に立って、中国・日本・東南アジア・インドなどアジア諸地域間の国際経済史を検討する。アジア銀経済圏はいつ形成されたのか、国際労働力移動 (華僑・印僑) の点で長い歴史を持つアジアにはどのような域内経済関係が形成されていたのか、シンガポール、香港、上海などの諸都市はアジア経済史のなかでどのような役割を果たしていたのかなど、アジア経済史を考える上で重要なテーマを選んで考察していく。

テキスト：

テキストは用いません。

参考書：

- ・ロイド・イーストマン『中国の社会』平凡社、1996 年
- ・古田和子「中国における市場・仲介・情報」三浦徹・岸本美緒・関本照夫 (編)『比較史のアジア 所有・契約・市場・公正』東京大学出版会、2004 年
- ・上田信「山林および宗教と郷約」『地域の世界史 10 人と人の地域史』山川出版社、1997 年
- ・宮嶋博史「東アジア小農社会の形成」『アジアから考える 6 長期社会変動』東京大学出版会、1994 年 など

授業の計画：

1. なぜ、アジア経済史なのか
2. アジア観の変遷 (1)
3. アジア観の変遷 (2)
4. 世界帝国 vs. 国民国家

5. 中華帝国とは
6. 人口の長期変動
7. 移住・開発・環境
8. 食糧と農業生産
9. 小農経済論
10. 貨幣制度
11. 手工業の展開
12. 地域と国家
13. 市場・仲介・情報

履修者へのコメント：

初回の授業で具体的な計画を示します。

成績評価方法：

試験を行います。

アジア経済史 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

テキストは使いません。

参考書：

- ・岸本美緒『東アジアの「近世」』山川出版社, 1998年
- ・浜下武志『近代中国の国際的契機』東京大学出版会, 1990年
- ・古田和子『上海ネットワークと近代東アジア』東京大学出版会, 2000年
- ・杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房, 1996年

授業の計画：

1. 東アジア銀経済と国際交易ブーム
2. アジア三角貿易
3. 東アジアの開港
4. 中華世界周辺部の変容
5. 上海ネットワーク
6. 境域の経済秩序 中国・朝鮮・日本
7. 境域の経済秩序と通貨圏の選択
8. アジア国際分業体制の形成
9. 南・東南アジアにおける植民地経済
10. 東南アジア経済をどう見るか
11. 労働力移動と送金のネットワーク
12. 両大戦間期のアジア経済
13. まとめ

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

工業経済論 a (春学期)

工業経済論 b (秋学期)

教授 植田 浩 史 (春)

教授 渡 邊 幸 男 (秋)

工業経済論 a (春)

授業科目の内容：

日本の工業を中心に、工業を構造的に把握するための視点の検討と工業の現状について検討する。

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

- 第1部 工業経済把握のために(3回)
- 第2部 日本の工業の現状(8回)
- 第3部 日本の工業の課題(2回)

成績評価方法：

試験の結果による評価(小テスト含む)

工業経済論 b (秋)

授業科目の内容：

本講義は、工業の経済学的諸課題について、日本の工業を題材に、いくつかの観点から議論していくことを中心としている。その第1は、戦後日本工業の国内完結性の確認と、1990年代以降のその解体・東アジア化の把握である。第2は、日本を含め、多くの先進工業国で、大小様々な企業の存在と、その広範な社会的分業が存在していることの論理の把握である。規模の経済性が働く中で、何故多様な企業の社会的分業が存在するのか、論理的に提示する。第3は、日本の企業間取引関係の主要特徴といわれる下請系列取引関係についてである。独自の取引関係であるとともに、日本工業の急速な成長を可能にした重要な関係として、下請系列取引関係とは何かを把握することは、工業経済を考えるうえで意味のあることと考える。第4は、産業集積の問題である。企業は個々ばらばらに存在しているのではなく、一定の産業集積を構築することで、外部経済性を実現し、一般的立地条件が悪化した地域に多く立地し、競争力を保

持している。この産業集積の論理を論じる。第5は、2000年代に入っても激しい構造変化をしている日本国内生業の展望を、上記の議論を踏まえながら論じることである。以上の5つのテーマを中心に論じ、講義出席者の工業分野での経済現象を理解する能力を高めることができれば、本講義の目的が達成されたといえることができる。

テキスト：

なし

参考書：

- ・渡辺幸男『日本機械工業の社会的分業構造 階層構造・産業集積から下請制把握』有斐閣, 1997年
 - ・渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫『21世紀中小企業論 新版 多様性と可能性を探る』有斐閣, 2006年
 - ・渡辺幸男編著『日本と東アジアの産業集積研究』同友館, 2007年
- 授業の計画：

- 1. 国内完結型とは 社会的分業構造分析
2. 社会的分業の論理
3. 大企業と中小企業の共存の実態
4. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理 1 内製と外製 垂直的統合 機会主義と取引コスト
5. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理 2 下請系列関係の形成
6. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理 3 下請系列関係の解体
7. 産業集積と地域間分業 1 産業集積の論理
8. 産業集積と地域間分業 2 京浜地域の産業集積
9. 産業集積と地域間分業 3 企業城下町型 日立の例 地場産業型 燕, 五泉・見附の例
10. 産業集積と地域間分業 4 産業集積のあり方の変化 広域的集積 集積機能多層的広域化 日本工業の構造変化
11. 国内完結型から東アジア化 1 「産業空洞化」論をどうみるか
12. 国内完結型から東アジア化 2 中国工業の発展の状況
13. 国内完結型から東アジア化 3 東アジア大の地域分業生産体制と日本国内製造業の展望

成績評価方法：

- ・試験の成績(A) 10点満点で評価,
 - ・出席点の評価(B) 6割以上出席者(出席には遅刻を含まない)のみ段階的に評価, 6割未満は0点, 皆出席の場合は2点,
- 評点の計算方法 $A * 0.9 + B =$ 総合点
- 評点 総合点 4点未満 D, 4点以上6点未満 C, 6点以上8点未満 B, 8点以上 A

質問・相談：

メールで問い合わせること。メールアドレスは、watanabe@econ.keio.ac.jp である。

産業組織論 a (春学期)

産業組織論 b (秋学期)

セット履修

准教授 石橋 孝次 (春)

教授 飯塚 敏晃 (秋)

産業組織論 a (春)

授業科目の内容：

産業組織論 (Industrial Organization) とは主として企業を対象にしながら不完全競争市場の分析を行う学問で、「企業と市場の経済学」とでも表現すべきものである。かつては広い意味でのミクロ経済学のニッチな分野という性格が強かったが、この数十年間に理論分析も実証分析も大きく進展し、現在では体系化された学問として経済学のさまざまな分野に適用されている。この科目は、現代的な産業組織論の入門的な理解を目的とする。

テキスト：

指定しない。

参考書：

- ・Cabral, *Introduction to Industrial Organization*, MIT Press, 2000
- ・Carlton and Perloff, *Modern Industrial Organization*, (4th ed.) Addison-Wesley, 2004
- ・Church and Ware, *Industrial Organization: A Strategic Approach*, McGraw-Hill, 2000
- ・Motta, *Competition Policy: Theory and Practice*, Cambridge Univ. Press, 2004
- ・Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT Press, 1988
- ・小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣, 2001年
- ・長岡貞男・平尾由紀子『産業組織の経済学』日本評論社, 1998年

- ・丸山雅祥『経営の経済学』有斐閣, 2005年
- ・ギボンズ(福岡・須田訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995年

授業の計画:

1. 産業組織の目的と方法
2. ミクロ経済学の基礎
3. 企業組織
4. 独占と規制
5. 完全競争と独占的競争
6. ゲーム理論の基礎
7. 寡占競争 (ベルトラン・モデル)
8. 寡占競争 (クールノー・モデル)
9. カルテルと暗黙の共謀
10. カルテルと暗黙の共謀
11. 市場構造と市場支配力
12. 価格差別
13. 垂直的取引制限

履修者へのコメント:

「ミクロ経済学初級」の知識は前提とする。

成績評価方法:

期末試験 100%

質問・相談:

毎回の授業の後に受け付ける。

産業組織論 b (秋)

授業科目の内容:

春学期同様、現代的な産業組織論の入門的な理解を目的とする。加えて、産業組織論の医療分野への応用(英語で Industrial Organization of Health Care と呼ばれる分野)にも力点を置き議論する。

テキスト:

指定しない。

参考書:

春学期参照。その他必要に応じて指定する。

授業の計画:

1. 製品差別化
2. 情報の非対称性
3. 情報公開, 広告
4. インセンティブとエージェンシー
5. 参入コストと市場構造
6. 戦略的行動と参入・退出
7. 企業結合
8. 研究開発競争と特許
9. ネットワークと標準
10. 医療分野への応用

履修者へのコメント:

「ミクロ経済学初級」の知識は前提とする。

成績評価方法:

期末試験 100%

質問・相談:

毎回の授業の後に受け付ける。

労働経済論 a (春学期)

セット履修

労働経済論 b (秋学期)

教授 赤林 英夫(春)

教授 太田 聡一(秋)

労働経済論 a (春)

授業科目の内容:

労働経済論では、雇用、労働時間、賃金格差、昇進、などの、職業人生にとって重要な要素が市場でどのように決まるのか、これらに関わる政策にはどのような意義があるのか、経済理論と統計分析を利用して理解する。さらに、近年の労働経済学は、家庭や教育などを含め、およそ個人の一生に関わるすべてを包含する理論と実証分析を展開しつつある。その意味で、労働経済論を学ぶことは、容易にとらえることのできない「個人」を分析対象としながら、我々自身が日々何を求めて働き、生きているのかを振り返るといって、きわめてリアルな作業でもある。そのような視点から、本講義では、労働経済学の標準的な内容を概観し、経済理論と現実の労働市場、そして政策との関わりを考察する。

春学期では、労働者の主体的行動に重点を置きながら、賃金格差の決定要因について、その主たる要素を議論する。

テキスト:

なし

参考書:

参考文献については講義中に指示する。

授業の計画:

- ・労働経済の基礎: 労働の需要と供給
- ・労働供給: 静学モデル, 家事労働モデル

- ・教育と訓練: 人的資本, シグナリング, 企業内訓練

- ・賃金格差: 差別, 補償賃金, 賃金関数

- ・労働移動: トダロモデル

履修者へのコメント:

日吉のミクロ経済学初級, マクロ経済学初級, 統計学の知識を前提とします。

成績評価方法:

学期末試験の結果による評価

質問・相談:

講義に関する質問は、講義の前後で受け付ける。また、Eメールの連絡も受け付ける(アドレスについては初回講義時に発表する)。

労働経済論 b (秋)

授業科目の内容:

春学期につづいて標準的な労働経済学の内容を講義する。ここから議論のウェイトは、企業による労働需要、企業内労働市場の諸問題、失業問題などに移していく。

テキスト:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

- ・労働需要: 静学モデル, 動学モデル(雇用調整速度)
- ・最低賃金, 解雇規制などの応用トピック
- ・雇用契約, インセンティブ, 昇進
- ・失業と企業および労働者のサーチ活動

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

社会政策論 a (春学期)

セット履修

社会政策論 b (秋学期)

准教授 山田 篤裕(春)

教授 駒村 康平(秋)

授業科目の内容:

人口減少・少子高齢社会のなか、労働政策と社会保障を包摂する社会政策の重要性は益々大きくなっています。

社会政策論 a (春学期)では、社会政策の存在理由に関する経済理論を学んだ上、個別制度として労働政策(労働保険を含む)と低所得者対策(生活保護制度等)を取り上げ、現行制度の歴史と体系、現行制度が抱える問題点、最近の改革動向について学びます。

社会政策論 b (秋学期)では、春学期に引き続き、年金・医療・介護・福祉など社会保障制度を中心に取り上げ、春学期と同様に から について学びます。

テキスト:

駒村康平(最新改訂版)『福祉の総合政策』創成社

参考書:

- ・ニコラス・パー(菅沼隆監訳)『福祉の経済学』光生館, 2007年
- ・国立社会保障・人口問題研究所編『社会保障制度改革 日本と諸外国の選択』東京大学出版会, 2005年
- ・城戸喜子, 駒村康平編『社会保障の新たな制度設計 セーフティ・ネットからスプリング・ボードへ』慶應義塾大学出版会, 2005年
- ・厚生労働省『厚生労働白書』

授業の計画:

春学期(社会政策論 a)

社会政策の理論

社会政策概略史(社会保障成立までの史的展開)

労働政策(労働基準・最低賃金・労働組合)

労働保険(雇用保険と労働者災害補償保険)

貧困と不平等の概念と測定(所得保障の評価方法)

生活保護制度

秋学期(社会政策論 b)

年金制度(歴史と制度, 財政問題, 2004年改革)

医療保障制度(歴史と制度, 財政問題と政策動向, 2006年改革)

介護保険制度

履修者へのコメント:

本講義の目的は以下の2点です。

社会保障制度および労働政策を学ぶ機会はきわめて限られています。履修者は、負担者あるいは受給者として、各制度の仕組みを理解してください。

社会保障制度および労働政策の改革が急速に行われています。受講者は各制度の在り方、問題、改革について有権者として自分で評価・判断できるようになってください。

なお、障害者福祉、児童福祉など社会保障の福祉政策分野については

秋学期開講の「社会福祉論」を履修して下さい。

成績評価方法：

出席、レポート、各学期末試験

質問・相談：

個別の質問・相談にかんしては毎回講義の最後に時間を設けます。

経済政策論 a (春学期)

経済政策論 b (秋学期)

教授 大村 達 弥

経済政策論 a (春)

授業科目の内容：

経済政策を学ぶ上で必要な基礎理論として、教科書に基づき、経済システム、厚生経済学の基礎、情報の経済学、市場と政府の役割論の各分野から必要な理論をかいつままで講義する。また、実際の経済政策問題に関しあらかじめ研究課題を指定し、期末試験問題の一部として出題する。

テキスト：

拙著『経済政策 ミクロとマクロの基礎理論』慶應義塾大学出版会

参考書：

講義の進行に合わせて、授業中に指示する。

授業の計画：

イントロダクション [1]

経済システムと経済政策 [2]

厚生経済学の基礎 (社会的選択, 効率と公正) [5]

情報の経済学 (情報の非対称性) [3]

市場と政府の役割 (市場の失敗, 政府の失敗と公共選択) [2]

[] 内の数字はコマ数

成績評価方法：

期末試験の結果による評価

質問・相談：

授業時間外はメールで受け付ける。

経済政策論 b (秋)

授業科目の内容：

経済政策論 a に引き続き、経済政策を学ぶ上で必要な基礎理論として、公共財、独占と競争、政策目的と手段、時間的整合性等に関する理論をかいつままで講義する。後半では、実際の経済政策問題の例として構造改革政策を取り上げる。さらに、あらかじめ研究課題を指定し、期末試験問題の一部として出題する

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

基礎理論編

公共財 [3]

独占と競争 [2]

政策目的と手段 [2]

時間的整合性 [1]

日本の経済政策編

構造改革政策論 (金融・財政等) [5]

[] 内の数字はコマ数

履修者へのコメント：

経済政策論 a を学習していることを前提とする

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

財政論 a (春学期)

財政論 b (秋学期)

教授 山田 太 門

財政論 a (春)

授業科目の内容：

財政学の基礎的理論を解説する。財政学は経済学に劣らぬ歴史をもつが、公共経済学における公共部門の分析に相当する部分と、政治経済学的部分とを有している。そこでこの講義においては、公共財の理論から出発して、政府の予算制度や社会保障制度を種々の経済理論を用いて説明する。

テキスト：

貝塚啓明『財政学』東京大学出版会

参考書：

・小塩隆士『コア・テキスト財政学』新世社

・山田太門『公共経済学』(日経文庫)日本経済新聞社

授業の計画：

1. 財政学の学説史

2. 公共財の理論

3. 公共選択論の意義

4. 予算制度と歳入

5. 税負担と歳入

6. 社会保障制度

以上の項目を2~3回の講義を行う予定。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

各授業の終了時に質問を受ける。

財政論 b (秋)

授業科目の内容：

財政学の最も重要な部分である税制を中心に政府の財政活動を解説する。またこれに付随して国債の問題や政府のマクロ経済政策についても説明する。これらの講義を通して政府の経済活動を市場経済の中でどう評価すべきかを検討する予定である。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 租税制度のあり方

2. 所得税とは何か

3. 法人税と消費税

4. 国債の費用負担論

5. マクロ経済政策について

6. 大きい政府か小さい政府か

以上の項目について2~3回の講義を行う予定。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

金融論 a (春学期)

教授 吉野 直行

授業科目の内容：

日本の資金循環、各経済主体の金融活動、資産価格の変動、債券市場・株式市場、為替レートの動きについて、制度・データなどを用いた計量的な観点から概説する。

テキスト：

特になし

参考書：

・吉野直行・高月昭年『入門・金融 第2版』有斐閣

・吉野直行・藤田康範・土居丈朗『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会

・吉野直行・渡辺幸男『中小企業金融と日本経済』慶應義塾大学出版会

・吉野直行『信託・証券化ファイナンス』慶應義塾大学出版会

その他の参考文献は、講義の中で説明する。

授業の計画：

主な講義内容は以下の通りである。

(1) 日本の資金循環の変遷と日本経済の動き

(2) 金融機関の種類とその役割

(3) 家計の金融行動 (マクロ経済学のマクロ的基礎)

(4) 企業の金融行動 (")

(5) 政府の国債発行による金融活動

(6) 銀行貸出と銀行行動

(7) 中小企業金融

(8) 債券市場・株式市場

(9) 為替レートの決定とアジア通貨危機

(10) 固定相場制・変動相場制・バスケット通貨制

(11) 金融政策手段

(12) 金利コントロールとインフレ目標

(13) サプライムローン問題とパブルの要因

以上が主な内容である。2回ほど、外国人のゲスト・スピーカーの講義を含める予定。

履修者へのコメント：

春学期・秋学期の両方を履修することが望ましい。

成績評価方法：

・講義の中で何回か小テストを実施する予定

・学期末試験と小テストの結果により成績評価を行う。

質問・相談：

講義の最後に質問を受け付ける。

授業科目の内容 :

金融現象の基本的な性質を踏まえ、貨幣需要の定式化、金融派生商品や外国為替を含む金融資産価格の決定、マクロ経済モデルによる金融政策の効果などについて、主として理論的な観点から概説する。

テキスト :

塩澤『現代金融論』創文社、2002年

参考書 :

適宜指示する。

授業の計画 :

1. 金融現象の基本構造
2. 貨幣需要のマクロ的定式化
3. 貨幣需要のミクロ的基礎
4. 債券価格と利子率
5. 株式価格
6. 効率的証券市場と金融契約
7. IS-LM 分析と金融政策
8. 総需要・総供給関数
9. インフレ需要・インフレ供給関数と合理的期待
10. 為替レートの決定
11. 開放マクロ経済学と金融政策
12. 金融派生商品の一般的特質
13. 金融派生商品の価格決定

履修者へのコメント :

ミクロ経済学、マクロ経済学の基礎があることが望ましい。経済学部と法学部等の学生には異なる評価基準を適用する。

成績評価方法 :

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点 (出席状況および授業態度) による評価
- 授業中の問題演習の結果を加味する。

質問・相談 :

毎回、講義後に質問・相談の時間をとる

日本経済システム論 a (春学期)

日本経済システム論 b (秋学期)

教授 池尾和人

日本経済システム論 a (春)

授業科目の内容 :

日本の経済システムの制度的特質を、民間の企業システムと政府・企業間関係のあり方を中心に講述する。最初には、そのために必要な経済理論の基礎を解説する。

テキスト :

特になし (毎回の講義の際にレジュメを配布する)

参考書 :

池尾和人『開発主義の暴走と保身』NTT 出版、2006年

授業の計画 :

- ・経済学的準備
 1. 分析視角
 2. リスク・シェアリング
 3. 契約と誘因両立性
 4. 企業の理論
- ・日本の企業システム
 5. 日本の企業組織
 6. 日本的雇用慣行
 7. 日本的生産システム
 8. 系列と長期取引
 9. 株式持ち合い
 10. メイン・バンク制
- ・政府・企業間関係
 11. 市場と政府活動
 12. 日本の政策決定過程
 - (13. 予備)

成績評価方法 :

成績の評価は、学期末に試験を実施し、その得点による。出席点はとくに考慮しない。

日本経済システム論 b (秋)

授業科目の内容 :

日本の経済システムの抱える政策的課題を、制度面とマクロ面にわたって現代経済学の立場から考察する。関連する経済学的知識の復習も含む。

テキスト :

春学期参照

参考書 :

春学期参照

授業の計画 :

- ・市場経済の制度的基盤
 1. 春学期の復習
 2. 税制と制度間競争
 3. 格差とセーフティネット
 4. 金融・資本市場
- ・マクロ経済学の復習
 5. マクロ経済学の新展開
 6. 新しい経済成長論
- ・日本経済のマクロ的諸側面
 7. 貯蓄行動
 8. 投資行動
 9. 財政赤字
 10. 経常収支
 11. 金融政策
- ・エビローク
 12. 日本経済の課題
 - (13. 予備)

成績評価方法 :

春学期参照

現代日本経済論 a (春学期)

セット履修

現代日本経済論 b (秋学期)

教授 北村洋基

現代日本経済論 a (春)

授業科目の内容 :

1970年代以降現在までの日本経済の展開を跡づけるとともに、それぞれの時代の評価、別の選択肢の可能性についても検討する。最後に、日本経済の課題と展望を考察する。現代日本経済論 a では、1980年代末までを扱う。

テキスト :

北村洋基『岐路に立つ日本経済』大月書店

参考書 :

適宜指示する。

授業の計画 :

- はじめに
- 第 1 章 日本をとりまく内外の環境変化 1970 年代
 - 第 2 章 1970 年代の危機と日本の対応
 - 第 3 章 1980 年代前半の日本経済
 - 第 4 章 1980 年代後半の日本経済

成績評価方法 :

- ・試験の結果による評価
- ・平常点 (出席状況および授業態度) による評価

現代日本経済論 b (秋)

授業科目の内容 :

1970年代以降現在までの日本経済の展開を跡づけるとともに、それぞれの時代の評価、別の選択肢の可能性についても検討する。最後に、日本経済の課題と展望を考察する。現代日本経済論 b では、1990年代以降を扱う。

テキスト :

春学期参照

参考書 :

春学期参照

授業の計画 :

- 第 5 章 平成不況第 1 局面 (1990 年代初頭 97 年春)
- 第 6 章 平成不況第 2 局面 (1997 年春 2000 年末)
- 第 7 章 平成不況第 3 局面 (2001 年 04 年度末)
- 第 8 章 日本資本主義の新段階と課題

成績評価方法 :

春学期参照

日本資本主義発達史 a (春学期)

セット履修

日本資本主義発達史 b (春学期)

教授 植田浩史

授業科目の内容 :

この講義では、日本における資本主義、経済システム、産業システムの展開について、他の先進国や中進国、後進国と比較しながら検討し、その特徴と構造について考察する。時期的には、幕末・開港期から現在までを対象とする。講義では、マクロ的な視点と同時に、個別の産業、企業、地域などを対象にしたミクロ的なデータも用いながら進める。

授業の計画 :

- 序章 日本資本主義発達史の課題と方法 (1 回)
- 1 章 多様な資本主義発展と資本主義タイプ (2 回)

- 2章 「日本型資本主義」とは何か(3回)
- 3章 日本資本主義の生成:19世紀末~20世紀初(2回)
- 4章 日本資本主義の発展(1):20世紀初~1945(3回)
- 5章 日本資本主義の発展(2):1945~高度成長期(5回)
- 6章 日本資本主義の発展(3):1970年代~1985(4回)
- 7章 日本資本主義の転機:1985~21世紀初頭(5回)
- 終章 日本資本主義発達史の総括(1回)

履修者へのコメント:

「日本経済史」や「現代日本経済論」も合わせて履修すると、一層理解が深まる。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

質問・相談:

2ヶ月に一度、質問カードを配布し、質問を直接受け付けるようにする。

現代資本主義論 a(春学期)

現代資本主義論 b(秋学期)

教授 渡邊 幸男

現代資本主義論 a(春)

授業科目の内容:

現代資本主義の段階的諸特徴と再生産を、マルクス経済学の立場からどのように把握するか、これを資本主義を資本主義たらしめている「資本」の運動を基礎に明らかにし、学生諸君に現代資本主義理解の基本を学んでもらうのが、本講義の目的である。現代資本主義は、資本主義であると同時に、競争段階の資本主義とは大きく異なり、主導的な資本は独占資本であり、かつ、国家の全面的介入が行われている国家独占資本主義である。この国家独占資本主義の枠組みを出発点とし、諸資本が国境を越え、グローバルに展開している段階、これが現代資本主義といえる。それゆえ、本講義では、資本とは何かを出発点として、資本主義の段階的な変化と、現代の到達点としての資本主義の状況を示していきたい。また、本講義の特徴は、今生じている資本主義の大きな変化を、マルクス経済学の視点から、出席している諸君とともに考えていくことにもある。そのために、日経や FT の記事を紹介しながら、私の見解を述べ、出席している学生諸君に現代資本主義の再生産を考える手がかりを与えるようにするつもりである。

テキスト:

なし

参考書:

北原勇・鶴田満彦・本間要一郎編『資本論体系 10 現代資本主義』有斐閣、2001年

- うち 第 章 『資本論』体系と現代資本主義分析の方法
- 第 章 独占資本主義
- 第 章 独占段階における資本主義経済の動態
- 第 章 国家独占資本主義の理論
- 第 章 現代資本主義の展開

授業の計画:

1. 現代資本主義論の対象 本講義の基本的フレームワークと現実問題
現代資本主義の経済的基礎理論
2. 段階的把握,集積・集中と市場支配
3. 資本主義の拡大再生産
4. 独占資本主義における停滞基調 過剰の慢性化
5. 新生産部門と対外膨張 急激な発展局面の可能性
戦後資本主義をどう見るか
6. 国家独占資本主義論の諸論
7. 北原勇の国家独占資本主義論
8. IMF・GATT 体制と冷戦
9. 冷戦の終焉と 90 年代米経済の発展
現代資本主義の諸側面
10. 90 年代の IT 革新と新生産部門形成の意義 中小企業の時代?
11. 東アジア化の意義・東アジアの発展 斜めの膨張による世界経済の発展
12. 21 世紀資本主義における日本資本主義の位置 2000 年代日本経済の状況把握
13. 21 世紀資本主義 破壊と発展 破壊ゆえに発展しうる体制を受容すべきか

履修者へのコメント:

(a) と (b) の双方を履修することで、現代資本主義への理解が、より深まると考えている。

成績評価方法:

(a)(b) 共、下記の要領に従って評価する。

- ・試験の成績(A) 10 点満点で評価,
 - ・出席点の評価(B) 6 割以上出席者のみ段階的に評価, 6 割未満は 0 点, 皆出席の場合は 2 点,
- 評点の計算方法 $A * 0.9 + B =$ 総合点
 評点 総合点 4 点未満 D, 4 点以上 6 点未満 C, 6 点以

上 8 点未満 B, 8 点以上 A

質問・相談:

メールで問い合わせること。メールアドレスは、watanabe@econ.keio.ac.jp である。

現代資本主義論 b(秋)

授業科目の内容:

(a) では現代資本主義の段階的諸特徴と再生産を軸に現代資本主義の特徴を講義するのに対し、秋学期には、現代資本主義を構成し、それを主導する「個別資本」について明らかにしていく。競争段階の資本の多くと異なり、現代の巨大資本は株式会社形態をとり、所有と支配が分離し、そのことが「個別資本」の存在形態と行動に大きな影響を与えている。本講義では、この巨大株式会社の所有と支配そして行動をどのように把握すべきかについて講義する。その上で、同時に現代の資本としても、依然として多数派を占める「個別資本」、中小企業の多くがそうである所有と支配が自然人の資本家に体现されている資本の、現代における存在形態と意味を考える。

テキスト:

春学期参照

参考書:

- ・北原勇『現代資本主義における所有と決定』岩波書店、1984年
- ・A. Saxenian, *Regional Advantage Culture and Competition in Silicon Valley and Route 128*, Harvard Univ. Press, 1994
(A. サクセニアン『現代の二都物語』講談社、1995年)
- ・渡辺幸男『日本機械工業の社会的分業構造 階層構造・産業集積から下請制把握』有斐閣、1997年
- ・渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫『21世紀中小企業論 新版 多様性と可能性を探る』有斐閣、2006年

授業の計画:

1. 資本主義における資本とは
現代の巨大企業の所有構造
2. 日本の巨大企業の所有構造
3. 主要国の巨大企業の所有構造
巨大企業の所有構造と企業行動について
4. 論点 1 日本での相互持ち合いの意味
5. 論点 2 所有と支配の分離, 会社自体の所有
6. 論点 3 ヴォーダフォンによる敵対的買収の成功とその意味
7. 論点 4 機関投資家による所有と M&A, 企業行動
現代の中小企業 大いなる期待と実態
8. 日本の中小企業・ベンチャー
9. シリコンバレーとは
10. 中小企業・ベンチャーをどのように把握するか
11. 産業集積論の復権
12. 中小企業の可能性と限定
巨大企業と中小企業
13. 現代の資本とは 現代資本主義における大企業と中小企業の位置づけ

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

経済体制論 a(春学期)

セット履修

経済体制論 b(秋学期)

准教授 駒形 哲哉

経済体制論 a(春)

授業科目の内容:

計画経済から市場経済への転換がヤマ場を迎えている中国を事例に、建国以来、国民経済の再生産構造がなぜどのように変化してきたのかについて講義を行う。国民経済の再生産構造の検討は「工業化」の検討と表裏一体の関係にあり、本講義のテーマは「中国の工業化」であるといってもよい。中国が「世界の工場」(世界の生産現場)といわれるようになってすでに数年がたち、なお、工業生産において世界を揺るがす影響力を増していることに鑑み、前年度までとは講義内容をほぼ一新して、このようなテーマを掲げることにした。具体的には、工業力形成の戦略とプロセス、工業力の主体、工業力の源泉(生産要素)という 3本の柱を立て、開発経済としての共通性と中国のもつ固有性を具体的に論じていく予定である。

なお、本講義は春(a)秋(b)セット履修科目であり、片方だけの履修は認めない。

テキスト:

必要に応じて講義資料を配布する。

参考書:

必要に応じて紹介する。

授業の計画：

- 第1回 講義の趣旨と背景説明
- 第2回 ビデオ（建国から社会主義市場経済まで）
- 第3回 中国工業化論の視角
- 第4回 中国工業化論の視角
- 第5回 工業化と政治・国際関係
- 第6回 工業化と政治・国際関係
- 第7回 工業化と政治・国際関係
- 第8回 授業内レポート
- 第9回 開発戦略
- 第10回 開発戦略
- 第11回 開発戦略
- 第12回 開発戦略
- 第13回 予備

履修者へのコメント：

講義を妨げ、他の履修者に迷惑をかける者には厳しい措置をとる。

成績評価方法：

授業内レポート（ ）と期末筆記試験（ ）により決定する。履修者数によっては出席等（ ）を成績に加味する場合もある。

経済体制論 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- 第1回 国有企業の役割
- 第2回 国有企業の役割
- 第3回 外資系企業の役割
- 第4回 外資系企業の役割
- 第5回 民間企業と産業集積
- 第6回 民間企業と産業集積
- 第7回 授業内レポート
- 第8回 技術移転と中国的な技術革新
- 第9回 技術移転と中国的な技術革新
- 第10回 労働市場と中国の労働現場
- 第11回 工業化と教育・ジェンダー
- 第12回 工業化と資金（金融）
- 第13回 総括

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

国際貿易論 a (春学期)

国際貿易論 b (秋学期) 教授 木村 福成

国際貿易論 a (春)

授業科目の内容：

国際貿易論は、貿易パターンの決定要因を分析する国際分業論と政策や社会的厚生を講論する貿易政策論という2つの部分から成っているが、本講義では、最先端の理論・実証研究・政策研究の動向を踏まえつつ、両者の基礎を学ぶ。

- (a) 国際分業論
- (b) 貿易政策論

テキスト：

木村福成『国際経済学入門』日本評論社、2000年

参考書：

第1回の講義の際に詳細を配布する。

授業の計画：

おおよそ次のような順序で講義を進める予定である。

- 序
- 1. 国際貿易パターン決定の理論
 - (1) 国際貿易モデルの構造
 - (2) リカード・モデル
 - (3) ヘクシャー=オリーン・モデル
 - (4) 特殊要素モデル
 - (5) 国際間生産要素移動
 - (6) 「新」国際貿易理論

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

電子メール (fkimura@econ.keio.ac.jp) にて質問・相談を受け付ける。

国際貿易論 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

おおよそ次のような順序で講義を進める予定である。

- 2. 国際貿易の厚生効果と貿易政策
 - (1) 完全競争下の貿易政策の厚生効果
 - (2) 市場の歪み理論
 - (3) 規模の経済性・不完全競争と戦略的貿易政策
 - (4) 貿易政策と政治経済学

さらに時間があれば、国際貿易と経済成長、企業活動の国際化と国際経済、為替変動と国際貿易などのトピックの一部もカバーしたい。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

国際金融論 a (秋学期)

国際金融論 b (秋学期) 教授 大垣 昌夫

国際金融論 a (秋)

授業科目の内容：

本講義では外国為替レートの決定理論以外の国際金融と国際マクロ経済学の基本を幅広く解説する。国際収支、国際金融システム、変動相場制度、国際協調政策、最適通貨圏、国際資本市場、開発途上国の成長と金融危機と改革などについて説明する。テキストの12章と18-22章を使用する予定。

テキスト：

クルーグマン『国際経済学』エコノミスト社

参考書：

Krugman and Obstfeld, *International Economics 8th Ed.*

授業の計画：

- 1. 国際収支。
- 2. 国際金融システム 1870-1973。
- 3. 変動相場制下の国際マクロ政策と国際協調。
- 4. 最適通貨圏とヨーロッパ。
- 5. 国際資本市場。
- 6. 開発途上国の成長、金融危機、改革。

履修者へのコメント：

本講義では国際経済学で用いられる経済概念の理解を重視します。担当教員の教育理念は聖書の教えに基づいており、教授はクラスのリーダーであるから、学生の勉学のために、しもべとして仕えることが役割と考えます。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・その他（宿題による評価）

質問・相談：

オフィス・アワーを設け、メールによる質問も受け付ける。

国際金融論 b (秋)

授業科目の内容：

本講義では外国為替レートの決定理論を中心に解説する。金利平価の理論と長期での購買力平価、貨幣の流動性選好の理論などに基づいて、為替レートの短期での大きな変動を説明するドーンブッシュのオーバー・シュート・モデルをグラフによる分析によって説明する。テキストの13-17章を使用する予定。

テキスト：

国際金融論 a 参照

参考書：

国際金融論 a 参照

授業の計画：

- 1. 為替レートとアセット・アプローチ。
- 2. 貨幣、利子率、と為替レート。
- 3. 価格レベルと長期の為替レート。
- 4. 短期での国内総生産と為替レート。
- 5. 固定相場制。

授業の進捗状況により、授業内容の多少の変更の可能性もある。

履修者へのコメント：

本講義ではグラフを用いてさまざまな分析をすることを重視します。担当教員の教育理念は聖書の教えに基づいており、教授はクラスのリー

ダーであるから、学生の勉学のために、しもべとして仕えることが役割と考えます。

成績評価方法：

国際金融論 a 参照

質問・相談：

国際金融論 a 参照

経済発展論 a (春学期)
経済発展論 b (秋学期)

准教授 秋 山 裕

経済発展論 a (春)

授業科目の内容：

人類はその長い歴史を通じて、より高い経済水準とより近代化した社会を実現するための努力を続けてきました。経済発展は経済活動の究極の目的です。経済発展をいかにして達成するかは、経済学にとって基本的な課題です。経済発展とはいかなる現象なのか、また、経済発展を促進するために、私達は何をすべきなのかという「課題」を、「経済理論」「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

講義は、様々な課題を考えるための理論の解説、日本およびアジア諸国を中心とした国々でのその理論の実証、その理論を用いた政策の検討を行っていきます。

経済発展論 a ではマクロレベルの分析が中心になります。(経済発展論 b では、産業レベルの分析が中心になります。)

また、履修者には試験のみならず、レポートも課されます。レポートをこなすことによって、現実の経済問題を考え、理論および統計を用いて実際に分析する力を養います。

テキスト：

秋山裕『経済発展論入門』東洋経済新報社、1999年

参考書：

個別テーマの参考文献は講義時に指示します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 経済発展とは
3. 経済発展の指標
4. 経済発展の観察 (その1)
5. 経済発展の観察 (その2)
6. 古典派の経済発展観
7. 経済発展段階説、貧困の悪循環
8. ハロッド=ドーマー・モデル
9. 新古典派成長モデルによる成長要因分析
10. 新古典派成長モデルの特徴
11. 最適成長理論
12. 内生的成長理論
13. 総括

履修者へのコメント：

講義は、担当者および履修者の協力によってより良いものとなっていきます。したがって、「講義は欠席しない」という意思のある人のみ履修してください。また、レポートは、MS Excel を利用した演習を伴いますので、表計算ソフトの基本操作を習得している人、あるいはそれを習得しようとする意思のある人のみ履修してください。

2008年度以前のクラスの概要などについては、担当者 Web ページ <http://web.econ.keio.ac.jp/staff/akiyama/> にて見ることができます。

また、履修にあたっては、経済発展論 b と併せて履修することを強く勧めます。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・その他(講義内演習)

質問・相談：

履修者の質問に答えるため、週 1 回のオフィスアワーを設置します。時間および場所については第 1 回目の講義にて指示します。

経済発展論 b (秋)

授業科目の内容：

人類はその長い歴史を通じて、より高い経済水準とより近代化した社会を実現するための努力を続けてきました。経済発展は経済活動の究極の目的です。経済発展をいかにして達成するかは、経済学にとって基本的な課題です。経済発展とはいかなる現象なのか、また、経済発展を促進するために、私達は何をすべきなのかという「課題」を、「経済理論」「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

講義は、様々な課題を考えるための理論の解説、日本およびアジア諸国を中心とした国々でのその理論の実証、その理論を用いた政策の検討を行っていきます。

経済発展論 b では産業レベルの分析が中心となります。(経済発展論 a では、マクロレベルの分析が中心になります。)

また、履修者には試験のみならず、レポートも課されます。レポート

をこなすことによって、現実の経済問題を考え、理論および統計を用いて実際に分析する力を養います。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 2 部門経済発展理論 (その1)
2. 2 部門経済発展理論 (その2)
3. 2 部門経済発展理論 (その3)
4. 3 部門経済発展理論
5. 産業の技術特性
6. 産業連関表
7. 産業連関分析 (その1)
8. 産業連関分析 (その2)
9. 産業構造変化の決定メカニズム
10. 産業構造変化の要因分解分析
11. 経済発展と国際金融
12. 経済発展と経済安定化
13. 総括

履修者へのコメント：

講義は、担当者および履修者の協力によってより良いものとなっていきます。したがって、講義は欠席しないという意思のある人のみ履修してください。また、レポートは、MS Excel を利用した演習を伴いますので、表計算ソフトの基本操作を習得している人、あるいはそれを習得しようとする意思のある人のみ履修してください。

2008年度以前のクラスの概要などについては、担当者 Web ページ <http://web.econ.keio.ac.jp/staff/akiyama/> にて見ることができます。

また、講義は、経済発展論 a の履修を前提として行います。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

経済地理 a (春学期)

経済地理 b (秋学期)

セット履修

教授 杉浦章介

授業科目の内容：

経済地理は、経済活動の空間的側面に焦点をあてて分析を行うが、経済活動のグローバル化や地域経済統合などによって、企業、産業、地域・都市経済、国民経済、国際経済の様々なレベルにおいて経済の空間的組織化は急速かつ根本的に変容してきている。本講義では、空間経済学や地理学的視点からこれらの変化や変容を明らかにしてゆく。都市・地域経済、国際経済、グローバル企業経営などに関心のある学生の履修に適している。他学部の学生の履修も認めるので経済学の理論的知識については適宜説明を行う。

テキスト：

・杉浦章介『都市経済論』岩波書店、2003年

・杉浦章介『トランスナショナル化する世界』(近刊)

参考書：

杉浦章介『人文地理学』慶應義塾大学出版会、2005年

授業の計画：

春学期：集積の経済地理

1. 分業と規模の経済性の空間的展開
2. 集積の利益と外部性
3. 資本財生産と技術革新
4. 産業集積の国際比較

秋学期：トランスナショナル化の経済地理

5. 国際分業と生産・物流ネットワーク
6. TNC と経済機能の集中と分散
7. グローバル都市システムの形成
8. 国家と市場

履修者へのコメント：

時事経済についても関心を深める為、新聞等の経済記事はよく読むように。

成績評価方法：

試験の結果による評価(春・秋それぞれの期末試験の評価を合計し、最終評価とする。)

質問・相談：

適宜(質問は教室で時間内に行うことを原則とする。授業中の質問を歓迎する。)

経済地理 a (春学期) セット履修
経済地理 b (秋学期) 教授 武 山 政 直

経済地理 a (春)

授業科目の内容:

この授業では、都市の様々な機能や施設の立地パターンに注目するとともに、それらが人々の立地行動と諸環境とのダイナミックな相互作用を通じて生成されていく仕組みを理論的かつ実証的に解明します。

特に立地行動や立地パターンに関する諸概念や理論的研究手法の導入をテーマに、空間的モデルの構築やシミュレーションの技法について解説します。

この授業で扱うトピックは、経済活動の空間分析、都市計画や空間デザインに興味を持つ学生を対象としています。

授業の計画:

「立地の空間的ロジック」

- 1) オリエンテーションと問題提起
- 2) ものの見方と学問のアプローチ
- 3) 経済地理をどう読むか
- 4) 立地ゲームと科学的推論
- 5) 産業立地の経済地理モデル
- 6) 情報・文化産業と都市の再生
- 7) 隣接・集積の外部性と都市計画
- 8) 立地を生み出すモデルとゲーム
- 9) 立地パターンの自己組織性
- 10) マルチエージェント・シミュレーション
- 11) 協調行動とソーシャルキャピタル
- 12) 複雑系としての都市と社会
- 13) 春学期まとめ

成績評価方法:

学期中のレポート、学年末の試験によって成績評価を行います。

経済地理 b (秋)

授業科目の内容:

この授業では、都市の様々な機能や施設の立地パターンに注目するとともに、それらが人々の立地行動と諸環境とのダイナミックな相互作用を通じて生成されていく仕組みを理論的かつ実証的に解明します。

特に、情報通信技術 (ICT) の発展と普及にともなって実現するコピキタス都市社会の経済活動の特性について、最新の事例を通じて多面的な分析を試みます。

この授業で扱うトピックは、経済活動の空間分析、情報通信技術と経済社会の関わりに興味関心を持つ学生を対象としています。

授業の計画:

「コピキタス社会の経済地理」

- 1) 財のモビリティと技術革新
- 2) デジタル製品と私的経験価値
- 3) ケータイ世代の時間消費と空間消費
- 4) バーチャル世界の楽しい経済
- 5) 楽しさの経済政策
- 6) 情報ネットワーク経済とピアプロダクション
- 7) 融合するプレゼンスとテレプレゼンス
- 8) メディアとコンテンツの立地論
- 9) 融合する架空世界と都市空間
- 10) 融合する架空世界と都市空間
- 11) コピキタス都市のデザイン
- 12) コピキタス環境と経済活動の身体性
- 13) 総括

成績評価方法:

春学期参照

環境経済論 a (春学期) セット履修
環境経済論 b (春学期) 教授 細 田 衛 士

環境経済論 a (春)

授業科目の内容:

本講義では、環境経済学の基礎的な学習を行う。ここで言う「基礎的な学習」とは、環境経済理論を中心とした基礎段階の学習のことである。環境経済学のアプローチには、伝統的な新古典派のアプローチ (主流派アプローチ) や新制度学のアプローチなどをはじめとして、多様な分析手法がある。ここでは、環境経済学のテキストで既に定着しつつある主流派の理論展開を中心に講義を進める。

本講義は、ミクロ経済学およびマクロ経済学の初級の知識を前提として行う。ミクロ・マクロ経済学を十分に学習していない学生は履修を避けられたい。

テキスト:

細田衛士・横山彰『環境経済学』有斐閣、2007年

参考書:

(特になし)

授業の計画:

以下の内容を適宜進める。

1. 環境問題と環境経済学
2. 公共財としての環境
3. 環境問題と外部性
4. コースの定理と自主協定
5. 環境問題と権利および制度的側面
6. 再生可能資源
7. 再生不可能資源

履修者へのコメント:

就職活動を理由とする授業の欠席には一切考慮を払わない。

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

適宜受ける。ただし、時間の制約上対応できない場合もあることをあらかじめ述べておく。なお、質問・相談は原則講義内容にかかわるものとする。

環境経済論 b (春)

授業科目の内容:

環境経済論 a 参照

テキスト:

環境経済論 a 参照

参考書:

環境経済論 a 参照

授業の計画:

以下の内容を適宜進める。

8. 環境税
9. 排出取引制度
10. 廃棄物とリサイクル
11. デポジット制度
12. 環境評価
13. グローバル経済と環境
14. 資源循環型経済への道のり

履修者へのコメント:

環境経済論 a 参照

成績評価方法:

環境経済論 a 参照

質問・相談:

環境経済論 a 参照

都市経済論 a (春学期) セット履修
都市経済論 b (秋学期) 特別研究講師 直井道生 (春)
教授 瀬古美喜 (秋)

都市経済論 a (春)

授業科目の内容:

本講義の目的は、主に価格理論に基づいて、市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点から、日本の都市問題を時には外国の都市問題と比較しながら、経済学的に考察することにある。

テキスト:

DiPasquale and Wheaton (瀬古美喜・黒田達朗訳)『都市と不動産の経済学』創文社、2001年

参考書:

- ・宮尾尊弘『現代都市経済学・第2版』日本評論社、1995年
- ・黒田達朗・田淵隆俊・中村良平『都市と地域の経済学』[新版]有斐閣ブックス、2008年
- ・金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社
- ・山田・西村・綿貫・田淵編『都市と土地の経済学』日本評論社、1995年
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社
- ・(財)日本住宅総合センター『季刊住宅土地経済』各版
- ・藤田昌久他(小出訳)『空間経済学』東洋経済新報社
- ・佐々木公明・文世一『都市経済学の基礎』有斐閣
- ・山田浩之編『地域経済学入門』有斐閣

授業の計画:

春学期の講義内容は、以下のとおりである。

1. 都市経済学と都市問題
 - (a) 都市経済学とは何を研究する学問か
 - (b) 都市化と都市問題
 - (c) 都市化の原因
 - (d) 集積の経済 (地域特化の経済と都市化の経済)
 - (e) 新経済地理学 (ポール・クルーグマンの中心・周辺モデル)

- (f) 伝統的な経済学との比較・対比
2. 都市集中のメカニズム
- (a) 交通費と集中
- (b) 競争と集中
- (c) 立地と価格競争
- (d) 都市集中のパターン
3. 大都市圏の成長と衰退
- (a) 都市の発展段階
- (b) 都市の成長分析
- (c) 地域経済成長の3部門モデル
- (d) 地域乗数モデル
- (e) 都市の衰退分析

履修者へのコメント：

授業にきちんと出席して、特に復習を行うこと。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価：学期末試験（春学期定期試験期間内の試験）
- ・レポートによる評価：授業内小テスト
- ・平常点：出席カードの配布と授業内レポート
- ・その他：特になし

都市経済論 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

講義予定は、以下のとおりである。

1. 都市の住宅問題
 - (a) 日本の住宅問題
 - (b) 付け値地代曲線
 - (c) 住宅立地
 - (d) 住宅需要分析（ヘッドニック）
 - (e) 住宅供給分析
 - (f) 住宅市場分析
 - (g) 住宅政策
2. 都市の土地問題
 - (a) 日本の土地問題
 - (b) 土地サービスと地代
 - (c) 地代と地価の関係
 - (d) 土地税制
3. 都市の交通問題
 - (a) 交通手段の選択と需要
 - (b) 交通混雑の分析
 - (c) 交通投資の分析
4. 都市の財政問題
 - (a) 日本の都市財政の推移
 - (b) 都市財政と地方公共財

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価

上記による総合評価

人口論 a (春学期)

セット履修

人口論 b (春学期)

教授 津谷典子

授業科目の内容：

近年さまざまな人口問題が関心を集めている。60億を超えなお増加する世界人口、それをもたらす発展途上地域の急速な人口増加と資源・環境への影響、一方では先進諸国の超低出生率とその背景にある女性の社会的地位の変化と晩婚化や離婚の増大などが広く議論され、政策的認識も高まっている。人口はその国の社会経済発展・開発と強く結びついており、労働力や消費などへの影響を通して経済成長を左右する。

本講義は人口学の主要項目を広く学び、現在の内外の人口問題について理解を深めることを目的とする。また人口統計の読み方や人口指標の計算法などの人口統計学の基礎についても実際の統計データを用い手ほどきする。このため確率や統計学の基礎的知識があることが望ましい。講義内容の詳細は第一回授業時に配布するシラバスに説明する。なお参考書は授業に先立ち通知し、資料も随時配布する。

テキスト：

河野綱果『世界の人口〔第2版〕』東京大学出版会、2000年

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況およびクラス内小テスト）

産業社会学 a (春学期)

セット履修

産業社会学 b (春学期)

教授 金子勝

産業社会学 a (春)

授業科目の内容：

グローバル化の波が世界を覆い、ついに世界金融危機となった。アメリカの極端な時代の終わりと、分裂と不安定な時代が始まった。明らかに、経済社会は大きな歴史的転換期を迎えている。この講義は、こうした状況を踏まえ、現代の経済社会を根源的に問い直すことを目的としている。講義では、グローバル化、冷戦型イデオロギーの終焉、リベラリズムと経済理論、市場と人間社会、日本経済の長期停滞、制度改革といった問題群を扱う。経済学だけでなく政治理論や社会学をも踏まえて、自由でラディカルな発想から新しい社会経済学を構想する。

テキスト：

随時、プリントを配布する。

参考書：

- ・金子勝『セーフティネットの政治経済学』ちくま新書
- ・共著『逆システム学 市場と生命を解き明かす』岩波新書

授業の計画：

講義は、つぎの項目にしたがって行う。

1. 市場理論と人間像 所有と自由・合理性の限界
2. セーフティネットと市場 市場像の転換
3. パブル循環と長期停滞の時代
4. 日本の格差社会
5. どのような制度改革が必要なのか
6. 逆システム学の方法

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

産業社会学 b (春)

授業科目の内容：

金融システム危機と不良債権処理過程において、日本経済はどのような構造に変化したのか。「構造改革」路線と米国のバブル崩壊の過程で拡大した経済格差の諸相を明らかにするとともに、社会制度の歪みや問題点を考察する。その中で、市場原理と政府介入、効率性と公平性、功利主義と契約理論など社会哲学の基本に立ち返って、経済学の原理を省察したい。

テキスト：

随時プリントを配布する。

参考書：

金子勝『閉塞経済 金融資本主義のゆくえ』ちくま新書

授業の計画：

1. 戦後体制の終焉 1930年代との比較
2. 住宅バブル崩壊と米国経済
3. バブル崩壊後の日本経済
4. 格差問題の諸相
5. 社会哲学から将来社会を考える

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

授業の前後に受け付ける。

社会史 a (秋学期)

セット履修

社会史 b (秋学期)

教授 矢野久

社会史 a (秋)

授業科目の内容：

社会史は、「下からの歴史」と「総合の学」を構築することを目的としている。権力の側からではなく民衆からみた歴史を描くこと、分断化された研究領域の総合化をめざすこと、この二点を目的としている。ヨーロッパにおける現在の社会史研究の状況を述べ、社会史の具体的・歴史的展開を講じる。

テキスト：

- ・矢野久『ナチス・ドイツの外国人 強制労働の社会史』現代書館 2004年
- ・Faust・矢野久編著『ドイツ社会史』有斐閣、2001年

授業の計画：

1. 社会史の方法
2. 社会史の具体的展開
 - ・社会の中の 他者
 - ・消費と日常
 - ・生活環境

履修者へのコメント：

受講し、自らの脳細胞を使って主体的に思考することを望む。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

社会史 b (秋)

授業科目の内容：

社会史 a 参照

テキスト：

社会史 a 参照

授業の計画：

2. 社会史の具体的展開（続き）
 - ・家族
 - ・犯罪
 - ・国家の犯罪
3. 「戦争と虐殺」の社会史

履修者へのコメント：

社会史 a 参照

成績評価方法：

社会史 a 参照

(2) 特殊科目

ゲームの理論 a (春学期)

ゲームの理論 b (秋学期)

教授 グレーヴァ香子 (春)

教授 中山 幹夫 (秋)

ゲームの理論 a (春)

授業科目の内容：

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論の基礎と応用を講義する。必要な数学は適宜補足説明するが、経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は学期末試験のみで決まるが、C と D の境目の場合だけ随時行う演習の出席状況も参考にする。

テキスト：

特になし。

参考書：

- ・小澤・中村・グレーヴァ（編）『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社、2004年、第5章
- ・中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005年
- ・ギボンズ（須田・福岡訳）『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996年

授業の計画：

1. ゲームとは
2. 戦略形ゲームとその解
3. 展開形ゲームとその解
4. ルーピンシュタイン型交渉ゲーム
5. 繰り返しゲーム
6. ペイジアンゲーム
7. シグナリングゲーム

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

授業の前後、あるいは学期の最初に指定するオフィスアワーに直接研究室に来るか、電子メールによる。

電子メールの場合、件名に受講者であることを明記すること。添付書類は不可。

ゲームの理論 b (秋)

授業科目の内容：

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論について、特に協力ゲームの応用を中心とした講義を行う。用いる数学は難しくはないが、ロジカルに考えることが必要である。経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は学期末試験のみで決まるが、C と D の境目の場合だけ随時行う演習の出席状況も参考にする。

テキスト：

特になし。適宜、資料配布。パワーポイントなど使用。

参考書：

- ・中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005年
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996年
- ・小澤・中村・グレーヴァ（編）『公共経済学の理論と実際』東洋経済新

報社、2004年、第5章

- ・ギボンズ（須田・福岡訳）『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年

授業の計画：

1. 協力ゲームとは。提携値と配分。例：公共財の供給、湖の汚染、滑走路の費用、談合
2. 協力ゲームの解：仁、コア、安定集合、シャープレイ値
3. 応用コア分析：ゴミ戦争、補償、排出量取引
4. コアの存在と平衡ゲーム、市場ゲーム
5. 応用コア分析：公共財、共有地の悲劇、TU アルファコア
6. 応用コア分析：社会選択ゲーム、多数決ゲーム、賄賂と拒否権者
7. 破産問題と仁、情報の拡散防止取引

成績評価方法：

定期試験

解析学 a (春学期)

解析学 b (秋学期)

教授 戸瀬 信之

解析学 a (春)

授業科目の内容：

数理的な学問を学ぶときは、上級になればなるほど必要とする数学も高度になる。学部生の前期課程で学んだ数学の内容、特に解析的な内容は、かなり直観的かつナイーブな議論で済ませることがほとんどであった。例えば、数列の収束あるいは関数の連続性について、学んだ内容と表現方法を思い浮かべれば、その意味することが分かるであろう。

この科目およびその続論「解析学 b」の目的は、さらに高度な数理的な科目あるいは数学的な科目を今後学ぶための基礎としての解析を解説することにある。その内容は大きく分けて、(1) 連続性を記述するための位相的な内容、(2) 微分積分を縦横に展開するための極限定理、(3) 様々な制約条件を記述する機構、すなわち陰関数定理および Lagrange の未定乗数法の周辺、(4) 積分論の深い展開となる。前期のこの科目では、上記の内容のうち基礎的な部分に重点を置く予定である。(後期には、その応用として最適値問題に重点を置く。)

テキスト：

伊藤幹夫・戸瀬信之『経済とファイナンスのための基礎数学』共立出版

参考書：

戸瀬信之『経済数学』新世社

授業の計画：

- ・数列とベクトル列の収束、ユークリッド空間の位相、連続関数
- ・Riemann 積分 (1 変数, 2 変数)
- ・陰関数定理、逆関数定理

履修者へのコメント：

出席しないで単位だけもらおうとする「せこい」学生の履修はお断りします。

インターネット上に 2007 年度の講義内容を公開しています。URL は <http://www.math.hc.keio.ac.jp/index.php?anal2007> です。ただし、2007 年度ほど細かいことは解説しませんし、ルベグ積分については学びません。

成績評価方法：

期末試験およびレポートで成績をつけます。細かにレポート提出を求めますので、実質的に出席をとることになります。

質問・相談：

メールは塾内のアドレスから以外のものは読まないことにします。質問は講義の後に受け付けます。

解析学 b (秋)

授業科目の内容：

この科目およびその先行科目「解析学 a」の目的は、さらに高度な数理的な科目あるいは数学的な科目を今後学ぶための基礎としての解析を解説することにある。その内容は大きく分けて、(1) 連続性を記述するための位相的な内容、(2) 微分積分を縦横に展開するための極限定理、(3) 様々な制約条件を記述する機構、すなわち陰関数定理および Lagrange の未定乗数法の周辺、(4) 積分論の深い展開となる。後期のこの科目では、この範囲の応用的な内容として「最適値問題」について解説し、時間が許せば不動点定理についても学ぶ。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- ・Lagrange の未定乗数法
- ・凸解析入門
- ・（時間がゆるせば）不動点定理入門

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：
春学期参照

解析学 a (春学期) セット履修
解析学 b (秋学期) 准教授 新井拓児(春)
商学部 教授 小宮英敏(秋)

解析学 a (春)

授業科目の内容：

位相空間論の基礎を、代表的な位相空間である距離空間を題材に講義する。

開集合、関数の連続性、コンパクト、完備性などの言葉の意味を理解し、同時に数学の抽象的な議論にも慣れてもらいたい。

最後に、無限次元空間の代表例である L^2 空間などにも触れたい。

テキスト：

なし

参考書：

授業中に紹介する。

授業の計画：

1. 集合論の復習 (3回)
2. 数直線と平面 (3回)
3. 連続関数
4. 距離空間とノルム空間
5. コンパクト性 (2回)
6. 完備距離空間 (2回)
7. 関数解析の基礎

履修者へのコメント：

集合論と微分積分学の基礎知識を前提とする。

成績評価方法：

試験による

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

解析学 b (秋)

授業科目の内容：

測度論に関する講義を行う。面積や長さといった概念を数学的に抽象化し、その上で展開される数学を紹介する。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

以下のトピックについて扱う。各々のトピックに関して2コマ程度の時間を割り当てる。

長さ・面積・体積

測度の構成

リーマン積分からルベーグ積分へ

ルベーグ積分の定義と諸性質

収束定理と積分記号の交換

もし時間があれば、ヒルベルト空間やフーリエ解析といった関数解析の話題についても触れたい。

履修者へのコメント：

集合論、集合位相、微分積分学の基礎知識を前提とする。

成績評価方法：

試験またはレポートによる。

契約理論 a (春学期)

契約理論 b (秋学期) 准教授 玉田 康 成

契約理論 a (春)

授業科目の内容：

現実の経済では情報の非対称性由来するインセンティブの問題が多く見られる。市場・組織・取引関係の様々な局面で利用可能な情報には偏りがあり、経済主体が情報を戦略的に活用すると、典型的にはモラルハザードやアドバースセレクションなどの問題が発生し、個別企業に代表される経済の効率性を損なうことになる。また、市場経済そのものの信頼を損なう要因にもなり得る。本講義では、経済主体に対して適切なインセンティブを与えるための契約や組織、制度について、インセンティブ設計という観点から理論的に講義する。さらに、議論に必要なゲーム理論や期待効用理論などの分析道具についても説明を加える。

テキスト：

なし

参考書：

・マクミラン『経営戦略のゲーム理論 交渉・契約・入札の戦略分析』

有斐閣

- ・ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版
- ・神戸伸輔『入門 ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
- ・伊藤秀史、小佐野広(編)『インセンティブ設計の経済学 契約理論の応用分析』勁草書房
- ・伊藤秀史『契約の経済理論』有斐閣
- ・サラニエ『契約の経済学』勁草書房
- ・Laffont and Martimort, *The Theory of Incentives: The Principal-Agent Model*, Princeton Univ Press
- ・Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press

履修者の計画：

1. インセンティブ問題と契約理論
2. 期待効用理論
3. モラルハザード：基本理論
4. モラルハザード：複数エージェントやチーム問題への展開
5. モラルハザード：企業内のインセンティブシステムや金融契約への応用
6. アドバースセレクションとシグナリング

履修者へのコメント：

前提知識は要求しないが、日吉のミクロ経済学初級の内容は踏襲する。また、契約理論 b と併せて履修することが望ましい。

成績評価方法：

- ・授業内演習 (2回) : 20%
- ・学期末試験 : 80%

質問・相談：

オフィスアワーを設ける。

契約理論 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

- ・マクミラン『経営戦略のゲーム理論 交渉・契約・入札の戦略分析』有斐閣
- ・ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版
- ・ロバーツ『現代企業の組織デザイン 戦略経営の経済学』NTT 出版
- ・柳川 範之『契約と組織の経済学』東洋経済新報社
- ・神戸伸輔『入門 ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社
- ・伊藤秀史、小佐野広(編)『インセンティブ設計の経済学 契約理論の応用分析』勁草書房
- ・伊藤秀史『契約の経済理論』有斐閣
- ・サラニエ『契約の経済学』勁草書房
- ・Laffont and Martimort, *The Theory of Incentives: The Principal-Agent Model*, Princeton Univ Press
- ・Bolton and Dewatripont, *Contract Theory*, MIT Press
- ・Hart, *Firms, Contracts, and Financial Structures*, Oxford Univ Press

授業の計画：

1. アドバースセレクションとスクリーニング
2. オークション理論
3. 企業組織の理論：不完備契約と企業統合
4. 企業組織の理論：企業内のインセンティブ

履修者へのコメント：

日吉のミクロ経済学初級の内容と契約理論 a の内容は踏襲する。履修者は契約理論 a と合わせて履修することを強く勧める。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

公共経済学 a (春学期)

公共経済学 b (秋学期) 総合政策学部 教授 小澤 太郎

公共経済学 a (春)

授業科目の内容：

テキストに沿って、公共経済学の理論について一通りの解説を行う。公共財の理論、社会的選択の理論、公共選択論(政府の失敗含む)、ゲームの理論の応用(動学的不整合性含む)といったテーマを扱う。公共経済学のアプローチの大枠に関する理解を得てもらう事が目標である。

テキスト：

中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子編『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社(第部 公共経済学のパースペクティブ; 第部 ゲームの理論と公共経済学への応用), 2003年

参考書：

- ・D. C. Mueller, *Public Choice III*, Cambridge University Press, 2003
- ・中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣, 1997年

(他は必要に応じ、授業の際に適宜紹介する。)

授業の計画:

- 第1回: ガイダンス
公共経済学とは何か
- 第2回: ミクロ経済学と市場の失敗 (テキスト第1章 1)
...厚生経済学の基本定理
- 第3回: ミクロ経済学と市場の失敗 (第1章 2~4)
...市場の失敗(公共財)
- 第4回: 社会的選択と投票システム (第3章 1,2)...アローの定理
- 第5回: 社会的選択と投票システム (第3章 3~5)
...ギバード=サタスウェイトの定理
- 第6回: 政策科学と公共選択論へのアプローチ(第4章)
...民主主義の経済分析
- 第7回: ゲームの理論の概観 (第5章 1~3)
...標準形ゲーム, 展開形ゲーム
- 第8回: ゲームの理論の概観 (第5章 4~7)
...繰返しゲーム, 不完備情報ゲーム
- 第9回: ゲームの理論と経済政策 (第6章 1.1)...逆選択
- 第10回: ゲームの理論と経済政策 (第6章 1.2)
...モラル・ハザード
- 第11回: ゲームの理論と経済政策 (第6章 2)...動学的不整合性
- 第12回: ゲームの理論と政治過程(第7章)...有権者・政党の行動
- 第13回: 補論と総括

履修者へのコメント:

全般的には、直観的な理解を重視した骨太な説明を試みたいと考えている。しかしテーマによって、やや理論的にテクニカルな内容が含まれる場合があるが、全体の議論の流れがつかめれば細部まで十分理解できなくても気にする必要はない。

成績評価方法:

期末試験の結果による評価を基本とする。

質問・相談:

授業終了後にしてもらうのが1番良いが、あまり長い回答を要さないものであれば、メールによる質問も受け付ける(yossy@sfc.keio.ac.jp)

公共経済学 b (秋)

授業科目の内容:

テキストに沿ってゲーム理論の準備から始めて、公共経済学の幾つかのテーマに触れた後に、さらにテキストでカバーされていない諸テーマについて引き続き解説を行う。動学的不整合性、情報の非対称性・不確実性、学説史、ネットワークの外部性(複数均衡含む)、実験経済学、新自由主義的な制度改革への警鐘、潜在能力アプローチ等、扱うテーマはまさに多岐にわたる。主として理論的な側面からではあるが、厚生経済学とも財政学とも一味違う、公共経済学の世界の一端を垣間見る事ができよう。

テキスト:

- ・小澤太郎・グレーヴァ香子・中村慎助編、『理論経済学の復権』慶應義塾大学出版会(第1章 ゲーム理論リテラシー;第2章 起業活動とは何か;第3章 銀行の情報システムにおけるセキュリティ対策の分析),2008年
- ・中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子編、『公共経済学の理論と実際』東洋経済新報社(第9章 インターネット金融取引・電子商取引の安全性;第10章 中小企業金融における公共部門の役割;第11章 生活保障システムの経済学;第部 公共経済学の系譜 個人主義と公共政策),2003年

参考書:

- ・小澤太郎,「電子商取引の発展と経済構造の変化」金子郁容編『総合政策学の最先端:インターネット社会・組織革新・SFC教育』慶應義塾大学出版会,2003年
- ・大和毅彦・西條辰義,「『公共財供給』をゲーム理論で解く:大気中の有害物質削減ゲーム」中山幹夫・武藤滋夫・船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣,2000年
- ・奥野正寛・河野敏鑑,「システム転換と利害調整に基づく先送り」林文夫編『経済制度設計』勁草書房,2007年
- ・鈴木興太郎・後藤玲子,『アマルティア・セン:経済学と倫理学』改装新版,実教出版,2002年

授業の計画:

- 第1回: ガイダンス
- 第2回: ゲーム理論 : 囚人のジレンマ, 政府与党対日本銀行(08第1章)
- 第3回: ゲーム理論 : 混合戦略, スーパー 301 条の戦略的意義(08第1章)
- 第4回: ゲーム理論 : フォーク定理, 進化的安定戦略(08第1章)
- 第5回: 銀行の情報システムにおけるセキュリティ対策の分析(03第9章;08第3章)
- 第6回: 中小企業金融における公共部門の役割(03第10章;08第2章)
- 第7回: 生活保障システムの経済学(03第11章)
- 第8回: 公共経済学の系譜 個人主義と公共政策 (03第部)
- 第9回: ネットワークの外部性(小澤[2003])...複数均衡

第10回: 大気中の有害物質削減ゲーム(大和・西條[2000])

...実験経済学

第11回: システム転換と利害調整に基づく先送り(奥野・河野[2007])

...制度と歴史

第12回: 社会的選択と厚生(鈴木・後藤[2002])

...潜在能力アプローチ

第13回: 総括及び公共経済学の今後の展望

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

三田における数学・数理経済学関係の講義体系について

経済学部専門課程での数学・数理経済学関係の講義は、次のような体系で編成されている。

まず経済分析に数学的・統計的手法を適用する際、最低限必要と思われる基本事項を解説するために、代数学 a, b, 解析学 a, b の二講座を用意している。

この基本的知識を前提とし、経済分析に有用な、さらに進んだ数学の諸分野についても、以下のような講座を設ける。

解析学 a, b

数理経済学 a, b

数理経済学 a, b

数理経済学特論 a, b [微分方程式論]

数理経済学特論 a, b [確率論]

また数理経済学は

一般均衡理論の数理

動学的経済分析の数理

を隔年に開講することとし、本年度は をその内容とする。

学生諸君には、この講義体系をよく検討され、有効に利用していただきたいと思います。(丸山 徹)

数理経済学 a (春学期)

セット履修

数理経済学 b (秋学期)

教授 丸山 徹(春)

教授 須田 伸一(秋)

数理経済学 a (春)

授業科目の内容:

一般均衡理論の数理的構造を研究するために必要な数学からの準備を行なう。

1. Euclid 空間の位相
2. 凸集合
3. 多価関数の連続性
4. 不動点定理 その他

教科書:

丸山徹『経済数学』(知泉書館)平成14年。

参考書:

- ・G.ドブリュー『価値の理論』丸山訳(東洋経済新報社)昭和52年。
- ・丸山徹『数理経済学の方法』(創文社)平成7年。

数理経済学 b (秋)

授業科目の内容:

一般均衡理論とその数理的構造について講義する。

参考書:

Mas-Colell, Whinston, Green, *Microeconomic Theory*, Oxford U. P, 1995

授業の計画:

一般均衡理論

1. 主体的均衡の理論
2. 競争均衡の存在
3. 厚生経済学の基本定理
4. 正則経済の理論

成績評価方法:

試験の結果による評価

質問・相談:

毎回の授業終了後にしてもらうのが望ましいが、必要ならアポイントメントをとっての相談にも応じる。

数理経済学特論 a [微分方程式論](春学期) セット履修
数理経済学特論 b [微分方程式論](秋学期)

講師 稲葉 寿

数理経済学特論 a [微分方程式論](春)

授業科目の内容:

時間的に変化する自然現象や社会現象を数学的に分析するためのモデルは微分方程式を用いて定式化されることが多く、微分方程式は数理学としての経済学を学ぶ上でも重要なツールである。本講義では、基礎的な微積分の知識をもとにして、演習も交えて常微分方程式の基礎的な解法を学ぶ。

参考書:

- ・M. ブラウン『微分方程式』(上)(下), シュプリンガー・フェアラーク東京, 2001年
- ・柳田英二・栄伸一郎『常微分方程式論』朝倉書店, 2002年
- ・稲葉三男『常微分方程式』共立出版, 1973年

授業の計画:

- (1) 1階微分方程式の理論と演習
- (2) 2階線型微分方程式の理論と演習
- (3) 上記の微分方程式を用いた数理モデルの紹介

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価

数理経済学特論 b [微分方程式論](秋)

授業科目の内容:

微分方程式論 a に続いて、線形常微分方程式の一般論と非線形微分方程式の基礎的な定性的理論を学ぶ。

参考書:

- 佐藤總夫『自然の数理と社会の数理』, , 日本評論社, 1992年
- D. パーヴェス/M. ポリー『微分方程式で数学モデルを作ろう』日本評論社, 1990年

授業の計画:

- (4) 連立微分方程式
- (5) 微分方程式の定性的理論
- (6) 上記の微分方程式を用いた数理モデルの紹介

数理経済学特論 a [確率論](春学期) セット履修
数理経済学特論 b [確率論](秋学期) 講師 黒田 耕嗣

授業科目の内容:

確率論の基礎概念を学び、確率過程論のファイナンスへの応用について解説する。

テキスト:

特になし。

参考書:

- ・Dothan, *Prices in Financial Markets*, Oxford University Press
- ・Björk, *Arbitrage Theory in Continuous Time*, Oxford University Press

授業の計画:

春学期は離散確率空間をもとにして以下の内容で講義する。また、生保数理、損保数理への応用についても講義の中で取り上げる。

1. Random walk を例にとり、確率空間、確率変数、確率分布について解説する
2. 確率分布の期待値、分散及びモーメント母関数の性質について述べる
3. 有限確率空間をもとにした information structure と離散時間株式市場モデル、条件付期待値とマルチンゲールについて
4. 平衡価格測度と裁定戦略
5. 離散確率解析を用いたオプション価格式の導出と Black-Scholes の公式について

秋学期は連続系を取り扱う。

1. リーマン積分からルベーグ積分へ
2. 測度空間とルベーグ積分の定義について
3. ルベーグの収束定理について
4. 測度論的確率論の概要(確率変数数列の収束、大数の法則、中心極限定理)
5. Random walk から Brown 運動へ
6. Brown 運動の性質(Markov 性、マルチンゲール性、Maximal process について)
7. 確率積分と Ito の公式について
8. ファイナンスへの応用について(数理ファイナンスへの序論)

履修者へのコメント:

高校での数 C の知識に習熟していることが必要であり、線形変換とその表現行列との関係、テイラー展開、多重積分、座標変換についての知識がある事が望ましい。大学レベルの微積分についての復習は授

業中に行うが、高校レベルの数学についての復習は行わないので、高校数学は各自で身につけておくこと。

成績評価方法:

問題演習を授業中に行い、これにより評価を行う。後期は特に、多変数関数の微積分の知識(多変数関数のテイラー展開、多重積分、極座標変換)を必要とする。

代数学 a (春学期)

代数学 b (秋学期)

教授 桂田 昌紀

代数学 a (春)

授業科目の内容:

学部 1 年生で履修した「線形代数」の内容(ベクトル・行列の初歩的取り扱い)を予備知識として、この講義では、線形代数の理論的側面について解説することが主な課題で、以下の i) ~ iii) の流れに沿って授業を展開する: i) ベクトル空間とそれに付随する基礎的な概念を導入しそれらの相互関係について理解する; ii) Jordan 標準形の理論を理解しその実際の計算が出来るようになる; iii) 産業連関分析など経済学への重要な応用を持つ Perron-Frobenius 理論を学ぶ。なお、日吉での「経済数学 I」の履修は必ずしも前提としないが、内容のより深い理解のためには極めて有益である。

春学期は、まず抽象ベクトル空間を導入し、部分空間、1次独立・1次従属、基底、線形写像などの基礎概念について解説した上で、Jordan 標準形への準備として、これまでまだあまり学ぶ機会が無かった多項式の性質について、必要となる事項に焦点を絞って述べる。さらに、その応用として、(定数係数)線形微分方程式・線形差分方程式についても解説する。Perron-Frobenius の定理を定式化し証明することまでを目標としたい。

テキスト:

初回の授業時に指示する。

参考書:

- ・津野義道『経済数学 線形代数と産業連関論』培風館
- ・二階堂副包『経済のための線型数学』培風館

授業の計画:

・ベクトル空間と線形写像:

- i) ベクトル空間; ii) 部分空間; iii) 1次結合; iv) 1次従属・1次独立; v) 基底; vi) 写像; vii) 線形写像; viii) 同型写像。

・多項式の性質と応用:

- i) 多項式; ii) 直和分解; iii) 微分方程式の解空間; iv) 線形回帰数列。

履修者へのコメント:

一般論として、数学の理論を「理解」するためには: i) 理論の展開を論理的に step-by-step に follow して理解する; ii) 理論を用いて実際に実例を計算する、という二つのプロセスが本質的である。この講義では、受講者がこの二点についてのトレーニングも行えるよう出来るだけ配慮したい。

成績評価方法:

講義時間中に行う小テストと数回のレポートによって到達度・達成度を評価する。

質問・相談:

日吉キャンパス来往舎 706 号室の桂田まで。

代数学 b (秋)

授業科目の内容:

春学期開講の「代数学 a」の内容に立脚・接続する形で秋学期の授業を展開する。より詳しくは、線形写像の表現行列を導入したうえで、固有値問題に関連して、固有値、固有ベクトル、行列の対角化について解説し、さらにこれらの議論をより深める形で、Jordan の標準形を導入し、その実際計算について学ぶ。以上の基礎理論を背景として、分解不能行列を導入し、Perron-Frobenius の定理を定式化し証明することまでを目標としたい。

テキスト:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

・線形写像と行列(秋学期):

- i) 表現行列; ii) 固有値と固有ベクトル; iii) 行列の対角化; iv) 連立線形差分方程式; v) 連立線形微分方程式; vi) Hamilton-Cayley の定理。

・Jordan 標準形:

- i) Jordan 細胞; ii) Jordan 標準形の求め方; iii) 行列の冪; iv) 連立線形差分方程式(再); v) 連立線形微分方程式(再)。

・Perron-Frobenius の定理:

- i) 非負固有値問題; ii) 分解不能行列 iii) Perron-Frobenius の定理。

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法：
春学期参照
質問・相談：
春学期参照

市場の質の基礎理論(グローバル COE 連携科目)(春学期)

客員教授 矢野 誠
講師 小松原 崇史

授業科目の内容：

本講義は、慶應義塾大学大学院経済学研究科および商学研究科が、京都大学経済研究所と連携して行っている、グローバル COE プログラム「市場の高質化と市場インフラの総合的設計」の連携科目として、市場の質に関して現在までになされた研究を紹介することを目的としている。春学期の講義は学部と大学院修士課程の併設科目として開講され、主に市場の質についての基本的な知識が解説される。

一口に市場と言っても、良い市場もあれば、悪い市場もある。「市場の質理論」は、より良い市場の形成によって現実の経済問題を解決しようという、新しい視点に立つ。市場の質の研究は慶應義塾大学で始められたものであり、各方面から高い評価を得ている。たとえば、神戸大学の出井文男教授からは、「良い市場とは何か？という問いかけは、経済学における基本的アイデアとして、おそらく最初の日本発のものと思われる。…(この)問いかけは普遍的で…例えば、BRICs と呼ばれるブラジル、ロシア、インド、中国の4か国の人々が(それから)得るものは大きい」(三田学会雑誌, 2005年7月号, 書評欄)と高く評価された。

伝統的な経済学では「市場の失敗と成功」という二元論的な観点で市場が分析されてきた。それが直輸入されたせいか、特に我が国では今回のサブプライム危機のような問題は即「市場の失敗」の結果だという「市場性悪説」に話が落ち着くことが多い。それでは政府の規制を増やすだけで、市場の質は低いままに放置され続けることになる。

市場の質は、市場における競争の質、情報の質、商品の質などで決定される。市場は、環境さえ整えば、自らを高質化し、問題を解決する力を持つ。それが経済の健全な発展成長を支えてきた。我が国では「市場=弱肉強食の場」という議論も多い。しかし、アメリカでは、「弱肉強食の行為」を禁止する反トラスト法がうまく機能しているせいか、そんな議論には出合った経験がない。この事実も、自らを取り巻く環境が整備されれば、市場が人々の暮らしに大きく貢献することを示唆するものである。

テキスト：

・矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店, 2001年(講義前半の教科書)
・矢野誠『「質の時代」のシステム改革』岩波書店, 2005年(講義後半の教科書)

参考書：

・矢野誠『ミクロ経済学の基礎』岩波書店, 2001年
・矢野誠編『法と経済学』東京大学出版会, 2007年
・Yano, M., ed., *The Japanese Economy - A Market Quality Perspective*, Keio University Press, 2008

授業の計画：

1. 市場の質と現代経済『「質の時代」のシステム改革』序章
2. 伝統的な市場理論(1)『「質の時代」のシステム改革』第1章
3. 伝統的な市場理論(2)『「質の時代」のシステム改革』第1章
4. 競争の質と価格形成(1)『「質の時代」のシステム改革』第2章
5. 競争の質と価格形成(2)『「質の時代」のシステム改革』第3章
6. M&A 市場と価格の公正性『法と経済学』第7章
7. 中間試験
8. 財産権と商品の質『ミクロ経済学の応用』第3章
9. 知的財産権と商品の質『ミクロ経済学の応用』第5章
10. 証券市場と情報の質(1)『ミクロ経済学の応用』第3章
11. 証券市場と情報の質(2)『ミクロ経済学の応用』第12章
12. 競争法と競争の質(1)『ミクロ経済学の応用』第7章
13. 競争法と競争の質(2)『ミクロ経済学の応用』第11章

履修者へのコメント：

講義は、理論経済学を専攻しない大学院生の聴講も可能なように配慮した理論的内容にする。また、博士課程の大学院生で、秋学期の科目に出席を考えているものは、春学期の授業を履修することが望ましい。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

オフィスアワーを設ける。日時は追って指示する。

資金循環分析 a (春学期)

セット履修

資金循環分析 b (秋学期)

教授 辻村和佑

資金循環分析 a (春)

授業科目の内容：

資金循環分析の基礎となる資金循環表とは、家計の貯蓄がどのような金融機関や有価証券を経由して、最終的に企業や政府が行う投資に帰着するのかを描写する経済統計である。同統計には家計、企業、政府に金

融部門と海外を加えた各制度部門間の資金の流れが記録されており、これを基に一国全体の資金循環構造の仕組みを解説する。資金とは何か、経済活動において資金はどのような役割を果たしているのかといった根本的な問題に立ち返りながら、統計上の数値から日本経済の姿を読み解いていきたいと考えている。また、一国の金融政策上主要な役割を果たしている中央銀行に着目して、資金循環表上に表象される中央銀行の機能についても論じる。本来、資金循環構造を包括的に理解するためには、背後にある我が国の金融制度に対する網羅的な理解が不可欠であるので、可能な範囲で主要な制度の解説も行いたい。

テキスト：

辻村和佑・溝下雅子『資金循環分析 基礎技法と政策評価』慶應義塾大学出版会

参考書：

・辻村和佑編著『バランスシートで読みとく日本経済』東洋経済新報社
・辻村和佑編著『資金循環分析の軌跡と展望』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

1. 資金とは何か
2. 経済活動における資金の役割
3. 資金循環分析の歴史
4. 資金循環表の構成 制度部門と金融商品
5. フロー表とストック表
6. 資金過不足と金融資産・負債差額
7. 貸借対照表形式とマトリクス形式の資金循環表
8. 資金循環にみる因果序列構造
9. 資金の需要と供給の非対称性
10. 日本銀行の金融政策
11. 日本の資金循環構造の歴史の変遷
12. 今日の資金循環構造とその課題

履修者へのコメント：

この授業科目に関連する当該時点のニュースや話題を優先して解説する場合がある。したがって授業計画は、あくまで目安である。

成績評価方法：

学期末試験・レポート

質問・相談：

授業時間終了後に受け付ける。

資金循環分析 b (秋)

授業科目の内容：

資金循環表は元来、一国経済の資金の流れを描写する統計であり、分析対象も国内に留まることが多かった。しかしグローバル化の進行と、金融危機の多発をきっかけに、1990年代末以降、国際機関による国際資金フローもしくは国際資本移動に関する統計の整備が進むことになった。例えば IMF による国際証券投資調査 (Coordinated Portfolio Investment Survey: CPIS) や、国際決済銀行 (Bank for International Settlements: BIS) による国際与信統計 (Consolidated Banking Statistics: CBS) があげられる。これらの統計を基礎に、国際的な資金の流れを把握することを目的として講義をすすめていく。また世界経済に及ぼす影響について話題を集めているユーロ圏の通貨統合と今後の拡大についても論じていきたい。

テキスト：

辻村和佑・辻村雅子『国際資金循環分析 基礎技法と応用事例』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

1. 国際資金循環とは
2. 貸借対照表形式の国際資金循環統計
3. 金融連関表形式の国際資金循環統計
4. 主要国の資金調達と資金運用
5. 各種指標に見る国際資金循環構造
6. 国際資金循環分析の理論の系譜
7. 国際資金循環分析への計量経済学の応用
8. 国際金融における諸問題
9. 資金過不足と金融資産負債差額の国際比較
10. 共通通貨ユーロと中央銀行の貸借対照表
11. 外国為替平衡操作と不胎化政策の資金循環分析
12. 国際的な資金取引に関する今後の展望

履修者へのコメント：

この授業科目に関連する当該時点のニュースや話題を優先して解説する場合がある。したがって授業計画は、あくまで目安である。

成績評価方法：

学期末試験・レポート

質問・相談：

授業時間終了後に受け付ける。

時系列分析 a (秋学期)
時系列分析 b (秋学期)

セット履修
准教授 田中辰雄

授業科目の内容:

学部 3, 4 年生と大学院生を対象に時系列分析の基礎を講義する。経済データは時系列として与えられることが多く、そこに着目したさまざまな分析手法がある。データとしては株価や利子率など金融データだけでなく、マネーサプライと物価などマクロ変数や、さらに最近では時系列とクロスセクションを組み合わせたパネルデータもよく用いられる。予測や因果性のテストなど応用例もひろく、話題は多岐にわたる。本講義ではよく使われる大事な手法に絞り込み、その上で、実際に使えるようになることを目的とする。

取り上げるテーマは (1) 差分方程式の安定性と確率過程の定常性, (2) ARMA モデルの同定, 推定, 予測 (3) ユニットルート過程とその ADF 検定, (4) Cointegration (共和分) と Error correction モデル, (5) VAR モデルと因果性のテスト, (6) パネル分析, などになる予定である。

実際に使えるようになるためには、データを使って推定プログラムを動かす作業が必要である。したがって、演習として何回か課題を出してもらう。課題では学生諸君自ら現実のデータを使って簡単な推定作業を行い、それを提出することになる。

出発点で前提とする知識として計量経済学概論レベルの知識を前提とする。すなわち古典的仮定のもとでの回帰分析の経験があることを前提とする。計量経済学中級の授業の知識があれば役立つが、本講義ではそれらを前提とはしない。必要な数学や計量分析の知識は講義のなかで適宜補充する。大学院生も含む講義ではあるが、できるだけ基礎から組み上げていく方法をとるので、意欲さえあれば誰でも理解できるだろう。こういう講義では途中でわからなくなると間違いなく落ちこぼれるので、課題演習により、理解を確認しながらすすみたい。

ベイズ統計学 a (春学期)
ベイズ統計学 b (秋学期)

准教授 中妻照雄

ベイズ統計学 a (春)

授業科目の内容:

ベイズ統計学は推測の対象となる未知の変数 (パラメータ) を確率変数として扱い、データが与えられた下での条件付確率分布 (事後分布) を使ってパラメータの分析を行う統計学です。ベイズ統計学はデータがもたらす情報だけでなく個人の主観的な判断や専門家の意見などのデータ以外の情報も分析に組み入れることができるという特徴を持っています。また、ベイズ統計学は不確実性の下での意思決定と親和性が高いため、アカデミックな分析のみならず実務での応用も広がっています。ベイズ統計学は日吉の「統計学 & 」で習った統計学 (古典的統計学) とはかなり異なるアプローチなので最初は戸惑うかもしれませんが、基本的にベイズの定理を適用するだけなので慣れてしまえばベイズ統計学の方が楽です。「ベイズ統計学 a」では、ベイズ統計学の基本的流れを理解することを目指します。

テキスト:

中妻照雄『入門ベイズ統計学』朝倉書店, 2007 年

参考書:

- ・繁榎算男『ベイズ統計入門』東京大学出版会, 1985 年
- ・松原望『入門ベイズ統計 意志決定の理論と発展』東京出版, 2008 年
- ・渡部洋『ベイズ統計学入門』福村出版, 1999 年

授業の計画:

1. ベイズ統計学の概要
2. ベイズの定理で見えないものを類推する
3. 尤度, 事前分布, 事後分布
4. 点推定と区間推定
5. 仮説の検証と予測
6. 正規分布のベイズ分析
7. ポートフォリオ選択への応用
8. ブラック・リターマン・アプローチ
9. 回帰モデルのベイズ分析
10. マルチ・ファクター・モデルのベイズ推定
11. ベイズ・ファクターとモデル選択
12. モデル平均
13. 状態空間モデルとカルマン・フィルター

履修者へのコメント:

授業内容を理解するためには統計学, 微分積分, 線形代数の知識が必要です。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
学期末にベイズ統計学を実際のデータに応用したレポートを提出してもらい、その内容で講義の理解度を評価します。
- ・平常点 (出席状況および授業態度) による評価
毎週出席を取り講義への参加状況を見ます。

質問・相談:

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第 1 回講義で教えます。

ベイズ統計学 b (秋)

授業科目の内容:

ベイズ統計学ではコンピュータによる数値計算が極めて重要な役割を果たしています。特に近年ではマルコフ連鎖モンテカルロ (MCMC) 法と呼ばれる手法によって分析に必要な各種の計算を行うようになってきています。「ベイズ統計学 b」では、「ベイズ統計学 a」の内容を踏まえて MCMC 法によってベイズ分析を行う方法を学びます。

テキスト:

中妻照雄『入門ベイズ統計学』朝倉書店, 2007 年

参考書:

- ・小西貞則他『計算統計学の方法 ブートストラップ・EM アルゴリズム・MCMC』朝倉書店, 2008 年
- ・豊田秀樹他『マルコフ連鎖モンテカルロ法』朝倉書店, 2008 年
- ・古谷知之『ベイズ統計データ分析 R & WinBUGS』朝倉書店, 2008 年
- ・和合肇他『ベイズ計量経済分析 マルコフ連鎖モンテカルロ法とその応用』東洋経済新報社, 2005 年

授業の計画:

1. ベイズ統計学とモンテカルロ法
2. 擬似乱数の生成法
3. マルコフ連鎖の定義と性質
4. マルコフ連鎖サンプリング法
5. ギブズ・サンブラー
6. 回帰モデルの MCMC 法によるベイズ推定
7. データ拡大法
8. 潜在変数を含む回帰モデルのベイズ推定
9. パネル・データ分析
10. 混合分布モデル
11. MCMC 法による状態空間モデルのベイズ分析
12. 隠れマルコフ・モデルのベイズ分析
13. M-H アルゴリズム

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

標本調査論 a (春学期)
標本調査論 b (秋学期)

セット履修
教授 (有期) 稲葉由之

授業科目の内容:

集団やそれに含まれる個体の状況を把握する方法の一つとして、調査を実施して、得られた調査データを分析する方法が挙げられる。この方法は、調査データの収集と分析という 2 つの段階に分けることができる。本講義の目的は、調査データの収集に関する能力を育成することである。「標本調査」とは、ある集団の状況を知るために、その集団の一部を調べて推測を行う統計的方法である。集団全てを調べる全数調査に対して、標本調査は費用と時間を節約することができる。また、標本抽出方法などは集団の特徴に合わせて設定されるため、データを分析する際には調査の内容を理解しておくことが必要である。

テキスト:

特に指定しない。

参考書:

- ・浅井晃『調査の技術』日科技連, 1987 年
 - ・松井博『標本調査法入門』日本統計協会, 2007 年
- 他は講義中に紹介する。

授業の計画:

1. 標本調査の基礎
2. 調査の企画
3. 調査票の設計
4. 標本設計
5. 調査の実際

履修者へのコメント:

標本抽出方法や標本誤差に係わる内容を理解するには、統計学の基礎的な知識が必要となります。

成績評価方法:

授業中に実施する試験と学期末試験、レポートの結果による評価。

質問・相談:

第 1 回の講義において指定します。

授業科目の内容：

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の導入と展開に関する史的考察を通して近代日本の社会主義思想について理解を深めることにある。

テキスト：

テキスト無し

参考書：

- ・ 糸屋寿雄『日本社会主義運動思想史』（ ）法政大学出版局，1979年
- ・ 太田雅夫『初期社会主義史の研究』新泉社，1991年
- ・ 荻野富士夫『初期社会主義思想論』不二出版，1993年 他

授業の計画：

年度開始の授業においてガイダンス1回。以下、次の内容について講義する予定。

- 1868（明治元）年～1896（明治29）年 近代社会思想の導入
 1. 「社会」，「社会思想」及び「社会主義」概念の導入について
 2. 「東洋社会党」結成前後と「自由民権」運動の思想的系譜
- 1896（明治29）年～1911（明治44）年
 - 「社会問題」と「社会主義」の展開期
 1. 社会問題研究会と社会主義研究会
 2. 社会主義協会の設立とその活動
 3. 社会民主党の結成
 4. 『新社会』と龍溪矢野文雄
 - 「転換期」と日本における「社会主義」について
 5. 明治社会主義の終焉 大逆事件

履修者へのコメント：

社会主義思想，社会思想（史）に関心のある学生諸君の出席を期待する。

成績評価方法：

試験の結果による評価

特に基準を設けることはしないが，時に応じて，小テストを課すことがある。

授業科目の内容：

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の導入と展開に関する史的考察を通して現代日本の社会主義思想の理解を深めることにある。

テキスト：

テキスト無し

参考書：

- ・ 松沢弘陽『日本社会主義の思想』筑摩書房，1973年
- ・ 渡辺徹・飛鳥井雅道 編『日本社会主義運動史論』1973年
- ・ 糸屋寿雄『日本社会主義運動思想史』，法政大学出版局，1980年，1982年
- ・ 岡本宏『日本社会主義研究』成文堂，1988年

授業の計画：

秋学期開始最初の授業においてガイダンス1回。以下、次の内容について講義する予定。

- 1912（大正元）年～1919（大正8）年
 - 「冬の時代」と第一次大戦
1. 友愛会とその時代
2. ロシア革命と米騒動 第一次世界大戦下の動向
3. 大正デモクラシーの潮流
4. 「社会思想」の全面的展開
 - 1919（大正8）年～1926（昭和元）年
 1. 社会主義同盟の結成
 2. 「アナ・ボル」論争
 3. 日本共産党の創立
 4. 総同盟の分裂
 - 1926（昭和元）年～1931（昭和6）年 普通選挙と社会主義
 1. 「無産政党」と社会主義運動
 2. 「左派」と「右派」の対立
 - 日本社会主義の原型をめぐる問題
 3. 「労農派」の結集
 - 1932（昭和7）年～1945（昭和20）年
 - 「ファシズム」と「社会主義」
 1. 「32年テーゼ」とコミンテルン
 2. 日本資本主義論争と「講座派」
 3. 戦時下における日本の抵抗運動
 4. 戦前期日本における社会主義運動と日本の「社会主義思想」
 - その「連続性」と「非連続性」及び「再生と復活」に寄せて

履修者へのコメント：

社会主義思想，社会思想（史）に関心のある学生諸君の出席を期待する。

成績評価方法：

試験の結果による評価

特に基準を設けることはしないが，時に応じて，小テストを課すことがある。

東欧・ロシア社会経済思想史 a（春）

授業科目の内容：

1989～91年の東欧・ロシアの旧体制の崩壊から，すでにおよそ20年を経過した。その後の体制転換過程に伴うこれらの国々の矛盾に充ちた変動と，更に21世紀初頭の中・東欧のEU加盟と，その後の問題も含めて，資本主義のグローバル化に伴う混迷に充ちた世界史的現実の中で，西側世界の矛盾とも関連して，これらの歴史的諸事象の意味を理解する努力は，今日，極めて大切な学問的課題であり，又，これらの事象は多くの人々の関心をひくに足るものである。

しかし，こうした事象を理解するには，これらの国々の歴史的諸問題の理解が不可欠である。本講義 a（春学期）では，ヨーロッパからアジアにまたがる後発的大国ロシアの近代化とその社会経済思想の展開を，17，18世紀～20世紀初頭の時期について，いわゆる中・東欧との比較を考慮しながら講義する予定である。その際，基軸をなすのは，社会経済思想と民族または国民の問題である。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。履修者は必ず講義に出席をし，ノートに自ら執る心掛けをもってほしい。また，必要に応じて，講義中にプリントやコピー類を配布することもある。

参考書：

講義の進行に応じ適宜指示するが，当面，森宏一『ロシア思想史』（同時代社 1990年），トマーシュ・G・マサリック，石川達夫訳『ロシアとヨーロッパ』（成文社 2002年），同，石川・長興訳『ロシアとヨーロッパ』（成文社 2004年），同，石川・長興訳『ロシアとヨーロッパ』（成文社 2005年），石川郁男『ゲルツェンとチェルヌィシェフスキー』（未来社 1988年），『ロシア史 2，18～19世紀』（山川出版 1994年），Andrzej Walicki, A History of Russian Thought, Oxford, 1988 等がある。

授業の計画：

1. 序 イントロダクション。講義で扱う学問領域とその意義，講義の概観と計画，特に社会経済思想史の対象としての「東欧」とロシア，これに関連する西欧経済思想
2. いわゆる「本源的蓄積」論と「東欧」・ロシアの問題
3. アダム・スミスの「先行的蓄積」論と「東欧」・ロシアの近代化
4. ピョートル，エカテリーナの改革とロシアの啓蒙思想
5. ロシアの啓蒙思想とロシアのインテリゲンチヤ
6. スラヴ主義と西欧主義および革命的民主主義
7. 古典的ナロードニキの代表的文献
8. ナロードニキ主義とマルクスの理論，特に『資本論』，ロシアとポーランドの比較を含む
9. ロシア資本主義論争とその諸段階，哲学論争
10. ロシア資本主義論争，経済論争
11. プレハーノフの経済思想とロシア社会論
12. マルクス，エンゲルスとロシア，他
13. 19～20世紀初頭のロシアの大学の経済学者達及び総括

履修者へのコメント：

基本的には，授業への出席，自ら講義内容をノートに執ること，及び，この科目の主題への学問的関心を主体的にもってほしい。授業計画は，上記の通りであるが，多少の変動は，順番，内容ともありうる。また，同科目 b（秋）とセットであることを注意すること。

成績評価方法：

・ 試験の結果による評価

成績評価基準は，原則的には春秋年2回の期末筆記テスト又はそれに準ずるものによるが，a，b（春，秋）セット科目なので，a，bとも合格することが，合格には必要である。

・ 平常点（出席状況および授業態度）による評価

日常の出席状況も考慮の対象となるが，詳しくは，履修状況をみて具体的に決める要素もあるので，履修者の確定した段階で明確にする予定である。

質問・相談：

学習内容についての質問・相談は歓迎するが，評価方法については，上記のとおりなので，原則的には応じられない。質問は，講義終了時に教室で，学年，クラス，氏名，学籍番号を書いて，用紙（自ら用意）で提出のこと。

東欧・ロシア社会経済思想史 b（秋）

授業科目の内容：

1989～91年の東欧・ロシアの旧体制の崩壊から，すでにおよそ20年を経過した。その後の体制転換過程に伴うこれらの国々の矛盾に充ちた変

動と、更に21世紀初頭の中・東欧のEU加盟と、その後の問題も含めて、資本主義のグローバル化に伴う混迷に充ちた世界史的現実の中で、西側世界の矛盾とも関連して、これらの歴史的諸事象の意味を理解する努力は、今日、極めて大切な学問的課題であり、又、これらの事象は多くの人の関心をひくに足るものであろう。

しかし、こうした事象を理解するには、これらの国々の歴史的諸問題の理解が不可欠である。本講義b(秋学期)では、講義a(春)の続きとして、我が国では比較的認識の浅い中・東欧、とりわけ、主にポーランドを中心に、社会経済思想と民族または国民の問題を基軸に講ずる。その際、必要に応じてロシアや他の中・東欧諸国にも関係して言及する。

テキスト：

春学期参照

参考書：

当面、南塚信吾(編)『東欧の民族と文化』(彩流社 1989年)、阪東宏(編著)『ポーランド史論集』(三省堂 1996年)、ケニエーヴィッチ『歴史家と民族意識』(未来社 1989年)、同氏(編著)『ポーランド史』(恒文社 1986年)、『講座スラブの世界』(弘文堂 1996年)、伊東・井内・中井(編)『ポーランド・ウクライナ・バルト史』(山川出版 1999年)、南塚(編)『ドナウ・ヨーロッパ史』(山川出版 1999年)、柴(編)『バルカン史』(山川出版 1999年)、谷川稔(編)『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』(山川出版 2003年)、小倉欣一(編)『近世ヨーロッパの東と西』(山川出版 2004年)、白木太一『近世ポーランドの「共和国」の再建』(彩流社 2005年)、

又、英文として、Jerzy Jedlicki, A Suburb of Europe, Budapest 1999, M. Albertone & A. Mascero., Political Economy and National Realities, ed. Torino 1994 等がある。

授業の計画：

1. イントロダクション。講義の概観と計画、社会経済思想史の対象としての中・東欧、特にポーランド
2. いわゆる「東欧」概念と東西ヨーロッパの相違と格差についての諸説
3. 分割前ポーランドの国家と社会、この時期のポーランドの経済思想
4. ポーランド分割とポーランドの啓蒙思想、特に、ポーランドの重農主義
5. 19世紀前半のポーランド史の主要問題とこの時期のポーランドの国民経済学
6. 19世紀後半のポーランドの社会経済思想の主な潮流(1) organic work (praca organiczna)
7. 19世紀後半のポーランドの社会経済思想の主な潮流(2) ナショナリズムと社会主義
8. フルシャワ・ポジティヴィズムとポーランド社会主義思想としてのクルシンスキ派
9. 農業問題をめぐるポジティヴィズム、社会主義、ナロードニキのポーランドにおける 1883-4年の論争
10. L. クシヴィツキと彼の著『農業問題』(1903年)について
11. 「東方市場」論争とポーランドの工業化
12. R. ルクセンブルクの経済思想と民族問題
13. ポーランド以外の中・東欧の経済思想について、及び総括

履修者へのコメント：

受講者は以下の点を心掛けてください。

講義への出席、自ら講義ノートを執ること、この科目への学問的関心を主体的にもつこと。上記計画の多少の変動はありうる。同科目a(春)とセットであることを注意すること。

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

日本経済思想史 a (春学期)	セット履修
日本経済思想史 b (春学期)	教授 小室正紀

授業科目の内容：

経済社会をどのようにとらえるか、またいかに経済社会に対処すべきか、さらにどのような経済社会を理想とするか。このような経済についての思考は、実は、国により、また時代により歴史的にさまざまであり、こうした思考の特質を認識することなしに自他の経済社会を深く理解することはできない。このような観点から、この講義では日本における経済思想の原点を江戸時代と明治時代に探してみたい。江戸時代にまで遡るのは、経済社会の展開とともに、この時代に経済思想の「原型」が次第に形成され、それが明治以降にまで影響を与えたと考えるからである。また、明治時代には、欧米という異なった社会で形成された経済思想が流れ込み、それを独自に受け止めながら、それまでの経済思想が変容されていったと見るからである。このような歴史的な考察を通して日本における経済観の特質に迫ってみたい。なお、明治期に関しては、時間の関係から、福沢諭吉の経済思想を中心としながら考えることとする。

テキスト：

使用しない。

参考書：

- ・川口浩『江戸時代の経済思想』勁草書房、1992年
- ・経済学史学会(編)『日本の経済学』東洋経済新報社、1984年
- ・小室正紀『草莽の経済思想』御茶の水書房、1999年
- ・逆井孝仁他(編)『日本の経済思想四百年』日本経済評論社、1990年
- ・テッサ・モーリス鈴木『日本の経済学』岩波書店、1984年
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂、1998年
- ・川口浩(編)『日本の経済思想世界』日本経済評論社、2004年

授業の計画：

1. 日本代経済思想史の課題
2. 儒学の受容と社会経済認識：朱子学を中心として
3. 江戸時代経世済民論の原型：熊沢蕃山・山鹿素行
4. 民間経済社会認識の原型：伊藤仁斎
5. 経験的社会経済認識の成立：荻生徂徠・新井白石
6. 元禄・享保期農民の思想：宮崎安貞・田中丘隅
7. 元禄・享保期町人の思想：井原西鶴・石田梅岩
8. 「藩重商主義」への流れと国益思想：太宰春台・林子平・海保青陵
9. 江戸時代後期の民間経済思想：三浦梅園・本居宣長・草間直方
10. 危機への対処と新体制への展望：後期水戸学・本田利明・佐藤信淵
11. 幕末農民の精神と民富の思想：二宮尊徳・大蔵永常 etc.
12. 福沢諭吉の経済思想：明治前期
13. 福沢諭吉の経済思想：明治後期

履修者へのコメント：

履修にあたって留意すべき点については、最初の講義の時に話す。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・出席状況による評価

質問・相談：

授業時間内。あるいは授業時間に時間を調整して面談。

経済学史上のマルクス(春学期)	教授 寺出道雄
-----------------	---------

授業科目の内容：

この講義では、1) 本来的には古典学派の一員であったマルクスの経済学について、その要点を簡潔に解説するとともに、2) そのマルクスの経済学が、日本においてどのように考察されてきたのかについて一瞥する。すなわち、マルクスの名著『資本論』の核心部分には、古典学派的な経済理論の体系が存在するのであるが、それはどのようなものであるかを述べ、そうしたマルクスの経済学における古典学派的な要素を、『資本論』のなかから純化して抽出しようとした、日本における研究に関して述べるのである。

参考書：

- ・寺出道雄『資本主義分析の経済学』御茶の水書房、2000年
- ・寺出道雄『知の前衛たち 近代日本におけるマルクス主義の衝撃』ミネルヴァ書房、2008年

授業の計画：

- 1) スミス・リカード・マルサスとマルクス(2回)
- 2) マルクスの経済学
 - 商品・貨幣・資本の概念(1回)
 - 賃金論・利潤論(2回)
 - 資本蓄積論(3回)
 - 資本の蓄積
 - 再生産表式
 - 景気循環
 - 経済発展論(1回)
- 3) マルクスの経済学と日本
 - 日本資本主義論争(1回)
 - 三木清と広松渉(1回)
 - 宇野弘蔵(1回)
 - 柴田敬と置塩信雄(1回)

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・レポートによる評価

質問・相談：

随時質問に応じる

近代日本と東アジア a (春学期)	セット履修
近代日本と東アジア b (秋学期)	教授 柳沢遊

授業科目の内容：

この講義は、近代日本の資本主義的発展と東アジア諸地域との相互関係を、1900~1940年代に限定して考察するものである。満鉄をはじめとして、多くの企業が、日露戦争後から、東アジア諸地域(特に都市)に進出し、営業を展開していた。本講義のねらいは、20世紀前半期の日本企業のアジア進出の諸形態と論理を、歴史的に明らかにすることにある。こうした作業によって、近代日本が、中国を中心とした東アジア諸地域になぜ深いかかわりをもち、外交面での不安定化を生じて、戦争を遂行

していったが、マイクロストーリーの次元から明らかになるであろう。それは、21世紀初頭のわたしたちの「東アジア」への向きあい方を再考するささやかな一歩となるかもしれない。

テキスト：

・柳沢遊『日本人の植民地経験 大連日本人商工業者の歴史』青木書店、1999年

・大石嘉一郎編『戦間期日本の対外経済関係』日本経済評論社、1992年

・高橋明善ほか『国際化時代に生きる日本人』青木書店、1991年

参考書：

・柳沢遊・木村健二（編）『戦時下アジアの日本経済団体』日本経済評論社、2004年

・岡部牧夫編『南満州鉄道会社の研究』日本経済評論社、2008年

授業の計画：

1. 帝国主義時代の日本と東アジア（2回）
2. 満鉄（南満州鉄道株式会社）の設立（2回）
3. 20世紀初頭の日本人の「満州」進出（2回）
4. 第1次大戦期、帝国日本の膨張（3回）
5. 「慢性不況」下の在華日本人経済界（2回）
6. 「満州」侵略の社会経済的基盤（3回）
7. 「満州国」体制下の都市経済（2回）
8. 「大東亜共栄国」形成の衝動（2回）
9. 日本人の「引揚げ」（2回）
10. 日本資本主義の発展と東アジア（2回）
11. 近代日本と東アジア（小括）（2回）

履修者へのコメント：

講義にできるだけ出席し、配布されるレジュメをもとに自分の頭で、疑問をもちながら講義内容を考えていってください。受講生はレポートを提出することもできます。

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・1ヶ月に1度、質問カードを配布します。

質問・相談：

講義の直後に質問する。1ヶ月1回の質問カードに疑問を記述する。

東欧経済史 a（秋学期）

東欧経済史 b（秋学期）

セット履修

准教授 崔 在 東

授業科目の内容：

本講義では、東欧諸国の近代から現代までの変化を概観する。対象はエルベ川以東ウラル山脈以西の地域である。ロシアをはじめ、ウクライナ、ベロロシア、ポーランド、ハンガリー、チェコ・スラヴァキア、ルーマニア、ブルガリア、旧ユーゴスラビアなどがここに入る。

本講義の問題意識と内容は、以下のようである。

第1に、東欧諸国（特にロシア）の前近代社会（特に農村社会・家族構造）は、西欧や中欧諸国のそれとは異なる性質を有している。前近代社会の特質は近代社会への移行に大きな影響を及ぼすため、東欧諸国の前近代社会の特質と近代化過程の特殊性についての解明は、東欧諸国の史的発展の基底を理解し、西欧諸国のそれを相対化するために有益である。

第2に、東欧諸国と中欧の多くの諸国は、ヨーロッパの「周辺」として位置づけられながら、社会主義体制を経験するという特殊性を有している。ロシアにおける社会主義革命の勃発は当地の前近代社会の特質に深い根を持つと同時に、ロシア型社会主義システムもそれに大きく規定されている。一方、中欧諸国における社会主義体制への移行は第2次世界大戦の結果として外部からもたらされた側面が大きい。ロシアで作られたシステムは中欧諸国にも移植されていくが、それぞれの伝統社会の特質とぶつかり合い、そのため、同じ社会主義国家であっても東欧諸国と中欧諸国の間では相違点が出てくる。東欧諸国と中欧諸国とにおいて社会主義システムがどのように形成されかつ変貌したのかは、西欧中心のヨーロッパ経済史では十分に取り扱うことができなかった20世紀最大の問題の一つである。

第3に、旧社会主義圏の東欧諸国と中欧諸国は、現在、社会主義から資本主義への移行を経験する中でダイナミックな変化を経験している。ソ連の崩壊によって歴史としての社会主義は事実上終焉を告げ、それらの諸国は資本主義への移行と土地の私有化・国営企業の民営化など西欧諸国がはるかに前に経験した課題に直面している。そうしたなかで、多くの国はすでにEUに加入し、ウクライナまでEUへの加盟が焦点となっている。他方、各国における私有化と民営化の過程はかなりの相違が見られているが、そこには社会主義以前の社会的特質が影響している。

テキスト：

特に指定しません。講義資料のプリントを配布します。

参考書：

随時紹介する。

授業の計画：

1. ヨーロッパの二元性：農奴制
2. 東欧諸国の農民共同体とロシアのミル共同体
3. 東欧諸国とロシアの農家家族と人口
4. 農奴（農民）解放
5. 東欧諸国とロシアの工業化
6. 農民運動・労働運動と社会主義運動

7. 農業の変革とストルィピン農業改革

8. 第1次世界大戦

9. 1917年ロシア革命とNEP（新経済政策）

10. 大戦の結果と東欧の再建

11. 集団化とスターリン体制の成立

12. 社会主義体制下の工業化と計画経済システム

13. 戦間期の経済構造

14. 第2次世界大戦と東欧社会主義諸国の成立

15. スターリン主義と「新経路」

16. 均衡的発展の模索とフルシチョフ改革

17. 東欧諸国の成長と停滞

18. コメコンと社会主義経済ブロック

19. ソ連経済の停滞とペレストロイカ

20. 東欧の民主革命

21. 東欧諸国とロシアにおける経済体制の移行

22. 農業改革と私有化

23. 自由市場体制の導入と民営化

24. 労働市場の構造と労使関係

成績評価方法：

・試験の結果による評価：定期試験期間内の試験

・レポート

・平常点：出席状況および授業態度による評価

南アジア経済史 a（春学期）

南アジア経済史 b（秋学期）

セット履修

准教授 神 田 さやこ

授業科目の内容：

近年インドは目覚ましい経済発展をとげており、経済的にも政治的にも国際社会における発言力を増加させている。同時に、インドをはじめとする南アジア地域は、貧困や格差、環境、エネルギーなどの国際社会が共有する深刻な問題も数多く抱えている。本科目では、こうした南アジア地域の経済発展のダイナミズムおよび社会・経済の諸問題への理解を深めるために、歴史的背景と同地域のさまざまな経済制度やそれらを形づけてきた社会的・文化的特徴について学習する。

テキスト：

なし

参考書：

授業時に適宜指示する。

授業の計画：

本科目は、効果的な学習ができるように、通史・概説（春学期）と各論（秋学期）の2部構成とする。初回では、本講義のイントロダクションとして近年のインド経済の興隆とその背後にある貧困や格差、環境などの諸問題をとりあげ、本講義で考察すべき課題を明らかにする。春学期には、1500年頃から約500年間の南アジア経済・社会の長期的変化を、世界経済の動向および国際環境のなかでの変化と内生的変化の2つを軸に時系列的に考察する。

秋学期には、南アジア経済・およびその歴史を理解する上で重要なトピックスを取りあげて個別に考察を行い、ヨーロッパ、イスラム世界、日本、中国などの他地域との比較を通じて、「南アジア的」経済発展のあり方や「南アジア的」経済諸制度の特徴について理解を深める。主要トピックスには、環境、エネルギー、商取引制度、市場、経営、人口変動と移住、労働、金融制度、農業、土地制度、貧困、統合のあり方（「国家」とカースト）などが含まれる。最終回では、南アジアの長期的な経済発展（あるいは経済的停滞）に関する経済史の理論や比較史的アプローチなどの議論を紹介し、1年間の総括を行う。

成績評価方法：

授業内小テスト（春学期・秋学期各2回程度）

質問・相談：

授業後およびオフィス・アワーに対応。

社会福祉論（秋学期）

教授 駒 村 康 平

授業科目の内容：

社会福祉は、生活保護、児童福祉、高齢者福祉、障害者福祉といった分野から構成される。これらは、対人社会サービスとよばれ、さまざまな理由で不利な立場の人々を対象にした公的なサービス給付である。社会福祉では、1) 低所得者の生活を支援する生活保護制度の仕組みと問題点、2) ケアを必要としている子どもや家族そして仕事と生活の両立基盤になる児童福祉の仕組みと問題点、3) 介護保険が大きな役割を果たしつつある高齢者福祉、4) 障害者福祉の課題、について学んでいきます。

テキスト：

駒村康平『福祉の総合政策』創成社、2008年

授業の計画：

総論として、1) 社会保障概論、2) 対人社会サービスをめぐる仕組み、課題について、最初に学びます。次に各論として、1) 生活保護、2) 児童福祉、3) 高齢者福祉、4) 障害者福祉のテーマに入ります。

履修者へのコメント：

社会政策論の履修をすすめる。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

経済政策のミクロ分析 a (春学期)

セット履修

経済政策のミクロ分析 b (秋学期)

准教授 藤田康範

経済政策のミクロ分析 a (春)

授業科目の内容：

この講義では、政策論議への関心を高め、ミクロ経済理論に基づいて様々な経済政策について分析する能力を身につけることを目標とします。ゲーム理論、新産業組織論、契約理論などの近年の進展をも踏まえて講義を行います。可能な限り平易に説明するように努めますので、特別な予備知識は不要です。

何らかの事情で欠席した場合でも復活可能にするため、2~3回で1つのまとめにする予定です。

詳細については、第1回の講義の際に説明します。

テキスト：

特にありません。毎回レジメを配布します。

参考書：

- ・藤田康範『経済・金融のための数学』シグマベイスキャピタル
- ・藤田康範『よくわかる経済と経済理論』学陽書房
- ・藤田康範『よくわかる金融と金融理論』学陽書房

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 必要な経済理論の復習 (2回)
3. 貿易政策のミクロ分析 (3回)
4. 環境政策のミクロ分析 (3回)
5. 医療政策のミクロ分析 (3回)
6. まとめ

順番は状況によって前後する可能性があります。

履修者へのコメント：

暗記することよりも考えることを重視し、楽しんでいただきながらみなさんの潜在能力を引き出そうと思っています。

成績評価方法：

確認のための試験 (持込可)、レポート、平常点に基づいて総合的に判断します。

詳細については、第1回の講義の際に説明します。

質問・相談：

随時受け付けます。

経済政策のミクロ分析 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 必要な経済理論の復習 (2回)
3. 途上国支援政策のミクロ分析 (3回)
4. 財政政策のミクロ分析 (3回)
5. 金融政策のミクロ分析 (3回)
6. まとめ

順番は状況によって前後する可能性があります。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

ファイナンス入門 a (春学期)

ファイナンス入門 b (秋学期)

准教授 新井拓児

ファイナンス入門 a (春)

授業科目の内容：

本講義では、確定的なキャッシュフローを持つ場合のファイナンス理論について論じる。

ファイナンス現象は基本的に不確実性を伴うが、ファイナンス理論の基

礎的概念を理解するために、確定的なモデルをじっくり扱うこととする。

講義の中で無限級数の計算を多用する。

テキスト：

なし

参考書：

ルーエンパーガー著、今野、鈴木、枇々木訳『金融工学入門』日本経済新聞社

授業の計画：

1. イントロダクション
2. 金利の基礎 (2回)
3. Fixed-income security (4回)
4. 金利の期間構造 (2回)
5. 動的計画法 (2回)

履修者へのコメント：

ファイナンス入門 b も履修するとより効果的である。

成績評価方法：

試験の結果による

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

ファイナンス入門 b (秋)

授業科目の内容：

不確実性を伴うファイナンス理論を取り扱う。

前半はポートフォリオ最適化問題を扱い、個別銘柄の収益率とマーケット全体の収益率に関する関係式である CAPM を導くことを目標とする。

後半は、オプションの価格付け理論を扱う。

最も単純なモデルである 1 期間 2 項モデルを用いて、裁定機会、マルチンゲール確率、市場の完備性、数理ファイナンスの基本定理を解説する。

テキスト：

春学期参照

参考書：

授業中に紹介する。

授業の計画：

1. 平均-分散アプローチによるポートフォリオ最適化問題 (3回)
2. CAPM (2回)
3. 価格付け理論のイントロダクション
4. 1 期間 2 項モデルにおけるオプション価格付け理論 (6回)
5. リスク管理とバリュアットリスク

履修者へのコメント：

ファイナンス入門 a を履修していることが望ましい。

成績評価方法：

試験による

質問・相談：

春学期参照

公共政策 a (春学期)

公共政策 b (秋学期)

教授 土居丈朗

公共政策 a (春)

授業科目の内容：

我が国の公共政策の立案過程において、経済理論の知識を求められる機会が増えている。この科目は、公共政策の多種多様な課題に対応するため、より総合的、応用的な視点に立って、政策を分析・評価するのに資する経済学的素養を習得することを目指す。

他の科目と比したこの科目の特徴は、具体的な政策課題に対して具体的な分析手段を示しながら政策形成過程を紹介する点である。例えば、郵政民営化の立案過程において、郵政事業の現状での問題点や郵政民営化の利点をどのように分析し、その具体策をどのように取りまとめるに至ったかを、具体的事例を交えて講義する。

このような公共政策の立案について、経済学の立場からしっかりとした見識を体得するには、現行制度の理解とともに経済理論に裏打ちされた視座が必要である。この講義で取り上げるそれぞれの政策について、現行制度と経済理論をバランスよく理解を深められるように講義を進める。適宜、経済財政諮問会議や各種審議会等での議論や提出資料も紹介する。

主な講義内容は、以下の通りである。

1. 公共政策の評価に必要な知識
2. 公共政策の経済学的評価手法 (理論分析)
3. 公共政策の経済学的評価手法 (計量分析)
4. 政策の具体的事例研究
 - ・ 税制改革
 - ・ 社会保障改革 等

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

- ・ 土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社
- ・ ヒルマン『入門財政・公共政策』勁草書房

その他参考文献は、講義中に適宜指示する。

公共政策 b (秋)

授業科目の内容：

我が国の公共政策の立案過程において、経済理論の知識を求められる機会が増えている。この科目は、公共政策の多種多様な課題に対応するため、より総合的、応用的な視点に立って、政策を分析・評価するのに資する経済学的素養を習得することを目指す。公共政策 b は、公共政策 a で学んだ公共政策の経済学的評価手法を基礎として、政策の具体的事例研究に重点を置く。

他の科目と比したこの科目の特徴は、具体的な政策課題に対して具体的な分析手段を示しながら政策形成過程を紹介する点である。例えば、歳出歳入一体改革の立案過程において、財政赤字の削減という政策課題に対して、これを実現するために歳出削減や増税がいくらか必要かをどのように分析し、その具体策をどのように取りまとめるに至ったかを、具体的事例を交えて講義する。

このような公共政策の立案について、経済学の立場からしっかりとした見識を体得するには、現行制度の理解とともに経済理論に裏打ちされた視座が必要である。この講義で取り上げるそれぞれの政策について、現行制度と経済理論をバランスよく理解を深められるように講義を進める。適宜、経済財政諮問会議や各種審議会等での議論や提出資料も紹介する。

主な講義内容は、以下の通りである。ただし、公共政策 a を受講していることが望ましい。

1. 公共政策の経済学的評価手法 (要約)
2. 政策の具体的事例研究

参考書：

- ・竹中平蔵『構造改革の真実』日本経済新聞社
 - ・ヒルマン『入門財政・公共政策』勁草書房
- その他参考文献は、講義中に適宜指示する。

成績評価方法：

期末試験に基づき評価する。

公共選択論 a (春学期)

公共選択論 b (秋学期)

講師 川野辺 裕 幸

公共選択論 a (春)

授業科目の内容：

公共選択論の入門講義です。政治を経済学の分析道具で研究する学問分野が近年急速に拡大してきました。私利私欲を追求する個人を出発点にして政治現象を研究する公共選択論は、政治学の分野では合理的選択論 (Rational Politics) または合理主義政治学と言われていて、アメリカ政治学会では主流派を形成するようになってきています。わが国でも、経済政策論を研究する上で、政府の特性や政治的な意思決定を分析することが必要であると見なされるようになり、公共選択論は経済政策学において欠くことのできない分野を形成するに至っています。

講義では政府を構成する市民、政治家、利益集団、官僚等の行動を公共選択論にしたがって解説します。それとともに最近のトピックについても触れたいと思います。

テキスト：

加藤寛 (編)『入門公共選択：政治の経済学』勁草書房

参考書：

授業中に随時提示します。

授業の計画：

1. 外部性と集合的行動
 - ・公共選択論の前提
 - ・集合的行動の前提
2. 民主主義的意思決定の特徴
 - ・意思決定に伴う外部性と投票のパラドックス
 - ・中位投票者定理と画一性
 - ・選好の強度とログ・ローリング
 - ・選好の強度を反映させる仕組み
3. 代議制民主主義下の意思決定の特徴
 - ・政党と政治家：空間競争モデル
 - ・有権者：合理的無知と近視眼的選好
 - ・利益集団とレント・シーキング
 - ・官僚：独占的供給主体
4. わが国の政治システムの特徴
 - ・利益集団型民主主義
 - ・選挙制度改革と政策決定
5. 公的部門の改革

履修者へのコメント：

春学期の公共選択論 a は基礎的な理論を考えますが、できるだけ現実に即した例を挙げて考えていこうと思います。Web に履修者専用のページを設けます。

成績評価方法：

・試験の結果による評価：5 割 期末に行います。

・レポートによる評価：5 割 中間に課題を出します。

質問・相談：

分からないところは授業中に随時受け付けますが、(成績以外の質問は)メールで受け付けます。kawanobe@mail.pem.u-tokai.ac.jp

公共選択論 b (秋)

授業科目の内容：

公共選択論の応用講義です。安倍政権になって構造改革はどうなるのか、小泉政権とは何だったのか。この 10 年の大きな制度転換を、公共的意思決定システムを中心に考えることをこの講義の目的とします。対象は具体的で、講義は問題解決的です。いままでの制度の特徴は何か、なぜいままでの制度がうまく機能しなくなってしまったのか、構造改革はどのような制度転換をもたらそうとしたのか、それはどう評価すべきか、どのような制度設計が必要なのか等について、公共選択論と新制度学派の経済理論に基づいて検討します。

キーワードは、裁量対ルール、自己統治、少子・高齢化、IT 革命、グローバル化、成熟化、地方分権。

現代日本政治経済論というジャンルにはいるので、この分野に興味のある学生に向けています。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 制度転換・講義の方針とルール
2. 公共選択論と新制度学派経済学
3. 日本型システム
 - ・始まりはいつか
 - ・日本は特殊か
4. 日本型政策決定システム
 - ・政治制度
 - ・財政運営・中央対地方政府
 - ・マクロ政策・金融行政・産業政策
5. 構造改革とは
 - ・制度転換の契機：IT 革命とグローバル化・少子・高齢化・成熟化
 - ・制度間競争と制度転換の理念：自己統治

履修者へのコメント：

秋学期の公共選択論 b はアップデートなテーマを扱います。履修者数にもよりますが、できるだけ皆さんに考えて発表してもらいながら、あるべき制度を考えていこうと思います。

成績評価方法：

- ・授業内試験の結果による評価：5 割
- ・レポートによる評価：5 割

質問・相談：

春学期参照

NPO 経済論 a (春学期)

教授 山田 太 門

授業科目の内容：

近年、政府の財政における諸々の制約を原因として、政府に代わって民間部門が公共的財・サービスを提供する活動が目立っている。いわゆるボランティア活動や企業のフィランソロピー活動などの非営利公益活動がこれに当たる。これらの活動は個々に行われるだけでなく、むしろそれらの活動が複合した形で様々な組織化されており、各種の財団、社団などの公益法人が存在している。この講義の目的は、これらの民間非営利組織とその活動が全体の経済の中にどのように位置づけられるかを理論経済学的に説明し、またこれら非営利部門 (第 3 セクター) に対する全体および個別の制度、政策がどうあるべきかを公共経済学の理論を用いて検討することである。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

- ・山内直人『ノンプロフィット・エコノミー』日本評論社、1997 年
- ・島田晴雄 (編著)『開花するフィランソロピー』TBS プリタニカ、1993 年

授業の計画：

1. マクロ経済における NPO 部門
2. 政府部門と NPO
3. 寄付行動とボランティア活動
4. 非営利活動の経済理論
5. 租税制度と非営利活動
6. 公益法人制度
7. 企業のフィランソロピー活動
8. NPO と民間営利企業の関係
9. 助成活動と事業活動 (ファンド・レイジング)
10. 福祉・医療と NPO

- 11. 教育とNPO
- 12. 文化・芸術とNPO (文化経済学)

履修者へのコメント:

できるだけNPO経済論bとセットで履修することが望ましい。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

NPO 経済論 b (秋学期)

講師 西村 万里子

授業科目の内容:

今日、公共サービス改革 (行政改革) の進展に伴い、NPO は、福祉 (介護、児童、障害者)、教育、環境、貧困 (ホームレス、ニート)、地域再生などの多様な分野において、公共サービス提供の担い手として注目されている。

本講義では、まず、公共サービス分野における NPO の位置づけと特性を理論的に検討し、次に、NPO をめぐる法政策を概説する。続いて、近年の行政改革と関連する NPO の動向に焦点をあてて、日本および海外の事例もとりあげながら考察する。期末には、NPO や協働の事例について学生による報告を行う。

テキスト:

特定の教科書は使用しない。講義レジュメを用意する予定である。

参考書:

- ・『NPO と新しい社会デザイン』同文館出版、2004 年
- ・『イギリス非営利セクターの挑戦』ミネルヴァ書房、2007 年
- ・『ソーシャル・エンタープライズ: 社会貢献をビジネスにする』丸善、2008 年

授業の計画:

1. 講義ガイダンス
2. 経済・社会における NPO
3. NPO の主要理論 (経済・政治理論)
4. NPO の規模・構造、法政策
5. NPO の税制、ガバナンス
6. 英国の行政改革と NPO: 行政と NPO のパートナーシップ
7. 日本の行政改革と NPO: 福祉改革、地域開発政策と、行政と NPO の協働
8. 日本の行政改革と NPO: 民間委託、指定管理者制度と NPO
9. NPO と企業の協働
10. NPO とコミュニティ・ビジネス、社会的企業
11. NPO 及び協働の事例について学生による報告
12. "
13. "

成績評価方法:

- ・期末の試験 (あるいはレポート)、学生報告による評価
- ・平常点 (積極的な発言、不定期の出欠調査)

格差と援助の経済学 a (春学期)

格差と援助の経済学 b (秋学期)

准教授 大平 哲

格差と援助の経済学 a

授業科目の内容:

経済格差を理解するための経済理論、およびその応用例を学習する。くわしくは <http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/aid/> に掲載。

履修者へのコメント:

秋学期開講の格差と援助の経済学 b との連続性はあるが、授業の内容、成績評価方法は大きく異なるので注意してください。

成績評価方法:

学期末試験の点数で決める。学期末試験は授業内試験とする。

質問・相談:

随時受け付ける。 <http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/aid/> にある連絡先に連絡すること。

格差と援助の経済学 b

授業科目の内容:

援助の実際を理解する。格差に関する経済理論の知識があることを前提にする。くわしくは <http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/aid/> に掲載。

履修者へのコメント:

春学期開講の格差と援助の経済学 a との連続性はあるが、授業の内容、成績評価方法は大きく異なるので注意してください。

成績評価方法:

平常点を重視した上で、学期末試験の点数との合計点で評価する。

質問・相談:

春学期参照。

現代中国経済論 (春学期)

准教授 駒形 哲哉

授業科目の内容:

本講義では、「中小企業」を切り口に、中国の体制移行と市場経済化を論ずる。

雇用の場、起業家の自己実現の場、市場の変化への迅速で弾力的な対応が可能な供給者として、中小企業は市場経済の存続と発展に不可欠の存在である。他方、中小企業は資本主義経済では、大企業との関わりにおいて固有の問題をもち、それゆえに「中小企業論」は一つの独立した学問分野となっている。中国においても「反独占法」(独禁法に相当)が 2007 年に全国人民代表大会 (国会) の常務委員会を通過したが、このことから「中小企業論」の基盤が形成されつつあると把握してよいのだろうか? この講義では、中国における中小企業の動態、諸特徴、政策等について、主に担当者が参加したプロジェクトの成果や実際に調査を行った個別事例にもとづきながら論じ、体制移行期にある中国経済に固有の中小企業論の構築を試みる。

テキスト:

拙著『移行期・中国の中小企業』(税務経理協会、2005 年 7 月)を用いる。必要に応じて講義資料を配布する。

参考書:

講義のなかで紹介する。

授業の計画:

以下の各テーマについて、1~2 回を使って論じていく。

- (1) なぜ中小企業なのか 企業区分尺度の収斂が意味すること
- (2) 郷鎮企業が村を変えた 天津郊外村にみる村営企業の役割と地域変容
- (3) 「異端」から「主役」へ 市場経済形成のリーディングエリア・温州
- (4) 「王国」の再興 天津・自転車産業の事例
- (5) 産地市場の「秘密」 紹興・合織産業の事例
- (6) 産業集積の「興亡」 瑞安の靴下加工とウールセーター産業の事例
- (7) 借金の保証人をつくれ 中小企業金融と信用保証制度の現状
- (8) 中国の市場経済は「若い」のか 東アジアのなかの中国中小企業
- (9) 移行期・中国の中小企業論 その射程

成績評価方法:

基本的に定期試験によるが、履修者数によっては出席を加味したり、授業内レポートを課したりする場合がある。

世界経済論 a (春学期)

セット履修

世界経済論 b (秋学期)

教授 竹森 俊平

授業科目の内容:

本講義では、金本位制が確立した 19 世紀後半から現代までの世界経済の流れを、特に金融面に注目して解説する。1930 年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19 世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりえず参考書として次の 3 点を挙げておく。

- ・ Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press
- ・ 拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・ 拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

開発経済学 a (春学期)

セット履修

開発経済学 b (秋学期)

名誉教授 高梨 和紘

開発経済学 a

授業科目の内容:

開発の途上にある諸国の経済現象を分析し、特定の開発目標を達成するための政策手段を検討することが、この学問の狙いである。分析にあたっては、新古典派の経済理論が基本に据えられる。しかし、開発途上諸国においては経済活動の指針となるはずの財、サービス、生産要素等の「価格」は、市場それ自体の分断性や硬直性等の理由のために歪みを伴っている。また経済開発の初期段階から制約要因としての環境、エネルギー、ジェンダー等の問題を抱えている。したがって、市場が正しく機能することを前提に右肩上がりの経済成長をひたすら追及する近代経済学の分析手法をそのまま当てはめる訳にはいかない。このような理由から、開発経済学を学ぶ際にわれわれに求められる学問の姿勢としては、

開発とは何かという問題意識を鍛え上げつつ、新古典派経済学の分析手法を中心に据えながらも、隣接する諸学問の知識を動員し、開発の諸問題に取り組むことが望まれる。その方向でこの講義を進めていきたい。

テキスト：

- ・山形辰史、黒田卓『開発経済学』日本評論社、2003年
- ・高梨和紘（編著）『開発経済学』慶應義塾大学出版会、2005年

参考書：

- ・速水佑次郎『開発経済学』創文社、2000年
- ・高梨和紘（編著）『アフリカとアジア 開発と貧困削減の展望』慶應義塾大学出版会、2006年

授業の計画：

経済開発の理論的展開と国際機関による国際開発政策の評価を13回に分けて行う。

履修者へのコメント：

常に問題意識を持って、聴講してほしい。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況）による評価

開発経済学 b

授業科目の内容：

経済開発政策のうち、発展途上諸国の低開発地域に焦点を絞り、マイクロファイナンス、OTOP等の最貧困層をターゲットとした開発政策、教育のあり方や途上国政府のガバナンスの問題をとり上げる。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

内発的發展を導く、様々なプロジェクトを事件として分析の対象にする。また、人的開発についても後半に扱い、全体で13回にわたって実践的開発政策を分析する。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS (秋学期)

講師 林 秀 毅

授業科目の内容：

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part 1, each lecture will be based on different chapters of Gilson (2000) and in part 2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts. In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class, composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

テキスト：

Gilson, Julie, Japan and the European Union A partnership for the Twenty-First Century?, Palgrave Macmillan, 2000 (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

参考書：

Kaji, Kokusai tuuka taisei-no keizaigaku, Nikkei, 2004

授業の計画：

Part 1.

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)
- Chapter 2 Developing Cooperation 1950s-80s (2, 3)
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Europe (4)
- Chapter 4 European Integration and its Changing Views of Japan (5, 6)
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7)
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (8)
- Chapter 7 Addressing Global Agendas (9)
- Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century (10)

Part 2.

- Germany, France and Benelux (11)
- Italy, Spain, Portugal and Greece (12)
- UK, Ireland, Nordic and Central/Easter European Countries (13)

履修者へのコメント：

Any students who are interested in Europe are welcome, regardless of the faculties and the grades.

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価 30% (End-of-term Examination)
- ・レポートによる評価 60% (Aggregate score of each weekly report)
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価 10% (According to the contribution of students by active questions and comments)

質問・相談：

Anytime during class, also by e-mail

国際マクロ経済学 a (春学期)

国際マクロ経済学 b (春学期)

教授 櫻川 昌 哉

国際マクロ経済学 a (春)

授業科目の内容：

本講義では、国際マクロ経済学における基本概念である国際収支統計、貨幣と利子率、為替レートの決定などについて解説する。この科目を基礎編とすれば、秋学期に開講される「国際金融論 b」は応用編にあたるので、国際マクロ経済学・国際金融論をひと通りマスターしたい学生は両方を履修することを勧める。

テキスト：

藤井英次『コア・テキスト国際金融論』新世社

参考書：

クルーグマン『国際経済学』エコノミスト社

授業の計画：

『コア・テキスト国際金融論』の第2 第6章を順次行う。

1. 国民経済計算と国際収支統計 (2回)
2. 貨幣とマクロ経済 (2回)
3. 為替レートと外国為替市場 (3回)
4. 金利と為替レート (3回)
5. 物価と為替レート (3回)

履修者へのコメント：

国際マクロ経済学を習得するということは、単に講義に出て単位をとることではない。基本的なことは教えるが、関連すると思う本を片っ端から読んで（もちろん自分で探す）、本質的なことを体で身につけることを期待する。

成績評価方法：

試験による評価

質問・相談：

随時

国際マクロ経済学 b (春)

授業科目の内容：

本講義では、世界経済でここ最近起きている様々なトピックスをテーマにした講義を行う。本年度扱う予定のトピックスは、リスクと金融危機、アブノーマルな国際資本移動、世界的な経常収支不均衡、バブルなどである。世界情勢の変化に応じて内容に変化がありうる。

テキスト：

櫻川昌哉『市場への審判（仮題）』現在執筆中

参考書：

櫻川昌哉『金融立国試論』光文社

授業の計画：

1. バブル (4回)
2. 世界的な経常収支不均衡 (3回)
3. リスクと金融危機 (3回)
4. アブノーマルな国際資本移動 (3回)

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

地域経済論 (春学期)

講師 高橋 孝 明

授業科目の内容：

経済構造の質的転換の中で、国民経済の内部における成長地域と停滞地域が明確になるとともに、国境を越えた生産や消費のネットワークが築かれるようになり、国を越えた地域経済間の競争と協力も現実のものとなっている。また、EUをはじめ、地域経済統合の行方が世界経済の今後を決める要因の一つとなろうとしている。本講義は、このような背景の下で地域経済への関心が高まっている現実を踏まえて、地域経済の分析と課題について、入門的な講義を行い、地域経済の基礎的理解を深めることを目的とする。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

開講時に指示する。

授業の計画：

時間に応じて、以下の項目から適宜選択して講義を進める。

1. はじめに
 - 1.1 地域経済学とは
 - 1.2 地域経済学の目的
 - 1.3 地域経済学の方法
 - 1.4 国民経済のサブ・システムとしての地域経済，グローバル経済のサブ・システムとしての地域経済
2. 地域経済の空間構造
 - 2.1 産業立地の理論 (1) ウェーバー理論
 - 2.2 産業立地の理論 (2) モーゼスの理論
 - 2.3 空間的競争の理論
 - 2.4 地理的集中の要因
 - 2.5 地理的集中のメカニズム産業立地と集積の利益
3. 経済活動の地理的集中
 - 3.1 集積の要因
 - 3.2 地理的集中のメカニズム
4. 地域経済の成長
 - 4.1 ケインズ型所得・支出モデル
 - 4.2 需要主導型モデル
 - 4.3 供給主導型モデル
 - 4.4 需給混合型モデル
 - 4.5 地域経済のテイク・オフ
5. 地域間格差
 - 5.1 地域間格差の概念
 - 5.2 地域間格差の動向
 - 5.3 地域間格差縮小の理論
 - 5.4 地域間格差が存続する理由
 - 5.5 地域間人口移動
6. 地域経済の階層構造
 - 6.1 中心地と都市システム
 - 6.2 地域経済における階層構造の生成メカニズム
 - 6.3 グローバル都市ネットワークと地域経済

履修者へのコメント：

意欲的な学生の参加を希望する。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

随時オフィスアワーを設けるが、事前にメールで担当教員に連絡をとり、日時を決めること。

連絡先：takaaki-t@csis.utokyo.ac.jp

アジア社会史 a (春学期)	セット履修
アジア社会史 b (秋学期)	教授 倉 沢 愛 子

アジア社会史 a

授業科目の内容：

新しい文明の到来，外国による植民地支配，さらには近年の経済発展などの結果東南アジア社会はどのような社会変容を体験してきたのかを論じる。

前期は，そのような開発政策のもとで現実にかかえている様々な社会問題や社会現象を個別にとりあげて詳細に見てゆく。具体例を提示するために対処をインドネシアに絞り，倉沢が調査を続けている，ジャカルタの低所得者居住地区と，ジョクジャカルタの農村とを例にとりあげる。映像などを使いながら授業を進める。

テキスト：

『ジャカルタ路地裏フィールドノート』中央公論新社，1991年

参考書：

倉沢愛子編著『都市下層の生活構造と移動ネットワーク』明石書店

授業の計画：

- (1) (2) 大都市の変容 (都市計画とスラムの破壊)
- (3) 農村社会の変容 (緑の革命 etc)
- (4) 伝統社会の崩壊と日本式隣保制度
- (5) 教育
- (6) 公衆衛生
- (7) 環境問題
- (8) 開発と女性 (ジェンダー問題)
- (9) 新中間層の台頭
- (10) 開発と宗教
- (11) グローバル化する文化
- (12) メディア
- (13) 労働力移動

履修者へのコメント：

新聞で報道される東南アジア関係記事程度の予備知識は用意してきて欲しい。

成績評価方法：

試験の結果による評価

三分の二以上の出席が無い場合は受験資格がない。(正規の課外活動や，就職試験などやむをえない事情によって欠席する者は証明を添付して届け出れば考慮する)

質問・相談：

火曜日 3限に研究室にて。それ以外の時間はメールにてアポイントをとること。

アジア社会史 b

授業科目の内容：

新しい文明の到来，外国による植民地支配，さらには近年の経済発展などの結果東南アジア社会はどのような社会変容を体験してきたのかを論じる。

後期は，先ず東南アジアという世界の領域，歴史，社会的特性などについて基礎的な全体像を講義する。さらに，東南アジア諸国が推し進めている開発政策の特徴や，それに関連して行われている国際機関や諸外国の経済協力の実態について概観する。

参考書：

倉沢愛子『「大東亜」戦争を知っていますか』講談社新書，2002年

授業の計画：

- (1) 東南アジアとは？
- (2) (3) 東南アジアの伝統社会と新文明 (中国文明，ヒンドゥー文明，イスラム文明の到来)
- (4) (5) 植民地支配下の東南アジア社会 (植民地経済，西洋文明，近代化 etc)
- (6) (8) 日本軍の占領と東南アジア社会
- (9) 東南アジア諸国の独立と国家建設
- (10) 東南アジア諸国における経済開発の開始
- (11) 外資の導入と工業化
- (12) (13) 経済協力の諸問題

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

ラテンアメリカ社会史 a (春学期)	セット履修
ラテンアメリカ社会史 b (秋学期)	名誉教授 清 水 透

ラテンアメリカ社会史 a (春)

授業科目の内容：

この講義では，西欧文明とインディオ社会との関係系を具体例をとりあげ，現代の諸問題の原点を近代以降の歴史のなかにさぐります。同時に，政治史・経済史を中心に描かれてきた従来の歴史叙述と歴史の方法について，社会史の視点から検討を加えます。

具体的には，30年にわたり私が通いつづけてきたメキシコのマヤ系インディオ村落チャムーラ社会でのフィールドワークの体験を織りまぜつつ，「発見」以降のラテンアメリカの歴史を，インディオ村落の側から見つめなおし，そこから見えてくる歴史と「未開」社会の価値の世界が，テロと報復戦争で幕を開けた 21 世紀に生きる私たちに，何を問いかけているか，じっくり考えてみたいと思います。究極的には，「近代といのち」というテーマを追究することとなります。

参考書：

清水透『エル・チチョンの怒り メキシコ近代とアイデンティティ』東京大学出版会，2005年

授業の計画：

- 1) インディオと私
 - ：自分史
 - ：研究対象と自己
- 2) 1492年と他者の創造
 - ：「発見」の現代性
 - ：外延的他者化・内延的他者化
- 3) 「文明」の空間と「野蛮」の空間
 - ：植民地支配と空間構造の再編
 - ：境界領域の主体性
- 4) 「文明」の神とインディオの神
 - ：アメリカ大陸へのキリスト教の伝播
 - ：民族衣装を着せられたキリスト
- 5) 「野蛮」の抵抗
 - ：「敗者の歴史」再考
 - ：逃亡という名の抵抗・共生という名の抵抗

6) 市民社会・国民国家と「釣り合わない軌」

- ：メノナイトと「釣り合わない軌」
- ：国民国家と「釣り合わない軌」

履修者へのコメント：

下記の成績評価方法からも明らかとなり、就職活動等による欠席は、成績評価の際に全く考慮されない点を、十分承知したうえで、聴講するか否かを定めること。

成績評価方法：

レポートによる評価

- ・講義内容の論点・コメント・批判・疑問点について、毎回レポートを提出すること。字数制限なし。
- ・レポートは次週の講義中に回収する。代理提出は認めない。
- ・提出されたレポートについて7段階評価を行い、最終講義日までの総得点のみにより、成績評価を行う。したがって、追加レポート、追試験等は実施しない。

ラテンアメリカ社会史 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- 7) 近代化のなかの「野蛮」
 - ：白色国民国家構想
 - ：「野蛮」の清算と未征服空間の征服
- 8) 近代化と共同体
 - ：インディオ村落と近代化法制
 - ：「野蛮」の祭りと資本主義
- 9) 「自分探し」と混血性
 - ：死せるインディオ・生けるインディオ
 - ：安住の地「メソティゾ論」
- 10) メキシコ革命とインディオ共同体
 - ：「自由自治体法」と共同体の自治
 - ：カルゴ・システムの空洞化
- 11) 村の液状化・都市の液状化
 - ：越境するインディオ
 - ：都市のインディオ化
- 12) サパティスタ運動から見えるもの
 - ：インディオの蜂起と低強度戦争
 - ：虐殺の村、アクテアルで考える
- 13) 「文明」とは？「近代」とは？
 - ：「文明」と他者
 - ：「文明」と身体・いのち

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

地方財政論 (秋学期)

教授 金子 勝

授業科目の内容：

「三位一体」改革に示されるように、日本の国と地方の財政関係は大きな転機を迎えている。その中で地域間の格差拡大が進み、とりわけ夕張市の財政再建団体への転落をはじめ、大都市や輸出産業が立地している地域以外の地方財政がしだいに困難に陥り始めている。その過程を追いながら、あるべき国と地方の財政関係のあり方について考える。

参考書：

- ・林健久(編)『地方財政読本』東洋経済新報社
- ・神野直彦・金子勝『地方に税源を』東洋経済新報社
- ・金子勝・高端正幸『地域切り捨て』岩波書店

授業の計画：

1. 日本における政府間関係：戦後の歩み
 - 1) 高度成長期における集権分散システムの形成
 - 2) 石油ショック後の田中角栄型利益政治の合理性と非合理性
 - 3) 1990年代における景気対策の歪み
 - 4) 地方分権推進をめぐる対立点
2. 進行する地方財政格差
 - 1) 夕張市の財政再建団体転落
 - 2) 進む地域間格差
 - 3) 医療・介護制度の動揺
 - 4) 市町村合併と地方財源のあり方
3. 地域経済問題と再生の動き

成績評価方法：

定期試験を実施して評価する。

フランス植民地社会史 a (春学期)
フランス植民地社会史 b (春学期)

セット履修
准教授 難 波 ちづる

授業科目の内容：

かつて世界第二の規模をもつ植民地帝国を築いていたフランスにおいて、過去の植民地支配をめぐる問題は依然として濃い影をおとし続けている。フランスが現在抱える移民問題をはじめとする様々な問題だけでなく、広くフランス社会や文化を理解するためにも、植民地支配の実態を把握することが不可欠である。植民地主義がもたらした影響を理解し、フランス革命の理念である「自由、平等、博愛」を掲げる「人道的」な共和主義と植民地主義がどのようにリンクして発展していったのかを把握することを目的とする。主に19世紀以降のフランスによる植民地支配の歴史を、主にインドシナを中心に、マダガスカル、アフリカ、カリブ海諸国も対象とし、日本やイギリスなど他の列強諸国による植民地統治との比較という視点をおりこみながら講義をする。長らく帝国史の支配的な枠組みであった、経済、外交、軍事的側面だけではなく、教育、家族、性、都市、文化、日常生活など、「社会史」が歴史の重要な分析対象として扱ってきた分野を射程にいれることによって、「全体的」な植民地支配の歴史の把握をめざす。

テキスト：

講義中に指示する。

参考書：

講義中に指示する。

授業の計画：

以下の問題を春学期集中で講義する。

- ・現代フランスにおける植民地支配の遺産
- ・フランス植民地支配の通史
- ・植民地支配と教育、家族、性、都市、文化、日常生活
- ・植民地支配と戦争（第一次世界大戦、第二次世界大戦、独立戦争）
- ・植民地支配と移民問題
- ・フランス、イギリス、日本の比較

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

講義終了時に随時受け付ける。

戦争と社会 (秋学期)

教授 長谷川 淳 一
教授 矢野 久

授業科目の内容：

20世紀は「戦争と虐殺の世紀」と呼んでも過言ではない、戦慄すべき時代であった。この科目は、過去における戦争の経験と、21世紀の現在も依然として起こっている戦争がつきつける生々しい現実、さらには、実は日本も直面する、明日にでも戦争が起きかねないような危険をはらんだ情勢を、広く社会との関連で考察するものである。講師には、本学部の教員に加えて、さまざまな分野で活躍する学外の専門家を招き、各講義の最後には、受講生との討論を行うことも予定している。講義担当者自身も、それぞれが専門とする、ドイツとイギリスにとっての第二次世界大戦の後始末の歴史的分析を行う予定である。

テキスト：

とくに指定しない。

参考書：

適宜、紹介する。

授業の計画：

第1回目の授業を、イントロダクションとし、受講上の注意や成績評価方法について詳しく説明する。

成績評価方法：

平常点と、最終授業時または定期試験期間内のいずれかに実施予定の試験の結果とを中心に行う。

財政社会学 a (秋学期)
財政社会学 b (秋学期)

セット履修
准教授 井手 英 策

授業科目の内容：

かつてシュンペーターは「財政史の告げるところを聴くことのできるものは、他のどこでもよりかはっきりと、そこに世界史の轟きを聴くのである」と述べた。本講義では、財政を通じた人々の欲求充足のあり方と、これを前提に成り立つ産業社会の全体像、それが抱える問題を理論面、実態面から解き明かすことを課題としている。格差社会や日本型雇用システムの動揺、空前の財政赤字など、いま私たちの目の前で起きつつある社会のダイナミックな変動を読み解くことが課題である。

参考書：

ダニエル・ベル『脱工業社会の到来』『資本主義の文化的矛盾』神野直彦・井手英策『希望の構想』をあげておくが、必要な文献については講義において適宜指示する。

授業の計画：

講義予定は、以下の通りである。

1. 社会秩序はいかにして可能か？
2. 共同性と公共性
3. 財政民主主義の意義と限界
4. 日本社会の諸特徴と小さな政府
5. ポスト工業社会とグローバル化
6. あらたな産業社会モデルの台頭
7. 社会はなぜ社会たりえるのか

成績評価方法：

学期末試験およびレポートの総合評価で行う。

質問・相談：

随時受け付ける。

簿記 a (春学期)
簿記 b (秋学期)

セット履修
講師 千葉 洋

簿記 a (春)

授業科目の内容：

会計は企業における経済活動を企業資本の機能活動の具現形態とみなし、その運動の経過ないしは末を計数的に測定・描写して企業資本の統一的・全体的な管理を行おうとする技術的な行為であり、複式簿記はこうした企業資本の統一的・全体的な管理を行うためのいわば装置としての役割を果すものである。

本講義では複式簿記の基本構造とその一巡の主要手続きとを体系的に解説する。なお理解を深めるために随時演習も課す予定である。

テキスト：

山根忠恕『複式簿記原理（新訂版）』千倉書房

授業の計画：

ガイダンス（1回）

複式簿記の基礎

1. 複式簿記の意義と特質 (計2回)
 2. 勘定科目の設定 (計2回)
 3. 取引の仕訳 (計2回)
 4. 元帳への転記 (計2回)
 5. 試算表の作成 (計2回)
- 勘定科目詳説（その1） (計2回)
（その2）

決算の諸手続き

1. 決算予備手続き
2. 決算本手続き

精算表と財務諸表

総括

（その2）、総括は簿記 b での授業予定）

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

授業時および終了時に受け付けます。

簿記 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

授業の計画：

ガイダンス（1回）

複式簿記の基礎

1. 複式簿記の意義と特質
2. 勘定科目の設定
3. 取引の仕訳
4. 元帳への転記
5. 試算表の作成

（その1）は簿記 a での授業予定）

勘定科目詳説（その2） (計6回)

決算の諸手続き

1. 決算予備手続き (計3回)
2. 決算本手続き (計3回)

精算表と財務諸表

総括（1回）

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

演習（半期）(春学期)水3

専任講師 赤林 由雄

授業科目の内容：

この科目では、各種の統計資料とくに国民経済計算（SNA）を中心に体系的に理解することを目的としています。

諸君はマクロ経済学を一・二年生で学ばれていますが、そのマクロ経済学に登場するさまざまな変数について概念としては知っていても、では実際に現実にそれらの数値がどのような値をとっているか、その数値はどのように推計されているのか、について理解している学生はあまり多くありません。おそらく「国民経済計算」と言われてそれが日本のマクロ統計のおおもとであることすら知らない学生もいるのではないかと考えられます。

そこでこの演習では、国民経済計算を中心とする、実際の統計データを使って、そのデータを整理しながら、国民経済計算の枠組みを理解していくこととなります。もちろん国民経済計算のデータだけですべてが完結するわけではありませんので、その国民経済計算と関係するその他の統計データについても扱うこととなります。

実はこの内容は「経済資料論」と一部重複します。が、「経済資料論」は大教室での講義という性格上、十分な演習は行うことはなかなかできません。しかし少人数でのこの授業ではそれが可能です。受講者を「統計資料まみれ」状態にすることで、各種の統計についての理解を深めさせる、というのがこの演習の目的です。キツイようですが、そうすることが理解を深めるための早道だと私は信じています。したがってかなり多くの宿題が課されることは覚悟の上で受講してください。

また、この演習においては、大量のデータを整理し、集計する必要がありますが、この授業ではその作業をパーソナルコンピュータの表計算ソフト Microsoft Excel を使って行います。ただし「情報処理」の授業ではありませんので、Excel の使い方をここで教える余裕はありません。この授業は、受講者諸君が最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える（「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる）ことを前提として行います。Excel が使えない場合にはこの演習にはついていくことができませんのでその点も了解した上で受講してください。

追加的な情報について、WWW でお知らせすることがありますので、受講の前に <http://web.econ.keio.ac.jp/staff/akab/> をみておいてください。

テキスト：

最初の授業の際に指示します。

授業の計画：

授業は学生のレベルを考慮しつつ進行します。主な内容は次のとおりです。

- ・勘定体系の考え方
- ・日本の SNA の概要
- ・統合勘定
- ・制度部門別勘定を使った統合勘定の組み換え
- ・米国の SNA

履修者へのコメント：

上記の通り Microsoft Excel を使って演習を行いますので、最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える（「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる）ことを前提として4月からの授業は行います。

またインフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC、教育支援システムを利用しますので、三田 ITC の Windows アカウント、keio.jp のアカウントをもっていることも必要です。

なお、追加的な情報については、WWW でお知らせしますので、<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/akab/> をご覧ください。

成績評価方法：

基本的には平常点です。ただし参加する人数が多くなった場合にはレポートを併用する可能性もあります。

演習（半期）(春学期)水4

専任講師 赤林 由雄

授業科目の内容：

この科目では、産業連関分析、ならびにその前提としての国民経済計算（SNA）を体系的に理解し、現実の経済を分析するための手法を身につけることを目的としています。

また演習においては現実のデータである公表された産業連関表を用いてさまざまな分析を受講者諸君にやらせよう予定です。

産業連関分析はかなり強力なツールですが、分析のために膨大な量の計算を必要とします。ある程度型にはまった分析であれば、公表された表に付随している計数表をみることでわかることもありますが、特定の部門について詳細に分析したいときや、さまざまな仮定においてシミュレーションを行いたいときには、自分でそのような計算をやらなければなりません。2行2列の行列演算で足りるような仮設例としての産業連関

表での分析であれば筆算や電卓でも計算できますが、いやしくも現実の経済を分析しようというのならここでは数十から数百部門の行列での掛け算や逆行列計算が必要になります。そのためには、コンピュータを使った計算ができなければお話になりません。

これらの計算は、以前であれば、プログラミングができなければ難しかったのですが、最近では Excel のような表計算ソフトによって（小規模の表であれば）行うことは可能です。この演習では、この Microsoft Excel を使ってさまざまな産業連関分析の計算を行う予定です。

テキスト：

最初の授業の際に指示します。

授業の計画：

授業は学生のレベルを考慮しつつ進行します。主な内容は次のとおりです。

- ・ SNA と産業連関表
- ・ 産業連関分析の理論的枠組
- ・ 日本の産業連関表の特徴
- ・ 実際の表を使った基本的な分析

履修者へのコメント：

上記の通り Microsoft Excel を使って演習を行いますので、最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える（「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる）ことを前提として4月からの授業を行います。

またインフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC、教育支援システムを利用しますので、三田 ITC の Windows アカウント、keio.jp のアカウントをもっていることも必要です。

なお、追加的な情報については、WWW でお知らせしますので、<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/akab/> をご覧ください。

成績評価方法：

基本的には平常点です。ただし参加する人数が多くなった場合にはレポートを併用する可能性もあります。

演習（半期）（春学期）

准教授 井手 英 策

授業科目の内容：

近年、国際金融において市場の不安定化が大きな問題となりつつある。同時に、従来の枠に収まりきれないような新しい中央銀行政策が次々と実施に移されつつある。本演習では日銀やアメリカ FRB の発表するレポート、論文をもとに、こうした金融政策の現状を捉え、これを課題とする。

テキスト：

その都度、授業の前に配布する。

授業の計画：

報告担当者を決め、その報告に基づいて議論を行う。また、経済状況が流動的なため、適宜各国の中央銀行が実施する金融政策の現状に関する報告を求める。

成績評価方法：

出席状況のほか、毎回の報告と討論、期末のレポートにより総合的に評価する。英語の文献が多くなるためしっかりと準備をしておくことが求められる。

質問・相談：

随時受け付ける。

演習（半期）（春学期）

教授 太 田 聰 一

授業科目の内容：

テーマは若年雇用問題とし、若年失業、七五三離職、ニート等の問題を考える上で参考になる日本語文献を、読んでいきたい。必要に応じて、経済学のみならず教育社会学や産業社会学の文献も視野に入れてゆく。形式としては、最初は基礎的な文献を示し、そのいくつかを輪読の形で読んでいくが、参加者の関心に基づいた報告も行ってもらうことを考えている。

テキスト：

初回に論文・著書などの紹介を行う。

参考書：

玄田有史『働く過剰 大人のための若者読本』NTT 出版

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）による評価

質問・相談：

適宜メール等でも行えるように考える。

演習（半期）（秋学期）

Seminar in Intellectual History

教授 坂 本 達 哉

授業科目の内容：

This course will center on the theme of Keio University's founder Yukichi Fukuzawa (1835-1901), his thought and its legacy to our time.

Among his numerous works, both academic and popular, is included "Encouragement of Learning" (『学問のすすめ』) as the single most famous and influential. This course will read this classical text on chapter-by-chapter basis in English translation from a variety of perspectives, historical, philosophical and social. Prospective students will be welcome who are seriously interested in the overall character and the precise details of one of the greatest intellectual leaders of the time. Any prior knowledge of Fukuzawa's life and work will not be required.

This course will also be offered at International Center for international students. I truly hope that the course will present an opportunity for intellectual exchanges between Japanese and non-Japanese students. Official language of this course will be English, but some subsidiary use of Japanese will be allowed.

テキスト：

An English copy of the work will be provided as soon as registered students are confirmed.

参考書：

Throughout the course, a number of reference works will be introduced.

授業の計画：

Every class will start from a presentation by previously appointed students and Sakamoto's comments and class discussion will follow.

履修者へのコメント：

Any student with an interest in Fukuzawa's life and work will be welcome.

成績評価方法：

A comprehensive assessment will be made on the basis of attendance, participation and the final essay.

演習（半期）（秋学期）

教授 細 田 衛 士

授業科目の内容：

本演習では、現実には起きている環境問題を素材として、経済学的に分析・実証すること、そしてその内容を口頭発表・論文発表することを目的とする。したがって、本演習を履修するものは、充分なるミクロ経済学・マクロ経済学（および望むらくは統計学）の知識があることが求められる。また、2週間に1度の頻度で口頭発表があたり、また発表以外のときには質問・コメントすることを要請されるので、毎回の授業で十分準備する必要がある。

素材の具体的例としては次のようなものが挙げられる。

1. 地球温暖化問題
2. 土壌汚染問題
3. 生物多様性保全問題
4. 資源循環問題
5. 熱帯雨林過伐採問題
6. オゾン層破壊問題
7. 有害物質管理問題
8. 里山保全問題
9. 景観保全問題

その他

テキスト：

特になし

参考書：

・環境経済・政策学会編『環境経済・政策学の基礎知識』有斐閣、2006年
・栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』有斐閣、2008年

授業の計画：

- (1) 授業ガイダンス
- (2) 各自口頭発表
- (3) 必要な場合フィールドワーク
- (4) 論文作成
- (5) 論文概要発表

履修者へのコメント：

個人の相当なコミットメントが求められる。中途半端な気持ちでの履修は避けられたい。就職活動を理由とする授業の欠席には一切考慮を払わない。

成績評価方法：

口頭発表・レポート・出席による総合評価

質問・相談：

適宜受ける。ただし、時間の制約上対応できない場合もあることをあらかじめ述べておく。なお、質問・相談は原則講義内容にかかわるものとする。

演習 a（春学期）

セット履修

演習 b（秋学期）

教授 飯 塚 敏 晃

授業科目の内容：

この演習は、担当者の研究会（4年）に準ずる科目で、研究会（3年）と2時間限続きで開講し、研究会メンバーのみに履修を認める。授業では、

産業組織論のテキストを中心とした輪読を行う。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

授業中に指示する。

授業の計画：

研究会メンバーが、持ち回りでパワーポイントを用いた発表を行う。

履修者へのコメント：

研究会の項を参照

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

随時。

演習 a（春学期）

セット履修

演習 b（秋学期）

教授 池尾和人

演習 a（春）

授業科目の内容：

今回出版されることになった八田教授の『ミクロ経済学』は、従来の多くの類書とは異なり、「ミクロ経済学的分析法を用いて、日本が直面している広範な経済政策問題に関する対応策を自分自身で考えられるようになることを目的」としている。同書をテキストとして、経済学の理論的知識を再確認するとともに、現実の問題を考える上でいかに経済学が役に立つ学問であるかを実感してもらうことを狙いとす。

テキスト：

八田達夫『ミクロ経済学』東洋経済新報社、2008年

参考書：

奥野正寛『ミクロ経済学』東京大学出版会、2008年

授業の計画：

1回に1章ずつ、ゼミナール形式で進める。

成績評価方法：

平常点

演習 b（秋）

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

八田達夫『ミクロ経済学』東洋経済新報社、近刊予定

参考書：

春学期参照

授業の計画：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

演習 a（春学期）

セット履修

演習 b（秋学期）

准教授 大平哲

演習 a（春）

授業科目の内容：

まちづくり、農村活性化などの事例に関心ある学生が集まり、テーマを絞った上で、グループ活動をしながらレポートを作成する。テーマは日本国内の事例に限らず、どこから選んでもよい。ただし、文献調査だけでなく、できるだけフィールドワークを重視しながらレポートを作成することを重視する。具体的には、実際の現場を訪問したり、現場経験をもつ人に話を聞いたりする。

テキスト：

なし

参考書：

なし

授業の計画：

初回授業時に履修者と相談の上で決定する。

履修者へのコメント：

活動的に調査をするタイプの学生が集まることを期待しています。この授業に関する詳しい情報を <http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/chiiki/index.html> に掲載します。参考にしてください。

成績評価方法：

平常点

質問・相談：

随時受け付けます。 <http://web.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/chiiki/index.html> にある連絡先に連絡をください。

演習 b（秋）

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

春学期参照

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

平常点およびレポート

質問・相談：

春学期参照

演習 a（春学期）

セット履修

演習 b（秋学期）

准教授 神代光朗

演習 a（春）

授業科目の内容：

カール・マルクス『資本論』をS. ムーアとE. エーヴリングの英訳初版で輪読する予定である。主に第一部第一篇、二篇、三篇のはじめの二つの章を予定している。即ち商品論、貨幣論、貨幣の資本への転化と絶対的剰余価値の生産あたりを中心に考えている。スミス、リカードウ、マルサス等、古典派経済学との比較検討も意識している。

テキスト：

K.Marx, F.Engels., Collected Works Volume35 "CAPITAL" Vol.1 INTERNATIONAL PUBLISHERS NEW YORK

参考書：

A. スミス『国富論』、リカードウ『経済学と課税の原理』、マルクス『経済学原理』（いずれも邦訳）などを考えているが、開講時に提示する予定。

授業の計画：

春学期は、『資本論』のはじめからいわゆる「交換過程論」あたりまでを、1回5~6ページ位で、すすめようと予定しているが、進行具合は、授業がはじまってから自ずから決まってくる。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（小レポートを課すこともありうる。）

演習 b（秋）

授業科目の内容：

春学期 a で、終わったところから、秋学期 b の『資本論』輪読を続ける。いずれも経済学史、とりわけ「古典派経済学からマルクスへ」の理論的継承関係をよみとることが眼目である。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

春学期の終わったところから、主に貨幣論を中心に絶対的剰余価値の生産あたりまでを予定している。

成績評価方法：

春学期参照

演習 a（春学期）

セット履修

演習 b（秋学期）

バリアフリー・ユニバーサルデザイン 准教授 駒形哲哉
教授 中野泰志

授業科目の内容：

現在、我が国の少子・高齢化傾向は加速し、高齢化率は世界でも最高に近い水準に達しています。法的に認定された障害者だけでも600万人を超えており、65歳以上の高齢者も2500万人以上に達しています。このように、単純に人口比から考えただけでも、障害者・高齢者は、すでに全国民中の一部のマイノリティーグループとは呼べない規模に増大しています。さらに、疾病や事故・災害等での一時的な障害も含め、短期的に心身のコンディションにハンディを持つ人は多く、何よりも「すべての人が加齢とともにやがて確実に高齢者になる」という現実を考慮すれば、バリアフリー問題は、すなわち国民全体のテーマであるといえます。

若くて、健康な人にとって、特別な理由がない限り「高齢」や「障害」ということを意識することは少ないと思います。しかし、一生を考えて

みると、不自由なく、移動したり、考えたり、覚えたりできる状態に身体を保つことができるのは、一時的なことです。例えば、誰も乳幼児のときには一人では上手に食事もできなかったわけです。また、いつ病気や事故等に遭遇するかもわかりませんし、老化を避けることは誰にもできません。この意味で障害や加齢は身近な問題であり、障害や加齢の状態にある人にも住みよい社会を創っていくことは、すべての人にとって大切な課題だと言えるでしょう。

このセミナーでは、すべての人が快適に生活できる「バリアフリー（バリアのない）社会」を実現するために必要な事項について実践を行いながら、ディスカッションを行います。様々な障害のある状態を擬似的に体験するワークショップ、ノートテイク等の支援の実習、キャンパスや街のバリアチェック等の実践を通して、バリアフリー・ユニバーサルデザインについて学びます。実習は、講義時間以外にも実施することがありますので、意欲のある学生の参加を期待します。

なお、「演習 a」と「演習 b」とはセット科目（セット履修科目）とします。

本演習で一定以上の知識・技術を修めた学生には、学部長から修了証を授与いたします。

テキスト：

講義内容のポイントをまとめた資料は、web サイト「<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/nakanoy/>」よりダウンロードできます。ただし、web サイトは、パスワードによるアクセス制限をかけています。パスワードは、講義の際にお伝えします。

参考書：

- ・中島隆信『障害者の経済学』東洋経済新報社
- ・吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓『大学ノートテイク入門』人間社
- ・白澤麻弓・徳田克己『聴覚障害学生サポートガイドブック』日本医療企画

授業の計画：

本演習では、以下に列挙するテーマに関する実習を通して、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する知識・技術の修得を目指します。

テーマ 1. 障害の理解と支援

障害とは何かについて疑似体験を通して学びます。また、障害のある人への支援のあり方について、聴覚障害がある人への情報提供学習（ノートテイク）を通して学びたいと思います。

テーマ 2. 病気、障害、健康の概念

病気、障害、健康、高齢等のバリアフリーに関連する概念がどのように定義され、社会の中でどのように使われているかについて検討します。また、これらの概念が歴史的にどのように変遷してきたかについても調べていきたいと思います。

テーマ 3. バリアフリーとユニバーサルデザイン

バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉がどのように定義され、使われてきたかについて検討します。

テーマ 4. 教育のバリアフリー（特別支援教育）

障害のある子供達への教育は今、大きな転換期を迎えています。特殊教育から特別支援教育への変革です。教育を受ける権利と義務にも言及しながら、教育のバリアフリーについて検討します。

テーマ 5. リハビリテーションと福祉サービス

高齢者や障害者の介護や自立支援の問題は、経済の観点から見ても重要な問題になりつつあります。ここでは、リハビリテーションや福祉サービスの現状について調査し、最低限の生活の保障と財政問題をどのように解決すればよいかについて検討します。

テーマ 6. 科学技術の活用

今や科学技術は生活の様々な場面で有効利用されています。障害者や高齢者の生活にも深く関係しています。ここでは、障害者や高齢者の生活を支える様々な支援技術を紹介し、また、支援技術の適切な活用方法について事例や実習を交えながら検討します。

テーマ 7. 障害者や高齢者の就労支援

組織の成員として、障害者・障害者をどのように理解すべきでしょうか？ 職業を通じた社会参加の機会はいずれの人に平等なのでしょうか？ 従来、障害者の就学や雇用問題は、障害のある個人の問題として考えられてきました。しかし、WHO が 2001 年に障害の概念を環境との関係として捉え直したのを機に、障害者の問題ではなく、障害を作り出している環境（人的環境を含む）の問題として捉えられるようになりました。ここでは、障害のある人達の就学・就労における支援、ジョブコーチ、ワークシェアリング等について検討します。

履修者へのコメント：

本講義は、ゼミナール形式で実施します。基礎的な知識・技術についての解説だけでなく、理解を深めるために実習や討議を重視します。また、それぞれがテーマを選び、プレゼンテーションを行っていただきます。したがって、積極的に講義に参加できる学生を歓迎します。

成績評価方法：

平常点（出席と毎回提出を求めるショートレポート）、プレゼンテーション、レポートの得点で評価します。なお、配点は、平常点（出席とショートレポート）3 割、プレゼンテーション 3 割、実習レポート 4 割です。

質問・相談：

講義に関する質問等は、講義時間の前後もしくは電子メールで受け付け

ます。なお、電子メールのアドレスについては、講義の際に紹介します。

演習 a（秋学期）

セット履修

演習 b（秋学期）

教授 坂本達哉

授業科目の内容：

この演習は同時期に開講される私の「社会思想史」講義の履修を原則として前提とする。具体的には、講義時間内では十分に詳論できない重要論点を再論するとともに、学生諸君が講義の中で感じた疑問や新たな論点を受けとめながら、私と学生諸君との自由な意見交換とディスカッションによって展開される。必要に応じて、関連文献等をも参照しながら、より深く、近代思想の本質に迫っていく。学問とは何か、人間とは何か、近代・現代とは何か、といった根本的な問いへの答えを追い求めている者の意欲に答えていきたい。講義科目と連動した事実上の研究会（ゼミ）と考えてもらって差し支えない。ただし、時間割の関係から本演習のみの履修を希望する者も受け入れる。

テキスト：

私の「社会思想史」の講義レジュメ以外はとくに指定しない。

参考書：

講義で指示する文献以外にも適宜参照していく。

授業の計画：

毎回、当番制で講義内容の総括、疑問点の整理などを学生が行いながら、教師・学生が一体となった高度な学問的ディスカッションの場としていきたい。

履修者へのコメント：

学部等を問わず、ハイレベルな学問的討論の場を経験したいと望んでいる者の履修を歓迎する。

成績評価方法：

出席率、報告内容、討論への貢献度を総合して判定する。

演習 a（春学期）

セット履修

演習 b（秋学期）

専任講師 蔦木能雄

演習 a

授業科目の内容：

本演習では「慶應義塾と近・現代日本」をテーマにして福澤諭吉の思想と門下生たちの業績を取り上げる。今年度は転換期日本における社会問題と「社会主義思想」の関連を議論する予定である。

テキスト：

福澤諭吉『文明論之概略』他

参考書：

- ・丸山真男『文明論之概略を読む』岩波新書（上・中・下）、1986 年
- ・飯田鼎著『第 6 巻『福澤諭吉と自由民権運動』自由民権運動と脱亜論』御茶の水書房、2003 年

授業の計画：

新年度開始にガイダンス 1 回

春学期では『文明論之概略』のうち「緒言」についての考察。

巻之一

第一章 議論の本位を定る事

第二章 西洋文明を目的とする事

第三章 文明の本旨を論ず

巻之二

第四章 一國人民の智徳を論ず

第五章 前論の続き までを読了予定。

履修者へのコメント：

・「社会思想（史）」に関心のある学生諸君の参加を期待する。

・学ぶことに積極的な学生諸君を希望する。

・毎回報告、毎回報告要旨作成の必要あり。無断欠席厳禁。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）による評価

・出席重視。授業態度重視。無断欠席厳禁。

演習 b

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期では春学期に続いて『文明論之概略』のうち

巻之三 第六章 智徳の弁

巻之四 第七章 智徳の行わるべき時代と場所とを論ず

第八章 西洋文明の由来

巻之五 第九章 日本文明の由来

巻之六 第十章 自国の独立を論ず を読了予定。

全体の読了後、出席者全員による討論。早期に読了した場合、出席者の要望に応じ授業科目に即した内容の関連著書を取り上げる。

履修者へのコメント：

- 春学期参照
- 成績評価方法：
 - 春学期参照
- 質問・相談：
 - 春学期参照

演習 a (春学期)	セット履修
演習 b (秋学期)	准教授 穂 刈 享

授業科目の内容：

ミクロとマクロとエコノメの基礎の基礎についての簡単な講義と問題演習を行う。

主なトピック

- ミクロ： 2財 n 人交換経済と価格メカニズム。
- マクロ： IS 曲線と LM 曲線と AD 曲線と AS 曲線ととりあえず「みよつみまね」で試してみる。
- エコノメ： 最小二乗法でパラメータの値を推定し、その結果が「統計的に有意であるかどうか」をチェックする。

テキスト：

特になし

参考書：

- ・フランチャール『マクロ経済学(上・下)』東洋経済新報社, 1999年-2000年
- ・市川伸一『考えることの科学』中公新書, 1997年

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価

演習 a (春学期)	セット履修
演習 b (秋学期)	教授 山 田 太 門

授業科目の内容：

財政と政策に関する論文の作成と報告に基づく質疑

成績評価方法：

評価は提出論文で行う予定

金融資産市場論 a	セット履修
(野村ホールディングス株式会社寄附講座)(春学期)	
金融資産市場論 b	
(野村ホールディングス株式会社寄附講座)(秋学期)	
	教授 吉 野 直 行
	准教授 藤 田 康 範

金融資産市場論 a (寄附講座)

授業科目の内容：

この講義は、野村ホールディングスからの寄附講座であり、毎回、学部の金融の専門の講師をおよびして講義を行う。現場の金融行政、金融政策、貸出、資産運用などの経験から、さまざまな金融を取り巻く実情をお話いただく。前期と後期の2単位となっているが、通年で聞くことが望ましい。

講師は、金融庁、日本銀行、財務省、地方の財務局などの公的な機関、IMF(国際通貨基金)、World Bank(世界銀行)、ADB(アジア開発銀行)などの世界の公的機関、銀行、証券、信託、保険など民間金融機関の方々による講義である。2・3回、外国人の講師による英語での講義も含まれることもある。

一年間を通じて、金融資産市場でのプレーヤー、政策当局、金融活動を営む企業・個人の動きを、大きく理解できるように、講義を構成する。よって、前期と後期の両方を聴講することが望ましい。

講義には、2/3以上の出席が必要で、毎回の講義の最後15分間で、講義の要点をまとめて提出すること。最終の成績は、(i)毎回の要旨、(ii)学期末試験、の合計で判断する。

テキスト：

なし

参考書：

- ・吉野直行・高月昭年(編)『入門・金融』有斐閣
- ・吉野直行・藤田康範(編)『金融資産市場論』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- ・日本の金融活動の流れ
- ・家計の貯蓄行動
- ・預金保険制度と金融機関の破綻
- ・金融庁の金融行政
- ・日本銀行の金融政策
- ・証券行政(証券取引市場監視委員会)
- ・貸出債権の証券化
- ・不動産市場と不動産金融
- ・日本の証券市場

・財政投融資と新しい政府系金融機関

- ・日本の信託
- ・保険の機能と役割
- ・日本郵政の行動と郵便貯金
- などのテーマを扱う予定

履修者へのコメント：

セット科目のため、春学期・秋学期をともに履修する必要がある。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点(出席状況および授業の要点ノートの内容)による評価
- 質問・相談：
- 講義の最後に質問時間を設ける。

金融資産市場論 b (寄附講座)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- ・金融行政の変化とその変遷
- ・世界の公的機関の活動(IMF, 世界銀行, アジア開発銀行など)
- ・銀行行動
- ・証券会社の行動
- ・信託の活動
- ・保険の行動
- ・年金運用
- ・資産運用
- ・為替の動きと資金フロー
- ・国際協力銀行の業務と役割
- ・アジアの資金フローとアジア債券市場
- ・日本の国債市場
- ・日本の社債市場
- などのテーマを扱う予定

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

毎回提出される授業での小テストと学期末試験の成績を合計して評価する。

質問・相談：

春学期参照

企業金融論 a

(みずほ証券株式会社・新光証券株式会社寄附講座)(春学期)

企業金融論 b

(みずほ証券株式会社・新光証券株式会社寄附講座)(秋学期)

教授 池 尾 和 人

教授 土 居 丈 朗

企業金融論 a (寄附講座)

授業科目の内容：

ファイナンスは、企業金融論と投資理論および資産市場論の2本柱から構成される。本講義は、もちろん前者を中心とする。それに伴い、本年度の特殊科目「ファイナンス入門 a, b」は、後者を中心に講述される予定である。

企業金融論の場合には、理論と実践のバランスがとりわけ重要である。そのために、講義では、実務経験の豊富な外部講師に多くを担当してもらう。ただし、その場合でも、理論的な整合性等には最大限の配慮を払うように依頼し、同一者に1回限りではなく2~3回の講義を担当してもらうことで、できるだけ体系的な説明がなされるようにする。

加えて受講者には、講義への参加とともに、積極的に自習を行うことを求めたい。具体的には、企業金融論の最も標準的なテキストである Brealey, Myers & Allen, Principles of Corporate Finance の邦訳を指定教科書とし、その内容を講義の予習復習として自習することを受講の条件とする。

テキスト：

リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ、フランクリン・アレン『コーポレート・ファイナンス(第8版)』日経BP社

参考書：

砂川伸幸・他『日本企業のコーポレートファイナンス』日経新聞出版社, 2008年

授業の計画：

- 春学期は、指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の上巻の構成に対応させて、ガイダンス(1回)のあと、
第1部 価値(2回)

- 第2部 リスク(2回)
- 第3部 資本支出予算における実際的な問題(2回)
- 第4部 資金調達決定と市場の効率性(3回)
- 第5部 配当政策と資本構成(3回)

という順序で講義を行う。
講義は、外部講師を招いて実施することを基本とするが、当初は、基礎的なファイナンスの知識を受講生に与えることが不可欠なので、前半6回のうち、4回を割いて講述する。その間に、企業金融・財務の活動について幅広い経験をもった実務家をゲスト講師として招へいし、2回の特別講演会を実施する。

後半の第4部は証券会社、第5部は事業会社の財務部門の実務家を招いて、それぞれ3回構成で講義を行ってもらう。

履修者へのコメント：

企業金融論(ファイナンス)の基礎知識は、財務や経理の分野で職を得ようとする者のみにとどまらず、現代の社会に生きるすべての者にとって、いまや必要不可欠なものとなっている。その意味では、企業金融論は、就職を控えた経済学部4年生は全員履修してもおかしくない科目である。

しかし同時に、企業金融論の内容を十全に修得するためには、かなりの学習量を必要とする。それゆえ、既述のように、受講生にはしっかりとテキストの自習を行い、ファイナンス理論の理解を深めるように十分に努力することが求められる。この点では、真に学習意欲の高い学生でなければ、本講義から十分な成果を得ることは難しいといえる。

成績評価方法：

成績の評価は、春学期・秋学期の各々終了時に試験を実施し、その得点による。出席点は特に考慮しない。試験の出題範囲は、講義中に述べられたもののみならず、指定テキストの内容も含むものとする。

企業金融論 b (寄附講座)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期は、指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の下巻の構成に対応させて、春学期の復習(1回)のあと、

- 第6部 オプション(2回)
 - 第7部 負債による資金調達(2回)
 - 第8部 リスク管理(2回)
 - 第9部 財務計画と短期の財務管理(2回)
 - 第10部 合併および企業のコントロールとガバナンス(3回)
- という順序で講義を行う。

それぞれ証券会社、銀行、事業会社の適切な実務家を外部講師として招へいし、2回ずつ(第10部のみ3回)の講義を担当してもらう。また、特別ゲストによる講演会を1回実施する。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

金融投資サービス論 a

(株式会社東京金融取引所寄附講座)(春学期)

金融投資サービス論 b

(株式会社東京金融取引所寄附講座)(秋学期)

セット履修
教授 吉野 直行
准教授 藤田 康 範

金融投資サービス論 a (寄附講座)

授業科目の内容：

複雑化する金融商品の種類、取引手法、それが取引される金融市場に関する知識は必須のものとなりつつある。「金融商品取引法(投資サービス法)」も制定され、金融サービス業や企業の財務分野で活躍することを目指す学生にとっては、金融商品・取引・金融市場を学ぶことは、必要不可欠となってきている。「金融投資サービス論」を学ぶことにより、幅広く金融に関するより専門的な知識が身に付くことを目指すものである。なお、寄附講座「金融資産市場論」と同様に、専門的な実務経験を有する外部講師による講義を行う予定である。

参考書：

吉野直行『信託・証券化ファイナンス』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- (1) ガイダンス(1回)
- (2) 金融商品の種類・その取引(2回)
- (3) 金融機関と金融市場(2回)
- (4) 金融政策の金融商品市場への影響(2回)
- (5) 金融行政と金融商品市場(2回)

- (6) 為替市場の変動と為替先物(2回)
- (7) 国際金融市場における金融商品取引(1回)
- (8) 金融行政と金融機関の行動(1回)
- (9) 東京市場と海外の取引所との比較
- (10) アジアの金融取引市場
- (11) 金融先物取引の特徴
- (12) オプション・スワップ取引
- (13) 日本の株価の変動要因
- (14) 債券先物市場

以上の予定。講師の中には外国人による英語の講義、パネルディスカッションを含める予定。

履修者へのコメント：

セット科目のため、春学期・秋学期をともに履修する必要がある。

成績評価方法：

学期末試験を実施するとともに、学生の理解を調べる小テストを毎回、実施する。

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点(出席状況および毎回提出の小テストの内容)による評価
- 質問・相談：
講義の終りに受け付ける。

金融投資サービス論 b (寄附講座)

授業科目の内容：

春学期参照

授業の計画：

- (1) 金融行政と金融市場(1回)
- (2) 預金保険制度と銀行行動(1回)
- (3) 金融商品取引法(1回)
- (4) 金融経済教育(1回)
- (5) 家計の金融資産の選択行動(1回)
- (6) 企業の金融資産選択行動(1回)
- (7) 証券取引監視委員会の機能と役割(1回)
- (8) 生保・損保の金融商品とその役割(2回)
- (9) 中小企業金融機関と金融取引(2回)
- (10) 地域金融と金融取引(2回)

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

毎回提出の小テストと学期末試験の評価を合計する。

質問・相談：

講義の終りに受け付ける。

専門外国書講読(半期)(英)(春学期)

准教授 神田 さよこ

授業科目の内容：

本科目は、英文専門書の講読を通じて、近年の経済史研究における主要テーマについて知識を深めることを目的とする。本年度は、John F. Richards, *The unending frontier: an environmental history of the early modern world* (Berkeley and Los Angeles: University of California Press, 2001) をテキストとして、経済史研究のフロンティアの1つである「環境経済史」をとりあげる。

テキスト：

授業科目の内容を参照。

参考書：

授業内で適宜指示する。

授業の計画：

毎回1章ずつ輪読を行う。後半では、各回のトピックについて受講者全員で討論を行う。

履修者へのコメント：

- ・経済史研究、環境問題に関心があり、積極的に課題にとりくむ学生の参加を期待する。
- ・受講希望者は必ず初回の授業に出席すること。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価

質問・相談：

授業後またはメールによる事前予約。

専門外国書講読(半期)(英)(秋学期)

教授 坂本 達哉

授業科目の内容：

最近の思想史学会の動向を踏まえ、近代共和主義(modern republicanism)にかんする代表的な文献を講読する。共和主義思想はマキアヴェリ以来、自由主義、民主主義とならぶ主要な近代政治思想の系譜であるばかりでなく、欧米先進諸国における政治的動向の背後にあるイデオ

ロギーの源泉でもある。共和主義思想の多面性と現代的意義を念頭におきながら、幅広い角度から検討していきたい。アメリカ大統領選挙の意義も共和主義思想の伝統ぬきに理解することはできない。

テキスト：

Maurizio Viroli, *Republicanism*, 144 pages, Henry Holt & Company, 2002. 履修者確定ののち、コピーを配布する予定。

参考書：

坂本達哉「共和主義パラダイムにおける古典と現代」、佐伯啓思・松原隆一郎編『共和主義ルネサンス』(NTT出版, 2007年)所収。

授業の計画：

履修者の当番制とし、内容の正確な理解をふまえた自由な討論を重視する。

履修者へのコメント：

学部等を問わず、古典が現代思想におよぼす影響に関心のある者の履修を歓迎する。

成績評価方法：

出席率、報告内容、討論への貢献度を総合して判定する。

専門外国書講読 a (英) (春学期)	セット履修
専門外国書講読 b (英) (秋学期)	教授 太田 聡

専門外国書講読 a (英)

授業科目の内容：

米国の労働経済をわかりやすく分析している, Richard B. Freeman "America Works: Critical Thoughts on the Exceptional U.S. Labor Market" を輪読する。Freeman はハーバード大学教授でアメリカの労働経済分析の泰斗である。それだけに内容的には大変濃い本であり、こうした書物に取り組み意欲のある学生に参加してほしい。基本的には、書物の各パートを学生が担当し、書いてあることをまとめて日本語で報告する形式をとる。

テキスト：

Richard B. Freeman, *America Works: Critical Thoughts on the Exceptional U.S. Labor Market*, Russell Sage Foundation Publications, April 30, 2007

参考書：

参考文献については講義中に指示する。

授業の計画：

輪読なので特になし。

履修者へのコメント：

英書を読みながら、アメリカの労働市場の実態を(日本と比較しながら)考えるセミナー的なものにしたいと思っている。意欲のある人の参加を希望する。

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度による評価)

専門外国書講読 b (英)

授業科目の内容：

春学期に引き続き、労働市場の動向に洞察を与えらると思われる書物を選定し、輪読する。まだ正式には決めていないが、Francine D. Blau and Lawrence M. Kahn, "At Home and Abroad: U.S. Labor Market Performance in International Perspective (Paperback)" を候補に考えている。

テキスト：

Francine D. Blau and Lawrence M. Kahn, *At Home and Abroad: U.S. Labor Market Performance in International Perspective (Paperback)*, Russell Sage Foundation Publications, April 5, 2007

参考書：

春学期参照

授業の計画：

春学期参照

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

専門外国書講読 a (英) (春学期)	セット履修
専門外国書講読 b (英) (秋学期)	専任講師 蔦木 能雄

専門外国書講読 a (英)

授業科目の内容：

Thomas E. Willey, *Back to Kant*. (1978) を用いて 1860 年から 1914 年に至る時代と「ドイツ社会主義思想史」を講義してみたいと考えている。

「Back to Kant」の表題から判るように、この時代はカント主義が復活した時期であるが、一方では資本主義の全盛期を迎え、他方では労働者運動と社会主義思想が興隆期を迎える時代でもある。それはまた経済学にとっても「新しい時代」を迎えることにもなった時代である。

本講義では、そうした「新しい時代」を迎えた社会的背景を考察しながら、では何故「カントへ返れ」という動きが生じてきたのか、その思想的・哲学的基礎を考察してみる。

本講義で用いるテキストの構成は以下の如くである。

1. The Political and Intellectual Setting
2. Back to Criticism: Rudolf Hermann Lotze
3. Hegelians Manque: Kuno Fischer and Eduard Zeller
4. Friedrich Albert Lange: Kantian Democrat
5. Neo Kantian Socialism
6. The Southwestern School
7. Individuality, Society, and Humanity: The Consequences of Neo-Kantianism

テキスト：

履修者数に応じて当方で用意する。

参考書：

- ・関嘉彦『社会主義の歴史』1, 2, 力富書房, 1987年
- ・水田洋『新稿社会思想小史』ミネルヴァ書房, 2006年

授業の計画：

春学期では近代ドイツ史をめぐる問題を含めて 13 回。

履修者へのコメント：

社会主義思想(社会思想(史))に関心のある学生諸君の出席を期待する。

成績評価方法：

- ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
- ・出席重視。授業態度重視。無断欠席厳禁。

専門外国書講読 b (英)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期では、春学期での成果を踏まえて「ドイツ社会主義思想」の各論について 13 回を予定している。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

専門外国書講読 a (中) (春学期)	セット履修
専門外国書講読 b (中) (秋学期)	講師 馬 挺

授業科目の内容：

この授業では、中国経済の現状に関するトピックを新聞、雑誌、ウェブから選択して読む。できるだけ経済学的背景をもって読み進めるが、中国経済を中国語で読む場合、言葉としての中国語だけでなく、中国の文化、社会の現状、そして中国人のものの考え方などがある程度理解することも不可欠になってくる。

したがって、本授業は上記の内容を目標としつつ、中国語文章の解読・文法・朗読などを練習・解釈することも重視する。同時に、学生の要望を応じて、映像などの資料を用いて、中国事情について説明や討論を行う予定である。

テキスト：

メイン：プリントを配る。

サブ：三瀨正道・陳祖蓓『2009 年度版 時事中国語の教科書』朝日出版社

参考書：

授業時指示

授業の計画：

最初の 2 回程度は受講者のレベルを把握しつつ試行授業を行う。

春学期は上記テキスト(三瀨正道・陳祖蓓著)を用い、発音の練習をはじめとして、中国語の文法の基本や解読の要領に重点をおく。

後期は、授業科目の内容に記したように、最近の中国経済などに関する文章を読み、訳および見解の発表と討論など、実践的に授業を進めていく。

履修者へのコメント：

指示に従って辞書などを準備すること。

<http://www.aoni.waseda.jp/tingma/index.html>

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談：

アドレスにメールで連絡。メールの「件名」に必ず「慶応 三田」と名前を記入すること。

専門外国書講読 a (独) (春学期)	セット履修
専門外国書講読 b (独) (秋学期)	教授 飯田 恭 (春)
	講師 森 涼子 (秋)

専門外国書講読 a (独)

授業科目の内容：

ドイツ社会の歴史と現状に関するドイツ語の論文・評論・講演・記事などをテキストとして取り上げ、それを日本語に翻訳する。履修者にテキストの訳稿を作成・提出してもらい、それについて担当教員が添削指導を行うことで、ドイツ語のテキストを正確に読みこなす能力を養う。そして時間の許す限り、テキストの内容について意見交換を行いたい。なお、ドイツ語文法を習得済みの学生が対象である。

テキスト：

初回に提示する。

参考書：

授業中に紹介する。

成績評価方法：

提出してもらった訳稿にもとづいて評価する。

専門外国書講読 b (独)

授業科目の内容：

ドイツの社会・歴史および、ドイツ人の視点からみた日本文化などに関する文献を講読する。ドイツ語文献を文法的に正確に理解し、自力で的確に読みこなせるようになるよう訓練する。ただ単に一文一文を翻訳するにとどまらず、全体の論旨を理解することを目標とし、時間の許す限りテキストの内容について意見交換を行いたい。なお、ドイツ語文法を習得済みの学生が対象である。

テキスト：

初回にプリントを配布する。

参考書：

授業中に挙げる。

授業の計画：

初回に授業の進め方とテーマについてのガイダンスを行う。その後、文献を講読する。文法事項を復習し、文章構造を確認しながら、テキストを読み進める。各回の発表および分担に関しては、出席者の自発性を重視する。必要に応じて、内容に関するまとめを行う。

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲のある学生を歓迎する。

成績評価方法：

平常点

質問・相談：

授業後に受け付ける。

専門外国書講読 a (仏) (春学期)	セット履修
専門外国書講読 b (仏) (秋学期)	講師 篠原 洋治

授業科目の内容：

今年度は、現代社会における権力をテーマに、フーコー、シェレール、ドゥルーズなど、フランスの現代思想家の著作の抜粋を読みたいと思っています。

授業は訳読のかたちで進め、随時、参考文献を紹介しながら内容の補足説明をします。

テキスト：

コピーを配布します。

履修者へのコメント：

履修者は、毎回予習して来てください。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度) による評価

授業時のテキストの音読と読解により評価します。

専門外国書講読 a (仏) (春学期)	セット履修
専門外国書講読 b (仏) (秋学期)	准教授 難波 ちづる

授業科目の内容：

現代フランス社会や歴史 (近現代史)、歴史方法論に関する文献を講読する。フランス社会における諸問題と、それに関連する過去の歴史的事実をリンクさせながら、フランス現代史への理解を深める。

テキスト：

講義時に配布する。

参考書：

講義中に指示する。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度) による評価

専門外国書講読 a (露) (春学期)	セット履修
専門外国書講読 b (露) (春学期)	准教授 崔 在 東

授業科目の内容：

基礎的ロシア語文法を習得した、ロシアに関心のある学生を対象に、ロシア地域についての理解を深めると同時に、語学力の向上を図ることを目的とする。

ロシア語初級コースを終了した人なら誰でも読解できるやさしい文章のテキストから始まる。テキストは示唆的かつ読みやすい短い記事や論文とするが、学生の要望や問題意識に柔軟に応じて、新聞やインターネットなどから広く取り上げる。さらに、よりリアルな理解を図るために視聴覚的媒体を用いる。

テキスト：

特に指定しません

参考書：

随時紹介する

授業の計画：

授業は、全員によって提出される訳文の教員による訂正と添削を通じて、読解を進めていく形を取るが、さらに、テキストの内容についての理解と議論を通じて、ことはだけでなく、ロシア社会・経済・歴史・政治などについての理解を深めていくと同時に、幅広い知識の共有を図る。

成績評価方法：

平常点

〔研究会〕

研究会 a・b (3年)	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年)	教授 赤林 英夫

授業科目の内容：

この研究会では、応用ミクロ経済学、教育の経済学、家族の経済学、政策評価方法論を中心に扱います。

教育の経済学と家族の経済学は、労働経済学から派生し、今では各々、独立した分野として確立されています。そこで扱うテーマとしては、教育や出生などの問題だけでなく、犯罪や宗教など、従来経済学があまり取り上げてこなかったような、社会と個人が複雑に絡み合う問題も含まれます。アプローチとしては、個人の最適化行動と均衡概念などの経済学的視点から現在を理解する、「応用ミクロ的」手法を重視します。具体的なテーマのイメージとしては、秋学期開講の「家族と教育の経済学」の履修案内をご覧ください。研究会では、同時に、労働経済学の基礎知識についても学習します。

政策評価方法論は、私たちが直面する社会問題に対して行われる政策の有効性を、ミクロ的かつ実証的に検証する手法を考える分野です。教育、労働、家族に関する理論を学ぶと、自然に、税制、社会保障制度、保育政策、教育政策、雇用政策などの意義と有効性を考えることとなります。しかし、どの政策にもプラスマイナスがあり、政策がどのような効果を与えるか、理論的には予想できないことがほとんどです。そのときに必要となるのが統計的な手法を用いた厳密な政策評価です。特区を利用して様々な政策が試みられている現在、政策評価は、最も必要とされている研究分野の一つであるだけでなく、実務でも、シンクタンクや国際機関などを目指す人にとって、必須の技術となるでしょう。それらの手法について、本研究会では、理論的学習に引き続き、可能な限り使っていきたいと思っています。

授業の計画：

3年生は、輪読による基礎的な学習に続き、三田祭での発表を目標としてグループ研究を行います。

履修者へのコメント：

現在の、教育や少子化などの世間での論争に、自分なりの疑問を持っている人、思いつきではなく、論理とデータで、これらの問題に迫ってみたい人、「経済分析」があまり行われていない領域を積極的に発掘したい人、を歓迎します。ゼミでの活動には、ミクロ経済学と統計学の基礎的理解が必要です。また、私のホームページ <http://web.econ.mita.keio.ac.jp/staff/hakab/index.html> には、より詳細な情報がかかれていますので、志望する際には必ず目を通してください。

成績評価方法：

- ・レポート (卒論)
- ・平常点 (ゼミへの貢献度)

研究会 a・b (3年)	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年)	准教授 秋山 裕

研究会 a (3年春)

授業科目の内容：

本研究会は、経済発展に関わる問題について計量経済学的手法を活用

した実証を中心とした研究を行います。経済現象の分析にあたっては、「経済問題」、「経済理論」、「経済統計」をバランスよく組み合わせることが不可欠です。本研究会では、経済発展という幅広く重要な問題について、理論を踏まえながら、実証的に研究することを柱とします。

そのため、本ゼミでは、経済発展に関わる「経済問題」と「経済理論」を中心に学習し、サブゼミでは、コンピュータを用いながら実証分析の実際を中心に学習し、オフィス・アワーでは、4年次での卒業論文の作成を念頭に置きながら、個別プロジェクトの進展をはかっています。また、本研究会では共同研究を重視しています。三田祭での研究発表はもちろん、本ゼミでの学習においてもグループ単位での準備、発表、討論によって、より質の高い研究を行うことができるように心がけています。

- ・基礎トレーニング（プレゼンテーション、文献輪読、コンピュータ）
- ・研究トレーニング（三田祭共同論文の企画書の作成、テーマの決定、分担作業）

テキスト：

第1回授業時に本ゼミにおける輪読文献を指示します。

参考書：

個別テーマの参考文献は授業時に指示します。

授業の計画：

授業の構成は以下のとおりです。（それぞれの授業回数は進度に従って調整します。）

1. プレゼンテーションの練習（2回）
2. 基本文献の輪読（6回）
3. 共同論文の企画立案のための発表・討論（5回）

履修者へのコメント：

「経済発展」は人類の究極の目的であり、先進国でも達成されたとはいえませんが、この経済的進歩に少しでも貢献できることが重要であると思います。そして、研究会活動を通じて、社会で通用するエコノミストになれるように、互いに切磋琢磨していけたらと思います。そのため、研究会活動には常にある水準以上の行動が必要であると考えています。

研究会活動については学生が管理している秋山裕研究会 Web サイト（<http://www.clb.econ.mita.keio.ac.jp/akiyama/>）を参照してください。

成績評価方法：

- ・研究会での発表およびその資料
- ・研究会での発言
- ・グループワークでの貢献

質問・相談：

履修者の質問に答えるため、週1回のオフィスアワーを設置します。時間および場所については第1回目の授業にて指示します。

研究会 b（3年秋）

授業科目の内容：

- ・研究トレーニング（三田祭共同論文の論文執筆、パネル作成、スライド作成、プレゼンテーション）
- ・卒業論文（経済発展に関するテーマならばテーマは自由）の企画書の作成、テーマの決定

テキスト：

3年春学期参照

参考書：

3年春学期参照

授業の計画：

授業の構成は以下のとおりです。（それぞれの授業回数は進度に従って調整します。）

1. 共同論文の発表、討論（8回）
2. 卒業論文の企画立案のための発表・討論（5回）

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

- ・研究会での発表およびその資料
- ・研究会での発言
- ・グループワークおよび共同論文での貢献

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文（4年）

授業科目の内容：

[春学期] 卒業論文の論文執筆、プレゼンテーション

- ・基礎トレーニング（文献輪読）
- ・研究トレーニング（三田祭共同論文の企画書の作成、テーマの決定、分担作業）

[秋学期] 卒業論文の論文執筆、プレゼンテーション

- ・研究トレーニング（三田祭共同論文の論文執筆、パネル作成、スライド作成、プレゼンテーション）

授業の計画：

授業の構成は以下のとおりです。（それぞれの授業回数は進度に従って

調整します。）

[春学期]

1. 基本文献の輪読（6回）
2. 卒業論文の発表、討論（2回）
3. 共同論文の企画立案のための発表・討論（5回）

[秋学期]

4. 共同論文の発表、討論（5回）
5. 卒業論文の発表、討論（8回）

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

- ・研究会での発表およびその資料
- ・研究会での発言
- ・グループワークおよび共同論文での貢献
- ・卒業論文

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 a・b（3年）

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文（4年）

准教授 新井 拓 児

授業科目の内容：

ファイナンス理論に関するゼミを行う。特に、金融派生商品の価格付け理論を中心に、その基本的考え方を理解することを目的とする。

3年生は日本語で書かれた確率論のテキストを輪読する。

4年生はファイナンスに関するテキストを輪読し、卒業論文の作成を行う。

テキスト：

第1回の授業の時に紹介する。

参考書：

授業中に紹介する。

授業の計画：

研究会参加者は「ファイナンス入門」、「確率・統計」の講義を履修すること。その他、数学関連の講義を多く履修していることが望ましい。

成績評価方法：

レポートと平常点（出席と授業態度）

質問・相談：

メールまたはオフィスアワー

研究会 a・b（3年）

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文（4年）

教授 飯田 恭

授業科目の内容：

本研究会では、ヨーロッパと日本の比較史研究を、主として農村社会に光をあてつつ行う。具体的には、この共通テーマに関する基礎文献をメンバー全員で輪読すると同時に、各メンバーが個別の研究テーマを設定し、それについて三田祭論文及び卒業論文を完成させることとなる。

研究会 a・b（3年）

春・秋セット履修

教授 飯塚 敏 晃

研究会 a（春）

授業科目の内容：

本研究会は、各人が産業組織論を中心とした研究課題を設定し、実際にデータを用いた実証研究を行うことを目的とします。産業組織論は非完全競争市場における企業及び消費者行動を分析対象とします。いわゆる「競争戦略」の基礎となる経済学でもあります。例えば、企業の参入・退出行動、価格設定、価格差別・バンドリング、製品差別化、垂直統合、情報の非対称性・広告、企業結合（合併）、研究開発競争と特許、ネットワークと標準、競争政策の経済分析など、幅広い範囲をカバーします。担当者は、特に情報の非対称性に関わる問題に興味を持ち、医療産業を対象に研究を行ってきました。これまでの研究に、処方薬の消費者への直接広告（DTC 広告）の影響、ジェネリック医薬品の選択（需要）と参入（供給）要因の分析、合併が研究開発市場に及ぼす影響、医療過誤責任が医療過誤の頻度に及ぼす影響、医師のエージェンシー問題の実証分析、耐久消費材市場における中古品と新品の競合の分析、などがあります。

通常の研究活動は、1) 解明したい問題を設定し、2) 何故それが重要な問題なのか吟味し、3) 理論・データを用いて問題を解明する、というプロセスから成ります。本研究会では、各自が興味を持つ産業・事象を取り上げ、このプロセスを2年間かけて体験し、卒業論文として仕上げます。自分でテーマを設定し、論理的に深く考え、データを集め、分析・プレゼンを行うので、将来どのような分野に進んでも貴重な体験になると思います。

テキスト：

授業中に指示する。

参考書：

授業中に指示する。

授業の計画：

3年生の春学期は、そもそも研究とは何か、良い研究・良い論文とはどのようなものかの感覚をつかむため、産業組織論の実証論文の中から、優れた論文（英文中心）を読むことから始めます。その後、テキスト（ベサンコ他「戦略の経済学」を予定）の輪読、三田祭論文作成に向けたグループ分け・データ収集・分析に着手します。また、論理的思考を磨き卒業論文作成につなげるため、時事のトピックスを取り上げ、どのように問題を設定し、データ収集・分析を行えば良いか、議論します。

履修者へのコメント：

意欲あふれる学生の参加を期待します。研究会参加者は産業組織論と計量経済学を履修して下さい。

成績評価方法：

三田祭論文・卒業論文および平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

随時。

研究会 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

3年生の秋学期は、主に、三田祭での発表に向けた分析・論文作成を進めます。三田祭後は、テキスト輪読と並行し、各自の卒業論文作成に向けた準備に着手します。

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

研究会 a・b (3年)

春・秋セット履修
教授 池尾 和人

研究会 a (春)

授業科目の内容：

本研究会のテーマは、「日本経済の現状と課題」を経済学のロジックを踏まえて分析することにある。そのために、日本経済の現状をよく知る努力と、その抱える問題の解決の途を探るために不可欠な理論面での研鑽を行う。なお、本年度は、池尾が担当の「演習 a b」とも連携して進める。

テキスト：

順次指定する。

参考書：

適宜指定する。

授業の計画：

春学期は、文献の輪読を中心に進める。夏合宿を実施する。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価（共同論文の達成度も評価に加味する。）

研究会 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

秋学期には、3~5人ずつの小グループに分かれて共同論文の作成を行ってもらう。他大学のゼミナールと交換討論会を企画する。

成績評価方法：

春学期参照

研究会 a・b (3年)

春・秋セット履修
教授 池田 幸弘

研究会 a (3年春)

授業科目の内容：

私の研究会では、開講以来小さな政府の主張者であるフリードリッヒ・

ハイエクを中心に研究してきた。現在行われている大きな政府対小さな政府の論争、そして福祉国家の将来像について、経済思想史研究、経済政策思想史研究からのアプローチをはかる。

テキスト：

開講時に指示する。

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

主としては、上記のものを含めた書物の輪読によるので、定まった講義計画というものはない。ほかに、大学院生によるサブゼミなどを予定している。

履修者へのコメント：

議論好きな学生の参加を心待ちにしています。

成績評価方法：

・レポートによる評価
・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時受け付ける。研究会以外の時間については、事前にアポイントメントをとりたい。

研究会 b (3年秋)

授業科目の内容：

3年春学期参照

テキスト：

3年春学期参照

参考書：

3年春学期参照

授業の計画：

主としては、上記のものを含めた書物の輪読によるので、定まった講義計画というものはない。ほかに、大学院生によるサブゼミなどを予定している。

ほかに、後期には大学相互間のインター・カレッジのセミナーなどを予定している。

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

3年春学期参照

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

授業の計画：

4年生は卒業論文の作成が中心となる。

研究会 a・b (3年)

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

准教授 石橋 孝次

研究会 a (3年春)

授業科目の内容：

ミクロ経済学の応用分野である産業組織および企業理論の研究を行う。ゲーム理論と契約理論を分析用具とした上で、企業組織・企業行動や経営戦略などについて学ぶことを目的とする。

授業の計画：

通常の授業は、参加者によるパワーポイントを用いたプレゼンテーションに基づいて行う。

ゲーム理論のテキストと産業組織のテキストを用いた基礎的学習を行う。

研究会 b (3年秋)

授業科目の内容：

3年春学期参照

授業の計画：

通常の授業は、参加者によるパワーポイントを用いたプレゼンテーションに基づいて行う。

契約理論とその応用に関する文献を学習する。また、パートゼミの活動に基づいたパート別の共同論文の発表を行う。

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

授業科目の内容：

3年春学期参照

授業の計画：

通常の授業は、参加者によるパワーポイントを用いたプレゼンテーションに基づいて行う。

春学期に卒業論文のテーマ設定と研究計画の立案を繰り返す。テーマについてはある程度幅広く許容するが、現実の経済問題を取り上げて理論分析と実証分析を行うことを求める。夏合宿で第1回の中間報告を行い、秋学期には第2回と第3回の中間報告を行う。卒業論文は11月に中間提出し、1月に最終提出する。

研究会 a・b (3年)

春・秋セット履修
准教授 井手 英 策

授業科目の内容：

本研究会では、産業社会学・財政社会学の演習を行う。近年、経済のグローバル化にともなう日本社会のあり様は大きな変化を遂げつつある。こうした社会の転換のあり様を、戦前以来の公共部門の政策体系の変容との関連から把握することを研究課題とする。

ゼミでは主に英語の古典文献を読む。優れた英語能力は不要であるが、辞書を片手に課題と格闘する粘り強い姿勢を求めたい。また、ゼミ全体で課題を設定し、聞き取り調査を行いながらその内容を論文にまとめる。古典を通じて人びとが取り組んできた知的課題に触れると同時に、調査、論文執筆を通じて現実への鋭い問題意識を養ってもらいたい。

テキスト：

開講時に指示する。

授業の計画：

- 1 5 古典文献の輪読
- 6 13 研究報告および論文の執筆

以上は暫定的なものであり、参加者と話し合って決定することとしたい。

履修者へのコメント：

本ゼミは21年度が初開講である。

ゼミの未来を自らの力で切り拓こうとする馬力と意欲のある学生の参加を強く希望する。

成績評価方法：

出席はもちろん、ゼミでの報告および提出論文によって総合的に評価する。

質問・相談：

随時受け付ける。

研究会 a・b (3年)

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

春・秋セット履修
准教授 伊藤 幹 夫

研究会 a (3年春)

授業科目の内容：

この研究会では金融に関連するマクロ経済学のトピックに関して、理論と実証の両面から学習・研究を行う。前期は、金融に関するミクロ経済学を学ぶために必要な数学、金融制度、歴史を学ぶ。

テキスト：

池田昌幸『金融経済学の基礎』朝倉書店

参考書：

舟尾暢男・高浪洋平『データ解析環境「R」』工学社

授業の計画：

1. ゼミ学習に必要な IT スキルの習得 (3週)
2. 金融制度の学習 (3週)
3. 金融理論と経済理論の基礎の学習 (3週)
4. 数学と統計学の学習 (4週)

履修者へのコメント：

学部生にとってややレベルが高いことを課すことがあるので、真面目にやった学生諸君は、非常な達成感が得られるでしょう。

成績評価方法：

平常点

質問・相談：

質問用の e-mail アドレスと、Wiki サイトを用意する予定。

研究会 b (3年秋)

授業科目の内容：

後期においては、実証分析に必要な計量経済学の基礎ならびに、計量作業に必要な統計言語 R の習得と、金融に関する論文の輪読と、実証作業を行う。

テキスト：

乾孝治・室町幸雄『金融モデルにおける推定と最適化』朝倉書店

参考書：

『The R Tips』九天社

授業の計画：

5. 統計言語 R の習得 (3週)
6. 計量経済学の基礎 (3週)
7. 選択された論文の輪読と実証作業 (7週)

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

3年春学期参照

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

授業科目の内容：

4年生は、3年生時に研究会で行った題材の中から、自らが興味をもった題材について、卒業論文を作成する。

授業の計画：

卒論指導 (適宜)

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

卒論

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 a・b (3年)

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

春・秋セット履修

教授 (有期) 稲葉 由之

授業科目の内容：

本研究会の目的は、社会・経済における問題について根拠を挙げて説明するとともに、問題解決に向けての考察を行う能力を育成することにある。問題を把握するための方法の一つとして、社会調査やデータ分析などの統計的方法がある。本研究会では、統計的方法を用いて説明に根拠を示すための知識と技術を学ぶ。

テキスト：

第1回目に指定する。

参考書：

適宜、紹介する。

成績評価方法：

平常点 (出席状況及び授業態度) とレポートによる評価

研究会 a・b (3年)

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

春・秋セット履修

教授 植田 浩史

研究会 a・b (3年)

授業科目の内容：

研究会では、日本や海外の製造業を中心とした産業や企業の動きを通じて、現代経済の動きについて学び、現実の産業、企業、技術に対して、歴史的視点、現状分析的視点、国際的視点から考察できる力を養っていくことを目的とする。ゼミは輪読を中心とするが、夏季休暇中などには大企業、中小企業などの企業訪問、工場見学なども実施し、現実の姿からも学んでいきたい。

テキスト：

参加者と相談の上、決定する。

参考書：

後日指定する。

授業の計画：

後日指定する。

履修者へのコメント：

現実の産業や企業を、歴史的、現状分析的、現場的な視点をバランスよく使いながら、見ていくことを勉強していきたいと思っています。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度による評価)

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

授業科目の内容：

大学生活最後の年として、卒論の執筆に向けた指導を行っていく。

テキスト：

3年参照

参考書：

3年参照

授業の計画：

3年参照

履修者へのコメント：

3年参照

成績評価方法：

3年参照

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 教授 太田 聡 一

研究会 a (3年春)

授業科目の内容：

労働経済についての基礎的な文献を読み、それ以降の本格的な研究の導入とする。やさしい教科書から始まり、様々なトピックスについての雑誌論文などに進んでいきたい。

参考書：

太田聡一・橋本俊昭『労働経済学入門』有斐閣

履修者へのコメント：

この研究会は少人数を旨として運営してゆく。また、英語文献も含めて多くの文献を読みたいので、意欲のある学生に参加してほしい。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度)

質問・相談：

適宜受け付ける。

研究会 b (3年秋)

授業科目の内容：

分析的な手法を身につけることを主眼とする。計量経済学の知識を使って、実際のデータで労働市場の分析を行ってみる。

参考書：

大竹文雄『日本の不平等』日本経済新聞社

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

3年春学期参照

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

授業科目の内容：

「経済格差」についての最近の研究を輪読する。

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

3年春学期参照

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 准教授 大平 哲

授業科目の内容：

地域開発に関する理論を学習する。くわしくは研究会のウェブサイト参照すること。

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 教授 大村 達 弥

研究会 a・b (3年)

授業科目の内容：

戦後わが国は日本の経済システムの下で高度成長を謳歌し、その国際的地位はトップクラスに到達したものの、90年代に入ると、世界では東西冷戦終焉後グローバル化・情報化に伴い経済が拡大したのとは対照的に、わが国は金融危機と長期経済低迷を経験した。その対策として一連の構造改革政策が実施され、わが国経済は市場に軸足を置く経済へと転換が進んだ。しかし、皮肉なことに今回の世界金融危機はわが国経済に対しストレートな負の影響を及ぼしている。財政・社会保障、少子高齢化、地球環境問題等の長期的課題を抱えている中で、わが国経済はどうあるべきか、今後の経済政策のあり方に目を向けてゆく。授業では構造政策、マクロ経済政策、長期経済政策等に関する先行研究等の文献に当たり、研究発表形式で授業を進めてゆく。

テキスト：

授業の最初に指示する。

参考書：

必要に応じ随時指示する

授業の計画：

4限では、指示したテキストの1章分を材料に、関連したテーマについて発表を行う。5限では発表内容について討論を行う。

夏期休暇前に共同論文の構想を発表し、夏期休暇を利用して論文を作

成し、夏合宿で発表する。

秋学期においては、公共選択学会主催の「学生の集い」や、他大学との対抗討論等の場での論文発表を行う。

成績評価方法：

研究会 a・b, c・d は平常点、卒業論文は、中間・最終審査に基づく評価による。

質問・相談：

授業中以外は、メールまたはアポにより行う。

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

授業科目の内容：

3年参照

テキスト：

3年参照

参考書：

3年参照

授業の計画：

3年の授業計画に対応したプログラムにより発表と討論を行うが、夏合宿と秋学期後半では、卒論中間報告の実施を通じ重点的な論文指導を行う。

成績評価方法：

3年参照

質問・相談：

3年参照

研究会 c・d・卒業論文 (4年) 春・秋セット履修
教授 尾崎 裕 之

授業科目の内容：

「ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論の応用」を研究テーマとし、最終的には卒業論文の完成を目標とする。卒業論文のテーマとしては、それが、ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論のいずれか(あるいは、その全て)の応用であれば何でもかまわない(公共経済学、国際経済学、環境経済学、労働経済学、都市経済学、医療経済学、産業組織論、などなど)。研究テーマそのものよりも、経済学的直感を養い、理論を正しく応用できるようになることに主眼を置く。

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 教授 嘉治 佐保子

授業科目の内容：

本研究会の目的は、(1)国際マクロ経済学を中心とした経済理論の理解を深めること、(2)自分で考える力を身につけること、(3)英語による情報収集と意思疎通の能力を高めることである。これらの目的の達成に適した文献を輪読する。卒業論文のテーマは、各学生が自らの興味にしたがって選択する。

成績評価方法：

・平常点 (出席状況および授業態度による評価)

・卒業論文

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 教授 金子 勝

授業科目の内容：

制度派経済学の知的革新を考えながら、現状の経済問題と制度改革について取り上げ学ぶ。世界経済、財政金融、社会保障と社会福祉、地域経済、産業と企業のあり方...等々、取り上げるべきテーマが広範囲に及ぶので、学生諸君と協議しつつテーマを絞りたい。論理的に考え、文章を書き、人と議論するのが好きな学生諸君の参加を望む。

テキスト：

ゼミ生と相談して決定する。

授業の計画：

前期はテキスト輪読から入り、テーマを絞って自分たちで問題を設定し、自分たちで調べて報告討論する。夏合宿より三田祭論文に合わせて、討議と報告書を作る。4年生は定期的に卒論報告会を行い、年末に発表会を行う。

成績評価方法：

・平常点 (出席状況および授業態度)

・論文と卒論を評価として重視する。

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 教授 河井 啓 希

研究会 a (3年春)

授業科目の内容:

産業組織論の理論とその実証分析についての研究を行う。伝統的な独占や寡占の議論にとどまらず、重要性が高まっている製品品質と差別化、情報の非対称性、ネットワーク外部性といった問題についてもとりあげる。

テキスト:

最初の時間に指示する

参考書:

ベサンコ・ドラノブ・シャンリー『戦略の経済学』ダイヤモンド社

授業の計画:

1. ミクロ経済学の基礎 (需要と供給, 企業, ゲームと戦略)
2. 完全競争と独占
3. 寡占 (寡占, カルテル, 市場支配力)

履修者へのコメント:

授業ではミクロ経済学と統計学の知識が必要となる。

成績評価方法:

報告内容, 議論への貢献で評価する

質問・相談:

クラスページを通じて, 質問や相談に応じる。

研究会 b (3年秋)

授業科目の内容:

パート別に分かれて三田祭論文作成に向けて専門論文を読んだり, データを収集して実証研究を行うことを通して, 論文作成の方法を学ぶ。

テキスト:

3年春学期参照

参考書:

3年春学期参照

授業の計画:

4. 価格戦略と非価格戦略 (価格差別, 垂直統合, 製品差別化)
5. 情報の経済学 (情報の経済学, 広告)
6. 参入と退出 (参入退出, 戦略的行動)
7. 技術戦略 (研究開発, ネットワークと標準化)

履修者へのコメント:

3年春学期参照

成績評価方法:

三田祭報告論文で評価する

質問・相談:

3年春学期参照

研究会 c (4年春)

授業科目の内容:

英文のテキストの輪読を行う。

テキスト:

3年春学期参照

参考書:

Carlton DW & Perloff JM, *Modern Industrial Organization* 4th ed, Addison-Wesley, 2004

授業の計画:

英文テキストの輪読

履修者へのコメント:

3年春学期参照

成績評価方法:

報告内容, 議論への貢献で評価する

質問・相談:

3年春学期参照

研究会 d (4年秋)

授業科目の内容:

Reading List でとりあげられる重要な貢献をした専門論文 (Rand Journal of Economics や Journal of Political Economy などから引用する) を読み, 基礎的な理論が実証分析ではどのように応用されているかについて学ぶ。

テキスト:

3年春学期参照

参考書:

4年春学期参照

授業の計画:

Reading List の輪読

履修者へのコメント:

3年春学期参照

成績評価方法:

報告内容, 議論への貢献で評価する

質問・相談:

3年春学期参照

研究会 (卒業論文) (4年)

授業科目の内容:

各自の興味に応じて卒業論文のテーマを決め, 分析を進めながら, 論文を作成する。

テキスト:

3年春学期参照

参考書:

4年春学期参照

授業の計画:

卒業論文の中間報告

履修者へのコメント:

3年春学期参照

成績評価方法:

卒業論文で評価する

質問・相談:

3年春学期参照

研究会 a・b (3年)

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

春・秋セット履修

準教授 神田 さやこ

授業の内容:

近年, インドは目覚ましい経済発展をとげている。同時に, インドをはじめとする南アジア地域は, 貧困や格差, 環境, エネルギーなど国際社会が共有する深刻な問題も数多く抱えている。本研究会では, こうした経済発展のダイナミズムおよび経済・社会の諸問題を理解するうえで重要な歴史的背景や歴史のなかでつくられてきた社会的・文化的特徴について, 長期的視点にたった研究を行う。

主な研究対象は, イギリス植民地期 (18 世紀後半~20 世紀半ば) の南アジア経済史とする。ただし, 研究 (卒業論文) テーマでは, 近世南アジア経済史や 20 世紀後半期を視野に入れた現代南アジア経済史, 他地域との比較経済史, イギリス帝国史, 南アジア経営史などを選んでかまわない。

なお, 本研究会での最終目的は卒業論文を完成させることにあるので, 各自設定したテーマに基づいて研究を進めてもらう。

テキスト:

初回に指示する。

参考書:

適宜指示する。

授業の計画:

3 年生の春学期には, (1) 基本文献の輪読と討論を通じて基礎知識を身につけ, (2) 三田祭に向けた共同研究のテーマを設定する。秋学期の前半は, 三田祭論文にむけた報告・討論を行い, 論文を完成させる。三田祭後には, 卒業論文のテーマを設定し, 先行研究・資料について調査を行う。

4 年生は, 基本的に卒業論文作成にむけて資料を収集・分析し, 議論をすすめていく。春学期・秋学期各 1 回, 卒論予備報告を行ってもらう。

履修者へのコメント:

約 2 年間, 多くの文献を読み, 議論し, 発表し, 書いてもらうことになるので, そのつもりで参加してください。

成績評価方法:

平常点 (出席状況および授業態度による評価) に加えて, 3 年生は三田祭論文, 4 年生は卒業論文によって評価する。

研究会 a・b (3年)

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

春・秋セット履修

教授 北村 洋基

授業科目の内容:

本研究会は, 現代日本経済論が主たる対象範囲であるが, 特に日本の産業経済の実態の批判的分析と理論的検討に中心的なテーマを置く。その際, 今日の日本経済ならびに産業構造を, 一方では世界経済との関わりにおいて, 他方では日本経済の歴史的展開における現段階の到達点との関わりにおいて, 位置づけ解明することに留意したい。

テキスト:

テキスト等は第一回研究会の際に指定する。

研究会 a・b (3年)

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

春・秋セット履修

教授 木村 福成

授業科目の内容:

2009 年度から再開される本研究会では, 国際経済学のうち特に実物面

を扱う国際貿易論と、発展途上経済を分析する開発経済学を、理論、実証・政策研究の両面から学んでいく。

経済の急速なグローバル化が進行する中、国際経済についての基本的な視点を提供する国際経済学と開発経済学的重要性は従来以上に高まってきた。各国経済の開放度の高まりは人々の厚生水準や所得分配にどのように影響するののか、国際取引チャンネルの多様化は各国経済にどのような変化をもたらすのか、国際通商政策の形成過程においてどのような政治経済学が働くのかといった問題は、新しい国際貿易論抜きに語ることはできない。また、東アジアの経済統合の行方を考え、世界銀行＝IMFの唱える貧困撲滅あるいはWTOの国際的政策規律の含意を考察するためにも、経済学からのインプットが不可欠である。グローバリゼーションの波の中で発展途上国がどのような立場に置かれているのか、経済成長と環境、貧困の関係はどのように理解すればよいのか、産業振興における政府の役割は何であるのかといった問題も、開発経済学の重要な研究課題となっている。本研究会では、国際経済学と開発経済学に関し、基礎理論のしっかりとした理解を踏まえつつ、現代の世界経済が抱える諸問題について議論していく。

テキスト：

- ・ Feentra, Robert C. and Taylor, Alan M. *International Trade*. New York: Worth Publishers, 2008
- ・ Easterly, William, *The White Man's Burden: Why the West's Efforts to Aid the Rest Have Done So Much Ill and So Little Good*. London: Penguin Books, 2006

参考書：

授業中に詳しく指示する。

授業の計画：

本ゼミでは、春学期は国際経済学（特に国際貿易論）と開発経済学の基礎固め、秋学期はより進んだ文献購読と3年生のパート論文の中間発表を行う。本ゼミで使用する教科書・専門論文のほとんどは、英語で書かれたものを使用する。

知力・気力・体力に加え、企画力のある諸君の参加を期待する。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

電子メール（fkimura@econ.keio.ac.jp）にて質問・相談を受け付ける。

研究会 c・d・卒業論文（4年）

春・秋セット履修
准教授 神代 光朗

授業科目の内容：

当研究会の研究領域は、経済学（思想）史および中・東欧の歴史と経済体制を研究の対象とするものである。担当者の当面の主な専門研究分野は、19～20世紀のポーランドの社会経済思想、とりわけ、ポーランドの今日の社会経済的諸問題の原型が形成されてくる19～20世紀転換期の市場問題、農業問題、民族問題等と、ポーランドのポジティヴィズム、ナショナリズム、社会主義等の社会経済思想史的関連が中心であるが、研究会としては、ポーランドのみに限らず、ポーランドを含む中・東欧の近・現代史や今日の体制転換、中東欧のEU加盟にかかわるテーマについても、広い意味で経済学史的な関心を持ち、歴史的な方法による研究を志す者の入会を認めている。また、より広く、経済学史・経済思想史に関するテーマの研究を志す者の入会をも認めている。当研究会の会員は是非、私の担当する「経済学史 a, b」と「東欧・ロシア社会経済思想史 a, b」を合わせて履修してほしい。なお、今年度は4年生のみの研究会となる。

テキスト：

輪読用のテキストは、4月の開講時に決める予定である。英文テキストを用いることもある。

参考書：

- ・ A・スミス『国富論』（邦訳）
- ・ K・マルクス『資本論』（邦訳）
- ・ 高島善哉『社会科学入門』岩波新書
- ・ 木戸・伊東（編）『東欧現代史』
- ・ ベレント、ラーンキ『東欧経済史』中大出版
- ・ ケニエーヴィッチ『ポーランド史』恒文社
- ・ 阪東宏（編著）『ポーランド史論集』三省堂
- ・ 伊東・井内・中井（編）『ポーランド・ウクライナ・バルト史』
- ・ 南塚（編）『ドナウ・ヨーロッパ史』
- ・ 小倉欣一（編）『近世ヨーロッパの東と西』山川出版
- ・ 谷川稔（編）『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』山川出版、2003年
- ・ 白木太一『近世ポーランドの「共和国」の再建』彩流社
- ・ 羽場・小森田・田中（編）『ヨーロッパの東方拡大』岩波書店

授業の計画：

4年生は春学期に、輪読・討論に参加することは当然のことであるが、主として6月より7月までは卒業論文の中間発表を行い、また、夏季休暇中の研究計画をたてる。その際、卒業論文の中間論文の提出を義務とする。秋学期は、10月下旬より卒業論文の最終報告を行い、1月に最終チェック、提出となる。全体として、輪読と卒業論文発表を、ほぼ半分づつのスケジュールで行う。

研究会 a・b（3年）

研究会 c・d・卒業論文（4年）

春・秋セット履修
教授 倉沢 愛子

研究会 a（3年春）

授業科目の内容：

開発とその結果生じた社会変容、さらに民主化の波に揺れる東南アジア社会を総合的に研究する。開発論や、政策論ではなく、そこにすむ人々の生活に焦点をあて、生産活動、商業活動、浪費形態、居住環境、宗教、教育、保健衛生、移動などの問題を考える。3年生の夏にインドネシアへ10日ないし二週間程度の研修旅行を行い、ジャカルタの低所得者居住区と、バリ島の、まだ観光化されていない伝統的な村にホームステイする。

3年生の研修旅行前の前期の授業は、研修旅行に際して必要な基本的知識の習得とインドネシア理解に力を置く。その間に自分の関心テーマを見つけ、研修の際にはその関心に沿って見学先や訪問先を決める。

この年度の研修テーマを何にするかは、前期の研究会の授業の中で全員でディスカッションしながら決定する。単なる旅行ではなくそのテーマに沿って研修計画を立案する。

なお、研究会に参加を希望する学生は、平行して火曜日2限（予定）の「アジア社会史」の受講と、日吉並びに三田で開講されている「インドネシア語」の受講を義務付ける。

研究会 b（3年秋）

授業科目の内容：

研修旅行の成果を全員で話し合うとともに分担を決めて報告書の原稿を作成し、三田祭のころをメドに100ページ程度の冊子を完成させる。それと平行して4年生で執筆する卒論のテーマの選定を開始する。研修旅行で見聞したインドネシア社会の諸問題に題材をとることとし、できうる限り現地でフィールド調査（調査票とインタビュー）を行って書く。ゼミ生全員での合同論文の執筆を原則としている。そのためどのようなトピックをとりあげたいかをこの時期に検討する。トピックの選定のために必要な文献探しや先行研究状況の把握をし、各自が発表する。トピックが決まった段階でそれに関する基礎的な文献を幅広く読む作業を開始する。

研究会 c・d・卒業論文（4年）

授業科目の内容：

フィールド調査を行い、ゼミ生全員が合同でひとつの卒論を制作するが、その目的はフィールド調査の方法を学ぶとともに、共同で1つのものを制作することを通じてチームワークを身につけることを学ぶことである。しかしながら論文は基本的にフィールド調査のみならず、文献からの知識や知見をも基礎にして書くことをめざすため、先ず充分な文献調査を行う。ただし文献の探索とその読破作業は3年生までに行えるだけ終了させ、4年生前期は、就職活動と平行させながら、調査票の作成にとりかかる。調査は対面形式で、口頭で質問することを原則とするが、インドネシア語能力の限界などを考慮し、また各ゼミ生による質問内容を画一化させるために、調査票を使用する。そして前期はこの調査票の作成に時間をかける。その際にどのような属性の人を何名選んで話を聞かせるかをまず定める。そして、解明しようと思っっている問題について、限られた原語能力でできるだけ正確な、本音に近い回答を短い表現で聞きだすためにもっとも有効な質問表現を探し出す。

夏休みに再びインドネシアへ赴き、この質問票を使ったフィールド調査を10日程度行う。（調査には倉沢も同行する）やむをえない理由でフィールド調査に行けない場合には、少なくとも調査票作成に参加したり、日本在住のインドネシア人とのインタビューなどに参加する。調査許可取得の制約や、応援体勢の充実などを考え、原則として調査地は、例年同じジャカルタの1つの町内会を対象としている。（前年度のホームステイ地域）秋学期には調査の成果を全員で集計して共有し、論文執筆にとりかかる。

研究会 a・b（3年）

研究会 c・d・卒業論文（4年）

春・秋セット履修
教授 グレーヴァ香子

研究会 a（3年春）

授業科目の内容：

ミクロ経済学の理論、応用またはゲーム理論について学び、理解するのみならず、他の人に説明できるようにする。

テキスト：

最初の授業の日までに指定する。

参考書：

サブゼミで必要に応じた書籍を指定する。

授業の計画：

ミクロ経済学またはゲーム理論のテキストを輪読する。前期は特にレジュメの作り方、理論的発表のしかたについても学ぶ。

成績評価方法：
平常点

研究会 b (3 年秋)

授業科目の内容：

引き続き、ミクロ経済学の理論、応用またはゲーム理論について学び、自分でも簡単な研究を始められるようにする。

テキスト：

3 年春学期参照

参考書：

3 年春学期参照

授業の計画：

引き続き、ミクロ経済学またはゲーム理論のテキストまたは論文を輪読する。1 月に担当者と個人的に面談し、卒論のテーマを決め、研究計画を立てる。

成績評価方法：

3 年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

授業科目の内容：

ミクロ経済学の理論、応用またはゲーム理論について学び、卒業論文をまとめる。

授業の計画：

ミクロ経済学またはゲーム理論のテキストまたは論文を輪読する。また、夏合宿にて卒業論文の中間報告、12 月に卒業論文の 3/4 報告を行い、完成へと持って行く。

成績評価方法：

3 年春学期参照

研究会 a・b (3 年)

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

准教授 駒形 哲哉

研究会 a (3 年春)

授業科目の内容：

中国の動向は周知のとおり、世界の経済と安全保障に大きなインパクトを及ぼすようになっており、中国はもはや単なる好き嫌いで済まされる対象ではない。ただし、中国が国際社会でとる行動を理解するには、その政治経済体制や国土の大きさ、多様性がもたらす様々な背景を、歴史的過程も踏まえて理解する必要があり、相応の訓練を要する。

当研究会の目標は「中国通」の養成ではない。現代中国経済を題材に、現実を理解し、その理論を論理的に把握したうえで、次にその論理を的確に表現する訓練を行うという、大学でなければならない能力形成を目指している。

テキスト：

牧野文夫、南亮進 (編) 『中国経済入門』日本評論社をまず精読する。

参考書：

研究テーマごとに必要に応じて適宜紹介する。

授業の計画：

基本文献の輪読とビデオ学習により現代中国経済と周辺状況の基礎的理解をかため、考え方を学ぶ。

成績評価方法：

セット履修科目であるため通年で評価する。評価は研究会活動への参加の度合い、ブレ卒論・卒論の出来具合によって決定する。

質問・相談：

個別に随時応じる。

研究会 b (3 年秋)

授業科目の内容：

3 年春学期参照

参考書：

3 年春学期参照

授業の計画：

夏合宿までに選択した研究テーマにもとづき、個人研究報告を行い、期末に卒論の前段階となる「ブレ卒論」を提出する。

成績評価方法：

3 年春学期参照

質問・相談：

3 年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

授業科目の内容：

3 年春学期参照

参考書：

3 年春学期参照

授業の計画：

春学期は3 年生の文献輪読・報告を指導するのと並行して、卒論の準備を進め、夏合宿から卒論報告を繰り返し、卒論を仕上げる。

成績評価方法：

3 年春学期参照

質問・相談：

3 年春学期参照

研究会 a・b (3 年)

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

教授 駒村 康平

授業科目の内容：

本研究会は、社会政策、社会保障制度に関する研究を行う。日本社会は、すでに人口減少・高齢化社会に突入し、年金、医療、介護、生活保護、福祉（児童福祉、障害者福祉および関連制度）、労働保険といった分野での改革が集中的に行われている。

本研究会では、上記の課題について、受講者の関心に応じて、1) 社会保障制度研究チーム、2) 社会・経済システム研究チーム（人口、労働、地域福祉、NPO など社会保障制度と密接に関わる分野に関する研究）、3) 公民連携研究（企業年金、医療・保健ビジネスなど公と民の新しい連携分野に関する研究）チームに分けて、研究を進める。また、夏期合宿や他大学との討論会・共同研究会などを行いたい。

テキスト：

開講時に指定する。

参考書：

- ・駒村康平（最新改訂版）『福祉の総合政策』創成社
- ・国立社会保障・人口問題研究所（編）『社会保障制度改革 日本と諸外国の選択』東大出版会、2005 年
- ・城戸喜子、駒村康平（編）『社会保障の新たな制度設計 セーフティ・ネットからスプリング・ボードへ』慶應義塾大学出版会、2005 年

授業の計画：

春学期：各自の関心テーマにそった予備研究、夏期報告会

秋学期：報告会、討論会など

履修者へのコメント：

受講者が自ら問題意識を持ち、主体的・積極的に研究会に参加することを求めます。

成績評価方法：

平常点・出席、レポート・論文による。

質問・相談：

オフィスアワーを中心に随時。事前にメールにて調整

研究会 a・b (3 年)

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

教授 小室 正紀

授業科目の内容：

日本の経済思想の歴史を中心として、それと関連する思想史・経済史・政治史・社会史・文化史についての研究を行う。指導の目標は、各自の論文作成の過程を通じて、社会科学における歴史的な考え方や、その楽しさを知ってもらうことである。

具体的には文献講読と論文作成指導を学習の柱とする。文献講読では、春学期には概説的な比較的易しい文献を出来るだけ多く速読し、また秋学期には専門研究書を取り上げ、これ等を題材に質疑応答と討議をする。また適宜に、指定した基本的文献の読書報告を求める。論文作成については、研究の技術的な方法については講義をし、また個々の研究内容については個別面接も繰り返しながら指導を行う。履修者はできるだけ早い時期に課題を決定し、文献探索・研究史の整理を行い、関連史料を捜し、秋からはそれぞれの研究の中間発表を行う。

なお、私自身の現在の研究領域は江戸時代から明治期までである。この時代の研究がもっとも指導しやすいが、経済思想などを中心とした歴史的考察であるかぎり、履修者の研究課題は必ずしもこの時代でなくてもよい。

テキスト：

随時指定する。

参考書：

随時指定する。

授業の計画：

開講時に年間スケジュールを配布する。

履修者へのコメント：

正当な理由なく欠席をしたり、発表やレポートの提出を怠った場合には、その後の履修を認めない。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（出席状況による評価）
- ・その他（卒業論文）

質問・相談：

定期的に個人面接の時間を設定するが、それ以外でも、随時、質問・

相談に応じる。

研究会 a・b (3 年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年) 教授 櫻川 昌哉

研究会 a・b (3 年)

授業科目の内容:

春は、教科書を指定して、ゼミ生が順番に発表する。秋は三田祭・インターカレッジの発表会に向けて論文を作成する。

テキスト:

櫻川昌哉『金融立国試論』光文社新書

参考書:

W.バーンスタイン『豊かさの誕生』日本経済新聞社
他、良書に親しんでもらう。

授業の計画:

未定

履修者へのコメント:

本を多く読んでもらいたい。

成績評価方法:

ゼミでの態度、発表の上手さ

質問・相談:

ゼミ中

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

授業科目の内容:

卒業論文の作成と発表

テキスト:

3 年参照

参考書:

3 年参照

授業の計画:

3 年参照

履修者へのコメント:

3 年参照

成績評価方法:

卒論の内容

質問・相談:

3 年参照

研究会 a・b (3 年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年) 教授 塩澤 修平

授業科目の内容:

現実の経済現象を分析する手段としての理論経済学、および金融問題の理論的分析に興味を有する学生を対象とした演習である。

取り上げる文献として、理論的分析手法の基礎を身につけるもの、金融の実態を扱ったもの、日本経済あるいは国際経済の概要を把握するためのものなどを予定しているが、詳しくは最初の授業時間に指示する。

また各履修者は理論パート・金融パート・応用パートの少なくともひとつに所属し与えられたテーマのもとでの共同研究、ならびに個別の研究プログラムを進めていくことが求められ、適宜個別指導を行う。

テキスト:

授業中に配布する。

参考書:

授業中に適宜指示する。

授業の計画:

1~4. 指定テキスト購読

5~11. パート別論文報告

12. 13. 個別研究報告

履修者へのコメント:

積極的な参加意欲をもつ学生を対象とする。無断欠席は厳禁である。

成績評価方法:

提出レポート、報告、授業態度ならびに卒業論文

研究会 a・b (3 年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年) 准教授 白井 義昌

研究会 a (3 年春)

授業科目の内容:

3 年次に学術論文の読解・発表そして共同研究を行っていくことにより卒業論文作成に必要なリサーチスキルを身につける。国際経済学の研究トピックスを扱う。

授業の計画:

研究論文輪読 (発表, レポート)(4 回)

共同研究 プレリサーチ (1 回)
研究論文輪読 (発表, レポート)(4 回)
共同研究テーマと研究計画立案 (4 回)

研究会 b (3 年秋)

授業科目の内容:

3 年春学期参照

授業の計画:

共同研究 研究計画修正 (2 回)

研究論文輪読 (発表, レポート)(4 回)

共同研究 中間報告 (4 回)

共同研究 最終報告 (1 回)

卒論プレリサーチ (3 回)

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

授業科目の内容:

3 年次の準備の下に卒論作成を行う。

授業の計画:

4~5 月 研究計画実行報告書提出 (毎週)

6~7 月 卒論中間発表

研究計画建てなおしと夏休み研究計画書提出

9 月 合宿での中間報告

研究計画建てなおしと秋学期研究計画書提出

10~11 月 研究計画実行

12 月 卒論発表

1 月 卒論提出

研究会 a・b (3 年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年) 教授 杉浦 章介

授業科目の内容:

杉浦担当の基本科目「経済地理」の履修を前提に、経済地理学の基礎と応用を学習する。ゼミにおいては現代経済の現実を空間的 (地理的) 視点から分析する能力を涵養するために、下記の教材を用いながら、それぞれのテーマを見出し、それについて分析調査を行い、さらにその結果について報告し、討議を行うこととしたい。

テキスト:

未定

参考書:

適宜紹介する。

授業の計画:

前期は、経済地理学の基本的文献を輪読するとともに、空間的データ処理の演習ならびにフィールドワークを行う。

後期は、三田祭発表にむけた共同研究 (3 年)、卒論研究 (4 年) を行う。

履修者へのコメント:

学生時代で最も勉強した、と後から言えるようにしてほしい。

成績評価方法:

平常点 (出席状況および授業態度)

質問・相談:

ゼミの時間中、適宜行う。

研究会 a・b (3 年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年) 教授 杉山 伸也

授業科目の内容:

この研究会のおもな焦点は、第 2 次世界大戦までの、日本とアジアの経済史・経営史であるが、日本・東南アジア関係史や日米経済関係史などの対外関係史、日本とヨーロッパ諸国あるいはアジア諸国との比較社会・経済史などの研究テーマも対象とする。

研究会の最終目的は、大学生活の集大成として、卒論を完成させることにある。卒論では、原則として自分で課題を設定し、資料や研究文献をさがし、自分の設定したテーマを解明していくことになる。その過程で、適宜レポートの提出と口頭発表をしてもらうが、課題を十分にクリアできない場合は、退会してもらうこともある。3 年生の段階では、経済史の基礎的な研究文献の講読と発表が中心となる。

2009 年度は、インターネット上で利用可能な歴史関係の動画 (ニュース等) の積極的な活用を考えることに重点をおく。

成績評価方法:

平常点 (出席状況および授業態度)

研究会 a・b (3 年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4 年) 教授 須田 伸一

授業科目の内容:

本研究会は、ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論についての専

門的知識を身につけ、それを応用して現実経済を分析する能力を養うことを目的としている。4年生には卒業論文の指導も随時行う。

テキスト：

テキストはゼミ開講時に指示する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価
- ・卒業論文

研究会 a・b（3年）	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年）	教授 瀬古美喜

授業科目の内容：

本研究会では、理論経済学、計量経済学、都市経済学、公共経済学について、ミクロ経済学とマクロ経済学に基づいた研究を行う。春学期には、理論経済学の中でも主にミクロ経済学やマクロ経済学の基礎を洋書を用いて固め、併せて応用経済学としての都市経済学の教科書を輪読する予定である。秋学期には、より専門的な本や論文の輪読を行う。3年生は、1年間で卒業論文のテーマを選ぶこととなる。

テキスト：

瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社、2001年

参考書：

- 主な文献として、以下のようなものを挙げておく。
- ・ブランチャール『マクロ経済学上・下』東洋経済新報社
- ・Robert S. Pindyck and Daniel L. Rubinfeld, Microeconomics, Prentice Hall
- ・伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス』有斐閣
- ・Denise DiPasquale and William C. Wheaton, Urban Economics and Real Estate Markets, Prentice Hall, 1996
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社、1998年
- ・藤田昌久, ポール・クルーグマン他（小出訳）『空間経済学』東洋経済新報社、2000年
- ・山田浩之（編）『交通混雑の経済分析』創草書房、2001年
- ・Robert W. Wassmered., Readings in Urban Economics Issues and Public Policy, Blackwell
- ・Richard J. Arnott and Daniel P. McMillen, A Companion to Urban Economics, Blackwell, 2006

授業の計画：

テキストの輪読、実際のデータを用いた実証分析、三田祭論文のグループでの作成、卒論執筆を、総合的に行います。

履修者へのコメント：

経済理論、現実の問題など、幅広い興味を持って、総合的な観点で学ぶことを、希望します。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）

研究会 a・b（3年）	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年）	教授 高草木 光一

授業科目の内容：

本研究会は、社会思想史、とりわけ近代ヨーロッパ社会思想史を研究対象とする。私自身は19世紀フランス社会思想史を専攻しているが、卒業論文のテーマは、各人の自発的問題意識に従って広義の「社会思想史」から選択しうるものとする。研究会の活動は、基礎的文献の輪読と卒業論文作成のための個人報告を柱とする。サブ・ゼミの運営等については開講時に参加者と相談の上決めたい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研究会 a・b（3年）	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年）	教授 竹森俊平

授業科目の内容：

国際経済学のミクロ理論の検討と、卒業論文の指導を行う。本年用いるテキスト等は第1回研究会の際に指定する。

研究会 a・b（3年）	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年）	教授 武山政直

研究会 a（3年春）

授業科目の内容：

都市における経済活動について、経済地理学をはじめとする関連分野の調査・分析手法を学びます。特に、都市のフィールドワークや社会調査に基づく消費行動の分析と、問題発見のための発想法や概念構築メソッドを実践的に学習します。

授業の計画：

- 1) 都市生活者のライフスタイルおよび消費行動の調査と分析
- 2) 商業店舗や施設、文化・アメニティー施設の立地とマーケティング分析
- 3) モバイルメディアを利用した都市フィールドワーク

成績評価方法：

平常点

研究会 b（3年秋）

授業科目の内容：

都市生活者のライフスタイルや消費行動を空間とメディアという2つの視点において調査分析し、商業施設や文化・アメニティー施設の立地や空間デザイン、情報コンテンツのマーケティング戦略を立案します。

授業の計画：

場所や地域の特性を踏まえた情報コンテンツ・サービスの企画提案。

成績評価方法：

3年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文（4年）

授業科目の内容：

都市における経済活動について、経済地理学をはじめとする関連分野の調査・分析手法を用いて研究を行います。特に、都市生活者のライフスタイルや消費行動を空間とメディアという2つの視点において調査分析し、人々を都市に引き寄せる施設の立地や空間デザイン、情報コンテンツのマーケティング戦略へ応用を行います。

研究のスタイルとして、文献の読解をはじめ、現実の施設や都市のフィールドワークを実施することで概念的な知識と感覚的・体験的な知識との相互補完的な理解を促進します。

授業の計画：

本年度は下記のテーマを中心に研究活動を進めます。

- 1) 都市生活者のライフスタイルおよび消費行動の調査と分析
- 2) 商業店舗や施設、文化・アメニティー施設の立地とマーケティング分析
- 3) モバイルメディアを利用した都市フィールドワーク手法の開発
- 4) 場所や地域の特性を踏まえた情報コンテンツ・サービスの企画提案
- 5) 施設や都市空間に関連するイメージや意識の調査
- 6) 映像地誌の編集

成績評価方法：

3年春学期参照

研究会 a・b（3年）	春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年）	准教授 田中辰雄

授業科目の内容：

情報産業を主として実証的に分析する。情報産業とは、狭い意味では、情報（技術、知識、映画音楽などコンテンツ）と、それを処理し通信する機器（コンピュータ、インターネット、携帯電話など）からなり、広い意味では情報通信技術を利用する経済活動（企業の情報投資、電子取引など）からなっている。この分野はインターネットの急成長、企業取引の電子化、ブロードバンドの普及、情報家電など急激な変化が続いている分野である。ここ10年の日本経済衰退の一因はIT産業の不振にあったが、次第に日本経済でもIT化が進み、携帯電話・ブロードバンド・情報家電などでは世界のトップランナーになりつつある。

経済理論の面から見ると、IT産業では技術革新が非常に早い・ネットワークの外部性が働きやすい・費用逓減が起こりやすいなどの特徴があり、標準的理論が当てはまりにくい。実証的分析も、観察される現象が最近であるためデータが取りにくく、まだ十分になされていない。逆に言えば既存の研究例が少ない分、自分の頭で考えて仮説を考えることができる。特に、インターネットや携帯電話、パソコン、映画・音楽・ゲーム・アニメなどのコンテンツ等に関する個別知識などでは学生の方が先生より優る面もあるわけで、意欲的な学生の参加を期待したい。

本研究会では理論の勉強を行いつつも、実証をメインにする。データの収集は既存のデータベースが存在しないので、データの収集自体が作業の中心のひとつとなる。国会図書館や業界団体に出かけたり、web上の資料からプログラム（perlなど）やマニュアルで集めるなどの作業が必要になる。その作業を厭わない人を歓迎する。なお、研究会参加者は三田で計量経済学中級の講義を受講することが望ましい。

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 准教授 玉田 康成

研究会 a・b (3年)

授業科目の内容:

本研究会では理論経済学、特にミクロ経済学の専門的知識としての習得を第一の目的とし、さらに、その考え方を様々な経済現象に応用して検討する。従来の価格理論に加え、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論などを分析ツールとして獲得したことにより、経済学はその分析対象の大幅な拡張に成功し、それは産業組織論、公共経済学、労働経済学(人的資源管理)などの多分野に及んでいる。そのキーワードのひとつとして、「インセンティブ」を挙げることができる。広いテーマとしては、いかにして経済主体に対して適切なインセンティブを与えるかという問題意識を設定し、経済現象に関する議論をしていきたい。

テキスト:

授業にて指示する。

参考書:

授業にて指示する。

授業の計画:

本ゼミでは、教科書をもちいてミクロ経済学理論やゲーム理論の正確な理解を目指し、また適宜、現実の経済現象を理論的に分析した応用的文献を読む。さらに、3年生はサブゼミとパートゼミに参加する。サブゼミは本ゼミを補完するものとして位置付け、本ゼミで取り扱うことのできない重要な文献を輪読する。パートゼミでは関心ある研究テーマについてパートに分かれ、三田祭論文の作成を目指す。また、適宜インゼミ等の論文報告の機会を設ける予定である。

履修者へのコメント:

日吉のミクロ経済学初級、マクロ経済学初級の内容は踏襲する。また、適宜、必要な授業の履修を要求する。

成績評価方法:

本ゼミでのプレゼンテーションと宿題、三田祭論文などを通じて総合的に判断する。

質問・相談:

特に制限を設けず、自由に質問を受け付ける。

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

授業科目の内容:

3年参照

テキスト:

3年参照

参考書:

3年参照

授業の計画:

本ゼミでは、教科書をもちいてミクロ経済学理論やゲーム理論の正確な理解を目指し、また適宜、現実の経済現象を理論的に分析した応用的文献を読む。さらに、4年生は1年を通じて卒論を作成する。卒論は、研究会に参加したことから得た経済学の知識と自らの具体的な関心を1つの構築物として作成するものであり、研究会活動の目標と位置づけられる。テーマ選びの自由度は高いが、研究会を通じて獲得した経済理論の知識の発揮が求められる。

履修者へのコメント:

適宜、必要な授業の履修を要求する。

成績評価方法:

本ゼミでのプレゼンテーションと卒業論文などを通じて総合的に判断する。

質問・相談:

3年参照

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 准教授 崔 在 東

授業科目の内容:

本研究会では、近代化過程で人々が逢着していた様々な問題について多国の比較研究を行う。担当者の専門領域は19世紀後半から20世紀初頭のロシアの社会経済史であるが、関心領域はロシアに限らず、ポーランドとハンガリーなどの東欧諸国、ルーマニアとブルガリアなどのバルカン諸国、そしてイギリス・ドイツ、フランスなどの西欧諸国を含んでいる。なお、本研究会では韓国(朝鮮)、日本、中国なども視野に入れて、比較経済的研究を進め、ユーラシアの視点からヨーロッパを相対化していくような研究と議論を試みたいと思っている。

比較研究の素材は、前近代社会の農村構造であり、また近代化の過程でもたらされた諸変化である。具体的には「家族」、「共同体」、「土地」、「人口」を共通テーマとする。世代継承の基礎単位である「家族」と「共同体」のあり方は国によって異なり、「土地改革」と近代化過程における対応も異なる。さらに、「人口」、「エネルギー」、「植民と移民」、「宗教」、

「農民運動」、「社会主義」、「労働運動と労使関係」などもその射程に入る。前近代社会から近代社会への移行は国によって非常に多様な形で行われるが、いずれも極めて変化に満ちた興味深い過程を見せている。人々がどのように変化の時代を生き延びようとしたのか、各国の政府はどのような政策を講じていったのか、変化と相違をもたらす原因とその結果を究明していくこと、さらには現代とのつながりを模索することが、本研究会の基本課題となる。

研究会では、まず共通テーマの関連文献の輪読を行う。輪読文献は、共通テーマに関連する多国の事例研究の中でピックアップし、議論の叩き台とする。

メンバー全員に、輪読と議論などを通じて独自の研究テーマを見つけると共に、実証的論文(三田祭論文と卒業論文)をまとめていくことを義務とする。

テキスト:

随時指定する。

参考書:

随時指定する。

履修者へのコメント:

経済と社会を歴史的にアプローチする楽しさと必要性を共有することと、比較史的視点と現代の視点からの積極的な問題提起と議論を期待する。

成績評価方法:

- ・三田祭論文
- ・卒業論文
- ・平常点(出席状況および授業態度)

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 教授 辻村 和 佑

授業科目の内容:

本研究会では、実証分析の基礎に立って、制度と経済のパフォーマンスの問題を取り扱う。具体的には我が国の金融市場を共通の研究テーマとして取り上げ、短期金融、債券、株式、外国為替などの各市場のしくみと相互依存関係を経済全体との関連で考察してみたい。個々の参加者の研究課題については、実証分析を伴うものであれば上記の範囲に限定しないが、具体的なテーマが設定されていることが不可欠である。

成績評価方法:

- ・平常点(出席状況および授業態度)
- ・卒業論文

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 准教授 津 曲 正 俊

授業科目の内容:

経済分析の道具である「経済理論」をじっくり学び習得することが、当研究会の一番の目標である。特に本年度は、ゲーム理論、契約理論、情報の経済学などミクロ経済学の比較的新しい内容についてしっかり学ぶことに重点をおきたい。これら分野は、現実の経済問題の分析に幅広く応用されているが、特に経済が機能する基盤である「制度」の分析に大きな威力を発揮している。それは金融制度・税制度といった経済制度のみならず、政治制度、法制度など社会のあらゆる制度の意義を分析するためにも活用されている。現実の問題が、しばしば「制度」の問題として認識されている状況で、これらの分析手法の基礎をしっかりと身につけることは、社会の多くの問題の本質を見抜くためにきわめて有用である。研究会では、これらの分野を解説するテキストを読み議論することで理論的なベースを確実にすることをまず目指したい。また理論の現実の経済問題分析への応用の場としてパートごとの共同研究を推進する予定である。同時に、卒業論文執筆のための準備をしよう。

テキスト:

最初の授業で指示する。

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 教授 津 谷 典 子

授業科目の内容:

本研究会は、人口学の主要研究領域である死亡と死因、出生、結婚と家族・世帯、人口の年齢構造と高齢化、都市化と人口移動、ジェンダーと人口問題などについて、理論的枠組と統計を使っての計量分析の方法を学ぶことを目的とする。3年生時の春学期は、英語および日本語の文献を基に人口学の基礎理論を学習し、また実際のデータを使って人口統計分析の基礎を実習する。3年生時の秋学期は、さらに専門的な応用をめざし、各自が研究テーマを選び、既存文献の収集と検討を行い、データの収集や分析方法についても話し合い計画を立てる。4年生時は、卒業論文の作成に集中するが、内容の中間報告をして研究発表を随時行い、それについての質疑応答とクラス討論を実施する。

なお、研究対象とする人口・社会は現代のみでなく、戦前もしくは近世の歴史人口でも良い。これらの人口データや統計についても説明し、研究・分析を指導し援助する。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度）
卒業論文の作成と、それに関する発表をクラス内およびゼミ合宿にて行う。

研究会 a・b（3年） 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年） 教授 寺 出 道 雄

授業科目の内容：

この研究会では、主に農業問題について学ぶ。受講者の関心事は、狭い意味での農業問題でなくても、何らかの意味で自然と経済の関わりについてであればかまわない。

(1) 文献の輪読、(2) 幾つかのグループに分かれての共同研究、(3) 何回かのディベート等を行う。

輪読する文献については、最初の授業で受講者の関心事も考慮して決定する。他の点についても、最初の授業で説明する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研究会 a・b（3年） 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年） 教授 土 居 丈 朗

授業科目の内容：

本研究会は、財政金融政策をはじめとする経済政策を政治経済学的に考える力を養うことを目的とします。主に公共投資政策、地方分権改革、社会保障政策、税制改革、量的金融緩和政策、国債管理政策を対象に、政治の影響を考慮しつつ経済学的にどう分析できるかに取り組みます。特に、最近では、経済学的に専門性が高い政策課題に直面し、高度の政治的な意思決定を伴う局面が多く、それらを理解する上でも経済学的な素養が必要となってきています。

ちなみに、近年における経済学の潮流の中で、「政治経済学（political economy）」が台頭しています。これは、従来の政治の経済分析であった公共選択論の成果を取り入れつつも、主に次のような点でそれとは異なる特徴があります。まず、政治活動を行う主体は、標準的なミクロ経済学やゲーム理論で想定している効用や利潤や利得を最大化することを前提に、その行動を分析することです。また、現実の政治現象を、政治過程にかかわる主体に内在する要因（目的や選好）よりも、政治過程を取り巻く制度に伴う要因で説明する志向が強いことです。例えば、官僚が汚職をするのは、官僚が予算やレントを追求する目的（関数）を持っていたり、そうした選好が強かったりするという要因より、自らの効用や利得を最大化するという意味で合理的な官僚に、汚職をする誘因を生む現行制度（予算配分の権限や決め方など）が与えられているという要因を強調します。

本ゼミでは、春学期には、3年生と4年生が合同で、研究テーマ別にいくつかのグループに分かれて、そのテーマについて調査分析して発表する形式に変更する予定です。夏休みから秋学期にかけては、昨年度までと同様、三田祭論文や卒業論文を執筆し、その進捗報告・指導を行うとともに、他大学とのインゼミなどの準備を行います。

分析手法は、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学を中心に使います。ただ、最近の経済政策は現行の財政金融制度の理解も不可欠なので、制度を解説した文献を通じて理解を深めてゆく予定です。より詳細については、最初の授業で説明します。

経済分析に不慣れな3年生を中心に、サブゼミを別途開き、下記参考書を教材として基礎的な能力を養います。

現実の経済政策について高い関心を持ち、経済学の理論を駆使してそれらを説明したいという強い意欲のある学生を歓迎します。専門的な文献が英文でしか得られない場合があるため、英文を読むことに抵抗を感じない学生の参加を望みます。

テキスト：

研究会の進行に合わせて紹介します。

参考書：

- ・土居丈朗『入門 | 公共経済学』日本評論社
- ・井堀利宏・土居丈朗『財政読本（第6版）』東洋経済新報社
- ・土居丈朗『経済政策 財政金融政策』放送大学教育振興会
- その他、研究会の進行に合わせて紹介します。

授業の計画：

春学期では、教科書等を用いて経済政策を政治経済学的に分析する基礎を身につけ、秋学期では、より高度で現実的な問題を取り上げて具体的な調査・分析作業を進め、論文を作成することを予定しています。

成績評価方法：

- 平常点（出席状況および授業態度）

研究会 a・b（3年） 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文（4年） 准教授 中 妻 照 雄

研究会 a（3年春）

授業科目の内容：

ファイナンスは金融市場における資金の調達と運用に関する様々な問題を解決するための手法を学ぶ学問です。例として金融市場で資金を調達する側である企業と資金を運用する側である投資家の直面する問題を考えましょう。企業にとって投資する事業（工場・店舗の建設、企業の買収・合併など）の決定とそのための資金調達手段（増資、起債など）の選択は極めて重要な問題です。事業の収益とリスクは投資を正当化できるものであるか、資金調達のために如何なる手段を用いるべきかなどの様々な問題に対処する方法が研究者や実務家の間で考えられてきました。これを体系的に研究する学問分野をコーポレート・ファイナンスと呼びます。一方、投資家が資金の運用を行う際には、どの企業の株式や債券をいくら購入すべきか、資産の購入価格は妥当であるか、資産保有に伴うリスクは許容範囲にあるかなどの問題に対処しなければなりません。つまり投資家は収益とリスクのバランスを考慮しつつ保有する資産の構成を決定するという問題に直面していることとなります。この資産構成の決定方法の研究もファイナンスの主要な分野となっています。さらに近年ファイナンス理論の応用範囲は保険、年金、不動産などへと拡大しており、その重要性は益々高まっています。中妻研究会はファイナンスの理論とその応用を学ぶことを目的としています。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

参考書のリストは研究会の中で随時配布します。

授業の計画：

〔春合宿〕

本ゼミ

経済金融関連の時事問題を討論する。

サブゼミ

ファイナンス理論を理解するために必要な数学の基礎を学ぶ。

パートゼミ

三田祭発表に向けて各パートの専門分野の学習を進める。そして、三田祭発表の研究テーマを決める。

〔夏合宿〕

三田祭発表の中間報告を行い、今後の方向性を決める。

履修者へのコメント：

中妻研究会は初めてファイナンスを学ぶことを前提に進めていきますので安心してください。また、研究会の中だけでファイナンスに関する必要な知識を全て学ぶことは不可能です。可能な限り

- 金融関連 金融論、国際金融論、企業金融論、ファイナンス入門
- 計量経済学関連 計量経済学中級、計量経済学上級、時系列分析、ベイズ統計学

確率論関連 数理経済学特論 [確率論]

などの科目を平行して履修するようにしましょう。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
三田祭発表論文の完成度で学習の成果を評価します。
- ・平常点（出席状況および授業態度）による評価
毎週出席を取り研究会への参加状況を見ます。

質問・相談：

授業内容に関する質問にはメールあるいはアポイントメントを取っての面接で回答します。連絡方法は第1回講義で教えます。

研究会 b（3年秋）

授業科目の内容：

3年春学期参照

テキスト：

3年春学期参照

参考書：

3年春学期参照

授業の計画：

本ゼミ

経済金融関連の時事問題を討論する。

サブゼミ

ファイナンスに関する演習を行い、ファイナンス理論の理解を深める。

パートゼミ

三田祭発表の研究を進め、報告の準備、論文の執筆、最終報告を行う。

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

3年春学期参照

質問・相談：
3年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文(4年)

授業科目の内容：
3年春学期参照
テキスト：
3年春学期参照
参考書：
3年春学期参照
授業の計画：
本ゼミ、サブゼミ、パートゼミで3年生を指導しながら、卒業研究を行い論文にまとめる。
履修者へのコメント：
3年春学期参照
成績評価方法：
・レポートによる評価
卒業研究論文の完成度で学習の成果を評価します。
・平常点(出席状況および授業態度)による評価
毎週出席を取り研究会への参加状況を見ます。
質問・相談：
3年春学期参照

研究会 a・b(3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年) 教授 中村 慎 助

授業科目の内容：
本研究會においては、理論経済学及び公共経済学を中心に基本的な文献の輪読と各人の研究報告を行う。具体的な授業内容については、開講時に指定する。

研究会 a・b(3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年) 教授 中山 幹 夫

授業科目の内容：
ゲーム理論は1944年、フォン・ノイマンとモルゲンシュテルンの共著『ゲームの理論と経済行動』の公刊によって生まれたが、80年代に入ってから産業組織論や情報の経済学などへの関心の高まりのなかで、それまでの均衡概念をさらに扱いやすくした方法論上のイノベーションと、生物学などからの刺激もあって、経済学に取り入れられるようになった。今日では、特にミクロ分析のための強力な道具となっている。
また、特に近年、慣習やしきたりにもとづいて熟考しないで行動する人間や生物、遺伝子、オートマトンなどの機械、プログラム、アルゴリズムなどがプレイヤーであるようなゲームを考察するという、限定合理性の研究も盛んである。さらに、フロンティアでは知識や推論能力自体に制限を加えるという新しいアプローチもチューリング・マシンや様相論理の方法によって試みられている。
ゲーム理論は演繹的な構造物であるから、仮定や定義から出発して階段を1歩づつ昇るように根気強く思考することが必要で、知的好奇心や強い興味、関心をもっていることが望ましい。数学は、最低限、好きでなければ理論の面白さがわからず楽しくないであろう。英語については、文学的ではなく、論理的に読解することが必要である。
報告は、完璧である必要はないが、理解したことと、わからなかったことを区別して人に説明するという努力を評価する。その他の活動については、学生諸君の自発性に委ねる。

テキスト：
テキストとしては、中山幹夫『社会的ゲームの理論入門』勁草書房、2005年を使用する
参考書：
参考文献としてはとりあえず以下の7点をあげておく。
・Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994
・Gibbons(須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社、1995年
・岡田章『ゲーム理論』有斐閣、1996年
・中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣、1997年
・梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学・戦略的アプローチ』日本評論社、2000年
・中山幹夫・武藤滋夫・船木由喜彦共編著『ゲーム理論で解く』有斐閣、2000年
・武藤滋夫『ゲーム理論入門』日本経済新聞社、2001年
履修者へのコメント：
報告者は報告内容に責任をもつこと。あらゆる質問に答えなければならない。ただし間違えてもそこから議論が始まればよい。
成績評価方法：
平常点(出席状況および授業態度)
授業中、自由に質問やコメントすることを評価する。

質問・相談：
随時。メール可也。

研究会 a・b(3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年) 准教授 難 波 ちづる

授業科目の内容：
本研究會では、ヨーロッパ近現代社会史、植民地史を中心に学んでいく。担当者の専門領域はフランスの植民地統治であるが、授業内容はそれにとらわれず、参加者と相談のうえ、社会史、帝国主義、植民地主義、移民問題などにかかわるテーマを1つあるいは複数設定し、1年を通して学習していく。
テキスト：
参加者と相談の上、随時決定する。
参考書：
授業中に紹介する。
授業の計画：
テーマを設定した後、三田祭での研究発表を目標に、文献講読、資料調査、議論等を中心とした共同研究を行う。その後は、卒業論文のテーマ設定とその作成準備に各自とばかり、定期的に報告を行う。
成績評価方法：
・平常点(出席状況および授業態度)による評価
・4年次には卒業論文を作成する。

研究会 a・b(3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年) 准教授 延 近 充

授業科目の内容：
1980年代末以降、冷戦という戦後世界を規定してきた要因が消滅するとともに、国境を超えて移動する巨額の資金や巨大多国籍企業の提携・合併のような世界市場の再編の動き、経済的な相互依存が深まり一国の経済政策が他国に与える影響が大きくなって、混迷を深める経済問題や地球環境問題などの解決のために各国間の協力の必要性が強まる一方、政策手段は手詰りとなり活路を見出せない状態に陥るといふ世界的な一大転換期にあるからである。

こうした現代資本主義が直面している諸問題の根源を明らかにするためには、理論的検討と現状分析を世界史的視野から行う必要がある。その際には、第2次大戦後、冷戦対抗のもとで、アメリカの主導によって構築された資本主義の復興・成長の国際政治・経済の枠組みとその崩壊のメカニズムの分析が不可欠である。
本研究會の基本テーマは、このような問題意識から現代資本主義の直面している諸問題を分析することにある。本年度の共通テーマとしては、戦後の日本の経済復興・成長とそこに内在する問題点について、日米関係を軸として考えていく。研究会員個々の研究テーマとしては、環境問題や個別産業問題を含め、広く現代経済の抱える問題に関心をもって選択し研究してもらいたいと思っている。
テキスト：
井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣

研究会 a・b(3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年) 教授 長谷川 淳 一

授業科目の内容：
イギリス現代史(特に戦後史)と日本の戦後史(特に都市史)を中心に学んでいく。4年次での卒論の作成が最終的な課題となるが、3年次には、その準備作業として、夏(9月)、三田祭の2回の論文が必須の課題として課せられる。
テキスト：
最初の授業で指定する。
参考書：
適宜、紹介する。
成績評価方法：
・平常点(出席状況および授業態度)
・レポート(3年次は、上記授業科目の内容に示した、夏、三田祭の2回の論文)

研究会 a・b(3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文(4年) 准教授 藤 田 康 範

研究会 a(3年春)

授業科目の内容：
本研究會は経済政策・応用経済理論を研究分野としています。
春学期は、日本経済・世界経済に関する新聞・雑誌等の内容を理解して平易に説明し論評する能力を養うことを主な目標とします。各種の企業情報、研究所等が発行する雑誌の論文、『経済財政白書』等を楽しめるようになることがおおよその目安です。

私を含めて様々な背景を持つ人たちが接して知識を共有し、分業と協業によって経済や学問に関する理解を深める場にしたいと考えています。

テキスト：

- ・小宮山宏・松島克守『動け！日本』日経BP
- ・松島克守『MOTの経営学』日経BP 等

参考書：

Besanko D., D. Dranove and M. Shanley, *Economics of Strategy*, 2nd Edition Wiley, 1999 等

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 日本経済および世界経済の現状と問題点を把握する（5回）
3. 応用理論分析を行った論文を輪読し、応用理論分析の手法を身につける（6回）
4. まとめ

履修者へのコメント：

学生一人ひとりがそれぞれの背景を大事にし、互いに異なり互いに尊重できる存在であり続けていただきたいと思います。

成績評価方法：

平常点に基づいて成績評価を行います。

質問・相談：

随時受け付けます。

研究会 b (3 年秋)

授業科目の内容：

秋学期は、経済理論の活用方法を身につけることを主な目標とします。論文執筆に取り組むことを通じ、知的生産の楽しさを実感していただくと思っています。学生一人ひとりが新たな才能を発掘して自覚すると同時に、相互に良い刺激を与えて「自他共栄」関係を構築していただけたらと考えています。

テキスト：

3年春学期参照

参考書：

3年春学期参照

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 経済に関する良書を読む（5回）
3. 三田祭論文の中間報告および最終報告（6回）
4. まとめ

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

平常点および三田祭論文に基づいて成績評価を行います。

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

授業科目の内容：

4年生は、これまでの研究を踏まえ、ビジネスや政策の「設計図」を描けるようになることを主な目標とします。

大学生生活の最後の1年間を充実させ、経済学的な考えを血肉化し、より良い社会人になるための準備をしていただきたいと思います。

テキスト：

3年春学期参照

参考書：

3年春学期参照

授業の計画：

春学期

1. ガイダンス
2. 日本経済および世界経済の現状と問題点を把握する（5回）
3. 応用理論分析を行った論文を輪読し、応用理論分析の手法を確認する（6回）
4. まとめ

秋学期

1. ガイダンス
2. 経済に関する良書を読む（5回）
3. 卒業論文の中間報告および最終報告（6回）
4. まとめ

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

平常点および卒業論文に基づいて成績評価を行います。

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 a・b (3 年)

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

春・秋セット履修

教授 古田 和子

研究会 a (3 年春)

授業科目の内容：

アジアは近年、急速な変化を遂げつつある。そうした現在のアジアを理解するためにも、アジア諸地域の経済的な変容過程を長いタイム・スパンのなかで歴史的に解明する必要性はさらに高まっているといえよう。本研究では、19世紀後半から20世紀前半の時期を中心とした近代におけるアジア経済史の研究を行う。

取り上げるテーマは、1) 近代東アジア・東南アジアにおける社会経済的変容過程、2) アジア域内における国際経済関係や国際分業体制、国境を超えたヒト、モノ、カネ、情報の移動、3) アジアエネルギー市場や環境の歴史、などである。

テキスト：

・古田和子『上海ネットワークと近代東アジア』東京大学出版会、2000年

・杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年

参考書：

授業のなかで詳しく紹介します。

授業の計画：

アジア経済史に関する基本文献を読みながら、そのディスカッションを通して、アジア経済史研究の基本的な枠組みおよび学会における研究動向をゼミのメンバー全員が共有することを目的としたい。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点による評価

質問・相談：

随時

研究会 b (3 年秋)

授業科目の内容：

3年春学期参照

テキスト：

3年春学期参照

参考書：

3年春学期参照

授業の計画：

秋学期には、春学期に議論したアジア経済史に関する基本文献を踏まえて、特定のテーマに関してより専門的な検討を行う。秋学期の課題は以下の二つである。

1) 共同研究報告書の作成

2) 個人研究テーマの設定

1) は、秋の三田祭における共同研究発表に向けて各パートが夏季休暇中に進めて来た研究を相互に報告し、議論を重ねて、共同研究報告書にまとめる作業を行う。論文作成の基本的な作法と同時に口頭による研究報告の手法も習得してもらいたい。

2) は、4年次にまとめる卒業論文に向けて、各自が研究テーマを設定する作業である。卒論はテーマ設定が命である。自分は何ぞこのテーマを研究したいのか、このテーマに関して従来どのような研究成果があげられているのかを明確にして、各自の卒論研究に入ってもらいたい。

成績評価方法：

3年春学期参照

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 c・d (4 年)

授業科目の内容：

3年春学期参照

テキスト：

3年春学期参照

参考書：

3年春学期参照

授業の計画：

卒業論文の作成・発表。

成績評価方法：

3年春学期参照

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 (卒業論文) (4 年)

授業科目の内容：

3年春学期参照

テキスト：
3年春学期参照

参考書：
3年春学期参照

授業の計画：
4年参照

成績評価方法：
卒業論文による評価

質問・相談：
3年春学期参照

研究会 a・b (3年)

春・秋セット履修
准教授 穂刈 享

授業科目の内容：

離散時間・有限期間のダイナミック・プログラミングについての簡単な講義と問題演習を行う。

主なトピック

1. 最適な「止め時」を見極める：仕事探しのモデル
2. 異時点間の資源配分：人的資本の蓄積のモデルと cake-eating problem
3. サーチと均衡

テキスト：
特になし

参考書：

- ・穴太克則『タイミングの数理：最適停止問題』朝倉書店，2000年
- ・今井亮一他『サーチ理論：分権的取引の経済学』東大出版会，2007年
- ・Nancy L. Stokey and Robert E. Lucas, Jr. with Edward C. Prescott. *Recursive Methods in Economic Dynamics*, Harvard University Press, 1989

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

研究会 a・b (3年)

春・秋セット履修
教授 細田 衛士

研究会 a (3年春)

授業科目の内容：

環境経済学の基礎的部分を学習する。同時に、環境トピック、フィールドワークなども実施する。また、夏期休暇合宿に向けてディベートの準備を行う。

テキスト：

栗山浩一・馬奈木俊介『環境経済学をつかむ』有斐閣，2008年

参考書：

授業中随時指示する

授業の計画：

- (1) テキストの輪読 (春・秋)
- (2) 環境トピック (今週のトピック)：その週に起きた環境トピックのプレゼンテーションおよび Q & A (春・秋)
- (3) フィールドワーク (春)
- (4) ディベート (夏期休暇合宿)
- (5) インゼミ (秋，予定)
- (6) 個人面接指導
- (7) 卒業論文作成 (4年生段階)

成績評価方法：

以上，授業計画に挙げた項目(1)~(7)の総合評価による

質問・相談：

適宜受ける。

研究会 b (3年秋)

授業科目の内容：

春学期の学習をもとに、やや環境経済学の中級のテキストを学習する。同時に、環境トピック、インゼミ論文作成なども行う。

テキスト：

河田幸視『生物資源の経済学入門』大学教育出版，2008年

参考書：

春学期参照

授業の計画：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：

春学期参照

研究会 a・b (3年)

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

春・秋セット履修

教授 前多 康男

研究会 a (3年春)

授業科目の内容：

この研究会では、マクロ経済学、および、金融経済学に関する研究を行う。実際の経済の現状を的確に把握し、そこに経済理論を適切に応用することによって、さまざまな政策的な課題に答えていくことを目的とする。春学期は、テキストの輪読を行い、経済学の基礎を学習する。

テキスト：

最初の授業で指定する。

参考書：

最初の授業で指定する。

授業の計画：

テキストの輪読を順次行う。

履修者へのコメント：

自分で自ら学習する姿勢が大切である。

成績評価方法：

平常点 (出席状況および授業態度)

質問・相談：

Eメールで受け付ける。必要に応じて面談も行う。

研究会 b (3年秋)

授業科目の内容：

秋学期は、日経ストックリーグへの参加のための準備を行う。3年生をグループに分け、グループ毎に投資戦略についての討議を行う。

テキスト：

使用しない。

参考書：

使用しない。

授業の計画：

グループ毎の発表を順次行う。

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

3年春学期参照

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

授業科目の内容：

経済の諸問題に、既存の経済理論に捕われない自由な発想をもって、政策的な提言を行う卒業論文の作成を行う。作成過程についての報告を順次行い、討論を行う。

授業の計画：

卒業論文の中間報告を順次行う。

履修者へのコメント：

3年春学期参照

成績評価方法：

3年春学期参照

質問・相談：

3年春学期参照

研究会 a・b (3年)

研究会 c・d・卒業論文 (4年)

春・秋セット履修

教授 マッケンジー，コリン R.

研究会 a (3年春)

授業科目の内容：

本研究会では外国と比較しながら日本経済の実証分析を行う。今までのゼミでは規制緩和や構造改革について勉強してきた。2009年度の春学期には、ミクロ経済学の復習 (特に、消費者の効用最大化問題、企業の費用最小化問題・利潤最大化問題と独占企業)、EViews 5.0 の使い方と論文の書き方について輪読したり、コンピューター実習したりする。論文の書き方の材料として、4年生の提出した個人論文や数本の学術論文とする。春学期の後半はマッケンジーが紹介する英文文献を輪読する。このゼミの“輪読”とはただ文献 (または文献の議論) を日本語に訳することだけではなく、著者の言いたいことを簡潔にまとめること、内容について疑問点を投げかけること、日本の関係する文献・制度を紹介することになる。4年生と3年生を区別せずにゼミを行う。

テキスト：

ミクロ経済学について

最初の授業に提示する。

EViews について

- ・松浦克己・マッケンジー・コリン『EViews による計量経済学入門』東洋経済新報社, 2005 年
- ・滝川好夫・前田洋樹『EViews で計量経済学入門』日本評論社, 2004 年

参考書:

特になし。

授業の計画:

第 1 回 マッケンジーゼミで何をやるか

第 2 回 第 7 回

パワーポイントによるプレゼンテーション練習 (3・4 年生)

ミクロ経済学の復習, 計量経済学の紹介, EViews の使い方についての紹介, 論文の書き方についての指導 (3・4 年生)

第 8 回 第 13 回

英文文献の輪読 (3・4 年生), 三田祭論文 (3 年生) の概要説明

履修者へのコメント:

ゼミ中, 携帯の使用と私語は禁止。実際の世界を分析することに興味がある方, マッケンジーゼミを是非検討してください。

研究会 b (3 年秋)

授業科目の内容:

秋学期には, 三田祭論文 (3 年生が中心), 個人論文 (3 年生) と卒業論文 (4 年生) について報告したり, 議論したりする。計量の実習をゼミの一環としてやる。

テキスト:

特になし。

参考書:

3 年春学期参照

授業の計画:

第 1 回 第 13 回

三田祭論文 (3 年生) 個人論文 (3 年生) や卒業論文 (4 年生) についての報告

履修者へのコメント:

3 年春学期参照

研究会 a・b (3 年)

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

春・秋セット履修

教授 丸山 徹

授業科目の内容:

経済理論の基礎的学習。

研究会 a・b (3 年)

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

春・秋セット履修

准教授 宮内 環

授業科目の内容:

「市場の数量分析」

当研究会では「市場の数量分析」の方法を実際の分析事例にそくして学ぶ。具体的な分析事例で明らかにされようとしている問題の所在, その分析のために要請される理論構成, そして適切な分析方法の選択, さらにこうした「市場の数量分析」の意義について, 議論を集中して行う。今年度は市場の数量分析, および計量経済学的方法の基礎的な文献の輪読を中心に, 数量分析の方法の基礎を固める。さらに研究会参加者は自らの研究テーマを選び, その研究報告も併せて行う。

テキスト:

研究会参加の学生諸君と相談の上決める。

参考書:

計量経済学的方法の基礎;

- ・小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社, 1972 年
- ・小尾恵一郎『統計学』筑摩書房

市場の数量分析とその意義;

- ・小尾恵一郎・宮内環『労働市場の順位均衡』東洋経済新報社, 1998 年
- ・辻村江太郎『経済政策論』筑摩書房, 1977 年
- ・辻村江太郎『計量経済学』岩波全書

計量経済学的方法論;

初級;

・Kennedy, P., A Guide to Econometrics, MIT Press, 1988

中級;

- ・Greene, W. H., Econometric Analysis, 3rd. ed., Prentice Hall, 1997
- ・Gujarati, D. N., Basic Econometrics, 3rd. ed., McGraw Hill, 1998

上級;

- ・Griliches Z. and M. D. Intriligator eds, Handbook of Econometrics, vol.1-3, Essevier, 1994-96
- ・Engle R. F. and D. L. McFadden eds, Handbook of Econometrics, vol. 4, 5, Essevier, 1994-98
- ・Juud, K., Numerical Methods in Economics, MIT Press, 1998
- ・White, H., Estimation, Inference and Specification Analysis, Cambridge

University Press, 1996

履修者へのコメント:

履修者諸君は, 当研究会活動を通じて, 検証可能な仮説の設定と, 当該仮説を検証するために適切な観測方法の選択という, 科学の基本的な研究方法について学んでほしい。

なお, 『社会科学基礎論 a, b』は 3 年時に, 『計量経済学上級 a, b』は卒業までに, 各々履修すること。

成績評価方法:

成績の評価は研究会における報告を勘案して行う。

質問・相談:

研究会の最初の時間にオフィス・アワーについて連絡する。

研究会 a・b (3 年)

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

春・秋セット履修

教授 柳沢 遊

授業科目の内容:

本研究会では, 今年も 20 世紀前半の日本と東アジア諸地域の経済・社会を対象とする実証研究を行う。今年度は, 「20 世紀の日本経済・日本社会」を年間テーマとし, 1930 ~ 50 年代の都市商店街の形成, 戦争経験, 戦後改革, 都市型生活様式の普及, 失業者の生活, 中小商工業金融, 高度経済成長の開始, 受験体制のなかのこどもたちなどについて, 1980 ~ 90 年代の研究の到達点を把握し, 論点を整理していきたい。使用する文献は, 石井寛治編『近代日本流通史』東京堂出版, 橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書。

卒業論文のテーマについては, 20 世紀の日本とアジア諸地域に関する内容である限り自由に設定しうるが, 4 年の学年末には 400 字で 60 ~ 80 枚の卒業論文の提出が義務づけられている。

テキスト:

- ・石井寛治 (編)『近代日本流通史』東京堂出版
- ・橋本寿朗『戦後の日本経済』岩波新書
- ・武田晴人『高度成長』岩波新書

参考書:

- ・大日方純夫・山田朗 (編)『近代日本の戦争をどうみるか』大月書店, 2004 年 1 月刊
- ・天野正子ほか (編)『戦後経験を生きる』吉川弘文館, 2003 年 12 月刊
- ・大石嘉一郎『日本資本主義百年の歩み』東京大学出版会, 2005 年 10 月刊

授業の計画:

- ・4~6 月期はテキストの輪読を中心に, 参加者のディスカッション能力を向上させる。
- ・7~10 月期は, 三田祭企画への取り組みを学生主導で行い, 調査・研究方法を向上させる。
- ・10~1 月期は, 三田祭での研究発表をふまえて, 各自卒業論文に取り組む。

履修者へのコメント:

毎回出席し, 1 つでいいから, 疑問点を提出してください。他大学ゼミ (法政大学・埼玉大学など) との交流に意欲的に取り組んでください。1 週間に 1 回は, 図書館に入って, 卒論にかかわる文献・資料を探し, 読みましょう。

成績評価方法:

平常点 (出席状況および授業態度)

卒業論文を納得いく形で執筆できるかどうか, 柳沢研究会卒業のあかしです。しっかりした卒論を, 同期生や先輩のはげましのなかで, 書きあげて卒業しましょう。

質問・相談:

火曜日の昼休みや火曜日の夕刻以降は, できるだけ, 質問や相談に応じるつもりです。

研究会 a・b (3 年)

研究会 c・d・卒業論文 (4 年)

春・秋セット履修

教授 矢野 久

研究会 a (3 年春)

授業科目の内容:

春学期は社会史の基礎的文献を読む。日本語と英語文献を同時並行的に輪読形式で読む。研究会のメンバーの興味関心に応じて, 総合テーマを決定し, それに関する文献に順次移行する。

研究会 b (3 年秋)

授業科目の内容:

秋学期は総合テーマに即した報告を中心に研究会を運営し, 三田祭に際して発表するための論文作成を行う。

研究会 c・d・卒業論文(4年)

授業科目の内容:

卒論の中間報告を中心にテュートリアル形式で行う。

研究会 a・b(3年)

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文(4年)

准教授 山田 篤 裕

授業科目の内容:

この研究会では社会政策(労働政策および社会保障)の政策効果について、経済学の枠組を活用し分析することを目的とします。

現在、日本の社会政策は大きな課題に直面しています。たとえば日本の社会保障の規模は経済(国民所得)の24%ですが、この財源の大部分は現役世代によって支えられています。一方、現役世代への社会保障給付はわずかです。また男女の雇用機会均等化は確かに進みましたが、その影で家庭と仕事の両立に悩む人々が増え、未婚化・少子化傾向は止まらず総人口は減少し始めました。

また先進国中、日本はアメリカに次いで貧困率が高く、所得格差が大きくなっています。さらに長時間働いても経済的に自立できない人々が多く存在しています。正社員と非正社員間で賃金、解雇のしやすさ、訓練機会、社会保険加入などで格差がありますが、企業はこうした非正社員を1990年代から急激に増やしています。

上に挙げた以外にも、日本の社会政策は現在さまざまな課題に直面しています。本研究会では、こうしたさまざまな課題を学生の関心に沿って取り上げ、既存の社会政策の効果を検証して議論していきます。

テキスト:

履修者の関心テーマに応じ、後日指定します。

参考書:

履修者の関心テーマに応じ、後日指定します。

授業の計画:

春学期

1. 基本文献の輪読
2. 文献・データ検索・解析手法の習得
3. プレゼンテーション技法の習得
4. 三田祭論文(3年)・卒業論文(4年)の企画・作成
5. 各論文中間報告

秋学期

1. 基本文献の輪読
2. 三田祭論文(3年)・卒業論文(4年)の作成
3. 卒業論文研究計画の作成(4年)
4. 各論文最終報告

履修者へのコメント:

最も身近な政策でありながら、社会保障、社会保障制度の基盤にある雇用、そして労働政策について研究する機会は限られています。研究者の層もわが国では厚いとはいえません。その意味でまだ未開拓のさまざまな研究テーマが豊富にあり、その未開拓の領域に挑んでほしいと思っています。さらにこの研究会がたんなる応用経済学の一分野としての政策研究にとどまらず、「良き生」について考え直すきっかけとなれば、と願っています。

成績評価方法:

平常点(議論への貢献, レポート, 共同研究, 卒業論文等の総合的評価)

質問・相談:

教育支援システム(keio.jp)の利用ならびに個別に随時応じます。

研究会 a・b(3年)

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文(4年)

教授 山田 太 門

授業科目の内容:

公共経済学・財政学および文化経済学について、マクロ経済学とミクロ経済学を基礎とした研究を行う。本ゼミでは専門書の輪読を行う予定。予定人員は20名程度で応募者が多い場合には選考を行う。

4年生については各自の卒業論文のテーマについて研究報告を行う。

研究会 a・b(3年)

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文(4年)

教授 吉野 直行

研究会 a(3年春)

授業科目の内容:

経済のさまざまな指標を見て、現実の経済の動きと経済理論の関係を勉強する。

参考書:

演習の中で指示する。

授業の計画:

毎回、経済指標の動きを勉強する。為替, 金利, マネーサプライ, 経

常収支, 外貨準備, 失業率, 稼働率, 設備投資動向, 消費動向, 財政バランスなどの動きを, 日本・米国・欧州・アジアのデータで比較し, マクロ経済理論を用いた説明を試みる。春学期の輪読では,

(i) 国際経済(Exchange Rates and International Finance)

(ii) 計量経済(Econometrics, Stock and Watson)

(iii) ファイナンス(Financial Economics, Cutbertsow)

などを用いた基礎的な学習を行う。

成績評価方法:

平常点と論文

質問・相談:

ゼミの中で質問を受け付ける。

研究会 b(3年秋)

授業科目の内容:

データを集めた計量分析を金融・財政政策に応用し, 具体的な計量手法を勉強する。

参考書:

3年春学期参照

授業の計画:

秋学期には, 各パートに分かれて, 計量分析手法を用いながら, 三田祭論文を作成する。テーマとしては, (i) 日本の為替変動の現状とその要因分析, (ii) アジア各国の資金フローの変化とその要因分析, (iii) 資産価格の変動(株価・地価の変動), (iv) 財政赤字の現状とマクロ経済効果, (v) 日本の地域経済の動向と地域間格差などである。

成績評価方法:

3年春学期参照

質問・相談:

3年春学期参照

研究会 c・d・卒業論文(4年)

授業科目の内容:

春学期は経済指標の分析力を高めること, いくつかのパートに分かれた実証分析を行う。

秋学期は各自が選んだテーマの卒業論文に向けた勉強を進める。

参考書:

3年春学期参照

授業の計画:

毎回, 経済指標の動きを勉強する。為替, 金利, マネーサプライ, 經常収支, 外貨準備, 失業率, 稼働率, 設備投資動向, 消費動向, 財政バランスなどの動きを, 日本・米国・欧州・アジアのデータで比較し, マクロ経済理論を用いた説明を試みる。春学期輪読では,

(i) 国際経済(Exchange Rates and International Finance)

(ii) 計量経済(Introduction to Econometrics, Stock and Watson)

(iii) ファイナンス(Financial Economics, Brian Kettell)

などを用いた基礎的な学習を行う。さらに, 各自の卒業論文のテーマに沿って, 演習を行う。テーマとしては, (i) 財務諸表による日米の銀行行動の比較, (ii) 資金の地域配分と政治力, (iii) 不動産証券化, (iv) 金融政策の波及経路, (v) 日米の株価の変動要因分析, (vi) 銀行行動の計量分析などであり, 卒業論文の進捗に応じて発表を行い, コメントを受けながら, 論文を書き進める。

成績評価方法:

3年春学期参照

質問・相談:

3年春学期参照

研究会 a・b(3年)

春・秋セット履修

研究会 c・d・卒業論文(4年)

客員教授 若 杉 隆 平

授業科目の内容:

本研究会は国際貿易・直接投資・イノベーションをテーマとする。イノベーションが生み出す国際貿易パターンの変化やグローバルな企業活動ネットワークの展開を理論面・実証面から分析すること, 企業のイノベーションと知的財産権制度, 競争政策, 産業政策を理論的・実証的に分析することなど, 国際貿易, 投資, 研究開発, イノベーション, 法制度と政策にかかわる課題の中から, 現実の経済現象に目を向けつつテーマを選び, 経済分析を重ねてゆく。

春学期には国際貿易・直接投資・技術革新の分野における基本的な文献に取り組み, 基礎力を養う。秋学期には, 3年生は, グループ毎に研究テーマを選び, そのテーマに沿って論文・文献を講読し, 研究成果を中間報告する。4年生は卒業論文の中間報告を行う。

研究会で用いるテキスト・文献は第1回研究会の時に紹介する。

成績評価方法:

平常点(出席状況および授業態度による評価)

研究会 a・b (3年) 春・秋セット履修
研究会 c・d・卒業論文 (4年) 教授 渡邊 幸男

授業科目の内容:

本研究会の中心テーマは、工業経済論、中小企業論、日本経済論の3者あるいはこれらが交錯する場にあるといえよう。現代資本主義論の理論の学習と現状の日本経済についての批判的理解のための学習とを、できる限り同時並行的に行いたい。
そのためにも、夏休みを中心とした3年生ゼミ員による共同実態調査は不可欠であると考えている。

研究プロジェクト

(誘導展開型)

三田開講

研究プロジェクト a (誘導展開型) (春学期) セット履修
研究プロジェクト b (誘導展開型) (秋学期) 教授 鈴木 晃仁

研究プロジェクト a (誘導展開型) (春)

授業科目の内容:

「医療と病気の近現代史」に関するテーマの中から、各人が興味がある主題を選び、研究する。

テキスト:

なし

参考書:

受講者の関心にあわせて選択し指示する。

授業の計画:

基本的な考え方を紹介したあと、受講者の関心にあわせた主題についての文献やデータを輪読・分析し、プロジェクト論文の主題を決定する。

成績評価方法:

研究プロジェクトの方法にしたがう。

質問・相談:

メール

研究プロジェクト b (誘導展開型) (秋)

授業科目の内容:

研究プロジェクト a をふまえて、受講者の研究報告を中心に授業を行う。

テキスト:

春学期参照

参考書:

なし

授業の計画:

受講者による研究報告と論文指導

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

研究プロジェクト a (誘導展開型) (春学期) セット履修
研究プロジェクト b (誘導展開型) (秋学期) 教授 村越 貴代美

授業科目の内容:

現代中国に関する問題について、各自テーマを選んで研究する。とくに問題の背景にある文化的・歴史的な事情を探りつつ、考察する。
たとえば、中国が国際社会の一員になろうとする際に常に問題とされる「人権」問題であるが、そもそも人権の概念が中国では西洋諸国とは異なり、その背景には長く伝統のある儒教倫理が関わっているのではないかなど。

ちなみに、昨年度の自発展型を履修した学生は、北京オリンピックの前で北京の街並みがどのように変化し、人々の暮らしがどのように変わったかを、民国以前、中華人民共和国成立以後の地図と比較しながら検討し、夏休みには北京で現地調査も行って、研究をまとめた。

授業の計画:

前期は、文献資料の調査・読解・分析・整理など研究方法のトレーニングをしつつ、テーマをしぼる。後期は、各自の研究報告と、論文執筆のための構成・記述などを指導する。

日吉開講

研究プロジェクト a (誘導展開型) (春学期) セット履修
研究プロジェクト b (誘導展開型) (秋学期) 教授 宇振 領

授業科目の内容:

中国はアヘン戦争 (1840-1842) でイギリスに負けた。そのショックで、日本は、

第二の清国になりたくない。日本は列強の植民地になりたくない。列強と肩を並べたい。

さらなる一歩進んで、アジアの盟主になりたい。

以上の目的を実現するには、

富国強兵。

資源小国 教育振興で人材大国を作り上げる。

国外拡張・資源略奪で農業社会 工業社会。

明治維新後、台湾出兵。日清戦争。日露戦争。第一次世界大戦でドイツ領山東省を占領。満州権益を守り、直接統治のための張作霖暗殺。満州事変と満州国で満州直接統治の実現。満州権益確保のための戦争拡大、盧溝橋事件で日中戦争勃発。迷走へ。

履修者は近現代の日本と中国の間で起こった事件から、各自テーマを選んで研究する。

テキスト:

レジュメを配布

参考書:

適宜に指示する

授業の計画:

春学期は文献資料の調査・収集・分析や研究方法のトレーニングをしつつ、論文のテーマを絞る。

秋学期は各自のテーマに沿って、文献資料の読解、整理、発表を通して、論文作成に発展する。

履修者へのコメント:

この研究プロジェクトは一年で論文を提出するプランになっている。履修者は日本と中国の近現代歴史、政治、外交などに強い関心を抱いている学生の参加を期待している。

研究プロジェクト a (誘導展開型) (春学期) セット履修
研究プロジェクト b (誘導展開型) (秋学期) 准教授 長田 進

授業科目の内容:

「都市問題」および「地域開発」に関するテーマの中から、各人が興味を持つ主題を選び、研究する機会を提供する場として開講する。

テキスト:

最初のセミナーの時間に指定する。推薦する図書は以下の二点からそれぞれ選ぶ予定である。それは(1)論文で取り上げる内容に直結した書籍、及び(2)研究技法を習得するための書籍、である。

参考書:

個人の研究テーマに関連する文献を指定する。論文を一本書くに当たっては、各テーマについて最低限30冊から50冊程度を指定する予定である。授業の計画:

前期は、(1)研究技法についてトレーニングを行うとともに、(2)各自の学問的興味を考慮に入れた専門書を購読、発表を行い、参加者で討論する期間とする。前期末までには論文執筆にあたっての詳細な計画を立案し、先行研究についての文献レビューを行う。

夏休み以降は、進捗状況の報告を数回行った上で討論を行い、その内容を反映した論文の完成を目指す。

履修者へのコメント:

この研究プロジェクトは一年で論文を執筆することを求めている。このスケジュールで論文を完成させるためには、履修者に都市に関する明確な問題意識を持つことが必要とされる。そのような意識を持つ積極的な学生の参加を期待している。

成績評価方法:

授業に対する貢献度(出席、発表内容、等)を勘案して行う。

質問・相談:

メールで行う。

研究プロジェクト a (誘導展開型) (春学期) セット履修
研究プロジェクト b (誘導展開型) (秋学期) 教授 羽田 功

授業科目の内容:

「ユダヤ人問題」は時間的には2千年近くにおよぶ歴史を持ち、空間的には全世界にまたがる問題としてきわめて特異な性格を有しています。しかし、それだけではなく、「民族」や「民族問題」を考える上でもさまざまな示唆を与えてくれる問題でもあります。さらには宗教、政治、経済、思想、芸術など、人間の多様な営為の場においてつねにユダヤ人は大きな足跡を残してきました。しかし、他方ではユダヤ人に対しては古くから誹謗

や中傷が加えられ、また現実に迫害の標的とされてきてもいます。

ところで、わたしたちは「ユダヤ人問題」についてどこまで正確にその特徴や事実関係を知っているでしょうか。あるいは上述したようなユダヤ人のあり方から私たちは何を学び取ることができるのでしょうか。こうした問題関心から始まって、この巨大な問題を全体として理解し、同時に全体的なパースペクティブのもとでユダヤ人問題やユダヤ人あるいはユダヤの歴史・文化などへの各人の個別的な関心を深めていくことがこのプロジェクトの目的です。

テキスト：

プリント配布

参考書：

第一回目の授業時に指示します

授業の計画：

春学期：問題理解のための基本文献を読みながら、基礎的な知識の習得と共に文献の読み方を身に付けつつ論文作成につながる個別研究テーマの発見をめざします。また、これと並行して文献・資料検索やレポート作成や口頭発表の方法についても教示します。

(1) ガイダンス 1回

(2) ユダヤ人問題の歴史（古代から近現代まで） 5回

(3) ユダヤ人問題の特徴的問題について（地域別・テーマ別） 3回

(4) ユダヤ教について 3回

(5) レポートの書き方とテーマについて 1回

秋学期：論文作成に関わる指導を行います。

履修者へのコメント：

積極的な関心のある学生の参加を期待しています。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

第一回目の授業において指示します。

研究プロジェクト a (誘導展開型)(春学期)

セット履修

研究プロジェクト b (誘導展開型)(秋学期)

教授 バティエー, ロジャー M.

授業科目の内容：

This year I shall offer study courses based on my classes at Hiyoshi. Thus applicants can apply for either A) International Relations (Environment and Development) or B) Art & Fashion.

In A), we shall consider, depending upon student interest, various global problems, either from an international, regional, or national perspective. The object is to gain a thorough understanding of the way in which E&D issues, arise, are discussed, and are managed. Considerable research is required, plus some theoretical background.

In B) we shall consider either an artistic subject, or a fashion period/trend, or both jointly.

Research might have less role to play, but we shall attempt as rigorous a theoretical framework as possible.

テキスト：

TO BE ANNOUNCED IN CLASS

授業の計画：

Lessons will take the form of tutorials/guidance sessions, which will be conducted according to student demand. Very hard workers might expect to see me each week.

More likely, we shall meet every other week. I shall try to maximize individual tuition.

履修者へのコメント：

CONSIDERABLE SELF - MOTIVATION IS A REQUIREMENT .

成績評価方法：

・レポートによる評価

・ I PREFER STUDENTS WHO WORK CONSISTENTLY, AND ARE ABLE TO PRODUCE WORK WEEK - BY WEEK.

質問・相談：

I SHOULD BE AVAILABLE FOR E MAIL/DISCUSSION, EVEN OUTSIDE THE CLASS.

研究プロジェクト C

准教授 長 田 進

准教授 千 田 大 介

准教授 宮 内 環

准教授 山 本 賀 代

授業科目の内容：

研究プロジェクト C は、誘導展開型および自発研究型研究プロジェクトに参加する学生が履修する科目です。研究プロジェクト C を単独で履修することはできません。また、研究プロジェクト C を履修しないで誘導展開型および自発展開型研究プロジェクトに参加することもできません。研究プロジェクト a・b と研究プロジェクト C は、概念的には 2 つで 1 つの科目であることを理解してください。研究プロジェクト C は、研究プロ

ジェクトのコーディネータが共同で担当します。成果発表の準備や成果報告会など、成果に関わることを扱います。時間割では週 1 回開かれることになってはいますが、授業時間の多くは数回にわたる研究成果報告会やその準備にあてられるため、融通性を持ったスケジュールとなります。詳細なスケジュールは研究プロジェクト開始後に研究プロジェクトの HP 上 (<http://web.econ.keio.ac.jp/lecture/kpro/>) で発表します。

成績評価方法：

授業に対する貢献度（出席，発表内容，等）を勘案して行う。

質問・相談：

コーディネータ宛にメールで行う。

プロフェッショナル・キャリア・プログラム(PCP)

MACROECONOMICS (PCP)(春学期)

准教授 白 井 義 昌

授業科目の内容：

This course is an introduction to macroeconomics. The textbook for this lecture is Macroeconomics, 6th edition by Abel, Bernanke, and Croushore. The lecture covers ch.1-13 of the textbook.

Evaluation will be made based on the results of weekly quiz and the final exam.

テキスト：

Abel, Bernanke and Croushore, Macroeconomics, 6th edition, Pearson.

授業の計画：

1. Introduction to Macroeconomics

2. The Measurement and Structure of the National Economy

3. Productivity, Output, and Employment

4. Consumption, Saving, and Investment

5. Saving and Investment in the Open Economy

6. Long-Run Economic Growth

7. The Asset Market, Money, and Prices

8. Business Cycles

9. The IS-LM/AD-AS model: A General Framework for Macroeconomic Analysis

10. Classical Business Cycle Analysis: Market-Clearing Macroeconomics

11. Keynesianism: The Macroeconomics of Wage and Price Rigidity

12. Unemployment and Inflation

13. Exchange Rates, Business Cycles, and Macroeconomics Policy in the Open Economy

成績評価方法：

・試験の結果による評価

期末試験

・平常点（出席状況および授業態度）による評価
毎週の Quiz

MICROECONOMICS (PCP)(春学期)

教授 中 村 慎 助

Aim and Content of this Course:

This course aims to (a) provide students with junior/senior level of microeconomics, and (b) enable students to follow it in English. Since the course has two purposes and the time is limited to half-year, the students are strongly encouraged to take other microeconomics courses in addition, if they want to specialize in microeconomics in their theses and/or their future studies. The outline of the lecture is as follows.

1. Consumer theory

2. Producer theory

3. Market equilibrium

4. Monopoly

5. Oligopoly

6. Externalities

7. Public goods

8. Moral hazard

9. Adverse selection

To supplement the lecture, problem sets are given. The answers must be written in English.

Students are encouraged to take notes in English and read only materials written in English.

INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY (PCP)(春学期)

教授 木 村 福 成

授業科目の内容：

Although regionalism has become a major channel of international commercial policies these days, its logical background in international law and

economy has still been controversial issues. This class reviews the recent development of the literature on “the multilateralizing regionalism” and discusses the future of the international trade regime from both economic and legal points of view.

テキスト :

Papers presented in the WTO Conference on “Multilateralising Regionalism” (http://www.wto.org/english/tratop_e/region_e/conference_sept07_e.htm). Other materials are to be announced in class.

参考書 :

To be announced.

授業の計画 :

The class includes concise lectures, students’ presentations, and discussions. The following topics and others are covered.

1. Economics and political economy for trade policy (review)
2. Economic and aspects of regionalism and multilateralism
3. Legal aspects of regionalism and multilateralism
4. Policy issues on tariffs and other trade impediments
5. Policy issues on the rules of origin
6. Policy issues on services trade
7. Implication for developing countries

成績評価方法 :

- ・レポートによる評価 (Twice in a semester; 40 %)
- ・平常点 : 出席状況および授業態度による評価 (Including presentation and discussion in class; 60 %)

質問・相談 :

Contact me at fkimura@econ.keio.ac.jp.

INTERNATIONAL LAW AND ECONOMY (PCP)(秋学期)

教授 木村 福成

授業科目の内容 :

Countries in the world, particularly developing countries, are increasingly confronted with the need to address trade policy related issues in international agreements, most prominently the World Trade Organization (WTO). This lecture examines key disciplines and the functioning of the WTO and discusses a number of issues and options that countries face to improve domestic policies and obtain access to the world market. Many of the issues discussed are also relevant in the context of regional integration agreements.

テキスト :

- ・Hoekman, Bernard; Mattoo, Aaditya; and English, Philip, *Development, Trade, and WTO: A Handbook*. Washington, DC: The World Bank, 2002
- ・Hoekman, Bernard M. and Kostecki, Michel M, *The Political Economy of the World Trading System: The WTO and Beyond*. Oxford: Oxford University Press, 2001

参考書 :

WTO Homepage (<http://www.wto.org/>).

授業の計画 :

The class includes concise lectures, students’ presentations, and discussions. The following topics and others are covered.

1. Economics and political economy for trade policy (review)
2. The major aspects of the WTO from a development perspective
3. Policy issues in the area of merchandise trade
4. Policy issues in the area of services trade
5. Protection of intellectual property rights
6. New regulatory subjects that are emerging in the agenda of trade talks
7. Multilateralism and regionalism

成績評価方法 :

- ・レポートによる評価 (Twice in a semester; 40 %)
- ・平常点 : 出席状況および授業態度による評価 (Including presentation and discussion in class; 60 %)

質問・相談 :

Contact me at fkimura@econ.ac.jp

INTRODUCTION TO LAW AND ECONOMICS (PCP)(秋学期)

- From the perspective of Comparative Institutional Analysis -
特別招聘教授 鶴 光太郎

授業科目の内容 :

This course provides an introduction to law and economics but more emphasizes the perspective of comparative institutional analysis, compared with the standard textbook of this area (e.g. Cooter and Ulen). The first six session of the course deal with the role of legal institutions in the economic system of a nation. Then, we move to the role of law in each subsystem, like corporate governance, labor and innovation system. We also discuss the relationship between law and globalization or economic growth. Finally, we consider judicial reform from an economist’s view..

Course pre-requisites : introductory microeconomics (e.g. Chapter 2 of Cooter, R and T. Ulen (2004), *Law and Economics*, Fourth Edition)

Preliminary Readings

La Porta, R., F. Lopez-de Silanes and A. Shleifer (2008), “The Economics Consequences of Legal Origins”, *Journal of Economic Literature* 46 (2), pp 285-332

Week 1 : Guidance

Week 2 : Economics with and without Law : What are institutions?

Week 3 : Legal institutions and economics : LLSV approach

Week 4 : Private ordering

Week 5 : Does legal origin matter?

Week 6 : Legal origin and evolution : A historical perspective

Week 7 : Legal transplantation

Week 8 : Law and corporate governance

Week 9 : Law and labor

Week 10 : Law and innovation

Week 11 : Law and globalization

Week 12 : Law and economic growth

Week 13 : Judicial reform

ENVIRONMENTAL LAW AND ECONOMY (PCP)

(春学期特定期間集中)

開講日時 : 7月29日(水) 2 ~ 4 時限 ,

7月30日(木), 8月6日(木), 7日(金) 各日 2 ~ 5 時限

講師 高村 ゆかり

授業科目の内容 :

Law is essential for preventing environmental damage as well as for improving environmental quality. However, the law disregarding economic principles could make our economy disordered and could make it even impossible to achieve our goal for protecting the environment. On the other hand, any economic activity cannot ignore legal rules related to the activity. This course aims at studying environmental law including international environmental law, especially focusing on interrelationship between environmental law and economy. The main topics of the course are as follows:

1. Environmental Law: Its Origin and Developments
Environmental law is a body of public regulations intended for combating against environmental pollution and adverse impacts on the environment due to expansion and developments of economic activities. The course deals with the history of environmental law, considering historic developments of economic activities.
2. Fundamental Principles of Environmental Law
Environmental law in each country has been evolving, influenced by policy coordination and environmental regulation at international level, and it has developed common fundamental principles, which constitute pillars of its legal system. The lecture deals with some of such principles, including polluter-pays principle (PPP) and precautionary principle.
3. Instruments Aiming at Environmental Protection
Environmental law makes use of various instruments in order to achieve its goal for environmental protection. In addition to traditional “command and control”, we examine economic instruments, such as emissions trading, environmental tax and subsidies, which have received more and more attention recently.
4. Climate Change as Case Study
Climate change law is a showcase where we see a number of examples of practical application of principles and policy instruments. Studying history and structure of the United Nations Framework Convention on Climate Change and the Kyoto Protocol, the lecture examines how these two climate agreements and national regulations implementing these agreements apply principles and policy instruments actually.
5. Environmental damage, liability and responsibility
The lecture surveys legal rules on liability and responsibility for environmental damage caused by activities of economic actors.
6. International business activities and environmental law
The course surveys international environmental regulations on business activities in overseas market and foreign investment and examine related legal problems.

参考書 :

- ・Philippe Sands, *Principles of International Environmental Law*, Second edition, Cambridge University Press, 2003
- ・Patricia Birnie & Alan Boyle, *International Law & the Environment*, Second edition, Oxford University Press, 2002
- ・Patricia Birnie & Alan Boyle, *Basic Documents on International Law &*

the Environment, Oxford University Press, 1996

• Japan Environmental Council ed., The State of the Environment in Asia 2005/2006, Springer-Verlag Tokyo, 2005

*Other materials will be instructed in the class.

履修者へのコメント :

All students are expected to attend every class, do the assigned reading, and participate actively in discussions.

成績評価方法 :

Class participation (50%) and final exam (50%)

INTRODUCTION TO FINANCE (PCP) (秋学期)

教授 前 多 康 男
准教授 新 井 拓 児

授業科目の内容 :

The course provides a modern portfolio theory and a basic option pricing theory. First, we prepare mathematical preliminaries. In particular, we deal with a basic concept of a probability theory. Second, we study a modern portfolio theory. Topics covered in this section include the mean-variance portfolio analysis, the CAPM. Finally, a basic theory of option pricing models is discussed by dealing with one-period binomial option pricing models. Especially, we study meanings of important terms, for example arbitrage, hedging, martingale probability and so on. The course also covers the presentation of Mathematica implementation of the model used in Finance. To register this class, basic knowledge about microeconomics is required.

テキスト :

To be announced in class.

参考書 :

To be announced in class.

授業の計画 :

The following topics are covered:

1. Randomness and random variable
2. Expectation and variance
3. Return and risk
4. Mean-variance portfolio analysis
5. CAPM
6. Introduction to option pricing
7. Hedging and arbitrage (one-period binomial model)
8. Martingale probability
9. Introduction to Mathematica
10. Implementing mean-variance model by Mathematica
11. Implementing numerical option pricing models by Mathematica

成績評価方法 :

Midterm Exam 25 %, Final Exam 50 %, Homework 25 %

質問・相談 :

By E-mail.

ADVANCED FINANCE (PCP) (春学期)

講師 塚原 英 敦

授業科目の内容 :

The course, which is the sequel to Introduction to Finance, deals mainly with the asset pricing theory in multiperiod setting. The single period binomial model is first reviewed and then we look at the multiperiod binomial model. The mathematical setup for analyzing the binomial model is the coin toss space (finite probability space). After reviewing the basic concepts such as random variables, distributions, and expectations on this space, we define and examine the key concept of conditional expectation. Then we study two important stochastic processes, namely martingales and Markov processes. A little specialized topic of American-type derivative securities is considered in the binomial model. Finally, the renowned Black-Scholes formula is derived, perhaps a bit informally, by passing to the limit from binomial random walk.

テキスト :

Steven E. Shreve, *Stochastic Calculus for Finance I: The Binomial Asset Pricing Model*, Springer, 2004.

参考書 :

Reading materials will be suggested in the lectures.

授業の計画 :

1. The Binomial No-Arbitrage Pricing Model: Single Period Case
2. The Binomial No-Arbitrage Pricing Model: Multiperiod Case
3. Probability Theory on Coin Toss Space: Basic Setup, Conditional Expectation
4. Probability Theory on Coin Toss Space: Martingales
5. Probability Theory on Coin Toss Space: Markov Processes
6. Midterm Exam
7. State Prices: Change of Measure, Radon-Nikodym density
8. State Prices: Optimal Investment Problem

9. American Derivative Securities: Simple Case

10. American Derivative Securities: General Case

11. Random Walk: First Passage Time, Reflection Principle

12. From Random Walk to Brownian Motion

13. Passage to the Limit: Black-Scholes Option Pricing formula

履修者へのコメント :

Students are assumed to have taken the PCP course "Introduction to Finance" and have knowledge on the basic calculus and calculus-based probability theory. No late homework will be accepted!

成績評価方法 :

Midterm Exam 40 %, Final Exam 40 %, Homework 20 %

質問・相談 :

If you have questions, ask just after the class, or email me at tsukahar@seijo.ac.jp

APPLIED FINANCE (PCP) (春学期)

教授 前 多 康 男
講師 酒 井 良 清

授業科目の内容 :

The first section of the course covers macro-aspect of finance, i.e., decisions of the government about how much money to supply to the economy, the channels of monetary policy transmission, the role of central banking, and the role of deposit insurance system.

The second section covers micro-aspect of finance. By using the computer software such as Excel or Mathematica, we study how apply finance theory to the actual financial data. Topics covered in this section include valuation and capital budgeting, binomial option models. To register this class, basic knowledge about microeconomic and finance is required.

テキスト :

To be announced in class.

参考書 :

To be announced in class.

授業の計画 :

Topics to be covered:

1. The channels of the monetary policy.
2. The role of central banking.
3. The role of deposit insurance system.
4. Financial system: the interaction between market and regulation.
5. Introduction to Mathematica (Review).
6. Implementing one-period and multi-period binomial option models.
7. Valuation and capital budgeting.

成績評価方法 :

Midterm Exam 50 %, Final Exam 50 %.

質問・相談 :

By E-mail.

JAPANESE FINANCIAL MARKETS AND INSTITUTIONS (PCP) (秋学期)

教授 吉 野 直 行

Course Outline:

This course is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, as well as to Master's level graduate students. The aim is to train students to apply economic theory, econometric techniques and economic intuition to the analysis of real world economic problems. We put particular emphasis on the Japanese economy. Students must have solid backgrounds in macroeconomics, theories of money and banking and public finance.

References:

- Heijdra, Ben and Fredric Van Der Pleag, *Foundations of Modern Macroeconomics*, Oxford University Press.
 - Yoshino, Naoyuki and Seiritsu Ogura, 'The Tax System and the Fiscal Investment and Loan Programme', Chapter 6 in Komiya, Okuno and Suzumura eds. *Industrial Policy of Japan*, Academic Press, 1988
 - Yoshino, Naoyuki et. al. *Eigo de Yomu Nihon no Kinyu (Economic Issues of Contemporary Japan)*, Yuhikaku publishing, 2000
 - Yoshino, Naoyuki and Eisuke Sakakibara, 'The Current State of the Japanese Economy and Remedies', *Asian Economic Papers*, vol.1, No.2, pp.110-26, 2002
 - Yoshino, Naoyuki and Thomas Cargill, *Postal Saving and Fiscal Investment in Japan*, Oxford University Press, 2003
 - Takatoshi Ito, *The Japanese Economy*, MIT press, 1992
 - Yoshino Naoyuki and Mark Scher, *Small Savings Mobilization and Asian Economic Development*, M. E. Sharpe, 2005
- More references will be given during the lecture.

Topics to be covered:

1. Historical trends in Japanese monetary policy and economic fluctuation

tuations

2. Flow of Funds Table of the Japanese economy (Government Sector, Financial Sector, Firm Sector, Household Sector)
3. Japanese monetary policy, asset-price inflation and subsequent recession
4. Japanese fiscal policy, budget deficit and public debt
5. Japanese industrial policy, tax policy and fiscal investment policy
6. Japanese capital markets (bond and equity markets)
7. Failures and restructuring of Japanese banks
8. The aging population and its impact on the Japanese economy
9. Privatization of Postal Savings and the Japanese financial market
10. The Asian financial crisis: causes and consequences
11. Exchange rate regimes and the optimal exchange rate system in Asia
12. Effectiveness of public works in Japan and Revenue Bonds
13. Central and Local Governments in Japan
14. Policy-making and the incentive mechanism in Japan

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・平常点（出席状況および毎回の小テスト）による評価

PUBLIC FINANCE (PCP) (春学期)

特別招聘教授 鞠 重 鎬

授業科目の内容：

The course of Public Finance mainly aims to understand the fiscal activities of local governments. For example, we deal with the optimal size of local authorities, the gains from fiscal decision-making at a local level, and the topic of intergovernmental fiscal relations. The course introduces both public finance theory and public choice approach.

テキスト：

Cullis, John and Philip Jones, *Public Finance and Public Choice*, 2nd edition, Oxford Press; in particular, Local Government (Ch. 12), 1998

参考書：

- 1) Anderson, John E. *Public Finance*, Houghton Mifflin, in particular, Ch. 16 Property Taxes; Ch. 17 Government Budgets, Borrowing, Deficit Finance; Ch. 18 Multilevel Government Finance; Ch. 19 The Economics of Local Governments, 2003
- 2) Rubinfeld "The Economics of the Local Public Sector," *Handbook of Public Economics*, vol. , edited by A. J. Auerbach and M. Feldstein, Elsevier Science Publishers B. V. (North Holland), pp. 571-645, 1987
- 3) Other references will be distributed at the class.

授業の計画：

- Week 1-2 : Introduction and Decentralization Theorem
Week 3-4 : Optimal Size of Local Government
Week 5-6 : Tiebout Hypothesis (How Individuals Choose Local Authorities)
Week 7-8 : Local Government Revenue (focus on property tax)
Week 9-10 : Non-Tax Revenue (User Charges) and Expenditure
Week 11-12 : Intergovernmental Fiscal Relations
Week 13-14 : Public Choice Approach/Economic Policy and Decentralization
Week 15 : Final test (Exam and/or Presentation)

履修者へのコメント：

If you do not understand basic concepts about economics related to public finance, in particular, local public finance please let me know.

成績評価方法：

- 1) Assignments such as essay or report (include case studies).
(For example, write an Essay that investigates public finance on (a) your own region, or (b) a certain country in which you are interested, or (c) a comparative study among countries or regions.
- 2) Assignments or Exams
are required in order to receive a grade for the course.

The grade will be given on the basis of both assignments and exam, etc.

質問・相談：

When I am in class please take an appointment. Or send an e-mail to me.

THE JAPANESE ECONOMY FROM AN INTERNATIONAL PERSPECTIVE (PCP) (秋学期)

教授 竹 森 俊 平

授業科目の内容：

In essence, Japanese Macroeconomic policies are and always have been exchange rate management policies. The purpose of this course is to prove this truism. The course will do so by presenting abundant evidence covering the entire period between Meiji and today.

Why exchange rates matter so much for us is another interesting question and the course will try to answer it. By doing so, it will clarify the eco-

nomical situations of countries, such as China today, for which macroeconomic policies essentially signify exchange rate management policies.

INTERNATIONAL TRADE (PCP) (秋学期)

教授 木 村 福 成

授業科目の内容：

This course deals with international trade theory and its applications for students who seek a career path in international setting. The main objective of this course is to study a comprehensive, up to date, and clear exposition of the theory of international trade so as to understand the basis for and the gains from trade. In particular, we place emphasis on various methods of empirical and policy studies to be learnt through practical exercises.

テキスト：

Feenstra, Robert C. and Taylor, Alan M. (2008) *International Trade*. New York: Worth Publishers.

参考書：

To be announced.

授業の計画：

The class includes concise lectures, students' presentations, and discussions. The following topics and others are covered.

1. The positive theory of international trade
The Ricardian model, the Heckscher-Ohlin model, international factor movements, intra-industry trade
2. The normative theory of international trade
Effects of trade policies, the distortion theory, the political economy of international trade
3. New topics on international trade
Globalizing corporate activities, the fragmentation theory, new economic geography, regionalism and multilateralism, trade and exchange rates

成績評価方法：

・レポートによる評価 (term paper; 30%)

・平常点：出席状況および授業態度による評価 (Including exercises, presentation, and discussion in class; 70%)

質問・相談：

Contact me at fkimura@econ.keio.ac.jp.

DEVELOPMENT ECONOMICS (PCP) (春学期特定期間集中)

開講日時：7月29日(水)～7月31日(金) 各日2～5時限,
8月1日(土)2～4時限

Current Issues on International Development

特別招聘教授 深 作 喜一郎

Description:

This course is an introduction to development economics and to current issues on international development. It combines a series of lectures and presentations of term papers by students. Lectures deal with a wide range of topics, including the comparative development of East Asia and Africa; contemporary models of development and underdevelopment; trade policy and development experience; foreign finance, investment and aid; policy coherence for development; and the role of international organisations.

Readings:

Required Textbook – Michael P. Todaro and Stephen C. Smith *Economic Development*, 10th edition, Pearson, Addison Wesley, 2008

(http://www.aw-bc.com/todaro_smith/)

As this textbook demonstrates, the scope of development economics is huge, touching upon almost every field of economics. During the course, some chapters will be used more intensively than others. This course also takes up several current issues on international development, in which case lectures and discussions go beyond the textbook, and supplementary reading materials will be provided.

Requirements:

Assessment will be based on a term paper (two-thirds of grade) assigned to each student and presentation of a term paper (one-third of grade) during the course.

Term Papers:

Each student is requested to submit a draft term paper at **Gakuji centre by 16, 17 July 2009**. He/she can choose two topics from the "Questions for Discussion" part of Chapters 2, 3, 4, 9, 12 and 14, and write short essays on them. It is expected that each essay is about 800-1,000 words long, but topics need to be selected from different chapters. During the course, each student is requested to make a presentation on one of his/her essays. At the last session, each student will have an opportunity to revise and finish one selected essay as a final term paper, before submission for grading.

Course Outline:

See the attachment. Note that this is provisional. The course outline

may be modified according to the needs of students.

Course Outline 2009

Part I — Development Economic

Day 1

- Session 1 Introduction and Overview
- Session 2 Comparative Development (Todaro & Smith 10th ed. Ch 2 and part of Ch5)
- Session 3 Different Theories of Development (Todaro & Smith 10th ed. Ch 3-4)
- Session 4 Presentations by Students and Discussions (1)

Day 2

- Session 5 Agricultural Transformation (Todaro & Smith 10th ed. Ch9)
- Session 6 Trade and Development (Todaro & Smith 10th ed. Ch 12)
- Session 7 Foreign Finance, Investment and Aid (Todaro & Smith 10th ed. Ch 14)
- Session 8 Presentations by Students and Discussions (2)

Day 3

Part II — Current Issues on International Development

- Session 9 Topic (1) African Economic Outlook 2009: ICT for Development
- Session 10 Topic (2) African Agriculture: Meeting the Challenges
- Session 11 Topic (3) The Global Financial Crisis and Developing Countries
- Session 12 Presentations by Students and Discussions (3)

Day 4

- Session 13 Topic (4) The Rise of China and India and Implications for Developing Asia
- Session 14 Presentations by Students and Discussions (4)
- Session 15 Wrap-up (and final submission of term papers)

OPEN ECONOMY MACROECONOMICS a (PCP)(春学期)

OPEN ECONOMY MACROECONOMICS b (PCP)(春学期)

セット履修

教授 嘉治 佐保子

This class is offered to undergraduate students participating in the PCP programme, Master's level graduate students and exchange students affiliated with the International Centre.

The purpose of this class is to introduce basic concepts and basic analytical frameworks of Open Economy Macroeconomics, and to encourage students to apply them in thinking about real-world issues. Students who attend this class are assumed to have sufficient knowledge of entry-level macroeconomics and microeconomics.

Evaluation is 30 % by class participation and 70 % by final examination.

Lecture Notes: <http://ocw.dmc.keio.ac.jp/economics/index.html>

Topics:

- I. A Review of Closed Economy Macroeconomics
IS-LM Analysis, Aggregate Supply, and Aggregate Demand
- II. Basic Concepts in Open Economy Macroeconomics
Small Country Assumption, Stock vs. Flow, The Balance of Payments, The Exchange Rate, The Interest Rate Parity Condition
- III. Theories of Exchange Rate Determination
Purchasing Power Parity, Stock Equilibrium Approach, Flow Approach, The Marshall-Lerner Condition, The J-curve Effect
- IV. The Mundell-Fleming Results
The M-F Result and the Structure of the Model -- a Simple Model, The M-F Result under Fixed Exchange Rates, Alternative Assumptions: Two-Country, Imperfect Capital Substitution, The M-F Result under Flexible Exchange Rates, Alternative Assumption: Two-Country
- V. The Speed of Adjustment of Endogenous Variables and Overshooting
- VI. Economic Interdependence and Choice of Exchange Rate Regimes

References:

- Canzoneri, M. and D. Henderson (1988) "Is Sovereign Policymaking Bad?" Carnegie-Rochester Conference Series on Public Policy No.28, pp.93-140
- Dornbusch, Rudiger (1980) Open Economy Macroeconomics, Basic Books, Chapter 10, Chapter 11
- Kaji, Sahoko (2004) Kokusai Tsuka Taisei no Keizai Gaku (The Economics of Exchange Rate Systems), Nihon Keizai Shimbun Publishing

ENVIRONMENTAL ECONOMIC THEORY (PCP)(秋学期)

教授 細田 衛士

授業科目の内容 :

This course provides a basic theory of environmental economics. The analytical framework is elementary microeconomics, and partial equilibrium analysis is utilized in almost all the topics. Although the main purpose

of this course is to give a comprehensive view of environmental economic theory to students, applicability of the theory to environmental policy is also considered. Topics are chosen from the fundamental issues of conventional environmental economics.

Students are required to submit an essay every week. The theme of an essay will be given in advance in each class.

テキスト :

Barry C. Field and Martha K. Field, *Environmental Economics*, fourth edition, McGraw Hill, 2006

授業の計画 :

1. Benefits and Costs, Supply and Demand
2. Economic Efficiency and Markets
3. The Economics of Environmental Quality
4. Frameworks of Analysis
5. Benefit-Cost Analysis: Benefits
6. Benefit-Cost Analysis: Costs
7. Criteria for Evaluating Environmental Policies
8. Decentralized Policies: Liability Laws, Property Rights, Voluntary Action
9. Command-and-Control Strategies: The Case of Standards
10. Incentive-Based Strategies: Emission Charges and Subsidies
11. Incentive-Based Strategies: Transferable Discharge Permits
12. Comparable Environmental Policies
13. Economic Development and the Environment

成績評価方法 :

Final exam	40 %
Mid-term exam	20 %
Homework	20 %
Class participation	20 %

質問・相談 :

Any time as far as I am available. Yet, please note that I may not be able to respond to question or request of consultation due to time restriction.

ENVIRONMENTAL ECONOMIC POLICY (PCP)(秋学期)

講師 馬奈木 俊介

Course Description :

This course provides a comprehensive account of the application of economic analysis to environmental issues. The course covers both methodological topics and recent applications.

Using microeconomic principles, we will examine such topics as the sustainability problems, ethics and the environment, climate change, irreversibility and uncertainty, trade and the environment, public policies, and business practices.

Preliminary Course Outline:

Following is a tentative outline. I will let you know if there are any additions, deletions, or rearrangements. I don't want to tie us to an inflexible schedule, but I'll keep you posted each week on where you should be in the reading.

- Part One: Economics and Environment
 - Primer: Economic Concepts for Environment
 - Market failure and public policy
 - Concepts of sustainability
 - Ethics and the environment

- Part Two: Global environmental problems
 - International externalities
 - Trade and the environment
 - Global climate change
 - Acid rain, ozone layer, and biodiversity
 - Linkages

- Part Three: Practice in environmental policies
 - Pollution control: Targets and instruments
 - Sustainable development and politics
 - Water and air pollution
 - Recycling and waste
 - Emission trading

- Part Four: Environmental management and strategy
 - Approaches to business and the environment
 - Differentiating products
 - Managing your competitors
 - Saving costs
 - Managing environmental risk
 - Redefining markets

Supplements:

- Charles Kolstad. *Environmental Economics*. Oxford University Press. 1999.
- Robert N. Stavins, ed. *Economics of the Environment: Selected Readings, Fourth Edition*. New York, New York: W. W. Norton & Company, 2000
- Forest L. Reinhardt, *Down to Earth: Applying Business Principles to*

Assessment:

Grades will be assigned according to the following weighting scheme:

- 20 % Mid-term Exam
- 40 % Final Exam
- 20 % Homework
- 20 % Class Participation

The homework must be typed in single space, and please keep one copy for yourself.

INTERNATIONAL ENVIRONMENTAL PROBLEMS (PCP)
(春学期) 教授 パティエー, ロジャー M.

Course Description:

This course aims to give students a comprehensive overview of the international regimes currently in place to deal with the main environmental problems we now face. We will look not only at the evolution of the issues themselves, but also the institutions which have been created to deal with them, and the legal measures which have been enacted to address them. The course is not theory-based, but aims to give students a variety of perspectives on the problems. Students are expected to familiarize themselves with a wide range of current data, and to be able to see the uses and abuses to which these data may be put.

1. Global Environmental Problems - An Overview
Which problems are global environmental problems? Why? Inter-generational equity. A short history of environmental awareness.
2. What is Sustainable Development?
The link between environment and development. Defining sustainable growth.
3. North and South
Key Backgrounds to the E&D debate: population; urbanization; land-use; political systems: common agendas in the North; different agenda of the South.
4. International Institutions and the Environment
The UN system and the Environment. Stockholm 1972, Rio 1992. Other multi-lateral institutions. The role of NGOs.
5. International Law and the Environment/Pesticides
An overview of the evolution of legal regimes dealing with international environmental issues. Pesticides as a test case.
6. Trade in Endangered Species/CITES
Environment and Trade. Efforts to Control Species Trade. The CITES mechanism. Successes and Failures.
7. Biodiversity/The Biodiversity Convention
The wider biodiversity issue. What is biodiversity? Where is it? Whose is it? Conservation - is it possible? Necessary? By whom? For Whom?
8. The Ozone Problem/The Montreal Protocol
A success story? Defining a problem. Finding an international solution and building on it. The limits to the deal.
9. Global Warming/Kyoto Protocol and Beyond
The politics of climate change. Why is global warming such a contentious issue? Can we do much to stop it? If so, what? If not, what then?
10. Desertification/The Limits to International Action
When is a global problem not a global problem? Effects and the affected. Land use, farming, and the North-South divide.
11. Fishing
Subsidizing destruction. The rush to deplete stocks. Difficulties in finding an institutional framework.
12. Technology, Markets, Laws and Social Change
Policies to combat environmental problems. Getting the right mix. Actors and Agents. Incentives for change.
13. The Future?
The nature of our problems. Obstacles to change. The nation state and the global environment.

Evaluation:

- 30 % Final Exam
- 30 % Presentation in Class
- 20 % Attendance
- 20 % Mid-Term Exam

References:

- UNDP, Human Development Report(s), 2000-2004 OUP.
- World Resources Institute, World Resources, 2000-2004 OUP
- Scott Barrett, Environment and Statecraft OUP, 2003
- P. Birnie and A. Boyle, International Law & Environment [2], 2002
- B. Lomberg, The Skeptical Environmentalist, 2001

MONETARY AND FISCAL POLICY (PCP) (春学期)
(UBS 証券会社寄附講座 MONETARY AND FISCAL POLICY
UBS LECTURE SERIES)

教授 吉野直行
教授 土居丈朗

授業科目の内容:

Offered to PCP students in the 4th year, undergraduate students in the Faculty of Economics, students in the Graduate School of Economics and exchange students affiliated with the International Centre

This class is financially supported by the Union Bank of Switzerland (UBS). A scholarship for studying outside Japan, also funded by UBS, will be awarded to the student(s) who enrol in this class and show extraordinary effort and competence in writing an academic paper.

Speakers are invited from outside the faculty of economics at Keio University, to lecture in English. Their lectures will be given from 10:45-12:00AM and students write their summary of the lectures between 12:00-12:15. Evaluation is based on the summary which students must submit after each lecture and the final examination.

The lecture topics and the affiliated institutions of planned speakers are as follows:

- (i) Japanese monetary policy, historical perspectives (Bank of Japan)
- (ii) Japanese financial regulatory policy (Bank of Japan)
- (iii) Monetary policy and the behaviour of private banks (Private sector bank)
- (iv) The role of capital markets in Japan (Investment bank)
- (v) Activities of foreign financial institutions in Japan (Foreign financial institution)
- (vi) The role of FSA (Financial Services Agency)
- (vii) International Finance of Japan (Ministry of Finance)
- (viii) The Asian Financial Market and the role of Japan (Ministry of Finance)
- (ix) The Japanese Government Bond Market (Securities House)
- (x) Fiscal Policy of Japan (Ministry of Finance or Ministry of Land, Infrastructure and Transport)
- (xi) Tax Policy of Japan (Ministry of Finance)
- (xii) Central and local government relations in Japan (Ministry of Internal Affairs and Communications)
- (xiii) Postal privatisation and the Fiscal Investment and Loan Program (Ministry of Finance)

参考書:

吉野直行 (編) 『英語で学ぶ日本経済』 有斐閣

APPLIED ECONOMETRICS (PCP) (春学期)
教授 マッケンジー, コリン R.

Aim and Content of Course:

This course aims to: (a) provide students with an introductory knowledge of applied econometrics; and (b) enable students to estimate and evaluate linear regression models using the econometrics software package called EViews 5. In the econometric analysis of any socio-economic phenomena, the creation of some sort of model is the usual starting point of any analysis. Econometric model building involves the following seven steps: (i) the specification of a theoretical model; (ii) data collection; (iii) the specification of a model for estimation; (iv) the estimation of unknown parameters; (v) hypothesis testing; (vi) model evaluation; and (vii) simulation and forecasting. This course focuses on estimation using ordinary least squares (step (iv)) and hypothesis testing using the t and F tests (step (v)). Where possible, estimation and hypothesis testing techniques will be illustrated by empirical examples that use either cross-section or time series data. The emphasis in this course is not in proving propositions, but rather on the strong connection between the assumptions made about the components of the regression model and the results that can be obtained, and the various difficulties that arise when analyzing real data.

Text:

Asteriou, D., Applied Econometrics: A Modern Approach Using EViews and Microfit, Palgrave Macmillan, New York, 2006

Japanese Language References:

- 浅野哲・中村二郎 『計量経済学』 有斐閣, 2000年
- 松浦克己・マッケンジー・コリン 『EViews による計量経済学入門』 東洋経済新報社, 2005年
- 滝川好夫・前田洋樹 『EViews で計量経済学入門』 日本評論社, 2004年

English Language References:

- Carter Hill, R., W.E. Griffiths and G.G. Judge, *Undergraduate Econometrics*, John Wiley & Sons, New York., 2001
- Kennedy, P., *A Guide to Econometrics 5th Edition*, Blackwell Publishing, Malden, MA., 2003

- *Quantitative Micro Software, EViews 5 User's Guide*, Quantitative Micro Software, Irvine, CA., 2004
- *Quantitative Micro Software, EViews 5 Command and Programming Reference*, Quantitative Micro Software, Irvine, CA., 2004
- Wooldridge, J.M., *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, South-Western College Publishing, USA., 2000

Lecture Outline:

1. What is Econometrics? What Does Econometric Model Building Involve?
2. Review of Important Economic and Statistical Concepts (Marginal Effects, Elasticity, Expectations, Variance, etc)
3. Ordinary Least Squares (OLS) for the Simple Linear Regression Model
4. The Statistical Properties of OLS for the Simple Linear Regression Model (including the Gauss-Markov Theorem)
5. Simple Hypothesis Testing Using the Student t-test
6. Using EViews 5 to Produce Descriptive Statistics, Graphs and Simple Regression Results
7. OLS for the Multiple Linear Regression Model
8. The Statistical Properties of OLS for the Multiple Linear Regression Model
9. Testing Hypotheses Relating to Several Parameters Using an F-test
10. Dummy Variables and Testing for Structural Change
11. Using EViews5 to Produce Multiple Linear Regression Results and to Conduct Hypothesis Testing
12. The Impact of Model Misspecification and Multicollinearity
13. Model Evaluation

General comments about the course and prerequisites:

In order to understand the material in this course, it is extremely desirable that students have some previous knowledge of linear algebra, differentiation (including partial differentiation), and probability. Instruction in the use of the econometrics software package, EViews 5, will be given as part of this course. This course will strictly avoid the use of matrix algebra.

One of the purposes of econometrics is to test hypothesis suggested by other areas of economics, for example, microeconomics and macroeconomics. As a result, econometrics should not be considered in isolation, but as a complement to other subjects taught in the Faculty of Economics and the PCP program.

Grading:

Grades in this course will be awarded on the basis of a student's performance in an end-of-semester written exam, and two/three pieces of homework to be handed in during the semester. Some of the problems on each piece of homework will involve using EViews 5 for estimating some econometric models and interpreting the results. In determining a student's final grade, the results for the written exam and homework will be combined using the weights 80:20 or 100:0, whichever gives the more favorable result for the student concerned.

To contact the Lecturer:

Please send a mail message to Colin McKenzie (mckenzie@econ.keio.ac.jp)

READING AND COMPOSITION (PCP)(秋学期)

専任講師 柳生 智子

授業科目の内容 :

The goal of this course is to prepare students for the required course Academic Writing scheduled to be the third semester of the PCP. Students are expected to learn academic writing skills to be able to create a coherent five-paragraph essay with supporting details. There will also be a training to write short essays for examinations. All sessions will be conducted in English.

テキスト :

Oshima and Hogue, *Writing Academic English: Fourth Edition* (Longman)

授業の計画 :

- Session 1: Orientation, the Process of Academic Writing
- Session 2: Writing under Pressure: Timed Essays
- Session 3: Overview of the Paragraph Structure
- Session 4: Paragraph Unity
- Session 5: Coherence
- Session 6: Supporting Details: Facts, Quotations, and Statistics
- Session 7: Research and Documentation of Sources
- Session 8: From Paragraph to Essay
- Session 9: Process Essays
- Session 10: Cause/Effect Essays
- Session 11: Comparison/Contrast Essays
- Session 12: Sentence Structure (1)
- Session 13: Sentence Structure (2)

履修者へのコメント :

The instructor expects students to have a professional attitude in the class. Two unexcused absences will lead to the failure of this course. No assignment will be accepted past its deadline.

成績評価方法 :

Reading assignments (20 %), Writing assignments (40 %), Classroom participation and attendance (20 %) In-class Writing (20 %)

FINANCE, POLICY AND THE GLOBAL ECONOMY (PCP)

(秋学期)

(UBS 証券会社寄附講座 FINANCE, POLICY AND THE GLOBAL ECONOMY USB LECTURE SERIES)

教授 嘉治 佐保子
教授 木村 福成

授業の内容 :

This class is financially supported by UBS. It is offered to PCP students in the 3rd year, Master's level graduate students and exchange students affiliated with the International Centre.

Students who enrol in this class have a choice of writing a paper independently or jointly.

During the first half of the term, speakers are invited from outside the faculty of economics at Keio university, to lecture in English. Their lectures will be on recent developments in the speakers' respective field of specialisation among the five PCP courses; Environmental Economics, Finance, International Economics, Law and Economics and Japanese Economy. The speakers will be invited from around the world (including Japan). They will be employees of institutions public and private, as well as in between. The lectures are given from 14:45-16:00 and students write their summary of the lectures between 16:00-16:15. Some speakers may help create opportunities for students to visit trading-floors and factories, to conduct interviews, and to participate in internship programmes.

During the second half of the term, students write their final paper and take turns presenting their progress. Students can freely choose their topic, as long as it is related to the lectures given earlier in the term. They thus train themselves to apply the knowledge and English skills acquired in the classroom to the analysis of real-world economic issues. Those who choose to write a joint paper form groups according to their own interest and engage in joint research.

Students who wish to do so can plan a fieldwork trip, and write their papers on the findings. The professors will help students arrange for this trip by way of introductions and suggestions. Those who plan to take the fieldwork trip in summer should seek advice early in the Spring Term, even though this class is scheduled for the Autumn Term.

As a conclusion to the term, there will be a convocation in which students present their final papers in English.

Evaluation is by class participation and weekly lecture reports (30 %), presentations (30 %) and final paper (40 %).

INDEPENDENT STUDY (PCP)(秋学期)

教授 嘉治 佐保子
法学部 訪問講師(招聘) ファロン, ルース C.

This class is offered to PCP students in the 4th year and exchange Students affiliated with the International Centre.

In this class, we advise each student in writing a paper, which for PCP students will be the final paper for the Professional Career Programme. Students individually examine real world issues in depth, applying the economic theory and methods of analysis which they have gained in PCP and other classes.

Students themselves choose the topic and analytical method, gather the necessary information, conduct the analysis and complete the research.

In this process, students will each make short progress reports (presentations and handouts) to the class in order to receive comments and advice from fellow students, Teaching Assistants and the professors. Each week, students also write short reports on others' presentations and hand them in at the end of the class.

As a conclusion to the term, there is an Independent Study convocation in which students present their final papers.

Evaluation is by the weekly reports, progress reports as well as the final presentation and paper. Students who miss more than three classes will automatically receive a grade of C or lower, regardless of the quality of their progress reports or final presentation and paper.

PRESENTATIONS AND DISCUSSION SKILLS (PCP)
(春学期) 専任講師 柳生 智子

授業科目の内容:

The goal of this course will be to improve oral/aural skills of students in the PCP program. Skills which will be emphasized in this class include effective note-taking, forming and asking questions, giving formal presentations, and actively participating in group discussions. All sessions will be conducted in English.

テキスト:

Delk, Cheryl L., *College Oral Communication 3*. Houghton Mifflin, 2006
授業の計画:

- Session 1: Orientation; Basic note-taking skills
- Session 2: Group discussion skills
- Session 3: Cues and keywords; using abbreviations
- Session 4: Oral presentation on a process
- Session 5: Using graphic organizers; Signal words; using symbols; Concept cards
- Session 6: Study groups
- Session 7: Note-taking test; Interpreting a Table or Chart
- Session 8: Describing a chart/table
- Session 9: Oral description of a chart/ table
- Session 10: Identifying different points of view
- Session 11: Forming and asking questions
- Session 12: Discussion assessment; Preparing for a reading's concept
- Session 13: Analyzing case studies;

履修者へのコメント:

The instructor expects students to have a professional attitude in the class. Two unexcused absences will lead to the failure of this course. No assignment will be accepted past its deadline. Speaking up without being called on will be crucial to be successful in this class.

成績評価方法:

Assignments (20%), Note-taking test (20%), Short Oral presentations (30%), Discussion Assessment (20%), Classroom participation (10%)

ACADEMIC WRITING (PCP)() (春学期)
法学部 訪問講師(招聘) ファロン, ルース C.

Course description:

This course will emphasize the process of writing academic research reports in English following acceptable protocols and international standards of academic research. Each student will prepare an original research paper of 10 to 15 pages during the semester. Other short writing assignments will be included in the course. There will be strict deadlines for each step in the planning, drafting and revising the final report. Models of longer research papers and essays on topics related to economics will be provided as course materials.

Students will share drafts of their writing and will also give constructive evaluations of others' writing and research. All class activities will be conducted in English.

Text:

Alice Oshima and Ann Hogue Pearson, *Writing Academic English (Fourth Edition)*, Longman, 2006

Syllabus:

- Week 1. Students will hand in a short essay as an initial writing sample.
WAE Chapter 9
- Weeks 2-4. Essay #2; WAE Chapter 8
Review of unity and coherence in long essays, reports
- Weeks 5-7. Outlines for combined essays; focusing a topic
Analyzing model research reports
- Weeks 8-10: Documentation; incorporating references into paragraphs
Individual consultation
- Weeks 11-12. Revising and polishing the first draft
- Week 13. Final paper due; writing abstracts

Expectations:

Students who take this course must be able to organize essays in English with relative fluency. Homework assignments for the planning and drafting of the research paper must be submitted by the due dates. Students will be expected to participate actively in class activities and offer constructive criticism of other students' drafts which they will review in the class. A student's grade in the class will be based on:

Homework	30%
Attendance/participation	30%
Final research paper	40%

ACADEMIC WRITING (PCP)() (春学期)
法学部 訪問講師(招聘) ファロン, ルース C.

Course description:

This course will emphasize the process of writing academic research reports in English following acceptable protocols and international standards of academic research. Each student will prepare an original research paper of 10 to 15 pages during the semester. Other short writing assignments will be included in the course. There will be strict deadlines for each step in the planning, drafting and revising the final report. Models of longer research papers and essays on topics related to economics will be provided as course materials.

Students will share drafts of their writing and will also give constructive evaluations of others' writing and research. All class activities will be conducted in English.

Text:

Alice Oshima and Ann Hogue Pearson, *Writing Academic English (Fourth Edition)*, Longman, 2006

Syllabus:

- Week 1. Students will hand in a short essay as an initial writing sample.
WAE Chapter 9
- Weeks 2-4. Essay #2; WAE Chapter 8
Review of unity and coherence in long essays, reports
- Weeks 5-7. Outlines for combined essays; focusing a topic
Analyzing model research reports
- Weeks 8-10: Documentation; incorporating references into paragraphs
Individual consultation
- Weeks 11-12. Revising and polishing the first draft
- Week 13. Final paper due; writing abstracts

Expectations:

Students who take this course must be able to organize essays in English with relative fluency. Homework assignments for the planning and drafting of the research paper must be submitted by the due dates. Students will be expected to participate actively in class activities and offer constructive criticism of other students' drafts which they will review in the class. A student's grade in the class will be based on:

Homework	30%
Attendance/participation	30%
Final research paper	40%

CRITICAL THINKING SKILLS (PCP)() (春学期)
教授 松岡 和美

授業科目の内容:

The goal of this course will be to teach students in the PCP program to respond to alternative points of view. The skill which will be emphasized in this class is asking critical questions to evaluate an argument. Students first learn to understand the basic structure of an argument, which consists of issue, conclusion, and reasons. After that, they will learn to identify ambiguous expressions, hidden assumptions, and examples of well-known fallacies. Discussions of evaluating different types of evidence, statistics, rival causes, possibly omitted information follow. Students learn and apply the idea they learn in class to the materials of weekly written assignments and the final exam. All sessions will be conducted in English.

テキスト:

Browne, M. Neil/ Keeley, Stuart M., *Asking the Right Questions: A Guide to Critical Thinking 8th Edition*. Prentice Hall, 2003

参考書:

Moore, B. N. and Parker R., *Critical Thinking: 9th edition*. McGraw-Hill, 2009

授業の計画:

1. Orientation; The Benefit of Asking the Right Questions
2. Critical Thinking Basics; What Are the Issue and the Conclusion?
3. What Are the Reasons?
4. Vagueness and Ambiguity; Defining Terms; What Words or Phrases Are Ambiguous?
5. What Are the Value Conflicts and Assumptions?
6. What Are the Descriptive Assumptions?
7. Rhetorical Devices: Are There Any Fallacies in the Reasoning?
8. Credibility; How Good Is the Evidence?
9. Causal Explanation; Are There Rival Causes?
10. Are the Statistics Deceptive?
11. What Significant Information Is Omitted?
12. What Reasonable Conclusions Are Possible?
13. Written Exam

履修者へのコメント:

The instructor expects students to have a professional attitude in the

class. Two unexcused absences will lead to the failure of this course. No assignment will be accepted past its deadline.

Speaking up without being called on will be crucial to be successful in this class.

成績評価方法：

Weekly Assignments (40%), Classroom participation, attendance (20%), Final exam (40%)

質問・相談：

Students should read and use the information on the course homepage (<http://web.hc.keio.ac.jp/~matsuoka/>) before each class. A weekly office hour is available for student consultation. Questions can also be asked through e-mail.

(3) 関連科目

民法 a (春学期)

民法 b (秋学期)

講師 花房博文

民法 a (春)

授業科目の内容：

本講義では、民法の総則、物権編について概説します。民法 a (総則編) では、「私権の開始・終了」、「当事者意思の尊重と取引の安全との調整」等の基本原則を中心にお話する予定です。民法 b (物権編) では、所有、利用、優先弁済を確保するために物を排他的に支配する原則についてお話します。法律は、観念的で抽象的なものであると理解されがちですので、できる限り身近な実例を使って講義を進める予定です。詳細は初回の講義で説明します。

テキスト：

- ・『2009年版六法』(どんなものでも可) 必携
- ・斎藤和夫編『レーアブーフ民法 (第3版)』及び『レーアブーフ (6月発刊予定)』中央経済社 必携

参考書：

講義中に適宜指示

授業の計画：

1. 民法の位置づけ・民法の三原則と修正
2. 一般条項の役割
3. 権利能力・行為能力
4. 成年後見制度の必要性和概要
5. 住所と失踪宣告
6. 法人の分類・活動・責任
7. 物・財産権の拡大
8. 意思表示
9. 法律行為・法律行為の有効要件
10. 代理・表見代理
11. 無効と取消・条件と期限・期間の計算
12. 時効制度(1)
13. 時効制度(2)

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

民法 b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 物権総論(種類・効力)
2. 不動産物権変動(1)
3. 不動産物権変動(2)
4. 動産物権変動と即時取得制度
5. 占有権
6. 所有権・共有
7. 担保物権総論
8. 留置権・先取特権
9. 質権
10. 抵当権(1)
11. 抵当権(2)
12. 非典型担保権
13. 用益物権

成績評価方法：

春学期参照

民法 a (春学期)

民法 b (秋学期)

法学部 准教授 水津太郎

民法 a (春)

授業科目の内容：

民法では、債権法、民法典でいうと第3編「債権」について、基本的知識を確認するとともに、法的思考力を涵養することを目的とします。

「債権」編は、第1章「総則」、第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」、第5章「不法行為」に区別されますが、講学上は、「債権総論」(債権一般に共通のルール：第1章)と、「債権各論」(特定債権に固有のルール：第2章～第5章)に体系化されています。

民法 a では、そのうち、「債権総論」を対象とします。

テキスト：

野村豊弘・栗田哲男・池田真朗・永田眞三郎『民法 債権総論(有斐閣Sシリーズ)[第3版]』有斐閣、2005年

参考書：

- ・星野英一・平井宜雄・能見善久(編)『民法判例百選2 債権〔第5版新法対応補正版〕』有斐閣、2005年
- ・奥田昌道・安永正昭・池田真朗(編)『判例講義民法2 債権〔補訂版〕』悠々社、2005年

授業の計画：

1. 債権の意義・目的
2. 債権の効力 : 効力一般・強制履行
3. 債権の効力 : 債務不履行
4. 債権の効力 : 損害賠償・受領遅滞
5. 責任財産の保全 : 債権者代位権
6. 責任財産の保全 : 詐害行為取消権
7. 多数当事者の債権関係 : 分割債権債務・不可分債権債務・連帯債務
8. 多数当事者の債権関係 : 保証債務
9. 債権債務の移転 : 債権譲渡
10. 債権債務の移転 : 債務引受・契約上の地位の移転
11. 債権の消滅 : 弁済・供託
12. 債権の消滅 : 相殺
13. 債権の消滅 : 更改・免除・混同

履修者へのコメント：

- ・最新版の六法(小型のものでよい)をかならず持参してください。
- ・民法 b をともを受講することにより、債権法全体をカバーすることができます。

成績評価方法：

学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果

質問・相談：

講義のあとに受け付けます。

民法 b (秋)

授業科目の内容：

民法では、債権法、民法典でいうと第3編「債権」について、基本的知識を確認するとともに、法的思考力を涵養することを目的とします。

「債権」編は、第1章「総則」、第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」、第5章「不法行為」に区別されますが、講学上は、「債権総論」(債権一般に共通のルール：第1章)と、「債権各論」(特定債権に固有のルール：第2章～第5章)に体系化されています。

民法 b では、そのうち、「債権各論」を対象とします。

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

1. 契約総論 : 契約の意義・分類・原則
2. 契約総論 : 契約の成立・効力
3. 契約総論 : 契約の解除
4. 契約各論 : 贈与・交換
5. 契約各論 : 売買
6. 契約各論 : 消費貸借・使用貸借
7. 契約各論 : 質貸借
8. 契約各論 : 雇用・請負・委任・寄託
9. 契約各論 : 組合・終身定期金・和解
10. 法定債権 : 事務管理・不当利得
11. 法定債権 : 一般の不法行為
12. 法定債権 : 特殊の不法行為
13. 法定債権 : 不法行為の効果

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

春学期参照

質問・相談：
春学期参照

商法 a (春学期)
商法 b (秋学期) 法学部 教授 鈴木 千佳子

授業科目の内容：

商法とは企業に関する法のことを指し、さらにそれを大きく分けると、企業組織法と企業取引法になる。この授業では、企業組織法としての、会社法について講義する。会社に関する法規制は、かつては商法、商法特例法、有限会社法などに分かれていたが、平成 17 年に会社に関する規定がひとつの法律に統合されて、新しく「会社法」が制定された。会社では、コンプライアンス（法令遵守）という言葉がよく聞かれるようになったが、会社の経営組織や資金調達、企業統合、企業買収など、新聞などにも取り上げられるさまざまな問題に対して法律がどのような規制をしているかを知ることは、大変重要である。

テキスト：

河本一郎他『日本の会社法（新訂第 9 版）』商事法務

参考書：

- ・宮島司『新会社法エッセンス』第二版、弘文堂
- ・山本為三郎『会社法の考え方』第 6 版、八千代出版など。

詳細については、授業の最初の時間に説明する。

授業の計画：

- 商法 a
1. イントロダクション 会社法とは(1回)
 2. 会社の意義と種類 (2回)
 3. 株式会社の設立 (3回)
 4. 株式 (4回)
 5. 株式会社の資金調達 新株発行 (3回)
- 以上春学期の予定
- 商法 b
6. 株主総会 (3回)
 7. 取締役・取締役会 (3回)
 8. 監査役・会計監査人など監査機関(3回)
 9. 計算 (1回)
 10. 企業再編(合併・分割、営業譲渡、株式交換・移転)(2回)
 11. 企業買収 (1回)
- 以上秋学期の予定

履修者へのコメント：

テキスト指定はないので、授業で話したことをまず理解してほしい。必ず六法を携帯すること。bを履修する者はaを履修することが望ましい。

成績評価方法：

学期末の定期試験で評価する。

質問・相談：

授業のあとに受けつける。

商法 a (春学期)
商法 b (秋学期) 講師 杉田 貴洋

授業科目の内容：

商法とは、実質的には、私法分野のうち、企業に関する法のことである。本講義では、商法分野のうち、商法総則、商行為法の分野（商法典第 1～2 編）を扱う。商法総則では企業に関する通則を、商行為法では企業取引に関する法を学ぶ。商法を学ぶにあたっては、一般私法である民法の基礎知識が欠かせない。講義では、民法の基礎を復習しながら、商法の基本的な考え方を整理する。

テキスト：

六法を毎回使用するので、最新の六法を用意の上、持参のこと。

授業の計画：

1. ガイダンス 商法の意義
2. 商法の適用範囲(商人と商行為の概念)
3. 商業使用人 営業 商号 商業登記
4. 商事売買
5. 仲介業(代理商、仲立人、問屋、証券業)
6. 有価証券

成績評価方法：

学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
(原則として、試験結果以外の事情は考慮しない)

労働法 a (春学期)
雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する
法学部 教授 内藤 恵

授業科目の内容：

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法(雇用保障と求人・求職に関する領域)、個別的労働関

係法〔使用者と労働者(サラリーマン)の間に生ずる法的問題を議論する領域〕、そして集团的労使関係法〔憲法 28 条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域〕に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照ください。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集团的労使関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法(仮題)』(法律文化社、2009 年春出版予定)を使用する予定です。その他必要に応じて Web に講義レジュメをアップロードして進めます。URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第 7 版〕(有斐閣 2002)

参考書：

- ・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』(有斐閣、2006)
 - ・西村健一郎・安枝英『労働法(第 10 版)』(有斐閣プリマシリーズ、2009)
- 大部の概説書に、菅野和夫『労働法(第 8 版)』(弘文堂、2008)

授業の計画：

- 第一章 総論 労働法の意義・体系、等
- 第二章 労働者概念、使用者概念(雇用形態の多様化、含む)
- 第三章 労働契約の生成 採用内定・試用期間、等
- 第四章 労働契約の展開 配置転換、出向、派遣、等
- 第五章 労働基準法上の労働条件
- 第六章 労働条件決定の枠組み
- 第七章 就業規則 労働条件変更のルール
- 第八章 企業秩序と懲戒
- 第九章 労働契約の終了

*ソフトボール大会等の影響をはかりつつ、時間の余裕があるならば、上記授業計画に加えて授業期間中にレポートを書いていただきます。講義が順調に進む場合には、随時、成果主義等の新しいテーマ、あるいは重要な法改正についての解説を入れます。

履修者へのコメント：

法律学は基本となる分野から順次積み重ねていく学問です。そのため労働法学の基本には、憲法・民法(総則・債権各論)の知識が必要です。特にこのクラスは法律学科以外の方々の為の講義ですので、これら法学・憲法・民法を履修済みか、あるいは同等の知識のある方のみ履修してください。初めて法律関係科目にふれるという学生さんには、特別法たる労働法ではなく、憲法や民法の講義を履修することをお勧めします。この講義では、必要があれば基本的な知識についてコメントを加えますが、原則としてそれらの知識があることを前提として進めます。

毎年、一度も講義に出席しないまま「取り捨て」する学生が多く、問題です。よく講義内容を考え、ご自分の法律的知識を勘案した上で履修していただきたいと思います。

成績評価方法：

平常点(出席状況および授業態度による評価)

概ね出席し続けている学生数が 50～60 名以内であれば、数回にのぼる講義中レポートの成績およびその他ランダムにとる出席点を加味して評価します。なおそれを超える数の学生が出席した場合には、期末試験の実施を検討します。

質問・相談：

講義に関するご質問・相談は随時受け付けます。講義終了後、担当者のところまでお越しく下さい。

労働法 b (秋学期)
雇用される労働者(サラリーマン)をめぐる法的問題を分析する
法学部 教授 内藤 恵

授業科目の内容：

労働法とは、賃金を得て生活する者(これを労働者と称します。)と使用者との間に生起する様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法(雇用保障と求人・求職に関する領域)、個別的労働関係法〔使用者と労働者(サラリーマン)の間に生ずる法的問題を議論する領域〕、そして集团的労使関係法〔憲法 28 条をうけて、使用者・労働者・労働組合の三者間の関係を議論する領域〕に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期は、個別的労働関係法領域の講義をします。これは労働者と使用者の間に締結される労働契約に関する分野です。労働契約の締結、労働条件のあり方、労働契約内容の変更、そして契約の終了に至るまでを講義します。内容としては、下記授業計画をご参照ください。

労働法と社会保障法の相互に関連する労働災害補償、および集団的労使関係の領域は、で講じます。社会法は改正が頻繁に行われる領域です。講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、話題となる新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

テキストとしては、神尾真知子・内藤恵・増田幸弘『フロンティア労働法（仮題）』（法律文化社、2009年春出版予定）を使用する予定です。その他必要に応じてWebに講義レジュメをアップロードして進めます。URLは初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携行してください。

別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕（有斐閣2002）

参考書：

初心者向けの参考書として、

・西村健一郎・村中孝史・編『働く人の法律入門 労働法・社会保障法・税法の基礎知識』（有斐閣、2006）

・西村健一郎・安枝英『労働法（第10版）』（有斐閣プリマシリーズ、2009）

大部の概説書に、菅野和夫『労働法（第8版）』（弘文堂、2008）

授業の計画：

- 第十章 労働安全衛生と労働災害補償
- 第十一章 労働市場法（憲法27条、失業等にかかる雇用政策、等）
- 第十二章 労働基本権と労働組合
- 第十三章 公務員の労働基本権制限
- 第十四章 団体交渉
- 第十五章 組合活動・争議行為
- 第十六章 労働協約
- 第十七章 不当労働行為
- 第十八章 労働争訟法

*ソフトボール大会等の影響をはかりつつ、時間の余裕があるならば、随時、成果主義等の新しいテーマ、あるいは重要な法改正についての解説を入れます。

履修者へのコメント：

法学は基本となる分野から順次積み重ねていく学問です。そのため労働法学の基本には、憲法・民法（総則・債権各論）の知識が必要です。特にこのクラスは法律学科以外の方々の為の講義ですので、これら法学・憲法・民法を履修済みか、あるいは同等の知識のある方のみ履修してください。初めて法律関係科目にふれるという学生さんには、特別法たる労働法ではなく、憲法や民法の講義を履修することをお勧めします。この講義では、必要があれば基本的な知識についてコメントを加えますが、原則としてそれらの知識があることを前提として進めます。

毎年、一度も講義に出席しないまま「取り捨て」する学生が多く、問題です。よく講義内容を考え、ご自分の法律知識を勘案したうえで履修していただきたいと思えます。なお、労働法とセットで履修することを前提としています。労働法から履修されると、全く基本を学ばないこととなります。

成績評価方法：

平常点（出席状況および授業態度による評価）

概ね出席し続けている学生数が50～60名以内であれば、講義中数回実施するレポートの成績およびその他ランダムにとる出席点を加味して評価します。なおそれを超える数の学生が出席した場合には、期末試験の実施を検討します。

質問・相談：

講義に関するご質問・相談は随時受け付けます。講義終了後、担当者のところまでお越しください。

租税法 a（春学期）

法学部 教授 吉村典久

授業科目の内容：

所得税は、租税の中でも最も基幹とされる税目であり、研究の蓄積も一番多い科目です。したがって、租税法の基礎理論をマスターするには最も適切な科目であり、他の税目への導入科目としても最適です。また、サラリーマンについては源泉徴収と年末調整、個人事業で行う者については確定申告、高額所得者にとっては配当所得と利子所得についての特例措置、低額所得者にとっては各種の所得控除や課税最低限、というような様々な点で我々の生活に密接に関連している税目でもあります。特に、今後、少子高齢化社会の到来による社会保障費支出の増大や財政再建のため、所得税の増税も密かに計画されていることに鑑みれば、これから大学を卒業して、社会人となる皆さんにとって所得税の意義はますます高まるであろうことが予想されます。この所得税の法理論を勉強することによって、今後の日本の税制のあり方を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

教科書 岸田ほか『現代税法の基礎知識』（ぎょうせい）、または、金子宏『租税法』（弘文堂）、いずれも最新版
必携 『判例六法 Professional（平成21年版）』（有斐閣）
講義レジュメ keio.jpで随時に提供

参考書：

金子宏編『租税判例百選（第四版）』（有斐閣）

授業の計画：

1. オリエンテーション
2. 納税義務者
3. 所得概念
4. 所得の種類（1）
5. 所得の種類（2）
6. 所得の種類（3）
7. 収入金額
8. 必要経費・取得費
9. 損益通算・損失の繰越し等
10. 所得控除
11. 税額の計算・税額控除
12. 所得税の課税手続
13. 源泉徴収制度

履修者へのコメント：

本講義は一方的な講義ではなく、ケースメソッドの方法を一部取り入れた対話形式の授業である。

無能者、努力しない者、自ら考える能力のない者、当講義のレベルについて行けない低レベルの頭脳しか持たない者は、本授業を履修しない方が良いでしょう。

成績評価方法：

学年末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

質問・相談：

授業後、随時。

租税法 b（秋学期）

法人税法と消費税法の基本構造

講師 岩崎政明

授業科目の内容：

企業活動に関連の深い租税（法人税と消費税）について講義する。法律の講義なので、特に企業会計に関する知識の有無を問わない。

テキスト：

水野忠恒『租税法』（第3版、有斐閣、2007年）

参考書：

特になし。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 法人税の根拠・法人税と所得税との関係
3. 法人税の納税義務者（様々な事業体に対する課税の仕組み）
4. 法人税の課税標準（法人所得の計算と企業会計との関係）
5. 法人税の課税標準（益金1）
6. 法人税の課税標準（益金2）
7. 法人税の課税標準（損金1）
8. 法人税の課税標準（損金2）
9. 法人税額の計算
10. 消費税の基本的仕組み
11. 消費税の納税義務者・課税物件
12. 消費税の課税標準
13. 消費税額の計算とその特色

履修者へのコメント：

前期科目「租税法総論」と同じテキストを使いますので、必ず持って出席してください。

成績評価方法：

学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

会計学 a（春学期）

セット履修

会計学 b（秋学期）

名誉教授 笠井昭次

授業科目の内容：

現代会計の全体を合理的に説明する論理を探求する。ただし、その点に関する私見を一方的に述べるのではなく、他の学説と比較検討しながら行なう。そのプロセスにおいて、受講生諸君が、みずから考える力を身につけられるような形で講義をしていきたい。

テキスト：

笠井昭次著『現代会計論』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

会計（学）の基礎

（1）会計（学）の性格と領域

（2）会計の機能

（3）会計の構造

（4）測定規約の考え方

（5）取得原価主義会計論の意義と現代会計理論の動向

価値生産活動の会計

（1）入帳規約および損益計算規約の全体像

（2）実現主義の本質

（3）原価配分の諸相と特殊な支出の期間配分

〔 外国語科目 〕

(1) 外国語

英語リーディング a (春学期) セット履修
英語リーディング b (秋学期)
准教授 ノッター, デビッド M.

授業科目の内容 :

The title of this reading course is 'Extensive Reading in Economics'. Reading will be done individually, and students will be free to choose their own reading material provided that it is related to the field of economics. Students will read daily and extensively (at least 30 minutes every day) at a moderately fast pace, and the focus will be on understanding the main ideas without translating and without looking up every unknown vocabulary word. Reading material will be limited to the field of economics because when reading in a foreign language, background knowledge significantly affects our ability to comprehend the material. However, aside from that limitation, students will be free to choose their own books, and they may change books whenever they want to. Assignments will include a reading log (reading diary), weekly vocabulary presentations, and vocab quizzes. There will also be some group work, and time for student-teacher conferences will be incorporated into the class.

成績評価方法 :

平常点 : 出席状況および授業態度による評価

英語リーディング a (春学期) セット履修
英語リーディング b (秋学期)
Climate Change
木 4 講師 プラット, イアン R.

授業科目の内容 :

This course aims to improve students' confidence in understanding written English text, and improving their reading speeds through a variety of techniques. Students will also hold group discussions and conduct presentations in English after considering what is necessary in these activities.

The course is also designed to help understanding of how the present environmental situation will impact our lives, and how we may moderate the effect. Students will read about the symptoms, the science, the debates, and the solutions related to climate change. They will also discuss in groups, and present to the class, related topics such as energy production and use, transport, pollution, deforestation, desertification and other related matters.

Students will need to be at intermediate level and above in their English skills to participate in this course.

テキスト :

Henson, R., *The Rough Guide to Climate Change* London: Penguin, 2006. ISBN 9-781-84353-711-3

参考書 :

IPCC reports, <<http://www.ipcc.ch/ipccreports/assessments-reports.htm>> and various other websites will be accessed for information and explanation.

授業の計画 :

Students will read sections of the book for homework and come to class prepared to discuss any unclear points or those of particular interest. Working in groups they will have opportunity to give short presentations on items linked to the reading topics.

Grading will be based on a combination of:

class participation (including asking questions)	20%
completed main text homework (inc. vocab. notebooks)	20%
completed ancillary text homework (")	20%
group discussion	20%
presentations (including note taking by listeners)	20%

Six absences will result in no grade, three <10 minute late arrivals = 1 absence, 1 x >10 min late arrival = 1 absence.

履修者へのコメント :

This topic is perhaps the most important one we face individually and globally. It will increasingly affect you but you can also affect the result of climate change.

成績評価方法 :

平常点 (出席状況および授業態度) による評価
See above

質問・相談 :

Messages may be left at the Teachers' Room, Building 4, 2F.

英語リーディング a (春学期) セット履修
英語リーディング b (秋学期)
Learning from Histories
木 5 講師 プラット, イアン R.

授業科目の内容 :

The aims of this programme are:

- a) to develop students' confidence, skill, and speed in reading English business-related non-fictional material,
- b) to help them develop good note-taking skills in order,
- c) to communicate information by means of formal presentations.

Students will learn and practise a variety of sub-skills connected with each phase.

テキスト :

The texts will be announced later: some may be available as downloads, some will be handouts, but students should be prepared to have to pay for some texts throughout the year.

参考書 :

A good English-English dictionary will be essential, and a thesaurus (in book form) will be an excellent investment.

授業の計画 :

The class will read a variety of texts (individually, and/or in small groups, depending on subject and class numbers) connected with the background and histories of different companies and business individuals. Some of the subjects are well known others less so, some are successful others not, some are big some small, some are 'good' some are 'bad' examples of their kind. Students will learn how to make acceptable presentations and then use the findings of their reading to inform others on their topic. Students will also learn about how others have conducted themselves in the commercial world and be encouraged to develop their own sense of purpose, morality and style as a result.

履修者へのコメント :

The course requires active participation by all class members. Prompt attendance to all classes is expected. Six absences through the year = no grade.

成績評価方法 :

Continuous assessment will be based on: a) preparation of topics before class - 25% b) active participation in all classes through questions, discussions - 25%, c) note making (as presenters, before presentations) and note taking (as listeners), d) presentations techniques - 25%.

質問・相談 :

Messages may be left at the Teachers' Room.

英語リーディング a (春学期) セット履修
英語リーディング b (秋学期)
Volunteering and Nonprofit Organization Management
火 3, 火 4
講師 ラインボールド, ロレイン J.

英語リーディング a (春)

授業科目の内容 :

The objectives of this course are: to build confidence in reading in English by using an English NPO management textbook and other authentic text, to improve reading skills by practicing strategies needed for reading different types and genres, to increase vocabulary, and to develop analytical and critical thinking skills. In addition to developing reading strategies, students will also continue to work on academic skills learned in the Study-Skills Course

Students will study volunteering and what constitutes effective NPO and volunteer management. Even though NPO is an acronym for not-for-profit organization, NPOs must be managed in a similar way as for-profit organizations to be able to pursue their charitable goals. Additional topics that will be covered include NPOs and activists that work with problems such as the aids epidemic, street children, physically and mentally challenged people, endangered species, and environmental conservation. A guest speaker from a local NPO is scheduled to talk about his/her experiences of volunteering and working with NPOs.

テキスト :

Hutton, S., & Phillips, F., *Nonprofit Kit for Dummies: Second Edition*. Hoboken: Wiley Publishing, Inc. ISBN 0-7645-9909-7, 2006

What to bring to class:

- Textbook
- English/English Dictionary

参考書：

McCurley, S., & Lynch, R., *Volunteer Management: Mobilizing all the Resources of the Community*. Illinois: Heritage Arts Publishing, 1996

授業の計画：

- Week 1-3 Volunteering and NPOs
Film: *I am Sam*
- Week 4 Getting Started with NPOs
- Week 5 World of NPOs
- Week 6 Deciding to Start a Nonprofit
- Week 7 *Sociologists could teach economists a trick or two*
The Financial Times. March 22/23 2003
- Week 8 Writing Your Mission Statement
- Week 9 Incorporating and Applying for Tax Exemption
- Week 10 Safeguarding Your Nonprofit Status
Group work: Final project
- Week 11 *We need salvation from an army of inefficient charities*
The Financial Times. January 23, 2004

Week 12-13 Group presentations on NPOs and Chapter Presentations
履修者へのコメント：

This class will be challenging for many of you. After taking this course, you should acquire a large vocabulary pertaining to management and finance. In addition, it should be enjoyable for you and your peers to create an NPO which you feel would be useful for society.

I am only here to facilitate your learning. Remember, this is your class. The more that you put into this course, the more that you will get out. Take charge of your progress!

成績評価方法：

- Group presentation/Assignments - 75 %
- Attendance/Participation - 25 %

英語リーディング b (秋)

授業科目の内容：

春学期参照

テキスト：

春学期参照

参考書：

春学期参照

授業の計画：

- Week 14 Managing a NPO: Board of Directors
- Week 15 Getting the Work Done with Volunteers and Paid Staff
- Week 16 Planning: Why and How Nonprofits Makes Plans
- Week 17 Budgets and Financial Reports
- Week 18 Vocabulary Quiz
- Week 19 Quiz: Chapters 1 - 10
- Week 20 Marketing
Creating and Protecting a Home for Your Nonprofit
- Week 21 Chapter Presentations
- Week 22 Guest Speaker
- Week 23 Crafting a Fundraising Plan
- Week 24 Group Presentations
- Week 25 History of the Nonprofit Sector
- Week 26 Open Book Quiz

履修者へのコメント：

春学期参照

成績評価方法：

- Examinations - 20%
- Chapter presentation and outline - 35%
- Attendance - 25%
- Vocabulary Quizzes/Assignments - 20%

(2) 外国語 (ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語)

ドイツ語 a (セミナー)(春学期) セット履修
ドイツ語 b (セミナー)(秋学期)

教授 七 字 眞 明

授業科目の内容：

テーマ《現代ドイツを読む》

世界の政治・経済の枠組みにおいて、その重要性を増す EU の中でも中心的な位置を占めるドイツ。この国では現在、何が問題となり、どのようなことが話題となっているのでしょうか。この授業では、政治、経済、社会、文化等、幅広い分野から選んだテキストを読みながら、現代ドイツの諸相に触れてみたいと思います。

授業では基本的に、一つのテーマを2週間にわたり取り上げます。第1週目には、あらかじめ配布したテキストを輪読します。ある程度のスピー

ードをもってテキストを読み進めていきますが、ドイツ語の基本的な文法事項に関して、必要に応じて復習も行ないます。翌週にはテキストの続きを読み、さらにそのままとめとして、各テキストのテーマに関連して調べてきたことを履修者全員に、一人 10 分程度で発表していただく予定です。その作業を通じて、単にドイツ語のテキストを読むだけでなく、日本における状況をも念頭におきながら、それぞれのテーマが提起する問題について、皆さんと議論する場を持ちたいと考えています。

テキスト：

コピーを配布します。

参考書：

特に使用しません。

授業の計画：

春学期には以下のテーマに関するテキストを扱う予定です。

1. 金融危機とドイツ 自動車産業は立ち直れるか
 2. ドイツの環境政策とエネルギー問題 原子力発電からの全面撤退は正解だったのか
 3. 格差社会へ移行するドイツ 「福祉」か「構造改革」か
 4. 異文化が共存する社会 外国人労働者はドイツ社会にとけ込んでいるか
 5. ドイツの教育システム PISA テストの結果は何を示しているか
- この他に、アクチュアルなニュース記事を随時テキストとして取り上げます。また、履修者の皆さんが個人的に興味を抱いているテーマに関するテキストも適宜取り扱います。

履修者へのコメント：

予習にたいへん時間と労力がかかることが予想される授業ですが、「ドイツ語検定試験2級」に合格できる程度のドイツ語読解力を身につけたい方、また、現代のドイツ、およびこれをとりまくヨーロッパの社会と文化に興味を抱いている方の参加を期待します。

成績評価方法：

春学期末(授業期間中)試験 30%, 秋学期末(授業期間中)試験 30%, 平常点 40%による総合評価とします。特に出席を重視し、無断欠席・遅刻が合計5回を超えた者に関しては、上記の評価基準にかかわらず自動的に不合格となりますので、履修にあたり十分に注意してください。「授業科目の内容」にもあるとおり、毎週ドイツ語テキストの翻訳を担当し、さらにテーマに関する発表を行うことが、成績評価の前提として要求されます。

質問・相談：

授業中に受けます。

ドイツ語 a (セミナー)(春学期) セット履修
ドイツ語 b (セミナー)(秋学期)

教授 中山 純

授業科目の内容：

ドイツ語 , ドイツ語 , ドイツ語 などの初級レベルの授業を修了した学生を対象に、初級ドイツ語の知識の定着と、語彙力を中心にさらに上の語学力を身に付けることを目指します。特定のスキルに重点を置くことはしませんが、可能な範囲で4技能のスキルアップを図っていきます。

テキスト：

使用する教材はプリントで配布します。

参考書：

特にありません。

授業の計画：

春学期の前半は初級ドイツ語の知識の再確認をしながら、基礎力の強化をしていきます。

春学期の後半は短いテキストの読解をしながら、造語法を含めた語彙の知識を深めます。

秋学期の前半は特定のテーマについて複数の角度から語学的にアプローチします。

秋学期の後半は総合力のアップを目指します。

以上の柱を中心にした計画は初回の授業で配布します。

履修者へのコメント：

言葉の習得には継続的な練習が不可欠です。「やらされる」のではなく、「自らの意思」で学んでください。確信が持てる実力を身に付けましょう。

成績評価方法：

成績評価の基礎データは授業中の発表と試験結果など授業の目標達成度になります。その他に出席状況も参考にします。

質問・相談：

原則として授業の前後、その他でも必要があれば応じます。

ドイツ語 a (中級)(春学期) セット履修
ドイツ語 b (中級)(秋学期)

教授 八 木 輝 明

授業科目の内容：

テキストは2008年にドイツで起きた出来事の中から10のトピックを選び、ドイツ語を学びながら最新のドイツ事情を知ることができるよう

な内容構成になっている。文化・政治・経済・スポーツと、内容は多岐にわたっている。例えば EU（欧州連合）のしくみについて詳しく紹介し、サッカー欧州選手権でのドイツの活躍、最近のドイツ人の食生活、その他経済・社会の話題を興味深く述べている。

テキストの文章は大変に平易で、詳しい語注がついている。読みやすく書かれた時事ドイツ語を、初級文法の知識を確認し、深化しつつ正確に読み取る練習を積み重ねていきたい。最新のドイツのニュースもインターネットから適宜選り出しテキストとして取り上げていきたい。しかし一般的に時事外国語を読解するためには、ふだんから新聞の国際欄、インターネットの海外の記事に目を通しておくことが肝要。参加者は特にこのことを心がけて欲しい。

また授業のなかで、最新のドイツ映画や情報を、DVD を使って紹介していく一方、現代のドイツを知るために 20 世紀前半からのドイツの歴史を映像を使いながら学習していく予定。毎時間しっかり予習をしておくこと。

テキスト：

『時事ドイツ語 '08 年トピックス』朝日出版社

履修者へのコメント：

平常の出席状況と授業での積極的姿勢が重要な評価のポイントになる。

成績評価方法：

平常点（出席状況、授業態度および筆記試験）

フランス語 a (セミナー)(春学期)	セット履修
フランス語 b (セミナー)(秋学期)	
フランス社会・文化論	教授 ガボリオ, マリ

授業科目の内容：

このセミナーは、フランス語の「読む、書く、聴く、話す」という 4 つの運用能力を伸ばすことを目的とし、特、フランス語による論理的な会話能力と更にはフランスという国を総合的に理解して行くことを目指します。そのために「現代フランスの社会と文化を考える」をテーマに、フランス語によるグループでのディスカッション、資料の解説、レジュメの作成、プレゼンテーション等を行います。教材として、フランスの新聞、雑誌、DVD 等を可能な限り多様な領域にわたって使用し、語彙、表現を学び、その内容を理解出来るようにします。さらに時事フランス語を十分に身に付ける為に、語彙に関する特別な訓練を行いたいと考えています。フランス文化や歴史、現代社会等について様々な角度から触れ、豊かな感性と的確な表現力を育てて行きたいと思えます。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

必要に応じて指示します。

授業の計画：

この授業で扱うテーマは、春学期は主として現代フランス社会・文化の特徴や問題点を日本と比較しながら観ていく予定です。又、秋学期は日本人がイメージする「花の都パリ」を歴史的観点から考察し、現在のパリの街がつけられた背景に注目していきたいと思えます。

履修者へのコメント：

授業は原則としてフランス語で行いますので、十分な読解・会話能力を必要とします。

成績評価方法：

評価方法は授業への積極的な参加の有無、及び春学期・秋学期各一回ずつのプレゼンテーションを総合して判断します。

フランス語 a (セミナー)(春学期)	セット履修
フランス語 b (セミナー)(秋学期)	
	准教授 新 島 進

授業科目の内容：

目標 1：フランス語の読解力を身につける。ただし読解力とは必ずしも外国語の力ではない。それはむしろ書かれた文章を読みとる基本的な力。フランス語の習得はもとより、外国語を読む訓練を積むことでこの「読解力」を鍛えたい。

目標 2：フランス語の「読み」を習得。きれいな発音というよりは綴り字の読みのこと。綴り字と音との対応関係を復習し、実際の単語に多くあたることで未知の語でも正しく読める力をつける。フランス料理屋でも原語のメニューが読めたらカッコいいでしょ？

テキスト：まずはフランス現代作家ロラン・ゴデの作品をひとつ読む（ホラー風短編）その後、受講者の希望とレベルに応じて教材を決める。

授業方法：訳読に徹する、愚直なまでに。よって予習がきわめて重要である。

テキスト：

はじめはプリントを配布しますが、その後、受講者の希望によってはテキストを購入してもらう可能性もあります。

履修者へのコメント：

履修者の力に見合ったレベル設定をし、出席と予習を重視します。ただし各人の負担が多くならないよう、毎回細かく担当を割り当てます。

成績評価方法：

・試験の結果による評価（春・秋一回ずつ。辞書、参考書すべて持ち込み可）

・平常点：出席状況および授業態度による評価（出席不足の場合、試験は受けられない）

質問・相談：

nijjima@z5.keio.jp

フランス語 a (セミナー)(春学期)	セット履修
フランス語 b (セミナー)(秋学期)	
	准教授 林 田 愛

フランス語 a (セミナー)(春)

授業科目の内容：

授業は翻訳を中心にしてフランス語能力の上達を目指します。テキストとして経済や歴史、または文学などの研究書を逐次紹介しながら、翻訳作業の過程で表現力の向上だけでなく、論理的思考の強化も図るつもりです。

テキスト：

プリントを配布します

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

フランス語 b (セミナー)(秋)

授業科目の内容：

前期は翻訳が中心となりますが、後期の授業では、雑誌や新聞の記事のレジュメ作成によって、書く力を養います。その際には、前期の授業で蓄えた語彙力をフルに活用してもらおうつもりです。

テキスト：

春学期参照

成績評価方法：

・平常点

・レポート

中国語 a (セミナー)(春学期)	セット履修
中国語 b (セミナー)(秋学期)	
	講師 道上 知 弘

中国語 a (セミナー)(春)

授業科目の内容：

今年度は香港の映画監督の文字化されたインタビュー（文章は普通話）を丹念に読んでゆきながら、より高度な口語表現を身につけてゆくとともに、香港映画を始めとした中国語圏映画への理解も深めていきます。映画を語る際の中国語を学びながら、国際映画祭などの場でアテンドや通訳ができるような技術の習得も目指してみたいと思えます。

テキスト：

張燕『映画：香港製造 与香港著名導演對話』北京大学出版社、2006 年

参考書：

・相原茂・荒川清秀・大川完三郎主編『東方中国語辞典』東方書店
・呂叔湘主編 牛島徳次・菱沼透監訳『中国語文法用例辞典 現代漢語八百詞増訂本』日本語版』東方書店...等
* 中国語圏映画や中国語通訳についての参考文献などは開講時に指示します。

授業の計画：

テキストに取り上げられている監督の中から受講者の関心に応じて数人のインタビューを選び、基本的に演習形式で授業を行います。代表的な映画作品は対話をよりよく理解するためにも指定後に必ず各自で観ておくようにしてください。中国語の解釈と内容の理解については、プレゼンテーション担当者はもちろん出席者全員にも周到な準備を求めます。

初回授業でガイダンスを行い、授業の進め方などについての説明をします。必ず出席するようにしてください。

履修者へのコメント：

中国語中級レベル以上の人を対象とします。受講者は基本的な語彙力、文法知識を持っていることを前提として授業を進めますので注意してください。また映画に関心を持って、授業で扱う映画以外にも自分で積極的に観てゆくことを希望します。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

中国語 b(セミナー)(秋)

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

春学期に引き続き『映画:香港製造 与香港著名導演対話』の購読をします。

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

中国語 a(セミナー)(春学期)

セット履修

中国語 b(セミナー)(秋学期)

教授 村越 貴代美

授業科目の内容:

多読でボキャビル5000語。

中級テキストとして定評のある『橋梁』を使い、5000語の語彙力をつけることを目標にします。授業ではゆっくり精読するのではなく、速く大量に読む練習をします。テキストの内容は幅広く、社会科学や自然科学分野の文章もたくさんあります。

中国語は中級の時期が長く、なかなか上級レベルに達した感じが持てません。その主な原因が語彙です。初級で会話を中心に発音と基本文型を習いますが、語彙は1000語程度です。中級では、初級文法の応用と複文の習得をしつつ、語彙を5000語まで一気に増やす必要があります。長く苦しい量稽古ですが、この語彙量が身につくと、リライタなしの中国語もあまりストレスを感じることなく読めるでしょう。

テキスト:

『橋梁』北京語言大学

成績評価方法:

試験と平常点

中国語 a(中級)(春学期)

セット履修

中国語 b(中級)(秋学期)

講師 陳 愛玲

授業科目の内容:

初級で覚えた中国語をスムーズに口から出るよう繰り返し練習を行い、さらに応用能力を身につける。授業は次のことを目標に進めていく。

- 1) 聞いて直ちに理解できること
- 2) 正確な発音および自然なリズムで言えること
- 3) 日常生活における一般的な応答および発話がスムーズに話せること

テキスト:

山内智恵美・蘇冰『聴解の達人』白帝社

参考書:

開講時に指示する。

授業の計画:

- 1) ガイダンス
- 2) 「今日は何曜日?」
- 3) 「これはだれの?」
- 4) 「すごく美味しいよ」
- 5) 「いらっしゃい!」
- 6) 「鍵はどこ?」
- 7) 「1年365日」
- 8) 「結婚したの?」
- 9) 「タバコを吸ってもいい?」
- 10) 「歌が上手な彼女」
- 11) 「スイカは丸い」
- 12) まとめ
- 13) 前期試験
- 14) 「まけてもらえる?」
- 15) 「一緒にボーリングに行こう」
- 16) 「君のほうがいいだ」
- 17) 「宿泊予約」
- 18) 「眼鏡をかけているのがボス」
- 19) 「駅はどう行くの?」
- 20) 「一日3回、一回2錠」
- 21) 「天気予報」
- 22) 「A101便はまもなく離陸いたします」
- 23) 「北京オリンピック」
- 24) 応用練習
- 25) まとめ

26) 後期試験

履修者へのコメント:

授業中のペアワーク、グループワークに積極的に参加でき、積極的に発言する受講者を歓迎します。

成績評価方法:

- ・前期・後期の試験成績(スピーキング試験を実施する予定)
- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)

スペイン語 a(中級)(春学期)

セット履修

スペイン語 b(中級)(秋学期)

講師 阿部 三男

スペイン語 a(中級)(春)

授業科目の内容:

フランスの作家アレクサンドル・デュマはイベリア半島について「ピレネーを越えると、そこはアフリカだ」と言っているが、イベリア半島は独特な風土を有し、古くから多くの民族が行き交い西洋と東洋が交わり、「ヨーロッパであってヨーロッパでない」独自の文化を形成し世界中の人々を魅了してやまない。特にキリスト教文化とイスラム文化の融合はこの半島の特徴である。この授業ではスペイン人やラテンアメリカ人のアイデンティティを垣間見ることが出来る雑誌・新聞記事・専門書から抜粋したものを読み、随時ビデオ教材・映画・カセットテープも使ってスペイン語の基本的なコミュニケーション能力を養成したい。

テキスト:

阿部・マルティン共著『スペイン語応用』、プリント配布。

テキストの購入・プリントの入手については開講時の指示に従ってください。

参考書:

- ・『クラウン西和辞典』三省堂
- ・『クラウン和西辞典』三省堂

授業の計画:

この授業では、スペイン語で使用頻度の高い不規則動詞・再帰動詞・無人称・現在完了・過去形・未来形を使った表現やスペイン語の基本的な文法構造をマスターしながら、スペイン語圏の文化の理解に努めたい。この授業で扱うテーマは、フラメンコの起源(第1~3回)・闘牛(第4回)・ガウディ(第5回)・ピカソ(第6~7回)・ダリ(第8回)・カザルス(第9回)・ラテン音楽(第10回)・マヤ文明(第11回)・アステカ文明(第12回)・インカ文明(第13回)である。

履修者へのコメント:

受講者の希望も聞きながら授業を進めたいと思う。スペイン語文法の再整理やリスニングの訓練をしたい人にもこの授業を利用してほしい。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
- 3回の小テスト(7割)に出席状況・学習態度・学習意欲などの平常点(3割)を加味し、総合的に評価します。

質問・相談:

授業中に質問時間を用意します。また授業終了後・休憩時間にも質問を受け付けます。

スペイン語 b(中級)(秋)

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

簡単な読み物・ビデオ教材・カセットテープ・映画を使い、使用頻度の高い重要語彙・基本表現を視覚・聴覚の両面から確認することで、スペイン語の基礎的運用能力が身につくような授業を心掛ける。この授業で扱うテーマは、趣味(第1回)・料理(第2回)・日常生活(第3回)・学業(第4~5回)・価値観(第6回)・信仰(第7~8回)・老後生活(第9~10回)・ドンキホーテ(第11~13回)である。文法的には、主に直説法過去未来形・接続法のマスターを目標にする。

履修者へのコメント:

スペイン語会話の中でよく使われる語彙・表現・文法事項の習得に努めるので、会話力を養成したい学生には積極的に参加してほしい。

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

スペイン語 a (セミナー)(春学期) セット履修
スペイン語 b (セミナー)(秋学期)

講師 阿部 三男

スペイン語 a (セミナー)(春)

授業科目の内容:

文法を単なる知識として持っているのではなく、実際の言語運用場面において使いこなせるように目だけでなく耳も口も十分に活用し、刺激的で楽しい授業にしたい。随時ビデオ教材・映画・カセットテープを使い、スペインおよびラテンアメリカの文化・社会に触れながら、使える基本表現の習得に努めたい。

テキスト:

阿部・マルティン共著『スペイン語応用』、プリント配布。

テキストの購入・プリントの入手については開講時の指示に従ってください。

参考書:

- ・『クラウン西和辞典』三省堂
- ・『クラウン和西辞典』三省堂

授業の計画:

簡単な読み物・ビデオ教材・映画・カセットテープを使い、使用頻度の高い重要語彙・基本表現を視覚・聴覚の両面から確認することで、スペイン語の基礎的運用能力が身につくような授業を心掛ける。この授業で扱うテーマとしては、スペイン国旗(第1~3回)・衣食住(第4~5回)・買い物(第6回)・旅行(第7~8回)・スポーツ(第9回)・絵画(第10回)・建築(第11回)・舞踊(第12~13回) 文法的には、主に直説法現在形・現在完了形・過去形・未来形のマスターを目標にする。

履修者へのコメント:

受講者の希望も聞きながら授業を進めたいと思う。スペイン語文法の再整理やリスニングの訓練をしたい人にもこの授業を利用してほしい。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
 - ・平常点(出席状況および授業態度)による評価
- 3回の小テスト(7割)に出席状況・学習態度・学習意欲などの平常点(3割)を加味し、総合的に評価します。

質問・相談:

授業中に質問時間を用意します。また授業終了後・休憩時間にも質問を受け付けます。

スペイン語 b (セミナー)(秋)

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト:

春学期参照

参考書:

春学期参照

授業の計画:

この授業では、文法的には未来形・過去形・現在完了・過去完了・未来完了・過去未来完了・接続法を使った表現をマスターしながら、スペイン語圏の文化理解に努めたい。秋学期は、スペイン人の職業意識(第1~2回)・収入(第3~4回)・学生生活(第5回)・バスク民族(第6回)・カタロニア文化(第7回)・中南米事情(第8~10回)・アメリカ合衆国の中のスペイン語(第11~13回)を題材にしたビデオ教材・簡単な読み物を使う。

履修者へのコメント:

スペイン語会話の中でよく使われる語彙・表現・文法事項の復習から始めますので、会話力を養成したい学生には積極的に参加してほしい。

成績評価方法:

春学期参照

質問・相談:

春学期参照

スペイン語 a (中級)(春学期) セット履修
スペイン語 b (中級)(秋学期)

講師 四宮 瑞枝

スペイン語 a (中級)(春)

授業科目の内容:

スペイン語圏の国々の社会文化的テーマに関する様々な記事を読み、スペイン語圏社会への理解を深めると共に、自文化との対比を行いながらスペイン語による発信能力を高めることを目指す。また、異文化情報の扱いにも注目して異文化理解の方法論も学ぶ。

授業の手順としては、各回の講読教材の内容確認をチェックシートを用いて行った後、テーマに関連した映像資料(映画など)や新聞記事などを紹介する。それらをもとに意見を交換し合った後、各自が考えたこ

とをシートに記入する。意見交換や意見の記述は出来る限りスペイン語で行うことを基本とするが、そのための語彙学習・作文練習など補足学習を適宜取り入れる。

テキスト:

プリント配布

参考書:

授業内で提示

授業の計画:

前期はスペイン現代社会に関連する以下のテーマを扱う予定である。

- 1)導入:異文化学習における外国語学習の役割と学習法
- 2)スペインの言語政策
言語事情 地方自治(バルセロナ,バスクの紹介を中心に)
- 3)歴史的背景の理解
スペイン市民戦争 フランコ時代からフランコ後の時代へ
- 4)EU 統合後の社会変化
女性の生き方 若者の生活 宗教観と祭り
- 5)外国人移民の問題と教育

履修者へのコメント:

Content-based の語学学習であるので、履修者にはテーマに関して主体的に考え、積極的に発言する態度が求められる。教室での活動を効果的なものにするために、講読教材の予習、および作文の課題はきちんと行うこと。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価:扱った教材の中の重要構文の理解度、基本的作文力の最終確認を行う。
- ・平常点(出席率および授業態度)による評価:チェックシートの取り組み方、作文課題の達成度、自らの関心・意見を表現する態度、出席率。
- ・その他:必要に応じて、語彙力・文法力を高めるための小テストを実施する。

スペイン語 b (中級)(秋)

授業科目の内容:

前期授業の続編。ラテンアメリカ諸国の様々な社会文化的テーマを取り上げ、関連する簡単な記事を読みながらラテンアメリカ諸国への理解を深めると共に、自文化との対比を行いスペイン語による発信能力を高めることを目指す。異文化情報の扱いにも注目して異文化理解の方法論も学ぶ。

授業の手順としては、各回の講読教材の内容確認をチェックシートを用いて行った後、テーマに関連した映像資料(映画など)や新聞記事などを紹介する。それらをもとに意見を交換し合った後、各自が考えたことをシートに記入する。意見交換や意見の記述は出来る限りスペイン語で行うことを基本とするが、そのための語彙学習・作文練習など補足学習を適宜取り入れる。

テキスト:

プリント配布

参考書:

授業内で提示

授業の計画:

ラテンアメリカ社会に関連する以下のテーマを予定しているが、受講者の関心によって調整を行う。

- 1)歴史的背景の理解
スペイン語圏の文化領域 古代文明の遺産(ex.インカ文明)
- 2)宗教観の問題(ex.メキシコやグアテマラの習合宗教)
- 3)先住民族問題・内戦(ex.グアテマラ,エル・サルバドル)
- 4)麻薬問題(ex.コロンビア,ボリビア)
- 5)政治リーダー・独裁制の問題(ex.キューバ,ベネズエラ,チリ,アルゼンチン,etc.)
- 6)アメリカ合衆国との関係とヒスパニック社会

履修者へのコメント:

Content-based の語学学習であるので、履修者にはテーマに関して主体的に考え、積極的に発言する態度が求められる。教室での活動を効果的なものにするために、講読教材の予習、および作文の課題はきちんと行うこと。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価:扱った教材の中の重要構文の理解度、基本的作文力の最終確認を行う。
- ・平常点(出席率および授業態度)による評価:チェックシートの取り組み方、作文課題の達成度、自らの関心・意見を表現する態度、出席率。
- ・その他:必要に応じて、語彙力・文法力を高めるための小テストを実施する。

(3) 選択 A

ドイツ語 a (選択 A)(春学期) セット履修
ドイツ語 b (選択 A)(秋学期)

教授 クナウプ, ハンス J.

ドイツ語 a (選択 A)(春)

授業科目の内容:

「世界におけるドイツ」をテーマにしたテキストを読んでいきます。ドイツ語初級文法を終えたレベルを前提にしています。読解以外にも、テキストに関連して簡単な会話や聞き取りの練習します。

テキスト:

プリントを配布します。

授業の計画:

「アメリカにおけるドイツ」をテーマにしたテキストを扱います。

成績評価方法:

試験の結果による評価

出席状況および授業態度による評価

ドイツ語 b (選択 A)(秋)

授業科目の内容:

春学期参照

テキスト:

春学期参照

授業の計画:

「中近東とアジアにおけるドイツ」をテーマにしたテキストを扱います。

成績評価方法:

春学期参照

フランス語 a (選択 A)(春学期)

セット履修

フランス語 b (選択 A)(秋学期)

講師 日佐戸 ミッシェル

フランス語 a (選択 A)(春)

授業科目の内容:

種々の記事や文章を使用して、自分の考えや意見を表現する能力を身につける。

テキスト:

雑誌と新聞の記事のコピー。

参考書:

FESTIVAL 2 CLE international (sylvie Poisson)

授業の計画:

フランス人の日常生活に関係しているテーマを選んで、それについて簡単な討論を行う。易しい記事を読むことを基本として、各人のアイデアや意見を交換する。宿題として、各授業で勉強した記事について簡約文を書き、自分のアイデアと意見を表現する。

履修者へのコメント:

授業に出席することを基本とする。

成績評価方法:

平常点(出席状況および授業態度)による評価

フランス語 b (選択 A)(秋)

授業科目の内容:

様々な記事や文章を使用して、自分の考えや意見を表現する能力を身につける。

テキスト:

春学期参照

参考書:

FESTIVAL 2 CLE International (Sylvie Poisson)

授業の計画:

春学期よりレベルの高い記事を使用することにより、フランス語で記事にでていいる言葉を説明したり、また自分のアイデアや意見を表現し、討論する。

宿題として、授業で勉強したことについて要約して、自分の考え、意見を短文にまとめる

履修者へのコメント:

春学期参照

成績評価方法:

春学期参照

中国語 a (選択 A)(春学期)

セット履修

中国語 b (選択 A)(秋学期)

講師 陳 愛 玲

授業科目の内容:

当講義は、中級から上級へのレベルアップを目的とし、中国語検定試験2級程度のレベルからスタートします。授業は、次の2点を軸に進めていきます。

中国語の「しくみ」というものを理解してもらい、より幅広いより豊かな表現力を身につける。

「聞く」・「話す」・「読む」・「書く」、4つの技能を含めたトレーニングを行う。

さらに、中国語の表現力を高めていく中で、この授業を通して、受講者の皆さんの中国および中国の人々に対する理解もより一層深まることのできたらうれしいし、願っています。

テキスト:

董燕・遠藤光暁『書く中国語』朝日出版社

参考書:

開講時に指示する。

授業の計画:

- 1) ガイダンス
- 2) プレテスト
- 3) 語彙強化
- 4) 語彙強化
- 5) 慣用表現・呼応表現強化
- 6) 慣用表現・呼応表現強化
- 7) リーディング(1)
- 8) リーディング(2)
- 9) ライティング(1)
- 10) ライティング(2)
- 11) 応用
- 12) 応用
- 13) 前期まとめ(課題)
- 14) リスニング(1)
- 15) リスニング(2)
- 16) リスニング(3)
- 17) スピーキング(1)
- 18) スピーキング(2)
- 19) スピーキング(3)
- 20) 応用
- 21) 応用
- 22) 応用
- 23) 総合演習
- 24) 総合演習
- 25) 予備日
- 26) 後期まとめ(課題)

履修者へのコメント:

- ・ 授業内容を必ず事前に辞書などで調べ、予習してから授業に臨むこと。
- ・ 積極的に授業に参加し、積極的に発言し質問する受講者を歓迎します。

成績評価方法:

- ・ 平常点(出席状況および授業態度による評価)
- ・ 宿題や課題の完成状況

ロシア語 a (選択 A)(春学期)

セット履修

ロシア語 b (選択 A)(秋学期)

講師 佐野 洋子

授業科目の内容:

このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし、一年間で現代文を読む上で必要なロシア語文法をすべて習得します。中級レベルの文を辞書を用いて読む力をつけることを目的とします。最終的には、各自の専門に従って、独学でもロシア語を続けていける基礎学力をつけたいと思います。

テキスト:

教材は、初回の授業で配布します。

参考書:

辞書が必要になりますが、初回の授業で説明します。

授業の計画:

前期は、発音・文法を中心に、後期は、読みものを中心に進めていきます。会話用のテキストも併用していきます。

成績評価方法:

平常点(出席状況および授業態度による評価)

〔 総合教育科目 〕

人類学 a [系] (春学期)

人類学 b [系] (秋学期)

人類の過去・現在・未来

講師 吉田 俊 爾

授業科目の内容：

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、地球温暖化・人口増加・食糧不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題におかずして、その解決は遠くおよびないである。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっと環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならぬか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることであり、そのために生物としてのヒトを探求するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課題（ヒトの起源と進化、変異、日本人の起源など）、日常のトピックスについて解説します。

テキスト：

片山一道、五百部裕他：「人間史をたどる」 自然人類学入門 朝倉書店

参考書：

(1) 中原 泉著：歯の人類学 医歯薬出版

(2) 片山一道著：「古人骨は生きています」 角川書店

授業の計画：

初回の授業（ガイダンス時）で提示し、資料を配布します。

履修者へのコメント：

ヒトに興味のある学生を歓迎します。毎回なるべく出席して下さい。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

質問は授業中、相談は授業終了後に受け付けます。

情報処理 [系] (春学期)

経済学・社会学のためのデータ分析

講師 相場 裕 子

授業科目の内容：

この科目では、経済学・社会学分野のデータ分析の事例を紹介し、統計手法に対する理解を深め、計量経済学やマクロ分析、社会調査等に役立つ情報処理能力を養成します。

講義では、表計算ソフトウェア (Excel)、統計パッケージ (SAS) 等を使ってデータ分析を行い、データ分析の手法やデータの読み取り方について解説します。データ分析は、データ分析の基礎を身につけるには、受講者が自らパソコンを操作して、データを入力・分析するプロセスが重要です。講義中に十分な実習時間がとれないため、毎回、小課題を課しますので、授業時間以外にも、積極的に実習を行ってください。

なお、数学・統計学に関する知識は、高校レベルの数学と学部での統計学の知識を前提とし、実際のデータを見ながら、統計手法の直感的な理解が得られるような内容とします。

テキスト：

特に指定しませんが、講義資料 (レジュメ) を配布します。

参考書：

適宜、参考文献を紹介します。

授業の計画：

1. データ分析入門

データの整理とグラフ表示

データの特性の把握

推定と仮説検定

2. 統計調査の利用

主な経済統計の種類、使い方

3. 回帰分析

線形回帰モデル

マクロ経済モデル

4. 多変量解析

数量化理論

主成分分析

履修者へのコメント：

受講者は、パソコンの基本的な操作、E-mail を使えることを前提とします。

成績評価方法：

平常点および期末レポートにより評価します。

質問・相談：

授業時間中に随時受け付けます。また、メールでも対応します。

実践自然科学 [系] (秋学期)

実験要素を含む 4 年生のための自然科学

商学部 教授 福 澤 利 彦

文学部 教授 大 場 茂

法学部 准教授 小 林 宏 充

授業科目の内容：

実験やデモンストレーションなど、実験要素を取り入れて、自然科学の考え方や方法論を教えることに重点を置いた授業とします。全体説明のガイダンスの後、化学、物理学、生物学の 3 分野の教員が、それぞれの分野において、4 回ずつ異なるテーマで授業を行います。実験要素を含むことが本科目の特徴であるため、受講生諸君が授業に参加して自ら考えることが必要となります。

テキスト：

特に指定しません。講義時に資料・プリントを配布します。

参考書：

特に指定しません。

授業の計画：

(1) ガイダンス

(2) 化学分野 (比重、燃料電池、スペクトルと光の作用、水晶とミネラルウォーター)

(3) 生物学分野 (遺伝子と遺伝、味覚の生物学、視覚の生物学、生物の行動)

(4) 物理学分野 (カオス、フラクタル、セルオートマトン、イジング模型)

履修者へのコメント：

原則として履修者は三田の 4 年生に限り、総合教育科目の単位が不足している人を救済するための科目ではありませんので注意してください。自然科学に本当に興味があり、実験にも積極的に参加する人を対象とします。履修希望者が多数の場合は、人数を制限することがあります。

成績評価方法：

毎回の小テストやレポートの点数を総合して評価します。

質問・相談：

質問・相談は授業終了後に受け付けます。

歴史 a [系] (春学期)

歴史 b [系] (秋学期)

日本中世の政治と宗教

講師 阿 部 能 久

授業科目の内容：

日本の中世における政治と宗教の諸相について講じます。中世の日本においては政治と宗教が密接に関連し相互補完的な関係を形成しており、互いに強い影響を及ぼしあっていました。本講義では特に、室町時代から安土桃山時代にかけての政治史を、宗教勢力の動向を視野に入れながらみることにし、両者の関係についての理解を深めていきたいと思っております。

歴史 の授業を前提に歴史 の授業を行うので、ともに履修することが望ましいです。

テキスト：

授業中に適宜プリントを配付します。

参考書：

授業内で紹介します。

授業の計画：

初回の授業で提示します。

成績評価方法：

試験の結果による評価

法学 a (憲法を含む) [系] (春学期)

法学 b (憲法を含む) [系] (秋学期)

現代社会と法

講師 松 浦 聖 子

授業科目の内容：

社会構造の複雑化、財の流通の加速化により、我々を取り巻く法的環境は極めて多様化している。一人の間は、国民として、家族として、個人として、または消費者として、あるいは専門家として様々な形で法と関わる。特に、個人が社会と関わる上で避けることのできない「契約」は、現代社会の諸問題を理解する上でも、重要なシステムである。本講義は、法学入門としての基礎知識の理解を徹底するとともに、現代社会に特徴的な法的問題に対する理解を深めることを目標とする。

テキスト：

・石川明編「フレームワーク法学入門」不磨書房

・石川明編「法学六法 09」信山社

参考書：

・伊藤正巳・加藤一郎編「現代法学入門」有斐閣双書

- ・碧海純一「法と社会」中公新書
- ・田中成明「法的空間」東京大学出版会

授業の計画：

【前期】

1. 法とは何か
2. 法の適用 (1) 裁判の諸原則 (2) 民事訴訟 (3) 刑事訴訟 (4) 法源
3. 法の体系 (1) 法の分類 (2) 公法と私法 (3) 実定法の体系
4. 国家と法 (1) 国家と憲法 (2) 日本国憲法の基本原理
5. 犯罪と法 (1) 犯罪と刑法 (2) 刑法の機能 (3) 犯罪の成立要件
6. 家族生活と法 (1) 家族法 (2) 夫婦 (3) 親子 (4) 相続

【後期】

7. 財産関係と法 (1) 財産法 (2) 取引の主体 (3) 取引の客体
8. 契約 (1) 契約の機能 (2) 契約の成立とその効力 (3) 債務不履行 (4) 損害賠償
9. 労働と法 (1) 労働法の理念と体系 (2) 労働保護法 (3) 労働団体法
10. 国際社会と法 (1) 国際法 (2) 国家の不正行為 (3) 秩序回復
11. 民事訴訟手続 (1) 民事訴訟の基本原則 (2) 民事訴訟の流れ (3) 少額訴訟 (4) 民事執行
12. 刑事訴訟手続 (1) 刑事訴訟の基本原則 (2) 刑事訴訟の流れ (3) 刑事訴訟法と刑法

履修者へのコメント：

- (1) 法律学は暗記の学問ではなく、論理的体系を持った理解の学問なので、講義には必ず出席すること。
- (2) ニュース報道などで取り上げられている事件や社会問題の法的な意味にできるだけ関心を持つこと。

成績評価方法：

レポートによる評価

質問・相談：

試験・レポート・出席状況等を総合して評価します。

近代思想史 a [系] (春学期)

近代思想史 b [系] (秋学期)

ドイツ近代社会思想における自由と共同

講師 針谷 寛

授業科目の内容：

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱う際には歴史的なコンテキストの中で考察することに努める。

テキスト：

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

講義の中で紹介する。

授業の計画：

初回の授業で提示する。

履修者へのコメント：

予備知識を前提しない形で話を進めますが、理論的内容が大きな比重を占めるので、頭の中で何度も理論的なつながりを手繰り直す根気が必要です。

成績評価方法：

レポートによる評価

質問・相談：

随時

美術 a [系] (春学期)

美術 b [系] (秋学期)

講師 中島 恵

授業科目の内容：

古代から現代にいたる西洋美術史の基礎的な理解を得ることを目的に、各時代・各地域の美術について、様式・意味解釈・社会的機能の観点から概説します。授業ではスライド(デジタル画像)や映像を使用します。

テキスト：

特に使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

参考書：

- ・『カラー版 西洋美術史』増補新装版、高階秀爾監修、美術出版社編纂部・藤原えりみ編、美術出版社、2002年。
- ・『世界美術大全集 西洋編』全29巻、小学館、1992-97年。
- ・E. H. ゴンブリッチ『美術の歩み』友部直訳、上・下巻、美術出版社、1972-74年；『美術の物語』天野衛ほか訳、ファイン、2007年。
- ・H. W. ジャンソン・アンソニー・F. ジャンソン『西洋美術の歴史』木村重信・藤田治彦訳、創元社、2001年。
- ・マルシア・ポイントン『はじめての美術史』木下哲夫訳、スカイデア、1995年

- ・『新潮 世界美術辞典』新潮社、1985年。

- ・『オックスフォード 西洋美術事典』佐々木英也監修、講談社、1989年。

授業の計画：

初回の授業で提示します。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

地域研究 中国事情 [系] (春学期)

講師 藤原 秀人

授業科目の内容：

中華人民共和国は2009年、建国60周年を迎える。その前半史は激しい政治闘争が「鎖国」状態で繰り広げられたため、隣国の日本でさえ中国の実情を探るのは非常に困難であった。その後の30年間は、改革開放政策により経済面を中心に外部との交流が進んだことで、中国の変化への理解も深まった。だが、巨大な国土と様々な民族、ブラックボックスのなかでの政策決定など、いぜんとして中国理解を難しくする要因は少なくない。しかし、経済だけでなく外交、軍事、あるいは文化面で存在感を高める中国を知る努力を、我々は続けなければならない。授業ではこの中国で起きる出来事を多角的かつタイムリーに取り上げながら、その現代史における意味をも探り、中国理解を深める。春学期は政治、外交に重点を置き、秋学期は経済、社会を優先的にとりあげる。

テキスト：

講師が毎回コピーを準備する。

参考書：

追って指定する。

授業の計画：

追って明らかにする。

履修者へのコメント：

様々な分野での関心と問題提起を期待する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

原則として授業時間内に受けつける。

地域研究 中国事情 [系] (秋学期)

講師 藤原 秀人

授業科目の内容：

中華人民共和国は2009年、建国60周年を迎える。その前半史は激しい政治闘争が「鎖国」状態で繰り広げられたため、隣国の日本でさえ中国の実情を探るのは非常に困難であった。その後の30年間は、改革開放政策により経済面を中心に外部との交流が進んだことで、中国の変化への理解も深まった。だが、巨大な国土と様々な民族、ブラックボックスのなかでの政策決定など、いぜんとして中国理解を難しくする要因は少なくない。しかし、経済だけでなく外交、軍事、あるいは文化面で存在感を高める中国を知る努力を、我々は続けなければならない。授業ではこの中国で起きる出来事を多角的かつタイムリーに取り上げながら、その現代史における意味をも探り、中国理解を深める。春学期は政治、外交に重点を置き、秋学期は経済、社会を優先的にとりあげる。

テキスト：

講師が毎回コピーを準備する。

参考書：

追って指定する。

授業の計画：

追って明らかにする。

履修者へのコメント：

様々な分野での関心と問題提起を期待する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

原則として授業時間内に受けつける。

人の尊厳(社会と人権)[系] (春学期)

名誉教授 関場 武
文学部 教授 安藤 寿康
文学部 教授 渡辺 秀樹

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一

一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずから振り返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

授業の計画：

生命倫理、難民問題、犯罪被害者・加害者の人権、同和問題カウンセリングなどのテーマが予定されている。より詳細は初回ガイダンスで明示する。

履修者へのコメント：

体系的な知識を学ぶための講義ではなく、様々な問題状況を講師とともに追体験し、人間の尊厳に関する自らの生き方や考え方をあらためて見つめ直す機会をもつための講義である。誠実で素直で、なおかつ批判的な態度で臨んでいただくことを希望する。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

毎回授業に出席し、それぞれ異なるテーマに直面してそれについて自ら「考える」ことが本講義の趣旨であることから、毎回、授業の最後に、授業を通じて考えたことや疑問点を記述する小レポートの提出を課す。この提出状況（8割以上の提出＝出席をもって単位が認可される）とその内容、ならびにこれらの講義をふまえて自分自身の「人の尊厳」に関わる問題を考察する最終テストの評価によって成績を評価する。

質問・相談：

授業の形式等、事務的な内容については安藤・渡辺（コーディネータとして毎回参加する）に、講義の内容については各回の講師に対して直接たずねられたい。

諸 研 究 所 設 置 講 座

教職課程センター
言語文化研究所
メディア・コミュニケーション研究所
斯道文庫
体育研究所
福澤研究センター
国際センター
保健管理センター
情報処理教育室
アート・センター
知的資産センター
外国語教育研究センター
グローバルセキュリティ研究所

教 職 課 程 セ ン タ ー

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表の「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

平成 21 年度言語文化研究所特殊講座

科目名	講 師	単位数
サンスクリット初級 (春)	土田龍太郎	半期 1 単位
サンスクリット初級 (秋)	土田龍太郎	
サンスクリット中級 (春)	土田龍太郎	
サンスクリット中級 (秋)	土田龍太郎	
アラビア語基礎 (春)	野元 晋	
アラビア語基礎 (秋)	野元 晋	
アラビア語現代文講読 (春)	榮谷温子	
アラビア語現代文講読 (秋)	榮谷温子	
アラビア語古典 (春)	岩見 隆	
アラビア語古典 (秋)	岩見 隆	
アラビア語文献講読 (春)	岩見 隆	
アラビア語文献講読 (秋)	岩見 隆	
ヴェトナム語初級 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語初級 (秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語中級 (秋)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読 (春)	嶋尾 稔	
ヴェトナム語文献講読 (秋)	嶋尾 稔	
ペルシア語初級 (春)	関 喜房	
ペルシア語初級 (秋)	関 喜房	
ペルシア語中級 (春)	岩見 隆	
ペルシア語中級 (秋)	岩見 隆	
タイ語初級 (春)	三上直光	
タイ語初級 (秋)	三上直光	
タイ語中級 (春)	ボンシー, ライト	
タイ語中級 (秋)	ボンシー, ライト	
トルコ語初級 (春)	齋藤久美子	
トルコ語初級 (秋)	齋藤久美子	
トルコ語中級 (春)	齋藤久美子	
トルコ語中級 (秋)	齋藤久美子	
朝鮮語文献講読 (春)	野村伸一	
朝鮮語文献講読 (秋)	野村伸一	
カンボジア語初級 (春)	三上直光	
カンボジア語初級 (秋)	三上直光	
ヘブライ語初級 (春)	高井啓介	
ヘブライ語初級 (秋)	高井啓介	
ヘブライ語中級 (春)	高井啓介	
ヘブライ語中級 (秋)	高井啓介	
古代エジプト語初級 (春)	笈川博一	
古代エジプト語初級 (秋)	笈川博一	
古代エジプト語中級 (春)	笈川博一	
古代エジプト語中級 (秋)	笈川博一	
アッカド語初級 (春)	高井啓介	
アッカド語初級 (秋)	高井啓介	
アッカド語中級 (春)	高井啓介	
アッカド語中級 (秋)	高井啓介	

サンスクリット初級 (春)
サンスクリット初級 (秋)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。

参加者は、練習問題の予習が必要となる。

テキスト:

- ・ヤン・ホンダ著 鑑淳 訳「サンスクリット語初等文法(春秋社)
- ・辻 直四郎著「サンスクリット文法」(岩波書店)

授業の計画:

- ・サンスクリット語とはなにか
- ・アオリスト活用
- ・子音と母音
- ・完了活用
- ・名詞変化の基礎
- ・その他の動詞形
- ・動詞変化の基礎
- ・複合語等
- ・母音曲用
- ・子音曲用
- ・動詞現在組織
- ・未来及受動活用

随時、宗教・神話・歴史についても解説する。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

サンスクリット中級 (春)
サンスクリット中級 (秋)

言語文化研究所 講師 土田 龍太郎

授業科目の内容:

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト:

参加者の希望で決める。

授業の計画:

サンスクリット中級では、参加者と相談して決めたテキストを講読、文化史宗教史の事項と文法の解説を行う。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語基礎 (春)
文法入門 1

言語文化研究所 教授 野元 晋

授業科目の内容:

アラビア語の基礎文法をマスターするコースで今回はいわば前半部分を学びます。まず文字から始めて、名詞、「AはBです」の簡単な構文、前置詞、代名詞、形容詞、そして動詞の完了形まで学んでいきます。

テキスト:

佐々木淑子『新版アラビア語入門』(翔文社, 2005)

参考書:

本田孝一, 石黒忠昭編『パスポート初級アラビア語辞典』(白水社, 1997-2001) H. Wehr, *A Dictionary of Modern Written Arabic*, edited by J. M. Cowan, 4th ed. (Ithaca, NY: Spoken Language Service, 1994)
(他は授業中に適宜、指示します。)

授業の計画:

以下のような順序で教科書に沿って授業を行う予定です。しかし授業の実際の進行を見て、項目の入れ替え、一部省略、変更もあり得ます。小テストを行う日も授業の進行を見て決めます。

- 第一回目~二回目: 文字, 発音
- 第三回目~六回目: 名詞と簡単な文(「AはBです」など)
- 第七回目: 不規則複数
- 第八回目: 人称代名詞
- 第九回目: 前置詞
- 第十回目: 指示代名詞
- 第十一回目: 形容詞
- 第十二回目: 動詞完了形
- 第十三回目: 期末試験

履修者へのコメント:

最初は文字を書いたりしながら、アラビア語の世界に親しんでいきましょう。なるべく休まずに出席して下さい。

成績評価方法:

試験の結果による評価(学期中に二回ほど小テスト、最後の授業に期末テストを行う予定です。)

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

基本的に授業の後に受け付けます。

アラビア語基礎 (秋)
文法入門 2

言語文化研究所 教授 野元 晋

授業科目の内容:

「アラビア語基礎 I」のいわば続編にあたるコースです。今回は未完了形から始めて派生形までの動詞を中心に、アラビア語の辞書を引ながら文章を読むための、また会話のための文法知識を身につけていきます。時間に余裕があれば最後に簡単な読み物に挑戦したいとも考えています。

テキスト:

佐々木淑子『新版アラビア語入門』(翔文社, 2005)

参考書:

本田孝一, 石黒忠昭編『パスポート初級アラビア語辞典』(白水社, 1997-2001) H. Wehr, *A Dictionary of Modern Written Arabic*, edited by J. M. Cowan, 4th ed. (Ithaca, NY: Spoken Language Service, 1994)
(他は授業中に適宜、指示します。)

授業の計画:

以下のような順序で教科書に沿って授業を行う予定です。しかし授業の実際の進行を見て、項目の入れ替え、一部省略、変更もあり得ます。小テストを行う日も授業の進行を見て決めます。

- 第1回目: 動詞未完了形
- 第2回目: 受動態
- 第3回目: 分詞・動名詞・場所名詞・道具名詞
- 第4回目: Be 動詞 Kana と否定動詞 laysa
- 第5回目~7回目: 不規則動詞
- 第8回目: 関係代名詞
- 第9回目~10回目: 派生形
- 第11回目: 様々な文の形(条件文・that 構文など)
(調整回を一回程度)
- 最終日: 期末試験

履修者へのコメント:

春学期の「アラビア語基礎 I」を履修し修了したか、あるいは同等の文法の知識を習得していることが履修の前提条件です。「アラビア語基礎 I」未履修者は最初の授業のとき、担当教員と相談して下さい。

成績評価方法:

試験の結果による評価(学期中に二回ほど小テスト、最後の授業に期末テストを行う予定です。)

平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

基本的に授業の後に受け付けます。

アラビア語現代文講読 (春)
アラビア語現代文講読 (秋)

言語文化研究所 講師 榮谷 温子

授業科目の内容:

基礎文法の習得を終えた人を対象として現代文の講読を行います。講読を通して、アラビア語の基本的な文章構造の理解、さらには母音記号などの補助記号がついていない文章にたいする読解力の養成を目的とします。

テキスト:

プリントを配布します。

参考書:

- ・佐々木淑子著『アラビア語入門』(翔文社)
- ・黒柳恒男・飯森嘉助『現代アラビア語入門』(大学書林)

授業の計画:

初回には、辞書や文法書、授業の進め方を説明します。最初は母音記号のついた平易な文章からはじめます。順次程度の高い文章の講読をしていき、最終的には母音記号のついていない文章を、自らの文法知識を用いて読解できるようにしたいと思います。

(春) 第1回 第6回 母音記号がついた平易な短い物語の講読。

第7回 第13回 母音記号がついた長い文章を講読。

(秋) 第1回 第13回 要所のみ母音記号がついた文章から、最終的には母音記号がつかない文章の講読。

履修者へのコメント:

文法の復習を繰り返しながら文章をよみます。辞書と文法書を必ずもってきてください。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

アラビア語古典 (春)	
アラビア語古典 (秋)	
アラビア語講読	言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

母音符号のついていない普通のアラビア語テキストを読めるようになるための演習です。文法の知識をテキスト読みにどう生かすかを課題としてやります。

テキスト:

Brünnow-Fischer: Arabische Chrestomathie
プリントで配ります

参考書:

井筒俊彦: アラビア語入門, 慶應出版社 1950.

授業の計画:

最初の日, 参考書や辞書の紹介などガイダンスをやりませう。

春学期の間は母音符号が全部ついているテキストを読みます。秋学期から少しずつ白文に近いものを読み始め学年末には全くの白文を読むようにしましょうと思います。

なお, 受講者は毎時必ず自分の勉強した文法書を持参して下さい。常に文法との対比でテキスト読みを進めてゆくつもりです。

履修者へのコメント:

少くとも規則動詞原型の完了, 未完了の変化は完全に頭へたたきこんでくること。文字も満足に読めないなどは論外です。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席者は毎回必ずあてます。テストがわりです。)

アラビア語文献講読 (春)	
アラビア語文献講読 (秋)	
アラビア語演習	言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

アラビア語の定評ある古典の中, 平易な散文 (叙事の文) をあたりまえに読めるようになることを目指します。

テキスト:

受講者と相談して決めます。

参考書:

Wright: Arabic grammar. Cambridge Univ. Press, 1962

授業の計画:

第1回はガイダンスで, 参考文献, 辞書の使い分けのやり方などを話します。

2回目以降はもっぱらテキスト読みに専念します。

なお, 対象が古典ですから, 単に文法的に調べるだけでは問題が解決しない場合が多々あります。そういう時に何を調べるかというようなことも考えてゆきたいと思ひます。

履修者へのコメント:

初等文法の諸規則や用語に慣れておくことが必要です。動詞変化の基本をマスターしていること。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席者は毎回必ずあてますから, そのつもりで来て下さい。)

ヴェトナム語初級 (春)	
ヴェトナム語初級 (秋)	
	言語文化研究所 教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

簡単なヴェトナム語が読めるようになることを目指します。前期は, 下記の教科書を用いて, 発音, 基礎文法, 基礎会話を学びます。

テキスト:

三上直光『ニューエクスプレス ベトナム語』(白水社, 2007年)

授業の計画:

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語中級 (春)	
ヴェトナム語中級 (秋)	
	言語文化研究所 教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

新聞記事程度のヴェトナム語が読めるようになることを目指します。前期は基礎的な文章を読みます。後期は, ウェブ上のヴェトナム語の新聞から面白そうな記事を拾って読みます。

テキスト:

初回に受講者と相談して決めます。

参考書:

小高泰・Nguyen Thi Mai Hoa『会話で覚えるベトナム語 666』(東洋書店, 2005年)

授業の計画:

初回のガイダンスで知らせます。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ヴェトナム語文献講読 (春)	
ヴェトナム語文献講読 (秋)	
	言語文化研究所 教授 嶋尾 稔

授業科目の内容:

ヴェトナム語で書かれた学術論文を読みます。あるいは, もし希望者がいればチューノムで書かれたヴェトナム語の文章に挑戦します。

テキスト:

初回に受講者と相談して決めます。

参考書:

富田健次『ヴェトナム語の世界: ヴェトナム語基本文典』(大学書林, 2000年)

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価

ペルシア語初級 (春)	
ペルシア語初級 (秋)	
ペルシア語文法	言語文化研究所 講師 関 喜房

授業科目の内容:

現代ペルシア語文法を全くの初歩から講義します。教科書の文法が終わり次第, 易しい文章を読むつもりです。その際, 文法書には記されていない文法上の例外事項などについて詳しく説明するつもりです。

テキスト:

岡崎正孝著『基礎ペルシア語』(大学書林)

参考書:

黒柳恒男著『ペルシア語の話』(大学書林)

授業の計画:

講義計画は以下の通りです。

- 1 - ガイダンス
- 2 - 文字の習得
- 3 - 教科書を用いた文法の学習 (計 16 回)
- 4 - 易しい現代文を読む練習 (計 7 回)
- 5 - テスト

履修者へのコメント:

教科書の練習問題を必ず予習すること。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

ペルシア語中級 (春)	
ペルシア語中級 (秋)	
ペルシア語講読	言語文化研究所 講師 岩見 隆

授業科目の内容:

ペルシア語の文の流れをつかみとれるように, 平易なペルシア語散文をできるだけたくさん読みます。

テキスト:

受講する人と相談して決めます。

参考書:

Lambton: Persian grammar. Cambridge Univ. Press, 1974

授業の計画:

最初の日にはテキストを相談して決めるなどガイダンスをやりませう。

2回目以後はひたすらテキストを読みます。

履修者へのコメント:

文法は理解しているものと考えてやります。だから動詞の変化など慣れておいて下さい。発音にはとくに気をつけて下さい。

成績評価方法:

平常点: 出席状況および授業態度による評価 (出席者は毎回あてますから, 毎回テストを受けているようなものだと思って来て下さい。)

タイ語初級 (春)	
タイ語初級 (秋)	
	言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容:

タイ語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の修得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

タイ語中級 (春)

タイ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 ボンシー、ライト

授業科目の内容：

タイの小学校二年生の教科書より短編ストーリーを用いて、タイ語の運用能力向上を目指します。

テキスト：

プリント使用。

授業の計画：

前期は文章表現と読解力、後期は会話表現と聞き取りに重点を置きます。

履修者へのコメント：

あらかじめ単語の意味を調べてきて下さい

成績評価方法：

・試験の結果による評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

トルコ語初級 (春)

トルコ語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 齋藤 久美子

授業科目の内容：

トルコ語の基礎文法の習得を目指します。

テキスト：

東京外国語大学トルコ語専攻編『トルコ語 文法の基礎(新版)』(1,211円)

授業の計画：

(春) 初回の授業で辞書や参考書について説明します。

第2回 - 5回 文字と発音, 母音と子音, 名詞, 形容詞, 単数と複数, 人称代名詞と連辞

第6回 - 13回 動詞, 格助詞, 所有接尾辞, 存在文と所有文

(秋) 第1回 - 5回 動詞, 代名詞と指示詞, 後置詞

第6回 - 13回 動名詞, 副動詞, 形動詞, 接続表現, 複合時制

成績評価方法：

試験の結果による評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

トルコ語中級 (春)

トルコ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 齋藤 久美子

授業科目の内容：

基礎文法を学んだ人を対象としてトルコ語のテキストを講読します。

テキスト：

初回の授業で受講者と相談して決めます。

授業の計画：

トルコ語のテキストを講読します。文法事項を細かく確認しながら授業を進めます。

履修者へのコメント：

予習が必要です。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

朝鮮語文献講読 (春)

朝鮮語文献講読 (秋)

文学部 教授 野村 伸一

授業科目の内容：

朝鮮半島の歴史と社会を知るための授業です。

ふたつのことをめざします。ひとつは現代韓国社会の視点を学ぶことです。もうひとつは朝鮮の文化史を内外からみることです。

テキスト：

上記の目的にかなう素材として『ハンギョレ 21』に掲載されている連載コラムを取りあげます。ひとつは, 안대희의 조선의 비주류 인생, もうひとつは 박노자의 거꾸로 본 고대사です。前者は主として朝鮮王朝時代の社会史に関連するものです。後者は古代史を素材として朝鮮半島の位相を的確に述べていく文章です。いずれもウェブサイト上で公開されています。そのバックナンバーのなかから、2009年度のものを中心に選び、keio.jp 上に掲載します(3月なかごろ掲載予定)。受講者は各自、ダウンロードして授業に臨んでください。

参考書：

野村伸一「翻訳の世界 - 朝鮮語と日本語のばあい」韓国・朝鮮文化研究会『韓国朝鮮の文化と社会』6, 風響社, 149 - 205 頁。

授業の計画：

毎回, 原文で4.5頁の講読をします。受講者は翻訳してきてください。

履修者へのコメント：

朝鮮語を読む準備ができていないことが前提となります。ここでは口頭での会話能力はとくに必要ありません。ひとまず日本語にした上で、なお、それをよく吟味してみてください。なかなか日本語にならないところ、明らかに違うとおもえる表現に出会うことがたいせつです。その上で理由を考えると、得るところ大です。

成績評価方法：

出席, 演習参加の度合いで評価します。

カンボジア語初級 (春)

カンボジア語初級 (秋)

言語文化研究所 教授 三上直光

授業科目の内容：

カンボジア語入門講座。発音, 文字の読み書き, 初級文法, 基本表現の習得を目標とします。

テキスト：

開講時に指示します。

授業の計画：

春学期の前半に発音と文字の読み書きを終え、後半から初級文法と基本表現の学習に移ります。

履修者へのコメント：

活気のある授業にしましょう。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業中・授業後に受け付けます。

ヘブライ語初級 (春)

ヘブライ語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容：

旧約聖書ヘブライ語の文法を初歩から学びます。

基本的な文法事項を学習したうえで、簡単な講読も行います。

テキスト：

小脇光男『聖書ヘブライ語文法』(青山社, 2001年)

参考書：

開講時に指示します。

授業の計画：

(春) 1 - 2 文字, 発音, 母音記号

3 - 6 名詞・形容詞, 前置詞, 関係詞・名詞文など

7 - 13 動詞カル形(完了形・未完了形, 不定詞, 分詞その他)

(秋) 1 - 13 動詞の派生形(ビエル, ヒトバエル, ニフアル, ヒフイル, オファル, プアル), 散文テキストの講読

履修者へのコメント：

練習問題の予習が必要となります。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

質問・相談があれば anisinin@gmail.com に連絡して下さい。

ヘブライ語中級 (春)

ヘブライ語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井啓介

授業科目の内容：

旧約聖書の散文を講読します。ルツ記及び士師記を読む予定です。

テキスト：

プリントを配布します。

参考書：

開講時に指示します。

授業の計画：

初回はガイダンスをやりませう。

2回目以降はテキストをどんどん読んでいきます。

履修者へのコメント：

初級文法を一通り習得していることが必要となります。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

質問・相談があれば anisinin@gmail.com に連絡して下さい。

古代エジプト語初級 (春)

古代エジプト語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川 博一

授業科目の内容：

文法体系が比較的良好に分かっている後期エジプト語の初歩。まったくの初心者想定している。

テキスト：

テキストは「ヴェナモン」を用いるが、プリントを授業で配布する。

参考書：

5月ごろから辞書(約¥9000)が必要となるが、それについては授業で案内する。

授業の計画：

まとめて文法をやることはしない。最初からテキストを読みつつ、出てくる文法的現象をそのたびに解説する。1年終了するころには、後期エジプト語を辞書の助けを借りてある程度自由に読めるようになっているのが目標である。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント：

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

古代エジプト語中級 (春)

古代エジプト語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 笈川 博一

授業科目の内容：

中期エジプト語の初歩。

テキスト：

テキストは受講者と相談して決める。

授業の計画：

初級でやった後期エジプト語と対比しつつ、より困難な中期エジプト語を学ぶ。進度は学生諸君の準備次第である。

履修者へのコメント：

週2時間程度の予習が必要となる。

成績評価方法：

試験の結果による評価

質問・相談：

質問、相談があれば、hiroказu@oikawa42.com に連絡すること。

アッカド語初級 (春)

アッカド語初級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井 啓介

授業科目の内容：

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

参考書：

開講時に指示します。

授業の計画：

以下のようなスケジュールを予定しています。

前後期を通じて

1. ガイダンス
2. アッカド語及びその文字表記システムの概観
3. 音韻論
4. 名詞 コンストラクト形を中心に
5. 動詞 G 語幹とその派生形
6. 動詞 D 語幹とその派生形
7. 動詞 S 語幹とその派生形
8. 動詞 N 語幹とその派生形

9. アッカド文学の概観

10. ハンムラビ法典などのテキストを読みつつ文法事項を確認します。

履修者へのコメント：

古代メソポタミアの文化、歴史、宗教についても適宜紹介していくつもりです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば anisinin@gmail.com まで連絡してください。

アッカド語中級 (春)

アッカド語中級 (秋)

言語文化研究所 講師 高井 啓介

授業科目の内容：

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめているいろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

テキスト：

テキストはプリントを準備します。

授業の計画：

読むテキストについては、初回に受講者と相談の上決定するつもりです。

履修者へのコメント：

楔形文字を読み解いて行く面白さを味わっていただきたいです。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

必要があれば anisinin@gmail.com まで連絡してください。

メディア・コミュニケーション研究所

所長（法学部教授） 大石 裕

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所について

メディア・コミュニケーション研究所は、1946年に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、1996年に創立50周年を迎えました。それを機に、名称もメディア・コミュニケーション研究所となりました。その背景には、放送が急速に発展し、新聞とともにマス・メディアの中心に位置するようになったこと、そしてインターネット時代を迎えるようになったことがあげられます。

新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマス・メディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

この目的は現在も継承されており、メディア・コミュニケーション研究所は、新聞、放送、通信社、出版、広告などのマス・メディア業界に就職を希望する学生のための教育機関として大きな役割を果たしてきました。また、メディアやコミュニケーションについて、教員と学生（この研究所では研究生と呼ばれています）が研究を進める機関でもあります。

実は、私も1979年にこの研究所（新聞研究所）を修了しました。私の研究生時代、研究所の規模は小さく、専任や非常勤の先生方に公私にわたって大変お世話になりました。文章作法では自分の作文力のなさを、研究会では基礎概念の理解不足を実感させられました。でも、そうした経験は、今貴重な財産になっています。現在の研究生も、私と同じような経験をしていることでしょう。

この研究所は、名前をあげれば誰でも知っているような著名なジャーナリストやメディア業界で活躍する人材を数多く輩出してきました。また、それほど目立たなくても個性的で優れた仕事をしているジャーナリスト、そしてマス・メディア企業の経営者になった修了生も多数います。こうした伝統は脈々と受け継がれています。もちろん、すべての修了生が、マス・メディアやその関連業界に進むわけではありません。しかし、この研究所で学んだこと、そして人とのつながりは、必ずやマス・メディア業界以外でも様々な形で生かされていくはずです。

研究生たちは今、従来型のマス・メディアだけでなく、様々なメディアを通じて情報を入手し、それを処理・加工し、情報発信をしています。でもその基本はやはり、入手した情報をもとに「考え」、そして「表現する」ことだと思います。特に、批判的に「考える」ことの重要性は、高度情報社会の今でも変わらないのは当然です。その力をぜひ、この研究所で磨くようにしてください。そして、その成果を社会に還元するようにして下さい。それが私の心からの期待であり、希望です。

カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の4つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱いは、学部履修要項を熟読すること。

・基礎科目（オープン科目）

メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。

・研究会（研究生のみ対象）

研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。

・特殊研究（研究生のみ対象）

少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。

・基礎演習（研究生のみ対象）

メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならず、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

(1) 入所説明会（入所申込書配布）10月下旬～11月中旬に三田、日吉、藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。

(2) 入所試験（選考）12月6日（日）に三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

・基礎科目	10 単位以上
・研究会	8 単位以上
・特殊研究	4 単位以上
・基礎演習	2 単位以上
合計	28 単位以上

[平成21年度2年生から以下の修了単位を適用]

・基礎科目	8 単位以上
・研究会	8 単位以上
・特殊研究	4 単位以上
・基礎演習	4 単位以上
合計	28 単位以上

2～4年の春学期までに研究会 ～ を順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会（論文指導）を履修すること。すなわち、「研究会 ～ と研究会 は全員が履修するが、研究会 と は必修ではない。」

3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成 21 年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所開設科目一覧

* 基礎科目（オープン科目） 研究生以外も履修可能

設置場所	科目名	単位数	講師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史 ・（法学部併設）	春2/秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論 ・（法学部併設）	春2/秋2	内藤 耕
三田設置科目	メディア社会論（法学部併設）	春2	遠藤 薫
三田設置科目	メディア法制	春2	山田 健太
三田設置科目	ジャーナリズム論	春2	烏谷 昌幸
三田設置科目	ジャーナリズム論	秋2	伊藤 高史
三田設置科目	世論 ・	春2/秋2	井田 正道
三田設置科目	情報行動論 ・	春2/秋2	小城 英子
三田設置科目	異文化間コミュニケーション ・	春2/秋2	藤田 結子
三田設置科目	メディア文化論 ・	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	メディア産業と政策	春2	菅谷 実
三田設置科目	メディア産業と政策	秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座（朝日新聞寄附講座）	春2	千葉・大石・伊藤
三田設置科目	ジャーナリズム総合講座（朝日新聞寄附講座）	秋2	嶋田・大石・伊藤
三田設置科目	コミュニケーション調査法	春2	有馬 明恵
三田設置科目	コミュニケーション調査法	秋2	金山 智子
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 テレビメディア論 ・	春2/秋2	池貝・根本・菅谷・豊嶋
三田設置科目	毎日コミュニケーションズ寄附講座 ・ メディアの再編	春2/秋2	河内 孝

* 研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	小川 葉子
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	大石 裕
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	李 光鎬
三田設置科目	研究会（～）	春2/秋2	金 正勲
三田設置科目	研究会（～） 2年生のみ募集	春2/秋2	豊嶋 基暢
三田設置科目	研究会（～） 2年生のみ募集	春2/秋2	藤田 結子

* 特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義	春2	中村 美子
三田設置科目	放送特殊講義	秋2	横山 滋
三田設置科目	フジテレビ寄附講座 特殊研究 ・（テレビ・ジャーナリズム）	春2/秋2	安倍 宏行
三田設置科目	新聞特殊講義 ・	春2/秋2	長谷部 剛
三田設置科目	広告特殊講義 ・	春2/秋2	小山 雅史
三田設置科目	メディア特殊講義	春2	坪田 知己
三田設置科目	メディア特殊講義	秋2	渡辺真由子
三田設置科目	特殊研究 ・（日本の近代化とマス・メディア）	春2/秋2	小川 浩一
三田設置科目	特殊研究（通信・放送法制の現状と今後）	春2	豊嶋 基暢
三田設置科目	特殊研究（若者文化とメディア）	秋2	藤田 結子
三田設置科目	メディア産業実習 ・	春2/秋2	豊嶋・菅谷・藤田

* 基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語 ・	春2/秋2	宮川美樹子
三田設置科目	文章作法 ・	春2/秋2	稲井田 茂
三田設置科目	取材論 ・	春2/秋2	臼井 敏男
三田設置科目	時事問題 ・	春2/秋2	箕輪 幸人
三田設置科目	映像コンテンツ制作	春2	金山 智子
三田設置科目	映像コンテンツ制作	秋2	杉沼・田辺
三田設置科目	メディア・ネットワーク実習 ・	春2/秋2	田辺 浩介

印に関しては、大学院法学研究科政治学専攻修士課程ジャーナリズム・コースの大学院生が履修する場合があります。

【基礎科目】

マス・コミュニケーション論 (春)	
マス・コミュニケーションと政治	大石 裕

授業科目の内容:

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト:

大石裕「コミュニケーション研究(第2版)」(慶應義塾大学出版会)

参考書:

- ・マッコムズほか「ニュース・メディアと世論」(関西大学出版部)
- ・大石裕「政治コミュニケーション」(勁草書房)
- ・大石裕編「ジャーナリズムと権力」(世界思想社)

授業の計画:

1回	コミュニケーションの種類
2 3回	大衆社会モデル:弾丸効果モデル
4 5回	限定効果モデル
6 7回	強力効果モデル
8 9回	強力影響・機能モデル
10回	批判モデル
11 12回	ジャーナリズム論再考

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論 (秋)	
ジャーナリズムとメディア言説	大石 裕

授業科目の内容:

ジャーナリズムに関する理論的考察(ニュース論や客観報道論など)、言説分析によるニュース分析、メディア・イベントとメディア言説、に関して講義する。

テキスト:

- ・大石裕「ジャーナリズムとメディア言説」(勁草書房)
- ・大石裕編「ジャーナリズムと権力」(世界思想社)

参考書:

- ・大石裕ほか「現代ニュース論」(有斐閣)
- ・大石裕「政治コミュニケーション」(勁草書房)
- ・大石裕・山本信人編「メディア・ナショナリズムのゆくえ」(朝日新聞社)
- ・大石裕編「ジャーナリズムと権力」(世界思想社)
- ・小林直毅編『「水俣」の言説と表象』(藤原書店)

授業の計画:

1 2回	マス・コミュニケーション論の中のジャーナリズム論
3回	アジェンダ設定メディアとしての新聞
4回	日本のジャーナリズム論の理論的課題
5 6回	ニュース分析の視点
7 8回	客観報道論再考
9 10回	集合的記憶とマス・メディア
11 12回	メディア・イベントの政治学

履修者へのコメント:

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接することが望ましい。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史 (春)	
歴史(過去)との対話	大井 眞二

授業科目の内容:

以下の項目を「日本」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 不偏不党の「日本型」ジャーナリズム

テキスト:

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書:

- ・大井眞二他編「現代ジャーナリズムを学ぶ人のために」(世界思想社)
- ・大井眞二責任編集「メディアの変貌と未来」(八千代出版社)

授業の計画:

次の講義計画で講義を行います。

1. ガイダンス(1回)
2. 研究文献、先行研究の解題(1回)
3. 幕末維新期の新聞(計3回)
4. 明治政府の言論政策(計3回)
5. 政治ジャーナリズム(計3回)
6. 不偏不党のジャーナリズム(計2回)

履修者へのコメント:

テキストを使用しないため、ノートテキングの仕方を工夫してください。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)

質問・相談:

授業の折に、受け付ける。また、適宜、機会を設ける。

マス・コミュニケーション発達史 (秋)	
歴史(過去)との対話	大井 眞二

授業科目の内容:

以下の項目を「外国」をコンテキストにおいて講ずる。

1. 近代社会とジャーナリズム
2. 近代都市空間とメディア
3. 政治とジャーナリズム
4. 言論出版の自由
5. ジャーナリズムの機能
6. 比較ジャーナリズム史

テキスト:

特に指定しません。適宜講義資料プリントを配布します。

参考書:

- ・大井眞二他編「現代ジャーナリズムを学ぶ人のために」(世界思想社)
- ・大井眞二責任編集「メディアの変貌と未来」(八千代出版社)

授業の計画:

1. ガイダンス(1回)
2. 研究文献、先行研究の解題(1回)
3. ヨーロッパ近代と新聞(計3回)
4. 党派的ジャーナリズムの位相(計3回)
5. 商業ジャーナリズムと公共圏(計3回)
6. 客観性とジャーナリズム(計2回)

履修者へのコメント:

テキストを使用しないため、ノートテキングの仕方を工夫してください。

成績評価方法:

- ・学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価
- ・平常点(出席状況および授業態度による評価)

質問・相談:

授業の折に、受け付ける。また、適宜、機会を設ける。

国際コミュニケーション論 (春)	
国際報道の現状とニュースの流れの構造	内藤 耕

授業科目の内容:

本講義では国際コミュニケーションを諸国家間のコミュニケーションおよび国境を相対化するグローバル・コミュニケーションをめぐる問題構成としてとらえていきます。とくに、では、イラク戦争でクローズアップされた、戦争報道を中心とした国際報道の現状と問題点を考えていきます。戦争報道の歴史の変遷から始まって、報道を支えるシステムのはらむ問題やニュースの国際的な流れの構造にいたるまで概観していきます。事例研究と理論的議論をセットにして紹介します。あまり明るい話はできませんが、「世界」に対する批判的精神を養うと同時に、むしろ受講生自身の力でオルタナティブな道を見つけていただけるような問題提起ができればと思っています。

テキスト:

- ・特に指定しません。
- ・講義資料プリントは URL <http://www.hum.u-tokai.ac.jp/~tagayas/> からダウンロードできます。

授業の計画:

1. ガイダンス(学年歴によっては初回を休講とせざるを得ないので、掲示に留意してください)
2. 戦争報道の検証(1)
3. 戦争報道の検証(2)
4. 外交と報道
5. イスラム報道/アジア報道の構造
6. ナショナル・アイデンティティと報道
7. ニュースの流れの構造とその要因(1)
8. ニュースの流れの構造とその要因(2)
9. 通信社の役割と問題点

- 10. NWICOの理想と現実
- 11. 権威主義体制下のメディアと民主化
- 12. まとめ：メディア帝国主義論とその課題

なお、授業はパワーポイントを用いて行います。

履修者へのコメント：

あまり講師の話をするのみにしないで、講義といえども果敢に「？」を投げつけてきてください(ただし授業の流れは妨げないで)。十分対応できるかどうかは保証できませんが、できるかぎり誠実に対処するつもりです。

成績評価方法：

授業内試験の結果による評価

質問・相談：

原則として毎回の授業終了時をお願いします。

国際コミュニケーション論 (秋)

メディアのグローバル化と文化摩擦 内藤 耕

授業科目の内容：

グローバル化しつつあるメディアの現状とそれをめぐる問題について多面的に解説を試みます。講義は大きく二つに分かれ、前半が資本、コンテンツの流通等の側面からの分析となります。メディア資本の世界戦略、アジアにおける日本製アニメやテレビ番組の流通と受容などの事例を取り上げます。後半は、政策論として、文化交流政策と開発コミュニケーションについて概観していきます。受容する側の「したたかさ」についても理解できればと思います。全体的に、日本との関係、それから授業担当者の専攻領域の都合により、アジアの事例を多く取り上げるようになるでしょう。対象の性格上、春学期の内容と一部重複する部分があるかもしれませんが、を受講している必要はありません。

テキスト：

- ・特に指定しません。
- ・講義資料プリントは URL <http://www.hum.u-tokai.ac.jp/~tagayasu/> からダウンロードできます。

参考書：

授業時に適宜指示します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 理論的枠組：ソフトパワーと文化帝国主義
3. 国際メディア資本の展開
4. アメリカナイゼーションとコンテンツ
5. 日本のコンテンツの海外流通
6. コンテンツ流通とローカリゼーション：アジアの例から 1
7. コンテンツ流通とローカリゼーション：アジアの例から 2
8. 補論：ディアスポラのコミュニケーション
9. 文化交流政策の現状と課題 1
10. 文化交流政策の現状と課題 2
11. 開発政策のなかのメディア 1
12. 開発政策のなかのメディア 2
13. まとめ

授業はパワーポイントを用いて行います。

履修者へのコメント：

どっちがいいとか悪いとか善悪二元論的にはとらえきれない問題が多い領域ですが、現状から目をそらすことができないということと、どこかで自分たちの問題として引き受けてもらえればと思います。

成績評価方法：

学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価

質問・相談：

原則として毎回の授業終了時をお願いします。

メディア社会論 (春)

情報グローバル化と文化変容 遠藤 薫

授業科目の内容：

メディアとは人間/社会にとって何であるのか、という根元的問いをふまえて、グローバル・メディアの行き渡った社会における文化と個人の意識を考察する。

テキスト：

- ・遠藤薫「グローバル化と文化変容」(世界思想社, 2007年)
- ・遠藤薫「ネットメディアと コミュニティ 形成」(東京電機大学出版局, 2008年)

参考書：

- ・遠藤薫「間メディア社会と 世論 形成」(東京電機大学出版局, 2007年)
- ・遠藤薫「インターネットと 世論 形成」(東京電機大学出版局, 2004年)
- ・遠藤薫「電子社会論」(実教出版, 2000年)

授業の計画：

1. 社会とメディア
2. メディアとは何か
3. 現代メディア文化の諸相(1)
4. 現代メディア文化の諸相(2)
5. 現代メディア文化の諸相(3)
6. 現代メディア文化の諸相(4)

7. 現代メディア文化の諸相(5)
8. 現代メディア文化の諸相(6)
9. 現代メディア文化の諸相(7)
10. 現代メディア文化の諸相(8)
11. 文化の時代としての現代
12. メディア複合文化の諸相
13. メディア複合と社会構造の変容

成績評価方法：

学期末試験(定期試験期間内の試験)の結果による評価

メディア法制 (春)

山田 健太

授業科目の内容：

表現の自由、メディアに関わる法体系を概観するとともに、ジャーナリズムの諸問題を法的側面からアプローチする。必要に応じ、ジャーナリズムを支えるメディア産業制度、メディア政策、およびメディア・ジャーナリストの倫理問題についても触れる。ただし、事前に法律的専門知識は不要。履修者数にもよるが、原則、講義形式で進める。

テキスト：

山田健太「法とジャーナリズム」(学陽書房)

参考書：

教室で指示

授業の計画：

おおよそ以下の項目に分けて講義を進めるが、発生ニュース等によって順序や講義の力点が異なることになる。

1. 表現の自由の歴史
2. メディアの自由(取材・報道の自由)
3. プレスの公共性と特恵的待遇
4. 情報化社会と知る権利
5. 立法・司法情報へのアクセス
6. 情報流通・頒布の自由
7. 放送の自由と放送政策
8. ネット上の表現の自由
9. 著作権と文化の保護

成績評価方法：

*履修者数によって変更があり得る。

・平常点：出席状況および授業態度による評価

ジャーナリズム論 (春)

烏谷 昌幸

授業科目の内容：

多様な社会問題を事例としながら、ニュース報道の社会的役割、影響、意義、問題点について考えることを目的とします。また、比較的長い時間をかけて社会問題の全体像や知られざる核心部分に迫ろうとするドキュメンタリー映像、ノン・フィクション作品が持つ可能性についても考えてみたいと思います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- 大石裕 「新・コミュニケーション論」(慶應義塾大学出版会, 2006年)
 - 柏倉康夫 「マスコミの倫理学」(丸善株式会社, 2002年)
- その他重要な文献については授業内で紹介します

授業の計画：

1. ガイダンス：ジャーナリズムと現実/社会的現実
2. 報道の社会的影響(1)
3. 報道の社会的影響(2)
4. 報道の枠組み(1)
5. 報道の枠組み(2)
6. 職業倫理と一般道徳(1)
7. 職業倫理と一般道徳(2)
8. 報道被害
9. 報道写真の可能性
10. ドキュメンタリーの可能性
11. ノン・フィクションの世界(1)
12. ノン・フィクションの世界(2)
13. 試験

*内容や順番が入れ替えることがあります。

履修者へのコメント：

最近、ノン・フィクション作品、ドキュメンタリー映像、報道写真の魅力を表現するための言葉を搾り出すことに腐心しています。こうした分野に興味のある方、歓迎します。

成績評価方法：

・試験の結果による評価(学期末に論述形式の試験を行います。持ち込みは可です。)

・平常点：出席状況および授業態度による評価

(可能な限り映像視聴を行います。映像についての感想及びコメントを提出してもらった場合、必ず平常点の一部にカウントします。)

ジャーナリズム論 (秋)

ジャーナリズムと権力：法社会学・政治社会学の観点から
伊藤高史

授業科目の内容：

法社会学と政治社会学の観点から、ジャーナリズムと権力の関係を考察します。

テキスト：

伊藤高史『「表現の自由」の社会学』（八千代出版、2,600円税別）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. ジャーナリズムと「表現の自由」
3. ジャーナリズムと国家権力の関係を考えるための理論
4. 報道による人権侵害
5. 報道による人権侵害
6. 報道による人権侵害
7. 外交政策とジャーナリズム
8. 外交政策とジャーナリズム
9. 外交政策とジャーナリズム
10. スポーツ・ジャーナリズム
11. 情報源の保護
12. 情報源の保護
13. 試験

履修者へのコメント：

毎回小テストを行う予定です。
遅刻・欠席が成績に反映されると考えてください。

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価（持ち込みは教科書やノートなど可です）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（毎回、小テストを行います）

世論 (春)

世論調査結果からみる現代社会
井田正道

授業科目の内容：

はじめに世論調査の方法とデータ分析の手法について理解し、さらに世論調査の分析結果から現代の政治と社会を理解する。

テキスト：

井田正道「政治・社会意識の現在 自民党一党優位の終焉と格差社会」（北樹出版、2008年）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 世論調査の技法
3. データ分析の手法（1）
4. データ分析の手法（2）
5. 世論の形成過程
6. アメリカ人の世論と投票行動
7. 日本人の世論と投票行動
8. 先進諸国における政党 有権者関係の衰退
9. 55年体制と世論
10. 二大政党制と世論
11. 格差社会論と世論（1）
12. 格差社会論と世論（2）
13. まとめ

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

質問・相談：

授業時に受けます

世論 (秋)

日本人の世論 持続と変化
井田正道

授業科目の内容：

主として政治に関する日本人の世論の変化に焦点を当て、その変化が選挙過程・政治リーダーの選出過程および政策決定過程にどのような影響を及ぼしたかを考える。加えて、メディアの選挙報道にも言及する。

テキスト：

井田正道「日本政治の潮流」（北樹出版、2007年）

参考書：

鈴木哲夫「政党が操る選挙報道」（集英社、2007年）
NHK放送文化研究所「現代日本人の意識構造 第6版」（日本放送出版協会、2004年）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 世論調査結果にみる日本人の変化 “緑”の崩壊？
3. 世論と政治 政治の大統領制について
4. 政権と世論 内閣支持率の変遷
5. 政党と世論 政党支持率の変遷

6. 選挙と世論（1） 世論調査と出口調査
7. 選挙と世論（2） 小泉政権期の選挙と世論
8. 選挙と世論（3） 安倍政権と参院選
9. 選挙と世論（4） 2009年総選挙に表れた世論
10. 政策と世論 構造改革と世論
11. 選挙報道の実態と課題
12. 選挙報道と世論 - 政党のコミュニケーション戦略について
13. まとめ

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価

質問・相談：

授業時に受けます

情報行動論 (春)

マス・メディアと受け手の相互作用
小城英子

授業科目の内容：

私たちは、マス・メディアから多大な影響を受けています。従来のマス・コミュニケーション研究も、一方向コミュニケーションを前提とした理論が主流です。しかし、実は、受け手の方も能動的に関与し、当該イベントをセンセーショナルに煽ったり、流行現象を作り出したりしています。本講義では、「劇場型犯罪」と「ファン心理」を切り口に、マス・メディアと受け手の相互作用を学びます。

テキスト：

特になし。適宜資料を配布し、参考文献を紹介します。

参考書：

小城英子『「劇場型犯罪」とマス・コミュニケーション』（ナカニシヤ出版、2004年）
松井豊『ファンとブームの社会心理』（サイエンス社、1994年）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 劇場型犯罪（1）劇場型犯罪とマス・メディア
3. 劇場型犯罪（2）事例
4. 劇場型犯罪（3）犯人像形成メカニズムの分析 識者によるプロファイリング
5. 劇場型犯罪（4）犯人像形成メカニズムの分析 目撃証言
6. ファン心理（1）ファン心理の構造
7. ファン心理（2）プロ野球ファン
8. ファン心理（3）アニメファンの心理 ディズニーとジブリ
9. ファン心理（4）アイドルファンの心理 親子ファンとオタク
10. ファン心理（5）カリスマモデルへの追従 vs マイナーファン
11. ファン心理（6）ファン心理が冷めるとき スキャンダルとファン離れ
12. 総括（1）
13. 総括（2）

履修者へのコメント：

身近なテーマをアカデミックに考えるトレーニングとしてください。全出席を原則とします。講義形式を基本としますが、ときどきアクション・ペーパーなどで関心や理解度などを尋ねますので、積極的に参加してください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

情報行動論 (秋)

不思議現象の心理学
小城英子

授業科目の内容：

UFO、超能力、占いなど、科学で説明できないような現象を「不思議現象」と呼びます。本講義では、不思議現象を信じる心理的メカニズム、不思議現象を信じる人と信じない人の違い、マス・コミュニケーションの影響などについて学びます。

テキスト：

特になし。適宜資料を配布し、参考文献を紹介します。

参考書：

菊池聡・谷口高士・宮元博章「不思議現象なぜ信じるのか」（北大路書房、1995年）
菊池聡・木下孝司「不思議現象 子どもの心と教育」（1997年）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 不思議現象を心理学で説明する
3. ブームとしての不思議現象
4. 不思議現象信奉に関する先行研究のレビューと問題点の整理
5. 不思議現象に対する態度の研究
6. 発達の視点から見た不思議現象に対する態度 - 高校生女子と大学生女子の比較
7. 科学か？不思議現象か？ 科学観と不思議現象に対する態度
8. 不思議現象とマス・コミュニケーション（1）不思議現象番組の歴史
9. 不思議現象とマス・コミュニケーション（2）番組の内容分析と視

聴者の反応の質的分析

10. 不思議現象とマス・コミュニケーション(3) テレビに対する態度・利用と満足研究
11. 不思議現象とマス・コミュニケーション(4) テレビに対する態度と不思議現象
12. 総括(1)
13. 総括(2)

履修者へのコメント:

不思議現象研究の最前線を紹介します。世俗的なテーマですが、アカデミックに理解する知的好奇心を要します。

講義形式を基本としますが、ときどき受講生を対象に調査を行い、その結果を授業内容に盛り込むなどして、現在進行形で進めていきます。全出席が原則です。積極的に参加してください。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価

異文化間コミュニケーション (春)

国境を越えるメディアとイメージ形成

藤田 結子

授業科目の内容:

この授業では、メディアの表象を通じた異文化間コミュニケーションに関する問題を考察していきます。とくに、国境を越えて流れる欧米・日本・アジアのテレビ番組や映画において、どのように異文化が描かれているのか、またそれがどのように人々の外国イメージ形成に影響を与えているのかについて考えます。

テキスト:

藤田結子「文化移民 越境する日本の若者とメディア」(新曜社, 2008年)

参考書:

授業時に指定します。

授業の計画:

1. イントロダクション
2. 文化・メディア帝国主義(計3回)
ディズニー映画やテレビドラマ『ダラス』によるアメリカ化について
3. グローバルな文化のフロア(計3回)
『東京ラブストーリー』『冬のソナタ』など国境を超えた大衆文化の流行の構造と意義について
4. オリエンタリズム(計3回)
『ライジング・サン』『キル・ビル』などハリウッド映画に描かれる日本人イメージを中心に
5. メディアの中の他者表象(計2回)
日本のテレビ番組、映画に描かれる「外国人」のステレオタイプの問題について
6. 総括

履修者へのコメント:

授業では、毎回、映像資料を用いて講義をする予定です。グループでの発表を割り当てるので、授業に出席できる学生に履修を勧めます。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価(発表をもとにした期末レポート 50%)
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(授業での発表・発言や感想メモによる評価 50%)

異文化間コミュニケーション (秋)

「ナショナル・アイデンティティ」と異文化間コミュニケーション

藤田 結子

授業科目の内容:

この授業では、異なる文化を持つ人々が、「直接的に」または「メディアを媒介して」接触するときに、どのように「ナショナル・アイデンティティ」を形成・再形成するのかという問題について考察します。とくに、「日本人らしさ」というものがどのように表わされてきたのか、また、それがどのように再定義・再形成されるのかについて考えます。

テキスト:

藤田結子「文化移民 越境する日本の若者とメディア」(新曜社, 2008年)

参考書:

授業中に指定します。

授業の計画:

1. イントロダクション
2. 「ナショナル・アイデンティティ」とは何か(計3回)
「ネイション」「ナショナル・アイデンティティ」「日本人らしさ」の意味について
3. 人種・民族関係とナショナル・アイデンティティ(計3回)
多民族社会における「白人」「黒人」「アジア人」「日本人」の関係を中心に
4. ジェンダーとナショナル・アイデンティティ(計3回)
「日本人女性」「日本人男性」というイメージの形成や影響について
5. 国境を越えるメディアとトランスナショナリズム(計2回)
国境を越えるテレビ番組やインターネットが人々のアイデンティティに与える影響について

6. 総括

履修者へのコメント:

海外に関心のある学生、多民族社会の問題に関心のある学生に受講を勧めます。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価(テキスト持ち込みによる期末試験 90%)
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(授業での発言や感想メモによる評価 10%)

メディア文化論 (春)

映画コンテンツとクロス・メディア研究

小川 葉子

授業科目の内容:

メディアやジャンルを横断するような映画の名作を視聴し、ディスカッションをおこなうことで、クリエイティブなメディア文化の担い手を養うことを目的とする。

教員の指定リストのなかから、履修者の希望をきいて、毎回映画の上映、ディスカッション、レポート(数回)をおこなう。

最後の数回は、履修者自身がぜひ観てもらいたい映画の上映と解説、最終グループ・プレゼンテーションを予定している。

テキスト:

小川葉子他編『グローバル化の社会学:循環するメディアと生命』(恒星社厚生閣, 2008年予定), その他, 授業中に指示する。

参考書:

授業中に指示する。

授業の計画:

1. ガイダンスおよび導入
2. エンタテインメントの歴史(2~14は適宜選択)
3. ニュース
4. 新聞とジャーナリズム
5. 人種とエスニシティの表象
6. ドキュメンタリー
7. フィルム・ノアル
8. ミュージカル
9. スリラーとサスペンス
10. 古典物語
11. ポストモダニズム
12. 北欧映画
13. アジアその他の地域の映画
14. 映画上映と履修者による最終グループ・プレゼンテーション(3回)

履修者へのコメント:

そののちのディスカッションを充実させるため、映画上映中のPC、携帯電話等の使用は控えて下さい。

成績評価方法:

- ・平常点(出席, 授業態度, およびプレゼンテーション)
- ・数回の小レポート

質問・相談:

授業終了後、あるいは、履修者に指示するオフィス・アワーか、事前のアポイントメントにより受け付けます。

メディア文化論 (秋)

映画コンテンツとクロス・メディア研究 : クリティカルな批評からクリエイティブな企画立案へ

小川 葉子

授業科目の内容:

既存の映画コンテンツの批判から、新たなクリエイティブ・コンテンツの企画・立案につながる創造的な思考のプロセスをシュミレートすることを目的とする。

グローバルイゼーションや、文化(財)行政、企業の社会的責任(CSR)も視野に入れつつ、セミ・ドキュメンタリー、音楽映画等の特定のジャンルのほか、SF、アニメ等の考察を対象とする。

とりわけ、映像ジャーナリズム、オペラ、古典芸能などの他のメディア・ジャンルとの相互作用に注目する。

テキスト:

小川葉子他編『グローバル化の社会学:循環するメディアと生命』(恒星社厚生閣, 2008年予定), その他, 授業中に指示する。ハリウッド映画ジャンルに関するボードウェルの邦訳も含む。

参考書:

授業中に指示する。

授業の計画:

1. ガイダンスおよび導入
2. グループ分けと作業手順の説明
3. セミ・ドキュメンタリーと音楽映画(3回)
4. 各班による上映映画の選択とプレゼンテーションと批評, コメント
5. 前回の批評・コメントに基づいたオルタナティブな企画案の作成(4, 5のペアにより各4回)
6. 最終レポートの作成とクリエイティブな思考プロセスの探索
7. 履修者個人へのフィードバックとまとめ

履修者へのコメント：

当該年度か前年度に「メディア文化論」(春)を履修しているか、あるいは映画を30本以前鑑賞している程度の知識を有していることを履修の前提とします。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(数回の授業小レポートおよび企画書)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(出席、授業態度、およびプレゼンテーション)

質問・相談：

授業終了後、あるいは、履修者に指示するオフィス・アワーか、事前のアポイントメントにより受け付けます。

メディア産業と政策 (春)

メディア政策基礎理論と映像産業政策 菅谷 実

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半は映画を中心とした映像コンテンツ産業の構造と政策を取り上げます。

テキスト：

菅谷・中村・内山編「映像コンテンツ産業とフィルム政策」(丸善、2009年3月刊予定)

授業の計画：

本年は以下の予定で講義を進めます。

オリエンテーション(1)

基礎理論(5)

1. メディア政策

2. 政府規制

3. メディア市場

映像コンテンツ産業(6)(テキストを使用)

4. 映像コンテンツと映画

5. 映画産業の発展

6. フィルム政策(欧州、北米、日本)

まとめ(1)

7. メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業、映画産業に興味ある学生の履修を歓迎します

成績評価方法：

- ・試験の結果による評価(基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する。)

質問・相談：

毎回講義終了時に質問、相談を受け付けます

メディア産業と政策 (秋)

通信・放送融合時代の情報通信政策 豊嶋 基暢

授業科目の内容：

通信・放送産業を中心としたメディア産業に関する政策の動向と今後の課題について学習していく。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画：

(1)オリエンテーション

(2)通信政策(5回程度)

NTTのあり方

インターネット政策

モバイルビジネス政策

電波政策

消費者行政

(3)放送政策(4回程度)

放送のデジタル化

NHKのあり方

CATVの今後

衛星放送の今後

(4)通信・放送産業を取り巻く政策(2回程度)

情報通信法の策定

コンテンツ流通促進

(5)まとめ

各回での講義テーマは政策動向に応じて変更することがあります。

講義内容により、政策担当者による講義を実施する予定。

履修者へのコメント：

情報通信政策に関心のある学生の履修を歓迎します。

授業ホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/~toyoshima/>)を参照のこと。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価。
- ・平常点：出席状況、授業毎のブログ投稿による平常点。

質問・相談：

質問は、メール(m-toyo@mediacom.keio.ac.jp)で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

ジャーナリズム総合講座 (朝日新聞寄附講座)(春)

報道とメディアに関心がある人のための実践的講座

千葉 光宏

大石 裕

伊藤 高史

授業科目の内容：

ジャーナリズムの存在意義、責任、課題などについて、現場で活躍されているジャーナリストや他の関係者を招いて講義していただく。

授業の計画：

具体的にお呼びする講師については、メディア・コミュニケーション研究所のホームページで、2009年4月までに発表する。

講義テーマとして、「ジャーナリズムの責任と課題」「新聞の取材、編集過程の実際」「報道と人権」「政治・経済報道の現場」などを予定。

履修者へのコメント：

- ・外部から講師をお招きするので、くれぐれも失礼のないように。私語、遅刻はもちろん厳禁。
- ・メディアコム生以外の履修も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(レポートを1,2回提出、2008年度は1回。)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(毎回、授業について、感想文を提出)

ジャーナリズム総合講座 (朝日新聞寄附講座)(秋)

報道とメディアに関心がある人のための実践的講座

大阿久 修

大石 裕

伊藤 高史

授業科目の内容：

ジャーナリズムの存在意義、責任、課題などについて、現場で活躍されているジャーナリストや他の関係者を招いて講義していただく。

授業の計画：

具体的にお呼びする講師については、メディア・コミュニケーション研究所のホームページで、2009年4月までに発表する。

講義テーマとして、「インターネット時代のジャーナリズム」「グローバル化と地域報道」「グローバル化時代の経済・環境報道」などを予定。

履修者へのコメント：

- ・外部から講師をお招きするので、くれぐれも失礼のないように。私語、遅刻はもちろん厳禁。
- ・メディアコム生以外の履修も歓迎する。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価(レポートを1,2回提出、2008年度は1回。)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価(毎回、授業について、感想文を提出)

コミュニケーション調査法 (春)

内容分析によるテレビ研究

有馬 明恵

授業科目の内容：

この授業では、マス・コミュニケーションの研究法の1つである「内容分析」について学びます。具体的には、(1)内容分析から分かること、(2)内容分析の手順、(3)データの整理と分析、(4)報告書の作成を講義と実習を通して習得していきます。なお、研究テーマは初回の授業時に担当教員から複数の候補を示し、履修者と協議の上決定します。

テキスト：

有馬明恵 「内容分析の方法」(ナカニシヤ出版、2007年)

参考書：

萩原滋編 「テレビニュースの世界像」(勁草書房、2007年)

萩原滋・国広陽子編 「テレビと外国イメージ」(勁草書房、2004年)

岩男寿美子 「テレビドラマのメッセージ」(勁草書房、2000年)

小玉美意子編 「テレビニュースの解剖学」(新曜社、2008年)

岸学 「SPSSによるやさしい統計学」(オーム社、2005年)

授業の計画：

第1回 ガイダンス、研究テーマの決定

第2回 内容分析とは(1)：内容分析から分かること、内容分析における研究対象、内容分析の手順

第3回 内容分析とは(2)：コーディング・シートとコーディングマニュアルの作成

第4～第8回 内容分析実習

第9回 データの整理とデータ入力

第10回 データ分析

第11回 報告書の構成とまとめ方

第12・13回 報告書の作成

履修者へのコメント：

実習はグループで取り組むこととなります。授業外での作業も必要となりますので、グループ内での協力と連絡を徹底してください。また、第3回からの授業にはパソコンを持参してください。

実習が重要な授業ですので、遅刻・欠席は慎んでください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（学期末に提出してもらいます）
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（実習が重要な授業であるため、遅刻・欠席には厳しく対処します）

質問・相談：

初回ガイダンス時（質問・相談）、授業中（質問）をお願いします。

コミュニケーション調査法（秋） 金山 智子

授業科目の内容：

本講義では、マスメディアが発信するメッセージの調査に用いられる内容分析法について学びます。講義では、TV ニュース、新聞記事、広告、雑誌、ポスター、写真、Web コンテンツなど、履修者が関心のあるメッセージを対象とし、手順にしたがって内容分析を実施します。最終的には、内容分析による調査結果を発表・報告します。内容分析法の習得を通して、メディア・メッセージのアクティブな「読み手」となることをテキスト：

関連資料を配布

授業の計画：

1. 内容分析とは
2. 調査テーマの決定
3. 研究課題・仮説の構築
4. 測定項目・カテゴリーの決定
5. サンプリング
6. コーディングテスト・調査の見直し
7. 中間報告
8. コーディング
9. 分析結果（集計と統計分析）
10. 分析結果（集計と統計分析）
11. 研究課題・仮説の検証
12. 分析テーマの考察
13. 報告・発表

履修者へのコメント：

本講義は、内容分析法を用いて実際に調査を行います。メディア・コンテンツの調査に興味のある学生やゼミで内容分析を使用する学生を希望します。また、統計分析にSPSSを使用します（大学でインストール可）。ラップトップ・コンピュータを持参できることが望ましい。

成績評価方法：

授業参加（30％）課題提出（30％）最終報告（40％）
（3回欠席した場合は自動的に履修を断念したものとみなされる可能性があります。）

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論（春） 池 貝 真 根本 学 菅 谷 実 豊 嶋 基 暢

授業科目の内容：

民間テレビ放送のコンテンツ・ビジネス戦略の要となるドラマやバラエティ番組のソフト制作や編成業務の実際、また映画事業の実際、権利ビジネスの展開例などについて、フジテレビの役職員が自らの実務経験に基づき、オムニバス方式で講義します。また、テレビ局がこれらの知的財産を利用しながらどのようなビジネスを展開しようとしているのかについても考えていきます。

テキスト：

ありません。

参考書：

「フジテレビ・全仕事」(扶桑社、2008年)

授業の計画：

1. ガイダンス（民間テレビ放送の成り立ちと現状）
2. 生活者にとってのテレビ（メディア環境と視聴量・質の捉え方）
3. 番組編成業務
- 4.～6. バラエティ番組の制作
- 7.～9. ドラマ番組の制作
- 10.～11. 映画事業
12. テレビ局の知的財産
13. 権利ビジネス

履修者へのコメント：

テレビ局をはじめとするメディアの研究やメディア業界への就職を志す方に限らず、“テレビ好き”の方ならばどなたの履修も歓迎いたします。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

フジテレビ寄附講座 テレビメディア論（秋） 池 貝 真 根本 学 菅 谷 実 豊 嶋 基 暢

授業科目の内容：

テレビの番組ソフトのうち、春学期のエンターテインメントに対するもう一つの柱、報道、情報といったジャーナリズムと、ドキュメンタリーやスポーツといったノンフィクションの番組制作の実際について、フジテレビの役職員が自らの実務経験に基づき、オムニバス方式で講義します。また、デジタルメディアの普及環境におけるフジテレビのビジネス戦略や、従来のテレビ営業のあり方を紹介しながら、民間テレビ放送のビジネスの将来展望についても考えていきます。

テキスト：

ありません。

参考書：

「フジテレビ・全仕事」(扶桑社、2008年)

授業の計画：

1. ガイダンス（春学期のまとめ、民間放送の成り立ちと現状）
- 2.～4. ニュース・報道番組の制作
5. 情報番組の制作
6. ドキュメンタリー番組の制作
7. スポーツ番組の制作
8. イベント事業
9. 技術革新とメディアの変化（テレビの技術的進歩）
10. 企業広報と番組宣伝
11. 広告媒体としてのテレビ（テレビ営業）
12. デジタルメディアへの取り組み
13. 民間テレビ放送の将来展望

履修者へのコメント：

テレビ局をはじめとするメディアの研究やメディア業界への就職を志す方に限らず、“テレビ好き”の方ならばどなたの履修も歓迎いたします。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

毎日コミュニケーションズ寄附講座 ・ メディアの再編 (春)(秋) 始まったメディアの再編成 河内 孝

授業科目の内容：

本講座は、広義のメディア産業（新聞、テレビ、出版、広告代理店、Docomo, KDDI, Softbank など通信各社, Yahoo! などIT系情報通信産業、及びその関連事業）に就職を希望する諸君に、「メディアの今日と明日」を教えるための基礎知識を得てもらう。

講師は、毎日新聞社で政治部、ワシントン特派員、外信部長、論説委員、社長室長、メディア担当役員などを歴任した。

日本のメディア産業は、新聞、テレビといった縦割りの構造から、持ち株会社があらゆる媒体を包含するメディアコングロマリットへの道を歩み始めた。

そのリアルな進行状況を理解してもらう。

テキスト：

特になし。必要に応じて配布する

参考書：

河内 孝著「新聞社 破たんしたビジネスモデル」(新潮新書)

河内 孝著「YouTube 民主主義」(マイコミ新書)

授業の計画：

まず大状況としての「メディアのいま」を知るために2011年の地上波デジタル化、それを受けての「情報通信法」制定の流れ、つまり通信と放送の融合化について、総務省担当者をゲストに招きディスカッションする。それを受けて新聞、テレビ、出版、アニメ、映画、広告代理店の今日と明日について業界のプロを呼び、学生とのトーク方式で授業を進める。

- 1.～3. 提供社、マイコミ側あいさつ オリエンテーション 河内 孝 「ここまで来た通信と放送の融合」有富 寛一郎講師（前総務相審議官） 「なぜ新聞とテレビのビジネスモデルは破たんしたのか」(河内)
- 4.～6. 「攻める就職活動」マイナビ編集長 栗田 卓也講師 「生き残る出版社、残れない出版社」出版社現役部長を予定 「アニメ、マンガのグローバル・ビジネス展開」出版社現場責任者を予定 「テレビ持ち株会社化に見る日本メディア再編成の進展」(河内) 「電凸は、現代の消費者運動か？サイト攻撃に見る Web 状況」(メディア・ジャーナリスト、佐々木 俊尚) 第一回レポート提出
- 7.～10. 「コンテンツをどう流す」(経産省メディア・コンテンツ課長を予定) 「テレビ制作の現場から、報道、ドキュメンタリー、ドラマ制

作の現場責任者、製作プロダクション責任者の出席を予定
 11.~13.「メディア大融合時代の広告」電通 青沼 正講師
 「電波行政、どこで間違えたのか」(前 C-net 社長, 田中良紹)
 「究極のメディア・ツールとは」日本経済新聞 八田 亮一講師
 「Yahoo! は何を指す」川邊 健太郎講師
 「講義総括」河内講師
 最終レポート提出

* このほか適時、中央官庁幹部、通信会社幹部などをお招きしてディスカッション方式の授業を行いたいと思います。

履修者へのコメント:

本講座は、就職支援のマイコミがスポンサーしていることでも分かるように、マスコミ産業への就職を希望する諸君に必要なかつ十分な情報方を流し、各段階で支援し、最終的に希望企業に就職してもらう、という実践的な目標設定をしています。ゲストは河内の長い記者生活での交友関係を生かした考えられるベストな顔ぶれをそろえました。アカデミックなマスメディア論としてもどこにも負けない大学院並みの内容と自負しています。やる気のある方の参加を求めます。

成績評価方法:

・レポートによる評価(評価基準、方法は前、後期第一回授業で説明する)
 質問・相談:
 教員室、授業の前後に受け付ける

【研究会】

研究会(~)(春)(秋)
 メディアと社会行動

萩原 滋

授業科目の内容:

本研究会は、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修了論文に結実させることを目的としている。履修者数に応じて運営方法を多少とも調整する必要があるが、基本的には、従来通りの個人研究のスタイルを継続するつもりである。

テキスト:

橋元良明(編著)「メディア・コミュニケーション学」(大修館書店、2008年)

授業の計画:

春学期

ガイダンス(1回)

テキスト講読(6回)

個人研究テーマの設定、発表(6回)

(夏合宿において各自の発表を継続して行う)

秋学期

三田祭論文に向けて(2,3年生の個人研究発表,6回)

修了論文に向けて(4年生の中間報告)

次年度に向けての研究計画発表(2,3年生,4回)

履修者へのコメント:

個人研究といっても、他の人の発表に対しても積極的にコメントをしてほしい。

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

研究室に来てくだされば(あるいはメールでも)、適宜、お答えします。

研究会(~)(春)(秋)
 メディア産業論を考える

菅谷 実

授業科目の内容:

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネット、映画などのコンテンツ産業を含むメディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめます。

例年、春学期は、共同研究に関連するテーマに関わる文献レビューを中心とした個人発表、秋学期は、三田祭で発表する共同研究報告書に関する調査と報告書作成、および4年生の修了論文発表を中心に進めます。(2008年度は、'ShifTVision'地上波テレビ局の未来についての共同研究でした。

また、夏合宿、OGOB会、異業種交流勉強会なども行っています。ゼミ活動の詳細は研究会のホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/sugaya/toppage.htm>)を参照してください。

授業の計画:

各学期のはじめに詳細なシラバスを配布するが、春学期は、授業でのレポートを中心とし、秋学期は、三田祭に向けた共同研究が中心となる。

履修者へのコメント:

履修者は、授業はもちろんこと、合宿、論文報告会、その他のゼミイベントにはすべて出席すること。

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価

(授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。)

・その他(なお研究会は修了研究の発表および論文による評価。)

研究会(~)(春)(秋)

グローバルイノベーションと持続可能なメディアのデザイン

小川 葉子

授業科目の内容:

本研究会では、比較映像分析とフィールドワークに基づく空間分析を含めて多様なメディアを対象にメディア・リテラシーを研究することを主目的とする。本年度は、環境と身体をとりまく科学的知識と文化の創発に関するコミュニケーションを考察する。とりわけ、映画、ファッション、広告、ニュース、流通の未来をクリエイティブ産業、クリエイティブ都市論、文化政策との関連で検討し、プロダクトおよびコンテンツのデザインとファッション・ジャーナリズムにおける知識生産の接点を比較したい。それによって、デジタル・シネマやオンライン・ショッピング等の影響も考えつつ、健康とサステナビリティに基づいたライフスタイルにおける未来のメディア・コミュニケーションのありかたを摸索したい。

テキスト:

カナダ、オンタリオ州教育省著『メディア・リテラシー』(リベルタ出版、2006年)『ファッション中毒』(NHK出版、2004年)その他ハーバード・ビジネススクールにおけるマーケティングテキストおよび各種白書等を使用予定。

参考書:

小川葉子他著「グローバル化の社会学:循環するメディアと生命」(恒星社厚生閣、2008年予定)、M.フェザーストン著、川崎賢一・小川葉子編著「消費文化とポストモダニズム」(上・下巻、恒星社厚生閣、2002年)伊藤陽一・河野武司編「ニュース報道と市民の対外国意識」(慶應義塾大学出版会、2007年)

授業の計画:

春学期

1. ガイダンスおよび導入(2~3回)

2. 輪読、フィールドワーク、研究プロジェクトに関する説明(2~3回)

3. 輪読、フィールドワーク、研究プロジェクトの分担決定とその遂行(6~8回)

4. 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(タイトル)設定と発表、春学期のまとめ(1~2回)

秋学期

1. 秋学期全体のスケジュールと作業プランニング(1~2回)

2. 個人(あるいは2~3名)のプロジェクトテーマ(タイトル)設定と発表(2回)

3. フィールドワーク(2回)

4. 個人あるいはグループプロジェクトによる作品の制作(2回)

5. 4.のプレゼンテーションおよび専門家によるコメントと相互批評(2回)

6. 三田祭発表とフィードバック(2回)

7. まとめ、未来のデザイン・コミュニケーションとは(1~2回)

履修者へのコメント:

フィールドワークは、映画関連イベント、文化施設、経済産業省、環境省のファッションおよび新製品発表イベントへの参加を考えています。日頃から各国の白書、ジャーナリズムや映画批評に親しんでください。

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価。

・レポートかそれにかかわる作品による評価。

質問・相談:

授業終了直後、あるいは履修者に指示するオフィス・アワーに受け付けます。

研究会(~)(春)(秋)
 ジャーナリズムを考える

大石 裕

授業科目の内容:

最初の数回は、ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的な文献を読み、それ以降は班分けし、新聞の分析などを行う。研究成果は三田祭などで発表する。

テキスト:

大石裕編「ジャーナリズムと権力」(世界思想社)

参考書:

田村紀雄ほか編「ジャーナリズムを学ぶ人のために」(世界思想社)

授業の計画:

〔前期〕

1~2回 基本的な文献の講読。

3~13回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

〔後期〕

1~10回 2,3年生を中心とした研究発表と討議

11~13回 4年生の終了論文発表

履修者へのコメント:

新聞のみならず、ニュース全般に関して積極的に接するように心がけてください。この研究会から「優れた」ジャーナリストが数多く生まれることを目標にしています。

成績評価方法:

平常点による。

研究会(～)(春)(秋)
メディアコンテンツとその認知的・感情的影響 李 光 鎬

授業科目の内容:

本研究会では、様々なメディアコンテンツの内容・形式上の諸属性がどのような傾向を持っているのかに関する内容分析研究、そしてそのコンテンツが我々の認知的、感情的反応にどのような影響を与えるのかに関する実験・調査研究を行う。

テキスト:

本研究会のテーマに関連する研究書や論文を授業の中で適宜示す。

参考書:

Richard Jackson Harris (2004), *A Cognitive Psychology of Mass Communication*, London: LEA.

Jennings Bryant et. Al. eds. (2003), *Communication and Emotion: Essays in Honor of Dolf Zillmann*, London: LEA.

授業の計画:

春学期

関連研究書および論文の輪読(6回程度)

2・3年生のグループ研究および4年生の修了論文研究の計画発表(6～7回)

夏合宿

研究の進捗状況報告

秋学期

内容分析、実験、調査によるデータの収集・分析(5回～6回)

三田祭での研究発表

4年生の修了論文研究発表(4～5回)

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価

研究会(～)(春)(秋)
クリエイティブ・エコノミ 金 正 勲

授業科目の内容:

これからの創造経済におけるメディア産業の在り方について産業・政策面を中心に議論します。

テキスト:

特に指定しません

参考書:

特に指定しません

授業の計画:

毎回の学生による Newsclippingや講師によるレクチャー、ゲストスピーカーによるレクチャー、企業訪問、輪読等を行います。

履修者へのコメント:

知識を吸収するだけでなく、自ら問題意識をもち、発言することを大事にします。

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

kim@dmc.keio.ac.jp

研究会(～)(春)(秋) 2009年度2年生のみ募集
コミュニケーションの発達と市民社会の変化 豊 嶋 基 暢

授業科目の内容:

情報通信技術の発達により、携帯電話、インターネット、電子マネー、ワンセグ放送、IPTVなど様々なツールが出現しています。本研究会では、新たに出現するコミュニケーションツールを社会で有意義で活用されるためにどのような取組みが必要なのか考察・議論する。

テキスト:

授業の中で適宜指定します。

参考書:

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画:

1. 春学期

ガイダンスと導入(第1回)

NEWS CLIPPING(通年)

研究テーマの設定と関連する文献の輪読・発表等

2. 秋学期

三田祭に向けた研究成果のとりまとめ

なお、春学期・秋学期とも、適宜、施設見学や政策担当者の話を聞く機会を設ける予定です。

履修者へのコメント:

本研究会は議論中心ですが、他者の研究の議論にも積極的に参加し、自分の興味のある分野の研究を深めていって欲しいと考えています。情報通信に関心のある学生の履修を歓迎します。

授業ホームページ(<http://mwr.mediacom.keio.ac.jp/~toyoshima/>)を参照のこと。

なお、本研究会は今年度限りです。

成績評価方法:

・平常点・出席状況及び授業態度による評価。

質問・相談:

質問は、メール(m-toyo@mediacom.keio.ac.jp)で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

研究会(～)(春)(秋) 2009年度2年生のみ募集
メディアと文化 藤 田 結 子

授業科目の内容:

本研究会では、メディア、コミュニケーション、または文化に関する社会現象について、各自の関心にもとづくテーマを設定し、調査研究を進めます。

春学期

・文献購読

・調査方法(内容分析、インタビュー、アンケート、参与観察、ビデオエスノグラフィー)

・個人研究計画発表

・三田祭共同研究テーマの設定

夏合宿

秋学期

・三田祭論文の調査・執筆・発表

・修了論文発表

そのほか街でのフィールドワークなど

履修者へのコメント:

いろいろな好奇心を持って、積極的にゼミに参加してください

成績評価方法:

・平常点:出席状況および授業態度による評価

【特殊研究】

放送特殊講義(春)
放送と通信融合時代の公共放送のありかた 中 村 美 子

授業科目の内容:

公共放送制度と役割について、各国比較の観点で理解を深める。さらに、英国における放送通信融合政策の論点を学習し、日本における「情報通信法」論議を考察する。

テキスト:

・「放送制度の現代的展開」(有斐閣, 2001年, 5600円)

・「A New Future for Communications」(ガイダンス時にコピー)

参考書:

・「データブック世界の放送2009」(NHK, 2009年, 3800円)

・「放送研究と調査」(NHK放送文化研究所)適宜指定

授業の計画:

1. ガイダンス

2.～5. 「放送制度の現代的展開」から、日、英、仏、独のパート学習

6.～11. 「A New Future for Communications」第2章から第6章 各パート学習

12.～13. 日本における「情報通信法」論議

履修者へのコメント:

・基本的に学生の発表と教育の補足的説明という形式で進める。

・日本語、英語による講読を積極的に行う学生を歓迎します。

成績評価方法:

・レポートによる評価

・平常点:出席状況および授業態度による評価

放送特殊講義(秋)
メディア環境と放送のメディア特性の変化 横 山 滋

授業科目の内容:

「テレビには『同時性』がある」というふうに言われていますが、メディアの特性は時代の諸条件、とりわけ、技術的・経済的・社会的なメディア環境によって変化するものです。ラジオを含めた「放送」のメディア特性と人間の変化を、大きな歴史的視野の中でとらえ、メディアとの付き合い方に習熟することを目指します。

テキスト:

横山滋「脱テレビ時代の到来 清水幾太郎の論じたテレビと社会、半世紀後の再訪」(『NHK放送文化研究所年報2008〔第52集〕』開講時に教室で配付します。)

参考書:

E・H・カー『歴史とは何か』(岩波新書)

そのほかは、講義の中で紹介します。

授業の計画:

実際にメディア・テキストを見たり聞いたりしながら、小レポートや発表も交えてそれぞれのメディアの特性について議論することで理解を深め、概略、以下のように進めたいと考えています。

1. プロローグ 歴史を見る眼

- グーテンベルク革命
- 印刷メディアと「公論の場」
- 絵画とその含意
- 公衆に共有されるイメージ 写真, レコード, 映画
- メディア・リテラシー運動の始まり
- 電波メディアの発明 電信, 無線電信, 無線通信からラジオへ
- ラジオのメディア特性と変化
- テレビ時代(1)
- テレビ時代(2)
- 通信と放送の「融合」
- 脱テレビ時代の「放送」事業と社会 インターネットの与えたインパクト
- エビローク メディアと人間

履修者へのコメント:

レポートでも教室における議論でも, 本人も含めて全員の役に立つ間違いというものがあります。途中の段階における失敗はマイナスに判定はしませんから, 恥ずかしながら自分の考えや疑問を率直に述べ, 共同の吟味の末, 違う判断に至ったら, 潔く修正すべきところは修正するという態度で臨んでもらいたと思います。

成績評価方法:

- 試験の結果による評価
- 平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

講義内容に関するものは講義中に, 私事にわたるものは講義後にしてください。

フジテレビ寄附講座 特殊研究 (テレビ・ジャーナリズム)(春)
テレビの未来 安倍 宏行

授業科目の内容:

政治記者, 経済記者, 海外特派員, ニュース・キャスター歴任, 現報道局コメンテーターが, テレビニュース制作の裏側を紹介。実際に映像を制作します。

同時に放送業界が今後どのようなビジネス・モデルを取り入れていくのかなどもリアルタイムに解説します。

テキスト:

特に無し

参考書:

特に無し

授業の計画:

- ガイダンス, テレビと新聞の違い, テレビニュースの特質
- ニュースの伝え方(ストレートニュース・記者レポート・中継)
- ニュース原稿演習
- ニュース制作の現場(フジテレビ報道局見学)
- 記者・ディレクター・特派員・キャスターの仕事とは
- アナウンサーの仕事
- 情報番組・ドキュメンタリー制作
- 撮影技術, 映像企画の作り方
- 記者レポート制作 テーマ決め・リサーチ
- 記者レポート制作 スケジュール作成・アポ取り
- 記者レポート発表 評価
- 記者レポート発表 評価
- 予備

履修者へのコメント:

ニュースと情報番組はどう違うのか? 記者とアナウンサーの仕事の違いなど, 実際にディレクターやアナウンサーがゲストスピーカーとして登場。テレビ局の見学を行ないます。前期は, 5分程度の短い映像企画を制作, 放送記者が体験できます。テレビ局に就職したい人, ジャーナリストになりたい人は履修することを勧めます。

成績評価方法:

- 平常点: 出席状況および授業態度による評価
- その他(映像制作5分)

質問・相談:

講義内容など質問はメールにて受け付けます。フジテレビ報道局経済部長安倍宏行まで hiroyuki.abe@fujitv.co.jp

フジテレビ寄附講座 特殊研究 (テレビ・ジャーナリズム)(秋)
安倍 宏行

授業科目の内容:

政治記者, 経済記者, 海外特派員, ニュース・キャスター歴任, 現報道局コメンテーターが, テレビ報道の直面する様々な問題点を解説します。リアルタイムで, テレビを取り巻く諸問題を解説。ネットとの関係がどう変容していくかも考察します。

テキスト:

特に無し

参考書:

特に無し

授業の計画:

- 人権侵害と報道倫理 実名報道と匿名報道
- 模擬記者会見 取材する側, される側
- 取材源の秘匿
- 放送倫理問題 BPO 放送倫理検証委員会とは
- 名誉毀損問題
- 放送と通信の融合 テレビ局のネット戦略
- 放送と通信の融合 動画投稿サイト
- テレビ局の未来 地デジ, ワンセグ, 事業, 映画
- 映像企画制作 テーマ決め, リサーチ
- 映像企画制作 取材スケジュール決め, アポ取り
- 映像企画制作発表
- 映像企画制作発表
- 予備日

履修者へのコメント:

テレビ報道に対する眼は日増しに厳しくなっています。メディアスクラム, 取材源の秘匿, 実名報道等, 分かりやすく解説します。また, ネットとテレビの関係がどうなっていくのか, 考察します。将来テレビ局に就職したい人, 記者やディレクターになりたい人は是非履修することを勧めます。

成績評価方法:

- 平常点: 出席状況および授業態度による評価
- その他(映像制作10分)

質問・相談:

講義内容など質問はメールにて受け付けます。フジテレビ報道局経済部長安倍宏行まで hiroyuki.abe@fujitv.co.jp

新聞特殊講義 (春)(秋)

新聞報道と経済・社会

長谷部

剛

授業科目の内容:

新聞は社会についての広範で強い問題意識を提示する力を持ったメディアです。ネット時代になってもその役割はなくなるどころか, むしろ重要になります。新聞と経済・社会のかかわりを報道する側から考えていきます。

テキスト:

特に指定しません。新聞記事をベースに講義していきます。

参考書:

随時, 指定します。

授業の計画:

基本的に現実のニュースや報道に即して, 主に以下のテーマを取り上げます。随時, 日経新聞の第一線記者や編集委員を招き, 報道の現場がどう問題意識で新聞をつくっているか話してもらいます。

- 新聞はどう報道しているのか(ニュースの発掘, 連載企画, 社説)
- 新聞社による報道姿勢の違い
- 経済・社会の構造変化と報道
- ネット時代の新聞の役割
- 求められる記者像

履修者へのコメント:

新聞記者を志したくなるような講座を目指します。

新聞を読んで参加して下さい。(どの新聞でもかまいません)

成績評価方法:

- レポートによる評価
- 平常点: 出席状況および授業態度による評価

広告特殊講義 (春)(秋)

広告の今日的課題と可能性を探る。

小山

雅史

授業科目の内容:

広告とは, 「広告を作る」ことだけではありません。

広告とは, 企業がお客さまに商品・サービスを買っていただき, 喜んでいただけることをコミュニケーションの点からサポートするものです。

逆に言えば, 企業がお客さまに買っていただき, 喜んでいただくために関わるコミュニケーションは全て「広告」になる, ということです。本屋の手書きのPOPも, TVで流れる広告も, 家に送られてくるダイレクトメールも, 全て広告です。

情報量が飛躍的に伸びた昨今, その方法も複雑化しています。また, 企業がお客さまに買っていただき, 喜んでいただくために必要なステークホルダー(関係者)も多様化しています。この講座では今の時代に求められる広告とは何か, を考えていきます。

この講座は私が一方的にお話しする講座ではありません。受講するみなさんと一緒に考えていく講座です。なぜなら, みなさんは「今」の消費者です。だから, みなさんの中にこそ, 今の時代に求められる広告とは何か, という問いへの答えはあるはず。

一緒に考え, とともに創発し合い, 明日の広告とは何かを探しましょう。

テキスト:

特に使いません。資料は適宜配布します。

参考書:

授業内で適宜ご紹介します。

授業の計画：

春学期

1. オリエンテーション～コミュニケーションとは何か
2. 広告とはなにか～広告の基礎的理解
3. 広告代理店とはなにか～広告産業の基礎的理解
4. 変わる消費者，変わるマーケティング
5. 広告の今日的課題とは
6. マスメディアの可能性
7. インターネットメディアの可能性
8. モバイルの可能性
9. 情報の「信頼性」とは
10. ブランドとは
11. 「情報デザイン」という考え方
12. 情報を「デザイン」してみる
13. 情報を「デザイン」してみる

秋学期

1. ガイダンス～コミュニケーションにおけるアイデアって何だろう？
2. 「コミュニケーションアイデア」を考えてみる
3. 「コミュニケーションアイデア」を考えてみる
4. アイデアからメッセージングへ
5. 「企業の悩み」は解決できるのか？～複雑化する広告代理店の業務
6. 企業広告って何？
7. CSR と広告
8. 危機管理とマスコミュニケーション
9. 広告作りのフォロー
10. 実際に広告を作ってみよう
11. 実際に広告を作ってみよう
12. 実際に広告を作ってみよう
13. では、もう一度。広告の今日的課題とは

履修者へのコメント：

現在広告会社に勤め、広告コミュニケーションの最前線にいるものとして、広告コミュニケーションの面白さ、広告会社の課題などを現場の生の声を、実際の広告事例を交えながらお話していければと思っています。

成績評価方法：

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・レポートによる評価

質問・相談：

授業中および電子メールにて適宜受け付けます。

メディア特殊講義（春）

メディアの未来～アナログからデジタルへ、メディアはどう変わるのか

坪田 知己

授業科目の内容：

新聞やテレビ，ラジオ，雑誌といったアナログメディアだけしかなかった時代から、インターネットに代表されるデジタルメディアが大きく発展する時代になりました。その変化の本質と将来への方向性を学びます。技術，社会，ビジネス，人間の4つの視野で、今後のメディア像を描いていきます。私の知識とビジネス経験を公開して、みんなで考えていく授業です。

テキスト：

講義資料は、プリントで配布します。

参考書：

アルビン・トフラー著「第三の波」(中公文庫)，ハワード・ラインゴールド著「新・思考のための道具」(パーソナルメディア)，相田洋ほか著「新・電子立国 1 ソフトウェア帝国の誕生」(日本放送出版協会)，相田洋ほか著「新・電子立国 6 コンピュータ地球網」(日本放送出版協会)，村井純著「インターネット」(岩波新書) など

授業の計画：

1. ガイダンス
2. メディアの変化について，総論とディスカッション
3. デジタルとは何か デジタルの原理，コンピュータの仕組みを概説します
4. 通信（特にインターネット）の仕組み
5. デジタルメディアを考えた人たちの系譜（MEMEX からの出発）
6. 中間総括 1
7. Web2.0 ブログ・SNS の可能性
8. デジタルメディアとマーケティング
9. ジャーナリズムとは何か（桐生悠々など）
10. 中間総括 2
11. デジタルに取り組む戦略（ゲスト講師を呼んで話を聞きます）
12. ユビキタス，アンビエントの時代の先にあるもの
13. 最終・まとめ

履修者へのコメント：

デジタルメディアの可能性について，広い視野で学んでいきます。技術の話はかみ砕いて説明しますので，文科系の人でも，よくわかるはず。議論をたくさんしますので，想像力を豊かにして，みんなで考えていきましょう。わくわくする授業を目指します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価（学期の最後の最終レポートのほか，3 回ほどミニ

レポートの提出を要求します）

- ・平常点：出席状況および授業態度による評価（欠席は届けてください。出欠よりも，授業での発言内容を評価します）
- ・その他（メールでのやりとりが多いので，メールのチェックをきちんとやってください）

質問・相談：

質問・相談については，tomtsubo@gmail.com にメールをいただければ回答します。

メディア特殊講義（秋）

メディア・リテラシー

渡辺 真由子

授業科目の内容：

テレビ，新聞，広告などのメディアの作り手は，どのような「意図」のもとに情報を発信しているのか？メディアが社会の価値観に与える影響を認識し，情報を読み解くための能力（メディア・リテラシー）を，理論と実践を通して身に付けます。自らが情報の発信者となる場合も必要な能力です。

テキスト：

渡辺真由子著「オトナのメディア・リテラシー」(リベルタ出版)

参考書：

野沢尚著「破線のマリス」(講談社)

授業の計画：

(前半：理論編)

広告，報道，映画，インターネットといったメディアの背後にあるイデオロギーやジェンダー表現の問題を，先端のメディア・リテラシー理論に基づき読み解いていく。

(中盤：現場編)

マスコミ各界の関係者を招き，作り手としての「意図」を明らかにしてもらおう。

(後半：実践編)

企画の立て方，撮影やインタビューの仕方，編集テクニックなどを学び，自らが作り手となってミニ・ドキュメンタリーを制作する。

履修者へのコメント：

マスコミで働きたいですか？より良い社会を作るには，情報発信者にメディア・リテラシーが求められます。賢い受信者になりたい方も，ぜひ。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価
- ・その他（映像作品プレゼンテーションによる評価）

質問・相談：

授業終了時に受け付けます。

特殊研究（日本の近代化とマス・メディア）(春)

小川 浩一

授業科目の内容：

社会の状態を人々に伝え，市民の視点から権力批判を行う「ジャーナリズム」の機能が戦後日本の近代化に貢献したのか否かを現在の「ジャーナリズム」と現在の日本社会の問題点の検討を通じて明らかにしたい。

テキスト：

マクネア著 小川浩一 赤尾光史 監訳

「ジャーナリズムの社会学」(リベルタ出版)

橋本俊詔著「格差社会」(岩波新書)

参考書：

富永健一著「日本の近代化と社会変動」(講談社学術文庫)

橋本俊詔著「日本の経済格差」(岩波新書)

授業の計画：

- 1, 2. ジャーナリズムとマス・コミュニケーション
- 3, 4. ジャーナリズムの機能
- 5, 6. ジャーナリズムの今日的課題
- 7, 8. 日本ジャーナリズム略史
- 9, 10. 言論統制と言論自己規制
- 11, 12. テレビジョンの社会的機能
13. 現代日本におけるテレビと新聞の機能

履修者へのコメント：

テレビニュース，新聞記事を「分析」すること。批判は内容の分析が出来ないと意味がありません。想像力，創造力がないと権力に盲従することになります。

成績評価方法：

1. 試験の結果による評価
2. レポートによる評価
3. 平常点：出席状況および授業態度による評価
4. その他

授業科目の内容:

社会の状態を人々に伝え、市民の視点から権力批判を行う「ジャーナリズム」の機能が戦後日本の近代化に貢献したのか否かを現在の「ジャーナリズム」と現在の日本社会の問題点の検討を通じて明らかにしたい。

テキスト:

マクネア著 小川浩一 赤尾光史 監訳
「ジャーナリズムの社会学」(リベルタ出版)
橋本俊詔著「格差社会」(岩波新書)

参考書:

富永健一著「日本の近代化と社会変動」(講談社学術文庫)
橋本俊詔著「日本の経済格差」(岩波新書)

授業の計画:

- 14, 15. ポピュリズムと劇場型政治
- 16, 17. 現代日本の民主主義
- 18, 19. 日本社会の階層性
- 20, 21. 階層間格差とエリート
- 22, 23. ジャーナリストと階層
- 24, 25. 日本の近代化におけるジャーナリズムの貢献
26. 日本のジャーナリストの特徴

履修者へのコメント:

前期から引き続いた内容です。戦後日本のジャーナリズムの実感とそれが先進国では同様の事態になりつつあることを概観します。そして、ジャーナリズムの在り方を再考します。

成績評価方法:

- ・試験の結果による評価
- ・レポートによる評価
- ・平常点:出席状況および授業態度による評価
- ・その他

授業科目の内容:

政府では現行の通信・放送法体系を見直し、新たに情報通信法を2010年の国会に提出すべく検討が進められている。

本授業は、この動きを参考にし、通信・放送の融合の進展に対応した通信・放送法体系の見直しの具体像について考察する。

テキスト:

次の資料は各自ダウンロードしておくこと。
「通信・放送の総合的な法体系に関する研究会報告書」
(http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/pdf/071206_2_bs2.pdf)
「通信・放送の総合的な法体系の見直しについて(中間論点整理)」
(http://www.soumu.go.jp/s-news/2008/080613_11.html)
その他適宜配布資料があります。

参考書:

多賀谷一照・岡崎俊一・岡崎毅・豊嶋基暢・藤野克著、「電気通信事業法逐条解説」(電気通信振興会, 2008年, 4935円)
金澤薫著、「放送法逐条解説」(電気通信振興会, 2006年, 5040円)
今泉至明著「電波法要説」(第6版改訂版)(電気通信振興会, 2008年, 3780円)

授業の計画:

1. オリエンテーション(1回)
2. 政府における情報通信法策定の状況(1回程度)
3. 現行の通信・放送法体系の習得(各自の発表, 講評, 討論による習得)(4回程度)
4. 通信・放送法体系の見直しの論点抽出(3回程度)
5. 情報通信法案骨子の策定(4回程度)
1, 2回程度, 政策担当者を交えた講義・討論を実施する予定。

履修者へのコメント:

本授業は本年度のみ行う。
本授業は現行の通信・放送の法体系を理解した上で、その見直しの方向性を研究することを主にします。

授業は各自の学習成果の発表を中心に授業を進めます。情報通信法制を積極的に学ぶ意欲のある学生の履修を期待します。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況及び授業での発表による平常点。
- ・レポートによる評価。

質問・相談:

質問は、メール(m-toyo@mediacom.keio.ac.jp)で随時受けるほか、適宜、研究室に来てくださればお答えします。

授業科目の内容:

現代の若者文化におけるメディアの役割について考察します。社会学やメディア・スタディーズの先行研究にもとづく講義・発表を中心に、さまざまな事例についてディスカッションを行います。

テキスト:

授業中に指定します。

参考書:

授業中に指定します。

授業の計画:

1. 若者のナショナリズムとインターネット
2. 若者とファッション
3. 女性誌と女性像・結婚観の変化
4. ケータイ・コミュニケーション
5. ファンカルチャー
6. エコとライフスタイル

以上を中心に、受講生の関心にもとづくテーマを取り上げていく予定です。

履修者へのコメント:

受講者は自分の関心にもとづいて、フィールドワークを行います。
参加型の授業なので、積極的な学生を歓迎します。

成績評価方法:

- ・平常点:出席状況および授業態度による評価(個人またはグループ発表 70% ディスカッションへの参加 30%)

授業科目の内容:

本講義は、研究所主催のインターンシップである。
春学期は、討論形式による各産業の歴史、構造、動向及びインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。
秋学期には、インターンシップ参加の報告及びレポートを提出する。

なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度にメディア産業実習を登録し、インターンシップに参加できる。

テキスト:

特に指定しません。

参考書:

授業の中で適宜紹介します。

授業の計画:

1. 春学期
オリエンテーション
産業別のグループ発表と討論
(映像ビジネス, 広告, 放送, 出版, 新聞, 通信等)
まとめ
(なお、研修先は、7月上旬頃に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているので履修者全員が研修に参加できるわけではない。)
2. 秋学期
夏休み研修期間での実習を10回分の講義と認定する。
研修成果報告会を行い、秋学期の平常点とする。

履修者へのコメント:

本年度はこれまでと授業の運営方法を一部変えます。詳細は、第1回目の授業で説明します。

履修希望者(前年度にメディア産業実習を履修し、本年度を履修する者を含む)は、第一回目の授業で実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法:

- ・春学期:グループ発表及び討論への貢献度を含めた平常点による評価
- ・秋学期:夏休み期間中の企業研修と研修成果の発表及びレポートによる評価

【基礎演習】

授業科目の内容:

英字新聞を通して時事英語を学ぶとともに、英字新聞の仕組み、特徴などについても理解を深めることを目標とします。時事英語だけでなく、時事問題、英文ジャーナリズムについて学びます。春学期では、身近な題材を取り上げ、英字新聞に親しみます。

テキスト：

- ・小冊子「英字新聞を楽しもう デイリー・ヨミウリの魅力」
- ・日刊英字新聞「The Daily Yomiuri」(毎回配布予定)
- ・講義資料プリント

参考書：

- ・最新ニュース英語辞典 (東京堂出版, 2005 年, 2600 円)

授業の計画：

オリエンテーション

英字新聞のルール, 仕組み

英文記事の基本・読み方

基本的英文記事の作成

ニュース英語語彙の養成

まとめ

読売新聞社見学およびゲストをよんでの授業も計画

履修者へのコメント：

- ・授業には辞書を持参して下さい。
- ・英字新聞を読んだことのない方も是非チャレンジして下さい。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

授業後およびEメールで受け付けます。

時事英語 (秋)

ニュース英語に親しむ (中～上級編)

宮川 美樹子

授業科目の内容：

日本で発行されている英字新聞および海外の英字新聞、雑誌を教材に時事英語、時事問題、英文ジャーナリズムについて学びます。秋学期では、分野別に記事を取り上げ、より高い記事読解力、ライティング能力の養成も目指します。

テキスト：

- ・小冊子「英字新聞を楽しもう デイリー・ヨミウリの魅力」
- ・日刊英字紙「The Daily Yomiuri」を主な教材に使用 (毎回配布予定)
- ・講義資料プリント

参考書：

- ・最新ニュース英語辞典 (東京堂出版, 2005 年, 2600 円)

授業の計画：

オリエンテーション

英字新聞のルール, 仕組み

英文記事の基本・読み方

英字新聞の授業を分野別に読む (政治, 経済, 社会, 環境など)

より高度な英文記事の作成

ニュース英語語彙の養成

まとめ

読売新聞社見学, ゲストを呼んでの授業も計画しています。

履修者へのコメント：

- 授業には辞書を持参して下さい。
- 春学期の簡単な復習から始めますので、春学期の授業を取っていない生徒も歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

講義後ならびにEメールで受け付けます。

文章作法

作文を書いてみよう

稲井田 茂

授業科目の内容：

受講生に作文を月1本のペース、年間8本執筆してもらい、添削する。「自分の考えを正確に伝える」「興味をもって読んでもらえる」文章を基本に日本語を書く上での特性、注意点を知らせよう。入社試験に活用できるものとする。

参考書：

- 記者ハンドブック (共同通信社)

授業の計画：

1. ガイドンス (1 回)

2. 月1本のペースで作文を執筆してもらい。5月, 6月, 7月, 夏休み, 10月, 11月, 12月, 冬休みで計8本。講義では添削した内容を説明するとともに、日本語を書く上での注意点、日本語の特性を知ってもらい。受講生は自分の作文を披露してもらい、他の人の書いた作文を批評してもらい。

3. ニュースとなっている時事問題について解説。学生は時事用語の解説を書く訓練もする。

4. 春期は基礎、秋期は応用となります。通年で授業を受講するようにして下さい。

履修者へのコメント：

作文を書くことから授業は始まります。自分の考えを文章で相手にう

まく伝える訓練の場としてとらえてください。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価 (作文の提出による評価)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価 (時事用語の解説の提出による評価)

取材論 (春)

どのようにして情報を集め、どんな記事を書くのか。

臼井 敏男

授業科目の内容：

題材を選ぶ方法、情報の集め方、インタビューの仕方、原稿の書き方などを、新聞記者としての体験や失敗をまじえてお話しします。

テキスト：

講義のつどレジメや資料を配ります。

参考書：

日々の新聞を題材に話すこともあるので、新聞を丁寧に読んでください。

授業の計画：

1 回 記者の仕事の楽しさ、つらさ、むずかしさ。

2 回 「取材力のあるなし」とは何か。

3 回 記者の仕事は日々の出来事を記すのか、歴史を刻む作業なのか。

4 回 相手にだまされない取材とは何か。

5 6 回 取材の準備。どうやって題材を選び、問題を探すのか。どのようにして情報を集め、仮説を立てるのか。

7 9 回 取材から執筆へ。いいインタビュー、悪いインタビューとは何か。どのようにしてメモを取るのか。情報の取捨選択の仕方とは何か。どうやって書いていくのか。

10 11 回 取材の落とし穴はどこにあるのか。記者として、やっつけられないこととは何か。取材先との間合いをどう取るのか。

12 回 実際の記事から取材力のあるなしを読み取る。

13 回 全体のまとめ。

履修者へのコメント：

取材力とは、質問力であり、互いの意思を通じ合わせる力でもありません。一方的な講義ではなく、双方向的な時間にしたいと思っています。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

講義中の活発な質問を期待しています。それでも時間が足りなければ、講義後も引き続き、質問を受けます。

取材論 (秋)

どのようにして情報を集め、どんな記事を書くのか。

臼井 敏男

授業科目の内容：

春学期の講義を踏まえ、メディアの抱える問題にどう向き合うかを考えるとともに、模擬的な取材やインタビューを通して実際に原稿を書いてもらおうと思っています。

テキスト：

講義のつどレジメや資料を配ります。

参考書：

日々の新聞を題材に話すこともあるので、新聞を丁寧に読んでください。

授業の計画：

1 2 回 メディアスクラムやプライバシー侵害の批判にどうこたえるか。取材方法をどう変えていくのか。

3 回 「取材源を守る」とはどういうことか。

4 回 裁判員制度の下で、何をどう取材するのか。予断を持たせない記事をどのようにつくっていくのか。

5 回 ネット時代に取材はどう変わってきたのか。今後、どんな取材に力を入れていくべきなのか。

6 7 回 記者会見の記録や発表資料をもとに実際に原稿を書いてみる。

8 10 回 模擬的な取材やインタビューをもとに原稿を書いてみる。

11 12 回 優れた文章とは何か。その必要条件とは何か。文章論の側から、どんな取材が必要かを考える。

13 回 総括。

履修者へのコメント：

取材力とは、質問力であり、互いの意思を通じ合わせる力でもありません。一方的な講義ではなく、双方向的な時間にしたいと思っています。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

講義中の活発な質問を期待しています。それでも時間が足りなければ、講義後も引き続き、質問を受けます。

時事問題 (春)

現代社会を考える

箕輪 幸人

授業科目の内容：

事件・事故などの社会情勢を通じて、今を考える視点を学ぶ。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

授業の中で適宜紹介します

授業の計画：

授業の前の週におきたこと、授業の週におきたこと、もしくは、おきることに、基本的な事実をおさえた上で、問題点や課題を考えていく。

履修者へのコメント：

社会の動きに敏感な人、考え方の柔軟な人を歓迎します。

成績評価方法：

・平常点：出席状況および授業態度による評価

時事問題 (秋)

現代社会を考える

箕輪 幸人

授業科目の内容：

社会情勢を通じて、多面的な見方を学ぶ。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

授業の中で適宜紹介します

授業の計画：

授業の前の週におきたこと、授業の週におきたこと、もしくは、おきることに、基本的な事実をおさえた上で、問題点や課題を考えていく。

履修者へのコメント：

前期と同様に、社会の動きに応じて学習していきます。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価

映像コンテンツ制作 (春)

映像を通して伝える。

金山 智子

授業科目の内容：

コミュニケーション技術の発展により、誰でも気軽に映像を撮って表現したり、メッセージを発信したりできるようになってきました。また、メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきました。本講義では、(1) 映像メディアコンテンツの批評と(2) 制作実践を通じて、よりよいメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身につけることを目標としています。

テキスト：

特に使いません。

授業の計画：

講義は大きく3つの部分から構成されています。

1. 映像撮影や編集機材の使用法を学ぶ。
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます。
2. 映像作品を読み解く。
普通の市民やアマチュアが制作した“すぐれた映像作品”を分析し、「誰に何をどのように伝えるか」という意味での、メッセージ伝達について考えます。
3. 映像コンテンツを制作する。
個人(または少人数グループ)で、企画、構成、取材、撮影、さらに編集加工といった一連の映像制作過程を体験してもらい、映像によるコミュニケーションを身につけてもらいます。

履修者へのコメント：

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。また、映像コンテンツ制作は、クラス授業時間外での作業が必要になります。

成績評価方法：

授業参加(50%) 課題作品(50%)

映像コンテンツ制作 (秋)

映像取材と伝送

杉 沼 浩 司

田 辺 浩 介

授業科目の内容：

取材形式の映像制作と、編集、伝送の基礎を学びます。特に、HDTV

時代の機材について、その能力を引き出し適切な使い分けを行うための基礎知識を座学と実習を通して習得します。

テキスト：

特に指定しない

参考書：

CG-ARTS 協会「入門マルチメディア」

授業の計画：

1. 装置の基礎
2. 取材計画の構築
3. 取材実習
4. 編集の基礎
5. 伝送の基礎
6. 伝送実習
7. 編集実習
8. 発表と討論

上記内容を、各週または複数の週にまたがって実施します。

履修者へのコメント：

ドキュメンタリーではなく、現場レポート的な短編の制作を目指します。取材実習は学外環境での実施を計画しています。社会人としての行動が求められますので留意してください。

成績評価方法：

平常点：出席状況および授業態度による評価(最終発表を経た作品があれば、それを加算要素とします)

質問・相談：

連絡方法は授業時に示します。

メディア・ネットワーク実習 (春)

コンピュータ・ネットワークの基礎知識

田 辺 浩 介

授業科目の内容：

現代において行われる個人や企業のさまざまな社会活動は、すでにコンピュータ・ネットワークなしでは成り立たなくなっています。この実習ではコンピュータ・ネットワークそのものについての基礎的な知識を身につけることによって、それらの活動への理解を深めることを目的とします。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

授業中に適宜指示します。

授業の計画：

- ・コンピュータの構造
 - ・ハードウェア・ソフトウェア
- ・コンピュータ・ネットワークの仕組み
 - ・TCP/IP
 - ・DNS・Web・電子メール
- ・デジタル化されたデータ
 - ・音声・画像
 - ・データの圧縮
- ・セキュリティ
 - ・暗号化・署名
- ・インターネットでの映像配信
 - ・企画と実習
- ・まとめ

講義の中で数回、課題やレポートを出します。

履修者へのコメント：

コンピュータそのものについての知識は問いませんが、自分の関心のある分野とコンピュータ・ネットワークの関わりについて考える気持ちを持ってください。

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時電子メール(tanabe@mwr.mediacom.keio.ac.jp)、ならびに授業のWeb ページで受け付けます。

メディア・ネットワーク実習 (秋)

Web アプリケーション制作の実習

田 辺 浩 介

授業科目の内容：

みなさんは日常生活において、ブログや SNS をはじめ、多くの Web アプリケーションを利用していると思います。この講義ではプログラミング言語 Ruby を用いて、Web アプリケーションを自分で制作するための実習を行います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

・Dave Thomas ほか著・前田修吾監訳「Rails によるアジャイル Web アプリケーション開発 第2版」(オーム社)

授業の計画：

- ・Ruby でのプログラミングの基礎知識

- ・データの入力と出力
 - ・データの制御
 - ・データベースの操作 (SQL)
 - ・自分の作るアプリケーションを企画する
 - ・掲示板・ブログ・SNS・ブックマーク
 - ・WebAPI
 - ・各自の作品の発表とまとめ
- 講義の中で数回課題を出します。

履修者へのコメント：

- ・プログラミングの経験は問いませんが、一回あたりの進捗が早いので、欠席しないようにしてください。
- ・講義や課題でわからない点がありましたら、遠慮なく質問してきてください。「質問する」ことは授業への積極的な参加として評価します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価 (講義内での課題と最終発表)
- ・平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時電子メール (tanabe@mwr.mediacom.keio.ac.jp), ならびに授業の Web ページで受け付けます。

斯道文庫

附属研究所斯道文庫は、日本および東洋の古典に関する資料の蒐集保管並びにその調査研究を行う研究機関として、慶應義塾創立 100 年に際し、麻生太賀吉氏より寄贈された財団法人斯道文庫の蔵書約 7 万冊をもとに、昭和 35 年に設立されました。現在では、文庫長の他、6 名の専任教員と、4 名の事務職員、研究嘱託若干名のスタッフを擁し、貴重な古典籍を数多く含む 14 万冊以上の蔵書を有しています。

文庫員は、日本国内はもとより海外まで和漢の書物のある場所に直接赴き、現物に当たって調査し、それらをマイクロフィルムカメラやデジタルカメラで撮影するなどして、書誌学的方法による研究を行っています。書誌学とは、書物を対象として、その形態や内容について科学的・実証的に研究する学問で、独立した存在ではありませんが、書物を利用する全ての学問の補助学としても応用できるものです。

近年のデジタル技術の発展に伴い、インターネット等を通して図書を画像によって提供することが一般化し、その画像の有する情報を正しく理解することが重要となってきていますが、そのためには書誌学の知識を有することが必要です。そこで、斯道文庫では、文学に限らず和漢の書物を利用する諸分野の研究にも役立つ、書誌学の基礎知識を身に付ける為の講座を開設することとしました。斯道文庫には、文学研究科の大学院生を対象として、書誌学的研究能力を養成するための講座も設けられていますが、この設置講座で主として学部生を対象とするのは、書誌学が経験学としての側面を有する学問であるだけに、できるだけ早い時期に学び始めることが望ましいからです。

古い書物は、その本が生まれた時代の文化を伝えるタイムカプセルであり、それらを直接手に取ることによって、その時代の人や文化を感じ取ることができます。そのような喜びを味わい、自分の勉強に活かしてみたいと考える学生の履修を斯道文庫では希望しています。

・履修上の注意 慶應義塾大学の各学部生・院生が対象ですが、履修の取扱いについては、所属する各学部・研究科の履修案内でよく確認のうえ、履修申告を行ってください。

書物と文化 (春学期)(2 単位)

日本の書物：その歴史と種類を学ぶ

斯道文庫准教授 佐々木 孝 浩

授業科目の内容：

古典文化は書物によって伝えられてきました。いわば書物は文化の器であるわけですが、その器の形状や種類によって、盛られるものに違いがあることは、あまり意識されることがありません。遠回りの様でも、書物の特徴や特性を学んでおけば、書物の内容を学ぶ際に、通常の視点では得られない多くの情報を得ることができます。この講義では、書物とはどういうものなのかを、特に日本の書物を対象として、その歴史と種類を理解することを目的として、できるだけ多くの現物に触れつつ、判りやすく講義していきます。

テキスト：

藤井隆『日本古典書誌学総説』(和泉書院, 2100 円)

参考書：

開講時に説明します。

授業の計画：

- 第 1 回 書物の扱い方についての注意
- 第 2 回 書物の歴史
- 第 3 回 書物と紙 1
- 第 4 回 書物と紙 2
- 第 5 回 日本の書物の種類 1
- 第 6 回 日本の書物の種類 2
- 第 7 回 日本の書物の種類 3
- 第 8 回 日本の書物の種類 4
- 第 9 回 日本の書物の種類 5
- 第 10 回 書物の変身 1

第 11 回 書物の変身 2

第 12 回 まとめ 1

第 13 回 まとめ 2

履修者へのコメント：

日本の紙や書物は世界でも類のない美しさと多様さを持っています。日本の本の美しさや面白さに興味のある方の履修を希望します。所属は無関係ですし、予備知識も特に必要ありません。ただし、書誌学の知識は相互に関連性を有していますので、欠席しないことを強く望みます。

成績評価方法：

レポートによる評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時受け付けます。

書物と文化 (秋学期)(2単位)

日本の書物：情報伝達媒体としての役割

斯道文庫准教授 佐々木 孝 浩

授業科目の内容：

書物は文化の器です。今日風に言うと、情報伝達媒体ということになります。フロッピーやCD、DVD、USBメモリー等々に様々な特性があるように、保存する内容に応じて、書物の形態が選択されました。書物の内容と形態の関係は、余り注目されることはありませんが、それだけにそのことを知っている、書物の内容を研究する際に、新たな視点を有することができます。この講義では、日本の書物の形態と内容にどのような関係があり、それを知ることがどのような役に立つのかを、できるだけ多くの現物に触れつつ、判りやすく講義していきます。併せて、書物を研究する方法をも履修者の目的意識に即して説明します。

テキスト：

藤井隆『日本古典書誌学総説』(和泉書院、2100円)

参考書：

開講時に説明します。

授業の計画：

- 第1回 書物の扱い方についての注意
- 第2回 日本の書物の種類の確認1
- 第3回 日本の書物の種類の確認2
- 第4回 書物の形態と内容の関係1
- 第5回 書物の形態と内容の関係2
- 第6回 書物の形態と内容の関係3
- 第7回 書物の形態と内容の関係4
- 第8回 書物の形態と内容の関係5
- 第9回 書物の形態と内容の関係6
- 第10回 書物研究の方法1
- 第11回 書物研究の方法2
- 第12回 まとめ1
- 第13回 まとめ2

履修者へのコメント：

書物と文化 から引き続いての履修を希望します。やはり欠席すると全体を理解することがむずかしくなりますので、欠席しないことを強く望みます。

成績評価方法：

レポートによる評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時受け付けます。

書物文化史研究 (春学期)(2単位)

中国の書物と文化

斯道文庫教授 高 橋 智

授業科目の内容：

中国における書物と歴史の関わりについての概要を講義する。漢字文化は中国独自の文字文化であり、大陸周辺国家に多大な影響をもたらし、今日に至っている。中国では、文字文化が、古来、政治経済など、人間社会の規範をも作り出してきたと考えられている。文字文化の象徴である、その書物とはどんなものなのか、そしてどんな歴史を展開してきたのか。書物を大きな枠組みでとらえてみよう。

テキスト：

特になし。随時プリントなど配布する。

参考書：

米山寅太郎『図説中国印刷史』(汲古書院・平成17)

授業の計画：

- 第1回 古代中国と知識の拡大
- 第2回 文献の意味
- 第3回 為政者と書物
- 第4回 為政者と書物
- 第5回 書物爛熟の時代
- 第6回 書物爛熟の時代
- 第7回 書物衰退の時代
- 第8回 書物衰退の時代
- 第9回 書物再生の時代
- 第10回 書物再生の時代
- 第11回 書物を支えた人々
- 第12回 書物を読んだ人々
- 第13回 まとめ

履修者へのコメント：

成績評価方法：

通常の出席と最後に試験を行います。

質問・相談：

随時応じます。

書物文化史研究 (秋学期)(2単位)

書物文化学の技法

斯道文庫准教授 住 吉 朋 彦

授業科目の内容：

書物は、思考の容れ物であるばかりか、失われた言語生活を伝える遺品でもあり、個人の生涯を越えて受け継がれる財産でもある。書物をめぐる文化現象は一通りではなく、様々の角度から探るべき、多くの側面を含んでいる。また、こうした文化の核となった書物そのものは、あたかも生命のある如く、その姿を少しずつ変え、自らの複製を繰り返してきた。そこで私たちが、多様な書物文化を探って、人間社会の一端を垣間見ようとする時、書物自体をしっかりと捕まえ、その生態を捉えるための技法が求められる。

この講座では、東洋の書物を事例として、書物文化を解き明かす三つの技法を紹介し、その世界を見通すための座標を提示してみたい。

- 一、書物の外見 直感的分類学の効用
- 一、書物の親族調査 本文変容の跡をたどる
- 一、求めることと、蓄えること 書物の集散を考える

テキスト：

特に使用しない。

参考書：

講義の中で、内容に応じて紹介する。

授業の計画：

- 第1～2回 東洋に伝わる書物の様相を、広く紹介する。
- 第3～5回 書物の外見を捉え、整理研究への糸口をつかむ。
- 第6～8回 複製された本文の変容を捉え、その振幅を測る。
- 第9～11回 集散する書物群の全体を捉え、社会的意味を考える。
- 第12～13回 東洋における書物文化の、全貌を見通す可能性を検討する。

(上記の回数は、大まかな目安です。)

履修者へのコメント：

書物文化学の技法を論じ、人文学の基礎工程について考えてみるつもりです。

成績評価方法

試験の結果による評価

平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談

適宜応じます。

体 育 研 究 所 (三田設置)

(体 育 科 目)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板(西校舎)に、日吉設置科目については、体育科目掲示板(日吉 J11 番教室前)にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目(日吉)の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A(ウィークリー・スポーツ)が、6科目(テニス、バレーボール、合気道、弓術、剣道、柔道)開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体現する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の4科目があります。学部、学科によって科目の取扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください(学事センターで閲覧できます)。

(1) 体育学講義 (2単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。

(2) 体育学演習 (1単位)..... 講義+実習による演習形式の授業。

(3) 体育実技 A (1単位).....「身体活動」実技 A~Dの4段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

体育実技 A の成績評価方法は 100 点満点のうち、出席点が 60 点。欠席は 1 回につき 5 点減点、遅刻は 1 回につき 3 点減点します。評価対象者は全授業回数の 2/3 以上出席した者です。残りの 40 点を各授業担当者が技術・態度・理解の観点で配分します。

(4) 体育実技 B (1単位).....「身体活動」実技 P(合)・F(否)(Pass/Fail)の2段階評価。

ウィークリー・スポーツ

シーズン・スポーツ

ウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツの概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ.....週1回半年(春学期または秋学期)の授業。

シーズン・スポーツ.....夏季休業中(7月~9月)または春季休業中(2月)の7日間の授業。ただし、合宿科目は原則として3泊4日。

3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 三田設置科目履修申告までの流れ

4月7日(火)

体育科目ガイダンス(三田)

体育科目の履修を希望する場合は、履修案内と時間割を持参のうえ出席してください。
1限および2限 512番教室(いずれの時限も同内容)

4月4日(土)
~15日(水)

定期健康診断を受診(日吉)

実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)

実施場所: 第5校舎

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

受付時間	9:00~15:30	受付時間	9:00~15:30
4月4日(土)	男子	4月11日(土)	女子
5日(日)		12日(日)	
6日(月)	女子	13日(月)	男子
7日(火)	男子	14日(火)	女子
8日(水)	女子	15日(水)	男子 11時終了
9日(木)	男子		
10日(金)	男子		

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

4月8日(水)
~10日(金)
・13日(月)
・14日(火)

体育研究所許可証の取得

体育科目時間割に従い、第1週目の授業で体育研究所許可証を発行します。秋学期科目も同授業で発行します。発行数は定員分までです。

第1週目の授業に出席できない者のために、各日12時30分から14時まで、三田綱町グランド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行する時間を設けていますが、発行するのはその時点で定員に達していない授業だけです。

第1週目の授業に定員以上の履修希望者が集まった場合は、その場で抽選を行い、定員分の体育研究所許可証取得者を決定します。

4月10日(金)
16:00
~16日(木)
10:00

Webによる履修申告期間

学事Webシステムによる履修申告が必要です。

履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。

各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。

秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

履修者数の調整について

体育研究所許可証を取得した学生は、履修申告すれば、必ずその科目を履修できます。体育研究所許可証を未取得であっても、履修申告はして構いません。ただし、許可証取得者が優先され、それでも定員に不足が生じた場合に限り、未取得者の中で抽選が行われます。

4月22日(水)

履修者数調整結果発表

9:00 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板
10:30 三田 西校舎共通掲示板

追加履修を受け付ける、定員に余裕のある科目も同時に発表します。

追加履修は抽選で外れた場合のみ、外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。

追加履修のためには、体育研究所許可証の取得と修正申告の手続きが必要です。

三田設置科目の体育研究所許可証は各授業で発行します。各授業で許可証を取得し、定められた期間に学事センターで修正申告を行なってください。

5 日吉設置科目履修申告までの流れ

**4月6日(月)
・7日(火)**

体育科目ガイダンス(日吉)
体育科目の履修を希望する場合は、履修案内、講義要綱・シラバス、体育科目時間割を持参のうえ出席してください。
4月6日 9:00 DB201・DB202・DB203 番教室
7日 14:45 DB201・DB202・DB203 番教室

**4月4日(土)
~15日(水)**

定期健康診断を受診(日吉)
実技科目(スポーツクラス)を履修する場合は大学保健管理センターが日吉で実施する定期健康診断を必ず受診してください。(この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する定期健康診断を受診してください。)
実施場所: 第5校舎

現在、運動に制限がある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断受診の際に診断書(制限について記載のあるもの)を持参してください。診断書の持参がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますのでご注意ください。

健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと実技科目(スポーツクラス)の履修はできません。

健康診断の結果、「体育2」、「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター総合窓口申し出てください。

授業開始時まで健康診断を受診していない場合は、授業担当者に必ず申し出てください。

**4月8日(水)
~10日(金)
・13日(月)
・14日(火)**



体育科目ガイダンス週間(日吉)
体育科目の時間割どおりに実施します。
ただし、実技科目はこの期間のみ、すべて日吉記念館スタンドで行います(時間割の実施場所ではありません)。
各時限とも同一内容のガイダンスを、前半・後半の2回行います。
シーズン・スポーツの科目は個別のガイダンスはありません。日吉記念館(総合案内)で担当教員の説明を受けてください。

科目ガイダンス	場 所
体育学講義	時間割指定教室
体育学演習	時間割指定教室
ウィークリー・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館スタンド
シーズン・スポーツ(実技A・実技B)	日吉記念館(総合案内)

レベルの高低や、自己の都合などによる履修の取消、変更はできません。

**4月10日(金)
16:00
~16日(木)
10:00**

Webによる履修申告期間
学事 Web システムによる履修申告が必要です。
履修申告用紙の場合は、必ず申告用紙のコピーを保管しておいてください。
各学部の履修案内をよく読んで正確に履修申告してください。
秋学期科目を履修する場合も必ずこの期間中に履修申告をしてください。

 4月22日(水) 	履修者数調整結果発表 9:00 日吉 第4校舎B棟1階 J11番教室前掲示板 10:30 三田 西校舎共通掲示板
--	---

体育実技 A, 体育実技 B, 体育学演習では, 履修希望者が定員を上回った場合, 抽選による履修者数の調整を行います。履修申告した者は, 履修の可否を必ず確認してください。ただし, 体育学講義は, 抽選による履修者数の調整は行いません。

シーズン・スポーツのアウトドアレクリエーション, 山岳, スキー, スケート, 馬術, ヨット, 水泳(オープンウォータースイミング)の履修者は後述の実技費用納入の手続きを行ってください。

4月22日(水) ~5月11日(月)	追加履修について 履修調整の結果, 定員に余裕のある実技科目・演習科目は追加履修することができます。 追加履修は抽選で外れた場合のみ, 外れた単位数の範囲で認めます。それ以外の追加は一切認められません。
5月7日(木) ・8日(金) ・11日(月)	追加履修するためには, 体育研究所許可証の取得と, 修正申告期間中の修正申告の2つの手続きが必要です。 履修調整結果を再確認し, 誤りのないようにしてください。

体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について, 以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受付日時	申込場所
4月22日(水) 9:15~11:30, 12:30~16:00 4月24日(金) 9:15~11:30, 12:30~16:00	体育研究所
4月27日(月)~5月11日(月)(平日のみ) 受付時間 8:45~16:45 (最終日 16:00終了)	日吉学事センター総合窓口

春学期ウィークリースポーツの追加履修を希望する場合は, 必ず22・24両日中に体育研究所許可証を取得してください。27日以降は取得できません。

修正申告の手続き

で受け取った体育研究所許可証を持参し, 定められた期間に学事センターで履修申告を行ってください。

いずれの手続が不足しても追加履修はできません。また, 所属する学部が追加履修を認めていない場合は, 行っても修正申告の手続はできません。

6 シーズン・スポーツ(合宿科目)の実技費用納入について

(1) シーズン・スポーツのうち, 以下の合宿形式7科目については, 指定期間内に実技費用の納入が必要です。

実技費用納入科目 アウトドアレクリエーション・山岳・スキー・スケート・
馬術・ヨット・水泳(オープンウォータースイミング)

実技費用納入日時	受付時間	受付場所
4月22日(水)~5月11日(月)	8:45~16:45	日吉学事センター総合窓口(納入用紙交付)

上記科目は, 履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

費用が納入期間に間に合わない場合は, 総合窓口に申し出てください。申し出なく期間内に納入しなかった場合は, 履修放棄として取扱います。(DまたはF評価)

(2) 実技費用納入締め切り後, なお人員に余裕がある科目については, 追加履修を受付けます。

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

球技

体育実技 A (テニス) 月曜 1 限 (上級)	堀場 雅彦
-----------------------------	-------

〔授業の目的〕
テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕
綱町グラウンドテニスコート(屋外)

〔服装・携行品・その他〕
硬式テニスラケット, シューズ(ハードまたはオールコート用)

〔参考書〕
「テニスはここから楽しくなる」情報センター出版局 堀場雅彦著

〔授業の計画〕
1 限(90分)の計画
05 準備体操
10 球出しによるウォーミングアップ, フォア・バックハンドストローク
30 サービス, シングルス・ダブルスポジションにて
40 ペアーボレーボレー
50 ダブルスゲーム, MIX・男子・女子
85 総括

半期 13 回の計画
毎週, 毎回上記 1 限計画の流れで基本的に授業を進めるが, 参加者数により, ラリー(クロス・ストレート), シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に, 以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。
1~3 週: 腕の振り
4~6 週: 身体のバランス
7~10 週: 足捌き(フットワーク)
11~13 週: 総括および戦術

〔履修者へのコメント〕
テニスはサッカーについて, 全世界 120 개국以上に普及した国際的スポーツです。また, 国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も, 5 歳刻みで 85 歳までのカテゴリーに分けられ, 腕を競い合っています。正にグローバリゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に, 是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕
平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席・技術・態度・理解の 4 項目を点数化し, その合計点で評価します。4 項目の配点等については科目ガイダンス時に説明します。)

体育実技 A (テニス) 火曜 1 限 (初中級)	加藤 大雄
------------------------------	-------

〔授業の目的〕
生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得

〔実施場所〕
綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕
テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕
2 回をセットとして, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, を技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気の中で授業を進める予定。3 回の技術力テストを行う。雨天時は当日の朝, 掲示する。

〔履修者へのコメント〕
テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕
平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席(60%), 技術(10%), 態度(20%), 理解(10%)の項目を点数化し, その合計点で評価する。)

体育実技 A (テニス) 火曜 2 限 (中上級)	加藤 大雄
------------------------------	-------

〔授業の目的〕
生涯スポーツとしてのテニスの基本的技術と, ルールの習得ならびに, テニスにおける戦術の指導。

〔実施場所〕
綱町グラウンド テニスコート

〔服装・携行品・その他〕
テニスラケット, テニスシューズ, 運動ができるウェア

〔授業の計画〕
戦術的な説明をしつつ, フォアハンドストローク, バックハンドストローク, サーブ, ボレー, スマッシュを技術指導していく。その後は技術の習熟度によって内容を決めていく。比較的自由的な雰囲気の中で授業を進める予定。実践的な練習が多い予定。雨天時は当日の朝, 掲示する。

〔履修者へのコメント〕
テニスに意欲のある生徒を望む。

〔成績評価方法〕
平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席(60%), 技術(10%), 態度(20%), 理解(10%)の項目を点数化し, その合計点で評価する。)

体育実技 A (テニス) 金曜 1 限 (初級)	村松 憲
-----------------------------	------

〔授業科目の内容〕
テニスを楽しむために必要な技術・エチケット・ルールを身につけます。実施場所は綱町グラウンド(屋外ハードコート1面, 三田キャンパス西門から徒歩3分程度)です。準備していただく物は, テニスシューズ, テニスラケット(シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕
以下のような予定ですが, 履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。
1~2 回目 ボールとラケットに親しむための基礎練習
3~6 回目 ボレー, サービス, グラウンドストローク, スマッシュの基礎練習
7回目以降 クロスコートでのポイント形式練習, ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕
テニスが全く初めての方でも大丈夫です。また, 少し経験はあるけれども基礎を確認したい, という方も歓迎します。かなり経験を積んだ方が参加しても構いませんが, あくまで, 初級者にレベルを合わせて授業をすすめますので, あらかじめご理解下さい。授業は定刻(9時)に開始します。綱町武道館で更衣を完了した上でテニスコートに来てください。2 限に授業がある方を考慮し, 多少早めに終了します。なお 4 月のガイダンスはテニスコート上でなく, 綱町武道館にて行います(ガイダンス当日はラケットや更衣は不要です)

〔成績評価方法〕
出席点が 60 点, 技術点が 10 点, 態度点が 15 点, 理解点が 15 点です。

〔質問・相談〕
村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技 A (テニス) 金曜 2 限 (中級)	村松 憲
-----------------------------	------

〔授業科目の内容〕
試合を楽しむために役立つ技術・戦術を身につけます。エチケット, ルールを再確認します。実施場所は綱町グラウンド(屋外ハードコート1面, 三田キャンパス西門から徒歩3分程度)です。準備していただく物は, テニスシューズ, テニスラケット(シューズ, ラケットの貸し出しはありません), 運動に適した服装です。雨天時には綱町グラウンドの武道館にてテニスを行います。

〔授業の計画〕

以下のような予定ですが、履修者の技術水準等を考慮して若干変更する場合があります。

- 1～3回目 サービス、ボレー、グラウンドストローク、スマッシュ、リターン等、基礎技術の確認と練習
- 4～6回目 回転をかけるサービス、ジャンピングスマッシュなど、試合を有利にする上で役立つ応用技術の確認と練習
- 7回目以降 クロスコートでのサービスからのポイント形式練習、ダブルスの試合形式練習

〔履修者へのコメント〕

このクラス（中級）では、技術レベルも成績評価の対象とします。また、実践形式を多く行います。したがって、「打ち合いで安定して10往復以上続けることができる（相手が打ちやすいボールを出してくれた場合）こと」が難しい方にはおすすめてできません。授業開始時刻は、1限に授業がある方を考慮し、10時50分を予定しています。綱町武道館で更衣を完了して、テニスコートに来てください。なお4月のガイダンスはテニスコート上でなく、綱町武道館にて行います（ガイダンス当日はラケットや更衣は不要です）。

〔成績評価方法〕

出席点が60点、技術点が15点、態度点が15点、理解点が10点です。

〔質問・相談〕

村松までメールでご連絡下さい mura@hc.cc.keio.ac.jp

体育実技A（バレーボール） 木曜1限・2限

石手 靖

〔授業科目の内容〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装・屋外シューズ

〔授業の計画〕

1. 個人の技術レベルの向上（4回）
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。ラリーを楽しむことを主眼としたゲームの実施。
2. 集団技能の学習とフォーメーションの理解（4回）
サーブレシーブ時等のフォーメーションの理解。フォーメーションを利用したゲームの実施。
3. リーグ戦形式のゲームの実践（5回）
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。ゲームで活用できるような個人技能のレベルアップ。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業にしたいと思っています。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席（60%）、態度（20%）、理解（20%）の項目を点数化し、その合計点で評価する。）

武道

体育実技A（合気道） 木曜2限

心が身体を動かす

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して、心と身体からだの正しい使い方しんしんとういつ（心身統一）を習得する。

心身統一を日常生活で活用できるように習得する。

大切な場面での心の落ち着きを習得する。危険に対する察知と対応を習得する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

道着は貸与。Tシャツ（女子のみ）・タオル（汗をふくため）・道着を持ち運ぶバッグ等。

〔授業の計画〕

半期前半

- ・合気道基本技
- ・心が身体を動かす（心身統一）
- ・正しい姿勢（自然に安定した姿勢）
- ・安全な受身と間合い

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス（虚脱状態との違い）
- ・大切な場面での心の落ち着き

・危険に対する察知と対

春学期と秋学期ではテーマは同じですが、内容は異なります。

半期が基本ですが、通年で履修をすると理解がさらに深まります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から確実にお伝えしますので、合気道を初めて学ぶ方でも安心して学べます。

半期で一通りのことを学ぶことが出来ますが、しっかりとした習得には通年で履修をおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等については科目ガイダンス時に説明する。）

体育実技A（弓術） 火曜1限・2限

円谷 洋一

〔授業科目の内容〕

ウィークリースポーツとしての弓術の授業は、経験者（熟達者・初心者）と未経験者の3タイプに分けて行います。

経験者には、射法・射術の向上と、武道姿勢・礼節の習熟を学んでいただきます。

未経験者には基本弓術の習得を通じ、親しみ・理解を深めると共に、武道ならではの姿勢・礼節の意義を学んでいただきます。

〔テキスト〕

「諸注意事項」「慶應弓術の歩みと特徴」「武道姿勢・礼節の基本」「射法・射術解説」を記した、『指導テキスト』を作成。（A4 サイズ数ページ）

〔授業の計画〕

- 1 オリエンテーション...「諸注意」「道場内における武道姿勢・礼節」等
映像を使用した「和弓の特性」「射法・射術」解説
<経験者>の習熟レベル判断
- 2 <経験者> 的前練習...射法・射術の修正指導 以降12回まで継続指導
<未経験者> 射法基礎...素引き練習
- 3～5 <未経験者> 射法基礎...素引き練習・ゴム弓練習
- 6～9 <未経験者> 的前(近距離)練習 8限まで継続練習
- 10～12 <未経験者> 的前練習...射法・射術の修正指導
- 13 成果披露
まとめとしての講評

〔履修者へのコメント〕

弓術の楽しさと共に奥深さを感じていただければと、考えています。服装は、弓道着でなくとも、運動の出来る服装（前ボタンや胸ポケットのないもの）であれば自由です。靴下または足袋を必ず着用してください。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価

体育実技A（剣道） 水曜2限・3限

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（剣道場）

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴（運動に相応しい服装も可）・手ぬぐい

剣道具（防具）・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- 1 ガイダンス剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎
- 2 素振りのバリエーション 五行の構え 对人的足さばき
- 3 基本の復習 日本剣道形の導入・1本目
- 4 日本剣道形1～2本目 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方
- 5 日本剣道形1～3本目 基本的な技の打ち方 防具の着け方
- 6 日本剣道形1～4本目 手の内の冴えについて 正中線の意味切り返し
- 7 日本剣道形1～5本目 一本打ちの技
- 8 日本剣道形1～6本目 連続技(二・三段打ちの技)払い技 捲き技
- 9 日本剣道形1～7本目 応じ技(すり上げ技・返し技)
- 10 日本剣道形1～7本目 応じ技(抜き技・打ち落とし技)
- 11 日本剣道形小太刀1～3本目 出頭技

12 日本剣道形復習試合規則の確認 試合形式の実践

13 紅白試合まとめ

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席60%、技術10%、態度20%、理解10%の割合で点数化して評価する。

体育実技A（柔道） 月曜2限・3限

（初心者、経験者を問わない～男女共習）

安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。また、見る柔道の立場から、国際国内ルールを説明する。更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館（柔道場）

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣（希望者には貸与する）、タオル、Tシャツ（女子のみ）

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作（礼法、受身、体捌き）
- 3 投げ技と受身の反復練習（大外刈、大内刈等）
- 4 投げ技と受身の反復練習（大腰、背負投等）
- 5 投げ技と受身の反復練習（送足払、払釣込足等）と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技（抑込技、絞技、関節技）の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古（立技、寝技）
- 13 試合方法、審判法（国内、国際ルール）の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

平常点：出席状況および授業態度による評価（出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。）

網町グランド案内



福澤研究センター

慶應義塾福澤研究センターは、1983年に義塾創立125年を記念して、旧図書館内に設立された研究所です。この研究所の目的は、一つは福澤諭吉および慶應義塾に関する資料の収集・整理・保管ですが、単にそこにとどまるものではありません。同時に、福澤諭吉と慶應義塾を視野においた近代日本の研究も本研究所の重要な役割です。このような研究を目的としているのは、一面では、福澤諭吉や各界で活躍した慶應義塾出身者について研究することが、そのまま日本の近代化について考える大きな鍵となるからです。また他面では近代日本に広く目を配ることなしには、福澤諭吉と慶應義塾の歴史的意義も本当には理解できないからでもあります。

しかも、福澤諭吉に関する研究は、狭く日本の内部にとどまるものではありません。福澤が投げかけた近代化の課題は、19世紀以降の日本を含む世界中の後発国が直面した問題でした。このため、福澤諭吉に取り組むことは、例えばアジアの近代化を考えることに直接的にも間接的にもつながってゆきます。このように、各国にまたがる広い関連性を持った研究に本センターは関わっており、文字通り世界における福澤研究の中心として機能しています。

このような目的をかかげて、これまで福澤研究センターは、学術誌『近代日本研究』、資料集、叢書の刊行や、講演会、セミナー、展覧会などを開催してきました。また、これらの資料整理・研究活動は、28名の所員（専任2名、兼担26名）、9名の顧問、29名の客員所員、6名の事務スタッフ等により支えられています。

本設置講座は、このような活動を続けている福澤研究センターが提供する大学講座です。講座の目的は、第1には、福澤研究センターを中心として、塾内外の研究者により行われてきた研究の学術的な成果を、講義・演習を通して学生諸君に受け止めてもらうことです。また、第2には、福澤諭吉や慶應義塾を視野においた近代日本史への関心を喚起することです。さらに、第3には、将来福澤諭吉研究者や大学・学校史の研究者に育ちうる人材を教育することがあります。そして、第4には、この講座を通して、21世紀の世界にとって、福澤諭吉の思想と慶應義塾の歴史が、いかなる意味を持っているかを考える機会を作ることを目指しています。

近年、慶應義塾で学びながら、義塾がいかなる歴史を持っていたのかを知らず、また福澤諭吉の著作を読むこともなく卒業する塾生が増えています。多くの学ぶべきことが他にもある現在、それはそれで一つの学生時代の過ごし方であることは確かです。しかし、福澤の著作は、その主張に賛成するものにとっても反発するものにとっても、面白く刺激的です。そのような福澤の著作に触れる機会もなく卒業することは、我々福澤研究センターのスタッフは惜しいことだと考えています。しかも、本設置講座は、文・経・法・商などの学部では卒業単位や進級単位として認められています。

本年度は日吉で1コマの講義、三田で6コマの講義・演習を開講しますので、諸君の活発な履修を期待しております。

（慶應義塾福澤研究センターのホームページ <http://www.fmc.keio.ac.jp/>）

近代日本研究 (春学期)(2)

『学問のすゝめ』とその時代

法学部教授 岩谷 十郎
商学部教授 牛島 利明
経済学部教授 小室 正紀
教職課程センター教授 米山 光儀

授業科目の内容:

福澤諭吉の初期の代表作『学問のすゝめ』は、明治5年2月から明治9年11月までの5年間にわたって、17編に分けて逐次刊行された。それは、福澤の生涯の中では、『文明論之概略』に結実する思想の形成期であった。また、この時期は、学制発布、鉄道初開通、徴兵令布告、征韓論、明六社結成、地租改正、民選議院設立建白書、佐賀の乱、征台の役、立志社設立、江華島事件、萩の乱など、制度改革や事件が陸続する時であり、まさに揺籃期の明治社会にとっては、改革と模索の次期であった。

この講義では、『学問のすゝめ』各編を取り上げて、4人の担当者が分担して講義を行うが、単にその文面から福澤の思想を考えるだけでなく、同書の各編を、福澤の人生と初期明治社会の変動の中に位置づけることを目指したい。またその過程を通して、福澤の思想と近代日本社会形成の間にある緊張関係を考えてみたい。

テキスト:

福澤諭吉『学問のすゝめ』(各種の版がある。どの版でもよい。)

参考書:

福澤諭吉『福翁自伝』(各種の版がある。どの版でもよい。)

慶應義塾編『福澤諭吉書簡集』第1巻、岩波書店、平成13年

慶應義塾編『福沢諭吉の手紙』岩波書店、平成16年

丸山真男『「文明論之概略」を読む』岩波書店、昭和61年

授業の計画:

- 第1回 はじめに 担当: 米山
第2~4回 初編~4編(明治5年2月~7年1月) 担当: 米山
第5~7回 5編~8編(明治7年1月~7年4月) 担当: 岩谷
第8~10回 9編~12編(明治7年5月~7年12月) 担当: 小室
第11~13回 13編~17編(明治7年12月~9年11月) 担当: 牛島

担当教員から履修者へのコメント:

講義当日に取り上げる編を事前に読んでくること。

成績評価方法:

1. 試験の結果による評価(試験方法については、第1回の講義で説明する。)
2. 平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

講義中ないしは講義後に質問・相談に応じる。

近代日本研究 (秋学期)(2)

- 福澤諭吉の近代化構想 -

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容:

福澤諭吉は明治維新前後の世の中の劇的な変化について「一身にして二生を経るが如し」と述べたことがある。彼は68年の生涯を、文字通り34歳で迎えた明治維新によって二分することとなった。しかし福澤は一般に、明治維新前後の著作活動、たとえば『西洋事情』『学問のすゝめ』などを著した啓蒙思想家としての評価が大きく、明治期の活動は、一般にあまり認識されていない。本講義では多様な側面を有した明治期の福澤の活動を最新の研究動向を踏まえながら取り上げ、福澤諭吉という人物のイメージを新たに描き出してもらいたいと考えている。

テキスト:

指定しない。

参考書:

適宜講義中に紹介する。

授業の計画:

1. 福澤諭吉の生い立ちと明治維新
2. 文明開化と福澤

3. 自由民権運動と福澤

4. 『時事新報』と明治政府

5. 朝鮮問題をめぐる言論と運動

6. 慶應義塾と福澤

7. 構内史蹟見学

担当教員から履修者へのコメント:

「福澤諭吉入門」と位置付けて講義を行うので予備知識は求めない。福澤の思想に触れてみたい学生を広く歓迎したい。

成績評価方法:

レポートによる評価

質問・相談:

講義後やEメールで適宜応じる。

近代日本研究 (春学期)(2)

- 「一身独立」「独立自尊」を考える -

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容:

福澤諭吉が近代社会に問いかけた「一身独立」そして「独立自尊」とは何であったのかについて、いくつかのトピックスを中心に生涯を通じて考察し、更に「士族社会」をキーワードに再考を試みる。

テキスト:

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書:

『福澤諭吉書簡集』(岩波書店、2001~2003年)

『福澤諭吉著作集』(慶應義塾大学出版会、2001~2003年)

他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画:

- 1 序論 授業テーマの説明および「一身独立」「独立自尊」に関する予備的講義
- 2 福澤諭吉の生涯と「一身独立」「独立自尊」
中津の学問的伝統
滞米滞欧体験
著作権確立運動
交詢社の設立
朝鮮からの留学生
- 3 福澤諭吉と士族社会 - 中津藩と三田藩を中心に -
「中津留別之書」と「旧藩情」
中津市学校
銀行類似会社
養蚕製糸業
開拓事業
- 4 まとめ 授業を通して考察したことについての意見交換

担当教員から履修者へのコメント:

知識を受受するのではなく、授業を通じて共に考えることを目的とする。

成績評価方法:

1. レポートによる評価
2. 平常点: 出席状況および授業態度による評価(出席率ではなく、参加態度を評価します。)

近代日本研究 (秋学期)(2)

- 福澤諭吉の女性論・家族論を考える -

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容:

福澤の女性論・家族論は、同時代のみならず大正期・昭和期に入っても、たとえば与謝野晶子、本間久雄、山高しげりなど多くの人々に高い評価を得ながら読み継がれてきた。また没後四半世紀をすぎても、強い批判を受け、戦時下においてはさらに激しくなった。それは福澤の指摘が今日的であり続けたからであり、つまりは近代化の過程において、福澤が提示した課題は克服されなかったことを示している。近代日本において形成された女性像・家族像は、福澤の構想とは異なるものであった。

本授業では、福澤の著作を読むとともに、同時代の他者による女性

論や家族論とも比較しながら、福澤の意図はどこにあったのか、また最終的に社会的規範として受け入れられていった女性論や家族論との相違はいかなるものであったのかを考察し、その視点から近代日本について考えたい。

テキスト：

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

『福澤諭吉著作集』第10巻（慶應義塾大学出版会，2003年）

他は適宜授業中に紹介する。

授業の計画：

- 1 予備的講義
- 2 福澤諭吉の女性論・家族論
 - 1) 「中津留別の書」
 - 2) 『学問のすゝめ』
 - 3) 「日本婦人論」『日本婦人論後編』
 - 4) 『男女交際論』『男女交際余論』
 - 5) 『日本男子論』
 - 6) 『女大学評論・新女大学』
- 3 明六社の女性論・家族論
森有礼「妻妾論」・加藤弘之「男女同権の流弊論」
- 4 自由民権運動の中の女性論・家族論
土居光華『文明論女大学』・岸田俊子「同胞姉妹に告ぐ」・福田英子『妾の半生涯』
植木枝盛『東洋の婦女』
- 5 キリスト教主義の女性論・家族論
矢島楯子，潮田千勢子，新島襄，内村鑑三
- 6 儒教主義の女性論
丹靈源『国母論』・大江スミ子『女房説法鉄砲三ぼう主義』
井上哲次郎『女大学の研究』
- 7 まとめ
* 1回ないし2回，福澤研究センターもしくは「女性と仕事の未来館」展示室の見学を行う。

担当教員から履修者へのコメント：

知識の授受ではなく、ともに考える授業にしたいと思います。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価（出席率ではなく、参加態度を評価します。）

質問・相談：

随時。

近代日本研究演習（春学期）(2)

明治期新聞『時事新報』を読む

福澤研究センター専任講師 都倉 武之

授業科目の内容：

この演習では、明治15年に福澤諭吉が創刊した日刊新聞『時事新報』を読んでいくことを通し、明治期の日本の姿と、それを捉える福澤の視点について考えていく。このことは、単に明治の社会や政治史に理解を深めるだけでなく、ジャーナリスト、教育者、また啓蒙思想家としての福澤の姿を浮かび上がらせる多くの示唆に富む作業となる。取り上げる記事は社説を中心とするが、風刺漫画や広告など、時代を表す紙面の全体像も題材として盛り込んでいきたい。

テキスト：

『時事新報』紙面のコピーを適宜配布する。

『近代日本メディア人物誌』（ミネルヴァ書房，近刊）

参考書：

- ・石河幹明『福澤諭吉伝』全4巻（岩波書店）
- ・富田正文『考証福澤諭吉』上下（岩波書店）
- ・寺崎修 編『近代日本の政治』第2巻（法律文化社）

授業の計画：

1. 『時事新報』概説 歴史と研究の現状
2. 国内政治論
3. 国際政治論
4. ジャーナリズム論

5. 風刺漫画，広告

6. 福澤没後の論調

担当教員から履修者へのコメント：

丁寧な解説を心がけるが、古いテキストを根気よく読み解く意欲ある学生を歓迎したい。

成績評価方法：

1. レポートによる評価
2. 平常点：出席状況および授業態度による評価

質問・相談：

随時。

近代日本研究演習（秋学期）(2)

地方新聞に見る明治

福澤研究センター准教授 西澤 直子

授業科目の内容：

この演習では、主に福澤諭吉の故郷である中津で発行された『田舎新聞』『田舎新報』（明治9年～18年）を取り上げ、論説だけではなく社会面や広告欄も読むことによって、近代化が進みつつあった明治期日本の実情がいかなるものであったのかを考えたい。『田舎新聞』およびその後継紙である『田舎新報』は、福澤や門下生たちの関与があり、紙面構成は充実している。そこから中央の動静と地方の動静の双方を同時に読みときたい。

参考書：

野田秋生『豊前中津』『田舎新聞』『田舎新報』の研究：明治十年代一地方紙の初志と現実』エヌワイ企画 2006年

授業の計画：

1. 予備的講義
2. 福澤諭吉と中津
3. 『田舎新聞』の創刊
4. 『田舎新報』の創刊
5. 両紙にみられる士族社会論
6. 両紙にみられる女性論
7. 広告の展開
8. 地域社会と地方新聞
9. 『田舎新聞』『田舎新報』の終焉
10. 発表と討論

担当教員から履修者へのコメント：

史料を手に、ともに考える授業にしたいと思います。

成績評価方法：

1. 平常点：出席状況および授業態度による評価（出席率ではなく、参加態度を評価します。）
2. その他（授業中に意見発表の時間があります。その際簡単なレポートの提出を求めます。）

質問・相談：

随時。

慶應義塾大学国際センター 在外研修プログラム

全学部・研究科在籍生を対象に、夏季・春季休業期間中に開催されます。単なる語学研修でなく、講義やディスカッションのほか大学内の寮生活をはじめとする多彩な諸活動を通して様々な異文化交流を体験することで国際性豊かな学生を育成することを目的としており、短期間で集中して国外学習を経験できる貴重な機会になっています。

現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

新たなプログラムが追加されることもありますので、国際センターホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する場合があることをあらかじめご了承ください。

【問合せ先】 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/index.html> 「海外に関心のある塾生へ」の「短期プログラム」
詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。春季講座の詳細は10月ごろホームページで発表します。

【夏季講座ガイダンス】 4月2日(木) SFC 11番教室 16:30~18:00 4月6日(月) 三田 526番教室 10:45~12:15
4月4日(土) 矢上 12-211番教室 12:00~13:00 4月6日(月) 日吉 33番教室 16:30~18:00

【夏季講座応募について】(すべて予定)

- (1) オンラインレジストレーション期限 4月12日(日)
- (2) 募集期間 4月13日(月), 14日(火)
- (3) 一次合格発表 4月22日(水)
- (4) 面接審査 4月25日(土)
- (5) 選考結果発表 5月1日(金)

【単位について】

各講座の単位は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは、各学部・研究科によって異なりますので各自確認してください。ただし、春季講座は次年度春学期設置科目として認定のため、参加時に最終学年の場合は対象外となります。

ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

ケンブリッジ大学教員による6つの講義の中から3つを自由に選択する方式のため、自分の専攻分野の学習を深めるだけでなく、知識の幅を広げることができます。

【現地研修期間】2009年8月3日(月)~9月2日(水)(予定)

【研修内容】講義(午前)、ケンブリッジ大生(TA)をまじえてのディスカッション(午後)、エッセイ作成(週末)

【開講予定科目】(予定)

English Literature, British Art, Ancient Greece and Western Civilization, Astronomy: Unveiling the Universe, The Science of Chaos, Evolution and Behavior.

【単位数】4単位

【募集人数】60名

ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

ウィリアム・アンド・メアリー大学は1693年創立の州立大学で、教育・研究で高い評価を得ています。両校の学生が混在する小グループで日米文化をめぐるトピックを研究します。

【現地研修期間】2009年7月29日(水)~8月13日(木)(予定)

【研修内容】ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーションなど。

【単位数】4単位

【募集人数】40名

ワシントン大学夏季講座

シアトルの豊かな自然を活かしたフィールドトリップを織り込みながら「環境」を多面的な視点から学びます。この講座にはAPRU(環太平洋大学協会)に加盟している海外大学からも数名の学生が参加する予定です。

【現地研修期間】2009年8月3日(月)~8月22日(土)(予定)

【研修内容】講義/ワークショップ、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、体験宿泊旅行

【単位数】4単位

【募集人数】30名

オックスフォード大学リンカーンコレッジ夏季講座

ディベート、演劇のワークショップなどを織り込みながら、イギリスの歴史・政治・文化を学びます、また、800年に亘り英国エリートを輩出してきたオックスフォード教育を体験できます。

【現地研修期間】2009年8月21日(金)～9月5日(土)(予定)

【研修内容】講義、ディベート、ディスカッション、ワークショップ、観劇など

【単位数】4単位

【募集人数】20名

パリ政治学院春季講座

拡大するEUの政治・経済・社会・文化の諸問題、EU対諸外国との国際関係等、ヨーロッパをめぐる様々なテーマを学びます。フランス語の研修もあり、2カ国語を同時に磨く機会となります。講義はすべて英語で行われます。

【現地研修 2008年度参考】2009年2月16日～2009年3月13日

【講義内容 2008年度参考】共通ブロック1つと、選択ブロックの中から2つの計3ブロックを履修。

共通ブロック

“Europe: what are we talking about?”

選択ブロック

“Economics of the Euro area”

“Europe and its external relations”

“Migration and identities”

【単位数】4単位

【募集人数】定員：20名

延世大学春季講座

政治・経済・社会・文化についての講義、韓国語の授業や延世大学学生との交流、慶州へのツアー、テコンドー教室などがあり、韓国を全般的に理解することができます。講義はすべて英語で行われます。

【現地研修 2008年度参考】2009年2月9日～2009年2月21日

【講義内容 2008年度参考】

- 1 Japan-Korea Relationship: Current Issues and Prospects
- 2 Contemporary Korean Pop Culture and the Cultural Wave of "Hallyu"
- 3 Environmental Protection and the Role of NGOs in Korea
- 4 North-South Korean Relations: Challenges and Opportunities
- 5 Political Economy of Korean Development

【単位数】2単位

【募集人数】20名(学部生対象)

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取扱う国/地域は、アジア・オセアニア、北米・南米、ヨーロッパからアフリカにおよぶほか、国際社会、異文化理解をうながす講座もあります。一方日本研究講座では、社会、経済、ビジネス、政治をはじめ歴史、文学、芸術、思想・宗教など幅広い側面から日本を探究します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生、大学院生、別科生および特別短期留学生（原則として学部の新入生を除く）

2. 単位 各科目2単位
（なお、医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません）

3. 手続方法

履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用してください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料

5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板および以下の WEBSITE の掲示板上に掲示されます。

6. WEBSITE

この講義要綱には、各科目の概要（Course Description）しか掲載していません。「テキスト」「参考書」「授業の計画」「担当教員から履修者へのコメント」「成績評価方法」等については以下の WEBSITE を参照してください。

<http://www.ic.keio.ac.jp/iccourse/index.html>

2009-2010 Keio University International Center: International Studies Courses (2009年度 慶應義塾大学国際センター国際研究講座)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (**)のついた科目は学部生履修不可
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title (Japanese)	Lecturer (Japanese)	Offered by
	Spring	Fri	5	CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY	Farrer, Gracia	現代中国社会	ファーラー, グラシア	
	Fall	Thu	3	SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2	Soeya, Yoshihide	東アジアの国際関係特殊研究 II	森谷 芳秀	F(Law)
	Spring	Fri	1	SPECIAL COLLOQUIUM ON INTERNATIONAL RELATIONS(*)	Yamamoto, Nobuto	国際政治論特殊研究 (*)	山本 庸人	GS(Law)
	Spring	Wed	4	DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE	Kurasawa, Aiko	開発と社会変容	倉沢 愛子	
Area Study: Asia, Oceania	Fall	Mon	4	WORLD OF SOUTHEAST ASIA	Nomura, Toru	東南アジア世界の諸相	野村 亨	
	Spring	Wed	4	CONSTRUCTING INDIA	Williams, Mukesh	インドをソウゾウする	ウィリアムズ, ムケーシュ	
	Fall	Thu	5	INDIA TODAY	Nishimura, Yuko	現代インド事情	西村 祐子	
	Spring	Thu	4	INDIAN MUSIC	Hoffman, T. M.	体系学としてのインド音楽	ホフマン, T. M.	
	Fall	Wed	4	LISTENING TO ASIA	Hoffman, T. M.	アジアの音楽	ホフマン, T. M.	
	Spring	Wed	5	AUSTRALIA AND THE ASIA-PACIFIC REGION	Ackland, Michael	オーストラリアとアジア太平洋地域	ア克蘭ド, マイケル	
	Spring	Mon	4	AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	Okuda, Akiyo	地域文化論(アメリカ)	奥田 暎代	
Area Study: North America, South America	Fall	Wed	4	AMERICAN STUDIES	Williams, Mukesh	アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策	ウィリアムズ, ムケーシュ	
	Fall	Tue	5	CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	Yellowlees, James	カナダという国とカナダの国際的な役割	イエローリース, ジェームズ	
	Spring	Tue	5	LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS	Antolinez, Mario	世界政治におけるラテンアメリカ	アントリネス, マリオ	
Area Study: Europe, Russia	Fall	Thu	5	PROJECT 2: SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION (*)	Tanaka, Toshiro	プロジェクト科目II: 欧州統合 (*)	田中 俊郎	GS(Law)
	Fall	Thu	5	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	Hayashi, Hioki	EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS	林 秀毅	F(Economics)
Area Study: Africa	Spring	Fri	4	AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	Kondo, Hidetoshi	アフリカン インシユーズ: アフリカにおける近代と危機の意味	近藤 英俊	
	Fall	Tue	4	BUILDING THE GLOBAL VILLAGE	Freedman, David	グローバルヴィレッジ構築に向けて	フリードマン, デビッド	
	Spring	Fri	3	COMPREHENSIVE STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS	Abe, Tadahiro	国際関係概論	安倍 忠宏	
	Fall	Thu	3	CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS	Maik, Rabinder	現代の国際問題と国連の役割	マリク, ラビンダー	
	Fall	Fri	4	INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	Goto, Kazumi	国際開発協力論	後藤 一美	
	Fall	Wed	3	LAW AND DEVELOPMENT	Matsuo, Hiroshi	開発法学	松尾 弘	
	Fall	Wed	5	THIRD WORLD DEVELOPMENT AND THE POOR	Bockmann, David	第三世界の開発と貧困	ボックマン, デイヴ	
Global Community	Spring	Fri	3	INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW	Hosotani, Akiko	国際人権法	細谷 明子	
	Spring	Thu	3	INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM	Holley, David	プリントジャーナリズム入門	ホーリー, デイヴィッド	
	Fall	Thu	4	COMMUNISM'S COLLAPSE	Holley, David	共産主義の崩壊	ホーリー, デイヴィッド	
	Spring	Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 3B (*)	Ertl, Wolfgang	倫理学特殊講義III B (*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)
	Fall	Wed	2	SPECIAL LECTURE OF ETHICS 4B (*)	Ertl, Wolfgang	倫理学特殊講義IV B (*)	エアトル, ヴォルフガング	GS(Letters)
	Fall	Tue	2	ADVANCED STUDY OF FINANCE (*)	Fukao, Mitsuhiro	金融特論 (*)	深尾 光洋	GS(Business&Commerce)
Global Economy, Global Business	Spring	Thu	2	INTERNATIONAL ECONOMY (*)	Kashiwagi, Shigeo	国際経済 (*)	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
	Fall	Wed	3	ADVANCED STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS (*)	Kashiwagi, Shigeo	国際関係特論 (*)	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
	Spring	Mon	5	LITERATURE AS HISTORY	Ohandra, Elizabeth	歴史としての文学	オハンドラ, エリザベス	
Culture, Cross-cultural Understanding	Fall	Mon	5	VISIONS OF THE PAST	Aings, Michael W.	比較映画論	エインジ, マイケル	
	Spring	Wed	5	CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY	Yokokawa, Mariko	文化・文化適応とアイデンティティ	横川 真理子	
	Fall	Wed	5	DISCOVERING CULTURE THROUGH OBSERVATION	Yokokawa, Mariko	文化観察による発見と理解	横川 真理子	

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (※のついた科目は学部生履修不可)
 Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title(Japanese)	Lecture(Japanese)	Offered by
Culture, Cross-cultural Understanding	Spring	Tue	4	CULTURE AND THE UNCONSCIOUS	Shaules, Joseph	異文化と自己理解	ショールズ, ジョセフ	
	Fall	Tue	3	LEARNING FROM LIFE ABROAD	Shaules, Joseph	海外生活から学ぶ	ショールズ, ジョセフ	
Science	Spring	Mon	5	HUMAN ENGINEERING	Waniek, Jacqueline	人間工学	ワニェク, ヤクリーン	
	Fall	Mon	5	HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FROM A PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVE	Waniek, Jacqueline	心理学的観点から見る人材管理	ワニェク, ヤクリーン	

2009-2010 Keio University International Center: Japanese Studies Courses (2009年度 慶應義塾大学国際センター日本研究講座)

(*)This course is a graduate level course, and is not open to undergraduate students. (**)のついた科目は学部生履修不可
Unless otherwise indicated, classes are offered by the International Center. (特に記載がないものは国際センター設置科目)

Field	Semester	Day	Slot	Course Title	Lecturer	Course Title(Japanese)	Lecturer(Japanese)	Offered by
	Spring	Mon	5	LANGUAGE BEYOND GRAMMAR	Kim, Angela	日本語の話しことばと書外の意味	キム, アンジェラ	
	Spring	Wed	4	TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION	Raaside, James M.	20世紀の日本と欧米の小説	レイサイド, ジェイムス	
	Spring	Wed	3	JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	Armour, Andrew	浮世と運行き	アーマー, アンドルー	
	Fall	Wed	3	JAPANESE LITERATURE	Armour, Andrew	日本の文学	アーマー, アンドルー	
	Fall	Mon	3	INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE ARTS AND VISUAL CULTURE	Murai, Noriko	日本の近現代美術	村井 則子	
	Spring	Tue	4	INTRODUCTION TO JAPANESE ART HISTORY	Shirahara, Yukiko	日本美術史入門	白原 由起子	
	Fall	Thu	6	ARTS/ART WORKSHOP THROUGH CROSS-CULTURAL EXPERIENCE	Hishiyama, Yuko	アートワークショップ/日本のアートと文化	藁山 裕子	
	Spring	Mon	4	JAPANESE CINEMA	Aings, Michael W.	日本映画入門	エインジ, マイケル	
	Spring	Thu	3	GEISHA	Graham, Fiona	「芸者」	グラハム, フィオナ	
	Fall	Tue	2	SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE (*)	Inoue, Kyoko	科学技術文化特論 (*)	井上 京子	GS(Science&Technology) Note: YAGAMI Campus
	Spring	Fri	4	JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING	Watts, Jonathan	日本仏教と現代社会	ワッツ, ジョナサン	F(Economics)
Thought, Religion	Fall	Mon	5	SEMINAR (Seminar in Intellectual History)	Sakamoto, Tatsuya	演習 (権澤論言『学問のすずめ』を詠む)	坂本 達哉	
	Fall	Tue	5	JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA	Iikura, Akira	政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本文交	飯倉 暁	
	Fall	Mon	4	MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD	Ota, Akiko	近代日本の対外交渉史	太田 昭子	
	Spring	Tue	3	JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	Kimmonth, Earl H.	英国と米国のマスコミに描かれた日本	キンモンズ, アール	
	Fall	Tue	3	A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN	Kimmonth, Earl H.	戦後日本の社会史	キンモンズ, アール	
	Fall	Fri	4	POPULAR MUSIC AND THE CULTURAL HISTORY OF POSTWAR JAPAN	Dorsey, James	日本の戦後史とポピュラーミュージック	ドージー, ジェームズ	
	Spring	Thu	5	IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES	Bockmann, David	新市民社会論	ボックマン, デイヴ	
	Fall	Tue	4	MULTIETHNIC JAPAN	Kashiwazaki, Chikako	多民族社会としての日本	柏崎 千佳子	
	Fall	Fri	5	THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE	Netter, David	家族の近代	ネット, デビッド	
	Spring	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 1	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション1	手塚 千鶴子	
	Fall	Mon	3	INTERCULTURAL COMMUNICATION 2	Tezuka, Chizuko	異文化コミュニケーション2	手塚 千鶴子	
	Spring	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学(1)	手塚 千鶴子	
	Fall	Thu	4	JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)	Tezuka, Chizuko	日本人の心理学(2)	手塚 千鶴子	
	Spring	Fri	5	INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN	Aoki, Hiroko	日本政治論	青木 裕子	
Politics	Fall	Thu	5	JAPANESE FOREIGN POLICY	Nobori, Amiko	日本の対外政策	野垂 美子	
	Fall	Thu	2	JAPANESE ECONOMY	Kashiwagi, Shigeo	ジャパニーズ・エコノミー	柏木 茂雄	GS(Business&Commerce)
	Spring	Mon	5	FOREIGN COMPANIES IN JAPAN	Harris, Graham	日本における外資系企業	ハリス, グレアム	F(Business&Commerce)
Economy, Business	Spring	Thu	5	MANAGEMENT IN JAPAN	Haghiran, Parissa	日本のビジネスマネジメント	ハギリアン, パリッサ	
	Fall	Thu	3	INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS	Yoshida, Fumikazu	国際経営比較	吉田 文一	
	Fall	Fri	3	JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	Umezumi, Mitsuhiro	日本の経営	梅津 光弘	
	Spring	Fri	3	LEADING CREATIVE BUSINESS IN JAPAN	Tobin, Robert	日本の最先端創造的ビジネス	トビン, ロバート	
	Fall	Fri	3	ARTISANRY IN JAPAN'S SMALL BUSINESS	Tobin, Robert	日本の中小企業における職人芸	トビン, ロバート	
Law	Fall	Fri	5	INTRODUCTION TO JAPANESE LAW	Kobayashi, Satsuo	日本法の制度と実態	小林 節	

国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

CONTEMPORARY CHINESE SOCIETY

(Spring)

現代中国社会

Farrer, Gracia

ファーラー, グラシア

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course surveys the post-1978 Chinese society, focusing on social issues under the market reform and conditions of increasingly globalized economy. China's transition to a market-oriented society has effected fundamental changes in the lives of its citizens. Topics include regional economic disparities, changing patterns of employment and unemployment, gender inequality, and both internal and international migration. We will ask: How are women and men faring differently in China's new labor market and workplaces? Are rural peasants and the emerging underclass of urban laid-off workers being left behind by market transition? How are minorities faring in China's transition? How does the emerging digital divide play into the dichotomies of east-west and urban-rural in China? What is the plight of millions of "floaters" migrating into China's cities, with minimal legal rights and protections? How has the one-child policy affected women, children, and society in China? The objectives of the course are 1) to offer exposure to a broad overview of social issues in contemporary China, and 2) to familiarize students with available resources for learning about Chinese society. The class will combine lectures, academic readings, narrative accounts, films, and discussions.

SPECIAL STUDY OF INTERNATIONAL RELATIONS IN THE EAST ASIA 2

(Fall)

東アジアの国際関係特殊研究

Soeya, Yoshihide

添谷 芳秀

Professor, Faculty of Law

法学部教授

Course Description:

This course is offered primarily as an introductory course for the "Three-Campus Comparative East Asian Studies Program," a collaborative program among the Underwood International College of Yonsei University, the Faculty of Social Sciences of the University of Hong Kong, and the International Center of Keio University.

The aim of the course is to give a general overview to the postwar history of international relations in East Asia as well as to more recent post-Cold War developments therein, including Japan's role and external relations in the region. It begins with an overview of the postwar evolution of East Asian politics and security, and proceeds to the discussions of U.S.-China-Japan relations after the Cold War, followed by the examination of the roles of the three countries represented by the three-campus program, i.e., China, Korea and Japan.

The course is thus divided into three parts. In **Part 1 and Part 2**, students are expected to read assigned articles for each week (30-50 pages in English) in order to familiarize themselves with the major issues and themes of postwar and post-Cold War international relations in East Asia. For these parts, **the enrolled students other than those in the three-campus program** are required to present a list of questions for discussion based on the assigned readings, both in writing (one page) and orally (5 minutes), at least once during the course.

Then, we will move on to **Part 3**, where **the students of the three-campus program** will take the role of leading the discussions relevant to the roles of their respective countries in contemporary East Asia.

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

(Spring)

開発と社会変容

Kurasawa, Aiko

倉沢 愛子

Professor, Faculty of Economics

経済学部教授

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively "unknown" world, and so doing, to reconsider such questions as what is "development" and what is "prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness ?

Critical analysis and evaluation are most welcome.

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

(Fall)

東南アジア世界の諸相

Nomura, Toru

野村 亨

Professor, Faculty of Policy Management

総合政策学部教授

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Sub Title:

Indian Identities and Japanese Policies

Course Description:

In August 2007, the Japanese prime minister Shinzo Abe, visited India as part of an emerging policy of building a bilateral relationship between India and Japan. He gave a speech outlining his concepts entitled, "Futatsu no umi no majiwari."

(<http://www.mofa.go.jp/region/asia-paci/pmv0708/speech-2.html>) The speech was replete with Indian cultural references as the title of speech came from a 17th century book *Confluence of the Two Seas* by a Mughal prince and a "history" of Japan-India contacts over the centuries. Some commentators saw the speech as a "paradigm shift" in Japan's foreign policy with South Asia. (<http://japanfocus.org/products/details/2514>) As part of this visit and policy, Japan became an official partner in the Delhi-Mumbai Industrial Corridor Project (DMIC) agreeing to finance 30 billion USD of the project. (http://commerce.nic.in/PressRelease/pressrelease_detail.asp?id=2090)

Yet there is a wide gap between public policy and public knowledge, particularly as it relates to the multi-ethnic nature of Indian histories and societies. To bridge this gap, there is a need within Japanese academic context, to focus on the multiplicity of identities that have emerged in India since the last century and their impact on the contemporary political world, especially Japan. This course will use an interdisciplinary approach to explore the varieties of India's past, the development of Indian identities through literature and language, and how all of this goes to form fragments of a nation and its multiplicities, rather than a "grand" unified narrative. Beginning with an examination of the histories of an Indian past, the course will proceed through lectures by representatives of the India Embassy, Indian multinational companies, Keio University and Sophia University faculties and the Japanese Foreign Service to develop a more comprehensive perspective of India and the historical and cultural connections that inform Japan's policies today.

The class will be conducted in English and reading and writing will be primarily in English.

Grades are also based on attendance classroom participation.

Sub Title:

An Introduction to Social and Cultural Studies of Post-Modern India

Course Description:

This course is aimed at describing India through the 'the middle class', studying the post-colonial socio-cultural history and current problems/burning issues of Indian society. In this course, participants will learn where India's new middle class is at, how globalization influences Indian people (including the diasporas). We will study how caste, class, kinship and gender are inter-related. We will also study the cultural difference between the North, the South, and the West and the East. The emergence of Indian civic sector such as NGOs and grassroots organizations will be discussed and we will study the collaborative efforts between the local government and the grassroots civic organizations. We will also discuss how increasing earning power of women is changing the social relationships. Students are encouraged to study issues from cross-cultural perspective. Essay writing and discussion will focus on understanding such issues as the modernity in Asia, the subalterns (marginalized communities), development and untouchability. Handouts are to be distributed as essential reading materials, and some internet websites are to be suggested for reading. Guest speakers will be invited from time to time.

Sub Title:

Systematics, Mathematics, Linguistics and Poetics in Indian Music: Practical and theoretical studies in creative expression

数学・言語学・詩学・音楽学をむすぶ理論と実践

Course Description:

While Western music studies train individuals to follow a written script (notation) in a group situation featuring harmony, in Indian classical music the student is trained to improvise based on principles of melody and rhythm. This resembles the process of speech in language, where information and ideas are given form in verbal communication through spontaneous combination of phonetics and grammar. Proficiency in speech can also be nurtured through applying the time-tested theories and practices of Indian music. This is best achieved through the enjoyable study and practice of rhythm, melody and text in vocal music. This course will examine structural features of Indian music and apply them in experiencing the process of improvisation. Systematic exercises in rhythm and melody will introduce sophisticated concepts of time and space. Indian vocal music compositions will present language in relation to melody and emotion. Exercises for group, pair and individual will be introduced, and participants will be encouraged and assisted in composing and improvising upon their own creations. This course will promote understanding of the world of creative arts in general.

No prior experience in music or performing arts is required.

LISTENING TO ASIA	(Fall)
アジアの音楽	
Hoffman, T. M.	Lecturer, International Center (Director, Indo - Japanese Music Exchange Association)
ホッフマン, T. M.	国際センター講師 (日印音楽交流会会長)

Sub Title:

Sounds Divine and Mundane in Nature, Language and Music

音楽・言葉・自然の音の構成・神性・魅力

Course Description:

We will become familiar with the sound culture of Asia, focusing on the various natural environments, languages and musics in the region with a view to discovering both distinctions and universalities that may also aid us in understanding other disciplines and regions. From their origins in classical India, Greece and China and evolution in other places and times, we will trace influences of sound in health, religion, society, politics, and material worlds of traditional and contemporary culture. Examining principles and examples of instruments, rhythm, melody, improvisation and composition, we will approach music as both art and science, and discuss its interface with mathematics and linguistics. We will try to be aware of cultural and economic development, regional identity and globalization, and gender and other factors facing the makers and consumers of sound culture, and recognize East-West and North-South exchanges that have shaped our respective musical and linguistic identities.

We will begin with a survey of the nature of sound and its use as a means of communication and expression, then travel through the sound cultures of Asia with the aid of audio-visual materials, live music demonstrations, and whatever other resources are available. Students will find opportunities for active participation, and to share their perceptions and experiences in class.

AUSTRALIA AND THE ASIA-PACIFIC REGION	(Spring)
---------------------------------------	----------

オーストラリアとアジア太平洋地域

Ackland, Michael

Lecturer, International Center (Guest Professor, Center for Pacific and American Studies, University of Tokyo / Professor, Monash University)

アクランド, マイケル

国際センター講師 (東京大学アメリカ太平洋地域研究センター客員教授, モナッシュ大学教授)

Sub Title:

Records of a changing relationship in short fiction and film

Course Description:

This course introduces students to changing Australian attitudes to our common region, and to relevant, recent influential theories of racial and national interaction such as 'Orientalism'. It begins by examining notions of white supremacy and their origins, investigates the impact of successive waves of Asian immigration on Australian society, the development and eclipse of the White Australia policy, Australia's fluctuating attempts to engage with its region, and the growth of internal criticism of racist and paternalistic attitudes, as presented in a variety of short fiction and film. The first part of the course will trace these issues in the period up to, and including the First World War, the latter part will focus in particular on post-war Australia-Japan relations.

AREA STUDIES (THE UNITED STATES)	(Spring)
----------------------------------	----------

地域文化論 (アメリカ)

Okuda, Akiyo

Professor, Faculty of Law

奥田 暁代

法学部教授

Sub Title:

Multicultural History of the United States

Course Description:

One in three Americans is now a member of a minority group. The heated national debate on how government should respond to illegal immigration reveals the country's anxiety about the changing face of America. Yet the United States has always been multiracial/multicultural and indeed shaped by the presence of diverse groups. The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of these "minorities" in the United States. The approach is primarily historical and assumes that the culture we describe as American derives its special characteristics from the presence of multiracial/ multicultural Americans. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on historical events. We will examine specifically the continuities and changes in the lives of Native Americans, African Americans, Japanese Americans, and Mexican Americans, and see how their experiences relate to the history of the United States. By means of discussion, lectures, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

AMERICAN STUDIES	(Fall)
------------------	--------

アメリカ研究: アメリカの歴史・文化と外交政策

Williams, Mukesh K.

Lecturer, International Center

ウィリアムス, ムケーシュ

国際センター講師

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Course Description:

Rationale: After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand its history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies as a part of their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil

rights, sovereignty, representation, democracy and religion to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the integrated disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America. The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue knowledge independently and scientifically

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

(Fall)

カナダという国とカナダの国際的な役割

Yellowlees, James

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

イエローリーズ, ジェームズ

国際センター講師 (カナダ教育連盟日本代表)

Sub Title:

Canada's Vast Potential

Course Description:

We will learn about the various key aspects of Canada as a nation, including the history, economy, society and international role of Canada. It is an interactive class so participants will be expected to contribute each class.

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

(Spring)

世界政治におけるラテンアメリカ

Antolinez, Mario

Lecturer, International Center

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

EU-JAPAN ECONOMIC RELATIONS

(Fall)

Hayashi, Hideki

Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, Mizuho Financial Group/Shinko Securities Co., Ltd.)

林 秀毅

経済学部講師 (みずほフィナンシャルグループ・新光証券グローバルストラテジスト)

Course Description:

This course is offered in English. The goal is to broaden and deepen students' knowledge in EU-Japan relations, mainly on the economic aspects, as well as on the political and social aspects.

Whole lecture is divided into two parts: in part1, each lecture will be based on different chapters of Gilson(2000) and in part2, the national economy of EU countries and its relations with Japan will be discussed. Related statistics and case studies are also introduced in both parts.

In each lecture, Powerpoint will be used for exposition.

As it is expected to be a small class composed of Japanese and non-Japanese students, active questions and comments by students are welcome.

Students are supposed to submit a report on one of the questions based on each lecture and submit it at the beginning of the next lecture.

AFRICAN ISSUES : THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA

(Spring)

アフリカン イシューズ : アフリカにおける近代と危機の意味

Kondo, Hidetoshi

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

近藤 英俊

国際センター講師 (関西外国語大学准教授)

Sub Title:

Social and Cultural Aspects of AIDS Epidemic in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of HIV and AIDS in Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of African AIDS epidemic. Thus, the topics we deal with include: (1) history of HIV and AIDS in Africa, (2) popular conceptions and therapy management of AIDS, (3) AIDS epidemic in the context of urbanization and social mobility, (4) AIDS and gender relations, (5) AIDS and children, (6) The role of the state, international organizations and NGO, (7) AIDS and pharmaceutical industry.

BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

グローバルヴィレッジ構築に向けて

Freedman, David

フリードマン, デビッド

Professor, Faculty of Environment and Information Studies

環境情報学部教授

(Fall)

Sub Title:

Sub-Saharan Africa

Course Description:

Focus: Japanese Policies in Southern Africa: Trans-National Issues/ Individual Response

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term “culturnomics” was coined to define how various intellectual disciplines needed to be combined in order to gain a more complete view of the issues facing a “global” economy. This course will focus on a particular area, Sub-Saharan Africa and the various issues: political, cultural, economic and environmental, that the people of this region face as they look to integrate into the “global village.” Speakers from the various embassies of the region will be invited to speak on the theme of global economy, culture and change and the impact of Japanese policies within the region.

As the countries of sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the New Partnership for Africa's Development a major part of its international policy. In 2004, Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged \$1 billion for education and health care in Africa making Japan one of the major aid donors for Africa. Next year at the fourth Tokyo International Conference on African Development these efforts will face an renewed evaluation.

(<http://www.jica.go.jp/english/resources/field/2007/aug30.html>) Yet, there is an “information gap” between the policies and intents of the Japanese government and business community and the response and knowledge of the Japanese citizen as to the recent history, the varied cultures and issues in Africa today, and the goals and effects of the Japanese policies themselves.

This is course will be an introduction for students interested in issues affecting global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the S.A.D.C. group, (<http://www.mbendi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa, and the possibilities of active response by the individual Japanese consumer.

Each student will be expected to join a study group that will focus one of the African countries represented by the speakers. The groups will research and present on the ties and programs between their “study” country and Japan on the focus issue of the course. This year, the focus will be on the individual consumer as an active participant in development policies.

COMPREHENSIVE STUDIES OF INTERNATIONAL RELATIONS

国際関係概論

Abe, Tadahiro

安部 忠宏

Ambassador extraordinary and plenipotentiary, Ministry of Foreign Affairs of Japan

外務省特命全権大使

(Spring)

Sub Title:

Multi-Faceted International Relations

Course Description:

At the outset of the 21st century, people expected that they could enjoy real peace and prosperity in the new century as a member of the international community where the global structure turned into the post-Cold-War regime from the Cold-War regime. The reality, however, was to the contrary as we see various incidents taking place in the international arena: From terrorist attacks to the alleged nuclear arms development in the supposedly war-less world with the prevailing Non Proliferation Treaty and so forth. Prospect of economic development in one country is more hinged upon politically maneuverable supply of energy and natural resources in the international markets, etc.

People are living in the age of uncertainty. It is becoming more important for us, under these circumstances, to understand international relations in a more comprehensive manner. We need to think about our future based on an accurate knowledge on the reality of the multi faceted international relations built upon various kinds of causality among various factors such as economy, politics and security considerations.

So, in my lecture, I would like to focus on major playing factors and mechanisms supporting the multi-layer international/regional relations, such as ASEAN, APEC, NATO, OSCE, NPT, WTO as well as Japanese bilateral relations with the US, North-Eastern/South-Eastern Asian countries and European countries. I also intend to touch on horizontal issues such as International Economy/Trade, Human Security, Development Assistance, etc. Eventual target of my lecture is to explore the possibility of working together with students a kind of global mechanism which may help us to materialize real peace and stability for the people in the future generation.

CONTEMPORARY GLOBAL ISSUES AND THE ROLE OF THE UNITED NATIONS

現代の国際問題と国連の役割

Malik, Rabinder N.

マリク, ラビンダー

Lecturer, International Center

国際センター講師

(Fall)

Sub Title:

Multi-disciplinary approach to the study of major global issues that confront the world community in the 21st century, and the role of the United Nations and International Organizations in addressing these issues.

Course Description:

A critical review and assessment will be undertaken of the origin and present condition of the major global issues and problems and how these are being addressed by the national governments and the international community. Special attention will be paid to the role of the United Nations and other International Organizations as a tool of global governance in addressing these issues. We shall also explore ideas and concepts of peace and security, human rights, coexistence among peoples of different cultures and other critical global issues such as poverty eradication, environmental degradation, aging society and gender issues.

The objective of the course, which is suitable for students from all faculties, is to enable the students to gain a better understanding of the world around them and about the role of the United Nations so that they are able to evaluate current and future international trends and formulate their own well thought-out opinions based on facts. It should help enhance the trans-cultural literacy and competence and enable them to interact with confidence with peoples of different cultural backgrounds and orientations in an interdependent and interlinked world.

Group discussions will be an important part of the course, which will be conducted in English.

The course is open to students from all faculties.

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

(Fall)

国際開発協力論

Goto, Kazumi

後藤 一美

Lecturer, International Center (Professor, Hosei University)

国際センター講師 (法政大学教授)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

LAW AND DEVELOPMENT

(Fall)

開発法学

Matsuo, Hiroshi

松尾 弘

Professor, Law School

法務研究科教授

Sub Title:

Institutional Reform through Law to Get the Good Governance

Course Description:

This course aims to provide with the basic knowledge of Law and Development from a practical as well as a theoretical aspect. Development can be regarded as a comprehensive institutional reform of a society, in which a number of informal rules have been binding and restricting the attitudes and behaviors of its members. However, it is sometimes difficult for societies to reform their institutions for themselves when they are heavily burdened by the conventions maintained by the strict regimes. As the international societies have been more and more globalizing, it is becoming duties for each society to assist others to undertake their institutional reform.

Although it would be hard for us to expect the international societies to establish the world government, we should be able to keep our security by getting the global governance, which consists of the good governance of each state in the world. Good governance may be obtained through the institutional reform led by the good government, markets and firms, and civil societies, which are mutually assisted and assisting in their own functions. Law may be a strong measure to facilitate such an institutional reform to get good governance, and the legal assistance activities among nations should promote the global governance, which might be the only path to the international security and peace. In this context, we should explore the indicators of governance and the way by which developed countries can cooperate with developing countries to accomplish their legal reform that actually leads to development.

THIRD WORLD DEVELOPMENT AND THE POOR

(Fall)

第三世界の開発と貧困

Bockmann, Dave

ボックマン, デイヴ

Lecturer, International Center (Consultant)

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

Lessons from the Developing World

Course Description:

This course is designed to increase the student's awareness of third-world communities and the challenges they face in overcoming poverty. The U.N. Millennium Development Goals promise to end poverty by 2015. The goals are lofty and costly, but will they actually help the poor? Based on the lecturer's 30 years of community development experience in the U.S. and India, another approach, that of small locally based projects bringing real and immediate change to real people's lives will be examined. In this course, students will learn about:

- **Self Help Groups (SHGs):** How SHGs are organized and why. How the SHGs improve the financial stability of families and enhance the status of women.
- **Micro-Finance:** How small loans, often times of less than \$100, can move whole families out of poverty.
- **Appropriate Technology:** How, when the poor themselves are involved, appropriate technologies can be successfully conceived, designed and implemented by developing communities. Learn some of the skills required to help implement actual projects.
- **Culture and social-economic** factors that must be taken into account in planning and implementing development projects.
- **Hands-On Case-Study:** Working in small groups, the students will identify real 'problems' facing poor people in the developing world and propose a plan to solve the problem.

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW**(Spring)**

国際人権法

Hosotani, Akiko

細谷 明子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

(1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

(2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization

(3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India

(4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.

(5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

INTRODUCTION TO PRINT JOURNALISM**(Spring)**

プリントジャーナリズム入門

Holley, David

ホーリー, デヴィッド

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

Reporting on the World Around You

Course Description:

This course will cover the basics of journalistic writing. Students will get practice in writing both in a wire-service style and in the kind of feature approach favored by many newspapers and magazines for longer articles. Students will write articles both as quick in-class exercises and as homework assignments that require interviews. Journalistic ethics will be addressed, as will trends in the media business. The course will help students improve their writing and give them increased confidence in approaching and interviewing strangers.

COMMUNISM'S COLLAPSE**(Fall)**

共産主義の崩壊

Holley, David

ホーリー, デヴィッド

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

States in Transition

Course Description:

This course will examine three models of how political systems can change. South Korea and Taiwan will be viewed as examples of transition from the authoritarianism of several decades ago to today's democracy. Post-1989 Eastern Europe will be studied as an example of Communist states quickly becoming democratic. China and Russia will be examined as cases where Communism has mutated into capitalist authoritarianism with many political features similar to Taiwan and South Korea of the 1970s and 1980s. Particular attention will be paid to the 1980 Kwangju Incident in South Korea, the 1989 Tiananmen Square protests and subsequent crackdown in China, and the role of Mikhail Gorbachev in the collapse of Communism in the Soviet Union and Eastern Europe. Students will consider what can be learned from these transitions of past decades in thinking about possible future paths for China and Russia. What factors might cause China and Russia to follow the same type of path to democracy as South Korea and Taiwan, and what might cause them to develop in other directions?

LITERATURE AS HISTORY**(Spring)**

歴史としての文学

Chandra, Elizabeth

チャンドラ, エリザベス

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

The Colonial Experience

Course Description:

This course will consider issues in historiography, particularly the use of fiction as source. Filling in the gaps in the so-called conventional historiography, literary works provide what institutional libraries, judicial/criminal proceedings, church records, civil registry, and state archives fail to capture. They have the capacity to represent the fine curves of the political landscape, the nuances of cultural connotations, the minute features in social relations, and the complexity of human emotions.

The colonial experience is precisely a context that calls for such “sensitive” historical inquiries due to the cultural gap between our Western intellectual tradition and the colonized people’s particular schemes of culture. The fact that most records from the colonial period were produced by and spoke from the point of view of “power” further complicates historical reconstruction of the encounter.

For this course we shall consider novels, short stories and films, and attempt to catch glimpses of the colonial experience as diverse and intimate as the domestic order, racial negotiation, sexual taboos, humor, paranoia, and melancholia.

VISIONS OF THE PAST: REPRESENTING HISTORY ON FILM

(Fall)

比較映画論

Ainge, Michael W.

Associate Professor, Faculty of Economics

エインジ, マイケル W.

経済学部准教授

Course Description:

Films about the past are often dismissed by historians as trifles. In this course, we will consider the conventions of representing history on film, starting with mainstream Hollywood historical drama, and then consider alternatives which have arisen in opposition to the dominant American mode, in various countries around the world. Readings in film criticism and in History will complement the films whose viewing constitutes the main homework for the class. No previous experience in Film Studies is required. Students will be introduced to basic critical and technical language to discuss films, and thus will learn to distinguish between personal taste (“I liked this film,” “I hated it.”) and analytic evaluation (using various intellectual and artistic standards to judge a film). Needless to say, issues related to cultural differences will arise throughout the semester, and no doubt form an important part of class discussions.

CULTURE, CULTURAL ADJUSTMENT, AND IDENTITY

(Spring)

文化・文化適応とアイデンティティ

Yokokawa, Mariko

Lecturer, International Center

横川 真理子

国際センター講師

Sub Title:

How communication and understanding are affected by culture

文化がコミュニケーションと相互理解に与える影響

Course Description:

This course examines the impact of cultural values and beliefs, the process of cultural adjustment, the formation of cultural identity, and the relationship between language and culture. Third Culture Kids (Global Nomads) and returnees will be studied along with other topics related to culture, cultural adjustment, and communication across cultures.

In addition to the readings, students will be given opportunities to discuss critical incidents on instances of cultural misunderstanding, do presentation, as well as other projects.

DISCOVERING CULTURE THROUGH OBSERVATION

(Fall)

文化観察による発見と理解

Yokokawa, Mariko

Lecturer, International Center

横川 真理子

国際センター講師

Sub Title:

Doing Observational/Ethnographic Studies to Understand Culture

観察研究により文化理解を深める

Course Description:

When one encounters different behaviors and assumptions in a different culture, often the immediate reaction is one of irritation and confusion. “What is wrong with THESE people?”, we ask. Actually, people in a particular society are behaving according to patterns that make sense within the larger framework of their culture. This course is designed to discover those patterns through conducting observational/ethnographic studies on the behavior of people in different settings.

After explaining the concepts of culture and subculture, the methods used in observational studies will be introduced. Students will be given an opportunity to do observational studies on their own or in groups, discovering both behavioral patterns and the cultural patterns that underlie those behavioral patterns.

Students will be asked to come up with tentative behavioral and cultural patterns gleaned from their observations, and present their findings to the class, opening their study to discussion. They will then be asked to go back and reaffirm or modify their observations, which will result in a final report.

Through their own study and those of the others, students are expected to gain a deeper understanding of both the culture they observe and of their own unconscious cultural patterns.

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

(Spring)

異文化と自己理解

Shaules, Joseph

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of deep cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side – food, clothing, architecture – and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture’s unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like:

time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

LEARNING FROM LIFE ABROAD

(Fall)

海外生活から学ぶ

Shaules, Joseph
ショールズ, ジョセフ

Lecturer, International Center (Director, Japan Intercultural Institute)
国際センター講師 (異文化教育研究所所長)

Sub Title:

Internationalism and the cultural learning process

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

HUMAN ENGINEERING

(Spring)

人間工学

Waniek, Jacqueline
ワニェク, ヤクリーン

Lecturer, International Center
国際センター講師

Sub Title:

Human Factors

Course Description:

The ergonomic design of products, working systems and interfaces focuses on designing a comfortable environment, and aims to prevent damages and accidents. Goal of the course is to provide an overview of the interdisciplinary field ergonomics. Furthermore the course intends to help students to understand what impact ergonomic product design has for our environment and in our everyday life. The course introduces various aspects of ergonomic design such as "Universal Design", "Accessibility" or "Emotional Design", demonstrates methods for the evaluation of products and systems, and discusses future trends. By means of practical examples students will experience the importance of an ergonomic design of products and systems. Discussions will help participants to clarify the goals of ergonomic design, and to understand its potential and its feasibility.

HUMAN RESOURCE MANAGEMENT FROM A PSYCHOLOGICAL PERSPECTIVE

(Fall)

心理学的観点から見る人材管理

Waniek, Jacqueline
ワニェク, ヤクリーン

Lecturer, International Center
国際センター講師

Course Description:

Human Resources are the most valued assets in an organization and a critical success factor in business. Goal of Human Resource Management (HRM) from a Psychological Perspective is to enable employees to contribute to the enterprise productively. This course focuses on HRM from a psychological perspective. The employee is seen as an individual person with own motives, attitudes, emotions and goals that have to be considered in business management. Basic HRM topics such as Leadership, Recruitment, and Training are discussed as well as factors that affect employees' well-being and performance. The course intends to prepare students for their later working life and helps them to understand how to create a working environment that ensures employee well-being and enhances productivity.

日本研究講座 (JAPANESE STUDIES)

LANGUAGE BEYOND GRAMMAR

(Spring)

日本語の話しことばと言外の意味

Kim, Angela A-Jeoung

Assistant Professor, Center for Japanese Studies

キム, アジョン

日本語・日本文化教育センター専任講師

Sub Title:

Expressing 'something else' beyond information— markers and functions in spoken Japanese

Course Description:

Mastering the grammar of a particular language does not guarantee a successful communication with a native speaker of that language. This is because language not only functions as a medium through which information can be conveyed, but also as a conduit for the speaker's attitude/emotions. The objective of this course is to encourage a more profound understanding of the functions of language that exist beyond referential meaning, with particular attention given to markers and their uses in Japanese. An understanding of this aspect of language, and the function of particular markers, will lead to a deeper understanding of communication in Japanese in general. This course comprises three main parts: (i) general review of the non-referential function of language; (ii) the case of English briefly reviewing markers such as *you know, I mean, like*; and just and (iii) the case of Japanese which will include markers such as *ne, yo, -janai, datte, maa, nan(i), no, and yappari* etc.

TWENTIETH-CENTURY JAPANESE AND WESTERN SHORT FICTION

(Spring)

20世紀の日本と欧米の小説

Raeseide, James

Professor, Faculty of Law

レイサイド, ジェイムス

法学部教授

Sub Title:

Comparative Readings

Course Description:

In these classes we will attempt to understand something of the nature of Japanese fiction writing by comparative close reading of Japanese texts with those by Western (European and American) writers. Evidence of influence and assimilation may be observable from West to East, particularly in the early years of the 20th century, but in all cases we will attempt to identify both what is distinctive, and what the different traditions have in common. By close reading and comparative analysis we should be afforded some useful insights into Japanese prose fiction writing—particularly that of the short story.

Each class will focus on a pair of texts: one by a Japanese and one by an American or European writer. The texts chosen will be relatively short: wherever possible, complete short stories. All texts will be discussed on the basis of their English language translations and the language of discussion will be English. However, the original Japanese texts will also be distributed and native speakers of Japanese are particularly encouraged to use their knowledge of the original language to add to the discussion. Those students with knowledge of European languages other than English are also welcome to use this knowledge in discussion, where appropriate. However, the original versions of texts in languages other than Japanese will not be provided. In any case, it is imperative to the functioning of the class that all participants make time to read the set texts beforehand, and be prepared to talk about them in detail. Only those who have made this effort will be able to participate usefully in the discussion.

JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD

(Spring)

浮世と道行き

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking a contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashō, Chikamatsu and Akinari. As well as the "floating world" of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

JAPANESE LITERATURE

(Fall)

日本の文学

Armour, Andrew

Professor, Faculty of Letters

アーマー, アンドルー

文学部教授

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods.

Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

INTRODUCTION TO MODERN JAPANESE ART AND VISUAL CULTURE (Fall)

日本の近現代美術

Murai, Noriko

村井 則子

Lecturer, International Center (Assistant Professor, Temple University)

国際センター講師 (テンブル大学専任講師)

Sub Title:

Introduction to Modern Japanese Art and Visual Culture

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Visual culture has played a central role in providing modern Japan with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in various media including painting, sculpture, photography, performance and architecture. We will also consider issues related to gender, imperialism, and commodity consumption in the context of visual representation.

INTRODUCTION TO JAPANESE ART HISTORY (Spring)

日本史美術入門

Shirahara, Yukiko

白原 由起子

Lecturer, International Center (Chief Curator, Nezu Museum)

国際センター講師 ((財)根津美術館学芸部課長)

Sub Title:

From Ancient to the Medieval Periods

古代 中世

Course Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid sixth century to the early seventeenth century. How religious imagery, decorative styles and techniques were introduced from the continent, transformed to be Japanese own? Each class will focus on one of a few artworks, about which the function, iconology, technique and artistic significance will be discussed.

ARTS / ART WORKSHOP THROUGH CROSS - CULTURAL EXPERIENCE (Fall)

アートワークショップ / 日本のアートと文化

Hishiyama, Yuko

菱山 裕子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

With a focus on Japanese Art

Course Description:

Course Description:

This is a course designed to provide both international and Japanese students who are interested in art from comparative culture or intercultural communication perspectives with student-centered learning experience of Japanese art. Thus students in this course will engage in diverse activities both in and outside of class within this multicultural student body. The activities include workshops, field trips, and research. The goal of this workshop is to give students a firm grounding in cultural, social, historical, and practical aspects of art in contemporary Japan.

Final Project:

After accumulating various experiences in Japan, students make a self-portrait in any media in 2D, 3D or as an installation.

JAPANESE CINEMA (Spring)

日本映画入門

Ainge, Michael W.

エインジ, マイケル W.

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

This is an introductory course that examines Japanese cinema from the perspectives of history, authorship, genre, and film art. Though by no means comprehensive due to the restriction of time, this course will allow students to gain an overview of a century of Japanese film, become familiar with a selection of major directors and film genres, as well as acquire a fundamental critical and technical language to discuss films. They will learn to distinguish between personal taste ("I liked this film," "I hated it") and evaluative judgment (using various intellectual and artistic standards to judge a film). Needless to say, issues related to cultural differences will arise throughout the semester, and no doubt form an important part of class discussions.

GEISHA (Spring)

「芸者」

Graham, Fiona

グラハム, フィオナ

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course will start with the narrow topic of geisha and spread out from there to consider the topic on a deeper anthropological level: how the West views the East, history, myth and tourism, the changing roles of women, and traditional culture, who decides what is traditional, how and why does this change, what is lost and what retained, and who controls the process?

This class will make use of DVDs and other visual resources and may have a class research trip. Students won't be able to passively rely on a single textbook, but will need to actively participate in collecting their own research materials from books, media, video and internet.

The course lecturer is an actively working geisha in one of Tokyo's geisha districts.

JAPANESE BUDDHISM AND SOCIAL SUFFERING**(Spring)**

日本仏教と現代社会

Lecturer, International Center (Research Fellow, International Buddhist Exchange Center,
Research Fellow, Jodo Shu Research Institute)

Watts, Jonathan

ワッツ, ジョナサン

国際センター講師 ((財) 国際仏教交流センター研究員・浄土宗総合研究所研究員)

Sub Title:

Priests and Temples Reviving Human Relationship and Civil Society

僧侶と寺による人間関係と市民社会の再生

Course Description:

This course will look at Buddhism in Japan in a very different way – through the actions of Buddhist priests and followers to confront the real life problems and suffering of people in Japan today. We will look at such issues as: 1) human relationships (alienation, depression, suicide, *hikikomori*, and NEET); 2) development (social and economic gaps, aging society, community breakdown and depopulation of the countryside); 3) the environment and consumption; 4) politics and peace; and 5) gender. The creative solutions some individual Buddhists are developing in response to these problems mark an attempt to revive Japanese Buddhism, which is now primarily associated with funerals and tourism. These efforts are trying to remake the temple as a center of community in an increasingly alienated society.

This course will use a variety of teaching methods from homework readings, games and group processes, in-class videos and guest speakers, and occasional field trips. This course will attempt to be as interactive as possible, so students should be ready to reflect on the issues personally as they experience them as residents of Japan, and to express these reflections not only intellectually but emotionally as well.

SEMINAR (Seminar in Intellectual History)**(Fall)**

演習 (福澤諭吉『学問のすすめ』を読む)

Sakamoto, Tatsuya

Professor, Faculty of Economics

坂本 達哉

経済学部教授

Sub Title:

Reading Yukichi Fukuzawa's "Encouragement of Learning"

Course Description:

This course will center on the theme of Keio University's founder Yukichi Fukuzawa (1835-1901), his thought and its legacy to our time. Among his numerous works, both academic and popular, is included "Encouragement of Learning" (『学問のすすめ』) as the single most famous and influential. This course will read this classical text on chapter-by-chapter basis in English translation from a variety of perspectives, historical, philosophical and social. Prospective students will be welcome who are seriously interested in the overall character and the precise details of one of the greatest intellectual leaders of the time. Any prior knowledge of Fukuzawa's life and work will not be required.

This course will also be offered at International Center for international students. I truly hope that the course will present an opportunity for intellectual exchanges between Japanese and non-Japanese students. Official language of this course will be English, but some subsidiary use of Japanese will be allowed.

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA**(Fall)**

政策決定, 歴史的記憶, 人種から見る明治期日本外交

Iikura, Akira

Lecturer, International Center (Professor, Josai International University)

飯倉 章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making historical memory, and the concept of race.

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD**(Fall)**

近代日本の対外交流史

Ohta, Akiko

Professor, Faculty of Law

太田 昭子

法学部教授

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and the beginning of the twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (at least five pages, A4, double space) in January, and take the final examination.

JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

(Spring)

英国と米国のマスコミに描かれた日本

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan, both contemporary and historical. Materials used and discussed range from Hollywood films to academic works by Ivy League professors. Knowing the common and often highly distorted images of Japan and the Japanese, both positive and negative, presented in foreign mass media and popular culture is important to both Japanese and foreign students. These images have been and continue to be significant in Japan's diplomatic and economic relations with other countries. Moreover, the mechanisms that distort the foreign view of Japan also work to distort the Japanese view of foreign countries. Teaching students how to recognize distorted images of foreign countries and peoples is a major goal of this course.

A SOCIAL HISTORY OF POST-WAR JAPAN

(Fall)

戦後日本の社会史

Kinmonth, Earl H.

キンモンズ, アール

Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

国際センター講師 (大正大学教授)

Course Description:

More than a half-century has elapsed since the end of the Pacific War. For most university students, this war is part of a distant past and references to prewar and postwar carry no special significance. In contrast, for those old enough to have experienced the Pacific War or its immediate aftermath, the terms prewar and postwar are very evocative and are part of the historical consciousness of many Japanese. This course attempts to answer three basic questions: 1) why is a distinction made between prewar and postwar Japan; 2) how was Japan changed by the Pacific War; 3) what has changed in the fifty-plus years the end of the war. To give students additional perspective on the Japanese experience, the course will make explicit comparisons with Germany and the United Kingdom.

POPULAR MUSIC AND THE CULTURAL HISTORY OF POSTWAR JAPAN

(Fall)

日本の戦後史とポピュラーミュージック

Dorsey, James

ドーシー, ジェームズ

Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth College)

国際センター講師 (ダートマス大学准教授)

Course Description:

Crucial issues in Japan's postwar cultural history can be examined through its music:

- shifting social taboos are revealed in the songs banned from the airwaves
- Japan-U.S. tensions are visible in musical adaptations, imitations and subversions
- the values and aspirations of an age are apparent in its choice of musical stars and genres (including sentimental *enka*, breezy "group sounds," political folk and cutesy pre-pubescent "idol" singers)
- attitudes towards race and history come forth in groups singing in blackface, the embrace of hip-hop culture, the treatment of non-Japanese musicians, and the "invasion" of J-Pop throughout Asia
- technological advances and trends in consumer electronics, many of them pioneered by Japanese companies, have altered the world's experience of culture; much can be learned by pondering the cultural significance of karaoke, the walkman, and the digital sound file
- the changing attitudes concerning gender, love, sex and marriage inevitably appear in song

Using theories from the Frankfurt school and more recent work in cultural studies, this course will introduce students to the history of postwar Japan (with special focus on the 1960s and 1970s) as well as coach them in the interpretation of music as a window onto the workings of culture.

IN SEARCH OF NEW CIVIC SOCIETIES

(Spring)

新市民社会論

Bockmann, Dave

ボックマン, デイヴ

Lecturer, International Center (Consultant)

国際センター講師 (コンサルタント)

Sub Title:

How NGOs and NPOs are changing society and the environment

Course Description:

"Civic engagement" refers to the participation of individuals and voluntary organizations (NGOs and NPOs) in the political and the public sectors, including governmental decision-making. "Civic Engagement" and "Civil Society" are sometimes used interchangeably and in this sense, civil society is well established in the U.S., less so in Japan. We will find out why.

In this course, we will examine civic engagement from several perspectives, globally and locally. We will examine civic engagement in the U.S. as well as Asia where the focus will be on Japan, India and China. We will see how the struggles by minorities, women and the poor for human rights alter the relationships of power and how environmental organizations are playing a leading role in the efforts to stop global warming.

MULTIETHNIC JAPAN

(Fall)

多民族社会としての日本

Kashiwazaki, Chikako

柏崎 千佳子

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various 'newcomer' immigrants. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

(Fall)

家族の近代

Notter, David

ノッター, デビット

Associate Professor, Faculty of Economics

経済学部准教授

Course Description:

Over the past 40 years or so, new work in the field of social history combined with new research on the family conducted by social scientists has produced a 'new history of the family'. In this course we will draw on this body of research to examine the institution of the family in historical and comparative perspective. The book we will use as our main text is a sociological study of the family system in postwar Japan. Lectures, by contrast, will focus on the emergence of the 'modern family' and modern family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America. Some consideration will also be given to Europe, the emergence of the modern family in Japan, and traditional family arrangements.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

(Spring)

異文化コミュニケーション 1

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

INTERCULTURAL COMMUNICATION 2

(Fall)

異文化コミュニケーション 2

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Identity of Japanese Sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN(1)

(Spring)

日本人の心理学(1)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

Conflict Management

Course Description:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners, and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict claims that conflict is inevitable yet not necessarily bad, the Japanese society has been described to believe in its selfimage as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts as any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological background, and the challenges for both Japanese and foreigners in trying to creatively

deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some psychological measures related to conflict for self-understanding.

JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (2)

(Fall)

日本人の心理学 (2)

Tezuka, Chizuko

手塚 千鶴子

Professor, Center for Japanese Studies

日本語・日本文化教育センター教授

Sub Title:

'*Amae*' Reconsidered

Course Description:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of '*Amae*' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

INTRODUCTION TO POLITICS IN JAPAN

(Spring)

日本政治論

Aoki, Hiroko

青木 裕子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Sub Title:

The history of Japanese politics after World War II

Course Description:

The aim of this lecture is to acquire knowledge and thinking ability for problems that beset modern Japanese society by studying history of Japanese politics after WWII and reading newspaper articles on current affairs.

JAPANESE FOREIGN POLICY

(Fall)

日本の対外政策

Nobori, Amiko

昇 亜美子

Lecturer, International Center

国際センター講師

Course Description:

This course is a general introduction to postwar Japanese history with a focus on foreign policy; it also addresses important aspects of Japanese domestic politics as well as cultural issues. It will also deal with international relations of the Asia-Pacific region while offering an overview of Japan's evolving relations with a number of important actors in the region, such as the U.S., China and the ASEAN countries.

Also throughout the course, contemporary issues within the post-Cold War global environment as well as controversial issues within Japan, such as constitutional revision and Yasukuni issue, will be discussed using a historical perspective.

The class will combine lectures, academic readings, films, students' presentations and discussions in order to cover these areas noted above.

JAPANESE ECONOMY

(Fall)

ジャパニーズ・エコノミー

Kashiwagi, Shigeo

柏木 茂雄

Professor, Graduate School of Business and Commerce

商学研究科教授

Course Description:

The objective of this course is to discuss and understand the developments in the Japanese economy and its policies from a global perspective.

The course will provide opportunities for students, especially for those coming from abroad, to examine various policy issues that have arisen in Japan in the last three decades. The focus will be to understand the economic as well as political and social background of the specific economic actions taken during these years. Efforts will be made to enable students to understand the recent economic and political developments in Japan, based on my 34 years of experience with the Japanese government.

FOREIGN COMPANIES IN JAPAN

(Spring)

日本における外資系企業

Harris, Graham

ハリス, グレアム

Lecturer, Faculty of Business and Commerce (President, Harris Consultancy)

商学部講師 (ハリス・コンサルタンシー社長)

Sub Title:

A Success or a Failure?

Understanding the True situation of foreign companies in Japan

Course Description:

This course will explain the role of foreign companies in Japan since the Meiji Restoration, through the "Bubble era" and up to the present day. Students will learn the reasons why foreign companies choose Japan; to what degree they have been successful; and to what extent foreign investment is good for Japan.

The Course which will be conducted in English will be a combination of lectures, discussions, student group presentations; case studies and research assignments.

MANAGEMENT IN JAPAN 日本のビジネスマネジメント Haghirian, Parissa ハギリアン, パリッサ	Lecturer, International Center (Assistant Professor, Sofia University) 国際センター講師 (上智大学専任講師)	(Spring)
---	---	----------

Sub Title:

The Kaisha in the 21st Century

Course Description:

The course introduces the characteristics of the Japan as a place of business and the main aspects of Japanese management. The course starts with a theory lecture on culture and its relevance for international management and business communication. After this an overview of the modern Japanese business environment is given. Major points of discussion are the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution as well as human resource and knowledge management within Japanese corporations.

The course aims to:

- provide an overview of the modern Japanese business environment
- explain the most important social concepts in Japanese society and their relevance for Japanese management and Japanese business culture
- discuss the most prominent aspects of Japanese management, such as production management, distribution and management activities within a Japanese corporation
- present the latest developments in the Japanese management environment

INTERNATIONAL COMPARISON OF MANAGEMENT SYSTEMS 国際経営比較 Yoshida, Fumikazu 吉田 文一	Lecturer, International Center (Professor, Sanno University) 国際センター講師 (産業能率大学教授)	(Fall)
--	---	--------

Sub Title:

Pros and Cons of Japanese and American Management Systems

Course Description:

This course aims to clarify the differences between the Japanese management system and the American system. Over the last two decades, the appraisal of Japanese management has fallen sharply from a high level during the 1980s, while the evaluation of American management has risen equally sharply. In particular, in the "post-bubble" period in Japan, there is a strong tendency to criticize the domestic management system, and praise American-style management nationwide. This raises a major question: how can the appraisal of a well-established management system change so uncritically in a stable and peaceful society? We will discuss this issue in order to understand the significance of management systems.

Based on this understanding, we examine the current issues that both systems face today.

JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS 日本の経営 Umezu, Mitsuhiro 梅津 光弘	Associate Professor, Faculty of Business and Commerce 商学部准教授	(Fall)
---	---	--------

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

LEADING CREATIVE BUSINESS IN JAPAN 日本の最先端創造的ビジネス Tobin, Robert I. トビン, ロバート	Professor, Faculty of Business and Commerce 商学部教授	(Spring)
--	--	----------

Course Description:

This course will provide students with an understanding of the unique challenges of starting and leading creative businesses in Japan. The focus will be on Japan-based businesses in fashion, art, music, food, advertising, and design.

Students will understand what is involved in starting and leading a company in one of these fields. We will examine some of the ways of doing business in Japan that are unique, such as the barriers of language and trade, agent arrangements, cultural aspects of creative businesses, consumer expectations, as well as recent efforts at pan-Asian alliances and the impact of globalization.

An important part of this course will be individual research projects to gain a greater understanding of a particular industry and a career plan that includes elements of starting a creative business.

Students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Course Description:

This course will focus on selected Japanese small businesses that have developed world class products. The focus will be decidedly on low tech businesses with an examination of industries such as sporting goods, stationery goods, pharmaceuticals, and traditional Japanese sweets and cultural products. Among the companies we will examine will be Olfa, Pilot, and Molten.

Students will explore the economic history of Japan, the motivation for entrepreneurs in Japan, consumer expectations, the compelling stories for starting certain types of businesses here, the focus on quality, the relationships between entrepreneurs and the larger trading companies, the challenges of globalization for these companies, and the efforts of revival of selected industries.

An important part of this course will be individual research projects to gain a greater understanding of particular industries and companies.

Students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Course Description:

1. Outline of Japanese Legal System
 - (1) Constitutional Law
 - (2) Civil Law
 - (3) Commercial Law & Corporation Law
 - (4) Security Exchange Law
 - (5) Bank Law
 - (6) Real Estate Law
 - (7) Intellectual Property
 - (8) Civil Procedure
 - (9) Labor Law
 - (10) Criminal Law
 - (11) Criminal Procedure
2. How to associate with Japanese People and Legal Professions on Legal Matters
 - (1) Characteristics of Japanese People
 - (2) Attitude of Japanese Officials and Lawyers
 - Administration
 - Judges and Public Prosecutors
 - Attorneys and Law Firms
 - (3) Clients
 - (4) Taboos
 - (5) Languages

保健管理センター

1 保健管理センター設置講座開講にあたり

めまぐるしい医学の進歩と社会情勢の変化に対応でき、健康で健康志向の強い人になるための独自の講座を設置しています。

2 設置科目履修上の取扱いについて

「現代社会と医学」(渡航医学)を春学期(月曜日 4 時限)と秋学期(月曜日 4 時限)に三田キャンパスにおいて、開講します。

「現代社会と医学」(現代社会と common disease)を秋学期(水曜日・4 時限)に三田キャンパスにおいて、開講します。

なお、これらの科目を受講希望する場合は、履修の取り扱いについて、各学部、研究科で確認の上、履修申告をして下さい。

現代社会と医学 Medicine in Modern Society (春学期)(秋学期)

渡航医学 Travel Medicine

南里清一郎, 河邊博史, 徳村光昭, 横山裕一, 広瀬 寛, 西村由貴

授業科目の内容:

渡航医学とは、海外の移動(旅行, 長期滞在)に伴って発生する病気や怪我の予防や治療を扱う医学のことです。

2005 年外務省統計では、1,600 万人以上の人々が海外旅行をし、仕事や留学などの長期滞在者は、約 96 万人です。

途上国は医療事情が悪く、いざという時の緊急医療でさえ不安があります。先進国では医療費が高く医療機関受診方法に不安があります。感染症の予防に関しては、予防接種が重要な意味を持ちますが、途上国においては、個人防衛のために必要であり、先進国、特にアメリカでは集団生活(留学など)を行う際に義務となります。生活習慣病に関しては、環境の変化による持出し病の悪化や、発症を早める可能性もあります。またカルチャーショックによる精神的な問題も生じます。以上のような事に関し、保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。

テキスト:

南里清一郎編・著『海外生活における健康管理 - 渡航に当たって心身の健康を守るために -』(ライフマネージメント社, 2005年, 2,500円)

参考書:

慶應義塾大学保健管理センター編『新・保健衛生』(慶應義塾大学出版会, 2007年)

授業の計画:

第 1 回	オーバービュー	教授	南里清一郎
第 2 回	海外の医療制度		〃
第 3 回	予防接種・感染症		〃
第 4 回	予防接種・感染症		〃
第 5 回	高血圧	教授	河邊 博史
第 6 回	糖尿病	准教授	広瀬 寛
第 7 回	肥満		〃
第 8 回	性感感染症・飲酒	准教授	横山 裕一
第 9 回	肝炎		〃
第10回	精神保健	准教授	西村 由貴
第11回	高山病・潜水病・時差 エコノミー症候群	准教授	徳村 光昭
第12回	薬物乱用		〃
第13回	試験	教授	南里清一郎

履修者へのコメント:

留学や海外研修をする予定の学生の受講を勧めます。

成績評価方法:

最終講義日の試験の結果による評価

授業科目の内容：

高血圧, 高脂血症, 糖尿病, 肥満, 動脈硬化など日本人の代表的な病気は, 運動不足, 食べ過ぎ, 喫煙などの生活習慣との関連が強いことから, 現在では生活習慣病と呼ばれています。さらにこれらが同時に存在するメタボリックシンドロームは中高年の 30~40%にみられ, 問題になっています。

また, ストレスの多い現代には精神保健もきわめて重要な課題です。さらに, 急速な国際化に伴う感染症, 薬物乱用も大きな問題です。

大学生に代表される若者が現代社会の医学の重要問題を理解し, 健康的な生活習慣を実行維持するための保健教育の意義はますます大きくなっています。下記の講義内容に関し保健管理センターの各専門医がオムニバス形式で講義を行います。

参考書：

保健衛生

授業の計画：

第1回	オーバービュー	教授	齊藤 郁夫
第2回	精神保健 1	教授	大野 裕
第3回	精神保健 2		"
第4回	高血圧	教授	齊藤 郁夫
第5回	AIDS	准教授	森木 隆典
第6回	貧血, 薬物		"
第7回	高脂血症	准教授	辻岡三南子
第8回	糖尿病		"
第9回	結核	准教授	森 正明
第10回	食中毒		"
第11回	心臓病	准教授	和井内由充子
第12回	救急蘇生		"
第13回	試験	教授	齊藤郁夫

成績評価方法：

試験の結果による評価

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月3日(金) 2時限目(10:45~12:15) 515番教室

2 受講申込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。その際、学生証を提示してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月8日(水) 9:00~16:45 場 所：三田学事センター

4月9日(木) 9:00~16:45

4月10日(金) 9:00~16:45

3 履修上の注意

情報処理教育室に申込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申込み用紙を提出しないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 注意事項

次のとおり、科目名を変更しました。

「情報処理概論」 平成18年度まで

「情報処理概論 (JavaB)」 平成19年度以降

平成18年度までに「情報処理概論」の単位を取得した学生は、新たに「情報処理概論 (JavaB)」を履修することはできません。

5 問合せ先

情報処理教育室(日吉学事センター内) 045-566-1015

6 平成21年度開講科目および受講料

設置講座は受講料が必要です。

平成21年度 情報処理教育室設置講座(三田)

講座名		クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論 (JavaB)	Java	12 A	藤村 光	通年	50	12,000円	4
情報処理概論 (JavaA)	Java	12 F	神林 靖	秋学期	30	6,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月8日(水)から開始されます。

「情報処理概論 (JavaB)」および「情報処理概論 (JavaA)」は、ほぼ同じ内容です。両方の科目を履修した場合、単位として認められるのはどちらか1科目のみです。詳しくは、情報処理教育室窓口にてお問い合わせください。

(参考)平成21年度 情報処理教育室設置講座(日吉)

講座名		クラス	担当者	時期	定員	受講料	単位
情報処理概論	C言語による プログラミング入門	11 A	恩田 憲一	通年	100	12,000円	4
		11 B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論 (Java)	Java	12 D	藤村 光	春学期	50	6,000円	2
情報処理概論 (Java)	Java	12 E	藤村 光	秋学期	50	6,000円	2
情報処理応用	コンピュータグラフィックス	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

開講曜日・時限は学部の時間割の巻末に記載されます。

授業は、学部授業と同様、4月8日(水)から開始されます。

情報処理概論 (JavaB)(通年)4単位

Java 言語によるプログラミング入門

藤村 光

授業科目の内容:

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、およびプログラミングの基礎を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。

Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。

テキスト:

Web サイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開しています。適宜更新します。

参考書:

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. ウィンドウの表示
3. コンパイルと実行
4. ボタン, レイアウト, イベントの処理 (計 3 回)
5. クラス変数
6. 四則演算 (計 2 回)
7. 式, 演算子, カウンタ, 合計計算, 最大値・最小値 (計 2 回)
8. 配列
9. 春学期演習
10. プログラムのスタイル (春学期復習)
11. 整列, 検索
12. テキスト・ファイルの読み込みと例外処理 (計 3 回)
13. マルチスレッドと描画 (計 4 回)
14. 再帰構造と再帰プログラミング (計 2 回)
15. 最終演習 (計 2 回)

履修者へのコメント:

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加して下さい。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

fujimura@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。

情報処理概論 (JavaA)(秋学期)2単位

Java 言語によるプログラミング入門

神林 靖

授業科目の内容:

将来プログラムを用いて情報処理をする準備として、Java 言語によるプログラミングを学ぶ。簡単な計算やデータ処理を行うことによって、Java プログラムの構成を、そしてコンピュータによるデータ処理を理解できるようにしたい。一般的なコンピュータの知識があれば十分で、プログラミング関する予備知識は必要としない。

テキスト:

「明解 JAVA 入門編」柴田望洋, ソフトバンククリエイティブ

参考書:

講義の中で紹介する。

授業の計画:

1. ガイダンス
2. プログラムのコンピュータの関係
3. コンパイルと実行
4. 変数と代入, そして四則演算と型変換
5. 入出力
6. 制御文と演算子 (1)

7. 制御文と演算子 (2)
8. クラスとメソッド
9. 1次元配列と多次元配列
10. 配列上の探索と整列
11. クラスとコンストラクタ
12. Java クラスライブラリ
13. 行列を計算するプログラム

履修者へのコメント:

C 言語等他のプログラミング言語の既習者は申し出られたい。できるだけ、個別に対応したいと考えています。

成績評価方法:

- ・レポートによる評価
- ・平常点: 出席状況および授業態度による評価

質問・相談:

yasushi@hc.cc.keio.ac.jp で受け付けます。

アート・センター

経済のソフト化が言われて久しい。文化消費の高度化と量的拡充が続くなかで、知的財産への関心とコンテンツ産業振興が唱導されるようになったいま、あらためて感性の行方と文化消費との関連をとらえ、創造性と産業とのかかわりを包括的に研究教育する必要が生まれている。芸術文化の消費行動とコンテンツ提供者、媒介者のかかわり、新しいコンテンツ創造のための環境整備、それらのシステムの更新などは、産業振興に欠かせない。

アート・センターは、開設以来アート・マネジメントの研究と教育を推進してきた。本講座の目的は、その成果をふまえながら、産業とアート・創造性との連関、産業におけるアート・創造性の問題に対する関心を喚起するため、旧来の芸術諸ジャンルにとどまらず、建築、デザイン、ファッションも視野にいれた「クリエイティブ産業」とその構造、現状と将来について、現場の担当者を招聘しつつ、産業政策をふくめ総合的に検討することである。それとともに、効率や生産性を第一義とする考え方に対して、創造性や芸術資源デザインの重要性を提起することを目指している。

2009年度は、昨年、一昨年に引き続き、社団法人日本レコード協会寄附講座「クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に」を開講する。

講座 URL <http://www.art-c.keio.ac.jp/education/creative/>

1. 履修上の取り扱い

慶應義塾大学の各学部の学生が対象。履修の取り扱いについて各学部の履修案内で確認の上、履修申告する必要がある。履修希望者が多い場合は制限をすることがある。

2. ガイダンス

春学期第1回の授業でガイダンスを行うので、履修希望者は必ず出席し、履修希望票に必要事項を記入すること。秋学期にはガイダンスを行わない。春学期・秋学期の内容は連続するので、両方履修（いわゆるセット履修）するのが望ましい。

クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に
(社団法人日本レコード協会寄附講座)(春学期)2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容:

クリエイティブ産業が重視されるようになった背景と環境、およびコンテンツ・ビジネスの現状とそれをとりまく制度、著作権の動向、日本とアジアの関係、クリエイティブ産業政策について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

クリエイティブ産業とその範囲
コンテンツ・ビジネスとその歴史
日本の音楽産業
イギリスにおけるクリエイティブ産業戦略
日本の知的財産政策と関連産業
著作権とクリエイティブ産業 1
著作権とクリエイティブ産業 2
東アジアにおけるコンテンツ・ビジネスをめぐって
クリエイティブ産業と公共性
アーティストの立場から

授業の計画:

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程は順次アート・センターのホームページにて発表する。

成績評価方法:

レポートと平常点により評価する。

質問・相談:

授業終了後に受け付ける。

クリエイティブ産業研究 音楽コンテンツを中心に
(社団法人日本レコード協会寄附講座)(秋学期)2単位
コーディネーター 文学部教授 美山 良夫

授業科目の内容:

春学期の講義をふまえ、音楽ビジネスに焦点をあてた実践論、ならびにクリエイティブ産業の今後の課題について、各界からゲスト講師を招聘して講義をおこなう。

主なタイトル

出版とプロダクション
アーティストの発掘、契約と宣伝
日本の音楽の流通と配信
今後の課題
クリエイティブ産業と今後の課題 ~
紛争回避
商用アーカイブの運営ほか

授業の計画:

上記は計画中的のものであり、詳細内容と日程は順次アート・センターのホームページにて発表する。

成績評価方法:

レポートと平常点により評価する。

質問・相談:

授業終了後に受け付ける。

知的資産センター設置講座（平成21年度開講）

1．知的資産センター設置講座について

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として1998年11月に設立されました。技術に関するものだけでなく、デジタルメディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果の特許保護、技術の移転、共同研究や受託研究の支援、ベンチャー起業の支援というように、研究成果の社会への還元をいろんな形で支援してまいります。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化し、多くの新製品やサービスの提供につながっています。さらに、バイオ分野を中心に多くのベンチャー企業がスタートアップしました。

これらの業務に加え、知的資産センターは技術移転の側面を中心に、知的財産に関する教育・研究も任務としています。今や知的創造の時代ですが、時代とともに知的財産の範囲や期待される役割なども変化します。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められます。そこで、知的財産に関する教育の一環として、全学部・研究科の学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を設けています。

2．設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の1科目を、春学期 三田キャンパスで開講します。

授業時間は水曜日 18:10～19:40、単位は2単位です。その他授業に関する情報は、三田掲示板、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する方は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告をしてください。

3．講義要綱

知的資産概論 保護と活用をめぐる課題（ナテグリニド特別講座）（春学期）

コーディネーター 知的資産センター所長（教授〔大学所属〕） 羽鳥賢一

授業科目の内容：

種々の知的資産や制度について、その仕組みを概括した上で、その保護のあり方や活用の方策に関し、今日の課題やその課題への対応策を考えます。また、その中で、現在および将来の知的財産のあり方に関する幅広い知識を修得することを目標とします。

知的財産には、技術（特許やノウハウ）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、プログラムやデータベース（著作権）、音楽・映画等のコンテンツ（著作権）といったものがありますが、その権利の内容や活用法は、それぞれ固有の特色があります。また、同じ知的財産が世界共通的に保護・活用される場合でも、国によってその取扱いが異なることもあります。本講義では、こうした種々の知的財産の保護と活用をめぐる現状と課題について、テーマに応じ、その分野の第一線でご活躍の有識者を招いて、講演および質疑応答の中で理解を深めてまいります。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「産業財産権標準テキスト」特許庁企画

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著，慶應義塾大学出版会

「よくわかる特許」羽鳥賢一他著，オーム社

「著作権の考え方」岡本著，岩波新書

授業の計画：

(内容と順序は変更になる場合があります。テーマにより第一線の外部講師を招きます。)

1. 知的財産の新たな時代、特許の仕組みと課題(1)
2. 特許の仕組みと課題(2)、デザインの保護と活用
3. 著作権の仕組みと課題
4. 商標・ブランドの価値と課題
5. コンテンツビジネスの仕組みと課題
6. 音楽に関する著作権と課題
7. 企業の知的財産戦略
8. 知的財産の権利行使と紛争処理
9. ベンチャー起業の仕組みと課題
10. 米国でのバイオベンチャー起業と知財戦略
11. 知的財産の国際動向
12. アジアでの知的財産保護と課題
13. 産学連携の現状と課題、まとめ

担当教員から履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱いについては、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点およびレポートによる評価

質問・相談：

各授業の最後に質問の時間を設けます。

外国語教育研究センター

外国語教育研究センター（以下、「センター」と略す）では、「センター特設科目」を設置し、英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、インドネシア語、アラビア語、イタリア語の9言語の授業を開講しています。センター特設科目では各学部の外国語教育を補完することをコンセプトとしながら、「聴く」「話す」「読む」「書く」の四技能がバランスよく身につくよう、工夫を凝らした授業を展開しています。また、特定のスキル強化（リスニング、ライティングなど）のための科目、超上級科目や基礎固めのための科目も用意しています。

これら「特設科目」のほか、センターが提供する科目に「オープン科目」があります。これは、各学部設置の語学科目のうち、他学部生に開放されているものを、センターに併設することにより、学生が履修しやすくしたものです。（「特設科目」「オープン科目」とも、卒業単位認定の仕方は学部により異なるため、それぞれ自分が所属する学部の履修案内を参照してください。）

センターでは、各種講演会やワークショップ、春休み期間中の海外語学研修、高校生から大学院生までを対象とする「アカデミック・ライティング・コンテスト」等、外国語学習に関連するさまざまなプログラムを実施しています。それぞれの詳細はセンターのウェブサイトや構内掲示板で随時案内していますので、チェックしてください。

以下に本年度開講の「特設科目」の一覧を掲載します。各特設科目の詳しい授業内容、ガイダンスや履修手続きに関する情報、ならびに「オープン科目」一覧については、別冊の『外国語教育研究センター履修案内・講義要綱』（ガイダンスおよびセンター事務室でも配布します）、またはセンター Web サイトを参照してください。

外国語教育研究センター <<http://www.flang.keio.ac.jp/>>

ガイダンス日程：4月6日(月)13:00～14:30 531番教室

外国語教育研究センター特設科目一覧（三田）

- * 履修希望者が定員を超えた場合は抽選あるいは選考となります。
- * 科目名に(a)(b)と表記されている科目は春(a)・秋(b)をセットで履修することが義務付けられている科目です。
- * 科目名に()と表記されている科目は春()と秋()どちらかひとつの履修あるいは両方の履修が可能です。
- * 「インドネシア語ベーシック速習1」「インドネシア語ベーシック速習2」については、月曜・金曜の授業を両方、かつ、春(a)・秋(b)セットで履修する必要があります。
- * 選抜方法は、有資格者証明必須科目、選考科目、抽選科目を表します。～以外の科目は、直接学事 Web システムに登録してください。
- * 2009年2月から3月に実施された海外研修科目については、当センター「2009年度履修案内・講義要綱」の特設科目一覧（日吉）（p.9）を参照してください。

経済学部外国語科目（選択A）として履修できる科目

語種	科目名	担当講師名	設置学期	選抜方法	曜日・時限	定員	形態	単位数
英語	英語最上級 アドバンスト英語(a) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)	横川 真理子	春		水・4	25	半期	1
	英語最上級 アドバンスト英語(b) (When Cultures Meet: Culture, Adaptation, and Identity Formation)		秋				半期	1
	英語翻訳(a)(Lost in Translation)	アーマー, アンドルー	春		火・2	15	半期	1
	英語翻訳(b)(Lost in Translation)		秋				半期	1
	英語留学準備() (English for Studying Abroad)	ブルーカ, デイビッド	春		土・4	20	半期	1
	英語留学準備() (English for Studying Abroad)		秋				半期	1
	英語経済・金融() (208パターンでおぼえる経済英語の基本用例)	日向 清人	春		月・3	30	半期	1
	英語経済・金融() (208パターンでおぼえる金融と会計の英語)		秋				半期	1
	英語法律・法務() (208パターンでおぼえる会社と法務関係の英語)	日向 清人	春		月・4	30	半期	1
	英語法律・法務() (208パターンで学ぶ契約書の英語)		秋				半期	1
	英語アカデミック・ライティング() (Writing an Academic Paper in English)	和田 朋子	春		火・1	25	半期	1
	英語アカデミック・ライティング() (Writing an Academic Paper in English)		秋				半期	1

語種	科目名	担当講師名	設置学期	選抜方法	曜日・時限	定員	形態	単位数
ドイツ語	ドイツ語表現技法 4(a) (中・上級聴解・口頭表現)	三瓶 慎一	春		月・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 4(b) (中・上級聴解・口頭表現)		秋	半期			1	
	ドイツ語表現技法 5(a) (中・上級文章表現法)	ドゥッペル=タカヤマ, メヒティルド	春		火・3	25	半期	1
	ドイツ語表現技法 5(b) (中・上級文章表現法)		秋	半期			1	
フランス語	フランス語表現技法 3() (DELF(A1, A2)対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・3	20	半期	1
	フランス語表現技法 3() (DELF(A1, A2)対応クラス)		秋	半期			1	
	フランス語表現技法 4() (DELF(B1, B2)対応クラス)	ルカルヴェ, クリステル	春		月・4	20	半期	1
	フランス語表現技法 4() (DELF(B1, B2)対応クラス)		秋	半期			1	
	フランス語表現技法 5() (DALF(C1, C2)対応クラス)	ベリセロ, クリスチャン・アンドレ	春		木・2	20	半期	1
	フランス語表現技法 5() (DALF(C1, C2)対応クラス)		秋	半期			1	
ロシア語	ロシア語表現技法 2() (ロシア語で発信しよう)	桜井 厚二	春		水・3	25	半期	1
	ロシア語表現技法 2() (ロシア語で発信しよう)		秋	半期			1	
中国語	中国語聴解 2()(最上級) (時事中国語)	山下 輝彦	春		水・2	25	半期	1
	中国語聴解 2()(最上級) (時事中国語)		秋	半期			1	
	中国語表現技法 2()(最上級) (読解と翻訳)	蒋 文明	春		月・5	25	半期	1
	中国語表現技法 2()(最上級) (読解と翻訳)		秋	半期			1	
スペイン語	スペイン語表現技法 3()(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・ 社会的背景に対するより深い理解)	安藤 万奈	春		金・4	25	半期	1
	スペイン語表現技法 3()(上級) (スペイン語のさらなる向上とその文化的・ 社会的背景に対するより深い理解)		秋	半期			1	
インドネシア語	インドネシア語ベーシック速習 1(a)	野村 亨・ スランティ トリスナワティ	春		月3(野村)・ 金2(スランティ)	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 1(b)		秋	半期			2	
	インドネシア語ベーシック速習 2(a)	野村 亨・ スランティ トリスナワティ	春		月2(野村)・ 金(スランティ)	30	半期	2
	インドネシア語ベーシック速習 2(b)		秋	半期			2	
イタリア語	イタリア語表現技法 2() (作文練習)(Composizione)	ジェズアート, マリーア=カティア	春		木・3	25	半期	1
	イタリア語表現技法 2() (作文練習)(Composizione)		秋	半期			1	

経済学部自由科目として履修できる科目

以外の外国語教育研究センター設置科目は自由科目として履修できます。

* 外国語教育研究センター設置科目(日吉)については、「外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱」,「経済学部外国語科目履修案内」を参照してください。

2009 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）春学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9 : 00 ~ 10 : 30		10 : 45 ~ 12 : 15		13 : 00 ~ 14 : 30		14 : 45 ~ 16 : 15		16 : 30 ~ 18 : 00	
月			インドネシア語 ベーシック速習 ㄨ(a)	野村	英語経済・金融 () フランス語 表現技法 ㄨ () ドイツ語 表現技法 4(a) インドネシア語 ベーシック速習 1(a)	日向 ルカルヴェ 三瓶 野村	英語法律・法務 () フランス語 表現技法 ㄨ ()	日向 ルカルヴェ	中国語表現技法 2() (最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング ()	和田	英語翻訳(a)	アーマー	ドイツ語表現技法 ㄨ(a)	ドゥッペル =タカヤマ				
水			中国語聴解 2() (最上級)	山下	ロシア語 表現技法 2()	桜井	英語最上級 アドバンスト英語(a)	横川		
木			フランス語 表現技法 ㄨ ()	ベリセロ	イタリア語 表現技法 2()	ジェズアート				
金	インドネシア語 ベーシック速習 ㄨ(a)	スランティ	インドネシア語 ベーシック速習 1(a)	スランティ			スペイン語表現技法 3() (上級)	安藤		
土					英語オーラル・ プレゼンテーション() (初級)	ブルーカ	英語留学準備 ()	ブルーカ		

2009 年度 外国語教育研究センター特設科目（三田）秋学期時間割

時限 曜日	第 1 時限		第 2 時限		第 3 時限		第 4 時限		第 5 時限	
	9 : 00 ~ 10 : 30		10 : 45 ~ 12 : 15		13 : 00 ~ 14 : 30		14 : 45 ~ 16 : 15		16 : 30 ~ 18 : 00	
月			インドネシア語 ベーシック速習 ㄨ(b)	野村	英語経済・金融 () フランス語 表現技法 ㄨ () ドイツ語 表現技法 4(b) インドネシア語 ベーシック速習 1(b)	日向 ルカルヴェ 三瓶 野村	英語法律・法務 () フランス語 表現技法 ㄨ ()	日向 ルカルヴェ	中国語表現技法 2() (最上級)	蔣
火	英語アカデミック・ ライティング ()	和田	英語翻訳(b)	アーマー	ドイツ語表現技法 ㄨ(b)	ドゥッペル =タカヤマ				
水			中国語聴解 2() (最上級)	山下	ロシア語 表現技法 2()	桜井	英語最上級 アドバンスト英語(b)	横川		
木			フランス語 表現技法 ㄨ ()	ベリセロ	イタリア語 表現技法 2()	ジェズアート				
金	インドネシア語 ベーシック速習 ㄨ(b)	スランティ	インドネシア語 ベーシック速習 1(b)	スランティ			スペイン語表現技法 3() (上級)	安藤		
土					英語オーラル・ プレゼンテーション() (初級)	ブルーカ	英語留学準備 ()	ブルーカ		

グローバルセキュリティ研究所 (G-SEC)

G-SEC では、これまで、グローバルとセキュリティというキーワードのもと、幅広い研究分野において、Watch & Warningの精神、すなわち各分野の問題を常にウォッチし、必要なウォーニングを発するという問題意識の中で研究活動を行ってきました。一方で、人材育成の観点からも、大学との連携という観点からも、教育活動についての重要性を認識してまいりました。このたび、義塾の学生を対象として、金融についての実践的知識や環境変化への対応の指針をつかんでいただき、問題発見・解決能力を高めることを目的として、新たに講座を設置いたしました。幅広い分野の学生の参加を望みます。

1. 設置科目、履修上の取扱いについて

「グローバル金融市場論」 2単位、春学期 木曜2限、三田キャンパス

慶應義塾大学の各学部、研究科の学生が対象。履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、履修申告する必要があります。

2. ガイダンス

4月6日(月)12時15分～13時にガイダンスを行います。(予定：三田515番教室)

また、G-SEC サイトにて告知いたします。(<http://www.gsec.keio.ac.jp>)

3. 講義要項

科目名：グローバル金融市場論 (Global Financial Markets)

(日興シティグループ証券寄附講座)

G-SEC 所長、メディアデザイン研究科教授 竹中平蔵

G-SEC 客員研究員、日興シティグループ証券調査本部日本株ストラテジスト 藤田勉

G-SEC 副所長、経済学部教授 櫻川昌哉

G-SEC 上席研究員、メディアデザイン研究科教授 岸博幸

授業科目の内容：

この講義は、日興シティグループ証券の寄附講座である。

竹中平蔵教授を中心とする担当教員及び日興シティグループ証券調査本部日本株ストラテジスト藤田勉(慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所客員研究員)が中心となって、理論、実務両面双方から国際資本市場の歴史、現状、そして今後の展望を講義する。

金融市場を理解するのに不可欠なものは、歴史観、世界観、そして理論である。その理論に関しては、経済学、金融論、公共政策論などマクロの視点のみならず、企業法制、金融法制、経営学、財務会計などに多岐に亘る総合的な知識が必要である。ところが、従来の国際資本市場論は学術的な立場から語られることが多く、実務家の立場からの意見が強く反映されているとはいいがたい。特に、経営学、財務会計、企業法制は理論と実践の乖離が大きく、それらを既存の理論と整合的、かつ有機的に分析する研究が進んでいるとはいいがたい。そこで、グローバルな視点から、これらの理論を金融市場と企業分析に応用することを、講義の中心にすることが特徴の一つである。講義の最後2回においては、経済学、金融論、法制、経営学、財務会計に関わる理論を応用して、過去や現在の国際金融危機、日米の不良債権問題を具体的に分析する。

教科書：

竹中平蔵監修、藤田勉著「グローバル金融市場論」毎日新聞社刊
(2009年4月に刊行し、履修学生には配布の予定)

参考書：

竹中平蔵著「構造改革の真実 竹中平蔵大臣日誌」, 2006年日本経済新聞社
竹中平蔵著「闘う経済学 未来をつくる「公共政策論」入門」, 2008年集英社インターナショナル
藤田勉著「新会社法で変わる敵対的買収」, 2005年東洋経済新報社
堀紘一、藤田勉共著「M & A で生きる企業消え去る企業」, 2007年PHP出版

授業の計画：

ガイダンス

世界の資本市場概論

日本の株式市場の歴史と現状

会社法と金融法制、証券市場とコーポレートガバナンス

会社法と金融法制、M & A の理論と実践

経営戦略論、ポジショニング理論、リソースベースビュー

経営戦略論、SECIモデル、ブルーオーシャン戦略、コーポレートブランド戦略

会計制度、フランコジャーマン型とアングロアメリカン型

会計制度、国際財務報告基準

資産運用の理論と実践、ファンドマネージャー入門

経済政策と株式市場

ケーススタディ：「小泉・竹中改革」の教訓

ケーススタディ：日米金融危機の比較研究

試験

担当教員から履修者へのコメント：

授業への感想・意見・質問・評価などを毎回積極的に受け付け、授業内容の軌道修正にも積極的に反映させていきたい。

成績評価方法：

試験、平常点(出席状況および授業態度による評価)

他大学との相互科目履修に関する協定・覚書

慶應義塾大学と東京工業大学との間における 学生交流に関する協定書

平成 20 年 3 月 27 日締結
記

慶應義塾大学および東京工業大学は、両大学の規則に定めるところにより、両大学の学生が相手先大学および大学院の授業科目を聴講し、単位を取得することを相互に認めることについて合意に達したので、ここに協定書を取り交わす。

1. 本協定書により学生交流の対象となる学部および研究科は次の通りとする。
 - (1) 慶應義塾大学経済学部と東京工業大学工学部
 - (2) 慶應義塾大学大学院経済学研究科と東京工業大学大学院社会理工学研究科
2. 本協定書の実施に関する細部の事項については協定書に付属する「覚書」に記載するところによる。
3. 本協定書の有効期限は 4 年とする。ただし関係学部および関係研究科のいずれかからの申し出がない限り、自動的に延長するものとする。
4. 本協定の実施について必要な事項は両大学の協議により処理するものとする。
5. この協定書は平成 20 年 4 月 1 日から効力を有するものとする。

附則

平成 18 年 12 月 20 日締結の「慶應義塾大学と東京工業大学との間における学生交流に関する協定書」は、平成 20 年 3 月 31 日限り、これを廃止する。

以上

慶應義塾大学と東京工業大学との間における 学生交流に関する覚書

平成 20 年 3 月 27 日締結
記

平成 20 年 3 月 27 日付で慶應義塾大学と東京工業大学との間で取り交わした協定書に基づく、慶應義塾大学経済学部と東京工業大学工学部（以下「関係学部」という。）との間における学生交流に関しては、この覚書により実施するものとする。

（受 入）

1. 慶應義塾大学経済学部第 2 学年・第 3 学年・第 4 学年に在籍する学生が東京工業大学工学部において授業科目の履修および単位の取得を希望するときは、その聴講を許可するものとする。また、東京工業大学工学部において、学科に所属する学生が慶應義塾大学経済学部において授業科目の履修および単位の取得を希望するときは、その聴講を許可するものとする。

（受入学生の身分）

2. 関係学部が受け入れた学生の身分は、慶應義塾大学においては「交流学生」、東京工業大学では「特別聴講学生」とそれぞれ呼称するものとする。

（受入学生数）

3. 関係学部の受入学生数が長期にわたり著しく偏りが生じないこととする。

（履修科目の範囲および単位数）

4. 関係学部が授業科目の聴講を許可し学生が履修することのできる授業科目は、関係学部の協議によって定めるものとする。ただし、学生が履修することのできる単位数の上限は在籍中それぞれ 30 単位までとし、履修した単位の取り扱いについては、当該学生の所属する大学の規則の定めるところによるものとする。

（学生の推薦）

5. 関係学部は、受け入れ学生候補者を所定の様式により相手先大学あてに推薦するものとし、関係学部は、前項により推薦のあった候補者のうちから受け入れ学生を決定し、相手先大学あてに通知するものとする。

（成績の通知）

6. 関係学部は、受け入れた学生が聴講した授業科目の成績の評価および単位の認定については、自大学の学生の場合と同様の方法によって行うものとする。
また、関係学部は、成績および単位を、学期末に相手先大学あてに報告するものとする。

（施設利用の便宜）

7. 関係学部は、両大学の規則の範囲内で、受け入れた学生が聴講する上で必要な施設・設備の利用の便宜を供与するものとする。

（学費等）

8. 両大学は、受け入れた学生の学費は徴収しないものとする。なお、ここでいう学費とは、慶應義塾大学においては、授業料・施設設備費・実験実習費等とし、東京工業大学では授業料とする。

（その他）

9. この覚書は平成 20 年 4 月 1 日から効力を有するものとする。

以上

